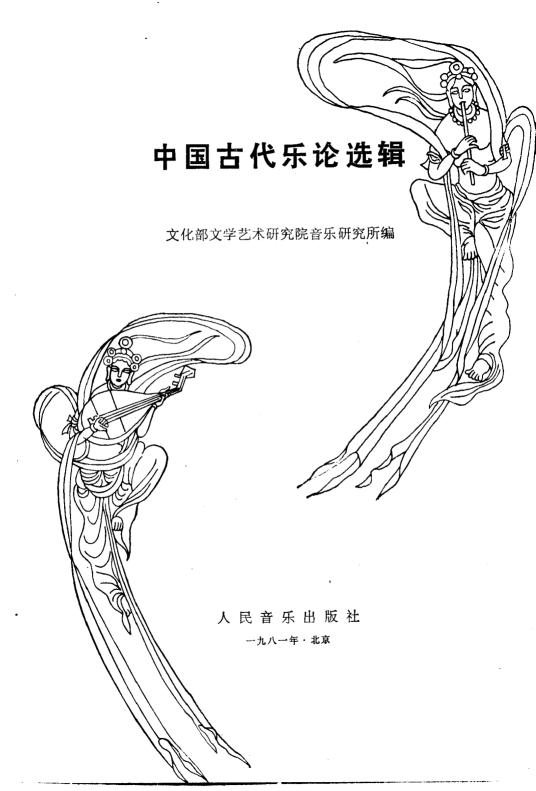
國古代非論選

文化部文学艺术研究院音乐研究所 绝



封面设计: 刘玉山

0565 C

中国古代乐论选辑

文化部文学艺术研究院 音 乐 研 究 所 编

人民音乐出版社出版 (北京朝内大街166号)

新华书店北京发行所发行 北京第二新华印刷厂印刷

850×1168 毫米 32 开本 350 千文字 15.5 印张 1981 年 5 月北京第 1 版 1981 年 5 月北京第 1 次印刷 印数: 1—2,000册

书号: 8026 · 3639 定价: 3.55 元

出版说明

一九六一年,中央音乐学院中国音乐研究所在编写《民族音乐概论》的过程中,曾由吴钊、赵宽仁、伊鸿书、古宗智等同志编过一本《中国古代乐论选辑》,作为内部参考资料出版。现在就在这本书的基础上,由吉联抗同志加以修订,公开出版,以便更多的同志使用。

现在的这本《中国古代乐论选辑》,还是一本资料集,是供对于中国古代音乐理论、音乐美学、音乐史有兴趣的同志参考的。这里选辑的从先秦到清末的乐论资料,时间长达两千余年,原来散见于各种文献,找起来要费一些时间和精力,现在集中起来,对于要找这方面资料的同志,可能会有所帮助。

这次修订,大致做了下面的一些工作:

- 一、统一体例。例如,本书辑录的资料,原来绝大部分都只收原文,不附译、注文字,而有极少数却又附有译、注,这次基本统一于多数的体例(个别篇附有批注)。又如,全书所收资料按时代先后排列,撰著人无定论或著作年代不明的列于该时期之末,而先秦部分却按儒、墨、道分列,这次也统一于以时间先后为序的体例。
- 二、增删资料。例如,先秦的季札观乐(现在根据内容用"乐以知政"为题),是我国最早的重要的音乐评论,原来却未收入;而《墨子》、《庄子》中的某些文字,则要从很广泛的范围,才能联系得上音乐。凡属这类问题,该增的就尽量增入,该删的则审慎地删节。又如原来收入的《笠翁偶集·声容部》的《丝竹》,虽然讲的是器乐演奏,但总的着眼于女伎如何供人玩乐,这次也抽掉了。

三、调整先后。例如;原书收录的《乐记》是作为先秦文献辑人的(旧题公孙尼子撰),现在更多人趋向于认为:其中虽有先秦的佚文遗说,而成书当在汉代河间献王刘德以后(约当汉代武帝至元、成之间);并认为《乐记》即《史记·乐书》的主要部分,故此次修订仅存录《史记·乐书》而将《乐记》略去,以免重复。一些伪书也尽量归之于伪托的时期,以便反映其时代脉络。

四、文字校订。对原来的错字,尽量做了校正,属于衍文误字的用方括号标出,表示应删;应正应补的字用六角括号,以示区别。为保存所据版本原来面貌,目前采用现行简体字排印时,对于历代所习用的一些字义相近而字形互歧的异体、俗体、通用、假借字,除个别处作了改变外本书并不求其统一。有些通假字,尽可能用圆括号注出(当然,还是没有全部注出的),不再一一说明。

本书一九六一年出版说明中说:"我们涉及资料的范围很不全面,难免会挂一漏万。""在材料的取舍以及分段、标点方面,也一定存在不少缺点和错误。"此次修订,为人手和时间所限,问题依然很多,请同志们批评、指正。

文化部文学艺术研究院音乐研究所 -九七九年三月



目

录

中央音乐学院图书馆藏书

(有""号的标题为编者

|押号||E4.1/tCCe22 |总量 | 128691

先秦部分

春秋左传(辑录) (1)
"乐以箴谏" 师 旷 (1)
"乐以知军" 师 旷 (1)
"乐以知政" 季 札(2)
"乐节百事" 医 和 (3)
"和与同异" 晏 婴 (3)
"乐过生疾" 州 鸠(4)
"乐则天地" 子 产 (4)
国语(辑录)(6)
"和实生物" 史 伯(6)
"谏铸大钟" 单穆公(6)
"论乐说律" 州 鸠 (7)
"答灵王问" 伍 举 (9)
"平公悅新声" 师 旷 (9)
论语(辑录) 孔 丘 (10)
(附: "荷蒉者论乐")(11)
墨子 墨 翟 (12)
非乐 (12)
各篇辑录(14)
孟子(辑录) 孟 轲 (16)

庄子(辑录) 庄 周(18)	
荀子, 荀 况(26)	
乐论 (26)	
各篇辑录(29)	
韩非子(辑录) 韩 非 (32)	
十过(节录)(32)	
" 癸与射稽之讴"(34)	
吕氏春秋 吕不韦等 (35)	
大乐(节录)(35)	
侈乐(36)	
适音(37)	
古乐(38)	
音律(节录)(39)	
音初(40)	
各篇辑录(41)	
老子道德径(辑录)(43)	
管子(辑录)(44)	
晏子春秋(辑录)(47)	
两汉部分	
新语(辑录) 陆 贾(49)	
新书(辑录) 贾 谊 (50)	
韩诗外传(辑录) 韩 婴 (52)	
春秋繁露(辑录) 董仲舒 (54)	
(附:董仲舒对策)(56)	
淮南鸿烈(辑录) 刘 安等 (58)	
史记・乐书 司马迁(69)	
新序(辑录) 刘 向(83)	1

说苑(辑录) 刘 向(84)
(附:琴说)(89)
法言(辑录)······ 扬 雄 (90)
(附:解难)(91)
新论 桓 谭 (92)
琴道篇(92	
餘文辑录(95)
白虎通德论・礼乐 班 固 (96)
论衡(辑录)····· 王 充 (102	(
《毛诗》序	()
魏晋南北朝部分	
m- Ar (107	7 \
乐论	
琴赋	')
声无哀乐论 嵇 康 (116)
抱朴子(辑录) 葛 洪 (126	<u>(i</u>
列子(辑录) 张 湛 (127	(
"王僧虔论乐"(129	(1
文心雕龙(辑录) 刘 勰 (131	.)
乐府第七(131	.)
通变第二十九 (132	?)
声律第三十三(133	()
时序第四十五(134	!)
"陈仲儒论乐"(135	i)
"长孙稚、祖莹论乐"(138	3)
"祖珽论乐" (143	3)
刘子・辩乐 刘 昼 (144	(1

隋唐部分

"郑译论乐"(14	
"何妥论乐" (15	50)
文中子中说(辑录) ······ 王 通 (15	52)
"论礼乐"(节录) 李世民 (15	56)
乐书要录(辑录)(15	57)
«教坊记»序······ 崔令钦 (16	51)
琴诀(辑录)	52)
通典・乐序 杜 佑 (16	53)
白氏长庆集(辑录) 白居易 (16	-
废琴诗(16	
邓鲂张彻落第诗(16	
法曲歌(16	
立部伎(16	
华原磬(16	
五弦弹(16	
清夜琴兴(16	
夜琴	57)
六十: 敕学者之失 礼乐诗书(策林四) (16	
大十二: 议礼乐(同上) (16	ś9)
六十三: 沿革礼乐(同上) (17	70)
六十四: 复乐古器古曲(同上) (17	71)
大十九: 采诗以补察时政(同上) (17	72)
问杨琼(17	72)
好听琴(17	73)
船夜援琴(17	73)
听琵琶妓弹《略略》·····(17	73)

弹《秋 思》·····	(173)
和令狐仆射小饮听阮咸	(174)
水调	(174)
素履子・履乐 张 弧	(175)
宋元部分	
范文正公集(辑录)	(177)
今乐犹古乐赋	(177)
与唐处士书	(178)
"张知白、房庶论乐"	(179)
见牧牛人隔江吹笛(节录) 梅尧臣	(181)
"欧阳修论乐"······	(182)
国学试策三道第二道	(182)
书梅圣俞诗蕖后	(183)
"论礼乐"·······	(184)
乐论	(185)
周子通书(辑录) 周敦颐	(187)
乐上第十七	(187)
乐中第十八	(187)
乐下第十九	(187)
"张载论乐"	(188)
礼乐(节录)	(188)
张子语录(节录)	(190)
礼乐论 王安石	
梦溪笔谈沈云括	(195)
乐律一(节录)	, ,
乐律二(节录)	(198)
补笔谈・乐律(节录)	(199)

琴史(辑录) 朱长文	(200)
师旷	(200)
师文	(200)
锺子期	(200)
宋玉	(201)
樗里牧恭聂政附	(201)
蔡邕	(201)
三戴	(202)
莹律	
释弦	(203)
论音	(204)
审调	(205)
声歌	(206)
广制	(207)
尽美	(207)
志言	(209)
叙史······	(209)
乐在人和不在音赋 朱长文	(210)
公是先生七经小传(辑录) 刘 敞	(212)
尚书	(212)
礼记	(212)
后山集(辑录)	(214)
《乐书》序	(215)
琴论 成玉裥	(217)
碧鸡漫志(辑录) 王 灼	(221)
通志・乐略第一(辑录) 郑 樵	(224)
乐府总序	(224)

	(007)
正声序论	
琴操五十七曲(节录)	
祀飨正声序论	
班固东都五诗	
梁武帝雅歌十二曲(节录)	(231)
唐雅乐十二和曲(节录)	(232)
文武舞序论	(232)
朱子大全集(辑录) 朱 熹	(234)
答陈体仁	(234)
答程允夫	(235)
答滕德粹	
答潘恭叔	(236)
答潘恭叔	(236)
答刘季章	(237)
答李尧卿	
答余彝孙	
答吳元士	
定 律	
读吕氏诗记桑中高甲辰春	(239)
苏黄门老子解	
诗集传序	
紫阳琴铭	
陈亮集(辑录)	
"姜夔论乐"	(244)
琴议篇	(249)
真西山文集(辑录) 真德秀	(251)
職養长夫序	

送萧道士序		(252)
问礼乐	,	(252)
问兴立成	••	(253)
词源(辑录) 张 纟	Ę	(255)
序······	••	(255)
讴曲旨要	((255)
音谱	((256)
拍眼	((257)
礼乐 契 ;	計	(258)
子华子(辑录)	((260)
"赵希旷论弹琴"	((261)
《文献通考》序(节录) 马端	笛 ((262)
琴律发微	子 ((264)
制曲通论	((264)
制曲凡例	((265)
起调毕曲	((268)
唱论(辑录) 芝 居	臣 ((269)
明清部分		
太和正音谱(辑录) 朱 枝	又 ((271)
云庄休居自适小乐府引(节录) 艾 泡	是 ((273)
		(274)
"何瑭论乐"	. ((275)
王文成公全书(辑录) 王阳明	月 ((276)
语录一(传习录上)	. ((276)
教约		•
语录三(传习录下)	. ((277)
"廖道南论乐"·······	. ((278)

诗乐说(节录) 黄 佐 (2	
乐声说(节录)	
"王廷相论乐"(2	
《新刊发明琴谱》序 黄龙山(2	83)
《杏庄太音补遗》序 萧 鸾(2	84)
南词引正 魏良辅(2	
弹琴杂说 杨表正(2	
焚书(辑录) 李 贽 (2	
读律肤说(2	
征途与共后语(2	.90)
红拂(2	
琴赋(2	
少室山房笔丛(辑录) 胡应麟 (2	94)
唐音癸籤(辑录) 胡震亨(2	98)
乐通三(2	.98)
乐通四(3	300)
听琴赋 杨 抢(3	302)
《今川仁····································	303)
人是而李明(科本)	305)
谿山琴况(3	
"选曲标准"·····(2	314)
方诸馆曲律(辑录) 王骥德()	
论腔调(
论板眼(
曲品(辑录) 吕天成(
度曲须知(辑录) 沈宠绥 (
序言(321)

.

曲运隆衰(32	2)
弦索题评(32	4)
弦律存亡(32	5)
叙山歌	8)
秦复庵《望吾乡》按语(节录) 冯梦龙 (32	
《步雪初声》序(节录)	
琴声十六法 冷 仙 (33	
叔苴子(辑录)····· 庄元臣 (33	
闲情偶寄 李 渔 (336	
戒荒唐	
别解务头(33	
别古今 (33)	
剂冷热 (33)	
变调第二(34	
缩长为短(34	-
变旧成新(34]	
授曲第三(344	
解明曲意(345	
调熟字音	•
字忌模糊	-
曲严分合(347	
锣鼓忌杂·······(348	
吹合宜低(349	
教白第四····· (350	
高低抑扬(351	-
缓急顿挫······ (352	-
声音恶习(352	-
1 E NO 24	. 1

尚书引义(辑录) 王夫之 (355)
舜典三(355)
顾命(358)
读 通鉴论(辑录) _{王夫之} (362)
汉高帝十二 (362)
文帝三(363)
宣帝二(364)
隋文帝九 (365)
五代二六 (366)
响山堂指法纪略・指法禁忌(节录) 徐二勋 (369)
《琴学心声谐谱》凡例(节录) 庄臻凤 (370)
《北词广正谱》序 吴伟业(372)
《古乐书》序(节录)······ 应㧑谦 (374)
竟山乐录(节录) 毛奇龄 (376)
声律(377)
乐器不是乐(377)
乐书不是乐(378)
乐不分古今(378)
四存编(辑录) 颜 元 (382)
学辨二(382)
性理评 (382)
学乐录(节录) 李 塨 (383)
书《乐书》序后 方 苞 (385)
诂律书一则 方 苞 (386)
律吕新论(辑录) 江 永 (388)
声音自有流变(388)
俗乐可求雅乐(388)

乐器不必泥古	(389)
度量权衡不必泥古	(389)
乐经律吕通解(节录) 汪 烜	(390)
乐记或问	(390)
乐教第七·····	(408)
《立雪斋琴谱》小引 汪 绂	(414)
治心斋琴学练要・总义八则 王 善善	(415)
看山阁集闲笔(节录) 黄图珌	(417)
鼓琴八则 苏 璟等	(420)
乐府传声(节录) 徐大椿	(423)
序······	(423)
源流	(424)
元曲家门	(425)
曲情	(426)
起调	(426)
断 腔	(427)
顿挫	(427)
轻重	(428)
徐疾	(428)
高腔轻过	(429)
低腔重熱	
一字高低不一	
句韵必清	(430)
定板	(431)
	(432)
《香祖楼》后序(节录) 陈守诒	(433)
律吕臆说(辑录) 徐养沅	(434)

in the second

雅乐论	(434)
雅乐论二	(435)
雅乐论三	(436)
俗乐论一	(437)
俗乐论二	(438)
乐本说	(439)
管色考(辑录) 徐养沅	(441)
辨异	(441)
琴论(节录) 陈幼慈	(443)
琴学粹言(辑录) 蒋文勋	(447)
听琴弹琴诗录	(447)
昌黎听琴诗论	(449)
音乐诗赋节录	(450)
右手纪要	(451)
左手纪要	(451)
论派	(453)
论文	(454)
"龚自珍论乐"	(455)
顾误录(辑录) 王德晖、徐沅澂	(458)
度曲八法	(458)
学曲六戒	(460)
与古斋琴谱、补义(辑录) 祝凤喈	(462)
按谱鼓曲奥义	(462)
制琴曲要略	(463)
乐奏明调收音起接传神说	(464)
琴曲音节美善论	(467)
琴曲收音起句考	(467)

琴曲音调节奏考	(468)
依谱鼓曲合节真诠	(470)
修养鼓琴	(471)
授受琴约	(472)
螾庐曲谈(辑录) 王季烈	(474)
序·····	(474)
论度曲·绪论··································	(475)

先 秦 部 分

春秋左传^①(辑录)

"乐以箴谏"师旷③

自王以下,各有父兄子弟,以补察其政。史为书,瞽为诗,工诵 箴谏,大夫规诲,士传言,庶人谤,商旅于市,百工献艺。故《夏书》 曰:"遒人以木铎徇于路,官师相规,工执艺事以谏。"正月孟春,于 是乎有之,谏失常也。……

(襄公十四年)

"乐以知军"师旷

.....

① 据《春秋经传集解》文学古籍刊行社 1955 年版。

② 师旷,字子野,春秋时晋国乐师。

"乐以知政" 季机®

吴公子札来聘。……请观于周乐。使工为之歌《周南》、《召 南》,曰:"美哉」始基之矣,犹未也。然勤而不怨矣。"为之歌《邶》、 《鄘》、《卫》,曰:"美哉,渊乎。忧而不困者也。吾闻卫康叔、武公之 德如是,是其《卫风》乎?"为之歌《王》,曰:"美哉。思而不惧,其周 之东乎?"为之歌《郑》,曰:"美哉! 其细已甚,民勿堪也,是其先亡 乎!"为之歌《齐》,曰:"美哉,泱泱乎,大风也哉! 表东海者,其大公 平。国未可量也。"为之歌《豳》,曰:"美哉,荡乎。乐而不淫,其周 公之东乎 n 为之歌《秦》,曰:"此之谓夏声。夫能夏则大,大之至 也,其周之旧乎?"为之歌《魏》,曰"美哉,沨沨乎,大而婉,险而易 行,以德辅此,则明主也。"为之歌《唐》,曰:"思深哉。其有陶唐氏 之遗民乎? 不然,何忧之远也。非令德之后,谁能若是?" 为之歌 《陈》、曰:"国无主、其能久乎?"自《郐》以下无讥焉。 为之歌《小 雅》,曰:"美哉, 思而不贰,怨而不言,其周德之衰平, 犹有先王之 遗民焉。"为之歌《大雅》,曰:"广哉,熙熙乎, 曲而有直体,其文王之 德乎?"为之歌《颂》,曰:"至矣哉。直而不倨,曲而不屈,迩而不逼, 远而不携,迁而不淫,复而不厌,哀而不愁,乐而不荒,用而不匮,广 而不宜,施而不费,取而不贪,处而不底,行而不流,五声和,八风 平,节有度,守有序,盛德之所同也。"见舞《象箾》、《南籥》者,曰. "美哉,犹有憾。"见舞《大武》者,曰:"美哉! 周之盛也,其若此乎?" 见舞《韶濩》者,曰:"圣人之弘也,而犹有惭德,圣人之难也。"见舞 《大夏》者,曰:"美哉,勤而不德,非禹其谁能修之?"见舞《韶简》 者,曰:"德至矣哉,大矣」如天之无不帱也,如地之无不载也,虽其

① 季札,春秋时吴国的公子,称公子札;封于延陵,又称延陵季子。

盛德,其蔑以加于此矣。观止矣! 若有他乐,吾不敢请已!" (襄公二十九年)

"乐节百事" 医和①

……先王之乐,所以节百事也。故有五节。迟速、本末以相及,中声以降,五降之后,不容弹矣。于是有烦手淫声,慆堙心耳,乃忘平和,君子弗听也。物亦如之,至于烦,乃舍也已,无以生疾。君子之近琴瑟,以仪节也,非以慆心也。天有六气,降生五味,发为五色,徵为五声,淫生六疾。

(昭公元年)

"和与同异" 晏婴②

齐侯至自田, 晏子侍于尚台。子犹驰而造焉。

公曰:"唯据与我和夫?"晏子对曰:"据亦同也,焉得为和。"公曰:"和与同异乎?"对曰:"异。和如羹焉,水火醯醢盐梅以烹鱼肉, 婵之以薪。宰夫和之,齐之以味,济其不及,以泄其过。君子食之,以平其心。君臣亦然。君所谓可而有否焉,臣献其否以成其可。君所谓否而有可焉,臣献其可以去其否。是以政平而不干,民无争心。故《诗》曰:'亦有和羹,既戒既平。鬷嘏无言,时靡有争。'先王之济五味,和五声也,以平其心,成其政也。声亦如味,一气,二体,三类,四物,五声,六律,七音,八风,九歌,以相成也。清浊,小大,短长,疾徐,哀乐,刚柔,迟速,高下,出人,周疏,以相济也。君子听之,以平其心。心平德和。故《诗》曰:'德音不瑕。'今据不然。君

① 医和,春秋时秦国的良医。

② 晏婴,春秋时齐相。

所谓可,据亦曰可。君所谓否,据亦曰否。若以水济水,谁能食之。 若琴瑟之专壹,谁能听之。同之不可也如是。"

(昭公二十年)

"乐过生疾"州鸠①

二十一年春,天王将铸无射。冷(伶)州鸠曰:"王其以心疾死乎,夫乐,天子之职也;夫音,乐之舆也;而锺(钟),音之器也。天子省风以作乐,器以锺之,舆以行之,小者不窥,大者不極,则和于物,物和则嘉成。故和声入于耳,而藏于心,心亿则乐。窕则不咸,概则不容。心是以感,感实生疾。今锺概矣,王心弗堪,其能久乎?"(昭公二十一年)

"乐则天地"子产③

……夫礼,天之经也,地之义也,民之行也。天地之经,而民实则之。则天之明,因地之性,生其六气,用其五行,气为五味,发为五色,章为五声。淫则昏乱,民失其性。是故为礼以奉之,为六畜、五牲、三牺,以奉五味;为九文、六采、五章,以奉五色;为九歌、八风、七音、六律,以奉五声;为君臣、上下,以则地义;为夫妇,外内,以经二物;为父子、兄弟、姑姊、甥舅、昏媾、姻亚,以象天明;为政事、庸力、行务,以从四时;为刑罚、威狱,使民畏忌,以类其震曜杀戮;为温、慈、惠、和,以效天之生殖长育。民有好、恶、喜、怒、哀、乐,生于六气。是故审则宜类,以制六志。哀有哭泣,乐有歌舞,喜有施舍,怒有战斗;喜生于好,怒生于恶。是故审行信令,祸福赏

① 州鸠,春秋时周景王的乐师。

② 子产,春秋时郑国大夫公孙乔,字子产。

罚,以制死生。生,好物也,死,恶物也;好物,乐也,恶物,哀也。哀乐不失,乃能协于天地之性,是以长久。

(昭公二十五年)

国 语①(辑录)

"和实生物" 史伯②

……夫和实生物,同则不继;以它平它谓之和,故能丰长而物生之。若以同裨同,尽乃弃矣。故先王以土与金木水火杂以成百物,是以和五味以调口,刚四支以卫体,和六律以聪耳,正七体以役心,平八素以成人,建九纪以立纯德,合十数以训百体,出千品,具万方,计亿事,材兆物,收经人,行核极。故王者居九畡之田,收经入,以食兆民,周训而能用之,龢(和)乐如一。夫如是,龢之至也。于是乎,先王聘后于异姓,求财于有方,择臣取谏工,而讲以多物,务和同也。声一无听,物一无文,味一无果,物一不讲,王将弃是类,而与剸同。天夺之明,欲无弊得乎?

(郑 语)

"谏 铸 大 钟"单穆公③

二十三年,王将铸无射而为之大林。单穆公曰:"不可,作重弊以绝民资,又铸大锺以鲜其继,若积聚既丧,又鲜其继,生何以殖。且夫锺不过以动声,若无射有林,耳不及也。夫锺声以为耳也,耳所不及,非锺声也;犹目所不见,不可以为目也。夫目之察度也,不

① 据商务印书馆《四部丛刊》本。

② 史伯,周太史,活动年代在郑桓公时(公元前806年一前771年)。

③ 单穆公,约公元前六世纪人,生卒年代不详。

过步武尺寸之间;其察色也,不过墨丈寻常之间。耳之察龢也,在清浊之间;其察清浊也,不过一人之所胜。是故先王之制锺也,大不出钧,重不过石;律度量衡,于是乎生,小大器用,于是乎出。故圣人慎之。今王作锺也,听之弗及,比之不度;锺声不可以知龢,制度不可以出节;无益于乐,而鲜民财,将焉用之。夫乐不过以听耳,而美不过以观目,若听乐而震,观美而眩,患莫甚焉。夫耳目,心之枢机也,故必听龢而视正。听龢则聪,视正则明,聪则言听,明则德昭;听言昭德,则能思虑纯固。以言德于民,民歆而德之,则归心焉。上得民心,以殖义方,是以作无不济,求无不获,然则能乐。夫耳内纳龢声,而口出美言,以为宪令,而布诸民,正之以度量,民以心力从之不倦,成事不贰,乐之至也。……"

(周语下)

"论乐说律" 州鸠

王弗听,问之伶州鸠。对曰:"臣之守官弗及也。臣闻之:琴瑟尚宫,锺尚羽,石尚角,匏竹利制,大不逾宫,细不过羽。夫宫,音之主也,第以及羽。圣人保乐而爱财。财以备器,乐以殖财。故乐器重者从细,轻者从大。是以金尚羽,石尚角,瓦丝尚宫,匏竹尚议,革木一声。夫政象乐,乐从和,和从平。声以和乐,律以平声,金石以动之,丝竹以行之,诗以道之,歌以咏之,匏以宣之,瓦以赞之,革木以节之。物得其常曰乐极,极之所集曰声,声应相保曰和,细大不逾曰平。如是而铸之金,磨之石,系之丝木,越之匏竹,节之鼓而行之,以遂八风。于是乎气无滞阴,亦无散阳,阴阳序次,风雨时至,嘉生繁祉,人民和利,物备而乐成,上下不罢(疲),故曰乐正。今细过其主妨于正,用物过度妨于财,正害财匮妨于乐,细抑大陵不容于耳非和也,听声越远非平也,妨正匮财,声不和平,非宗官之所司

也。夫有和平之声,则有蕃殖之财。于是乎道之以中德,咏之以中音,德音不愆,以合神人,神是以宁,民是以听。若夫匮财用,罢民力,以逞淫心,听之不和,比之不度,无益于教而离民怒神,非臣之所闻也。"王不听,卒铸大锺。二十四年,锺成,伶人告和。王谓伶州鸠曰:"锺果和矣。"对曰:"未可知也。"王曰:"何故?"对曰:"上作器,民备乐之,则为和。今财亡民罢,莫不怨恨,臣不知其和也。且民所曹好,鲜其不济也;其所曹恶,鲜其不废也。故谚曰:'众心成城,众口铄金。'今三年之中,而害金再兴焉,惧一之废也。"王曰:"尔老耄矣,何知。"二十五年,王崩,锺不和。

王将铸无射,问律于伶州鸠。对曰:"律所以立均出度也。古之神瞽,考中声而量之以制,度律均锺百官轨仪,纪之以三,平之以六,成于十二,天之道也。夫六,中之色也,故名之曰黄锺,所以宣扬六气九德也。由是第之:二曰太簇,所以金奏赞阳出滞也;三日姑洗,所以修洁百物,考神纳宾也;四曰蕤宾,所以安靖神人,献酬交酢也;五日夷则,所以咏歌九则,平民无贰也。六曰无射,所以宣布哲人之令德,示民轨仪也。为之六间,以扬沈伏而黜散越也。元间大吕,助宣物(徐元浩《国语集解》据《礼记·月令》注作"助扬宜物"。)也;二间夹钟,出四隙之细也;三间中(仲)吕,宣中气也;四间林锺,和展百事,俾莫不任肃纯恪也;五间南吕,赞阳秀(同上作"赞扬秀物"。)也;六间应锺,均利器用,俾应复也。律吕不易,无奸物也。细钧有锺无镈,昭其大也;大钧有镈无锺,甚大无镈,鸣其细也。大昭小鸣,和之道也。和平则久,久固则纯,纯明则终,终复则乐,所以成政也,故先王贵之。"

王曰: "七律者何?"对曰: "昔武王伐殷,岁在鹑火,月在天驷,日在析木之津,辰在斗柄,星在天鼋,星与日辰之位皆在北维。颛顼之所建也,帝喾受之。我姬氏出自天鼋,及析木者,有建星及牵牛焉,则我皇妣大姜之侄,伯陵之后,逄公之所冯神也。岁之所在,

则我有周之分野也。月之所在,辰马农祥也,我太祖后稷之所经纬也。王欲合是五位三所而用之,自鹑及驷七列也,南北之揆七同也。凡神人以数合之,以声昭之,数合声和,然后可同也,故以七同其数,而以律和其声,于是乎有七律。……"

(周语下)

"答灵王问" 在举①

灵王为章华之台,与伍举升焉,曰:"台美夫?"对曰:"臣闻国君服宠以为美,安民以为乐,听德以为聪,致远以为明;不闻其以土木之崇高彤(彫)镂为美,而以金、石、匏、竹之昌大嚣庶为乐,不闻其以观大视侈淫色以为明,而以察清浊为聪也。……"

(楚 语 上)

"平公悦新声" 师 旷

平公说(悦)新声。师旷曰:"公室其将卑乎?君之明兆于衰矣! 夫乐以开山川之风也,以耀德于广远也。风德以广之,风山川以远之,风物以听之,修诗以咏之,修礼以节之。夫德广远,而有时节, 是以远服而迩不迁。"

(晋语十四)

① 伍举,春秋时楚国的大夫。活动年代在公元前540年前后。

论 语^①(辑录) _{1 丘③}

子曰: "《诗》三百,一言以蔽之,曰:思无邪。"

(为政第二)

孔子谓季氏:"八佾舞于庭,是可忍也,孰不可忍也?"

三家者以《雍》彻。子曰:"'相维辟公,天子穆穆,'奚取于三家 之堂?"

子曰:"人而不仁如礼何。人而不仁如乐何?"

子曰: "《关睢》乐而不淫, 哀而不伤。"

子语鲁太师乐,曰:"乐其可知也,始作,翕如也;从(纵)之,纯 如也,皦如也,绎如也,以成。"

子谓《韶》:"尽美矣,又尽善也。"谓《武》:"尽美矣,未尽善也。" (八佾第三)

子在齐闻《韶》,三月不知肉味,曰:"不图为乐之至于斯也。" (述而第七)

子曰:"兴于诗,立于礼,成于乐。"

子曰:"师挚之始,《关睢》之乱,洋洋乎盈耳哉!"

(泰伯第八)

① 据何晏《论语集解》本。

② 孔丘,公元前 551 年一前 479 年。

子曰: "吾自卫反鲁,然后乐正,《雅》《颂》各得其所。" (子罕第九)

子路问成人。子曰:"若臧武仲之知,公绰之不欲,卞庄子之 勇,冉求之艺,文之以礼乐,亦可以为成人矣。"

(宪问第十四)

颜渊问为邦。子曰:"行夏之时,乘殷之辂,服周之冕,乐则 《韶》舞(《武》),放郑声,远佞人。郑声淫,佞人殆。"

(卫灵公第十五)

子之(至)武城,闻弦歌之声。夫子莞尔而笑曰:"割鸡焉用牛刀!"子游对曰:"昔者偃也闻诸夫子曰:君子学道则爱人,小人学道则易使也。"子曰:"二三子,偃之言是也,前言戏之耳。"

子曰:"礼云礼云,玉帛云乎哉! 乐云乐云,钟鼓云乎哉!"

子曰: "恶紫之夺朱也;恶郑声之乱雅乐也;恶利口之 覄邦 家者。"

(阳货第十七)

附:"荷蒉者论乐"

子击磬于卫,有荷蒉而过孔氏之门者,曰:"有心哉,击磬乎!" 既而曰:"鄙哉,硜硜乎! 莫己知也,斯己而已矣,'深则厉(萬),找则揭。'"子曰:"果哉,末之难矣!"

(宪问第十四)

墨 子®

非 乐 墨 翟③

子墨子言曰: 仁之事者, 必务求兴天下之利, 除天下之害。将 以为法乎天下,利人乎即为,不利人乎即止。且夫仁者之为天下度 也,非为其目之所美,耳之所乐,口之所甘,身体之所安。以此亏夺 民衣食之财,仁者弗为也。是故子墨子之所以非乐者,非以大钟、 鸣鼓、琴、瑟、竿、笙之声以为不乐也;非以刻镂「华〕文章之色以为 不美也; 非以犓豢煎炙之味以为不甘也; 非以高台厚榭邃野〔字〕之 居以为不安也。虽身知其安也、口知其世也、目知其美也、耳知其乐 也,然上考之不中圣王之事,下度之不中万民之利。是故子墨子曰: 为乐, 非也。今王公大人虽〔唯〕无造为乐器, 以为事平国家, 非官 棓潦水、折壤坦而为之也,将必厚措敛平万民,以为大钟、鸣鼓、琴、 瑟、竿、笙之声。古者圣王,亦尝厚措敛平万民以为舟车,既以成 矣,日:吾将恶许用之。日:舟用之水,车用之陆,君子息其足焉,小 人休其肩背焉,故万民出财斋而予之,不敢以为感恨者,何也。以其 反中民之利也。然则乐器反中民之利亦若此,即〔则〕我弗敢非也。 然则当用乐器譬之若圣王之为舟车也,即我弗敢非也。民有三患: 饥者不得食,寒者不得衣,劳者不得息。三者民之巨患也。然即当 为之撞巨钟、击鸣鼓、弹琴瑟、吹竽笙而扬干威,民衣食之财,将安 可得平? 即我以为未必然也。意舍此。今有大国即攻小国,有大

① 据孙诒让《墨子闲诂》。

② 墨翟,战国初年人(公元前 480 年? 一前 420 年?)。

家即伐小家,强劫弱,众暴寡,诈欺愚,贵傲贱,寇乱盗贼并兴,不可 禁止也。然即当为之撞巨钟、击鸣鼓、弹琴瑟、吹竿笙、而扬干威, 天下之乱也,将安可得而治与。即我[以为]未必然也。是故子墨 子曰: 姑尝厚措敛乎万民,以为大钟、鸣鼓、琴、瑟、竿笙之声,以求 兴天下之利,除天下之害,而无补也。是故子墨子曰,为乐非也。今 王公大人,惟毋处高台厚榭之上而视之,钟犹是延鼎也,弗撞击,将 何乐得焉哉。其说将必撞击之。惟勿撞击、将必不使老与迟(穉、稚) 者---老与迟(稺、稚)者,耳目不聪明,股肱不毕强,声不和调,明 不转朴(抃、变)。将必使当年,因其耳目之聪明,股肽之毕强,声之 和调,眉〔明〕之转朴。使丈夫为之,废丈夫耕稼树艺之时;使妇人 为之,废妇人纺绩织纴之事。今王公大人唯毋为乐,亏夺民衣食之 财,以拊乐如此多也。是故子墨子曰: 为乐非也。今大钟、鸣鼓、 琴、瑟、竽、笙之声,既已具矣。〔王公〕大人锦然奏而独听之,将何 乐得焉哉。其说将必与贱人,[不]与君子(听之)。与君子听之,废 君子听治;与贱人听之,废贱人之从事。今王公大人,惟毋为乐、 亏夺民之衣食之财,以拊乐如此多也! 是故子墨子曰: 为乐非也。 昔者齐康公兴乐《万》,《万》人不可衣短褐,不可食糠糟。曰:食饮 不美,面目颜色不足视也;衣服不美,身体从容丑羸不足观也;是以 食必粱肉, 衣必文绣。此掌(常)不从事平衣食之财, 而掌食平人 者也。是故子墨子曰: 今王公大人惟毋为乐, 亏夺民衣食之财, 以 拊乐如此多也! 是故子墨子曰: 为乐非也。今人固与禽兽、麋鹿、 蜚(飞)鸟、贞(征)虫异者也。今之禽兽、麋鹿、蜚鸟、贞虫,因其羽毛 以为衣裘;因其蹄蚤(爪)以为绔屦,因其水草以为饮食。故唯(虽) 使雄不耕稼树艺,雌亦不纺绩织纴,衣食之财,固已具矣。今人与此 异者也, 赖其力者生, 不赖其力者不生。君子不强听治即刑政乱, 贱人不强从事即财用不足。今天下之士君子以吾言不然,然即姑 尝数天下分事而观乐之害: 王公大人, 蚤朝晏退, 听狱治政, 此其分 事也: 十君子竭股肱之力, 廖(殚)其思虑之智, 内治官府, 外收敛关 市、山林、泽梁之利,以实仓廪府库,此其分事也;农夫番出暮人,耕 稼树艺,多聚叔(菽)栗,此其分事也; 妇人夙兴夜寐,纺绩织絍,多 治麻、丝、葛、绪、细、布、缘、此其分事也。今惟毋在平王公大人说 (悦)乐而听之,即必不能蚤朝晏退,听狱治政,是故国家乱而社稷 危矣。今惟毋在平十君子说乐而听之,即必不能竭股肽之力, 會其 思虑之智,内治官府,外收敛关市、山林、泽梁之利,以实仓廩府库, 是故仓廪府库不实。今惟毋在平农夫说乐而听之,即必不能蚤出 暮入,耕稼树艺,多聚叔栗,是故叔栗不足。今惟毋在乎妇人说乐 而听之,即必不能夙兴夜寐,纺绩织絍,多治麻丝葛绪细布缘,是故 布缘不兴。曰:孰为〔而废〕大人之听治「而废国家〕〔贱人〕之从事? 日,乐也。是故子墨子曰: 为乐非也。何以知其然也? 曰,先王之 书,汤之《官刑》有之曰:"其恒舞于宫,是谓巫风,其刑君子出丝二 卫,小人否似二伯黄径。"乃言(疑当作"《大誓》")曰:"呜平,舞佯 (洋)佯,黄言孔章,上帝弗常(尚),九有以亡。上帝不顺,降之百舜 (殃),其家必坏丧。"察九有之所以亡者,徒从饰乐也。于《武观》曰: "启乃淫溢(逸),康乐,野于饮食,将将铭,苋(筦、管)磬以力〔方〕, 淇浊(沈湎)干酒,渝(偷)食干野,《万》舞翼翼,童闻干大(天),天用 弗式。"故上者天鬼弗戒[式],下者万民弗利。是故子墨子曰:今天 下土君子,请[诚]将欲求兴天下之利,除天下之害,当在乐之为物, 将不可不禁而止也。

(非乐上第三十二)

各篇辑录

程繁问于子墨子曰: "夫子曰:'圣王不为乐'。昔诸侯倦于听治,息于钟鼓之乐;士大夫倦于听治,息于竽瑟之乐;农夫春耕夏

耘,秋敛冬藏,息于聆(瓴)缶之乐。今夫子曰:'圣王不为乐',此譬之犹马驾而不税(脱),弓张而不弛,无乃非有血气者之所不能至邪?"子墨子曰:"昔者尧舜有茅茨者,且以为礼,且以为乐。汤放桀于大水,环天下自立以为王,事成功立,无大后患,因先王之乐又自作乐,命曰《护》;又修《九招》。武王胜殷杀纣,环天下自立以为王,事成功立,无大后患,因先王之乐又自作乐,命曰《象》。周成王因先王之乐,又自作乐,命曰《驺虞》。周成王之治天下也,不若武王;武王之治天下也,不若成汤;成汤之治天下也,不若尧舜。故其乐逾繁者,其治逾寡。自此观之,乐非所以治天下也。"程繁曰:"子曰,'圣王无乐'。此亦乐已,若之何其谓圣王无乐也?"子墨子曰:"圣王之命也,多寡之。食之利也,以知饥而食之者,智也,因为无智矣。今圣有乐而少,此亦无也。"

(三辩第七)

子墨子曰:"问于儒者何故为乐,曰'乐以为乐也'。"子墨子曰: "子未我应也。今我问曰何故为室?曰冬避寒焉,夏避暑焉。室以 为男女之别也。则子告我为室之故矣。今我问曰何故为乐?曰乐 以为乐也,是犹曰何故为室,曰室以为室也。"

(公孟第四十八)

……子墨子曰:凡人国,必择务而从事焉:国家昏乱,则语之尚贤,尚同;国家贫,则语之节用,节葬;国家惠音湛湎,则语之非乐, 非命;国家淫僻无礼,则语之尊天,事鬼;国家务夺侵凌,即语之兼爱,非攻。故曰,择务而从事焉。

(鲁问第四十九)

孟 子^①(辑录) _{孟 柯}②

庄暴见孟子,曰:"暴见于王,王语暴以好乐,暴未有以对也。" 曰:"好乐何如?"

孟子曰:"王之好乐甚,则齐国其庶几乎!"

他日,见于王,曰:"王尝语庄子以好乐,有诸?"

王变乎色,曰:"寡人非能好先王之乐也,直好世俗之乐耳。"

曰:"王之好乐甚,则齐其庶几乎,今之乐犹古之乐也。"

日:"可得闻与?"

曰:"独乐乐,与人乐乐,孰乐?"

日:"不若与人。"

曰:"与少乐乐,与众乐乐,孰乐?"

曰:"不若与众。"

"臣请为王言乐。今王鼓乐于此,百姓闻王钟鼓之声,管籥之音,举疾首蹙頞而相告曰:'吾王之好鼓乐,夫何使我至于此极也?父子不相见,兄弟妻子离散。'今王田猎于此,百姓闻王车马之音,见羽旄之美,举疾首蹙頞而相告曰:'吾王之好田猎,夫何使我至于此极也?父子不相见,兄弟妻子离散。'此无他,不与民同乐也。

今王鼓乐于此,百姓闻王钟鼓之声,管籥之音,举欣欣然有喜 色而相告曰:'吾王庶几无疾病与,何以能鼓乐也?'今王田猎于此, 百姓闻王车马之音,见羽旄之美,举欣欣然有喜色而相告曰:'吾王 庶几无疾病与,何以能田猎也?'此无他,与民同乐也。今王与百姓

① 据商务印书馆景印宋刊本。

② 孟轲,战国时人(公元前 372 年-前 289 年)。

(梁惠王章句下)

师旷之聪,不以六律,不能正五音。

孟子曰: "仁之实,事亲是也;义之实,从兄是也;智之实,知斯二者弗去是也;礼之实,节文斯二者是也;乐之实,乐斯二者,乐则生矣;生则恶可已也,恶可已也,则不知足之蹈之手之舞之。"

(离娄章句上)

集大成也者,金声而玉振之也。金声也者,始条理也。玉振之 也者,终条理也。

(万章章句下)

至于味,天下期于易牙,是天下之口相似也。惟耳亦然。至于声,天下期于师旷,是天下之耳相似也。惟目亦然。至于子都,天下莫不知其姣也。不知子都之姣者,无目者也。故曰:口之于味也,有同者(嗜)焉。耳之于声也,有同听焉。目之于色也,有同美焉。

(告子章句上)

孟子曰:"仁言不如仁声之人人深也,……。"

(尽心章句上)

高子曰:"禹之声,尚文王之声"。孟子曰:"何以言之?"曰:"以 追蠡。"曰:"是奚足哉。城门之轨,两马之力与?"

(尽心童句下)

庄 子^①(辑录) _{庄 周}③

……古之人其知有所至矣。恶乎至?有以为未始有物者,至矣尽矣,不可以加矣。其次以为有物矣,而未始有封也。其次以为有封焉,而未始有是非也。是非之彰也,道之所以亏也。道之所以亏,爱之所以成。果且有成与亏乎哉?果且无成与亏乎哉?有成与亏,故昭氏之鼓琴也;无成与亏,故昭氏之不鼓琴也。昭文之鼓琴也,师旷之枝策也,惠子之据梧也,三子之知几乎,皆其盛者也,故载之末年。唯其好之也,以异于彼;其好之也,欲以明之彼。非所明而明之,故以坚白之昧终。而其子又以文之纶终,终身无成。若是而可谓成乎,虽我亦成也;若是而不可谓成乎,物与我无成也。……

(内篇齐物论第二)

骈拇枝指,出乎性哉,而侈于德。附赘县疣,出乎形哉,而侈于性。多方乎仁义,而用之者,列于五藏哉,而非道德之正也。是故骈于足者,连无用之肉也;枝于手者,树无用之指也。多方骈枝于五藏之情者,淫僻于仁义之行,而多方于聪明之用也。是故骈于明者,乱五色,淫文章,青黄黼黻之煌煌,非乎。而离朱是已。多于聪者,乱五声,淫六律,金石丝竹黄钟大吕之声,非乎。而师旷是已。枝于仁者,擢德塞性,以收名声,使天下簧鼓,以奉不及之法,非乎,而曾史是已。骈于辩者,累瓦结绳,窜句游心于坚白同异之间,而敝

① 据王先谦《庄子集解》。

② 庄周,战国时人(公元前 360 年?-280 年?)。按《庄子》全书并非全出自庄周之手。

跬誉无用之言,非平。而杨墨是已。故此皆多骈旁枝之道,非天下 之至正也。彼至正者,不失其性命之情,故合者不为骈,而枝者不 为肢,长者不为有餘,短者不为不足。是故凫胫虽短,续之则忧;鹤 胫虽长,断之则悲。故性长非所断,性短非所续,无所去忧也。意 仁义其非人情平。彼仁人何其多忧也。且夫骈于拇者,决之则泣; 枝于手者, 齕之则啼, 二者或有餘于数, 或不足于数, 其于忧一也。 今世之仁人₹蒿目而忧世之患;不仁之人,决性命之情,而饕富贵。 故意仁义其非人情乎? 自三代以下者,天下何其嚣嚣也! 且夫待 钩绳规矩而正者,是削其性也;待绳约胶漆而固者,是侵其德也。 屈折礼乐, 响俞仁义, 以慰天下之心者, 此失其常然也。天下有常 然。常然者, 曲者不以钩, 直者不以绳, 圆者不以规, 方者不以矩, 附离不以胶漆,约束不以纆索。故天下诱然皆生,而不知其所以 生;同焉皆得,而不知其所以得。故古今不二,不可亏也。则仁义 又奚连连如胶漆缰索,而游乎道德之间为哉。使天下惑也。夫小 惑易方,大惑易性。何以知其然邪? 自虞氏招仁义以挠天下也,天 下莫不奔命于仁义,是非以仁义易其性与。故尝试论之,自三代以 下者,天下莫不以物易其性矣。小人则以身殉利; 士则以身殉名; 大夫则以身殉家; 圣人则以身殉天下: 故此数子者, 事业不同, 名声 异号,其于伤性以身为殉,一也。臧与穀二人相与牧羊,而俱亡其 羊。问臧奚事,则挟筴读书;问榖奚事,则博塞以游,二人者事业不 同,其于亡羊均也。伯夷死名于首阳之下、盗跖死利于东陵之上, 二人者所死不同,其于残生伤性均也,奚必伯夷之是,而盗跖之非 乎。天下尽殉也,彼其所殉仁义也,则俗谓之君子;其所殉货财也, 则俗谓之小人。其殉一也,则有君子焉,有小人焉。若其残生损 性,则盗跖亦伯夷已,又恶取君子小人于其间哉。 且夫属其性平仁 义者,虽通如曾史,非吾所谓臧也;属其性于五味,虽通如俞儿,非 吾所谓臧也; 属其性乎五声,虽通如师旷,非吾所谓聪也; 属其性乎 五色,虽通如离朱,非吾所谓明也。吾所谓臧者,非仁义之谓也,臧 于其德而已矣。吾所谓臧者,非所谓仁义之谓也,任其性命之情而 已矣。吾所谓聪者,非谓其闻彼也,自闻而已矣。吾所谓明者,非 谓其见彼也,自见而已矣。夫不自见而见彼,不自得而得彼者,是 得人之得,而不自得其得者也,适人之适,而不自适其适者也。夫 适人之适,而不自适其适,虽盗跖与伯夷,是同为淫僻也。余愧乎 道德,是以上不敢为仁义之操,而下不敢为淫僻之行也。

(外篇骈拇第八)

故至德之世,其行填填,其视颠颠。当是时也,山无蹊隧,泽无舟梁,万物群生,连属其乡,禽兽成群,草木遂长。是故禽兽可系羁而游,鸟鹊之巢可攀援而闕。夫至德之世,同与禽兽居,族与万物并,恶乎知君子小人哉?同乎无知,其德不离;同乎无欲,是谓素朴。素朴而民性得矣。及至圣人,蹩躠为仁,踶跂为义,而天下始疑矣;澶漫为乐,摘僻为礼,而天下始分矣。故纯朴不残,孰为牺尊?白玉不毁,孰为珪璋?道德不废,安取仁义?性情不离,安用礼乐?五色不乱,孰为文采?五声不乱,孰应六律?夫残朴以为器,工匠之罪也;殷道德以为仁义,圣人之过也。……

(外篇马蹄第九)

…… 他圣人者, 天下之利器也, 非所以明天下也。故绝圣弃知, 大盗乃止; 擿玉毁珠, 小盗不起; 焚符破玺, 而民朴鄙; 掊斗折衡, 而民不争。殚残天下之圣法, 而民始可与论议。 擢乱六律, 轹绝竽瑟, 塞旷之耳, 而天下始人含其聪矣。 灭文章, 散五采, 胶离朱之目, 而天下始人含其明矣。 毁绝钩绳, 而弃规矩, 攫工倕之指, 而天下始人有其巧矣。故曰, 大巧若拙。削曾史之行, 钳杨墨之口, 攘弃仁义, 而天下之道始玄同矣。彼人含其明, 则天下不铄矣; 人含其聪, 则

天下不累矣; 人含其知,则天下不惑矣; 人含其德,则天下不僻矣。 彼曾、史、杨、墨、师旷、工倕、离朱者、皆外立其德,而以爚乱天下 者也,法之所无用也。……

(外篇胠箧第十)

……自三代以下者,匈匈焉终以赏罚为事,彼何暇安其性命之情哉?而且说明邪,是淫于色也;说聪邪,是淫于声也;说仁邪,是乱于德也;说义邪,是悖于理也;说礼邪,是相(伤)于技也;说乐邪,是相于淫也;说圣邪,是相于艺也;说知邪,是相于疵也。天下将安其性命之情,之八者,存可也,亡可也。天下将不安其性命之情,之八者,乃始离卷怆囊,而乱天下也,而天下乃始尊之,惜之。甚矣天下之惑也,岂直过也而去之邪?乃齐(斋)戒以言之,跪(跽)坐以进之,鼓歌以舞之。吾若是何哉!故君子不得已而临莅天下,莫若无为。无为也,而后安其性命之情。……

(外篇在宥第十一)

……且夫失性有五:一曰五色乱目,使目不明;二曰五声乱耳, 使耳不聪;三曰五臭熏鼻,困惾中颡;四日五味浊口,使口厉爽;五 曰趣舍滑心,使性飞扬。此五者,皆生之害也。而杨墨乃始离跂, 自以为得,非吾所谓得也。夫得者困,可以为得乎。则鸠鸮之在 于笼也,亦可以为得矣。且夫趣舍声色,以柴其内;皮弁鹬冠,搢 笏绅修,以约其外。内支盈于柴栅;外重缰缴,皖皖然在缰缴之中, 而自以为得,则是罪人交臂历指,而虎豹在于囊槛,亦可以为得矣。

(外篇天地第十二)

……夫明白于天地之德者,此之谓大本大宗,与天和者也;所以均调天下,与人和者也。与人和者,谓之人乐;与天和者,谓之天

乐。庄子曰:吾师乎!吾师乎!整万物而不为戾,泽及万世而不为仁,长于上古而不为寿,覆载天地、刻雕众形而不为朽,此之谓天乐。故曰:知天乐者,其生也天行,其死也物化,静而与阴同德,动而与阳同波。故知天乐者,无天怨,无人非,无物累,无鬼责。故曰:其动也天,其静也地。一心定而王天下,其鬼不祟,其魂不疲;一心定而万物服,言以虚静,推于天地,通于万物,此之谓天乐。天乐者,圣人之心,以畜天下也。……本在于上。末在于下。要在于主。详在于臣。三军五兵之运,德之末也。赏罚利害,五刑之辟,教之末也。礼法度数,形名比详,治之末也。钟鼓之音,羽毛之容,乐之末也。哭泣衰绖,隆杀之服,哀之末也。此五末者,须精神之运,心术之动,然后从之者也。……

(外篇天道第十三)

……北门成问于黄帝曰:"帝张《咸池》之乐于洞庭之野,吾始闻之惧,复闻之怠,卒闻之而惑;荡荡默默,乃不自得。"帝曰:"汝殆其然哉!吾奏之以人,徽之以天,行之以礼义,建之以太清。夫至乐者,先应之以人事,顺之以天理,行之以五德,应之以自然;然后调理四时,太和万物,四时迭起,万物循生,一盛一衰,文武伦经,一清一独,阴阳调和,流光其声,蛰虫始作。吾惊之以雷霆,其卒无尾,其始无首,一死一生,一偾一起,所常无穷,而一不可待,女故惧也。吾又奏之以阴阳之和,烛之以日月之明。其声能短能长,能柔能刚,变化齐一,不主故常,在谷满谷,在阬满阬,涂却守神,以物为量;其声挥绰,其名高明;是故鬼神守其幽,日月星辰行其纪。吾止之于有穷,流之于无止。子欲虑之而不能知也,望之而不能见也,逐之而不能及也,傥然立于四虚之道,倚于槁梧而吟,目知穷乎所欲见,力屈乎所欲逐。吾既不及已夫,形充空虚,乃至委蛇。汝委蛇,故念。吾又奏之以无念之声,调之以自然之命。故若混逐丛生,林

乐而无形,布挥而不曳,幽昏而无声,动于无方,居于窈冥;或谓之死,或谓之生,或谓之实,或谓之荣,行流散徙,不主常声。世疑之,稽于圣人。圣也者,达于情而遂于命也。天机不张,而五官皆备.此之谓天乐,无言而心说。故有焱氏为之颂曰:'听之不闻其声,视之不见其形,充满天地,苞裹六极'。汝欲听之而无接焉,而故惑也。乐也者,始于惧,惧故崇;吾又决之以怠,怠故遁;卒之于惑,惑故愚;愚故道;道可载而与之俱也"。……

(外篇天运第十四)

天下有至乐,无有哉?有可以活身者,无有哉?今奚为奚据,奚避奚处,奚就奚去,奚乐奚恶?夫天下之所尊者,富贵寿善也;所乐者,身安、厚味、美服、好色、音声也;所下者,贫贱夭恶也;所苦者,身不得安逸,口不得厚味,形不得美服,目不得好色,耳不得音声;若不得者,则大忧以惧,其为形也亦愚哉!夫富者,苦身疾作,多积财而不得尽用,其为形也亦外矣。夫贵者,夜以继日,思虑善否,其为形也亦疏矣。……诚有善,无有哉?今俗之所为,与其所乐,吾又未知乐之果乐邪,果不乐邪?吾观夫俗之所乐举群趣者,迳经然如将不得已;而皆曰乐者,吾未之乐也,亦未之不乐也。果有乐,无有哉?吾以无为诚乐矣,又俗之所大苦也。故曰至乐无乐,至誉无誉,天下是非果未可定也。虽然,无为可以定是非,至乐活身,唯无为几存。请尝试言之:天无为以之清,地无为以之宁,故两无为相合,万物皆化。……

(外篇至乐第十八)

……知和曰: "平为福,有餘为害者,物莫不然,而财其甚者也。 今富人,耳营钟鼓管籥之声,口赚于刍豢醪醴之味,以感其意,遗忘 其业,可谓乱矣; 依溺于冯气, 若负重行而上也, 可谓苦矣; 贪财而 取慰,贪权而取竭,静居则溺,体泽则冯,可谓疾矣;为欲富就利,故满若堵耳,而不知避,且冯而不舍,可谓辱矣;财积而无用,服膺而不舍,满心戚醮,求益而不止,可谓忧矣;内则疑劫请之贼,外则畏寇盗之害,内周楼疏,外不敢独行,可谓畏矣。此六者,天下之至害也,皆遗忘而不知察,及其患至,求尽性竭财,单以反一日之无故,而不可得也。故观之名则不见,求之利则不得,缭意体而争此,不亦惑乎。"

(杂篇盗跖第二十九)

天下之治方术者多矣,皆以其有为不可加矣。古之所谓道术 者,果恶乎在,曰:无乎不在。曰:神何由降,明何由出,圣有所 生,王有所成,皆原于一。不离于宗,谓之天人;不离于精,谓之神 人;不离于真,谓之至人;以天为宗,以德为本,以道为门,兆干变 化,谓之圣人;以仁为恩,以义为理,以礼为行,以乐为和,重然慈 仁,谓之君子;以法为分,以名为表,以参为验,以稽为决,其数一二 三四是也,百官以此相齿,以事为常,以衣食为主,蕃息畜藏老弱孤 寡为意,皆有以养,民之理也。古之人其备乎,配神明,醇天地,育 万物,和天下,泽及百姓,明于本数,系于末度。六通四辟,小大精 粗,其运无乎不在,其明而在数度者,旧法世传之史,尚多有之;其 在于《诗》、《书》、礼、乐者、邹鲁之土、缙绅先生、多能明之。《诗》以 道志,《书》以道事,礼以道行,乐以道和,《易》以道阴阳,《春秋》以 道名分,其数散于天下,而设于中国者,百家之学,时或称而道之。 天下大乱,圣贤不明,道德不一,天下多得一察焉以自好。譬如耳 目鼻口皆有所明,不能相通; 犹百家众技也, 皆有所长, 时有所用。 虽然,不该不偏,一曲之士也。判天地之美,析万物之理,察古人之 全,寡能备于天地之美,称神明之容。是故内圣外王之道,暗而不 明,郁而不发,天下之人,各为其所欲焉以自为方。悲夫! 百家往

而不反,必不合矣。后世之学者,不幸不见天地之纯,古人之大体。道术将为天下裂,不侈于后世,不靡于万物,不晖于数度,以绳墨自矫,而备世之急。古之道术,有在于是者,墨翟禽滑厘闻其风而说之,为之大过,已之大循(顺),作为非乐,命之曰"节用",生不歌,死无服。墨子氾爱兼利而非斗。其道不怒,又好学而博不异,不与先王同,毁古之礼乐——黄帝有《咸池》,尧有《大章》,舜有《大韶》,禹有《大夏》,汤有《大濩》,文王有辟雍之乐,武王周公作《武》。古之丧礼,贵贱有仪,上下有等,天子棺槨七重,诸侯五重,大夫三重,士再重。今墨子独生不歌,死不服,桐棺三寸而无槨,以为法式。以此教人,恐不爱人;以此自行,固不爱己。未败墨子道,虽然,歌而非歌,哭而非哭,乐而非乐,是果类乎?其生也勤,其死也薄,其道大数,使人忧,使人悲;其行难为也,恐其不可以为圣人之道,反天下之心。天下不堪,墨子虽能独任,奈天下何?离于天下,其去王也远矣。……

(杂篇天下第三十三)

荀 子^① 前况^②

乐 论

夫乐者乐也,人情之所必不免也。故人不能无乐,乐则必发于声音,形于动静。而人之道,声音动静,性术之变尽是矣。故人不能不乐,乐则不能无形,形而不为道,则不能无乱。先王恶其乱也,故制雅颂之声以道之,使其声足以乐而不流,使其文足以辨而不 谌,使其曲直、繁省、廉肉、节奏,足以感动人之善心,使夫邪汙之气无由得接焉。是先王立乐之方也,而墨子非之,奈何!

故乐在宗庙之中,君臣、上下同听之,则莫不和敬;闺门之内,父子、兄弟同听之,则莫不和亲;乡里族长(党)之中,长少同听之,则莫不和顺。故乐者,审一以定和者也,比物以饰节者也,合奏以成文者也;足以率一道,足以治万变。是先王立乐之术也,而墨子非之,奈何。

故听其雅颂之声,而志意得广焉; 执其干戚, 习其俯仰屈伸,而容貌得庄焉; 行其缀兆, 要其节奏, 而行列得正焉, 进退得齐焉。故乐者, 出所以征诛也, 入所以揖让也。征诛揖让, 其义一也。出所以征诛, 则莫不听从; 入所以揖让, 则莫不从服。故乐者, 天下之大齐也, 中和之纪也, 人情之所必不免也。是先王立乐之术也, 而墨子非之, 奈何!

且乐者,先王之所以饰喜也;军旅鈇钺者,先王之所以饰怒也。

① 据王先谦《荀子集解》。

② 荀况,战国末期人(公元前 313 年一前 238 年)。

先王喜怒皆得其齐焉。是故喜而天下和之,怒而暴乱畏之,先王之道,礼乐正其盛者也。而墨子非之!故曰:墨子之于道也,犹瞽之于白黑也,犹聋之于清浊也,犹欲之楚而北求之也。

夫声乐之入人也深,其化人也速,故先王谨为之文。乐中平,则民和而不流;乐肃庄,则民齐而不乱。民和齐则兵劲城固,敌国不敢婴也。如是,则百姓莫不安其处,乐其乡,以至足其上矣。然后名声于是白,光辉于是大,四海之民,莫不愿得以为师,是王者之始也。

乐姚冶以险,则民流侵鄙贱矣。流侵则乱,鄙贱则争。乱争则 兵弱城犯,敌国危之。如是,则百姓不安其处,不乐其乡,不足其上 矣。故礼乐废而邪音起者,危削侮辱之本也。故先王贵礼乐而贱 邪音。其在序官也,曰:"修宪命,审诛赏〔诗商〕,禁淫声,以时顺 修,使夷俗邪音不敢乱雅,太师之事也。"

墨子曰:"乐者,圣王之所非也,而儒者为之,过也。"君子以为不然:乐者,圣人之所乐也,而可以善民心,其感人深,其移风易俗,故先王导之以礼乐而民和睦。

夫民有好恶之情而无喜怒之应,则乱。先王恶其乱也,故修其行,正其乐,而天下顺焉。故齐衰之服,哭泣之声,使人之心悲;带甲婴軸,歌于行伍,使人之心伤(壮);姚冶之容,郑卫之音,使人之心淫;绅端章甫,舞《韶》歌《武》,使人之心庄。故君子耳不听淫声,目不视女色,口不出恶言;此三者,君子慎之。

凡奸声感人而逆气应之,逆气成象而乱生焉。正声感人而顺 气应之,顺气成象而治生焉。唱和有应,善恶相象。故君子慎其所 去就也。

君子以钟鼓道志,以琴瑟乐心。动以干戚,饰以羽旄,从以磬管;故其清明象天,其广大象地,其俯仰周旋有似于四时。故乐行而志清,礼修而行成,耳目聪明,血气和平,移风易俗,天下皆宁,美

Ξ

善相乐。故曰: 乐者乐也, 君子乐得其道, 小人乐得其欲。以道制欲,则乐而不乱; 以欲忘道,则惑而不乐。故乐者, 所以道乐也。金石丝竹, 所以道德也; 乐行而民乡方矣。故乐者, 治人之盛者也; 而墨子非之

且乐也者,和之不可变者也;礼也者,理之不可易者也。乐合同,礼别异,礼乐之统,管乎人心矣。穷本极变,乐之情也;著诚去伪,礼之经也。墨子非之,几遇刑也。明王已没,莫之正也。愚者学之,危其身也。君子明乐,乃其德也。乱世恶善,不此听也。於乎哀哉;不得成也。弟子勉学,无所营也。

声乐之象: 鼓大丽, 钟统实, 磐廉制, 竽笙箫(肃)和, 筦(管)箭发猛, 埙箎翁博, 瑟易良, 琴妇好, 歌清尽, 舞意天道兼。鼓其乐之君邪: 故鼓似天, 钟似地, 磬似水, 竽笙箫和筦籥似星辰日月, 桃柷 拊鞷椌楬似万物。曷以知舞之意? 曰: 目不自见, 耳不自闻也, 然而治俯仰诎信进退迟速莫不廉制, 尽筯骨之力以要钟鼓俯会之节, 而靡有悖逆者, 众积意遲遲乎!

吾观于乡而知王道之易易也。主人亲速宾及介,而众宾皆从之,至于门外,主人拜宾及介,而众宾皆入,贵贱之义别矣。三揖至于阶,三让以宾升,拜至,献酬,辞让之节繁,及介省矣。至于众宾,升受,坐祭,立饮,不酢而降,隆杀之义辨矣。工人升歌三终,主人献之;笙入三终,主人献之;间歌三终,合乐三终,工告乐备,遂出。二人扬觯,乃立司正,焉知其能和乐而不流也。宾酬主人,主人酬介,介酬众宾,少长以齿,终于沃洗者,焉知其能弟长而无遗也。降,说(脱)屦升坐,修酹无数。饮酒之节,朝不废朝,莫(暮)不废夕。宾出,主人拜送,节文终遂,焉知其能安燕而不乱也。贵贱明,隆杀辨,和乐而不流,弟长而无遗,安燕而不乱,此五行者,足以正身安国矣。彼国安而天下安。故曰:吾观于乡而知王道之易易也。

乱世之徵,其服组,其容妇,其俗淫,其志利,其行杂,其声乐

险,其文章匿而采,其养生无度,其送死瘠墨,贱礼义而贵勇力,贫 则为盗,富则为贼,治世反是也。

(乐论篇第二十)

各篇辑录

……人之生不能无群。群而无分则争,争则乱,乱则穷矣。故 无分者,人之大害也;有分者,天下之本利也。而人君者,所以管分 之枢要也。故美之者,是美天下之本也;安之者,是安天下之本也; 贵之者,是贵天下之本也。古者,先王分割而等异之也,故使或美, 或恶,或厚,或薄,或佚,或乐,或劬,或劳,非特以为淫泰夸丽之声, 将以明仁之文,通仁之顺也。故为之雕琢刻镂黼黻文章,使足以辨 贵贱而已,不求其观。为之钟鼓管磬琴瑟竽笙,使足以辨吉凶,合 欢定和而已,不求其余。为之宫室台榭,使足以避燥湿,养德,辨轻 重而已,不求其外。……我以墨子之非乐也,则使天下乱;墨子之节 用也,则使天下贫。非将堕之也,说不免焉。

墨子大有天下,小有一国,将蹙然衣粗食恶,忧戚而非乐。若 是则瘠,瘠则不足欲,不足欲则赏不行。墨子大有天下,小有一国, 将少人徒,省官职,上功劳苦,与百姓均事业,齐功劳。若是则不 威,不威则罚不行。赏不行则贤者不可得而进也。罚不行则不肖 者不可得而退也。贤者不可得而进也,不肖者不可得而退也,则能 不能不可得而官也。若是则万物失宜,事变失应,上失天时,下失 地理,中失人和,天下敖然若烧若焦,墨子虽为之衣褐带索,嗾菽饮 水,恶能足之乎?既以伐其本,竭其原,而焦天下矣。

故先王圣人为之不然。知夫为人主上者不美不饰之不足以一 民也,不富不厚之不足以管下也,不威不强之不足以禁暴胜悍也, 故必将撞大钟,击鸣鼓,吹笙竽,弹琴瑟,以塞其耳;必将雕琢刻镂, 輔黻文章,以塞其目;必将刍豢稻粱,五味芬芳,以塞其口。然后众人徒,备官职,渐庆赏,严刑罚,以戒其心,使天下生民之属,皆知己之所愿欲之举在是于也,故其贯行;皆知己之所畏恐之举在是于也,故其罚威。赏行罚威,则贤者可得而进也,不肖者可得而退也,能不能可得而官也。若是则万物得宜,事变得应,上得天时,下得地理,中得人和,则财货浑浑如泉源,汸汸如河海,暴暴如丘山,不时焚烧,无所臧之,夫天下何患乎不足也。故儒术诚行,则天下大而富,使而功,撞钟击鼓而和。诗曰:"钟鼓喤喤,管磬玱玱,降福穰穰,降福简简,威仪反反。既醉既饱,福禄来反。"此之谓也。

故墨术诚行,则天下尚俭而弥贫,非鬥而日争,劳苦顿萃而愈 无功,愀然忧戚非乐而日不和。诗曰:"天方荐瘥,丧乱弘多,民言 无嘉,僭莫惩嗟!"此之谓也。……

(富国篇第十)

……今君人者,急逐乐而缓治国,岂不过甚矣哉。譬之是由好 声色而恬无耳目也。岂不哀哉。

夫人之情,目欲綦色,耳欲綦声,口欲綦味,鼻欲綦臭,心欲綦 佚,此五者人情之所必不免也。养五綦者有具,无其具则五綦者不 可得而致也。万乘之国,可谓广大富厚矣,加有治辨强固之道焉,若 是则恬(怡)愉无患难矣,然后养五綦之具具也。故百乐者,生于治 国者也;忧患者,生于乱国者也。急逐乐而缓治国者,非知乐者也。 故明君者,必将先治其国,然后百乐得其中;暗君〔者〕,必将急逐乐 而缓治国,故忧患不可胜校也,必至于身死国亡而后止也,岂不哀 哉!将以为乐,乃得忧焉;将以为安,乃得危焉;将以为福,乃得死 亡焉;岂不哀哉!於乎,君人者亦可以察若言矣!

……夫贵为天下,富有天下,名为圣王,兼制人,人莫得而制也,是人情之所同欲也,而王者兼而有是者也。重色而衣之,重味而

食之,重财物而制之,合天下而君之;饮食甚厚,声乐甚大,台榭甚高,园囿甚广,臣[使]诸侯,一天下,是又人情之所同欲也。而天子之礼制如是者也。制度以陈,政令以挟(浃);官人失要则死,公侯失礼则幽,四方之国,有侈离之德则必灭;名声若日月,功绩如天地,天下之人应之如景(影)啊,是又人情之所同欲也,而王者兼而有是者也。故人之情,口好味而臭味莫美焉;耳好声而声乐莫大焉;目好色而文章致繁,妇女莫众焉;形体好佚而安重闲静莫愉焉;心好利而谷禄莫厚焉。合天下之所同愿兼而有之,睪牢天下而制之,若制子孙,人苟不狂惑赣陋者,其谁能睹是而不乐也哉!……

(王霸篇第十一)

……子宋子曰:"人之情,欲寡;而皆以己之情为欲多,是过也。" 故率其群徒,辨其谈说,明其譬称,将使人知情之欲寡也。应之曰: 然则亦以人之情[欲]目不欲綦色,耳不欲綦声,口不欲綦味,鼻不 欲綦臭,形不欲綦佚。此五綦者,亦以人之情为不欲乎。曰:"人之 情,欲是已。"曰:若是,则说必不行矣。以人之情为欲此五綦者,而 不欲多;譬之是犹以人之情为欲富贵,而不欲货也;好美,而恶西施 也。……

(正论篇第十八)

十 过(节录)

十过:一日行小忠则大忠之贼也。二日顾小利则大利之残也。 三日行僻自用,无礼诸侯,则亡身之室也。四日不务听治而好五音,则穷身之事也。五日贪愎喜利,则灭国杀身之本也。六曰耽于女乐,不顾国政,则亡国之祸也。七日离内远游而忽于谏士,则危身之道也。八日过而不听于忠臣,而独行其意,则灭高名为人笑之始也。九日内不量力,外恃诸侯,则削国之患也。十日国小无礼,不用谏臣,则绝世之势也。

奚谓好音? 昔者卫灵公将之晋,至濮水之上,税车而放马,设舍以宿,夜分而闻鼓新声者而说之。使人问左右,尽报弗闻,乃召师涓而告之,曰: "有鼓新声者,使人问左右,尽报弗闻,其状似鬼神,子为我听而写之。"师涓曰: "诺。"因静坐抚琴而写之。师涓明日报曰: "臣得之矣,而未习也,请复一宿习之。"灵公曰: "诺。"因复留宿,明日而习之,遂去之晋。晋平公觞之于施夷之台。酒酣,灵公起。公曰: "有新声,愿请以示。"平公曰: "善。"乃召师涓,令坐师旷之旁,援琴鼓之。未终,师旷抚止之,曰: "此亡国之声,不可遂也。"平公曰: "此道奚出?"师旷曰: "此师延之所作,与纣为靡靡之乐也。及武王伐纣,师延东走,至于濮水而自杀。故闻此声者必于

① 据陈奇猷《韩非子集释》本。

② 韩非,战国末年人(约公元前 280 年—前 233 年)。

濮水之上。先闻此声者其国必削,不可遂。"平公曰:"寡人所好者 音也,子其使遂之。"师涓鼓究之。平公问师旷曰:"此所谓何声也?" 师旷曰:"此所谓清商也。"公曰:"清商固最悲平?"师旷曰:"不如清 徵。"公曰:"清徵可得而闻平?"师旷曰:"不可。古之听清徵者皆有 德义之君也,今吾君德薄,不足以听。"平公曰:"寡人所好者音也, 愿试听之。"师旷不得已,援琴而鼓。一奏之,有玄鹤二八,道南方 来,集于郎(廊)门之垝。再奏之而列。三奏之,延颈而鸣、舒翼而 舞。音中宫商之声,声闻于天。平公大说,坐者皆喜。平公提觞而 起,为师旷寿,反坐而问曰:"音莫悲于清徵乎?"师旷曰:"不如清 角。"平公曰:"清角可得而闻平?"师旷曰:"不可。昔者黄帝合鬼神 于泰山之上, 驾象车而六蛟龙, 毕方并辖(辖), 蚩尤居前, 风伯进 扫,雨师洏道,虎狼在前,鬼神在后,螣蛇伏地,风阜覆上,大合鬼 神,作为清角。今主君德薄,不足听之,听之将恐有败。"平公曰: "寡人老矣,所好者音也,愿遂听之。"师旷不得已而鼓之。一奏之, 有玄云从西北方起: 再奏之, 大风至, 大雨随之, 裂帷幕, 破俎豆, 隳 廊瓦,坐者散走。平公恐惧,伏于廊室之间。晋国大旱,赤地三年。 平公之身遂癃病。故曰:不务听治,而好五音不已,则穷身之事也。

奚谓耽于女乐? 昔者戎王使由余聘于秦。……由余出,公(穆公)乃召内史廖而告之曰:"寡人闻邻国有圣人,敌国之忧也。今由余,圣人也,寡人患之,吾将奈何?"内史廖曰:"臣闻戎王之居,僻陋而道远,未闻中国之声,君其遗之女乐,以乱其政,而后为由余请期,以疏其谏。彼君臣有间而后可图也。"君曰:"诺。"乃使史廖以女乐二八遗戎王,因为由余请期。戎王许诺,见其女乐而说之,设酒张饮,日以听乐,终岁不迁,牛马半死。由余归,因谏戎王,戎王弗听,由余遂去之秦。秦穆公迎而拜之上卿,问其兵势与其地形,既以得之,举兵而伐之,兼国十二,开地千里。故曰: 耽于女乐,不

(十过第十)

"癸与射稽之讴"

宋王与齐仇也,筑武宫。讴癸倡(唱),行者止观,筑者不倦。 王闻召而赐之。对曰:"臣师射稽之讴又贤于癸。"王召射 稽 使之 讴,行者不止,筑者知倦。王曰:"行者不止,筑者知倦,其讴不胜如 癸美,何也?"对曰:"王试度其功!"癸四板,射稽八板;擿其坚,癸五 寸,射稽二寸。

(外储说左上第三十二)

吕 氏 春 秋 日本 青 等 ②

大 乐(节录)

二曰, 音乐之所由来者远矣, 生于度量, 本于太一。太一出两 仪,两仪出阴阳。阴阳变化,一上一下,合而成章。浑浑沌沌,离则 复合,合则复离,是谓天常。天地车轮,终则复始,极则复反,莫不 咸当。日月星辰,或疾或徐;日月不同,以尽其行。四时代兴,或暑 或寒、或短或长、或柔或刚。万物所出、造于太一、化于阴阳。 萌芽 始震,凝澳以形;形体有处,莫不有声。声出于和,和出于适。[和适] 先王定乐,由此而生。天下太平,万物安宁,皆化其上,乐乃可成。 成乐有具,必节嗜欲;嗜欲不辟(僻),乐乃可务。务乐有术,必由平 出。平出于公,公出于道。故惟得道之人,其可与言乐乎。亡国戮 民,非无乐也,其乐不乐。溺者非不笑也,罪人非不歌也,狂者非不 武(舞)也。乱世之乐,有似于此。君臣失位,父子失处,夫妇失宜, 民人呻吟,其以为乐也,若之何哉。凡乐,天地之和,阴阳之调也。 始生人者,天也,人无事焉。天使人有欲,人弗得不求;天使人有恶, 人弗得不辟。欲与恶,所受于天也,人不得与焉——不可变,不可 易。世之学者,有非乐者矣,安由出哉。大乐,君臣、父子、长少之 所欢欣而说也。欢欣生于平,平生于道。道也者,视之不见,听之 不闻,不可为状。有知不见之见,不闻之闻,无状之状者,则几于

① 据许维通《吕氏春秋集释》。

② 吕不韦,战国末年人(公元前 300 年? 一前 236 年?)。按《吕氏春秋》系吕不韦门客所撰。

知之矣。道也者,至精也,不可为形,不可为名; 强为之,谓之太一。……

(仲夏纪)

侈 乐

三日,人莫不以其生生,而不知其所以生;人莫不以其知知,而 不知其所以知。知其所以知,之谓知道;不知其所以知,之谓弃宝。 弃宝者,必离其咎。世之人主,多以珠、玉、戈、剑为宝,宝愈多而民 愈怨,国[人]愈危,身愈[危]累,则失宝之情矣。乱世之乐与此同。 为木革之声则若雷,为金石之声则若霆,为丝竹歌舞之声则若躁。 以此骇心气,动耳目,摇荡生则可矣,以此为乐则不乐。故乐愈侈, 而民愈郁,国愈乱,主愈卑,则亦失乐之情矣。凡古圣王之所为贵 乐者,为其乐也。夏桀殷纣,作为侈乐,大鼓、钟、磬、管、箫之音,以 鉅为美,以众为观,俶诡殊魂,耳所未尝闻,目所未尝见,务以相过, 不用度量。宋之衰也,作为干钟;齐之衰也,作为大吕;楚之衰也, 作为巫音。侈则侈矣,自有道者观之,则失乐之情。失乐之情,其 乐不乐。乐不乐者,其民必怨,其生必伤。其生之与乐也,若冰之于 炎日, 反以自兵。此生乎不知乐之情, 而以侈为务故也。乐之有 情, 聲之若肌肤, 形体之有情性也。有情性, 则必有性养矣。寒、 温、劳、逸、饥、饱,此六者,非适也。凡养也者,瞻非适,而以之适者 也。能以久处其适,则生长矣。生也者,其身固静,感而后知。或 使之也,遂而不返,制乎嗜欲;制乎嗜欲[无穷],则必失其天矣。且 夫嗜欲无穷,则必有贪鄙悖乱之心,淫佚奸诈之事矣。故彊者劫 弱,众者暴寡,勇者凌怯,壮者傲幼,从此生矣。

(仲夏纪)

适 音

四日,耳之情欲声,心不乐,五音在前弗听; 目之情欲色,心弗 乐.五色在前弗视: 鼻之情欲芬香,心弗乐, 芬香在前弗嗅; 口之情 欲滋味,心弗乐,五味在前弗食。欲之者,耳、目、鼻、口也;乐之弗乐 者,心也。心必和平然后乐;心必乐,然后耳、目、鼻、口有以欲之。 故乐之务,在于和心;和心,在于行适。夫乐有适,心亦有适。人之 情,欲寿而恶夭,欲安而恶危,欲荣而恶辱,欲逸而恶劳。四欲得, 四恶除,则心适矣。四欲之得也,在于胜理。胜理以治身则生全 矣, 牛全则寿长矣; 胜理以治国则法立, 法立则天下服矣。故话心 之务,在于胜理。夫音亦有适: 太钜则志荡,以荡听钜,则耳不容, 不容则横塞,横塞则振:太小则志嫌,以嫌听小,则耳不充,,不充则 不詹,不詹则宛:太清则志危,以危听清,则耳谿极,谿极则不鉴,不 鉴则竭: 太浊则志下,以下听浊,则耳不收,不收则不抟(专),不抟 则怒。故太钜、太小、太清、太浊,皆非适也。何谓适?衷,音之适也。 何谓衷。大不出钩,重不过石,小大轻重之衷也;黄钟之宫,音之本 也,清浊之衷也。衷也者,适也。以适听适,则和矣。乐无太,平和 者是也。故治世之音安以乐,其政平也; 乱世之音怨以怒,其政乖 也; 亡国之音悲以哀, 其政险也。凡音乐, 通平政, 而移风平俗者 也。俗定而音乐化之矣。故有道之世,观其音而知其俗矣〔观其俗 而知其政矣,〕观其政而知其主矣。故先王必托于音乐,以论其教。 清庙之瑟,朱弦而疏越,一唱而三叹,有进乎音者矣;大飨之礼,上 玄尊而俎生鱼,大羹不和,有进乎味者也。故先王之制礼乐也,非 特以欢耳目,极口腹之欲也,将以教民平好恶,行理义也。

五日,乐所由来者尚也,必不可废。有节、有侈、有正、有淫矣。 贤者以昌,不肖者以亡。昔古朱襄氏之治天下也,多风而阳气畜积, 万物散解,果实不成,故士达作为五弦瑟,以来阴气,以定群生。昔 葛天氏之乐、三人操牛尾、投足以歌八阕:一曰"载民"、二曰"玄 鸟",三曰"逐草木",四曰"奋五谷",五曰"敬天常",六曰"建帝功", 七日"依地德",八日"总禽兽之极"。昔[陶唐][阴康]氏之始,阴多 **滞伏而淇积,水道壅塞,不行其原; 民气郁阏而滞著, 筋骨瑟缩不** 达,故作为舞以宣导之。昔黄帝令伶伦作为律。伶伦自大夏之西, 乃之[阮隃][昆仑]之阴,取竹于蠏谿之谷,以生空窍厚薄钩者,断 两节间,其长三寸九分而吹之,以为黄钟之宫——「吹]曰「舍](含] 少。次制十二筒。以之「阮隃」(昆仑)之下,听凤皇之鸣,以别十二 律。其雄鸣为六, 雌鸣亦六, 以比黄钟之宫适合, 黄钟之宫, 皆可以 生之。故曰,黄钟之宫,律吕之本。黄帝又命伶伦与荣将,铸十二 钟,以和五音,以施《英》《韶》;以仲春之月,乙卯之日,日在奎,始奏 之,命之曰《咸池》。帝颛顼生自若水,实处空桑,乃登为帝。惟天 之合,正风乃行;其音若熙熙凄凄锵锵。帝颛顼好其音,乃令飞龙 作[乐],效八风之音,命之曰《承云》,以祭上帝。乃令鲜先为乐倡 一一蝉乃偃寝,以其尾鼓其腹,其音英英。帝喾命咸黑作为声歌。 《九招》、《六列》、《六英》。有倕作为鼙、鼓、钟、磬,吹[苓]〔笙〕、管、 埙、箎、鞀、椎、钟。 帝喾乃令人抃,或鼓鼙,击钟磬,吹「苓〕〔笙〕,展 管箎; 因令凤鸟天翟舞之。帝喾大喜,乃以康帝德。帝尧立,乃命 质为乐。质乃效山林、谿谷之音以歌,乃以廛略[置][冒]缶而鼓 之,乃拊石击石,以象上帝玉磬之音,以致舞百兽;瞽叟乃拌五弦之 瑟,「作]以为十五弦之瑟,命之曰《大意》,以祭上帝。舜立,命延乃 拌瞽叟之所为瑟,益之八弦,以为二十三弦之瑟。帝舜乃令质修《九招》、《六列》、《六英》,以明帝德。禹立,勤劳天下,日夜不懈,通大川,决壅塞,凿龙门,降通漻水以导河,疏三江五湖,注之东海,以利黔首。于是命皋陶作为《夏籥》九成,以昭其功。殷汤即位,夏为无道,暴虐万民,侵削诸侯,不同轨度,天下患之,汤于是率六州以讨桀罪。功名大成,黔首安宁,汤乃命伊尹作为《大护》,歌《晨露》,修《九招》,《六列》,以见其善。周文王处歧,诸侯去殷[三淫][王受〕,而翼文王。散宜生曰,"殷可伐也"。文王弗许。周公旦乃作诗曰:"文王在上,于昭于天。周虽旧邦,其命维新"。以绳文王之德。武王即位,以六师伐殷,六师未至,以锐兵克之于牧野。归乃荐俘馘于京太室,乃命周公为作《大武》。成王立,殷民反,王命周公践伐之。商人服象,为虐于东夷,周公遂以师逐之,至于江南;乃为《三象》,以嘉其德。故乐之所由来者尚矣,非独为一世之所造也。

(仲夏纪)

音 律(节录)

二日,黄钟生林钟,林钟生太蔟,太蔟生南吕,南吕生姑洗,姑洗生应钟,应钟生蕤宾,蕤宾生大吕,大吕生夷则,夷则生夹钟,夹钟生无射,无射生仲吕。三分所生,益之一分以上生,三分所生,去其一分以下生。黄钟、大吕、太蔟、夹钟、姑洗、仲吕、蕤宾为上,林钟、夷则、南吕、无射、应钟为下。大圣至理之世,天地之气,合而生风。日至则月钟其风,以生十二律:仲冬日短至,则生黄钟,季冬生大吕,孟春生太蔟,仲春生夹钟,季春生姑洗,孟夏生仲吕;仲夏日长至,则生蕤宾,季夏生林钟,孟秋生夷则,仲秋生南吕,季秋生无射,孟冬生应钟。天地之风气正,则十二律定矣。……

(季夏纪)

三日,夏后氏孔甲,田干东阳苔山,天大风晦盲,孔甲冰惑,人 于民室。主人方乳。或曰:"后来是良日也,之子是必大吉"。或 曰: "不胜也, 之子是必有殃"。后乃取其子以归。曰: "以为余子, 谁敢殃之"。子长成人,慕动坼粮,斧斫斩其足,遂为守门者。孔甲 曰:"呜呼! 有疾,命矣夫!"乃作为《破斧》之歌,实始〔作〕为"东音"。 禹行功,见涂山之女,禹未之遇,而巡省南土。涂山氏之女,乃令其 妾,候禹于涂山之阳。女乃作歌,歌曰:"候人兮猗"。实始作为"南 音"。周公及召公取风焉,以为《周南》《召南》。周昭王亲将征荆, 辛馀靡长且多力,为王右。还反涉汉,梁败,王及蔡公坛于汉中,辛 馀靡振王北济,又反振蔡公。周公乃候之于西翟,实为长公。殷整 甲徙宅西河, 犹思故处, 实始作为"西音"。长公继是音以处西山, 秦缪公取风焉,实始作为秦音。有娀氏有二佚女,为[之]九成之 台,饮食必以鼓。帝令燕往视之,鸣若谥隘。二女爱而争搏之,覆以 玉筐。少选,发而视之,燕遗二卵,北飞,遂不反。二女作歌,一终 曰:"燕燕往飞",实始作为"北音"。凡音者产乎人心者也,感于心 则荡乎音,音成于外面化乎内。是故闻其声而知其风,察其风而知 其志,观其志而知其德,盛、衰、贤、不肖、君子、小人,皆形于乐,不 可隐匿,故曰乐之为观也深矣。土弊则草木不长,水烦则鱼鳖不 大,世浊则礼烦而乐淫。郑卫之声,桑间之音,此乱国之所好,衰德 之所说。流辟誂越慆滥之音出,则滔荡之气,邪慢之心感矣。感则 百奸众辟从此产矣。故君子反道以修德,正德以出乐,和乐以成 顺,乐和而民乡方矣。

(季夏纪)

各篇辑录

锺子期夜闻击磬者而悲。使人召而问之:"子何击磬之悲也?" 答曰: "臣之父不幸而杀人,不得生。臣之母得生,而为公家为酒。 臣之身得止,而为公家击磬。臣不睹臣之母三年矣,昔为舍氏睹臣 之母, 量所以赎之则无有, 而身固公家之财也, 是故悲也。"锺子期 叹嗟曰:"悲夫悲夫,心非臂也,臂非椎非石也,悲存平心,而木石应 之。故君子诚平此而谕平彼、感乎己而发乎人,岂必强说乎哉?" (季秋纪・精通)

伯牙鼓琴,锤子期听之。方鼓琴而志在泰山,锤子期曰:"善哉 平鼓琴。巍巍平若泰山。"少选之间,而志在流水,锺子期又曰:"善 哉平鼓琴, 汤汤平若流水。"镇子期死,伯牙破琴绝弦,终身不复鼓 琴,以为世无足复为鼓琴者。

(孝行览・本味)

管子得干鲁,鲁束缚而送之。使役人载而送之齐,皆讴歌而 行。管子恐鲁之止而杀己也,欲谏至齐,因谓役人曰:"我为汝唱, 汝为我和。"其所唱,适宜走,役人不倦而取道甚速。管子可谓能因 矣,役人得其所欲,己亦得其所欲,以此术也。

(慎大览・順说)

今举大木者,前呼舆骘,后亦应之,此其于举大木者善矣。岂 无郑卫之音哉? 然不若此其宜也。

(审应览・淫辞)

鲁哀公问于孔子曰:"乐正夔一足,信乎?"孔子曰:"昔者,舜欲以乐传教于天下,乃令重黎举夔于草莽之中而进之,舜以为乐正。夔于是正六律,和五声,以通八风,而天下大服。重黎又欲益求人,舜曰:'夫乐,天地之精也,得失之节也,故唯圣人为能和乐之本也。夔能和之以平天下,若夔者,一而足矣。'故曰:夔一、足。非'一足'也。"

(慎行论・察传)

老子道德经^①(辑录)

天下皆知美之为美,斯恶矣;皆知善之为善,斯不善矣。故有 无相生,难易相成,长短相形,高下相倾,音声相和,前后相随。

(二章)

五色令人目盲,五音令人耳聋,五味令人口爽,驰骋畋猎令人心发狂,难得之货令人行妨。

(十二章)

视之不见名曰夷,听之不闻名曰希,搏之不得名曰微。此三者,不可致诘,故混而为一。

(十四章)

执大象,天下往。往而不害,安平泰。乐与饵,过客止。道之 出口,淡乎其无味,视之不足见,听之不足闻,用之不足既。

(三十五章)

大音希声,大象无形。道隐无名。

(四十一章)

① 据商务印书馆景印宋刊本,并参考任继愈《老子今译》本。本书在战国时 出现, 究为何人何时所作尚无定论。

管 子①(辑录)

……此其后宋伐杞,狄伐邢卫,桓公不救,裸体纫胸称疾,召管仲曰:"寡人有千岁之食,而无百岁之寿,今有疾病,姑乐乎?"管子曰:"诺。"于是令之悬钟磬之榱(悬),陈歌舞等瑟之乐,日杀数十牛者数旬。群臣进谏曰:"宋伐杞,狄伐邢卫,君不可不救。"桓公曰:"寡人有千岁之食,而无百岁之寿,今又疾病,姑乐乎?且彼非伐寡人之国也,伐邻国也,子无事焉!"宋已取杞,狄已拔邢卫矣,桓公起行简虞之间,管子从至大钟之西,桓公南面而立,管仲北乡(向)对之。大钟鸣,桓公亲管子曰:"乐夫,仲父?"管子对曰:"此臣之所谓哀,非乐也。臣闻之,古者之言乐于钟磬之间者不如此,言脱于口而令行乎天下,游钟磬之间而无四面兵革之忧。今君之事,言脱于口令不得行于天下,在钟磬之间而有四面兵革之忧。此臣之所谓哀,非乐也。"桓公曰:"善。"于是伐钟鼓之悬,併(屏)歌舞之乐,宫中虚无人。……

(霸形第二十二)

一者本也。二者器也。三者充也。治者四也。教者五也。守者六也。立者七也。前者八也。终者九也。十者然后具五官于六府也,五声于六律也。六月日至。是故人有六多,六多所以街天地也。天道以九制,地理以八制,人道以六制。以天为父,以地为母,以开万物,以总一统。通乎九制六府三充,而为明天子。修概水,

① 据商务印书馆影印宋刊本。管仲,约公元前七世纪人,生卒年代不详。《管子》 为后人编集管仲言行及各家著作而成。

上以待乎天堇。反五藏以视不亲。治祀之下以观地位。货曋神庐,合于精气。已合而有常,有常而有经。审合其声,修十二钟,以律人情。人情已得,万物有极,然后有德。故通乎阳气,所以事天也。经纬日月,用之于民。通乎阴气,所以事地也。经纬星曆,以视其离。通若道,然后有行。然则神筮不灵,神龟(衍)不卜,黄帝泽参,治之至也。

昔者,黄帝得蚩尤而明于天道,得大常而察于地利,得[奢] 〔苍〕龙而辨于东方,得祝融而辨于南方,得大封而辨于西方,得后 土而辨于北方,黄帝得六相而天下治,神明至。蚩尤明乎天道,故 使为当时。大常察乎地利,故使为廪者。[奢]〔苍〕龙辨乎东方,故 使为工师。祝融辨乎南方,故使为司徒。大封辨于西方,故使为 司马。后土辨乎北方,故使为李。是故春者[土]〔工〕师也,夏者 司徒也,秋者司马也,冬者李也。昔黄帝以其缓急作五声,以政五 钟。令(命)其五钟,一曰青钟大音,二曰赤钟重心,三曰黄钟洒光, 四曰景钟昧其明,五曰黑钟隐其常。五声既调,然后作立五行以正 天时,五官以正人位。人与天调,然后天地之美生。……

(五行第四十一)

……圣君则不然,守道要,处佚乐,驰骋弋猎,钟鼓竽瑟,宫中之乐,无禁圉(禦)也。不思不虑,不忧不图,利身体,便形躯,养寿命,垂拱而天下治。……故黄帝之治也,置法而不变,使民安其法者也。所谓仁、义、礼、乐者,皆出于法,此先圣之所以一民者也。……

(任法第四十五)

……凡听徵,如负猪,豕觉而骇。凡听羽,如鸣马在野。凡听宫,如牛鸣峁中。凡听商,如离群羊。凡听角,如雉登木以鸣,音疾

Ŧ

以清。凡将起五音,凡首,先主一而三之,四开以合九九,以是生黄钟小素之首,以成宫。三分而益之以一,为百有八,为徵。[不无]有三分而去其乘,适足以是生商。有三分而复于其所,以是成羽。有三分去其乘,适足以是成角。……

(地员第五十八)

……人君唯毋听观乐玩好则败。凡观乐者,宫室台池珠玉声乐也。此皆费财尽力伤国之道也。而以此事君者皆奸人也。而人君听之,焉得毋败。然则府仓虚,蓄积竭。且奸人在上,则壅遏贤者而不进也。然则国适有患,则优倡侏儒起而议国事矣,是殴国而捐之也。故曰:观乐玩好之说胜,则奸人在上位。……

(立政九败解第六十五)

晏子春秋①(辑录)

……晏子朝。杜扃望羊待于朝。晏子曰:"君奚故不朝?"对曰:"君夜发不可以朝。"晏子曰:"何故?"对曰:"梁丘据入歌人虞,变齐音。"晏子退朝,命宗祝修礼而拘虞。公闻之而怒曰:"何故而拘虞?"晏子曰:"以新乐淫君。"公曰:"诸侯之事,百官之政,寡人愿以请子。酒醴之味,金石之声,愿夫子无与焉。夫乐何必夫故哉?"对曰:"夫乐亡而礼从之,礼亡而政从之,政亡而国从之。国衰,臣惧。君之逆政之行,有歌,纣作"北里"幽厉之声,顾夫淫以鄙而偕亡。君奚轻变夫故哉?"公曰:"不幸有社稷之业,不择言而出之,请受命矣。"……

(内篇谏上第一)

……晏子曰:"止。夫乐者,上下同之。故天子与天下,诸侯与境内,大夫以下各与其僚,无有独乐。今上乐其乐,下伤其费,是独乐者也。不可!"……

(内篇杂上第五)

……仲尼之齐见景公。景公说之,欲封之以尔稽。以告晏子。 晏子对曰:"不可。彼浩裾自顺,不可以教下;好乐缓于民,不可使 亲治;立命而怠事,不可使守职;厚葬破民贫国,久丧循哀费日,不 可使子民;行之难者在内,而儒者无其外,故异于服,勉于容,不可

① 据张纯一《晏子春秋校注》。本书为后人辑录晏婴言行而成。

以道众而驯百姓。自大贤之灭,周室之卑也,威仪加多,而民行滋薄;声乐繁充,而世德滋衰。今孔丘盛声乐以侈世,饰弦歌鼓舞以聚徒,繁登降之礼以示仪,务趋翔之节以观众;博学不可以仪世,劳思不可以补民,兼寿不能殚其教,当年不能究其礼,积财不能赡其乐,繁饰邪术以营世君,盛为声乐以淫愚民;其道也,不可以示世,其教也,不可以导民。今欲封之,以移齐国之俗,非所以导众存民也。"公曰:"善。"于是厚其礼,留其封,敬见而不问其道。仲尼迺行。

景公上路寝,闻哭声,曰:"吾若闻哭声,何为者也?"梁丘据对曰:"鲁孔丘之徒鞫语者也。明于礼乐,审于服丧。其母死,葬埋甚厚,服丧三年,哭泣甚疾。"公曰:"岂不可哉?而色说之"。晏子曰:"古者,圣人非不知能繁登降之礼,制规矩之节,行表缀之数以教民,以为烦人留日,故制礼不羡于便事;非不知能扬干戚钟鼓竽瑟以劝众也,以为费财留工,故制乐不羡于和民;非不知能累世殚国以奉死,哭泣处哀以持久也,而不为者,知其无补死者,而深害生者,故不以导民。今品人饰礼烦事,羡乐淫民,崇死以害生,三者圣王之所禁也。贤人不用,德毁俗流,故三邪得行于世,是非贤不肖杂,上妄说邪,故好恶不定以导众。此三者,路世之政,单事之教也。公曷为不察,声受而色说之?"……

(外篇第八)

两 汉 部 分

新 语^①(辑录) ^{陆 贯②}

……后世衰废,于是后圣乃定五经,明六艺,承天统物,穷事〔察〕微,原情立本,以绪人伦,宗诸天地,〔纂〕修篇章,垂诸来世,被诸鸟兽,以匡衰乱,天人合策,原道悉备,智者达其心,百工穷其巧,乃调之以管弦丝竹之音,设钟鼓歌舞之乐,以节奢侈,正风俗,通文雅。后世淫邪,增之以郑卫之音,民弃本趋末,技巧横出,用意各殊,则加雕文刻镂,傅致胶漆丹青玄黄琦玮之色,以穷耳目之好,极工匠之巧。……

(道基第一)

……昔虞舜治天下,弹五弦之琴,歌"南风"之诗,寂若无治国之意,漠若无忧民之心,然天下治。周公制作礼乐,郊天地,望山川,师旅不设,刑格法悬,而四海之内奉供来臻,越裳之君重译来朝。故无为也,乃〔有〕[无〕为也。……

(无为第四)

① 据商务印书馆影印明弘治刊本, 敏字据宋翔凤校本补。

② 陆贾主要活动时期在楚汉战争时(公元前 200 年前)。

新 书①(辑录) 贯 谊③

……礼: 天子之乐宫悬,诸侯之乐轩悬,大夫直悬,士有琴瑟。叔孙于奚者,卫之大夫也。曲悬者,卫君之乐体也;繁缨者,君之驾饰也。齐人攻卫,叔孙于奚率师逆之,大败齐师,卫于是赏以温。叔孙于奚辞温,而请曲悬繁缨以朝,卫君许之。孔子闻之曰:"惜乎!不如多与之邑。夫乐者所以载国,国者所以载君。彼乐亡而礼从之,礼亡而政从之,政亡而国从之,国亡而君从之。惜乎!不如多与之邑。"……

(卷二审微)

德有六理。何谓六理。道、德、性、神、明、命,此六者,德之理也。六理无不生也,己生而六理存乎所生之内,是以阴阳天地人尽以六理为内度。内度成业,故谓之六法。六法藏内,变环而外遂,外遂六术,故谓之六行。是以阴阳各有六月之节,而天地有六合之事,人有仁、义、礼、智、圣(信)之行,行和则乐,与乐则六,此之谓六行。阴阳天地之动也,不失六行,故能合六法。人谨修六行,则亦可以合六法矣。然而人虽有六行,细微难识,唯先王能审之。凡人弗能自志,是故必待先王之教,乃知所从事,是以先王为天下设教,因人所有,以之训道(导)人之情,以之为真。是故内六法外体六行,以与《书》、《诗》、《易》、《春秋》、礼、乐六者之术,以为大义,谓之六艺,令人缘之以自修,修成则得六行矣。六行不正,反合六法。

① 据商务印书馆景印明正德长沙刊本。

② 贾谊主要活动年代在文帝时(公元前 170 年前后)。

艺之所以六者,法六法而体六行故也。故曰:六则备矣。六者非独为六艺本也,他事亦皆以六为度。声音之道,以六为首,以阴阳之节为度。是故一岁十二月,分而为阴阳,阴阳各六月,是以声音之器十二钟,钟当一月,其六钟阴声,六钟阳声,声之术,律是而出,故谓之六律。六律和五声之调,以发阴阳天地人之清声,而内合六法之道。是故五声宫、商、角、徵、羽,唱和相应而调和,调和而成理谓之音。声五也,必六而备,故曰声与音六。夫律之者,象测之也,所测者六,故曰六律。

(卷八六术)

《书》者,著德之理于竹帛而陈之,令人观焉以著所从事。故曰:《书》者,此之著者也。《诗》者,志德之理而明其指,令人缘之以自成也。故曰:《诗》者此之志者也。《易》者,察人之精德之理,而与弗循,而占其吉凶。故曰:《易》者此之占者也。《春秋》者,守往事之合德之理之与不合,而纪其成败以为来事师法。故曰:《春秋》者此之纪者也。礼者,体德理,而为之节文成人事。故曰:礼者此之体者也。乐者,《书》、《诗》、《易》、《春秋》、礼五者之道备,则合于德矣,合则欢然大乐矣。故曰:乐者此之谓乐者也。……

(卷八道德说)

韩诗外传①(辑录) 彝學②

孔子学鼓琴于师襄子而不进。师襄子曰:"夫子可以进矣。"孔子曰:"丘已得其曲矣,未得其数也。"有间,曰:"夫子可以进矣。"曰:"丘已得其数矣,未得其意也。"有间,复曰:"夫子可以进矣。"曰:"丘已得其人矣,未得其类也。"有间,曰:"邀然远望,洋洋乎,翼翼乎,必作此乐也。默然思,戚然而怅(《史记》作"黯然黑,几然而长"),以王天下,以朝诸侯者,其惟文王乎?"师襄子避席再拜曰:"善。师以为文王之操也。"故孔子持文王之声,知文王之为人。师襄子曰:"敢问何以知其文王之操也?"孔子曰:"然夫仁者好伟,和者好粉,智者好弹,有殷勤之意者好丽,丘是以知文王之操也。"

(卷五)

昔者,孔子鼓瑟,曾子、子贡侧门而听。曲终,曾子曰:"嗟乎! 夫子瑟声,殆有贪狠之志,邪僻之行,何其不仁趋利之甚!"子贡以 为然,不对而入。夫子望见子贡有谏过之色,应难之状,释瑟而待 之。子贡以曾子之言告。子曰:"嗟乎! 夫参,天下贤人也,其习知 音矣! 乡(向)者丘鼓瑟,有鼠出游,狸见于屋,循梁微行,造焉而 避,厌目曲脊,求而不得,丘以瑟淫其音,参以丘为贪狠邪僻,不亦 宜乎?"《诗》曰:"鼓钟于宫,声闻于外"。

(卷七)

① 据商务印书馆景印明沈氏野竹斋刊本。

② 韩婴,文、景、武帝时(公元前 179 年-前 87 年)人。

汤作《护》。闻其宫声,使人温良而宽大;闻其商声,使人方廉而好义;闻其角声,使人恻隐而爱仁;闻其徵声,使人乐养而好施;闻其羽声,使人恭敬而好礼。《诗》曰:"汤降不迟,圣敬日跻"。

(卷八)

春秋繁露 章仲舒

……问者曰:"物改而天授、显矣。其必更作乐、何也?"曰:乐 异乎是,制为应天改之,乐为应人作之。彼之所受命者,必民之所 同乐也。是故大改制于初,所以明天命也; 更作乐于终, 所以见天 功也。缘天下之所新乐,而为之文曲,且以和政,且以兴德,天下未 偏合和,王者不虚作乐。乐者,盈于内而动发于外者也。应其治时, 制礼作乐以成之。成者本末质文,皆以具矣。是故作乐者,必反天 下之所始乐于己以为本。舜时民乐其昭尧之业也、《故《韶》。《韶》 者昭也。禹之时,民乐其三圣相继,故《夏》。《夏》者大也。汤之 时,民乐其救之于患害也,故《頀》。《頀》者救也。文王之时,民乐其 兴师征伐也,故《武》,《武》者伐也。四者天下同乐之一也,其所同 乐之端,不可一也。作乐之法,必反本之所乐。所乐不同事,乐安 得不世异。是故舜作《韶》,而禹作《夏》,汤作《頀》而文王作《武》, 四乐殊名,则各顺其民始乐于己也,吾见其效矣。《诗》云:"文王受 命,有此武功。既伐于崇,作邑于丰。"乐之风也。又曰:"王赫斯 怒,爰整其旅。"当是时,纣为无道。诸侯大乱,民乐文王之怒,而咏 歌之也。周人德已治,天下反本以为乐,谓之《大武》。言民所始乐 者,《武》也云尔。故凡乐者,作之于终,而名之以始,重本之义也。由 此观之,正朔服色之改,受命应天,制礼作乐之异,人心之动也。二 者离而复合,所为一也。

(楚庄王第一)

① 据中华书局《四部备要》本。

② 董仲舒(公元前176年-前104年)。

……礼之所重者在其志,志敬而节具,则君子予之知礼;志和而音雅,则君子予之知乐;志哀而居约,则君子予之知丧。故曰:非虚加之,重志之谓也。志为质,物为文,文著于质。质不居文,文安施质。质文两备,然后其礼成。文质偏行,不得有我尔之名。俱不能备而偏行之,宁有质而无文,虽弗予能礼,尚少善之,介葛卢来是也。有文无质,非直不予,乃少恶之谓,州公实来是也。然则《春秋》之序道也,先质而后文,右志而左物。……

君子知在位者之不能以恶服人也,是故简六艺以赡养之。 《诗》、《书》序其志,礼乐纯其美,《易》、《春秋》明其知。六学皆大,而各有所长。《诗》道志,故长于质。礼制节,故长于文。乐咏德,故长于风。《书》著功,故长于事。《易》本天地,故长于数。 《春秋》正是非,故长于治人。能兼得其所长,而不能遍举其详也。……

(玉杯第二)

……何谓本? 曰: 天、地、人,万物之本也。天生之,地养之,人成之。天生之以孝悌,地养之以衣食,人成之以礼乐,三者相为手足,合以成体,不可一无也。无孝悌,则亡其所以生。无衣食,则亡其所以养。无礼乐,则亡其所以成也。三者皆亡,则民如麋鹿,各从其欲,家自为俗,父不能使子,君不能使臣。虽有城郭,名曰虚邑。如此者,其君枕块而僵,莫之危而自危,莫之丧而自亡,是谓自然之罚。自然之罚至;裹袭石室,分障险阻,犹不能逃之也。明主贤君,必于其信,是故肃慎三本,郊祀致敬,共事祖称,举显孝悌,表异孝行,所以奉天本也。秉耒躬耕,采桑亲蚕,垦草殖谷,开辟以足衣食,所以奉地本也。立辟雍庠序,修孝悌敬让,明以教化,感以礼乐,所以奉人本也。三者皆奉,则民如子弟,不敢自专;邦如父母,不待恩而爱,不须严而使,虽野居露宿,厚于宫室。如是者,其若安

枕而卧,莫之助而自强,莫之绥而自安,是谓自然之赏。…… (立元神第十九)

今平地注水,去燥就湿;均薪施火,去湿就燥;百物其去所与异,而从其序与同。故气同则会,声比则应,其验皦然也。试调琴瑟而错之,载其宫,则他宫应之;鼓其商,则他商应之。五音比而自鸣,非有神,其数然也。……

(同类相动第五十七)

附: 董仲舒对策

董仲舒·广川人也。少治《春秋》,孝景时为博士。下帷讲诵, 弟子传以久; (相授业,或莫见其面,盖三年不窥园,其精如此。进退 容止,非礼才行,学士皆师尊之。武帝即位,举贤良文学之士前后 百数,而仲舒以贤良对策焉。制曰:"……盖闻五帝三王之道,改制 作乐而天下注和,百王同之。当虞氏之乐莫盛于《韶》,于周莫盛于 《勺》。圣王已没,钟鼓管弦之声未衰,而大道微缺,陵夷至虖(乎) 桀纣之行,王道大坏矣。夫五百年之间,守文之君,当涂之士,欲则 先王之法以及翼其世者甚众,然犹不能反,日以仆灭,至后王而后 止,岂其所持操或浡谬而失其统与。固天降命不可复反,必推之于 大衰而后息: 5。乌平。凡所为屑屑, 夙兴夜寐, 务法上古者, 又将 无补与,……"仲舒对曰:"……道者,所繇(由)适于治之路也。仁、 义、礼、乐,皆其具也。故圣王已没,而子孙长久安宁数百岁,此皆礼 乐教化之功心。王者未作乐之时,乃用先王之乐宜于世者,而以深 人教化干民。教化之情不得,雅颂之乐不成,故王者功成作乐,乐 其德也。乐:1,所以变民风,化民俗也。其变民也易,其化人也著。 故声发于和,而本于情,接于肌肤,臧于骨髓。故王道虽微缺,而管 弦之声未衰也。夫虞氏之不为政久矣,然而乐颂遗风犹有存者,是以孔子在齐而闻《韶》也。……"

(《汉书、董仲舒传》。据中华书局点校本)

淮南鸿烈^①(辑录) 刘安等②

……所谓一者,无匹合于天下者也:卓然独立,块然独处,上通九天,下贯九野,员不中规,方不中矩;大浑而为一,叶累而无根,怀囊天地,为道关门,穆忞隐闵,纯德独存,布施而不既,用之而不勤。是故视之不见其形,听之不闻其声,循之不得其身。无形而有形生焉,无声而五音鸣焉,无味而五味形焉,无色而五色成焉。是故有生于无,实出于虚,天下为之圈,则名实同居。音之数不过五,而五音之变,不可胜听也。……故音者,宫立而五音形矣。……道者,一立而万物生矣。是故一之理,施四海;一之解,际天地。……

(原道训)

……周室衰而王道废、儒墨乃始列道而议,分徒而讼。于是博学以疑圣,华诬以胁众,弦歌鼓舞,缘饰诗书,以买名誉于天下。繁登降之礼,饰绂冕之服;聚众不足以极其变,积财不足以赡其费。于是万民乃始慲觟离跂,各欲行其知伪,以求凿枘于世而错择名利。是故百姓曼衍于淫荒之陂,而失其大宗之本。夫世之所以丧性命,有衰渐以然,所由来者久矣。是故圣人之学也,欲以返性于初,而游心于虚也。达人之学也,欲以通性于辽廓,而觉于寂漠也。若夫俗世之学也则不然,擢德瘳性,内愁五藏,外劳耳目,乃始招蛲振缱物之豪芒,摇消掉捎仁义、礼乐,暴行越智于天下,以招号名声于世,此我所羞而不为也。……

(俶真训)

① 据刘文典《淮南鸠烈集解》。

② 刘安(公元前179年一前122年)。本书为刘安门客集录而成。

……今夫调弦者,叩宫宫应,弹角角动,此同声相和者也。夫有改调一弦,其于五音无所比,鼓之而二十五弦皆应。此未始异于声,而音之君已形也。

(览冥训)

……耳目淫于声色之乐,则五脏动摇而不定矣。五脏动摇而不定,则血气滔荡而不休矣。血气滔荡而不休,则精神驰骋于外而不守矣。精神驰骋于外而不守,则祸福之至虽如丘山无由识之矣。 ……以言夫精神之不可使外淫也。是故五色乱目,使目不明;五音哗耳,使耳不聪;五味乱口,使口爽伤;趣舍滑心,使行飞扬。此四者,天下之所养性也,然皆人累也。故曰:嗜欲者使人之气越,而好憎者使人之心劳,弗疾去,则志气日耗。……

今夫穷鄙之社也,叩盆拊瓴相和而歌,自以为乐矣。尝试为之 击建鼓,撞巨钟,乃性〔始〕仍仍然,知其盆瓴之足羞也。……

(精神训)

……古之人同气于天地,与一世而优游。当此之时,无庆贺之利,刑罚之威。礼乐廉耻不设,毁誉仁鄙不立,而万民莫相侵欺暴虐,犹在于混冥之中。逮至衰世,人众财寡,事力劳而养不足,于是忿争生,是以贵仁。仁鄙不齐,比周朋党,设诈谞,怀机械巧故之心而性失矣,是以贵义。阴阳之情,莫不有血气之感,男女群居杂处而无别,是以贵礼。性命之情,淫而相胁以不得已则不和,是以贵乐。是故仁、义、礼、乐者,可以救败,而非通治之至也。夫仁者,所以救争也;义者,所以救失也;礼者,所以救淫也;乐者,所以救忧也。神明定于天下,而心反其初。心反其初,而民性善。民性善,而天地阴阳从而包之,则财足而人澹(赡)矣,贪鄙忿争,不得生焉。由此观之,则仁义不用矣。道德定于天下,而民纯朴,则目不营于

色,耳不淫于声,坐俳而歌谣,被发而浮游;虽有毛嫱西施之色,不知说也;掉羽《武》《象》,不知乐也;淫泆无别,不得生焉。由此观之,礼乐不用也。是故德衰然后仁生,行沮然后义立,和失然后声调,礼淫然后容饰。是故知神明,然后知道德之不足为也;知道德,然后知仁义之不足行也;知仁义,然后知礼乐之不足修也。今背其本而求其末,释其要而索之于详,未可与言至也。天地之大,可以矩表识也。星月之行,可以曆推得也。雷震之声,可以鼓钟写也。风雨之变,可以音律知也。是故大可睹者,可得而量也;明可见者,可得而蔽也;声可闻者,可得而调也;色可察者,可得而别也。夫至大,天地弗能含也;至微,神明弗能领也。及至建律曆、别五色、异清浊、味甘苦,则朴散而为器矣;立仁义、修礼乐,则德迁而为伪矣。及伪之生也,饰智以惊愚,设诈以巧上,天下有能持之者,有能治之者也。……

夫声色五味,远国珍怪、瓖异奇物,足以变心易志、摇荡精神、感动血气者,不可胜计也。夫天地之生财也,本不过五。圣人节五行,则治不荒。凡人之性,心和欲得则乐,乐斯动,动斯蹈,蹈斯荡,荡斯歌,歌斯舞,歌舞节则禽兽跳矣。人之性,心有忧丧则悲,悲则哀,哀斯愤,愤斯怒,怒斯动,动则手足不静。人之性,有侵犯则怒,怒则血充,血充则气激,气激则发怒,发怒则有所释憾矣。故钟鼓管箫,干铖羽旄,所以饰喜也;衰绖苴杖、哭踊有节,所以饰哀也;兵革羽旄、金鼓斧钺,所以饰怒也。必有其质,乃为之文。古者,圣人在上,政教平,仁爱洽,上下同心,君臣辑睦,衣食有余,家给人足,父慈子孝,兄良弟顺,生者不怨,死者不恨,天下和洽,人得其愿,夫人相乐,无所发贶,故圣人为之作乐以和节之。末世之政,田渔重税,关市急征,泽梁毕禁,网罟无所布,耒耜无以设,民力竭于徭役,财用弹于会赋,居者无食,行者无粮,老者不养,死者不葬,赞妻鬻子,以给上求,犹弗能澹(赡),愚夫蠢妇,皆有流连之心,凄怆之

Ŧ

志; 乃使始为之撞大钟、击鸣鼓、吹竽笙、弹琴瑟,失乐之本矣。……故兵者所以讨暴,非所以为暴也; 乐者所以致和,非所以为淫也; 丧者所以尽哀,非所以为伪也。故事亲有道矣,而爱为务; 朝廷有容矣,而敬为上; 处丧有礼矣,而哀为主; 用兵有术矣,而义为本。本立而道行,本伤而道废。

(本经训)

……故慎所以感之也,夫荣启期一弹,而孔子三日乐,感于和。 邹忌一徽,而威王终夕悲,感于忧。动诸琴瑟,形诸音声,而能使人 为之哀乐; 县法设赏,而不能移风易俗者,其诚心弗施也。宁戚商 歌车下,桓公喟然而寤,至精人人深矣。故曰乐听其音,则知其俗; 见其俗,则知其化。孔子学鼓琴于师襄,而谕文王之志,见微以知 明矣。延陵季子听鲁乐,而知殷夏之风,论近以识远也。作之上 古,施及千岁,而文不灭,况于并世化民乎。……

乐生于音,音生于律,律生于风,此声之宗也。……

故古之君人者,其惨怛于民也:国有饥者食不重味,民有寒者而冬不被裘,岁登民丰乃始悬钟鼓,陈干戚,君臣上下同心而乐之,国无哀人。故古之为金石管弦者,所以宣乐也。……及至乱主,取民则不裁其力,求于下则不量其积,男女不得事耕织之业,以供上之求,力勤财匮,君臣相疾也。故民至焦唇沸肝,有今无储,而乃始 撞大钟,击鸣鼓,吹竽笙,弹琴瑟,是犹贯甲胄而入宗庙,被罗纨而从军旅,失乐之所由生矣。

(主术训)

……圣人之行,无所合、无所离。譬若鼓无所与调,无所不比, 丝管金石,小大修短有叙,异声而和。君臣上下,官职有差,殊事而 调,夫织者日以进,耕者日以却。事相反,成功一也。申喜闻乞人之 歌而悲,出而视之,其母也。艾陵之战也,夫差曰:"夷声阳,句吴其庶乎?"同是声而取信焉异,有诸情也。故心哀而歌不乐,心乐而哭不哀。夫子曰:"弦则是也,其声非也。"文者所以接物也,情系于中,而欲发外者也。以文灭情则失情,以情灭文则失文,文情理通,则凤麟极矣,言至德之怀远也。……歌之修其音也,音之不足于其美者也,金石丝竹,助而奏之,犹未足以至于极也。……宁戚击牛角而歌,桓公举以大政;雍门子以哭见,孟尝君涕流沾缨。歌、哭,众人之所能为也。一发声,人人耳,感人心,情之至者也。……

(缪称训)

率性而行谓之道,得其天性谓之德。性失然后贵仁,道失然后贵义。是故仁义立而道德迁矣,礼乐饰则纯朴散矣。……古者民童蒙不知东西,貌不羡乎情而言不溢乎行,其衣致暖而无文,其兵戈铢而无刃,其歌乐而无转,其哭哀而无声。……

夫载哀者闻歌声而泣,载乐者见哭者而笑。哀可乐者,笑可哀者,载使然也。是故贵虚。……故强哭者虽病不哀,强亲者虽笑不和。情发于中而声应于外。……

古者非不知繁升降槃还之礼也,蹀《采齐》《肆夏》之容也,以为旷日烦民而无所用,故制礼足以佐实喻意而已矣。古者非不能陈钟鼓、盛管箫、扬干戚、奋羽旄,以为费财乱政,制乐足以合欢宣意而己,喜不羡于音。非不能竭国麋民,虚府殚财,含珠鳞施,纶组节束,追送死也,以为穷民绝业,而无益于槁骨腐肉也,故葬薶足以收敛盖藏而已。昔舜葬苍梧,市不变其肆;禹葬会稽之山,农不易其亩。明乎生死之分,通乎侈俭之适者也。乱国则不然,言与行相悖,情与貌相反;礼饰以烦,乐优以淫;崇死以害生,久丧以招行,是以风俗浊于世,而诽誉萌于朝,是故圣人废而不用也。义者,循理而行宜也。礼者,体情制文者也。义者,宜也;礼者,体也。昔有扈

氏为义而亡,知义而不知宜也。鲁治礼而削,知礼而不知体也。有 虞氏之祀,其社用土,祀中雷,葬成亩,其乐《咸池》、《承云》、《九 韶》,其服尚黄;夏后氏其社用松,祀户,葬墙置翣,其乐《夏籥》九 成,《六佾》、《六列》、《六英》,其服尚青;殷人之礼,其社用石,祀门, 葬树松,其乐《大濩》、《晨露》,其服尚白;周人之礼,其社用栗,祀 灶,葬树柏,其乐《大武》、《三象》、《棘下》,其服尚赤。礼乐相诡,服 制相反;然而皆不失亲疏之恩,上下之伦。今握一君之法籍,以非 传代之俗,譬由胶柱而调瑟也。……故"狐梁"之歌可随也,其所以 歌者不可为也。

……若夫规矩钩绳者,此巧之具也,而非所以巧也。故瑟无弦,虽师文不能以成曲;徒弦则不能悲。故弦,悲之具也,而非所以为悲也。若夫工匠之为连鐖运开、阴闲眩错,人于冥冥之眇,神调之极,游乎心手众虚之间,而莫与物为际者,父不能以教子;瞽师之放意相物,写神愈舞,而形乎弦者,兄不能以喻弟。今夫为平者准也,为直者绳也。若夫不在于绳准之中,可以平直者,此不共之术也。故叩宫而宫应,弹角而角动,此同音之相应也。其于五音无所比,而二十五弦皆应,此不传之道也。故萧条者,形之君;而寂寞者,音之主也。……

(齐俗训) ·

……翟煎对曰:"今夫举大木者,前呼邪许,后亦应之,此举重 劝力之歌也,岂无郑卫激楚之音哉?然而不用者,不若此其宜 也。……

(道应训)

……尧《大章》,舜《九韶》,禹《大夏》,汤《大濩》,周《武象》,此 乐之不同者也。故五帝异道而德覆天下,三王殊事而名施后世,此 皆因时变而制礼乐者,譬犹师旷之施瑟柱也,所推移上下者,无寸尺之度,而靡不中音。故通于礼乐之情者能作,音有本主于中,而以知榘彟之所周者也。鲁昭公有慈母而爱之,死,为之练冠,故有慈母之服;阳侯杀蓼侯而窃其夫人,故大飨废夫人之礼。先王之制,不宜则废之;末世之事,善则著之。是故礼乐未始有常也,故圣人制礼乐而不制于礼乐。

治国有常,而利民为本,政教有经,而令行为上。茍利于民,不必法古;苟周于事,不必循旧。夫夏商之衰也,不变法而亡;三代之起也,不相袭而王。故圣人法与时变,礼与俗化;衣服器械,各便其用;法度制令,各因其宜;故变古未可非,而循俗未足多也。百川异源,而皆归于海;百家殊业,而皆务于治。王道缺而《诗》作,周室废,礼义坏,而《春秋》作。《诗》、《春秋》,学之美者也,皆衰世之造也。儒者循之以教导于世,岂若三代之盛哉。以《诗》、《春秋》为古之道而贵之,又有未作《诗》、《春秋》之时。夫道其缺也,不若道其全也;诵先王之诗者,不若闻得其言;闻得其言,不若得其所以言。得其所以言者,言弗能言也;故道可道者,非常道也。……耳不知清浊之分者不可令调音,心不知治乱之源者不可令制法。……譬犹不知音者之歌也:浊之,则郁而无转;清之,则燋而不讴。及至韩娥、秦青、薛谈之讴,侯同、曼声之歌:惯于志,积于内,盈而发音,则莫不比于律,而和于人心。何则。中有本主,以定清浊,不受于外,而自为仪表也。……

(汜论训)

……鼓不灭于声,故能有声;镜不没于形,故能有形。金石有声,弗叩弗鸣;管箫有声,弗吹无声。……故不得已而歌者,不事为悲;不得已而舞者,不矜为丽。歌舞而不事为悲丽者,皆无有根心者。……非易不可以治大;非简不可以合众。大乐必易,大礼为简。

易故能天,简故能地。大乐无怨,大礼不责,四海之内,莫不系统,故能帝也。心有忧者,筐床衽席勿能安也;菰饭焰牛弗能甘也;琴瑟鸣竽弗能乐也。患解忧除,然后食甘,寝宁,居安,游乐。……《诗》之失,僻;乐之失,刺;礼之失,责。徵声非无羽声也,羽音非无徵声也。五音莫不有声而以徵羽定名者,以胜者也。……

(译言训)

……老母行歌而动申喜,精之至也。瓠巴鼓瑟而淫鱼出听。伯牙鼓琴,驷马仰秣。介子歌"龙蛇"而文君垂泣。……圣人终身言治,所用者非其言也,用所以言也。歌者有诗,然使人善之者,非其诗也。……钟之与磬也,近之则钟声充,远之则磬声章。物固有近不若远,远不若近者。……欲学歌讴者,必先徵羽乐风。欲美和者,必先始于《阳河》、《采菱》。此皆学其所不学,而欲至其所欲学者。……

(说山训)

(说林训)

······夫歌《采菱》,发《阳阿》,鄙人听之不若此《延路》、《阳局》。

……故秦楚燕赵之歌也, 异转而皆乐; 九夷八狄之哭也, 殊声 而皆悲,一也。夫歌者乐之徵也,哭者悲之效也,惯于中则应于外, 故在所以感。……今夫盲者目不能别昼夜,分白黑,然而搏琴抚弦, 参弹复徽, 攫援摽拂, 手若蔑蒙, 不失一弦。 使未尝鼓瑟者, 虽有离 朱之明, 攫掇之捷, 犹不能屈伸其指。何则, 服习积贯之所致。 ……邯郸师有出新曲者,托之李奇,诸人皆争学之。后知其非也, 而皆弃其曲。此未始知音者也。……琴或拨刺枉桡, 阔解漏越, 而 称以楚庄王之琴,侧室争鼓之。……山桐之琴,涧梓之腹,虽鸣廉修 营唐牙, 莫之鼓也。通人则不然。……鼓琴者期于鸣廉修营, 而不 期于"滥(兰)胁"、"号钟"。……昔晋平公令官为钟、钟成而示师旷。 师旷曰:"钟音不调。"平公曰:"寡人以示工,工皆以为调,而(尔)以 为不调,何也?"师旷曰:"使后世无知音者则已,若有知音者,必知 钟之不调。"故师旷之欲善调钟也,以为后之有知音者也。……今鼓 舞者,绕身若环,曾挠摩地,扶旋猗那,动容转曲,便媚拟神。身若 秋药被风,发若结旌,骋驰若鹜。木熙(戏)者,举梧槚,据句枉,蝯自 纵,好茂叶,龙夭矫,燕枝拘,援丰条,舞扶苏,龙从鸟集,搏援攫肆, 蔑蒙踊跃。且夫观者莫不为之损心酸足,彼乃始徐行微笑,被衣修 擢。夫鼓舞者非柔纵,而太熙者非眇劲,淹浸清渐靡使然也。……

(修务训)

……民有好色之性,故有大婚之礼;有饮食之性,故有大飨之谊;有喜乐之性,故有钟鼓管弦之音;有悲哀之性,故有衰绖哭踊之节。故先王之制法也,因民之所好而为之节文者也。因其好色而制婚姻之礼,故男女有别;因其喜音而正雅颂之声,故风俗不流。……

昔者五帝三王之莅政施教,必用参(三)五。何谓参五,仰取象于天, 俯取度干地,中取法于人。……中考平人德,以制礼乐,行仁义之 道,以治人伦,而除暴乱之祸;乃澄列金、木、水、火、土之性,故立父 子之亲而成家,别清浊、五音、六律相生之数,以立君臣之义而成 国。……神农之初作琴也,以归神;及其淫也,反其天心。夔之初作 乐也,皆合六律而调五音,以诵八风;及其衰也,以沉湎康乐,不顾 政治,至于灭亡。……故《易》之失也卦,《书》之失也敷,乐之失也 淫,《诗》之失也辟,礼之失也责,《春秋》之失也刺。……五行异气而 皆话调, 六艺异科而皆同道。温惠柔良者, 《诗》之风也; 淳庞敦厚 者、《书》之教也;清明条达者、《易》之义也;恭俭尊让者,礼之为也; 宽裕简易者,乐之化也;刺几辩义者,《春秋》之靡也。故《易》之失 鬼,乐之失淫;《诗》之失愚,《书》之失拘,礼之失忮,《春秋》之失訾。 六者,圣人兼用而财(裁)制之,失本则乱,得本则治,其美在调,其 失在权。……三代之法不亡而世不治者,无三代之智也; 六律具存 而莫能听者,无师旷之耳也。故法虽在,必待圣而后治;律虽具,必 待耳而后听。

……今夫雅颂之声,皆发于词,本于情,故君臣以睦,父子以亲。故《韶》《夏》之乐也,声浸乎金石,润乎草木。今取怨思之声,施之于弦管,闻其音者,不淫则悲。淫则乱男女之辨,悲则感怨思之气,岂所谓乐哉。赵王迁流于房陵,思故乡,作为山木之讴,闻者莫不顾自裂眦、发植穿冠。因以此声为乐而入宗庙,岂古之所谓乐哉。故弁冕辂舆,可服而不可好也。太羹之和,可食而不可嗜也。朱弦漏越,一唱而三叹,可听而不可快也。故无声者,正其可听者也。其无味者,正其足味者也。吠声清于耳,兼味快于口,非其贵也。故事不本于道德者,不可以为仪;言不合乎先王者,不可以为道;音不调乎雅颂者,不可以为乐。……师延为平公鼓朝歌北

鄙之音。师旷曰: "此亡国之乐也。" 大息而抚之, 所以防淫辟之风也。……琴不鸣而二十五弦各以其声应; 轴不运而三十辐各以其力旋。弦有缓急小大, 然后成曲; 车有劳逸动静, 而后能致远。使有声者, 乃无声者也; 能致千里者, 乃不动者也。

(秦族训)

史 记·乐 书^① 司马迁^②

太史公曰: 余每读《虞书》,至于君臣相敕,维是几安,而股肱不良,万事堕坏,未尝不流涕也。成王作颂,推己惩艾,悲彼家难,可不谓战战恐惧,善守善终哉? 君子不为约则修德,满则弃礼,佚能思初,安能惟始,沐浴膏泽而歌咏勤苦,非大德谁能如斯! 传曰:"治定功成,礼乐乃兴。"海内人道益深,其德益至,所乐者益异。满而不损则溢,盈而不持则倾。凡作乐者,所以节乐。君子以谦退为礼,以损减为乐,乐其如此也。以为州异国殊,情习不同,故博采风俗,协比声律,以补短移化,助流政教。天子躬于明堂临观,而万民成荡涤邪秽,斟酌饱满,以饰厥性。故云《雅》《颂》之音理而民正,噪噭之声兴而士奋,郑卫之曲动而心淫。及其调和谐合,鸟兽尽感,而况怀五常,含好恶,自然之势也?

治道亏缺而郑音兴起,封君世辟,名显邻州,争以相高。自仲尼不能与齐优遂容于鲁,虽退正乐以诱世,作五章以刺时,犹莫之化。陵迟以至六国,流沔沈佚,遂往不返,卒于丧身灭宗,并国于秦。

秦二世尤以为娱。丞相李斯进谏曰:"放弃诗书,极意声色,祖 尹所以惧也;轻积细过,恣心长夜,纣所以亡也。"赵高曰:"五帝、三 王乐各殊名,示不相袭。上自朝廷,下至人民,得以接欢喜,合殷

① 据中华书局点校本。《史记》八书,《乐书》是第二篇。据传是"十篇有录无书" 里的一篇。近人余嘉锡考证: 虽非太史公笔,要出之西汉人手,所据为《乐记》别本,较《礼记・乐记》多存二篇(奏乐篇、乐义或乐器篇),可正小戴记之误。

② 司马迁(公元前145年-前86年)。

高祖过沛,诗《三候之章》,令小儿歌之。高祖崩,令沛得以四时歌舞宗庙。孝惠、孝文、孝景无所增更,于乐府习常肄旧而已。

至今上即位,作十九章,令侍中李延年次序其声,拜为协律都 尉。通一经之士不能独知其辞,皆集会"五经"家,相与共讲习读 之,乃能通知其意,多尔雅之文。

汉家常以正月上辛祠太一甘泉,以昏时夜祠,到明而终。常有流星经于祠坛上。使僮男僮女七十人俱歌。春歌《青阳》,夏歌《朱明》,秋歌《西暤》,冬歌《玄冥》。世多有,故不论。

又尝得神马渥洼水中,复次以为《太一之歌》。歌曲曰:"太一贡兮天马下,治赤汗兮沫流赭。骋容与兮跇万里,今安匹兮龙为友。"后伐大宛得千里马,马名"蒲梢",次作以为歌。歌诗曰:"天马来兮从西极,经万里兮归有德。承灵威兮降外国,涉流沙兮四夷服。"中尉汲黯进曰:"凡王者作乐,上以承祖宗,下以化兆民。今陛下得马,诗以为歌,协于宗庙,先帝百姓岂能知其音邪?"上默然不说。丞相公孙弘曰:"黯诽谤圣制,当族。"

凡音之起^①,由人心生也。人心之动,物使之然也。感于物而动,故形于声。声相应,故生变,变成方,谓之音。比音而乐之,及于戚羽族,谓之乐也。

乐者, 音之所由生也; 其本在人心感于物也。是故其哀心感者, 其声噍以杀; 其乐心感者, 其声啴以缓; 其喜心感者, 其声发以散; 其怒心感者, 其声麤以厉; 其敬心感者, 其声直以廉; 其爱心感者, 其声和以柔; 六者非性也, 感于物而后动。

① 由此起至"子贡问乐"止,与《礼记·乐记》的文字基本相同。

是故先王慎所以感之: 故礼以导其志, 乐以和其声, 政以壹其行, 刑以防其奸。礼乐刑政, 其极一也, 所以同民心而出治道也。

凡音者,生人心者也。情动于中,故形于声;声成文,谓之音。 是故治世之音安,以乐其正(政)和;乱世之音怨,以怒其正乖;亡 国之音哀,以思其民困。声音之道,与正通矣:

宫为君,商为臣,角为民,徵为事,羽为物。五者不乱,则无悠 遗之音矣。宫乱则荒,其君骄;商乱则搥,其臣坏;角乱则忧,其民怨;徵乱则哀,其事勤;羽乱则危,其财匮。五者皆乱,迭相陵,谓之 慢。如此,则国之灭亡无日矣。

郑卫之音,乱世之音也,比于慢矣。桑间濮上之音,亡国之音也,其政散,其民流,逐上行私而不可止。

凡音者,生于人心者也。乐者,通于伦理者也。是故知声而不知音者,禽兽是也。知音而不知乐者,众庶是也。惟君子为能知乐。

是故审声以知音,审音以知乐,审乐以知政,而治道备矣。

是故不知声者,不可与言音;不知音者,不可与言乐。知乐则 几于礼矣。

礼乐皆得,谓之有德,德者得也。是故乐之隆,非极音也;食飨 之礼,非极味也。

清庙之瑟,朱弦而疏越,一倡而三叹,有遗音者矣。大飨之礼, 尚玄酒而俎腥鱼,大羹不和,有遗味者矣。是故先王之制礼乐也, 非以极口腹耳目之欲也,将以教民平好恶,而反人道之正也。

人生而静,天之性也。感于物而动,性之颂也:物至知知,然后好恶形焉。好恶无节于内,知诱于外,不能反己,天理灭矣。

夫物之感人无穷,而人之好恶无节,则是物至而人化物也。人 化物也者,灭天理而穷人欲者也。于是有悖逆诈伪之心,有淫佚作 乱之事。是故彊者胁弱,众者暴寡,知者诈愚,勇者苦怯,疾病不 养,老幼孤寡不得其所:此大乱之道也:是故先王制礼乐,人为之节。

衰麻哭泣,所以节丧纪也;钟鼓干戚,所以和安乐也;昏姻冠笄,所以别男女也;射乡食飨,所以正交接也。礼节民心,乐和民声,政以行之,刑以防之。礼乐刑政,四达而不悖,则王道备矣。

乐者为同,礼者为异。同则相亲,异则相敬。乐胜则流,礼胜则离。合情饰貌者,礼乐之事也。

礼义立,则贵贱等矣; 乐文同,则上下和矣; 好恶著,则贤不肖别矣; 刑禁暴,爵举贤,则政均矣。仁以爱之,义以正之,如此则民治行矣。

乐由中出,礼自外作。乐由中出故静,礼自外作故文。大乐必易,大礼必简。乐至则无怨,礼至则不争。揖让而治天下者,礼乐之谓也。

暴民不作,诸侯宾服,兵革不试,五刑不用,百姓无患,天子不怒,如此则乐达矣。合父子之亲,明长幼之序,以敬四海之内,天子如此则礼行矣。

大乐与天地同和,大礼与天地同节。和,故百物不失。节,故 祀天祭地。明则有礼乐,幽则有鬼神,如此,则四海之内,合敬同 爱矣。

礼者,殊事合敬者也。乐者,异文合爱者也。礼乐之情同,故明王以相沿也。故事与时并,名与功偕。

故钟鼓管磬羽籥干戚,乐之器也; 诎信俯仰级兆舒疾,乐之文 也。簠簋俎豆制度文章,礼之器也; 升降上下周旋裼袭,礼之文也。

故知礼乐之情者能作,识礼乐之文者能术(述)。作者之谓圣, 术者之谓明。明圣者,术作之谓也。

乐者,天地之和也;礼者,天地之序也。和,故百物皆化;序,故 群物皆别。 乐由天作,礼以地制。过制则乱,过作则暴;明于天地,然后能 兴礼乐也。

论伦无患,乐之情也;欣喜獾爱,乐之官也。中正无邪,礼之质也;庄敬恭顺,礼之制也。若夫礼乐之施于金石,越于声音,用于宗庙社稷,事于山川鬼神,则此所以与民同也。

王者功成作乐,治定制礼;其功大者其乐备,其治辨者其礼具。 干戚之舞,非备乐也;亨孰而祀,非达礼也。

五帝殊时,不相沿乐;三王异世,不相袭礼。

乐极则忧,礼粗则偏矣。及夫敦乐而无忧,礼备而不偏者,其 唯大圣乎:

天高地下,万物散殊,而礼制行也;流而不息,合同而化,而乐 兴也。

春作夏长,仁也;秋敛冬藏,义也。仁近于乐,义近于礼。

乐者敦和,率神而从天;礼者辨宜,居鬼而从地。故圣人作乐 以应天,作礼以配地,礼乐明备,天地官矣。

天尊地卑,君臣定矣;高卑已陈,贵贱位矣;动静有常,小大殊矣;方以类聚,物以群分,则性命不同矣;在天成象,在地成形,如此,则礼者,天地之别也。

地气上阶,天气下降,阴阳相摩,天地相荡,鼓之以雷霆,奋之以风雨,动之以四时,暖之以日月,而百物化兴焉,如此,则乐者,天地之和也。

化不时则不生,男女无别则乱登,此天地之情也。

及夫: 礼乐之极乎天而蟠乎地, 行乎阴阳而通乎鬼神, 穷高极远而测深厚, 乐著太始, 而礼居成物。

著不息者,天也;著不动者,地也;一动一静者,天地之间也。 故圣人曰:"礼云乐云"。

昔者舜作五弦之琴,以歌《南风》;夔始作乐,以赏诸侯。故天

子之为乐也,以赏诸侯之有德者也。德盛而教尊,五谷时孰,然后 赏之以乐。故其治民劳者,其舞行级远;其治民佚者,其舞行级短。 故观其舞而知其德,闻其谥而知其行。

《大章》,章之也。《咸池》,备也。《韶》,继也。《夏》,大也。殷 周之乐,尽也。

天地之道:寒暑不时则疾,风雨不节则饥。教者,民之寒暑也, 教不时则伤世。事者,民之风雨也,事不节则无功。然则先王之为 乐也,以法治也,善则行象德矣。

夫豢豕为酒,非以为祸也,而狱讼益烦,则酒之流生祸也。是故先王因为酒礼:一献之礼,宾主百拜,终日饮酒而不得醉焉。此先王之所以备酒祸也。故酒食者,所以合欢也。

乐者,所以象德也;礼者,所以闭淫也。

是故先王有大事,必有礼以哀之;有大福,必有礼以乐之:哀乐之分,皆以礼终。

乐也者,施也;礼也者,报也。乐,乐其所自生;而礼,反其所自始。乐章德,礼报情反始也。

所谓大路者,天子之舆也。龙旂九旒,天子之旌也。青黑缘者,天子之葆龟也。从之以牛羊之群,则所以赠诸侯也。

乐也者,情之不可变者也;礼也者,理之不可易者也。乐统同, 礼别异,礼乐之说,贯乎人情矣!

穷本知变,乐之情也;著诚去伪,礼之经也。礼乐顺天地之诚, 达神明之德,降兴上下之神,而凝是精粗之体,领父子君臣之节。

是故大人举礼乐,则天地将为昭焉。天地欣合,阴阳相得,煦妪覆育万物,然后草木茂,区萌达,羽翮奋,角觡生,蛰虫昭苏。羽者妪伏,毛者孕鬻,胎生者不殰,而卵生者不殈:则乐之道归焉耳!

乐者,非谓黄钟大吕弦歌干扬也,乐之末节也,故童者舞之。

布筵席,陈樽俎,列笾豆,以升降为礼者,礼之末节也,故有司掌之。

乐师辩乎声诗,故北面而弦。宗祝辩乎宗庙之礼,故后尸。商 祝辩乎丧礼,故后主人。是故德成而上,艺成而下,行成而先,事成 而后。是故先王有上有下,有先有后,然后可以有制于天下也。

乐者,圣人之所乐也:而可以善民心,其感人深,其风移俗易,故先王著其教焉。

夫人有血气心知之性,而无哀乐喜怒之常;应感起物而动,然 后心术形焉。

是故: 志微焦衰之音作,而民思忧; 啴缓慢易繁文简节之音作, 而民康乐; 粗厉猛起奋末广贲之音作,而民刚毅; 廉直经正庄诚之 音作,而民肃敬; 宽裕肉好顺成和动之音作,而民慈爱; 流辟邪散狄 成涤滥之音作,而民淫乱。

是故先王本之情性,稽之度数,制之礼义。合生气之和,道五常之行,使之阳而不散,阴而不密,刚气不怒,柔气不慑,四畅交于中而发作于外,皆安其位而不相夺也。

然后立之学等,广其节奏,省其文采,以绳德厚也。类小大之称,比终始之序,以象事行。使亲疏贵贱长幼男女之理,皆形见于乐。故曰:"乐观其深矣"。

土敝则草木不长,水烦则鱼鳖不大,气衰则生物不育,世乱则礼废而乐淫:是故其声哀而不庄,乐而不安,慢易以犯节,流湎以忘本,广则容奸,狭则思欲,感涤荡之气,而灭平和之德,是以君子贱之也。

凡奸声感人,而逆气应之;逆气成象,而淫乐兴焉。正声感人,而顺气应之;顺气成象,而和乐兴焉。倡和有应,回邪曲直,各归其分,而万物之理,以类相动也。

是故君子反情以和其志,比类以成其行。奸声乱色,不留聪明;淫乐废礼,不接于心术;惰慢邪辟之气,不设于身体:使耳目鼻

口心知百体,皆由顺正以行其义。然后发以声音,文以琴瑟,动以干戚,饰以羽旄,从以箫管,奋至德之光,动四气之和,以著万物之理。

是故,清明象天;广大象地,终始象四时,周旋象风雨。五色成 文而不乱,八风从律而不奸,百度得数而有常,小大相成,终始相 生,倡和清浊,代相为经。故乐行而伦清,耳目聪明,血气和平,移 风易俗,天下皆宁。故曰:"乐者乐也"。君子乐得其道,小人乐得 其欲。以道制欲,则乐而不乱;以欲忘道,则惑而不乐。是故君子 反情以和其志,广乐以成其教。乐行而民乡方,可以观德矣。

德者,性之端也;乐者,德之华也。金石丝竹,乐之器也。诗, 言其志也;歌,咏其声也;舞,动其容也:三者本乎心,然后乐气 从之。

是故情深而文明,气盛而化神,和顺积中,而英华发外: 唯乐不可以为伪。

乐者,心之动也。声者,乐之象也。文采节奏,声之饰也。君子动其本,乐其象,然后治其饰。是故先鼓以警戒,三步以见方,再始以著往,复乱以饬归,奋疾而不拔,极幽而不隐。独乐其志,不厌其道,备举其道,不私其欲。是以情见而义立,乐终而德尊,君子以好善,小人以息过。故曰:"生民之道,乐为大焉"!

君子曰: 礼乐不可以斯须去身。致乐以治心,则易直子谅之心,油然生矣。易直子谅之心生则乐,乐则安,安则久,久则天,天则神。天则不言而信,神则不怒而威。致乐以治心者也,致礼以治躬者也,治躬则庄敬,庄敬则严威。

心中斯须不和不乐,而鄙诈之心人之矣。外貌斯须不庄不敬, 而易慢之心人之矣。

故乐也者,动于内者也;礼也者,动于外者也。乐极和,礼极顺,内和而外顺,则民瞻其颜色而弗与争也,望其容貌而民不生易

慢焉。德煇动乎内而民莫不承听; 理发乎外而民莫不承顺。故曰: "知礼乐之道,举而措之,天下无难矣。"

乐也者,动于内者也;礼也者,动于外者也。故礼主其谦,乐主 其盈。礼谦而进,以进为文;乐盈而反,以反为文。礼谦而不进则 销,乐盈而不反则放。故礼有报而乐有反,礼得其报则乐,乐得其 反则安。礼之报,乐之反,其义一也。

夫乐者乐也,人情之所不能免也。乐必发诸声音,形于动静,人道也。声音动静,性术之变尽于此矣。故人不能无乐,乐不能无形,形而不为道,不能无乱。先王恶其乱,故制雅颂之声以道之。使其声足以乐而不流,使其文足以纶而不息,使其曲直繁省廉肉节奏,足以感动人之善心而已矣,不使放心邪气得接焉:是先王立乐之方也。

是故,乐在宗庙之中,君臣上下同听之,则莫不和敬;在族长乡里之中,长幼同听之,则莫不和顺;在闺门之内,父子兄弟同听之,则莫不和亲。故乐者,审一以定和,比物以饰节,节奏合以成文,所以合和父子君臣,附亲万民也:是先王立乐之方也。

故听其雅颂之声,志意得广焉; 执其干戚,习其俯仰诎信,容貌得庄焉; 行其缀兆,要其节奏,行列得正焉,进退得齐焉。故乐者,天地之齐,中和之纪,人情之所不能免也。

夫乐者,先王之所以饰喜也;军旅鈇钺者,先王之所以饰怒也; 故先王之喜怒,皆得其齐矣。

喜则天下和之,怒则暴乱者畏之,先王之道,礼乐可谓盛矣。

魏文侯问于子夏曰:"吾端冕而听古乐,则唯恐卧; 听郑卫之音,则不知倦; 敢问古乐之如彼,何也。新乐之如此,何也。"

子夏答曰: "今夫古乐: 进旅而退旅,和正以广; 弦匏笙簧,合守 拊鼓。始奏以文,止乱以武,治乱以相,讯疾以雅。君子于是语,于 是道古,修身及家,平均天下。此古乐之发也。 "今夫新乐:进俯退俯,奸声以淫,溺而不止;及优侏儒,獶杂子女,不知父子。乐终,不可以语,不可以道古。此新乐之发也。

"今君之所问者乐也, 所好者音也。夫乐之与音, 相近而不同。"

文侯曰:"敢问如何?"

子夏答曰:"夫古者天地顺而四时当,民有德而五谷昌,疾疾不作而无祆祥,此之谓大当。然后圣人作为父子君臣,以为之纪纲。纪纲既正,天下大定,天下大定,然后正六律,和五声,弦歌诗颂,此之谓德音,德音之谓乐。《诗》曰:'莫其德音,其德克明!克明克类,克长克君。王此大邦,克顺克俾!俾于文王,其德靡悔。既受帝祉,施于孙子。'此之谓也。今君之所好者,其溺音与?

文侯曰:"敢问溺音者何从出也?"

子夏对曰: "郑音好滥淫志。宋音燕女溺志。卫音趋数烦志。 齐音鹜辟乔志。四者皆淫于色而害于德,是以祭祀不用也。《诗》曰: '肃雍和鸣,先祖是听。'夫肃肃,敬也。雍雍,和也。夫敬以和,何 事不行? 为人君者,谨其所好恶而已矣。君好之,则臣为之,上行 之,则民从之。《诗》曰: '诱民孔易',此之谓也。

"然后圣人作为鞉鼓椌褐填箎,此六者,德音之音也。然后钟磬竽瑟以和之,干戚旄狄以舞之。此所以祭先王之庙也,所以献酵醋也,所以官序贵贱各得其宜也,此所以示后世有尊卑长幼序也。"

"钟声铿,铿以立号,号以立横,横以立武;君子听钟声,则思武臣。石声硁,硁以立别,别以致死;君子听磬声,则思死封疆之臣。 丝声哀,哀以立廉,廉以立志;君子听琴瑟之声,则思志义之臣。竹声滥,滥以立会,会以聚众;君子听竽笙箫管之声,则思畜聚之臣。 鼓鼙之声灌,灌以立动,动以进众;君子听鼓鼙之声,则思将帅之臣。君子之听音,非听其铿锵而已也,彼亦有所合之也。" 宾牟贾侍坐于孔子,孔子与之言,及乐。曰:"夫《武》之备成之已久何也?"答曰:"病不得其众也!""永叹之,淫液之,何也?"答曰:"恐不逮事也!""发扬蹈厉之已蚤,何也?"答曰:"及时事也。""《武》坐致右宪左,何也?"对曰:"非《武》坐也。""声淫及《商》何也?"答曰:"非《武》音也。"子曰:"若非《武》音,则何音也?"答曰:"有司失其传也。如非有司失其传,则武王之志荒矣。"子曰:"唯,丘之闻诸苌弘,亦若吾子之言是也。"

宾牟贾起,免席而请曰:"夫《武》之备戒之已久,则既闻命矣。 敢问迟之迟而又久,何也。"

子曰:"居,吾语汝。夫乐者,象成者也。总干而山立,武王之事也。发扬蹈厉,太公之志也。《武》乱皆坐,周召之治也。且夫《武》,始而北出;再成而灭商;三成而南;四成而南国是疆;五成而分陕,周公左,召公右;六成复缀,以崇天子。夹振之而四伐,盛振威于中国也。分夹而进,事蚤济也。久立于缀,以待诸侯之至也。

"且夫女独未闻牧野之语乎? 武王克殷反商,未及下车,而封黄帝之後于蓟,封帝尧之後于祝,封帝舜之後于陈。下车而封夏后氏之後于杞,封殷之後于宋,封王子比干之墓,释箕子之囚,使之行商容而复其位。庶民弛政,庶士倍禄。济河而西,马散华山之阳,而弗复乘; 牛散桃林之野,而不复服; 车甲弢而藏之府库,而弗复用; 倒载干戈, 苞之以虎皮; 将率之士,使为诸侯,名之曰建囊; 然后天下知武王之不复用兵也。散军而郊射, 左射《狸首》,右射《驺虞》,而贯革之射息也; 裨冕潜笏,而虎贲之士税剑也; 祀乎明堂,而民知孝; 朝觐,然后诸侯知所以臣,耕藉,然后诸侯知所以敬; 五者,天下之大教也。食三老五更于太学,天子袒而割牲,执酱而馈,执爵而储,冕而总干,所以教诸侯之悌也。若此,则周道四达,礼乐交通;则夫《武》之迟久,不亦宜乎?"

子贡见师乙而问焉,曰:"赐闻声歌各有宜也。如赐者,宜何

歌和。"

师乙曰:"乙贱工也,何足以问所宜。请诵其所闻,而吾子自 执焉。宽而静,柔而正者宜歌《颂》;广大而静,疏达而信者宜歌《大 雅》;恭俭而好礼者宜歌《小雅》;正直清廉而谦者宜歌《风》;肆直而 慈爱者宜歌《商》;温良而能断者宜歌《齐》。

"夫歌者,直己而陈德,动己而天地应焉,四时和焉,星辰理焉,万物育焉。故《商》者,五帝之遗声也,商人志之,故谓之《商》。《齐》者,三代之遗声也,齐人志之,故谓之《齐》。明乎《商》之诗者,临事而屡断。明乎《齐》之诗者,见利而让也。临事而屡断,勇也。见利而让,义也。有勇有义,非歌孰能保此。故歌者,上如抗,下如队,曲如折,止如槁木,居中矩,句中钩,累累乎殷如贯珠。

"故歌之为言也,长言之也。说之故言之,言之不足故长言之, 长言之不足故嗟叹之,嗟叹之不足,故不知手之舞之,足之蹈之。

《子贡问乐》

凡音由于人心, 天之与人有以相通, 如景之象形, 响之应声。 故为善者天报之以福,为恶者天与之以殃, 其自然者也。

故舜弹五弦之琴,歌"南风"之诗而天下治; 纣为朝歌北鄙之音,身死国亡。舜之道何弘也? 纣之道何隘也? 夫"南风"之诗者,生长之音也。舜乐好之,乐与天地同意,得万国之驩(欢)心,故天下治也。夫朝歌者,不时也;北者败也;鄙者陋也。纣乐好之,与万国殊心,诸侯不附,百姓不亲,天下畔之,故身死国亡。

而卫灵公之时,将之晋,至于濮水之上,舍。夜半时闻鼓琴声,问左右,皆对曰"不闻"。乃召师涓曰:"吾闻鼓琴音,问左右,皆不闻,其状似鬼神,为我听而写之。"师涓曰"诺",因端坐援琴,听而写之。明日,曰:"臣得之矣,然未习也,请宿习之。灵公曰"可",因复宿。明日,报曰:"习矣。"即去之晋,见晋平公。平公置酒于施惠之

台。酒酣,灵公曰:"今者来,闻新声,请奏之。"平公曰:"可。"即令师涓坐师旷旁,援琴鼓之。未终,师旷抚而止之曰:"此亡国之声也,不可遂。"平公曰:"何道出?"师旷曰:"师延所作也,与纣为靡靡之乐。武王伐纣,师延东走,自投濮水之中。故闻此声必于濮水之上,先闻此声者,国削。"平公曰:"寡人所好者音也,愿遂闻之。"师涓鼓而终之。

平公曰:"音无此最悲乎?"师旷曰:"有。"平公曰:"可得闻乎?"师旷曰:"君德义薄,不可以听之。"平公曰:"寡人所好者音也,愿闻之。"师旷不得已,援琴而鼓之。一奏之,有玄鹤二八集乎廊门;再奏之,延颈而鸣,舒翼而舞。

平公大喜,起而为师旷寿。反坐,问曰:"音无此最悲乎?"师旷曰:"有。昔者黄帝以大合鬼神。今君德义薄,不足以听之,听之将败。"平公曰:"寡人老矣,所好者音也,愿遂闻之。"师旷不得已,援琴而鼓之。一奏之,有白云从西北起;再奏之,大风至而雨随之,飞廊瓦,左右皆奔走。平公恐惧,伏于廊屋之间。晋国大旱,赤地三年。

听者或吉或凶。夫乐不可妄兴也。

太史公曰: 夫上古明王举乐者,非以娱心自乐,快意恣欲,将欲为治也。正教者皆始于音,音正而行正。故音乐者,所以动荡血脉,通流精神而和正心也。故宫动脾而和正圣,商动肺而和正义,角动肝而和正仁,徵动心而和正礼,羽动肾而和正智。故乐所以内辅正心而外异贵贱也;上以事宗庙,下以变化黎庶也。琴长八尺一寸,正度也。弦大者为宫,而居中央,君也。商张右傍,其余大小相次,不失其次序,则君臣之位正矣。故闻宫音,使人温舒而广大;闻商音,使人方正而好义;闻角音,使人恻隐而爱人;闻徵音 使人乐善而好施;闻羽音,使人整齐而好礼。夫礼由外人,乐自内出。故君子不可须臾离礼,须臾离礼则暴慢之行穷外;不可须臾离乐,须

奥离乐则奸邪之行穷内。故乐音者,君子之所养义也。夫古者,天子诸侯听钟磬未尝离于庭,卿大夫听琴瑟之音未尝离于前,所以养行义而防淫佚也。夫淫佚生于无礼,故圣王使人耳闻《雅》《颂》之音,目视威仪之礼,足行恭敬之容,口言仁义之道。故君子终日言而邪辟无由人也。

新 序^①(辑录) 対 向^②

楚威王问于宋玉曰:"先生其有遗行邪?何士民众庶不誉之甚也?"宋玉对曰:"唯然,有之,愿大王宽其罪,使得毕其辞:客有歌于郢中者,其始曰"下里巴人",国中属而和者数千人;其为"阳陵采薇",国中属而和者数百人;其为"阳春白雪",国中属而和者,数十人而已也;引商刻角,杂以流徵,国中属而和者,不过数人;是其曲 弥高者,其和弥寡。……

(杂事第一)

① 据商务印书馆《四部从刊》本。

② 刘向(公元前77年-前6年)。

说 苑^①(辑录) 対 向

雍门子周以琴见平孟尝君。孟尝君曰:"先生鼓琴,亦能令文悲 平。"雍门子周曰:"臣何独能令足下悲哉。臣之所能令悲者,有先 贵而后贱,先富而后贫者也。不若身材高妙,适遭暴乱无道之主, 妄加不道之理焉: 不若处势隐绝,不及四邻, 诎折傧厌,袭于穷巷, 无所造潮: 不若交欢相爱, 无怨而生离, 远赴绝国, 无复相见之时; 不若少失二亲,兄弟别离,家室不足,忧戚盈胸。当是之时也,固不 可以闻飞鸟疾风之声,穷穷焉固无乐已。凡若是者,臣一为之徽胶 接琴而长太息,则流涕沾衿矣。今若足下,千乘之君也。居则广厦 密房,下罗帷,来清风,倡优侏儒处前,迭进而谄谀;燕则斗象棋,而 舞郑女激楚之切风,练色以淫目,流声以虞(娱)耳;水遊则连方舟, 载羽旗,鼓吹乎不测之渊;野游则驰骋弋猎乎平原,广囿格猛兽;入 则撞钟击鼓乎深宫之中; 方此之时, 视天地曾不若一指, 忘死与生, 虽有善鼓琴者,固未能令足下悲也。"孟尝君曰:"否,否,文固以为 不然。"雍门子周曰:"然臣之所为足下悲者一事也。 夫声敌帝而困 秦者,君也;连五国之约,南面而伐楚者,又君也。天下未尝无事,不 从则横,从成则楚王,横成则秦帝,楚王秦帝,必报仇于薛矣。夫以 秦楚之强,而报仇于弱薛,譬之犹摩萧斧而伐朝菌也,必不留行矣。 天下有识之十,无不为足下寒心酸鼻者,千秋万岁之后,庙堂必不 血食矣。高台既已坏,曲池既已渐,坟墓既已下而青廷矣,婴儿竖 子樵采薪荛者, 蹢躅其足而歌其上, 众人见之, 无不愀焉为足下悲

① 据商务印书馆《四部丛刊》本。

之,日:'夫以孟尝君尊贵,乃可使若此乎?'"于是孟尝君泫然泣,涕承睫而未殒,雍门子周引琴而鼓之,徐动宫徵,微挥羽角,切终而成曲。孟尝君涕浪汗增,欷而就之曰:"先生之鼓琴,令文立若破国亡邑之人也。"

(善说)

天下有道,则礼乐征伐自天子出。夫功成制礼,治定作乐,礼乐者,行化之大者也。孔子曰:"移风易俗,莫善于乐;安上治民,莫善于礼"。是故圣王修礼文,设庠序,陈钟鼓,天子辟雍,诸侯泮宫,所以行德化。《诗》云:"镐京辟雍,自西自东,自南自北,无思不服",此之谓也。

钟鼓之声,怒而击之则武,忧而击之则悲,喜而击之则乐。其 志变,其声亦变。其志诚通乎金石,而况人乎。

孔子至齐,郭门之外遇一婴儿,挈一壶相与俱行。其视精,其心正,其行端。孔子谓御曰:"趣驱之! 趣驱之! 《韶》乐方作。"孔子至彼闻《韶》,三月不知肉味。故乐非独以自乐也,又以乐人;非独以自正也,又以正人矣哉。于此乐者,不图为乐至于此。

黄帝诏伶伦作为音律。伶伦自大夏之西,乃之(至)昆仑之阴,取竹于蠏谷;以生窍厚薄均者,断两节间,其长九寸,而吹之,以为黄钟之宫,日含少。次制十二管,以昆仑之下,听凤之鸣,以别十二律。其雄鸣为六,雌鸣亦六,以比黄钟之宫适合,黄钟之宫,皆可生之,而律之本也。故曰黄钟微而均鲜,全而不伤,其为宫独尊,象大圣之德,可以明至贤之功,故奉而荐之于宗庙,以歌迎功德,世世不忘。是故黄钟生林钟,林钟生太簇,太簇生南吕,南吕生姑洗,姑洗生应钟,应钟生蕤宾,蕤宾生大吕,大吕生夷则,夷则生夹钟,夹钟

生无射,无射生仲吕(原文有误,已改正)。三分所生,益之一分,以上生;三分所生,去其一分,以下生。黄钟、大吕、太簇、夹钟、姑洗、仲吕、蕤宾为上;林钟、夷则、南吕、无射、应钟为下。大圣至治之世,天地之气合以生风,日至则日行其风,以生十二律。故仲冬日短至则生黄钟,季冬生大吕,孟春生太簇,仲春生夹钟,季春生姑洗,孟夏生仲吕,仲夏日长至则生蕤宾,季夏生林钟,孟秋生夷则,仲秋生南吕,季秋生无射,孟冬生应钟。天地之风气正,十二律至也。

圣人作为鞉、鼓, 控、褐、埙、箎。此六者, 德音之音。然后钟、磬、竽、瑟以和之, 然后干、戚、旄、狄以舞之, 此所以祭先王之庙也, 此所以献酢酳酬也, 所以官序贵贱, 各得其宜也, 此可以示后世, 有尊卑长幼之序也。

钟声铿,铿以立号,号以立横,横以立武;君子听钟声则思武臣。石声磬,磬以立辩,辩以致死;君子听磬声则思死封疆之臣。丝声哀,哀以立廉,廉以立志;君子听琴瑟之声则思志义之臣。竹声滥,滥以立会,会以聚众;君子听竽笙箫管之声则思畜聚之臣。鼓鞞之声懽,懽以立动,动以进众;君子听鼓鞞之声则思将帅之臣。君子之听音,非听其铿锵而已,彼亦有所合之也。

乐者,圣人之所乐也,而可以善民心,其感人深,其移风易俗,故先王著其教焉。夫民有血气心知之性,而无哀乐喜怒之常,应感起物而动,然后心术形焉。是故感激、憔悴之音作而民思忧;啴谐慢易、繁文简节之音作而民康乐;粗厉、猛奋、广贲之音作而民刚毅;廉直、劲正、庄诚之音作而民肃敬;宽裕肉好,顺成和动之音作而民慈爱;流僻邪散、狄成涤滥之音作而民淫乱。是故先王本之情性、稽之度数,制之礼义,含生气之和,道五常之行,使阳而不散,阴而不密,刚气不怒,柔气不慑,四畅交于中而发作于外,皆安其位,不相夺也。然后立之学等,广其节奏,省其文彩以绳德厚,律小大之

称,比终始之序,以象事行,使亲疏、贵贱、长幼、男女之理,皆形见于乐。故曰乐观其深矣!

十弊则草木不长,水烦则鱼鳖不大,气衰则牛物不遂,世乱则 礼慝而乐淫。是故其声哀而不庄,乐而不安,慢易以犯节,流漫以 忘本,广则容奸,狭则思欲,感涤荡之气而灭平和之德,是以君子贱 之也。凡奸声感人而逆气应之,逆气成象而淫乐兴焉; 正声感人而 顺气应之,顺气成象而和乐兴焉。唱和有应,回邪曲直,各归其分, 而万物之理,以类相动也。是故君子反情以和其志,比类以成其 行,奸声乱色不习干听,淫乐慝礼,不接心术,堕慢邪辟之气不设于 身体,使耳目鼻口、心智百体,皆由顺正,以行其义;然后发以声音, 文以琴瑟,动以干戚,饰以羽旄,从以箫管,奋至德之光,动四气之 和,以著万物之理。是故清明象天,广大象地,始终象四时,周旋象 风雨。五色成文而不刮,八风从律而不好,百度得数而有常,小大 相成、终始相生,唱和清浊,代相为经。故乐行而伦清,耳目聪明, 血气和平、移风易俗、天下皆宁。故曰乐者乐也。君子乐得其道, 小人乐得其欲。以道制欲,则乐而不乱;以欲忘道,则惑而不乐。 是故君子反情以和其意,广乐以成其教,故乐行而民向方,可以观 **徳矣**。

德者性之端也,乐者德之华也,金石丝竹,乐之器也。诗言其志,歌咏其声,舞动其容。三者本于心,然后乐气从之。是故情深而文明,气盛而化神,和顺积中而英华发外,惟乐不可以为伪。乐者,心之动也,声者,乐之象也,文彩、节奏,声之饰也。君子之动本,乐其象也,后治其饰。是故先鼓以警戒,三步以见方,再始以著往,复乱以饰归;奋疾而不拔,极幽而不隐,独乐其志,不厌其道,备举其道,不私其欲。是故情见而义立,乐终而德尊。君子以好善,小人以[饰]听过,故曰:生民之道,乐为大焉。

乐之可密者,琴最宜焉。君子以其可修德,故近之。凡音之

起,由人心生也。人心之动,物使之然也。感于物而后动,故形于声;声相应,故生变;变成方,谓之音。比音而乐之,及干戚羽旄,谓之乐。乐者,音之所由生也,其本在人心之感于物。是故其哀心感者,其声噍以杀;其乐心感者,其声啴以缓;其喜心感者,其声发以散;其怒心感者,其声壮以厉;其敬心感者,其声直以廉;其爱心感者,其声和以调。人之善恶,非性也,感于物而后动;是故先王慎所以感之。故礼以定其意,乐以和其性,政以一其行,刑以防其奸;礼、乐、刑、政,其极一也:所以同民心而出治道也。

凡音生人心者也。情动于中而形于声,声成文谓之音。是故治世之音安以乐,其政和;乱世之音怨以怒,其政乖;亡国之音哀以思,其民困;声音之道与政通矣。宫为君,商为臣,角为民,徵为事,羽为物。五音乱则无法。无法之音:宫乱则荒,其君骄;商乱则陂,其官坏;角乱则忧,其民怨;徵乱则哀、其事勤;羽乱则危,其财匮。五者皆乱,代相凌,谓之慢;如此,则国之灭亡无日矣。郑卫之音,乱世之音也,比于慢矣。桑间濮上之音,亡国之音也。其政散、其民流,诬上行私而不可止也。凡人之有患祸者,生于淫泆暴慢;淫泆暴慢之本生于饮酒。故古者慎其饮酒之礼,使耳听雅音,目视正仪,足行正容,心论正道。故终日饮酒而无过失,近者数日,远者数月,皆人有德焉以益善。《诗》云:"既醉以酒,既饱以德",此之谓也。

凡从外人者,莫深于声音,变人最极,故圣人因而成之以德,曰"乐"。乐者德之风。《诗》曰:"威仪抑抑,德音秩秩",谓礼乐也。故君子以礼正外,以乐正内。内须臾离乐,则邪气生矣:外须臾离礼,则慢行起矣。故古者天子诸侯听钟声未尝离于庭,卿大夫听琴瑟未尝离于前,所以养正心而灭淫气也。乐之动于内,使人易道而好良,乐之动于外,使人温恭而文雅。雅颂之声动人而正气应之;和成容好之声动人而和气应之;粗厉猛贲之声动人而怒气应之:

郑卫之声动人而淫气应之。是故君子慎其所以动人也。

子路鼓瑟,有北鄙之声,孔子闻之,曰:"信矣!由之不才也。" 冉有侍,孔子曰:"求来!尔奚不谓由:夫先王之制音也,奏中声为 中节,流入于南不归于北;南者生育之乡,北者杀伐之域。故君子 执中以为本,务生以为□;故其音温和而居中,以象生育之气;忧哀 悲痛之感不加乎心,暴厉淫荒之动不存乎体;夫然者乃治存之风, 安乐之为也。彼小人则不然,执末以论本,务刚以为□;故其音湫 厉而微末,以象杀伐之气,和节中正之感不加乎心,温俨恭庄之动 不存乎体;夫杀者乃乱亡之风,奔北之为也。昔舜造南风之声,其 兴也勃焉,至今王公述而不释;纣为北鄙之声,其废也忽焉,至今王 公以为笑。彼舜以匹夫,积正合仁,履中行善,而卒以兴;纣以天 子,好慢淫荒,刚厉暴贼,而卒以灭。今由也,匹夫之徒,布衣之丑 也!既无意乎先王之制,而又有亡国之声,岂能保七尺之身哉!" 冉有以告子路,子路曰:"由之罪也!小人不能耳陷而入于斯。宜 矣,夫子之言也!"遂自悔,不食七日而骨立焉。孔子曰。"由之改 过矣!"

(修文)

附:琴说

刘向《琴说》云:"凡鼓琴,有七例:一曰明道德;二曰感鬼神;三 曰美风俗;四曰妙心察;五曰制声调;六曰流文雅;七曰善传授。" (据[明]蔣克谦编《琴书大全》卷十《弹琴》。明刊本)

法 言^①(辑录) _{扬 雄}^②

……问郑卫之似,曰:"聪听。"或曰:"朱旷不世,如之何?"曰: "亦精之而已矣。"或问:"交五声十二律也,或雅或郑何也?"曰:"中 正则雅,多哇则郑。"请问本,曰:"黄钟以生之,中正以平之,确乎, 郑卫不能人也。"……

(卷二)

……圣人之治天下也,碍之以礼乐。无则禽,异则貉。吾见诸子之小礼乐也,不见圣人之小礼乐也。……

……或问:"太古涂民耳目,惟其见也闻也。见则难蔽,闻则难塞。"曰:"天之肇降生民,使其目见耳闻,是以视之礼,听之乐。如视不礼,听不乐,虽有民,焉得而涂诸?"

(卷四)

……延陵季子之于乐也,其庶矣乎。如乐弛,虽札末如之何矣。

如周之礼乐,庶事之备也,每可以为不难矣。如秦之礼乐,庶事之不备也,每可以为难矣。……

(卷五)

① 据商务印书馆影印翻宋本。

② 扬雄主要活动年代在成帝时(公元前32年一前7年)。

……圣人,文质者也,车服以彰之,藻色以明之,声音以扬之, 《诗》《书》以光之。笾豆不陈,玉帛不分,琴瑟不铿,钟鼓不抎,则吾 无以见圣人矣。……

(卷九)

附:解 难 扬雄

盖胥靡为宰,寂寞为尸,大味必淡,大音必希;大语叫叫,大道低回。是以声之眇者不可同于众人之耳;形之美者不可棍(混)于世俗之目;辞之衍者不可齐于庸人之听。今夫弦者,高张急徽,追趋逐者,则坐者不期而附矣,试为之施《咸池》,揄《六茎》,发《箫韶》,咏九成,则莫有和也。是故锺期死,伯牙绝弦破琴而不肯与众鼓;獿人亡,则匠石辍斤而不敢妄斲。师旷之调钟,竢知音者之在后也;孔子作《春秋》,几君子之前睹也。老聃有遗言,贵知我者希,此非其操与!

(舞自《汉书·扬雄传》,据中华书局点校本)

新 论 恒 谭 ②

琴道篇

雍门周以琴见,孟尝君曰:"先生鼓琴,亦能令文悲乎?"对曰: "臣之所能令悲者,先贵而后贱,昔富而今贫,摈压穷巷,不交四邻。 不若身材高妙,怀质抱真,逢谗罹谮,怨结而不得言:不若交欢而结 爱,无怨而生离,远赴绝国,无相见期;不若幼无父母,壮无妻儿,出 以野泽为邻,入用掘穴为家,困于朝夕,无所假贷。若此人者,但闻 飞鸟之号,秋风鸣条,则伤心矣,臣一为之援琴而长太息,未有不凄 侧而涕泣者也。今若足下,居则广厦高堂,连闼洞房,下罗帷,来清 风; 倡优在前, 谀谄侍侧, 扬激楚, 舞郑妾, 流声以娱耳, 练色以淫 目: 水戏则舫龙舟, 建羽旗, 鼓钓(吹)平不测之渊: 野游则登平原, 驰广囿,强弩弋高鸟,勇士格猛兽,置酒娱乐,沈醉忘归。方此之 时,视天地曾不若一指,虽有善鼓琴,未能动足下也。"孟尝君曰, "固然。" 雍门周曰: "然臣窃为足下有所常悲。夫角帝而困秦者,君 也;连五国而伐楚者,又君也。天下未尝无事,不从(纵)即衡(横), 从(纵)成则楚王,衡(横)成则秦帝。夫以秦楚之强而报弱薛,犹磨 萧斧而伐朝菌也。有识之士,莫不为足下寒心。天道不常盛,寒暑 更进退,千秋万岁之后,宗庙必不血食。高台既已倾,曲池又已平, 坟墓生荆棘,狐狸穴其中。游儿牧竖,踯躅其足而歌其上。〔行人 见之凄怆,〕曰:'孟尝君之尊贵,亦犹若是平」'"于是孟尝君喟然太

① 《新论》已佚,此据孙冯翼辑本。中华书局《四部备要》本。

② 桓谭,活动年代在西汉末东汉初,死于光武帝时(公元前 25 年—56 年)。

息,涕泪承睫而未下。雍门周引琴而鼓之,徐动宫徵,叩角羽,终而成曲。孟尝君遂歔欷而就之曰:"先生鼓琴,令文立若亡国之人也。"

琴有《伯夷》之操。夫遭遇异时,穷则独善其身,故谓之"操"。

琴七丝,足以通万物而考治乱也。

《伯夷操》以鸿雁之音。

下徵七弦,总会枢极。

《尧畅》,远则兼善天下,无不通畅,故谓之"畅"。

《微子》操,微子伤殷之将亡,不可奈何,见鸿鹄高飞,援琴作操。操似鸿雁咏之声。

《舜》操者,昔虞舜圣德元远,遂升天子,喟然念亲,巍巍上帝之位,不足保,援琴作操。

大声不振华而流漫;细声不湮灭而不闻。

琴,神农造也。琴之言禁也,君子守以自禁也。

八音广播,琴德最优。

琴隐长四十五分,隐以前长八分。

神农作琴。

昔神农氏继宓羲而王天下,上观法于天,下取法于地。于是始 削桐为琴,练丝为弦,以通神明之德,合天地之和焉。

八音之中,惟弦为最,而琴为之首。

五弦,第一弦为宫,其次商、角、徵、羽;文王、武王各加一弦,以 为少宫、少商。说者不同。又琴之始作,或云伏羲,或云神农;诸家 所说,莫能详定。

昔夏之时,洪水坏山襄陵,禹乃援琴作操,其声清以益,潺潺湲 湲,志在深河。

五声各从其方,春角、夏徵、秋商、冬羽,宫居中央而兼四季,以 五音须宫而成。可以殿上五色锦屏风,谕而示之。望视则青、赤、 白、黄、黑,各各异类;就视则皆以其色为地,五色文饰之。欲为 四时五行之乐,亦当各以其声为地,而用四声饰之,犹彼五色屏 风矣。

晋师旷善知音。卫灵公将之晋,凤(宿)于濮水之上,夜闻新声,召师涓告之曰:"为我听写之。"曰:"臣得之矣!"遂之晋。晋平公飨之,酒酣,灵公曰:"有新声,愿奏之。"乃令师涓鼓琴,未终,师旷止之曰:"此亡国之声也。"

《文王操》者,文王之时,纣无道,烂金为烙,溢酒为池,宫中相残,骨肉成泥,璇室瑶台,蔼云翳风,钟声雷起,疾动天地。文王躬被法度,阴行仁义,援琴作操,故其声纷以扰,骇角震商。

神农氏为琴七弦,足以通万物而考理乱也。

成少伯工吹竽,见安昌侯张子夏鼓琴,谓曰:"音不通千曲以上,不足为知音。"

餘文辑录

昔神农继伏羲王天下,梧桐作琴,三尺六寸有六分,象期之数;厚寸有八,象三六数;广六分,象六律;上圆而敛,法天;下方而平,法地;上广下狭,法尊卑之体。琴者禁也,古圣贤玩琴以养心,穷则独善其身,而不失其操,故谓之操;达则兼善天下,无不通畅,故谓之畅。尧畅经逸不存。舜操其声清以微。微子操其声清以淳。箕子操其声淳以激。

夫不翦之屋,不如阿房之宫;不琢之椽,不如磨砻之桷;玄酒不如仓吾之醇; 控揭不如流郑之乐。

扬子云大才而不晓音。余颇离雅操,而更为新弄,子云曰:"事 浅易善,深者难识,卿不好《雅》《颂》,而悦郑声,宜也。"

余前为王翁典乐大夫,见乐家书记言:"文帝时,得魏文侯时乐人窦公,年百八十岁,两目皆盲。文帝奇而问之曰:'何因?能服食而至此邪?'对曰'臣年十三失明,父母哀其不及众技事,教臣为乐,使鼓琴,日讲习以为常事。臣不能导引,无所服饵也。不知寿得何力。'"余以为窦公少盲,专一内视,精不外鉴,恒逸乐,所以益性命也。

(本条据上海人民出版社校点本《新论》)

白虎通徳论・礼乐®舞園®

礼乐者何谓也。礼之为言履也,可履践而行。乐者乐也,君子 乐得其道,小人乐得其欲。王者所以盛礼乐何。节文之喜怒。乐 以象天,礼以法地。人无不含天地之气,有五常之性者,故乐所以 荡涤,反其邪恶也;礼所以防淫佚,节其侈靡也。故《孝经》曰:"安 上治民, 草善干礼: 移风易俗, 草善干乐"。子曰: "乐在宗庙之中, 君臣上下同听之,则莫不和敬;族长乡里之中,长幼同听之,则莫不 和顺;在闺门之内,父子兄弟同听之,则莫不和亲。"故乐者所以崇 和顺,比物饰节,节奏合以成文;所以合和父子、君臣,附亲万民也, 是先王立乐之意也。故听其雅颂之声,志意得广焉; 执干戚、习俯 仰屈信,容貌得齐焉:行其缀兆,要其节奏,行列得正焉,进退得齐 焉。故乐者天地之命,中和之纪,人情之所不能免焉也。夫乐者, 先王之所以饰喜也;军旅铁钺,所以饰怒也。故先王之喜怒,皆得 其齐焉。喜则天下和之,怒则暴乱者畏之; 先王之道, 礼乐可谓盛 矣。闻角声莫不恻隐而慈者,闻徵声莫不喜养好施者,闻商声莫不 刚断而立事者,闻羽声莫不深思而远虑者,闻宫声莫不温润而宽和 者也。礼所揖让何? 所以尊人自损也。揖让则不争。《论语》曰: "揖让而升,下而饮,其争也君子。"故君使臣以礼,臣事君以忠。 谦谦君子,利涉大川,以贵下贱,大得民也。屈己敬人,君子之心。 故孔子曰:"为礼不敬,吾何以观之哉"。夫礼者,阴阳之际也,百事

① 据抱经堂校本,并用商务印书馆《四部从刊》本校。

② 班固东汉人(32-92)。

之会也; 所以尊天地, 傧鬼神, 序上下, 正人道也。乐所以必歌者何? 夫歌者口言之也, 中心喜乐, 口欲歌之, 手欲舞之, 足欲蹈之。故《尚书》曰: "前歌后舞, 假于上下。"礼贵忠何? 礼者盛不足, 节有馀; 使丰年不奢, 凶年不俭, 富贫不相悬也。乐尚雅何? 雅者古正也, 所以远郑声也。孔子曰:"郑声淫"何? 郑国土地民人, 山居谷汲, 男女错杂, 为郑声以相悦怿, 故邪僻声皆淫色之声也。

太平乃制礼作乐何。夫礼乐所以防奢淫。天下人民饥寒,何乐之乎。功成作乐,治定制礼。乐言"作",礼言"制"何。乐者阳也,动作倡始,故言"作";礼者阴也,系制于阳,故言"制"。乐象阳,礼法阴也。

王者始起,何用正民。以为且用先王之礼乐; 天下太平, 乃更 制作焉。《书》曰:"肇称殷礼,祀新邑"。此言太平去殷礼。《春秋 传》曰: 曷为不修乎近而修乎远。同已也,可因先以太平也。必复 更制者, 示不袭也, 又天下乐之者。乐者, 所以象德表功, 而殊名 也。《礼记》曰:"黄帝乐曰《咸池》;颛顼乐曰《六茎》;帝喾乐曰《五 英》; 尧乐曰《大章》; 舜乐曰《箫韶》; 禹乐曰《大夏》; 汤乐曰《大濩》; 周乐日《大武》、《象》、周公之乐日《酌》,合日《大武》"。黄帝曰《咸 池》者,言大施天下之道而行之;天之所生,地之所载,咸蒙德施也。 颛顼曰《六茎》者,言和律历以调阴阳。"茎"者,著万物也。帝喾曰 《五英》者,言能调和五声以养万物,调其英华也。尧曰《大章》者, 大明天地人之道也。舜曰《箫韶》者,舜能继尧之道也。禹曰《大夏》 者,言禹能顺二圣之道而行之,故曰《大夏》也。汤曰《大濩》者,言 汤承衰,能护民之急也。周公曰《酌》者,言周公辅成王,能斟酌文 武之道而成之也。武王曰《象》者,象太平而作乐,示已太平也。合 曰《大武》者,天下始乐周之征伐行武,故诗人歌之:"王赫斯怒,爰 整其旅"。当此之时,天下乐文王之怒,以定天下,故乐其武也。周 室中制《象》乐何。殷纣为恶日久,其恶最甚,斮(斩)涉刳胎,残贼 天下,武王起兵,前歌后舞,克殷之后,民人大喜,故中作所以节 喜盛。

天子八佾,诸侯四佾,所以别尊卑。乐者阳也,故以阴数,法八风、六律、四时也。八风、六律者,天气也,助天地成万物者也,亦犹乐所以顺气,变化万民,成其性命也。故《春秋公羊传》曰:"天子八佾,诸公六佾,诸侯四佾。"《诗》传曰:"大夫士琴瑟御"。八佾者何谓也。佾者,列也,以八人为行列,八八六十四人也。诸公六六为行;诸侯四四为行。诸公,谓三公、二王后;大夫、士,北面之臣,非专事子民者也,故但琴瑟而已。

王者有六乐者,贵公美德也,所以作供养。倾先王之乐,明有法,示正其本,兴已所自作乐,明作已也。

所以作四夷之乐何?德广及之也。《易》曰:"先王以作乐崇德,殷荐之上帝,以配祖考"。《诗》云:"奏鼓简简,衎我烈祖"。乐》元语》曰:"受命而六乐,乐先王之乐,明有法也;兴其所自作,明有制;兴四夷之乐,明德广及之也。故东夷之乐曰'朝离',南夷之乐曰'南',西夷之乐曰'味',北夷之乐曰'禁'。合观之乐儛于堂,四夷之乐陈于右,先王所以得之顺命重始也。王者之乐有先后者,各尚其德也"。此言:以文得之先以文,谓持羽毛儛也;以武得之先以武,谓持干戚儛也。《乐元语》曰:"东夷之乐持矛舞,助时生也;南夷之乐持羽舞,助时养也;西夷之乐持载舞,助时煞也;北夷之乐持干舞,助时藏也"。谁制夷狄之乐?以为先圣王也。先王推行道德,和调阴阳,覆被夷狄,故夷狄安乐,来朝中国,于是作乐乐之。南之为言任也,任养万物;"味"之为言昧也,昧者万物衰老,取晦昧之义也;"禁"者,言万物禁藏;"朝离"者,万物微离地而生。一说东方持矛,南方歌,西方戚,北方击金。夷狄质,不如中国文,但随物名之耳。故百王不易。

王者制夷狄乐不制夷狄礼何? 以为礼者身当履而行之,夷狄

之人不能行礼; 乐者, 圣人作为以乐之耳, 故有夷狄乐也。谁为舞 者,以为使中国之人。何以言之。夷狄之人礼不备,恐有过误也。 作之门外者何。夷在外,故就之也。夷狄无礼义,不在内。《明堂 记》曰:"九夷之国,东门之外"。所以知不在门内也。《明堂记》曰: "纳夷蛮之乐于太庙"。言纳,明有人也。曰:"四夷之乐"者何谓 也。以为四夷外无礼义之国。数夷狄者从东,故举本以为之揔名 也。言"夷狄"者,举终始也。言"蛮",举远也。言"貉",举恶也。则 别之东方为九夷,南方为八蛮,西方为六戎,北方为五狄。故《曾子 问》曰:"九夷八蛮, 六戎五狄, 百姓之难至者也"。何以知夷在东 方₂《礼·王制》曰:"东方曰夷,被发文身"。又曰:"南方曰蛮,雕题 交趾: 西方日戎,被发衣皮: 北方日狄,衣羽毛穴居"。东所以九何? 盖来过者九,九之为言究也。德遍究,故应德而来亦九也。非故为 之,道自然也。何以名为"夷蛮"? 曰圣人本不治外国,非为制名也, 因其国名而言之耳。一说曰: 名其短而为之制名也。"夷"者,僔夷 无礼义,东方者少阳易化,故取名也。蛮者,执心违邪;戎者,强恶 也; 狄者, 易也, 辟易无别也。北方太阴, 鄙郄故少难化。

歌者在堂上,舞在堂下何? 歌者象德,舞者象功,君子上德而 下功。《郊特牲》曰:"歌者在上"。《论语》曰:"季氏八佾舞于庭"; 《书》曰:"下管、鞀、鼓,笙、镛以间"。

降神之乐在上何。为鬼神举也。故《书》曰:"戛击鸣球,搏拊琴瑟以咏,祖考来格"。所以用鸣球搏拊者何。鬼神清虚,贵净贱铿锵也。故《尚书大传》曰:"搏拊鼓装以糠,琴瑟练丝徽弦鸣者,贵玉声也"。

王者食所以有乐何。乐食天下之太平,富积之饶也。明天子至尊,非功不食,非德不饱。故《传》曰:"天子食时举乐"。王者所以日四食者何。明有四方之物,食四时之功也。四方不平,四时不顺,有彻膳之法焉,所以明至尊著法戒也。王者平居中央,制御四

方。平旦食,少阳之始也;昼食,太阳之始也;餔食,少阴之始也;暮食,太阴之始也。《论语》曰:"亚饭干适楚,三饭缭适蔡,四饭缺适秦"。诸侯三饭,卿大夫再饭,尊卑之差也。《弟子职》曰:暮食复礼士也,庶人食力无数。庶人职在耕桑,戮力劳役,饥即食,饱即作,故无数。

声音者何。谓声者,鸣也。闻其声即知其所生。音者,饮也, 言其刚柔清浊,和而相饮也。《尚书》曰:"予欲闻六律、五声、八 音"。五声者何谓也。宫、商、角、徵、羽。土谓宫,金谓商,木谓角, 火谓徵,水谓羽。《月令》曰:"盛德在木,其音角"。又曰:"盛德在 火,其音徵。盛德在金,其音商。盛德在水,其音羽"。所以名之为 角者何? 角者,跃也,阳气动跃。徵者,止也,阳气止。商者,张也, 阴气开张,阳气始降也。羽者,纡也,阴气在上,阳气在下。宫者, 容也,含也,含容四时者也。八音者何谓也。《乐记》曰:"土曰埙、 竹曰管、皮曰鼓、匏曰笙、丝曰弦、石曰磬、金曰钟、木曰柷敔。此谓 八音也,法易八卦也,万物之数也。八音,万物之声也。所以用八 音何? 天子承继万物,当知其数。既得其数,当知其声,即思其形。 如此蜎飞蠕动,无不乐其音者,至德之道也。天子乐之,故乐用八 音。《乐记》曰:"埙,坎音也。管,艮音也。鼓,震音也。弦,离音 也。钟, 兑音也。柷敔, 乾音也"。 场在十一月, 埙之为言熏也,阳气 于黄泉之下,熏蒸而萌。匏之为言施也,牙也,在十二月,万物始施 而牙。笙者太簇之气,象万物之生,故曰笙。有七政之节焉,有六合 之和焉,天下乐之,故谓之笙。鼓、震音烦气也,万物愤懑,震动而 出,雷以动之,温以暖之,风以散之,雨以濡之,奋至德之声,感和平 之气也。同声相应,同气相求,神明报应,天地祐之,其本乃在万物 之始耶,故谓鼓也。鞀者震之气也,上应昴星,以通王道,故谓之鞀 也。箫者中吕之气,万物生于无声,见于无形,勠也,肃也,故谓之 箫。箫者以禄为本,言承天继物为民本;人力加,地道化,然后万物

勠也,故谓之箫也。瑟者啬也,闲也,所以惩忿窒欲,正人之德也。 故曰瑟有君父之节,臣子之法。君父有节,臣子有义,然后四时和, 四时和然后万物生,故谓之恶也。琴者禁也,所以禁止淫邪,正人心 也。 磬者夷则之气也,象万物之成也,其气磬,故曰磬。有贵贱焉, 有亲疏焉,有长幼焉:朝廷之礼,贵不让贱,所以明尊卑也;乡党之 礼,长不让幼,所以明有年也; 宗庙之礼,亲不让疏,所以明有亲也。 此三者行,然后王道得;王道得,然后万物成,天下乐之,故乐用磬 也。钟之为言动也,阴气用事,万物动成。钟为气用,金为声也。鎛 者时之气声也,节度之所生也。君臣有节度则万物昌,无节度则万 物亡,亡与昌正相迫,故谓之鎛。柷敔者终始之声,万物之所生也。 阴阳顺而复,故曰柷。承顺天地,序迎万物,天下乐之,故乐用柷。 柷、始也、敔、终也。一说笙、柷、鼓、箫、琴、埙、钟、磬也,如其次:笙 在北方, 柷在东北方, 鼓在东方, 箫在东南方, 琴在南方, 埙在西南 方,钟在西方,磬在西北方。声五音八何。声为本,出于五行。音 为末,象八风。故《乐记》曰:"声成文,谓之音;知音而乐之,谓之 乐"也。

问日,异说并行,则弟子疑焉。孔子有言: 吾闻择其善者而从之,多见而志之也,知之次也。文武之道,未坠于地。天之将丧斯文也,乐亦在其中矣。圣人之道,犹有文质,所以拟其说,述所闻者,亦各传其所受而已。

论 衡^①(辑录) _{王 充}^②

情性者,人治之本,礼乐所由生也。故原情性之极,礼为之防, 乐为之节。性有卑谦辞让,故制礼以适其宜;情有好恶喜怒哀乐, 故作乐以通其敬。礼所以制,乐所为作者,情与性也。……

(卷三本性篇)

……传书言师旷奏《白雪》之曲,而神物下降风雨暴至,平公因之癃病,晋国赤地。或言师旷《清角》之曲,一奏之,有云从西北起。再奏之,大风至,大雨随之,裂帷幕,破俎豆,堕廊瓦,坐者散走,平公恐惧,伏乎廊室,晋国大旱,赤地三年,平公癃病。③ 夫《白雪》与《清角》,或同曲而异名,其祸败同一,实也。传书之家,载以为是,世俗观见,信以为然,原省其实,殆虚言也。夫《清角》何音之声而致此。《清角》 木音也,故致风而,④ 如木为风,雨与风俱,三尺之木,数弦之声,感动天地,何其神也。此复一哭崩城,一叹下霜之类也。师旷能鼓《清角》,必有所受,非能质性生出之也。其初受学之时,宿昔习弄,非直一再奏也,审如传书之言,师旷学《清角》时,风雨当至也。传书言瓠芭鼓瑟,渊鱼出听;师旷鼓琴,六马仰秣。或言师旷鼓《清角》,一奏之,有玄鹤二八,自南方来,集于廊门之危;再奏之而列;三奏之延颈而鸣,舒翼而舞,音中宫商之声,声吁于

① 据刘盼遂《论衡集解》,古籍出版社1957年版。

② 王充(27-104)。

③ 本书《纪妖篇》(卷二十二)重出此事较详,基本与《韩非子·十过》相同,另行 驳议,不重录。

④ 盼遂案:"而"是"雨"之误。

天;平公大悦,坐者皆喜。《尚书》曰:"击石拊石,百兽率舞。"此虽奇怪,然尚可信。何则。鸟兽好悲声,耳与人耳同也,禽兽见人欲食,亦欲食之;闻人之乐,何为不乐。然而鱼听仰秣,玄鹤延颈,百兽率舞,盖且其实。风雨之至,晋国大旱,赤地三年,平公癃病,殆虚言也。或时奏《清角》时,天偶风雨。风雨之后,晋国适旱。平公好乐,喜笑过度,偶发癃病。传书之家,信以为然,世人观见,遂以为实。实者,乐声不能致此。何以验之。风雨暴至,是阴阳乱也。乐能乱阴阳,则亦能调阴阳也。王者何须修身正行,扩施善政,使鼓调阴阳之曲,和气自至,太平自立矣。……

(卷五感虚篇)

……歌曲弥妙,和者弥寡。行操益清,交者益鲜。鸟兽亦然, 必以附从效风皇,是用和多为妙曲也。……

(卷十六讲瑞篇)

……礼乐之制,存见于今,今之人民,肯行之乎。今人不肯行, 古人亦不肯举,以今之人民,知古之人民也。……

(卷十八齐世篇)

……问儒者:"礼言制,乐言作,何也?"曰:"礼者,上所制,故曰 '制';乐者,上所作,故曰'作'。天下太平,颂声作。"方今天下太平矣,颂诗乐声,可以作未?传者不知也。……

(卷二十须颂篇)

……譬犹吹箫笙,箫笙折破,气越不括,手无所弄,则不成 音。……

(卷二十论死篇)

《毛 诗》序®

《关雎》,后妃之德也,《风》之始也,所以风天下而正夫妇也。 故用之乡人焉,用之邦国焉。《风》,风也,教也,风以动之,教以化 之。诗者,志之所之也,在心为志,发言为诗。情动于中,而形于言, 言之不足,故嗟叹之,嗟叹之不足,故咏歌之,咏歌之不足,不知手 之舞之,足之蹈之也。情发于声,声成文谓之音。

治世之音,安以乐,其政和。乱世之音,怨以怒,其政乖。亡国之音,哀以思,其民困。故正得失,动天地,感鬼神,莫近于诗。先王以是经夫妇,成孝敬,厚人伦,美教化,移风俗。故诗有六义焉:一曰风,二曰赋,三曰比,四曰兴,五曰雅,六曰颂。上以风化下,下以风刺上,主文而谲谏,言之者无罪,闻之者足以戒,故曰风。

至于王道衰,礼义废,政教失,国异政,家殊俗,而变风、变雅作矣。国史明乎得失之迹,伤人伦之废,哀刑政之苛,吟咏情性以风其上,达于事变而怀其旧俗者也。故变风发乎情,止乎礼义。发乎情,民之性也。止乎礼义,先王之泽也。是以一国之事,系一人之本,谓之"风";言天下之事,形四方之风,谓之"雅"。雅者正也,言王政之所由废兴也。政有小大,故有《小雅》焉,有《大雅》焉。颂者,美盛德之形容,以其成功告于神明者也。是谓四始,诗之至也。

然则《关雎》《麟趾》之化,王者之风,故系之周公。"南"言化自 北而南也。《鹊巢》《驺虞》之德,诸侯之风也,先王之所以教,故系 之召公。

① 据商务印书馆景印宋刊巾箱本《毛诗》。作者不详,一说为后汉卫宏所作。

《周南》、《召南》,正始之道,王化之基。是以《关雎》乐得淑女,以配君子,忧在进贤,不淫其色。哀窈窕,思贤才,而无伤善之心焉,是《关雎》之义也。



魏晋南北朝部分

乐 论^① 阮 籍②

刘子问曰:"孔子云:'安上治民,莫善于礼:移风易俗,草善干 乐'。夫礼者,男女之所以别,父子之所以成,君臣之所以立,百姓之 所以平也。为政之具,靡先于此。故'安上治民,莫善于礼'也。夫 金、石、丝、竹、钟、鼓、管、弦之音,干、戚、羽、旄,进、退、俯、仰之容, 有之何益于政。无之何揭干化。而曰:'移风易俗,莫善于乐'乎?" 阮先生曰:"善哉,子之问也, 昔者孔子著其都乎,且未举其略也。 今将为子论其凡,而子自备详焉。夫乐者,天地之体,万物之性也。 合其体,得其性,则和;离其体,失其性,则乖。昔者圣人之作乐也, 将以顺天地之体成万物之性也。故定天地八方之音,以迎阴阳八 风之声; 均黄钟中和之律,开群生万物之情气; 故律吕协则阴阳和, 音声适而万物类: 男女不易其所, 君臣不犯其位: 四海同其欢, 九州 一其节: 奏之圜丘而天神下, 奏之方泽而地祇上, 天地合其德, 则万 物合其生; 刑當不用, 而民自安矣。乾坤易简, 故雅乐不烦。道德 平淡,故五声无味。不烦则阴阳自通,无味则百物自乐,日迁善成 化而不自知、风俗移易,而同于是乐。此自然之道,乐之所始也。 其后圣人不作,道德荒坏,政法不立,智慧扰物,化废欲行,各有风

① 据明张溥《汉魏六朝一百三家集》中《阮步兵集》,以严可均辑《全三国文》参校,并参考上海古籍出版社《阮籍集》。

② 阮籍(210-263)。

俗。故造始之教谓之风,习而行之谓之俗。楚越之风好勇,故其俗 轻死; 郑卫之风好淫, 故其俗轻荡。轻死, 故有蹈火赴水之歌; 轻 荡,故有桑间濮上之曲。各歌其所好,各咏其所为。歌之者流涕, 闻之者叹息,背而去之,无不慷慨。怀永日之娱,抱长夜之叹,相聚 而合之,群而习之,靡靡无已。弃父子之亲,驰君臣之制,匮室家之 礼,废耕农之业,忘终身之乐,崇淫纵之俗。故江淮之南,其民好 残; 漳汝之间, 其民好奔; 吴有双剑之节, 赵有扶琴之客。气发于 中,声入于耳;手足飞扬,不觉其骇。好勇则犯上,淫放则弃亲。犯 上则君臣逆,弃亲则父子乖。乖逆交争,则患生祸起。祸起而意愈 异,患生而虑不同。故八方殊风,九州异俗,乖离分背,莫能相通, 音异气别, 曲节不齐。故圣人立调适之音, 建平和之声, 制便事之 节,定顺从之容,使天下之为乐者,莫不仪焉。自上以下,降杀有 等,至于庶人,咸皆闻之。歌谣者,咏先王之德:俯仰者,习先王之 容;器具者,象先王之式;度数者,应先王之制。人于心,沦于气。 心气和治,则风俗齐一。圣人之为进退、俯仰之容也,将以屈形体, 服心意,便所修,安所事也。歌咏诗曲,将以宣和平,著不逮也。钟 鼓,所以节耳;羽旄,所以制目。听之者不倾,视之者不衰,耳目不 倾不衰,则风俗移易。故移风易俗,莫善于乐也。故八音有本体, 五声有自然,其同物者以大小相君。有自然故不可乱,大小相君故 可得而平也。若夫空桑之琴,云和之瑟,孤竹之管,泗滨之磬,其物 皆调和淳均者,声相宜也,故必有常处。以大小相君,应黄钟之气, 故必有常数。有常处,故其器贵重;有常数,故其制不妄。贵重,故 可得以事神;不妄,故可得以化人。其物系天地之象,故不可妄造; 其凡似远物之音,故不可妄易。《雅》《颂》有分,故人神不杂;节会 有数,故曲折不乱; 周旋有度,故俯仰不惑; 歌咏有主,故言语不悖。 导之以善,绥之以和,守之以衷,持之以久。散其群,比其文,扶其 天,助其寿,使去风俗之偏习,归圣王之大化。先王之为乐也,将以

定万物之情,一天下之意也。故使其声平,其容和,下不思上之声, 君不欲臣之色,上下不争而忠义成。夫正乐者,所以屏淫声也,故乐 废则淫声作。汉哀帝不好音,罢省乐府,而不知制正礼乐,法不修, 淫声遂起。张放、淳于长骄纵过度, 丙彊、景武富溢干世。 罢乐之 后,下移逾肆。身不是好而淫乱愈甚者,礼不设也。刑教一体,礼 乐外内也。刑弛则教不独行,礼废则乐无所立。尊卑有分,上下有 等,谓之礼;人安其牛,情意无哀,谓之乐。车服、旌旗、宫室、饮食, 礼之具也; 钟磬、鞞鼓、琴瑟、歌舞, 乐之器也。 礼逾其制, 则尊卑 乖; 乐失其序,则亲疏乱。礼定其象, 乐平其心; 礼治其外, 乐化其 内;礼乐正而天下平。昔卫人求繁缨曲县,而孔子叹息,盖惜礼坏 而乐崩也。夫钟者,声之主也;县者,钟之制也。钟失其制,则声失 其主; 主制无常,则怪声并出。盛衰之代相及,古今之变若一,故圣 教废毁,则聪慧之人并造奇音。景王喜大钟之律,平公好师延之 曲;公卿大夫拊手嗟叹,庶人群生踊跃思闻,正乐遂废,郑声大兴, 《雅》《颂》之诗不讲,而妖淫之曲是寻。延年造倾城之歌,而孝武思 嫌嫚之色: 雍门作松柏之音, 愍王念未寒之服。故猗靡哀思之音 发,愁怨偷薄之辞兴,则人后有纵欲奢侈之意,人后有内顾自奉之 心。是以君子恶《大凌》之歌,憎《北里》之舞也。昔先王制乐,非以 纵耳目之观,崇曲房之嬿也,必通天地之气,静万物之神也;固上下 之位,定性命之真也。故清庙之歌,咏成功之绩;宾飨之诗,称礼让 之则; 百姓化其善, 异俗服其德。此淫声之所以薄, 正乐之所以贵 也。然礼与变俱, 乐与时化。故五帝不同制, 三王各异造, 非其相 反,应时变也。夫百姓安服淫乱之声,残坏先王之政;故后王必更 作乐,各宣其功德于天下,通其变,使民不倦。然但改其名目,变造 歌咏,至于乐声,平和自若。故黄帝咏"云门"之神,少昊歌凤鸟之 迹;《咸池》、《六英》之名既变,而黄钟之宫不改易。故达道之化者, 可以审乐; 好音之声者, 不足与论律也。舜命夔与典乐, 教胄子以

中和之德:'诗言志,歌咏言;声依永,律和声,八音克谐,无相夺伦, 神人以和'。又曰:'予欲闻六律、五声、八音、在治智、以出幼五言、 女听。'夫烦手淫声,汩湮心耳,乃忘平和,君子弗听。言正乐通,平 正易简,心澄气清,以闻音律,出纳五言也。夔曰:'戛击鸣球,搏拊 琴、瑟以咏,祖考来格。虞宾在位,群后德让,下管鼗鼓,合止柷敔, 笙镛以间,鸟兽跄跄,≪箫韶≫九成,凤凰来仪'。夔曰:'干」予击石 拊石,百鸟率舞'。「庶尹允谐。诗言志,歌咏言,操磬鸣琴,以声依 律,述先王之德,故祖考之神来格也。笙镛以间,正乐声希,治修无 害,故繁毓,跄跄然也。乐有节适,九成而已。阴阳调达,和气均通, 故远鸟来仪也。质而不文,四海合同,故击石 拊石,百兽 率 緩 也。〕① 言天下治平,万物得所,音声不哗,漠然未兆,故众官皆和 也。故孔子在齐闻《韶》,三月不知肉味。言至乐使人无欲,心平气 定,不以肉为滋味也。以此观之,知圣人之乐,和而已矣。自西陵、 青阳之乐,皆取之竹,听凤凰之鸣,尊长风之象,采大林之门,当时 之所不见,百姓之所希闻,故天下怀其德而化其神也。夫雅乐周 通,则万物和;质静,则听不淫;易简,则节制全神;静重,则服人心。 此先王造乐之意也。自后衰末之为乐也,其物不真,其器不固,其 制不信,取于近物,同于人间,各求其好,恣意所存。闾里之声意 高,永巷之音争先。童儿相聚,以咏富贵,刍牧负戴,以歌贱贫。君 臣之职未废,而一人怀万心也。当夏后之末,舆女万人,衣以文绣, 食以粱肉,端噪晨歌,闻之者忧戚,天下苦其殃,百姓伤其毒。殷之 季君,亦奏斯乐,酒池肉林,夜以继日。然咨嗟之音未绝,而敌国已 收其琴瑟矣。满堂而饮酒,乐奏而流涕,此非皆有忧者也,则此乐 非乐也。当王居臣之时,奏新乐于庙中,闻之者皆为之悲咽。桓帝 闻楚琴,凄怆伤心,倚扆而悲,慷慨长息,曰'善哉平」为琴若此,一

① 括号内九十字,疑属衍文。

^{· 110 ·}

而已足矣!'顺帝上恭陵,过樊衢,闻鸣鸟而悲,泣下横流,曰,'善哉鸟声!'使左右吟之,曰,'使声若是;岂不乐哉!'夫是谓以悲为乐者也。诚以悲为乐,则天下何乐之有。天下无乐,而欲阴阳调和,灾害不生,亦已难矣。乐者,使人精神平和,衰气不人,天地交泰,远物来集,故谓之乐也。今则流涕感动,嘘唏伤气,寒暑不适,庶物不遂,虽出丝竹,宜谓之哀。奈何俛仰叹息,以此称乐乎。昔季流子向风而鼓琴,听之者泣下沾襟。弟子曰:'善哉鼓琴,亦已妙矣!'季流子曰:'乐谓之善,哀谓之伤;吾为哀伤,非为善乐也。'以此言之,丝竹不必为乐,歌咏不必为善也。故墨子之非乐也,悲夫以哀为乐者。胡亥耽哀不变,故愿为黔首;李斯随哀不返,故思逐狡兔。呜呼! 君子可不鉴之哉!"

余少好音声,长而翫之。以为物有盛衰,而此无变;滋味有猒,而此不倦。可以导养神气,宣和情志,处穷独而不闷者,莫近于音声也。是故复之而不足,则吟咏以肆志;吟咏之不足,则寄言以广意。然八音之器,歌舞之象,历世才士,并为之赋。颂其体制,风流莫不相袭;称其材干,则以危苦为上;赋其声音,则以悲哀为主;美其感化,则以垂涕为贵。丽则丽矣,然未尽其理也。推其所由,似元(原)不解音声;览其旨趣,亦未达礼乐之情也。众器之中,琴德最优。故缀叙所怀,以为之赋。其辞曰:

惟椅梧之所生兮,托峻岳之崇冈。披重壤以诞载兮,参辰极而高骧。含天地之醇和兮,吸日月之休光。郁纷纭以独茂兮,飞英蕤于昊苍。夕纳景于虞渊兮,旦晞干于九阳。经千载以待价兮,寂神時而永康。且其山川形势,则盘纡隐深,确嵬岑嵓。互岭巉岩,岞崿岖崯。丹崖崄巇,青壁万寻。若乃重巘增起,偃蹇云覆。邈隆崇以极壮,蝈巍巍而特秀。蒸灵液以播云,据神渊而吐溜。尔乃颠波奔突,狂赴争流。触岩抵隈,郁怒彪休。汹涌滕(腾)薄,奋沫扬涛。滞汨澎湃,蛩蟺相纠。放肆大川,济乎中州。安回徐迈,寂尔长浮。澹乎洋洋,縈抱山丘。详观其区土之所产毓,奥宇之所宝殖。珍怪琅玕,瑶瑾翕艳。丛集累积,奂衍于其侧。若乃春兰被其东,沙棠殖其西。涓子宅其阳,玉醴涌其前。玄云荫其上,翔鸾集其巅。清

① 本篇及下篇 《声无哀乐论》 均据鲁迅手抄辑校 《嵇康集》。 文学古籍刊行社 1956 年版。

② 嵇康(223-262)。

露润其肤,惠风流其间。竦肃肃以静谧,密微微其清闲。夫所以经 营其左右者, 固以自然神丽, 而足思愿爱乐矣。于是遁世之士, 荣 期、绮季之俦,乃相与登飞梁,越幽壑;援琼枝,涉峻崿;以游乎其 下。周旋永望, 逸若凌飞。 邪睨昆仑, 俯阚海湄。 指苍梧之诏说, 临 迴江之威夷。悟时俗之多累,仰箕山之余辉。羡斯岳之弘敞,心慷 慨以忘归。情舒放而远览,接轩辕之遗音。慕老童干瑰隅,钦泰容 之高吟。顾兹梧而兴虑,思假物以托心。乃斫孙枝,准量所任;至人 摅思, 制为雅琴。乃使离子督墨, 匠石奋斤: 夔襄荐法, 般倕碧神。 锼会裛厕,朗密调均。华绘雕琢,布藻垂文。错以犀象,借以翠绿。 弦以园客之丝, 徽以锸山之玉。爰有龙凤之象, 古人之形, 伯牙挥 手,锺期听声。华容灼爚,发采扬明。何其丽也。伶伦比律,田连 操张。进御君子,新声嘐亮。何其伟也。及其初调,则角羽俱起, 宫徵相证。参发并起,上下累应。踸踔磥硌,美声将兴。固以和昶 而足耽矣。尔乃理正声,奏妙曲;扬《白雪》,发《清角》。纷淋浪以 流离, 奂淫衍而优渥。 粲奕奕而高逝, 驰岌岌以相属。 沛腾谔而竞 佛慣烦冤,纡余婆娑。陵纵播逸,霍濩纷葩。检容授节,应变合度。 兢名擅业,安轨徐步。洋洋习习,声烈遐布。含显媚以送终,流余 响于泰素。若乃高轩飞观,广夏闲房,冬夜肃清,朗月垂光。新衣 翠粲,缨徽流芳。于是器冷弦调,心闲手敏。触媲如志,唯意所拟。 初涉《淥水》,中奏《清徵》。雅昶唐尧,终咏微子。宽明弘润,优游 躇跱。拊弦安歌,新声代起。歌曰:凌扶摇兮憩瀛洲,要列子兮为 好仇。餐沆瀣兮带朝霞,眇翩翩兮薄天游。齐万物兮超自得,委性 命兮任去留。激清响以赴会,何弦歌之绸缪。于是曲引向阑,众音 将歇。改韵易调,奇弄乃发。扬和颜,攘皓腕,飞纤指以驰骛,纷偬 矗以流漫。或徘徊顾慕,拥郁抑按; 盘桓毓养, 从容秘翫。 因尔奋 逸,风骇云乱,牢落凌厉,布濩半散。丰融披离,斐铧奂烂; 英声发

越,采采粲粲。或闲声错糅,状若诡卦:双美并进,骈驰翼驱。初若 将乖,后卒同趣。或曲而不屈, 直而不倨。或相凌而不乱, 或相离而 不殊。时劫掎以慷慨,或怨嫭而踌躇。忽飘摇(覊)以轻迈,乍留联 而扶疏。或参谭繁促,复叠槽仄;从横骆驿,奔遁相逼。拊嗟累赞, 间不容息。瑰艳奇伟, 殚不可识。若乃闲舒都雅, 洪纤有宜。清和 条利,案衍陆离。穆温柔以怡怿,婉顺叙而委蛇。或乘险投会,激隙 趋危。 響若离鶥鸣清池,翼若浮鸿翔层崖。 纷文斐尾,慊缘离缅。微 风余音,靡靡猗猗。或搂搀採捋,缥缭澈洌。轻行浮弹,明廬瞭慧。疾 而不速,留而不滞。翩绵飘逸,微音迅逝。远而听之,若鸾凤和鸣戏 云中; 迫而察之, 若众葩敷荣曜春风。既丰赡以多恣, 又善始而令 终。嗟姣妙以弘丽,何变态之无穷。若夫三春之初,丽服以时,乃 携友生,以邀以嬉。涉兰圃,登重基: 背长林,翳华芝; 临清流,赋新 诗。嘉鱼龙之逸豫,乐百卉之荣滋。理重华之遗操,慨远慕而常 思。若乃华堂曲宴,密友近宾,兰肴兼御,旨酒清醇。进南荆,发西 秦,绍"陵阳",度巴人。变用杂而并起,竦众听而骇神。料殊功而 比操,岂笙籥之能伦。若次其曲引所宜,则《广陵》《止息》,《东武》 《太山》;《飞龙》《鹿鸣》;《鹍鸡》《游弦》。 更唱迭奏,声若自然。流 楚窈窕, 惩躁雪烦。下逮谣俗, 蔡氏五曲。《王昭》《楚妃》,《千里》 《别鹤》。犹有一切承闲簉乏,亦有可观者焉。然非夫旷远者,不能 与之嬉游。非夫渊静者,不能与之闲止。非夫放达者,不能与之无 故响逸,张急故声清;闲辽故音庫,弦长故徽鸣。性洁静以端理,含 至德之和平。诚可以感荡心志,而发泄幽情矣。是故怀戚者闻之, 则莫不憯懍惨凄, 愀怆伤心。含哀懊咿, 不能自禁。其康乐者闻 之,则欨愉欢释,抃舞踊溢。留连澜漫,唱噱终日。若和平者听之, 则怡养悦愉,淑穆玄真。恬虚乐古,弃事遗身。是以伯夷以之廉,颜 回以之仁,比干以之忠,尾生以之信,惠施以之辩给,万石以之讷

慎。其余触类而长,所致非一;同归殊途,或文或质。总中和以统物,咸日用而不失。其感人动物,盖亦弘矣。于时也,金石寝声,匏竹屏气。王豹辍讴,狄牙丧味。天吴踊跃于重渊,王乔披云而下坠。舞鸑鹭于庭阶,游女飘焉而来萃。感天地以致和,况跂行之众类。嘉斯器之懿茂,咏兹文以自慰。永服御而不厌,信古今之所贵。乱曰:愔愔琴德,不可测兮,体清心远,邀难极兮,良质美手,遇今世兮,纷纶翕响,冠众艺兮。识音者希,孰能珍兮?能尽雅琴,惟至人兮!

(《嵇康集》卷二)

声无哀乐论 卷 &

有秦客问于东野主人曰:"闻之前论曰:治世之音安以乐,亡国 之音哀以思。夫治乱在政,而音声应之。故哀思之情,表千金石。 安乐之象,形于管弦也。又仲尼闻《韶》,识虞舜之德;季札听弦,识 众国之风。斯已然之事,先贤所不疑也。今子独以为声无哀乐,其 理何居。若有嘉讯,请闻其说。"主人应之曰:"斯义久滞,莫肯拯 救。故令历世, 滥于名实。今蒙启导, 将言其一隅焉。夫天地合 德、万物资生。寒暑代往,五行以成。章为五色,发为五音。音声 之作,其犹臭味在于天地之间。其善与不善,虽遭浊乱,其体自若, 而无变化。岂以爱憎易操,哀乐改度哉。及宫商集比,声音克谐。 此人心至愿,情欲之所锺。古人知情不可恣,欲不可极,故因其所 用,每为之节。使哀不至伤,乐不至淫。因事与名,物有其号。哭 谓之哀,歌谓之乐。斯其大较也。然'乐云乐云,钟鼓云平哉?'哀 云哀云,哭泣云乎哉。因兹而言,玉帛非礼敬之实,歌舞非悲哀之 主也①。何以明之, 夫殊方异俗, 歌哭不同; 使错而用之, 或闻哭而 欢,或听歌而戚。然其哀乐之怀均也。今用均同之情,而发万殊之 声,斯非音声之无常哉。然声音和比,感人之最深者也。劳者歌其 事,乐者舞其功。夫内有悲痛之心,则激哀切之言。言比成诗,声 比成音。杂而咏之,聚而听之。心动于和声,情感干苦言。嗟叹未 绝,而泣涕流涟矣。夫哀心藏于内,遇和声而后发;和声无象,而哀 心有主。夫以有主之哀心,因乎无象之和声而后发,其所觉悟,惟

① "歌舞非悲哀之主也",鲁迅先生说:舞"当作哭",悲哀"疑当作哀乐"。此句当作"歌哭非哀乐之主也。"

哀而已。岂复知吹万不同,而使其自己哉。风俗之流、遂成其政。 是故国史明政教之得失,审国风之盛衰,吟咏情性,以讽其上。故 曰: 亡国之音哀以思也。夫喜、怒、哀、乐、爱、憎、惭、惧,凡此八者, 生民所以接物传情,区别有属,而不可溢者也。夫味以甘苦为称, 今以甲贤而心爱,以乙愚而情憎。则爱憎宜属我,而贤愚宜属彼也。 可以我爱而谓之爱人,我憎则谓之憎人。所喜则谓之喜味,所怒则 谓之怒味哉。由此言之,则外内殊用,彼我异名。声音自当以善恶 为主,则无关于哀乐。哀乐自当以感情而后发,则无系于声音。名 实俱去,则尽然可见矣。且季子在鲁,采诗观礼,以别风雅。岂徒 任声以决臧否哉。又仲尼闻《韶》,叹其一致,是以咨嗟,何必因声 以知虞舜之德,然后叹美邪。今粗明其一端,亦可思过半矣。"

秦客难曰:"八方异俗,歌哭万殊,然其哀乐之情,不得不见也。 夫心动于中,而声出于心。虽托之于他音,寄之于余声,善听察者, 要自觉之,不使得过也。昔伯牙理琴,而锺子知其所至(志);隶人 击磬, 而子产识其心哀; 鲁人晨哭, 而颜渊察(审)其生离; 夫数子 者,岂复假智干常音,借验于曲度哉?心戚者则形为之动,情悲者 则声为之哀。此自然相应,不可得逃。唯神明者能精之耳。夫能 者不以声众为难,不能者不以声寡为易。今不可以未遇善听,而谓 **ウ声无可察之理: 见方俗之多变, 而谓声音无哀乐也。又云: 贤不** 官言爱, 愚不官言憎。然则有贤然后爱生, 有愚然后憎起(成),但 不当其共名耳。哀乐之作,亦有由而然。此为声使我哀,音使我乐 也。 苟哀乐由声, 更为有实, 何得名实俱去邪。又云: 季札采诗观 礼,以别风雅; 仲尼叹《韶》音之一致,是以咨嗟; 是何言与(欤)。且 师襄奏操,而仲尼睹文王之容;师涓进曲,而子野识亡国之音。宁 复讲诗而后下言,习礼然后立评哉。斯皆神妙独见,不待留闻积 日,而已综其吉凶矣。是以前史以为美谈。今子以区区之近知,齐 所见而为限;无乃诬前贤之识微,负夫子之妙察邪?"

主人答曰:"难云:虽歌哭殊万,善听察者,要自觉之,不假智于 常音,不借验于曲度。锤子之徒云云县也。此为心哀者,虽谈笑鼓 舞,情欢者,虽拊膺咨嗟,犹不能御外形以自匿,诳察者于疑似也。 尔为已就声音之无常, 犹谓当有哀乐耳。又曰, 季子听声, 以知众 国之风; 师襄奏操, 而仲尼睹文王之容。案如所云, 此为文王之功 德,与风俗之盛衰,皆可象之干声音。声之轻重,可移干后世,襄涓 之巧,又能得之于将来。若然者,三皇五帝,可不绝于今日,何独数 事哉。若此果然也,则文王之操有常度,《韶》、《武》之音有定数,不 可杂以他变,操以余声也。则向所谓声音之无常,锤子之触类,于 是乎踬矣。若音声之无常,锺子之触类,其果然邪。则仲尼之识 微,季札之善听,固亦诬矣。此皆俗儒妄记,欲神其事而追为耳。 欲令天下惑声音之道,不言理自尽此,而推使神妙难知,恨不遇奇 听于当时,慕古人而叹息。斯所以大罔后生也。夫推类辨物,当先 求之自然之理。理已足,然后借古义以明之耳。今未得之于心,而 多恃前言以为谈证,自此以往,恐巧麻不能纪耳。又难云:哀乐之 作, 犹爱憎之由贤愚, 此为声使我哀, 而音使我乐。 苟哀乐由声, 更 为有实矣。夫五色有好丑,五声有善恶,此物之自然化。至于爱与 不爱,喜与不喜,人情之变,统物之理,唯止于此。然皆无豫于内, 待物而成耳。至夫哀乐自以事会,先进干心,但因和声,以自显发; 故前论已明其无常,今复假此谈以正其名号耳。不谓哀乐发于声 音,如爱憎之生于贤愚也。然和声之感人心,亦犹酝酒之发人性 也。酒以甘苦为主,而醉者以喜怒为用。其见欢戚为声发,而谓声 有哀乐,犹不可见喜怒为酒使,而谓酒有喜怒之理也。"

秦客难曰:"夫观气采色,天下之通用也。心变于内,而色应于外,较然可见。故吾子不疑。夫声音,气之激者也。心应感而动,声从变而发;心有盛衰,声亦降杀。同见役于一身,何独于声便当疑邪。夫喜怒章于[色]诊,哀乐亦宜形于声音。声音自当有哀乐,

但暗者不能识之。至锺子之徒,虽遭无常之声,则颖然独见矣。今 朦瞽面墙而不悟,离娄照秋毫于百寻,以此言之,则明暗殊能矣。 不可守咫尺之度,而疑离娄之察;执中庸之听,而猜锺子之聪。皆谓古人为妄记也。"

主人答曰:"难云:心应感而动,声从变而发,心有盛衰,乐亦降 杀。哀乐之情,必形于声音。锺子之徒,虽遭无常之声,则颖然独 见矣。必若所言,则浊质之饱,首阳之饥,卞和之冤,伯奇之悲,相 如之含怒,不瞻之怖祇,千变百态。使各发一咏之歌,同启数弹之 微,则锤子之徒,各审其情矣。尔为听声者,不以寡众易思?察情者 不以大小为异。同出一身者,斯于识之也。设使从下出,则子野之 徒、亦当复操律鸣管、以考其音。知南风之盛衰。别雅郑之淫正 也。夫食辛之与其噱,熏目之与哀泣,同用出泪,使易牙尝之,必不 言乐泪甜,而哀泪苦。斯可知矣。何者。肌液肉汗, 踧笙便出,无 主于哀乐,犹簁酒之囊漉,虽笮具不同,而酒味不变也。声俱一体 之所出,何独当含哀乐之理邪。且夫《咸池》《六茎》,《大章》《韶》 《夏》,此先王之至乐,所以动天地感鬼神者也。今必云声音莫不象 其体,而传其心;此必为至乐不可托之干瞽史,必须圣人理其弦管, 尔乃雅音得全也。舜命夔击石拊石,八音克谐,神人以和。以此言 之,至乐虽待圣人而作,不必圣人自执也。何者,音声有自然之 和,而无系于人情。克谐之音,成于金石;至和之声,得于管弦也。 夫纤豪自有形可察,故离瞽以明暗异功耳。若以水济水,孰异 之哉」"

秦客难曰:"虽众喻有隐,足招攻难,然其大理,当有所就。若 葛卢闻牛鸣,知其三生为牺;师旷吹律,知南风不竞,楚师必败;羊 舌母听闻儿啼,而知其丧家。凡此数事,皆效于上世,是以咸见录 载。推此而言,则盛衰吉凶,莫不存乎声音矣。今若复谓之诬罔, 则前言往记,皆为弃物,无用之也。以言通论,未之或安。若能明 斯所以,显其所由,设二论俱济,愿重闻之。"

主人答曰:"吾谓能反三隅者,得意而忘言。是以前论略而未 详。今复烦寻(循)环之难,敢不自一竭邪。夫鲁牛能知牺历之丧 生,哀三生之不存;含悲经年,诉怨葛卢。此为心与人同,异于兽形 耳。此又吾之所疑也。且牛非人类、无道相通。若谓鸟兽皆能有 「言], 葛卢受性独晓之, 此为解其语而论其事, 犹传译异言耳。不 为考声音而知其情,则非所以为难也。若为知者,为当触物而达, 无所不知。今且先议其所易者。请问圣人卒人胡城、当知其所言 不平? 难者必曰: 知之。知之之理,何以明之? 愿借子之难以立鉴 识之域焉。或当与关接识其言邪。将吹律鸣管校其音邪。观气采 色知其心邪? 此为知心自由气色; 虽自不言, 犹将知之。知之之 道,可不待言也。若吹律校音,以知其心。假令心志于马,而误言 鹿。察者故当由鹿以知马也。此为心不系于所言, 言或不足以证 心也。若当关接而知言,此为孺子学言于所师,然后知之,则何贵 于聪明哉。夫言,非自然一定之物。五方殊俗,同事异号,趣举一 名,以为标识耳。夫圣人穷理,谓自然可寻,无微不照。苟无微不 照,理蔽则虽近不见。故异域之言,不得强通。推此以往,葛卢之 不知牛鸣,得不全平。又难云: 师旷吹律,知南风不竞,楚多死声, 此又吾之所疑也。请问师旷吹律之时,楚国之风邪?则相去千里,声 不足达; 若正识楚风, 来入律中邪。则楚南有吴越, 北有梁宋, 苟 不见其原,奚以识之哉。凡阴阳愤激,然后成风;气之相感,触地而 发;何得发楚庭,来入晋乎。且又律吕分四时之气耳,时至而气动, 律应而灰移。皆自然相待,不假人以为用也。上生下生,所以均无 声之和, 叙刚柔之分也。然律有一定之声, 虽冬吹中吕, 其音自满 而无损也。今以晋人之气,吹无韵之律,楚风安得来人其中,与为 盈缩邪。风无形,声与律不通,则校理之地,无取于风律,不其然 平。岂独师旷博物多识,自有以知胜败之形,欲固众心,而托以神 微。若伯常骞之许景公寿哉。又难云:羊舌母听闻儿啼,而审其丧家。复请问何由知之。为神心独悟暗语而当邪。尝闻儿啼,若此其大而恶,今之啼声,似昔之啼声也,故知其丧家邪。若神心独悟暗语之当,非理之所得也。虽曰听啼,无取验于儿声矣。若以尝闻之声为恶,故知今啼当恶,此为以甲声为度,以校乙之啼也。夫声之于音,犹形之于心也。有形同而情乖,貌殊而心均者;何以明之。圣人齐心等德,而形状不同也。苟心同而形异,则何言乎观形而知心哉。且口之激气为声,何异于籁籥纳气而鸣邪。啼声之善恶,不由儿口吉凶,犹琴瑟之清浊,不在操者之工拙也。心能辨理善谭,而不能令内籥调利,犹瞽者能善其曲度,而不能令器必清和也。器不假妙瞽而良,籥不因慧心而调。然则心之与声,明为二物。二物诚然,则求情者不留观于形貌,揆心者不借听于声音也。察者欲因声以知心,不亦外乎。今晋母未得之于考试,而专信昨日之声,以证今日之啼,岂不误中于前世,好奇者从而称之哉。"

秦客难曰:"吾闻败者不羞走,所以全也。今吾心未厌,而言于难,复更从其余。今平和之人,听筝笛批把,则形躁而志越。闻琴瑟之音,则听静而心闲。同一器之中,曲用每殊,则情随之变。奏秦声则叹羡而慷慨,理齐、楚则情一而思专,肆姣弄则欢放而欲惬,心为声变,若此其众。苟躁静由声,则何为限其哀乐。而但云至和之声,无所不感;托大同于声音,归众变于人情。得无知彼不明此哉?"

主人答曰:"难云:批把筝笛,令人躁越。又云:曲用每殊,而情随之变。此诚所以使人常感也。批把筝笛,闲(间)促而声高,变众而节数,以高声御数节,故使形躁而志越。犹铃铎警耳,而钟鼓骇心。故闻鼓鼙之音,则思将帅之臣;盖以声音有大小,故动人有猛静也。琴瑟之体,闲(间)辽而音埤,变希而声清,以埤音御希变,不虚心静听,则不尽清和之极。是以听静而心闲也。夫曲度不同,亦

犹殊器之音耳。齐、楚之曲多重、故情一;变妙、故思专。 姣弄之音, 挹众声之美, 会五音之和, 其体赡而用博, 故心役于众理; 五音会, 故欢放而欲惬。然皆以单、复、高、埤、善、恶为体,而人情以躁静专 散为应。譬犹游观于都肆,则目滥而情放; 留察于曲度,则思静而 容端。此为声音之体,尽于舒疾;情之应声,亦止于躁静耳。夫曲用 每殊,而情之处变,犹滋味异美,而口辄识之也。五味万殊,而大同 于美; 曲变虽众, 亦大同于和。美有甘, 和有乐; 然随曲之情, 尽平 和域; 应美之口, 绝于甘境。安得哀乐于其间哉。然人情不自同, 各师所解,则发其所怀。若言平和,哀乐正等,则无所先发,故终得 躁静。若有所发,则是有主于内,不为平和也。以此言之,躁静者, 声之功也: 哀乐者, 情之主也: 不可见声有躁静之应, 因谓哀乐皆由 声音也。且声音虽有猛静,各有一和,和之所感,莫不自发。何以 明之, 夫会宾盈堂,酒酣奏琴,或忻然而欢,或惨尔而泣。非进哀 于彼,导乐于此也。其音无变于昔,而欢戚并用,斯非吹万不同邪? 夫唯无主于喜怒,亦应无主于哀乐,故欢戚俱见。若资不固之音, 含一致之声,其所发明,各当其分。则焉能兼御群理,总发众情邪? 由是言之: 声音以平和为体,而感物无常; 心志以所俟为主,应感而 发。然则声之与心,殊涂异轨,不相经纬;焉得染太和于欢戚,缀虚 名于哀乐哉?"

秦客难曰:"论云:猛静之音,各有一和。和之所感,莫不自发。 是以酒酣奏琴,而欢戚并用。此言偏并之情,先积于内,故怀欢者 值哀音而发,内戚者遇乐声而感也。夫声音自当有一定之哀乐,但 声化迟缓,不可仓卒,不能对易。偏重之情,触物而作。故令哀乐 同时而应耳。虽二情俱见,则何损于声音有定理邪?"

主人答曰:"难云: 哀乐自有定声, 但偏重之情, 不可卒移。故 怀戚者遇乐声而哀耳。即如所言, 声有定分; 假使《鹿鸣》重奏, 是 乐声也; 而令戚者遇之, 虽声化迟缓, 但当不能便变令欢耳。何得 更以哀耶? 犹一爝之火,虽未能温一室,不宜复增其寒矣。夫火非隆寒之物,乐非增哀之具也。理弦高堂,而欢戚并用者,直至和之发滞导情,故令外物所感得自尽耳。难云:偏重之情,触物而作,故令哀乐同时而应耳。夫言哀者,或见机杖而泣,或睹舆服而悲。徒以感人亡而物存,痛事显而形潜。其所以会之,皆自有由,不为触地而生哀,当席而泪出也。今无机杖以致感,听和声而流涕者,斯非和之所感,莫不自发也?"

秦客难曰:"论云:酒酣奏琴,而欢戚并用。欲通此言,故答以偏情,感物而发耳。今且隐心而言,明之以成效。夫人心不欢则戚,不戚则欢,此情志之大域也。然泣是戚之伤,笑是欢之用也。盖闻齐楚之曲者,惟睹其哀涕之容,而未曾见笑噱之貌,此必齐楚之曲,以哀为体,故其所感,皆应其度。岂徒以多重而少变,则致精壹而思专邪。若诚能致泣,则声音之有哀乐,断可知矣。"

主人答曰:"虽人情感于哀乐,哀乐各有多少。又哀乐之极,不必同致也。夫小哀容坏,甚悲而泣;哀之方也。小欢颜悦,至乐而笑;乐之理也。何以言之?夫至亲安豫,则怡然自若,所猖狂〔自得〕也。及在危急,仅然后济,则抃不及儛。由此言之,儛之不若向之自得,岂不然哉?至夫笑嚎,虽出于欢情,然自以理成;又非自然应声之具也。此为乐之应声,以自得为主;哀之应感,以垂涕为故。垂涕则形动而可觉,自得则神合而无变。是以观其异,而不识其同;别其外,而未察其内耳。然笑嚎之不显于声音,岂独齐楚之曲邪?今不求乐于自得之域,而以无笑噱谓齐楚体哀,岂不知哀而不识乐乎?"

秦客问曰:"仲尼有言:移风易俗,莫善于乐。即如所论,凡百哀乐,皆不在声,则移风易俗,果以何物邪?又古人慎靡靡之风,抑滔〔慆〕耳之声。故曰:放郑声,远佞人。然则郑卫之音①,击鸣球以

① 鲁迅先生校语:"案此下当有夺文"。

1

协神人,敢问郑雅之体,隆弊所极,风俗移易,奚由而济,愿重闻之, 以悟所疑。"

主人应之曰:"夫言移风易俗者,必承衰弊之后也。古之王者, 承天理物,必崇简易之教,御无为之治。君静干上,臣顺干下; 玄化 潜通,天人交泰。枯槁之类,浸育灵液,六合之内,沐浴鸿流,荡涤 尘垢,群生安逸,自求多福,默然从道,怀忠抱义,而不觉其所以然 也。和心足于内,和气见于外;故歌以叙志,儛以官情。然后文之 以采章,照之以风雅,播之以八音,感之以太和; 导其神气,养而就 之;迎其惰性,致而明之;使心与理相顺,气与声相应;合乎会通,以 济其美。故凯乐之情,见于金石;含弘光大,显于音声也。若以往 则万国同风,芳荣济茂,馥如秋兰;不期而信,不谋而成,穆然相爱; 犹舒锦布彩,灿炳可观也。大道之隆,莫盛于兹,太平之业,莫显于 此。故曰:移风易俗,莫善于乐。然乐之为体,以心为主。故无声 之乐,民之父母也。至八音会谐,人之所悦,亦总谓之乐。然风俗 移易,本不在此也。夫音声和比,人情所不能已者也。是以古人知 情不可放,故抑其所遁;知欲不可绝,故自以为致。故为可奉之礼, 制可导之乐。口不尽味,乐不极音; 揆终始之宜,度贤愚之中; 为之 检则,使远近同风,用而不竭,亦所以结忠信,著不迁也。故乡校庠 塾亦随之。使丝竹与俎豆并存,羽毛与揖让俱用,正言与和声同发。 使将听是声也,必闻此言;将观是容也,必崇此礼。礼犹宾主升降, 然后酬酢行焉。于是言语之节,声音之度,揖让之仪,动止之数,进 退相须, 共为一体。君臣用之于朝, 庶士用之于家。少而习之, 长 而不怠,心安志固,从善日迁,然后临之以敬,持之以久而不变,然 后化成。此又先王用乐之意也。故朝宴聘享,嘉乐必存;是以国史 采风俗之盛衰, 寄之乐工, 宣之管弦, 使言之者无罪, 闻之者足以 诫。此又先王用乐之意也。若夫郑声,是音声之至妙。妙音感人, 犹美色惑志, 耽槃荒酒, 易以丧业。自非至人, 孰能御之。先王恐 天下流而不反,故具其八音,不读其声,绝其大和,不穷其变。捐窈窕之声,使乐而不淫。犹大羹不和,不极勺药之味也。若流俗浅近,则声不足悦,又非所欢也。若上失其道,国丧其纪,男女奔随,淫荒无度;则风以此变,俗以好成。尚其所志,则群能肆之;乐其所习,则何以诛之。托于和声,配而长之,诚动于言,心感于和,风俗壹成,因而名之。然所名之声,无中于淫邪也。淫之与正同乎心,雅郑之体,亦足以观矣。"

(《嵇康集》卷五)

抱 朴 子^①(辑录) 葛 洪^②

……夫五声八音,清商流徵,损聪者也。鲜华艳采,或丽炳烂,伤明者也。宴安逸豫,清醪芳醴,乱性者也。冶容媚姿,铅华素质,伐命者也。其唯玄道,可与为永。不知玄道者,虽顾盼为杀生之神器,唇吻为兴亡之关键,椅榭俯临乎云雨,藻室华绿以参差,组帐雾合,罗幬云离,西、毛陈于闲房,金觞华以交驰,清弦嘈喷以齐唱,郑舞纷猱以蜲蛇,哀箫鸣以凌霞,羽盖浮于涟漪,掇芳华于兰林之囿,弄红萜于积珠之池,登峻则望远以忘百忧,临深则俯擎以遗朝饥,入宴千门之混熀,出驱朱轮之华仪,然乐极则哀集,至盈必有亏,故曲终则叹发,宴罢则心悲也。实理势之攸召,犹影响之相归也。……

(内篇畅玄卷一)

① 据商务印书馆《四部从刊》本。

② 葛洪(283-363)。

列 子^①(辑录) _{张 法}②

……领巴鼓琴而鸟飞鱼跃。郑师文闻之,弃家从师襄游。柱 指钩弦,三年不成章。师襄曰:"子可以归矣。"师文舍其琴叹曰: "文非弦之不能钩,非章之不能成。文所存者不在弦,所志者不在 声。内不得于心,外不应于器,故不敢发手而动弦。且小假之,以 观其后。"无几何,复见师襄。师襄曰:"子之琴何如?"师文曰:"得 之矣,请尝试之。"于是当春而叩商弦,以召南吕,凉风揔至,草木成 实。及秋而叩角弦,以激夹钟,温风徐迴,草木发荣。当夏而叩羽 弦,以召黄钟,霜雪交下,川池暴冱。及冬而叩徵弦,以激蕤宾,阳 光炽烈,坚冰立散。将终命宫而揔四弦,则景风翔,庆云浮,甘露 降,澧泉涌。师襄乃抚心高蹈曰:"微矣子之弹也,虽师旷之清角, 邹衍之吹律,亡以加之;彼将挟琴执管而从子之后耳。"

薛谭学讴于秦青,未穷青之技,自谓尽之,遂辞归。秦青弗止, 饯于郊衢,抚节悲歌,声振林木,响遏行云。薛谭乃谢,求反,终身 不敢言归。

秦青顾谓其友曰:"昔韩娥东之齐,匮粮,过雍门,鬻歌假食,既 去而余音绕梁栅,三日不绝,左右以其人弗去。过逆旅,逆旅人辱 之,韩娥因曼声哀哭,一里老幼悲愁,垂涕相对,三日不食。遽而追 之,娥还复为曼声长歌,一里长幼喜乐抃舞,弗能自禁,忘向之悲 也,乃厚赂发之。故雍门之人至今善歌哭,效娥之遗声。

伯牙善鼓琴, 锺子期善听。伯牙鼓琴志在登高山, 锺子期曰:

① 据商务印书馆《四部丛刊》本。《列子》一般认为系注者张湛所伪托。

② 张谌主要活动年代在西晋与东晋之交(317年前后)。

"善哉,峨峨兮若泰山!"志在流水,锺子期曰:"善哉,洋洋兮若江河!"伯牙所念,锺子期必得之。伯牙游于泰山之阴,卒逢暴雨,止于岩下,心悲,乃援琴而鼓之,初为霖雨之操,更造崩山之音。曲每奏,锺子期辄穷其趣。伯牙乃舍琴而叹曰:"善哉善哉子之听! 夫志想象,犹吾心也,吾于何逃声哉!"

(汤问篇)

"王僧虔论乐"

孝武大明中,以《韓》《拂》杂舞合之锺(钟)石,施之殿庭。顺帝 昇(升)明二年,尚书令王僧虔上表言之,并论三调哥(歌)曰:"臣闻 《风》《雅》之作,由来尚矣。大者系乎兴衰,其次者著于率舞。在于 心而木石感,铿锵奏而国俗移。故郑相出郊,辩声知戚;延陵入聘, 观乐知风。是则音不妄启,曲岂徒奏。哥(歌)倡既设,休戚已徵,清 浊是均, 山琴自应。斯乃天地之灵和, 升降之明节。今帝道四达, 礼 乐交通,诚非寡陋所敢裁酌。伏以三古缺闻,六代潜响,舞咏与日月 偕湮,精灵与风云俱灭。追余操而长怀,抚遗器而太息,此则然矣。 夫锺县之器,以雅为用;凯容之制,八佾为体。故羽籥击拊,以相谐 应,季氏获诮,将在干此。今总章旧佾二八之流,袿服既殊,曲律亦 异,推今校古,皎然可知。又哥锺一肆,克谐女乐,以哥为称,非雅 器也。大明中,即以宫县合和《鞞》《拂》,节数虽会,虑乖雅体,将来 知音,或讥圣世。若谓锺舞已谐,不欲废罢,别立哥锺,以调羽佾, 止干别宴,不关朝享,四县所奏,谨依雅则,斯则旧乐前典,不坠于 地。臣昔已制哥麐,犹在乐官,具以副锺,配成一部,即义沿理,如 或可安。又今之《清商》,实由铜雀,魏氏三祖,风流可怀,京、洛相 高,江左弥重。谅以金县干威,事绝于斯。而情变听改,稍复零落。 十数年间,亡者将半。自顷家竞新哇,人尚谣俗,务在噍危,不顾律 纪,流宕无涯,未知所极,排斥典正,崇长烦淫。士有等差,无故不 可以其礼; 乐有攸序,长幼不可以共闻。故喧醜之制,日盛于廛里,

① 辑自《宋书·志·乐一》,据中华书局点校本《宋书》。宋顺帝升明二年为公元 478年。

风味之韵,独尽于衣冠。夫川震社亡,同灾异戒,哀思靡漫,异世齐欢。咎徵不殊,而欣畏并用,窃所未譬也。方今尘静畿中,波恬海外,《雅》《颂》得所,实在兹辰。臣以为宜命典司,务勤课习,缉理旧声,选相开晓,凡所遗漏,悉使补拾。曲全者禄厚,艺敏者位优,利以动之,则人思自劝,风以靡之,可不训自革,反本还源,庶可跂踵。"

文 心 雕 龙^①(辑录)刘 熙^②

乐 府 第 七

乐府者,声依永,律和声也。钧天九奏,既其上帝; 葛天八阙,爰乃皇时。自《咸》《英》以降,亦无得而论矣。至于涂山歌于候人,始为南音;有城谣乎飞燕,始为北声; 夏甲叹于东阳,东音以发; 殷整思于西河,西音以兴; 音声推移,亦不一概矣。匹夫庶妇,讴吟土风,诗官采言,乐盲被律,志感丝篁,气变金石。是以师旷觇风于盛衰,季札鉴微于兴废,精之至也。

夫乐本心术,故响浃肌髓,先王慎焉,务塞淫濫。敷训胄子,必歌九德,故能情感七始,化动八风。自雅声浸微,溺音腾沸,秦燔乐经,汉初绍复,制氏纪其铿锵,叔孙定其容与,于是《武德》兴乎高祖,《四时》广于孝文,虽摹《韶》《夏》,而颇袭秦旧,中和之响,阒其不还。暨武帝崇礼,始立乐府,总赵代之音,撮齐楚之气,延年以曼声协律,朱马以骚体制歌,《桂华》杂曲,丽而不经,《赤雁》群篇,靡而非典,河间荐雅而罕御,故汲黯致讥于《天马》也。至宣帝雅颂,诗效《鹿鸣》。迩及元成,稍广淫乐,正音乖俗,其难也如此。暨后郊庙,惟杂雅章,辞虽典文,而律非夔旷。至于魏之三祖,气爽才丽,宰割辞调,音靡节平。观其《北上》众引,"秋风"列篇,或述酣宴,或伤覊成,志不出于淫荡,辞不离于哀思,虽三调之正声,实《韶》《夏》之郑曲也。逮于晋世,则傅玄晓音,创定雅歌,以咏祖宗;

① 据范文澜《文心雕龙注》(人民文学出版社1960年版)。

② 刘勰主要活动年代在南朝梁天监初(约502前后)。

张华新篇,亦充庭万。然杜夔调律,音奏舒雅,荀勖改悬,声节哀急,故阮咸讥其离声,后人验其铜尺;和乐精妙,固表里而相资矣。故知诗为乐心,声为乐体,乐体在声,瞽师务调其器;乐心在诗,君子宜正其文。好乐无荒,晋风所以称远;伊其相谑,郑国所以云亡。故知季札观辞,不直听声而已。

若夫艳歌婉娈,怨志诀绝,淫辞在曲,正响焉生! 然俗听飞驰, 职竞新异,雅咏温恭,必欠伸鱼睨; 奇辞切至,则拊髀雀跃; 诗声俱 郑,自此阶矣。凡乐辞曰诗,诗声曰歌,声来被辞,辞繁难节; 故陈 思称左延年闲于增损古辞,多者则宜减之,明贵约也。观高祖之咏 《大风》,孝武之叹"来迟",歌童被声,莫敢不协; 子建士衡,成有佳 篇,并无诏伶人,故事谢丝管,俗称乖调,盖未思也。至于斩伎鼓 吹,汉世铙挽,虽戎丧殊事,而并总入乐府,缪袭所致(制),亦有可 算焉。昔子政品文,诗与歌别,故略具乐篇,以标区界。

赞曰:八音摛文,树辞为体。讴吟坰野,金石云陛。《韶》响难 追,郑声易启。岂惟观乐,于焉识礼。

通变第二十九

夫设文之体有常,变文之数无方,何以明其然耶。凡诗赋书记,名理相因,此有常之体也;文辞气力,通变则久,此无方之数也。名理有常,体必资于故实;通变无方,数必酌于新声;故能骋无穷之路,饮不竭之源。然绠短者衔渴,足疲者辍途,非文理之数尽,乃通变之术疏耳。故论文之方,譬诸草木,根干丽土而同性,臭味晞阳而异品矣。是以九代咏歌,志合文则。黄歌"断竹",质之至也;唐歌在昔(蜡),则广于黄世;虞歌"卿云",则文于唐时;夏歌"雕墙",缛于虞代;商周篇什,丽于夏年。至于序志述时,其揆一也。……

声律第三十三

夫音律所始,本于人声者也。声含宫商,肇自而气,先王因之, 以制乐歌。故知器写人声,声非学〔效〕器者也。故言语者,文章 〔关键〕,神明枢机,吐纳律吕,唇吻而已。古之教歌,先揆以法,使 疾呼中宫,徐呼中徵。夫商徵响高,宫羽声下;抗喉矫舌之差,攒唇 激齿之异, 廉肉相准, 皎然可分。今操琴不调, 必知改张, 摘文乖 张,而不识所调。响在彼弦,乃得克谐,声萌我心,更失和律,其故 何哉? 良由内听难为聪也。故外听之易,弦以手定,内听之难,声 与心纷,可以数求,难以辞逐。凡声有飞沈,响有双叠,双声隔字而 每舛,叠韵杂句而必睽; 沈则响发而断,飞则声飏不还,并辘轳交 往,逆鳞相比,迂其际会,则往蹇来连,其为疾病,亦文家之吃也。 夫吃文为患,生于好诡,逐新趣异,故喉唇纠纷;将欲解结,务在刚 断。左碍而寻右,末滞而讨前,则声转于吻,玲玲如振玉;辞靡于 耳,累累如贯珠矣。是以声画妍蚩,寄在吟咏,吟咏滋味,流于字 句。气力穷于和韵。异音相从谓之和,同声相应谓之韵。韵气一 定,故余声易遣;和体抑扬,故遗响难契。属笔易巧,选和至难,缀 文难精,而作韵甚易,虽纤意曲变,非可缕言,然振其大纲,不出 兹论。

若夫宫商大和,譬诸吹籥;翻廻取均,颇似调瑟。瑟资移柱,故 有时而乖贰;籥含定管,故无往而不壹。陈思潘岳,吹籥之调也;陆 机左思,瑟柱之和也。概举而推,可以类见。

又诗人综韵,率多清切,楚辞辞楚,故讹韵实繁。及张华论韵,谓士衡多楚,文赋亦称知楚不易,可谓衔灵均之声余,失黄钟之正响也。凡切韵之动,势若转圜,讹音之作,甚于枘方,免乎枘方,则无大过矣。练才洞鉴,剖字钻响,识疏阔略,随音所遇,若长风之过

籁,南郭之吹竽耳。古之佩玉,左宫右徵,以节其步,声不失序。音 以律文,其可忘哉。

赞曰: 标情务远, 比音则近。吹律胸臆, 调锺唇吻。声得盐梅, 响滑榆槿。割弃支离, 宫商难隐。

时序第四十五

时运交移,质文代变,古今情理,如可言乎! 昔在陶唐,德盛化钧,野老吐"何力"之谈,郊童含"不识"之歌。有虞继作,政阜民暇,"薰风"诗于元后,"烂云"歌于列臣。尽其美者何? 乃心乐而声泰也。至大禹敷土,九序咏功,成汤圣敬,"猗欤"作颂。逮姬文之德盛,《周南》勤而不怨;大王之化淳,《邠风》乐而不淫。幽厉昏而《板荡》怒,平王微而《黍离》哀。故知歌谣文理,与世推移,风动于上,而波震于下者。……

"陈仲儒论乐"

先是,有陈仲儒者自江南归国,颇闲乐事,请依京房,立准以调 八音。神龟二年夏,有司问状。仲儒言:

"前被符,问:'京房准定六十之律,后虽有器存,晓之者尠。至熹平末,张光等犹不能定弦之急缓,声之清浊。仲儒授自何师,出何典籍,而云能晓?'但仲儒在江左之日,颇爱琴,又尝览司马彪所著《续汉书》,见京房准术,成数昞然,而张光等不能定。仲儒不量庸昧,窃有意焉。遂竭愚思,钻研甚久。虽未能测其机妙,而于声韵,颇有所得。度量衡历,出自黄锺,虽造管察气,经史备有,但气有盈虚,黍有巨细,差之毫鹜,失之千里。自非管应时候,声验吉凶,则是非之原,谅亦难定。此则非仲儒浅识所敢闻之。至于准者,本以代律,取其分数,调校乐器,则宫商易辨。若尺寸小长,则六十宫商相与微浊;若分数加短,则六十徵羽类皆小清。语其大本,居然微异。至于清浊相宜,谐合歌管,皆得应合。虽积黍验气,取声之本,清浊谐会,亦须有方。若闲准意,则辨五声清浊之韵;若善等术,则知五调调音之体。参此二途,以均乐器,则自然应和,不相夺伦。如不练此,必有乖谬。

"案后汉顺帝阳嘉二年冬十月,行礼辟雍,奏应钟,始复黄钟作乐,器随月律。是为十二之律必须次第为宫,而商、角、徵、羽以类从之。寻调声之体,宫商宜浊,徵羽用清。若依公孙崇止以十二律声,而云还相为宫,清浊悉足,非唯未练五调调器之法,至于五声次

① 辑自《魏书·乐志》。据中华书局点校本。北魏孝明帝神龟二年 为公 元 519 年。

第,自是不足。何者。黄钟为声气之元,其管最长,故以黄钟为宫,太蔟为商,林钟为徵,则宫徵相顺。若均之八音,犹须错采众声,配成其美。若以应钟为宫,大吕为商,蕤宾为徵,其商、角、羽并无其韵。若以中吕为宫,则十二律内全无所取。何者。中吕为十二之穷,变律之首。依京房书,中吕为宫,乃以去灭为商,执始为徵,然后方韵。而崇乃以中吕为宫,犹用林钟为商,黄钟为徵,何由可谐,仲儒以调和乐器,文饰五声,非准不妙。若如严嵩父子,心赏清浊,是则为难。若依案见尺作准,调弦缓急,清浊可以意推耳。

"但音声精微, 史传简略, 旧《志》唯云准形如瑟十三弦, 隐间九 尺,以应黄钟九寸,调中一弦,令与黄钟相得。案画以求其声,遂不 辨准须柱以不。柱有高下,弦有粗细,余十二弦复应若为。致令揽 者望风拱手。又案房准九尺之内为一十七万七千一百四十七分, 一尺之内为万九千六百八十三分,又复十之,是为于准一寸之内亦 为万九千六百八十三分。然则于准一分之内,乘为二千分,又为小 分,以辨强弱。中间至促,虽复离朱之明,犹不能穷而分之。虽然, 仲儒私曾考验,但前却中柱,使入准常尺分之内,则相生之韵已自 应合。分数既微,器官精妙。其准面平直,须如停水;其中弦一柱, 高下须与二头临岳一等,移柱上下之时,不使离弦,不得举弦。又 中弦粗细,须与琴宫相类。中弦须施轸如琴,以轸调声,令与黄钟 一管相合。中弦下依数尽出六十律清浊之节。其余十二弦,须施 柱如筝。又凡弦皆须预张,使临时不动,即于中弦案尽一周之声, 度著十二弦上。然后依相生之法,以次运行,取十二律之商徵。商 徵既定,又依琴五调调声之法,以均乐器。其瑟调以官为主,清调 以商为主,平调以角为主。五调各以一音为主,然后错采众声以文 饰之,方如锦绣。

"自上代来消息调准之方并史文所略,出仲儒所思。若事有乖此,声则不和。仲儒寻准之分数,精微如彼,定弦缓急,艰难若此。

而张光等亲掌其事,尚不知藏中有准。既未识其器,又焉能施弦也。且燧人不师资而习火,延寿不束脩以变律,故云'知之者欲教而无从,心达者体知而无师'。苟有一毫所得,皆关心抱,岂必要经师授,然后为奇哉。但仲儒自省肤浅,才非一足,正可粗识音韵,才言其理致耳。"

"长孙稚、祖莹论乐"®

普泰中,前废帝诏录尚书长孙稚、太常卿祖莹营理金石。永熙二年春,稚、莹表曰:

"臣闻安上治民莫善于礼,移风易俗莫善于乐。《易》曰:'先王以作乐崇德,殷荐之上帝,以配祖考。'《书》曰:'戛击鸣球,拊搏琴瑟以咏,祖考来格。'诗言志,律和声,敦叙九族,平章百姓,天神于焉降歆,地祇可得而礼。故乐以象德,舞以象功,干戚所以比其形容,金石所以发其歌颂,荐之宗庙则灵祇飨其和,用之朝廷则君臣协其志,乐之时义大矣哉! 虽复沿革异时,晦明殊位,周因殷礼,百世可知也。

"太祖道武皇帝应图受命,光宅四海,义合天经,德符地纬,九 戎荐举,五礼未详。太宗、世祖重辉累耀,恭宗、显祖诞降丕基,而犹 经营四方,匪遑制作。高祖孝文皇帝承太平之绪,纂无为之运,帝图 既远,王度维新。太和中命故中书监高闾草创古乐,闾寻去世,未 就其功。闾亡之后,故太乐令公孙崇续修遗事,十有余载,崇敷奏 其功。时太常卿刘芳以崇所作,体制差舛,不合古义,请更修营,被 旨听许。芳又厘综,久而申呈。时故东平王元匡共相论驳,各树朋 党,争竞纷纶,竟无底定。及孝昌已后,世属艰虞,内难孔殷,外敌 滋甚。永安之季,胡贼入京,燔烧乐库,所有之钟悉毕敌手,其余磬 石,咸为灰烬。普泰元年,臣等奉敕营造乐器,责问太乐前来郊丘 悬设之方,宗庙施安之分。太乐令张乾龟答称芳所造六格:北厢黄

① 辑自《魏书·乐志》。据中华书局点校本。北魏孝武帝永熙二年 为公元 533 年。

钟之均,实是夷则之调,其余三厢,宫商不和,共用一笛,施之前殿, 乐人尚存;又有姑洗、太簇二格,用之后宫,检其声韵,复是夷则,于 今尚在。在芳一代硕儒,斯文攸属,讨论之日,必应考古,深有明 证。乾龟之辨,恐是历岁稍远,伶官失职。芳久殂没,遗文消毁,无 可遵访。臣等谨详《周礼》,分乐而序之。

"凡乐: 圜钟为宫,黄钟为角,太簇为徵,姑洗为羽,若乐六变, 天神可得而礼; 函钟为宫,太簇为角,姑洗为徵, 南吕为羽, 若乐八 变,地示可得而礼;黄钟为宫,大吕为角,太簇为徵,应钟为羽,若乐 七变,人鬼可得而礼。至于布置,不得相生之次,两均异宫,并无商 声,而同用一徵。《书》曰: '于! 予击石拊石,百兽率舞,八音克谐, 神人以和。'计五音不具,则声岂成文;七律不备,则理无和韵。八 音克谐,莫晓其旨。圣道幽玄,微言已绝,汉魏已来,未能作者。案 《春秋》鲁昭公二十年,晏子言于齐侯曰:'先王之济五味,和五声 也,以平其心,成其政也。声亦如味,一气、二体、三类、四物、五声、 六律、七音、八风、九歌,以相成也。'服子慎注云。'黄钟之均, 黄钟 为宫,太簇为商,姑洗为角,林钟为徵,南吕为羽,应钟为变宫,蕤宾 为变徵。一悬十九钟,十二悬二百二十八钟,八十四律。'即如此 义,乃可寻究。今案《周礼》小胥之职,乐悬之法,郑注云:'钟磬编 悬之,二八十六枚。'汉成帝时,犍为郡于水滨得古磬十六枚献呈, 汉以为瑞,复依《礼图》编悬十六。去正始中,徐州薛城送玉磬十六 枚,亦是一悬之器。检太乐所用钟、磬,各一悬十四,不知何据。魏 侍中缪袭云: '《周礼》以六律,六同、五声、八音、六舞,大合乐以致 鬼神。今之乐官,徒知古有此制,莫有明者。又云:乐制既亡.汉成 谓《韶》《武》、《武德》、《武始》、《大钧》可以备四代之乐。奏黄钟、舞 《文始》,以祀天地;奏太蔟,舞《大武》,以祀五郊、明堂;奏姑洗,舞 《武德》,巡狩以祭四望山川;奏蕤宾,舞《武始》,《大钧》,以祀宗庙。 祀圆丘、方泽,群庙祫祭之时则可兼舞四代之乐。汉亦有《云翘》、

《育命》之舞,罔识其源,汉以祭天。魏时又以《云翘》兼祀圆丘天郊,《育命》兼祀方泽地郊。今二舞久亡,无复知者。臣等谨依高祖所制尺,《周官·考工记》凫氏为钟鼓之分,磬氏为磬倨句之法,《礼运》五声十二律还相为宫之义,以律吕为之剂量,奏请制度,经纪营造。依魏晋所用四厢宫悬,钟、磬各十六悬,埙、箎、筝、筑声韵区别。盖理三稔,放兹始就,五声有节,八音无爽,笙镛和合,不相夺伦,元日备设,百僚允瞩。虽未及万古之徽蹤,实是一时之盛事。

"窃惟古先哲王制礼作乐,各有所称:黄帝有《咸池》之乐,颛顼 作《承云》之舞,《大章》、《大韶》、尧舜之异名、《大夏》、《大濩》、禹汤 之殊称,周言《大武》,秦曰《寿人》。及焚书绝学之后,旧章沦灭,无 可准据。汉髙祖时、叔孙通因秦乐人制宗庙乐、迎神庙门奉《嘉 至》,皇帝入庙门奏《永至》,登歌再终,下奏《休成》之乐,通所作也。 高祖六年,有《昭容乐》、《礼容乐》,又有《房中祠乐》,高祖唐川夫人 所作也。孝惠二年,使乐府令夏侯宽备其箫管,更名《安世乐》。高 祖庙奏《武德》、《文始》、《五行》之舞,孝文庙奏《昭德》、《文始》、《四 时》、《五行》之舞,孝武庙奏《盛德》、《文始》、《四时》、《五行》之舞。 《武德》者,高祖四年作也,以象天下乐己行武以除乱也:《文始》舞 者,舜《韶》舞,高祖六年更名曰《文始》,以示不相袭也;《五行》舞 者,本周舞,秦始皇二十六年更名曰《五行》也;《四时》舞者,孝文所 作,以明天下之安和也。孝景以《武德》舞为《昭德》,孝官以《昭德》 舞为《盛德》。光武庙奏《大武》,诸帝庙并奏《文始》、《五行》、《四时》 之舞。及卯金不祀,当涂勃兴,魏武庙乐改云《韶武》,用虞之《大 韶》,周之《大武》,总号《大钧》也。曹失其鹿,典午乘时,晋氏之乐 更名《正德》。自昔帝王,莫不损益相缘,徽号殊别者也。而皇魏统 天百三十载,至于乐舞,迄未立名,非所以聿宣皇风, 童明功德, 赞 扬懋规,垂范无穷者矣。

案今后宫飨会及五郊之祭,皆用两悬之乐,详览先诰,大为纰·140·

缪。古礼,天子宫悬,诸侯轩悬,大夫判悬,士特悬。皇后礼数,德合王者,名器所资,岂同于大夫哉?《孝经》言:'严父莫大于配天。'宗祀文王于明堂,以配上帝,即五精之帝也。《礼记·王制》:'庶羞不逾牲,燕衣不逾祭服',《论语》:'禹卑宫室,尽力于沟洫','恶衣食致美于黻冕',何有殿庭之乐过于天地乎?失礼之差,远于千里。昔汉孝武帝东巡狩封禅,还祀太一于甘泉,祭后土于汾阴,皆尽用,明其无减。普泰元年,前侍中臣孚及臣莹等奏求造十二悬,六悬裁讫,续复营造,寻蒙旨判。今六悬既成,臣等思钟磬各四,瓠鹤相从,十六格宫悬已足,今请更营二悬,通前为八,宫悬两具矣。一具备于太极,一具列于显阳。若圆丘、方泽、上辛、四时五郊、社稷诸祀,虽时日相交,用之无阙。孔子曰:周道四达,礼乐交通。《传》曰:'鲁有禘乐,宾祭用之。'然则天地宗庙同乐之明证也。其升斗权量,当时未定,请即刊校,以为长准。

"周有六代之乐,《云门》、《咸池》、《韶》、《夏》、《濩》、《武》,用于郊庙,各有所施,但世运遥缅,随时亡缺。汉世唯有虞《韶》、周《武》,魏为《武始》、《咸熙》,错综风声,为一代之礼。晋无改造,易名《正德》。今圣朝乐舞未名,舞人冠服无准,称之文、武舞而已。依魏景初三年以来衣服制,其祭天地宗庙:武舞执干戚,著平冕、黑介帻、玄衣裳、白领袖,绛领袖中衣,绛合幅裤袜、黑韦鞮;文舞执羽箭,冠委貌,其服同上。其奏于庙庭:武舞,武弁、赤介绩、生绛袍、单衣绛领袖、皂领袖中衣、虎文画合幅裤、白布袜、黑韦鞮;文舞者进贤冠、黑介绩、生黄袍、单衣白合幅裤、服同上。其魏晋相因,承用不改。古之圣室,方各别所,故声歌各异。今之太庙,连基接栋,乐舞同奏、于义得通。

"自中原丧乱,晋室播荡,永嘉已后,旧章湮没。太武皇帝破平统万,得古雅乐一部,正声歌五十曲,工伎相传,间有施用。自高祖迁居,世宗晏驾,内外多事,礼物未周。今日所有《王夏》、《肆夏》之

属二十三曲, 犹得击奏, 足以阐累圣之休风, 宣重光之盛美。伏维陛下仁格上皇, 义光下武, 道契玄机, 业隆宝祚, 思服典章, 留心轨物, 反尧舜之淳风, 复文武之境土, 饰宇宙之仪刑, 纳生人于福地, 道德熙泰, 乐载新声, 天成地平, 于是乎在。乐舞之名, 乞垂旨判。臣等以愚昧参厕问道, 呈御之日, 伏增惶惧。"

"祖 珽 论 乐"^①

齐神武霸迹肇创,迁都于邺,犹曰人臣,故咸遵魏典。及文宣初禅,尚未改旧章。宫悬各设十二鎛钟,于其辰位,四面并设编钟磬各一,窦篾合二十架,设建鼓于四隅。郊庙朝会同用之。其后将有创革,尚乐典御祖珽自言旧在洛下,晓知旧乐。上书曰:"魏氏来自云朔,肇有诸华,乐操土风,未移其俗。至道武帝皇始元年,破慕容宝于中山,获晋乐器,不知采用,皆委弃之。天兴初,吏部郎邓彦海奏上庙乐,创制宫悬,而钟管不备。乐章既阙,杂以《簸逻迴》歌。初用八佾,作《皇始》之舞。至太武帝平河西,得沮渠蒙逊之伎,宾嘉大礼,皆杂用焉。此声所兴,盖苻坚之末,吕光出平西域,得胡戎之乐,因又改变,杂以秦声,所谓"秦汉乐"也。至永熙中,录尚书长孙承业,共臣先人太常卿莹等,斟酌缮修,戎华兼采,至于钟律,焕然大备。自古相袭,损益可知,今之创制,请以为准。"延因采魏安丰、王延明及信都芳等所著《乐说》而定正声,始具宫悬之器,仍杂西凉之曲,乐名《广成》,而舞不立号,所谓"洛阳旧乐"者也。

① 辑自《隋书》卷十四《音乐志》。据中华书局点校本。祖延,主要活动年代在北齐文宣时(550—559)。

刘 子・辩 乐^① 対 昼^②

乐者,天地之声,中和之纪,人情之所不能免也。人心喜则笑, 笑则乐,乐则口欲歌之,手欲鼓之,足欲舞之。歌之舞之,容发干音 声,形发于动静,而入于至道。音声动静,性术之变,尽于此矣。故 人不能无乐,乐则不能无形,形则不能无道,道则不能无乱。先 王恶其乱也, 故制雅乐以道之, 使其声足乐而不淫, 使其音调伦而 不诡,使其曲繁省而廉均;是以感人之善恶,不使放心邪气,是先王 立乐之情也。五帝殊时,不相沿乐,三王异世,不相袭礼;各象勋 德,应时之变。故黄帝乐曰《云门》,颛顼曰《五茎》,帝喾曰《六英》, 尧曰《咸池》,舜曰《箫韶》,禹曰《大夏》,汤曰《大濩》,武王《大武》。 此八乐之所以异名也。先王闻五声,播八音,非苟欲愉心满耳,听 其铿锵而已; 将顺天地之体, 成万物之性; 协律吕之情, 和阴阳之 气; 调八风之韵, 通九歌之分; 奏之圆丘则神明降; 用之方泽则幽祗 升; 击拊球石,即百兽率舞; 乐终九成,则瑞禽翔; 上能感动天地,下 则移风易俗。此德音之音,雅乐之情,盛德之乐也。明王既泯,风 俗凌迟; 雅乐残废,而溺音竞兴。故夏甲作《破斧》之歌,始为东音; 殷辛作靡靡之乐,始为北声;郑卫之俗好淫,故有《溱洧》、《桑中》之 曲: 楚越之俗好勇,则有赴汤蹈火之歌——各咏其所好,歌其所欲; 作之者哀,听之者泣。由心之所感,则形于声; 声之所感,必流于 心。故哀乐之心感,则燋杀啴缓之声应; 濮上之音作,则淫泆邪放 之志生。故延年造倾城之歌,汉武思靡嫚之色;雍门作松柏之声,

① 据景印旧合字本《刘子袁注》。

② 刘昼,生于北魏延昌(512-515)中,卒于北齐天统(565-569)中。

齐湣愿未寒之服: 荆轲入秦,宋意击筑,歌于易水之上,闻者瞋目,发直穿冠; 赵王迁于房陵,心怀故乡,作山水之讴①,听者呜咽,泣 游流连。此皆淫秩、凄怆、愤厉、哀思之声,非理性和情德音之乐也。桓帝听楚琴,慷慨叹息,悲酸伤心,曰: 善哉! 为琴若此,岂非乐乎? 夫乐者,声乐而心和,所以为乐也,今则声哀而心悲,洒泪而歔欷,是以悲为乐也。若以悲为乐,亦何乐之有哉? 今怨思之声,施于管弦,听其音者,不淫则悲; 淫则乱男女之辨,悲则感怨思之声,览所谓乐哉? 故奸声感人,而逆气应之,逆气成象,而淫乐兴焉; 正声感人,而顺气应之,顺气成象,而和乐兴焉。乐不和顺,则气有蓄滞;气有蓄滞,则有悖逆诈伪之心,淫泆妄作之事。是以奸声乱色,不留聪明;淫乐慝礼,不接心术。使人心和而不乱者,雅乐之情也。故为诗颂以宣其志,钟鼓以节其耳,羽旄以制其目;听之者不倾,视之者不邪。耳目不倾不邪,则邪音不入;邪音不入,则情性内和;性情内和,然后乃为乐也。

① 唐袁孝政注: 其歌曰"山有木兮木有枝,心思君兮君莫知"。据此,则当作"山 木之讴"。

隋唐部分

"郑 译 论 乐"^①

开皇二年,齐黄门侍郎颜之推上言:"礼崩乐坏,其来自久。今 太常雅乐,并用胡声,请冯梁国旧事、考寻古典。"高祖不从,曰:"梁 乐,亡国之音,奈何遣我用邪?"是时尚因周乐,命工人齐树提检校 乐府,改换声律,益不能通。俄而柱国沛公郑译奏上,请更修正。 于是诏太常卿牛弘、国子祭酒辛彦之、国子博士何妥等议正乐。然 沦谬既久, 音律多乖, 积年议不定。高祖大怒曰: "我受天命七年, 乐府犹歌前代功德邪。"命治书侍御史李谔引弘等下、将罪之、谔 奏:"武王克殷,至周公相成王,始制礼乐,斯事体大,不可谏成。"高 祖意稍解。又诏求知音之士,集尚书,参定音乐。译云:考寻乐府 钟石律吕,皆有宫、商、角、徵、羽,变宫、变徵之名。 七声之内,三声 乖应,每恒求访,终莫能通。先是周武帝时,有龟兹人曰苏祗婆,从 突厥皇后人国, 善胡琵琶。听其所奏, 一均之中, 间有七声。因而 问之。答云:"父在西域,称为知音,代相传习,调有七种。"以其七 调,勘校七声,冥若合符。一曰"娑陁力",华言平声,即宫声也。二 曰"鸡识",华言长声,即商声也。三曰"沙识",华言质直声,即角声 也。四曰"沙侯加滥",华言应声,即变徵声也。五曰"沙腊",华言 应和声,即徵声也。六曰"般瞻",华言五声,即羽声也。七曰"俟利

① 辑自《隋书》卷十四《志第九·音乐中》。据中华书局点校本。郑译, 活动年代 在隋高祖时(581-604)。

缝",华言斛牛声,即变宫声也。译因习而弹之,始得七声之正。然 其就此七调,又有五日之名,且作七调。以华言译之,日者则谓均 也。其声亦应黄钟、太簇、林钟、南吕、姑洗,五均。已外七律,更无 调声。译遂因其所捻琵琶,弦柱相饮为均。推演其声,更立七均, 合成十二,以应十二律。律有七音,音立一调,故成七调。十二律 合八十四调, 旋转相交, 尽皆和合。仍以其声考校太乐所奏, 林钟 之宫应用林钟为宫,乃用黄钟为宫;应用南吕为商,乃用太簇为商; 应用应钟为角、乃取姑洗为角。故林钟一宫七声三声并戾。其十 一宫七十七音, 例皆乖越, 莫有通者。又以编悬有八, 因作八音之 乐, 七音之外更立一声, 谓之应声。译因作书二十余篇以明其指。 至是译以其书官示朝廷,并立议正之。时邳国公世子苏夔,亦称明 乐, 驳译曰: "《韩诗外传》所载, 乐声感人, 及《月令》所载, 五音所中 并皆有五,不言变官、变徵。又《春秋》左氏所云,'七音六律,以奉五 声',准此而言,每宫应立五调,不闻更加变宫、变徵二调为七调。七 调之作,所出未详。"译答之曰:"周有七音之律,《汉书·律历志》: 天地人及四时谓之七始,黄钟为天始,林钟为地始,太簇为人始,是 为三始; 姑洗为春,蕤宾为夏,南吕为秋,应钟为冬,是为四时。四 时三始,是以为七。今若不以二变为调曲,则是冬夏声阙,四时不 备。是故每宫须立七调。"众从译议。译又与夔俱云:"案今乐府、 黄钟乃以林钟为调首,失君臣之义;清乐黄钟宫以小吕为变徵,乖 相生之道。今请雅乐黄钟宫以黄钟为调首,清乐去小吕还用蕤宾 为变徵。"众皆从之。夔又与译议,欲累黍立分正定律吕。时以音 律久不通,译、夔等一朝能为之,以为乐声可定。而何妥旧以学闻, 雅为高祖所信。高祖素不悦学,不知乐。妥又耻已宿儒不逮译等, 欲沮坏其事。乃立议非十二律旋相为宫,曰:"经文虽道旋相为宫, 恐是直言其理,亦不通随月用调,是以古来不取。若依郑玄及司马 彪、须用六十律方得和韵。今译唯取黄钟之正宫,兼得七始之妙 义,非止金石谐韵,亦乃簨篪不繁,可以享百神,可以合万舞矣。"而又非其七调之义,曰:"近代书记所载,缦乐鼓琴吹笛之人多云三调。三调之声,其来久矣。请存三调而已。"时牛弘总知乐事,弘不能精知音律。又有识音人万宝常修洛阳旧曲,言幼学音律,师于祖孝徵,知其上代修调古乐。周之璧翣,殷之崇牙,悬八用七,尽依《周礼》备矣。所谓正声,又近前汉之乐,不可废也。是时竞为异议,各立朋党,是非之理,纷然淆乱。或欲令各修造,待成,择其善者而从之。妥恐乐成,善恶易见,乃请高祖张乐试之。遂先说曰:"黄钟者,以象人君之德。"及奏黄钟之调,高祖曰:"滔滔和雅,甚与我心会。"妥因陈用黄钟一宫,不假余律,高祖大悦,班赐妥等修乐者。自是译等议寝。

"何 妥 论 乐"[©]

其后上令妥考定钟律,妥又上表曰:

"臣闻,明则有礼乐,幽则有鬼神,然则动天地,感鬼神,莫近于 礼乐。又云,乐至则无怨,礼至则不争,提让而治天下者,礼乐之谓 也。臣闻乐有二:一日奸声,二日正声。夫奸声感人而逆气 应之, 〔逆气成象而淫乐兴焉。正声感人,而顺气应之,〕顺气成象,〔而 和乐兴焉。〕故乐行而伦清、耳目聪明、血气和平、移风易俗、天下皆 宁。孔子曰:'放郑声,远佞人。'故郑、卫、宋、赵之声出,内则发疾, 外则伤人。是以宫乱则荒,其君骄;商乱则陂,其官坏;角乱则忧, 其人怨; 徵乱则哀, 其事勤; 羽乱则危, 其财匮。五者皆乱, 则国亡 无日矣: 魏文侯问子夏曰:'吾端冕而听古乐则欲寐,听郑卫之音 而不知倦,何也?"子夏对曰:"夫古乐者,始奏以文,复乱以武,修身 及家,平均天下。郑卫之音者,奸声以乱,溺而不止,獶杂子女,不 知父子。今君所问者乐也,所爱者音也。夫乐之与音,相近而不 同,为人君者谨审其好恶。"案圣人之作乐也,非止苟悦耳目而已 矣,欲使在宗庙之内,君臣同听之则莫不和敬;在乡里之内,长幼同 听之则莫不和顺; 在闺门之内, 父子同听之则莫不和亲, 此先王立 乐之方也。故知声而不知音者,禽兽是也,知音而不知乐者,众庶 是也。故黄钟、大吕,弦歌、干戚,僮子皆能儛之。能知乐者,其唯 君子。不知声者,不可与言音:不知音者,不可与言乐:知乐则几干 道矣。纣为无道,太师抱乐器以奔周; 晋君德薄,师旷固惜清徵。

① 辑自《隋书》卷七十五《儒林列传》。据中华书局点校本。何妥,活动年代在隋 高祖时(581-604)。

上古之时,未有音乐,鼓腹击壤,乐在其间。《易》曰,先王作乐崇 德,殷荐之上帝,以配祖考。至于黄帝作《咸池》,颛顼作《六茎》,帝 些作《五英》, 尧作《大章》, 舜作《大韶》, 禹作《大夏》, 汤作《大濩》, 武王作《大武》,从夏以来,年代久远,唯有名字,其声不可得闻。自 殷至周,备干诗颂,故自圣贤已下,多习乐者。至如伏羲减瑟,文王 足琴,仲尼击磬,子路鼓瑟,汉高击筑,元帝吹箫。汉高祖之初,叔孙 通因秦乐人制宗庙之乐。迎神于庙门,奏《嘉至》之乐,犹古降神之 乐也。皇帝人庙门,奏《永至》之乐,以为行步之节,犹古《采荠》《肆 夏》也; 乾豆上荐, 奏《登歌》之乐, 犹古清庙之歌也; 《登歌》再终, 奏 《休成》之乐,美神飨也:皇帝就东厢坐定,奏《永安》之乐,美礼成 也。其《休成》、《永至》二曲、叔孙通所制也。汉高祖庙奏《武德》、 《文始》、《五行》之儛。当春秋时,陈公子完奔齐,陈是舜后,故齐有 《韶》乐。孔子在齐闻《韶》,三月不知肉味是也。秦始皇灭齐,得齐 《韶》乐。汉高祖灭秦、《韶》传于汉、高祖改名《文始》,以示不相袭 也。《五行》儛者,本周《大武》乐也,始皇改曰《五行》。及于孝文、复 作四时之儛以示天下安和、四时顺也。孝景采《武德》 儛以为《昭 德》, 孝官又采《昭德》以为《盛德》。虽变其名, 大抵皆因秦旧事。至 干魏晋,皆用古乐。魏之三祖,并制乐辞。自永嘉播越,五都倾荡, 乐声南渡,是以大备江东。宋、齐以来,至于梁代。所行乐事,犹皆 传古。三雍四始,实称大盛。及侯景篡逆,乐师分散,其四儛三调, 悉度伪齐。齐氏虽知传受,得曲而不用之于宗庙朝廷也。 臣少好音 律,留意管弦,年虽耆老,颇皆记忆。及东土克定,乐人悉返,,访其 逗溜,果云是梁人所教。今三调四儛,并皆有手,虽不能精熟,亦颇 具雅声。若令教习传授,庶得流传古乐,然后取其会归,撮其指要, 因循损益,更制嘉名,歌盛德于当今,传雅正于来叶,岂不美欤。谨 具录三调四儛曲名,又制歌辞如别。其有声曲流宕,不可以陈于殿 庭者,亦悉附之于后书。

文中子中说①(辑录) 王通②

……子在长安,杨素、苏夔、李德林皆请见,子与之言归而有忧色。门人问子,子曰:"素与吾言,终日言政而不及化;夔与吾言,终日言声而不及雅;德林与吾言,终日言文而不及理。"门人曰:"然则何忧?"子曰:"非尔所知也。二三子,皆朝之预议者也,今言政而不及化,是天下无礼也;言声而不及雅,是天下无乐也;言文而不及理,是天下无文也。王道从何而兴乎?吾所以忧也。"门人退,子援琴鼓《荡之什》,门人皆沾襟焉。……子曰:"化至九变,王道其明乎?放乐至九变而淳气治矣。"裴晞曰:"何谓也?"子曰:"夫乐,象成者也。象成莫大于形而流于声,王化始终,所可见也。故《韶》之成也,虞氏之恩被动植矣。"……子曰:"王国之有风,天子与诸侯夷乎?谁居乎?幽王之罪也。故始之以《黍离》于是雅道息矣。"子曰:"五行不相沴则王者可以制礼矣。四灵为畜则王者可以作乐矣。"……子曰:"使诸葛亮而无死,礼乐其有兴乎?"……

(券一王道篇)

……李伯药见子而论诗,子不答。伯药退谓薛收曰:"吾上陈应、刘,下述沈、谢,分四声八病,刚柔清浊,各有端序,音若埙箎,而 夫子不应,我其未达欤?"薛收曰:"吾尝闻夫子之论诗矣,上明三 纲,下达五常,于是征存亡,辩得失,故小人歌之以贡其俗,君子赋 之以见其志,圣人采之以观其变。今子营营驰骋乎末流,是夫子之

① 据商务印书馆《四部丛刊》本,参考《百子全书》民国元年刊本。

② 王通(584-618)。

所痛也,不答则有由矣。"……子曰:"王道之驳久矣,礼乐可以不正乎。大义之芜甚矣,诗书可以不续乎。"……

(卷二天地篇)

房玄龄问事君之道,子曰:"无私";问使人之道,曰"无偏。"曰: "敢问化人之道",子曰:"正其心"。问礼乐,子曰:"王道盛则礼乐 从而兴焉,非尔所及也。"

(卷三事君篇)

……子谓《武德》之舞劳而决,其发谋动虑经天下乎!谓《昭德》之舞闲而泰,其和神定气绥天下乎!太原府君曰:"何如?"子曰: "或决而成之,或泰而守之,吾不知其变也。噫!《武德》则功存焉,不如《昭德》之善也。且《武》之未尽善久矣,其时乎,其时乎!"…… (卷四周公篇)

子曰:"吾于礼乐,正失而已。如其制作,以俟明哲,必也崇贵乎"……子曰:"姚义之辩,李靖之智,贾琼、魏徵之正,薛收之仁,程元、王孝逸之文,加之以笃固,申之以礼乐,可以成人矣!"……子曰:"仁义,其教之本乎,先王以是继道德而兴礼乐者也。"……文中子曰:"周齐之际,王公大臣不暇及礼矣。献公曰:'天子失礼,则诸侯修于国,诸侯失礼,则大夫修于家'。礼乐之作,献公之志也。"程元问六经之致,子曰:"吾续《书》以存汉晋之实,续《诗》以辩六代之俗,修《元经》以断南北之疑,赞易道以申先师之旨,正礼乐以旌后王之失。如斯而已矣。"程元曰:"作者之谓圣,述者之谓明,夫子何处乎?"子曰:"吾于道,屡伸而已,其好而能乐,勤而不厌者乎!圣与明,吾安敢处?"……

子游汾亭,坐鼓琴。有舟而钓者过,曰:"美哉。琴意,伤而和,

怨而静,在山泽而有廊庙之志。非太公之都磻溪,则仲尼之宅泗滨也。"子骤而鼓《南风》。钓者曰:"噫! 非今日事也。道能利生民,功足济天下,其有虞氏之心乎? 不如舜自鼓也,声存而操变矣!"子遽舍琴,谓门人曰:"情之变声也如是乎?"起将延之,钓者摇竿鼓栈而逝,门人追之,子曰:"无追也,播鼗武入于河,击磬襄入于海。固有之也。"遂志其事,作《汾亭操》焉。

(卷六礼乐篇)

……子曰:"诗有天下之作焉,有一国之作焉,有神明之作焉。" 吴季札曰:"《小雅》其周之衰乎。《豳》其乐而不淫乎。"子曰:"孰谓季子知乐。《雅》乌乎衰,其周之盛乎。《豳》乌乎乐,其勤而不怨乎。"……叔恬曰:"敢问《元经》书陈亡而具五国,何也。"子曰:"江东,中国之旧也,衣冠礼乐之所就也。永嘉之后,江东贵焉而卒不贵,无人也,齐、梁、陈于是乎不与其为国也。及其亡也,君子犹怀之。故书曰:晋、宋、齐、梁、陈亡,具五以归其国,且言其国亡也,呜呼! 弃先王之礼乐以至是乎!"叔恬曰:"晋、宋亡国久矣,今具之,何谓也。"子曰:"衣冠文物之旧,君子不欲其先亡,宋尝有柎晋之功,有复中国之志,亦不欲其先亡也,故具齐、梁、陈以归其国也,其未亡,则君子夺其国焉,曰中国之礼乐安在。其已亡,则君子与其国焉,曰犹我中国之遗人也。"……文中子曰:"汉魏礼乐,其末不足称也,然书不可废,尚有近古对议存焉。"……温大雅问如之何可使为政。子曰:"仁以行之,宽以居之,深识礼乐之情。"……

(卷七述史篇)

……姚义曰:"尝闻诸夫子矣,《春秋》断物志定而后及也;乐以和德全而后及也;《书》以制法从事而后及也;《易》以穷理知命而后及也。故不学《春秋》无以主断;不学乐无以知和;不学《书》无以议

制;不学《易》无以通理。四者非具体不能及,故圣人后之,岂养蒙之具邪?"或曰:"然则《诗》、礼何为而先也?"义曰:"夫 教之以《诗》则出辞气,斯远暴慢矣;约之以礼则动容貌,斯立威严矣。度其言,察其志,考其行,辩其德。志定则发之以《春秋》,于是乎断而能变;德全则守之以乐,于是乎和而知节;可从事则达之以《书》,于是乎可以立制;知命则申之以《易》,于是乎可与尽性。若骤而语《春秋》则荡志轻义;骤而语乐则喧德败度;骤而语《书》则狎法;骤而语《易》则玩神。是以圣人知其必然,故立之以宗,立之以次,先成诸己然后备之物,先济乎近然后形乎远。亶其深乎!"子闻之曰:"姚子得之矣。"……

(卷九立命篇)

"论 礼 乐"^①(节录) 李世氏^②

太常少卿祖孝孙奏所定新乐。太宗曰:"礼乐之作,是圣人缘物设教以为撙节,治政善恶,岂此之由。"御史大夫杜淹对曰:"前代兴亡,实由于乐。陈将亡也,为《玉树后庭花》。齐将亡也,而为《伴侣曲》,行路闻之,莫不悲泣,所谓亡国之音。以是观之,实由于乐。"太宗曰:"不然。夫音声岂能感人,欢者闻之则悦,哀者听之则悲,悲悦在于人心,非由乐也。将亡之政,其人心苦,然苦心相感,故闻而则悲耳,何乐声哀怨能使悦者悲乎?今《玉树》、《伴侣》之曲,其声具存,朕能为公奏之,知公必不悲耳。"尚书右丞魏徵进曰:"古人称'礼云,礼云,玉帛云乎哉?乐云,锺鼓云乎哉?'乐在人和,不由音调。"太宗然之。

贞观七年,太常卿萧瑀奏言:"今破陈乐舞,天下之所共传,然美盛德之形容,尚有所未尽。前后之所破刘武周、薛举、窦建德、王世充等,臣愿图其形状,以写战胜攻取之容。"太宗曰:"朕当四方未定,因为天下数焚拯溺,故不获已,乃行战伐之事,所以人间遂有此舞,国家因兹亦制其曲。然雅乐之容,止得陈其梗概,若委曲写之,则其状易识。朕以见(现)在将相,多有曾经受彼驱使者,既经为一日君臣,今若重见其被擒获之势,必当有所不忍。我为此等,所以不为也。"萧瑀谢曰:"此事非臣思虑所及。"

⁽i) 辑自唐吴兢:《贞观政要》卷七。据中华书局《四部备要》本。

② 李世民(?--649)即唐太宗。

乐 书 要 录^①(辑录)

夫道生气,气生形,形动气缴,声所由出也。然则形、气者,声之源也。声有高下,分而为调,高下万殊,不越十二。假使天地之气噫而为风,速则声上,徐则声下,调则声中,虽复众调烦多,其率不过十二。然声不虚立,因器乃见,故制律吕以纪名焉。十二律者,天地之气,十二月之声也,循环无穷,自然恒数,虽大极未兆,而冥理存焉,然象无形,难以文载,虽假以分寸之数,粗可存其大略,自非手操口咏,耳听心思,则音律之源,未可穷也。故蔡雍(邕)《月令章句》云:古之为钟律者,以耳齐其声。后人不能,则假数以正其度,度数正则音亦正矣。以度量者,可以文载口传,与众共知,然不如耳决之明也。此诚知音之至言,人妙之通论也。

(卷五、辨音声审音源)

宫生徵,徵生商,商生羽,羽生角,角生变宫,变宫生变徵。凡欲解七声相生者,当先以十二律管依辰位布之,但从一律为首者即是宫,又左旋数之至八即是徵,从徵数至八即是商,从商数至八即是羽,从羽数至八即是角,从角数至八即是变宫,从变宫数至八即是变徵。还合于律吕相生法。

(卷五、七声相生法)

① 《乐书要录》,唐武后时(685—704) 敕撰,参与撰著的,传有元万顷、范履冰、苗神客、周思茂、胡楚宾等人。全书共十卷,现存五、六、七卷,余佚。据光绪七年重刊本。

夫七声者,兆于冥昧,出于自然,理乃天生,匪由人造。凡情性内充,歌咏外发,即有七声,以成音调,五声二变,经纬相成,未有不用变声能成音调者也。故知二变者,宫徵之润色,五音之盐梅也。变声之充实五音,亦犹晕色之发挥五彩,不知音者,莫识其源。或云:武王克商,自午至子,凡有七辰,故加以七音,所以儒者相传,皆云变徵、变宫起自周武。若如所言,即夏殷以前乐不成调,《箫韶》《大夏》何以克谐,斯乃拘文守见之谈,非知音达乐之说。

(卷五、论二变义)

夫相生之声类例无别,为高下相间,乍听时则迷;以清浊相明,则反覆皆倒。

疑声浊不例者则以清声并之,声清不例者则以浊声并之,既 审清浊同声,则晓相生同例。故知宫之向徵,徵之向商,商向羽, 羽向角,角向变宫,变宫向变徵,一种无别者,资清浊而悟也。

夫声折半及倍加,只是一声,但清浊异耳。凡听共晓,不待知音。欲以数求,但反损益上下之术也,唯以三分率之,则得折倍之声也。

(卷五、论相生类例)

琴不择长短,但调取一弦与黄钟同声,即于其上分作三分,捻却一分而弹之,即与六寸林钟声合。又于中更分作三分而益一分捻之,即与八寸太簇声合。如此展转,终于十二,与律吕相并,遂无毫厘之差。琵琶、尺八、横笛之属并亦准此。明知三分损益,冥数相符,理出自然,非由造作。

(卷五、论三分损益通诸弦管)

声无形象,默识者希也,故假以管寸之数,历八相生。古贤立 • 158 • 此术者,欲令不知音者有推求之理,使其所历满七,即知有七声,既知七声所在,然后从宫却向商,从商修角,次及变徵、变羽、变宫,如此为次,乃识音调。此是修涂辙推求之法。若知音者则不要藉此术,但随所逢遇,遂便施为,自然宫商暗合。

(卷五、论历八相生意)

一为宫, 二为商, 三为角, 四为变徵, 五为徵, 六为羽, 七为变宫。凡歌, 识七声次第者, 但定一律为宫, 即在旋之隔一月即是商, 又隔一月即是角, 又隔一月即是变徵, 次变徵之月即是正徵, 从正徵又隔一月即是羽, 又隔一月即是变宫。变宫与正宫比月, 亦如变徵之比正徵也。他皆仿此。

夫律吕循环, 递传相似, 其变征渐, 难可分别, 隔月则形象始著, 宫商乃见, 可得而识。然声不可以言载合者, 略以喻明: 譬犹五色, 从白至黑, 亦以变征渐而成, 何者。白似碧, 碧似青, 青似紫, 紫似黑, 然此诸色各有浅深之渐。又如十二月节气之变, 亦有征渐也。相近则难分, 相远则易辨, 故错杂五色所以成文章, 间采七声所以成音调。

(卷五、七声次第义)

凡律吕布在辰位,自以长短清浊为大小。若立均调,则随宫商 为尊卑,亦不均以长短清浊,故宫未必皆浊,羽未必皆清。

凡管,长则声浊短则清。假令夹钟之宫,黄钟为羽。夹钟短于黄钟,则是宫未必浊,黄钟短于夹钟,则是羽未必清。无射宫以黄钟为商,亦宫清而商浊之类是也。

蔡雍(邕)《月令章句》曰:琴紧其弦则清,缦其弦则浊。瑟前其柱则清,却其柱则浊。故知清浊者,一弦之缓急也,无尊卑之差。宫商者,五音之唱和也,有君臣之别,唱不必浊,和不必清。尊卑系

(卷五、论每均自主尊卑义)

••••

论曰: 夫有象本于无象,无形生于有形。形既彰焉,则声斯著矣。声者音之质,音者声之文,非质无以成文,非文无以成乐。但声不独运,必托于诗。诗者阳之声,乐者阳之器也。故声之和也,则水石润色;声之悲也,则风云暴兴,乐之克谐,以声为主。然雅音未易,善听尤难,非由积学所能,谅出自然之性,至或锺期听曲,孔子闻《韶》,若此知音,千龄罕遇。昔舜以五声察政,处致休明,故知音声之道,为教所急,监抚之暇,可不崇焉!

(卷五、乐谱)

夫曲由声起,声因均立,均若不立,曲亦无准,是非之间,好多差误,推校不审,则致迷方。故立诸均,析其声调,理微词简,条流可观,使作者不疑,听者不惑,条环曲备,无相夺伦。《周礼》大司乐堂成均之法,《礼运》言旋相为宫,今故立均,作旋宫之法。

••••

(卷七、论律吕旋宫法)

夫旋相为宫,举其一隅耳。若穷论声意,亦旋相当为商旋□□ 为角(按此文有错漏,无法断句,照抄存真),余声亦尔。故一律得 其七声。《乐记》曰:小大相成,终始相生,唱和清浊,选相为经 是也。

(卷七、论一律有七声义)

《教 坊 记》序^① 准令钦②

昔阴康氏之王也,元气肇分,灾沴未弭;水有襄陵之变,人多肿 腿之疾,思所以通利关节,于是制舞。舜作歌以平八风,非慆心也。 春秋之时,齐遗鲁以女乐:晋梗阳之大宗,亦以上献子,始淫声色 矣! 施及汉室,有若卫子夫以歌进,赵飞燕以舞宠。自兹厥后,风 流弥盛,晋氏兆乱,涂歌是作,终被诸管弦,载在乐府。吕光之破龟 兹,得其名称,多亦佛曲百余成。我国家玄玄之允,未闻颂德,高宗 乃命工白明达造道曲、道调。玄宗之在藩邸,有散乐一部,戢定妖 氛,颇藉其力;及膺大位,且羁縻之。常于九曲阅太常乐。卿姜晦, 嬖人楚公皎之弟也,押乐以进。凡戏,辄分两朋,以判优劣,则人心 竞勇,谓之"热戏"。于是诏宁王主藩邸之乐以敌之。一伎戴百尺 幢, 鼓舞而进; 太常所戴, 即百余尺, 比彼一出, 则往复矣; 长欲半 之,疾乃兼倍。太常众乐鼓噪,自负其胜。上不悦,命内养五六十 人,各执一物,皆铁马鞭、骨檛之属也,潜匿袖中,杂于声儿后立,复 候鼓噪, 当乱捶之。皎、晦及左右, 初怪内养麝至, 窃见袖中有物, 于是夺气减魄。而戴幢者方振摇其竿,南北不已。上顾谓内人者曰: "其竿即自当折。"斯须,中断,上抚掌大笑,内伎咸称庆。于是罢遣。 翌日,诏曰:"太常礼司,不宜典俳优杂伎。"乃置教坊,分为左右而 隶焉。左骁卫将军范安及为之使。开元中,余为左金吾,仓曹武官十 二三是坊中人。每请禄俸,每加访问,尽为余说之。今中原有事,漂 寓江表,追思旧游,不可复得,粗有所识,即复疏之,作《教访记》。

① 据任半塘《教坊记笺订》,中华书局 1962 年版。

② 崔令钦约生活于玄宗、肃宗时(712-761)。

薛易简以琴待诏翰林,盖在天宝中也。尝著《琴诀》七篇,辞虽近俚,义有可采。今掇其大槩著焉,曰:"琴之为乐,可以观风教,可以摄心魂,可以辨喜怒,可以悦情思,可以静神虑,可以壮胆勇,可以绝尘俗,可以格鬼神,此琴之善者也。鼓琴之士,志静气正,则听者易分;心乱神浊,则听者难辨矣。常人但见用指轻利,取声温润,音韵不绝,句度流美,但赏为能。殊不知志士弹之,声韵皆有所主也。夫正直勇毅者听之则壮气益增,孝行节操者听之则中情感伤,贫乏孤苦者听之则流涕纵横,便佞浮嚣者听之则敛容庄谨。是以动人心,感神明者,无以加于琴。盖其声正而不乱,足以禁邪止淫也。今人多以杂音悦乐为贵,而琴见轻矣。夫琴士不易得,而知音亦难也。"

.....

又云: 弹琴之法,必须简静。非谓人静,乃手静也。手指鼓动谓之喧,简要轻稳谓之静。又须两手相附,若双鸾对舞,两凤同翔,来往之势,附弦取声,不须声外摇指,正声和畅,方为善矣。故古之君子,皆因事而制,或怡情以自适,或讽谏以写心,或幽愤以传志。故能专精注神,感动神鬼,或只能一两弄而极精妙者。今之学者,惟多为能。故曰: 多则不精,精则不多。知音君子,详而察焉。

① 前段辑自宋朱长文"琴史》卷四,据《乐圃琴史校》本。后段辑自明蒋克诚《琴书大全》卷十《弹琴》,据明刊本。

② 薛易简,活动年代在天宝年间(742-756),曾与当时名琴家董庭兰交往。

夫音生于人心,心惨则音哀,心舒则音和。然人心复因音之哀和亦感而舒惨,则韩娥曼声哀哭,一里愁悲;曼声长歌,众皆喜忭,斯之谓矣。是故哀、乐、喜、怒、敬、爱六者,随物感动,播于形气,叶律吕,谐五声。舞也者,咏歌不足,故手舞之,足蹈之,动其容,象其事,而谓之为乐。乐也者,圣人之所乐,可以善人心焉。所以古者天子、诸侯、卿大夫,无故不彻乐;士无故不去琴瑟,以平其心,以畅其志,则和气不散,邪气不干。此古先哲后立乐之方也。周衰政失,郑卫是兴;秦汉以还,古乐沦缺。代之所存,《韶》、《武》而已。下不闻振铎,上不达讴谣,俱更其名,示不相袭。知音复寡,罕能制作,而况古雅莫尚,胡乐荐臻,其声怨思,其状促遽,方之郑卫,又何远乎。爰自永嘉戎羯迭乱,事有先兆,其在于兹。圣唐贞观初,作《破阵乐》,舞有发扬蹈厉之容,歌有粗和啴发之音,表兴王之盛烈,何让周之文武,岂近古相习,所能关思哉。而人间胡戎之乐,久习未革,古者因乐以著教,其感人深,乃移风俗。将欲闲其邪,正其颓,唯乐而已矣。

① 辑自商务印书馆《万有文库·十通》本。

② 杜佑(735-813)。

白氏长庆集①(辑录) 白居易②

废 琴 诗

丝桐合为琴,中有太古声。 古声淡无味,不称今人情。 玉徽光彩灭,朱弦尘土生。 废弃来已久,遗音尚泠泠。 不辞为君弹,纵弹人不听。 有物使之然? 羌笛与秦筝。

邓鲂张彻落第诗

古琴无俗韵, 奏罢无人听, 寒松无妖花, 枝下无人行。 枝下无人行。 有别十二街, 轩骑不暂停, 走马听秦筝。 众目悦芳艳, 松独守其贞, 众耳喜郑卫, 琴亦不改声。 你哉二夫子, 念此无自轻。

(卷一)

① 据商务印书馆《四部丛刊》本。

② 白居易(772-846)。

法 曲 歌

法曲法曲歌《大定》,积德重熙有余庆, 永徽之人舞而咏。

法曲法曲舞《霓裳》,政和世理音洋洋, 开元之人乐且康。

法曲法曲歌堂堂, 堂堂之庆垂无疆, 中宗肃宗复鸿业, 唐祚中兴万万叶。 法曲法曲合夷歌, 夷声邪乱华声和, 以乱干和天宝末, 明年胡尘犯宫阙, 乃知法曲本华风, 苟能审音与政通。 一从胡曲相参错, 不辨兴衰与哀乐, 愿求牙旷正华音, 不令夷夏相交侵。

(券三)

立 部 伎

立部伎,鼓笛喧,舞双剑,跳七丸,嫋巨索,掉长竿。太常部伎有等级,堂上者坐堂下立。堂上坐部笙歌清,堂下立部鼓笛鸣,笙歌一声众侧耳,鼓笛万曲无人听。立部贱,坐部贵,坐部退为立部伎,击鼓吹笙和杂戏。立部又退何所任?始就乐悬操雅音。雅音替坏一至此,长令尔辈调宫徵。圜丘后土郊祀时,言将此乐感神祇,欲望凤来百兽舞,何异北辕将适楚;工师愚贱安足云,太常三卿尔何人?!

(卷三)

华 原 磬

华原磐,华原磐, 古人不听今人听。 泗滨石,泗滨石, 今人不击古人击。 今人古人何不同, 用之舍之由乐工, 乐工虽在耳如壁, 不分清浊即为聋。 梨园弟子调律吕, 知有新声不知古。 古称浮磬出泗滨, 立辩致死声感人, 宫悬一听华原石, 君心遂忘封疆臣。 果然胡寇从燕起、 武臣少肯封疆死, 始知乐与时政通, 岂听铿锵而已矣! 磬襄入海去不归, 长安市人为乐师, 华原磬与泗滨石, 清浊两声谁得知。

(卷三)

五 弦 弹

五弦弹,五弦弹, 听者倾耳心寥寥。 赵璧知君人骨爱, 五弦一一为君调。 第一第二弦索索, 秋风拂松疏韵落。 第三第四弦冷冷, 夜鹤忆子笼中鸣。 第五弦声最掩抑, 陇水冻咽流不得。 五弦并奏君试听, 凄凄切切复铮铮, 镇(铁)击珊瑚一两曲,冰写(泻)玉盘千万声。 杀声人耳肤血寒, 惨气中人饥骨酸, 曲终声尽欲半日, 四座相对愁无言。 座中有一远方士, 唧唧咨咨声不已, 自叹今朝初得闻, 始知孤(辜)负平生耳, 惟忧赵璧白发生, 老死人间无此声。 远方士,尔听五弦信为美, 吾闻正始之音不如是。 正始之音其若何。 朱弦疏越清庙歌, 一弹一唱再三叹, 曲淡节稀声不多。 融融曳曳召元气, 听之不觉心平和, 人情重今多贱古, 古琴有弦人不抚。 更从赵璧艺成来, 二十五弦不如五。

(卷三**)**

清夜琴兴

月出鸟栖尽, 寂然坐空林, 起时心境闲, 可以弹素琴。 清冷由本性, 恬淡随人心, 心积和平气, 本应正始音。 响余群动息, 曲罢秋夜深, 正声感元化, 天地清沈沈。

(卷五)

夜 琴

(卷七)

六十: 救学者之失 礼乐诗书

问: 学者教之根,理之本,国家设庠序以崇儒术,张礼乐而厚国风,师资肃以尊严,文物焕其明备。何则? 学《诗》《书》者拘于文而不通其旨,习礼乐者滞于数而不达其情,故安上之礼未行,化人之学将落。今欲使工祝知先王之道,生徒究圣人之心,《诗》《书》不失于愚诬,礼乐无闻于盈减,积之为言行,播之为风化,何为何作,得至于斯?

臣闻: 化人动众, 学为先焉。安上尊君, 礼为本焉。故古之王 者,未有不先于学,本于礼,而能建国君人,经天纬地者也。国家删 定六经之义,裁成五礼之文,是为学者之先知,生人之大惠也。故 命太常以典礼乐,立太学以教《诗》《书》,将使乎四术并举而行,万 人相从而化。然臣观大学生徒诵《诗》《书》之文,而不知《诗》《书》 之旨; 太常工祝执礼乐之器,而不识礼乐之情。遗其旨,则作忠兴 孝之义不彰;失其情,则合敬同爱之诚不著。所谓去本而从末,弃 精而得粗,至使陛下语学有将落之忧,顾礼有未行之叹者,此由官 失其业,师非其人,故但有修习之名,而无训导之实也。伏望审官 师之能否,辨教学之是非,俾讲《诗》者以六义风赋为宗,不专于鸟 兽草木之名也;读《书》者以五代典谟为旨,不专干章句话训之文 也; 习礼者以上下长幼为节,不专于俎豆之数、裼袭之容也; 学乐者 以中和友孝为德,不专于节奏之变、缀兆之度也。夫然,则《诗》 《书》无愚诬之失,礼乐无盈减之差,积而行立者乃升之于朝廷,习 而事成者乃用之于宗庙。是故温柔敦厚之教,疏通知远之训,畅于 中而发于外矣。 庄敬威严之貌, 易直子谅之心, 行于上而流于下 矣。则睹之者莫不承顺,闻之者莫不率从,管乎人情,出乎理道,欲

(卷四十八,策林四)

六十二: 议礼乐

问: 礼乐并用,其义安在?礼乐共理,其效何徵?礼之坏也,何 方以救之乎?乐之崩也,何术以济之乎?

臣闻:序人伦,安国家,莫先于礼。和人神,移风俗,莫尚于乐。二者所以并天地,参阴阳,废一不可也。何则,礼者纳人于别,而不能和也,乐者致人于和,而不能别也,必待礼以济乐,乐以济礼,然后和而无怨,别而不争,是以先王并建而用之,故理天下如指诸掌耳。志曰:六经之道同归,而礼乐之用为急。故前代有乱亡者,由不能知之也。有知而危败者,由不能行之也。有行而不至于理者,由不能达其情也。能达其情者,其唯宗周乎。周之有天下也,修礼达乐者七年,刑措不用者四十年,负扆垂拱者三百年,龟鼎不迁者八百年,斯可谓达其情臻其极也。故孔子曰:"吾从周"。然则继周者,其唯皇家乎。臣伏闻礼减则销,销则坏;乐盈则放,放则崩。故先王减则进之,盈则反之,济其不及,而泄其过用,能正人道,反天性,奋至德之光焉。国家承齐、梁、陈、隋之弊,遗风未弭,故礼稍失于杀,乐稍失于奢。伏惟陛下虑其减削,则命司礼者大明唐礼,防其盈放,则诏典乐者少抑郑声。如此则礼备而不偏,乐和而不流矣。继周之道,其在兹乎?

(同上)

六十三: 沿革礼乐

问: 礼乐之用,百王共之,然则历代以来,或沿而理,或革而乱,或损而兴,或益而亡,何述作之迹同而得失之效异也。 方今大制虽立,至理未臻,岂沿袭损益未适其时宜,将文物声明有乖于古制。思欲究盛礼之旨,审至乐之情,不和者改而更张,可继者守而勿失。具陈其要,当举而行。

臣闻,议者曰:礼莫备于三王,乐莫盛于五帝。非殷周之礼,不 足以理天下。非尧舜之乐,不足以和神人。是以总章、辟雍、冠服、 簠簋之制,一不备于古,则礼不能行矣。于戚、羽旄、屈伸、俯仰之 度,一不修于古,则乐不能和矣。古今之论,大率如此。臣窃谓斯 言失其本,得其末,非通儒之达识也。何者。夫礼乐者,非天降,非 地出也。盖先王酌于人情,张为通理者也。苟可以正人伦,宁家 国,是得制礼之本意也。苟可以和人心,厚风俗,是得作乐之本情 矣。盖善沿礼者,沿其意,不沿其名。善变乐者,变其数,不变其 情。故得其意,则五帝三王不相沿袭,而同臻干理矣。失其情,则 王莽屑屑习古,适足为乱矣。故曰:行礼乐之情者王,行礼乐之饰 者亡,盖谓是矣。且礼本于体,乐本于声,文物名数所以饰其体, 器度节奏所以文其声,圣人之理也。礼至则无体,乐至则无声。然 则苟至于理也, 声与体犹可遗, 况于文与饰乎。则本末取舍之宜, 可明辨矣。今陛下以上圣之姿,守烈祖之制,不待损益,足以致理。 然苟有沿革,则愿陛下审本末而述作焉。盖礼者以安上理人为体, 以别疑防欲为用,以玉帛俎豆为数,以周旋裼袭为容。数与容可损 益也,体与用不可斯须失也。乐者以易直子谅为心,以中和孝友为 德,以律度铿锵为饰,以缀兆舒疾为文。饰与文可损益之,心与德 不可斯须失也。夫然,则礼得其本,乐达其情,虽沿袭损益不同,同

六十四:复乐古器古曲

问:时议者或云:乐者声与器迁,音随曲变。若废今器用古器,则哀淫之音息矣。若舍今曲奏古曲,则正始之音兴矣。其说若此,以为如何?

臣闻: 乐者本于声,声者发于情,情者系于政。盖政和则情和,情和则声和,而安乐之音,由是作焉。政失则情失,情失则声失,而哀淫之音由是作焉。斯所谓音声之道与政通矣。伏睹议者,臣窃以为不然。何者? 夫器者所以发声,声之邪正,不系于器之今古也。曲者所以名乐,乐之哀乐,不系于曲之今古也。何以考之?若君政骄而荒,人心动而怨,则虽舍今器用古器,而哀淫之声不散矣。若君政善而美,人心平而和,则虽奏今曲废古曲,而安乐之音不流矣。是故和平之代,虽闻桑间濮上之音,人情不淫也,不伤也。乱亡之代,虽闻《咸》、《濩》、《韶》、《武》之音,人情不和也,不乐也。臣故以为销郑卫之声,复正始之音者,在乎善其政,和其情,不在乎改其器,易其曲也。故曰: "乐者不可以伪,唯明圣者能审而述作焉。"臣又闻: 若君政和而平,人心安而乐,则虽援篑桴,击野壤,闻之者必融融泄泄矣。若君政骄而荒,人心困而怨,则虽撞大钟、伐鸣鼓,闻之者适足惨惨戚戚矣。故臣以为谐神人,和风俗者,在乎善其政,欢其心,不在乎变其音,极其声也。

(同上)

六十九: 采诗以补察时政

问:圣人之致理也,在乎酌人言,察人情,而后行为政,顺为教者也。然则一人之耳,安得遍闻天下之言乎?一人之心,安得尽知天下之情乎?今欲立采诗之官,开讽刺之道,察其得失之政,通其上下之情,子大夫以为如何?

臣闻:圣王酌人之言,补己之过,所以立理本,导化源也,将在 乎选观风之使,建采诗之官,俾乎歌咏之声,讽刺之兴,日采于下,岁献于上者也。所谓言之者无罪,闻之者足以自诫。大凡人之感 于事,则必动于情,然后兴于嗟叹,发于吟咏,而形于歌诗矣。故闻 《蓼萧》之诗,则知泽及四海也。闻《华黍》之咏,则知时和岁丰也。闻《北风》之言,则知威虐及人也。闻《硕鼠》之刺,则知重敛于下也。闻"广袖""高髻"之谣,则知风俗之奢荡也。闻"谁其获者妇与姑"之言,则知征役之废业也。故国风之盛衰,由斯而见也;王政之得失,由斯而闻也;人情之哀乐,由斯而知也。然后君臣亲览而斟酌焉。政之废者修之,阙者补之;人之忧者乐之,劳者逸之,所谓善防川者决之使导,善理人者宜之使言。故政有毫发之善,下必知也。教有锱铢之失,上必闻也。则上之诚明,何忧乎不下达。下之利病,何患乎不上知。上下交和,内外胥悦,若此而不臻至理,不致升平,自开辟以来,未之闻也。老子曰:"不出户知天下",斯之谓欤?

(同上)

问 杨 琼

古人唱歌兼唱情, 今人唱歌惟唱声。 欲说向君君不会, 试将此语问杨琼。

(卷五十一)

好 听 琴

本性好丝桐, 生机闻即空, 一声来耳里, 万事离心中。 情畅堪销疾, 恬和好养蒙, 尤宜听《三乐》, 安慰白头翁。

(卷五十三)

船夜援琴

乌栖鱼不动, 月照夜江深。 身外都无事, 舟中祇有琴。 七弦为益友, 两耳是知音。 心静即声淡, 其间无古今。

听琵琶妓弹《略略》

腕软拨头轻, 新教《略略》成。 四弦千遍语, 一曲万重情。 法向师边得, 能从意上生。 莫欺江外手, 别是一家声。

(卷五十四)

弹 《秋 思》

信意闲弹《秋思》时, 调清声直韵疏迟。 近来渐喜无人听, 琴格高低心自知。

(卷五十七)

和令狐仆射小饮听阮咸

掩抑复凄清, 非琴不是筝。

还弹乐府曲, 别占阮家名。

古调何人识? 初闻满座惊,

口种的人的! 你們們在你,

摇珮玉琤琤。

落盘珠历历,

似劝杯中物, 如含林下情。

时移音律改, 岂是昔时声。

(卷六十六)

水 调

五言一遍最殷勤, 调少情多似有因。 不会当时翻曲意, 此声肠断为何人?

(卷六十八)

素 履 子・履 乐^① _{森 孫}^③

素履子曰: 夫乐者, 天地四时之和也。故律吕调则阴阳和, 五音 调则四时叙。是故古昔帝王,制礼作乐,以化民也。是以黄帝曰《云 门》,颛頊曰《六轻》,帝喾曰《五英》,尧曰《咸池》,舜曰《大韶》,禹 曰《大夏》,汤曰《大濩》,武王曰《大武》,皆八代之乐也。用彰其德, 以明其功,故天地四时,皆顺从其化。夫"八声"之用,《乐记》曰:钟 声铿,铿以立号,号以立横,横以立武。君子听钟声,则思武臣。石 声硜, 硜以立别, 别以致死。君子听磬声, 则思死封疆之臣。丝声 哀,哀以立廉,廉以立志。君子听琴瑟之声,则思志义之臣。竹声 滥,滥以立信,信以严众。君子听竽、笙、箫、管之声,则思畜聚之 臣。鼙鼓之声谦, 灌以立动, 动以进众。君子听鼙鼓之声, 则思将 帅之臣。"五音"之用也,五行之音,以调正气,春之角,以其清浊中, 人之象,春气和则角声调。《乐记》曰:"角乱则忧,其民怨也"。夏之 徵,以其徵清,事之象也,夏气和则徵声调。《乐记》曰:"徵乱则哀, 其事勤也"。季夏之宫,以其严大。《乐记》曰:"宫乱则荒,其君骄 也"。秋之商,以其浊中次宫,臣之象也,秋气和则商声调。《乐记》 曰:"商乱则陂,其臣坏也"。冬之羽,以其严清,物之象也,冬气和 则羽声调。《乐记》曰:"羽乱则危,其财匮也"。此"五音"、"八声" 之用也,所以人情不能免也。用之祭天地,乃天神降,地祗升。用 之祭山川,则神鬼飨。用之化人,则人民和。故得其节,则乐行而 伦清,耳目聪明,血气和平,移风易俗,天下皆宁。用失其节,则郑

① 据商务印书馆《丛书集成》本。

② 张弧, 生平不详。

卫之音作,桑间濮上之风行。所以治世之音安以乐,其政和;乱世之音怨以怒,其政乖;亡国之音哀以思,其民困。又清为君、浊为臣;清为阳、浊为阴。清浊不乱,君臣和平,阴阳顺序,贤者听其音而知其治。然五帝殊时,不相沿乐;三王异代,不相袭礼。至于礼情主敬,乐情主和,敬之与和,万代不易。是以礼节之于繁,乐节之于过;礼繁则乱,乐过则淫。节乐止淫,履之本也。

(卷下)

宋 元 部 分

范文正公集①(辑录) 范仲淹②

今乐犹古乐赋号店同乐

古之乐兮,所以化人,今之乐兮,亦以和民,在上下之咸乐,岂今昔之殊伦。何后何先,俱可谐于雅颂;一彼一此,皆能感于人神。原夫惟孟子之谟猷,激齐王之思虑,惠民之道将进,述乐之言斯著。以谓昔时搏拊,实用洽于群情;此日铿锵,亦足康于兆庶。盖在乎君臣交泰,民物滋丰。和气既充于天下,德华遂振于城中,实万邦之所共谅,百世之攸同。听此笙镛,曷异闻《韶》之美。顾兹匏土,宛存击壤之风。孰是孰非,爰究爰度。且何伤于异制。但无求于独乐。移风易俗,岂惟前圣之所能。春诵夏弦,宁止古人之有作。若乃均和其用,调审其音,上以象一人之德,下以悦万国之心;既顺时而设教,孰尊古而卑今。六律再推,自契伶伦之管;五声未很,何惭虞舜之琴。其或政尚滋章,民犹劳苦;乐虽遵于前代,化未畅于率土。曷若我咸臻仁寿,共乐钟鼓。八风时叙,命夔而不在当年;《万》舞日新,教胄而何须往古。若然,则不假求旧,惟闻导和。其制也,虽因时而少异;其音也,盖理心而靡他。播兹治世之音,无远弗届;较彼先王之乐,相去几何。今国家大乐方隆,休声遐被。

① 据商务印书馆《四部丛刊》本。

② 范仲淹(989-1052)。

曾不感于郑卫,自能和于天地。举今古而酌中,与英茎而岂异?

与唐处士书

十二月日,高平范某,谨再拜致书于处士唐君。盖闻圣人之作琴也,鼓天地之和而和天下,琴之道大乎哉!秦作之后,礼乐失驭,于嗟乎,琴散久矣!后之传者,妙指美声,巧以相尚,丧其大,矜其细,人以艺观焉。皇宋文明之运,宜建大雅。东宫故谕德崔公,其人也,得琴之道,志于斯,乐于斯,垂五十年,清静平和,性与琴会,著琴笺,而自然之义在矣。某尝游于门下。一日请曰:"琴何为是?"公曰:"清厉而静,和润而远。"某拜而退,思而释曰:清厉而弗静,其失也躁;和润而弗远,其失也佞;弗躁弗佞,然后君子其中和之道欤!一日又请曰:"今之能琴,谁可与先生和者?"曰:"唐处士可矣。"某拜而退。美而歌曰:"有人焉,有人焉,且将师其一二。"属远仕千里,未获所存,今复选于上京。崔公既没,琴不在于君乎!君将怜其意,授之一二,使得操尧舜之音,游羲黄之域,其赐也岂不大哉!又先王之琴,传传而无穷,上圣之风,存乎盛时,其旨也岂不远矣!诚不敢助南薰之诗,以为天下富寿;庶几宜三乐之情,以美生平而可乎。某狂愚之咎,亦冀舍族。不宜。某再拜。

"张知白、房庶论乐"®

······天圣中, 帝尝问辅臣以古今乐之异同。王曾对曰: "古乐 祀天地、宗庙、社稷、山川、鬼神,而听者莫不和悦;今乐则不然,徒 虞人耳目而荡人心志。自昔人君流连荒亡者,莫不繇此。"帝曰: "朕于声伎固未尝留意,内外宴游皆勉强耳。"张知白曰:"陛下盛 德,外人岂知之,愿备书时政,记世号。太常为雅乐而未尝施于宴 享,岂以正声为不美德哉。夫乐者,乐也。其道虽微妙难知,至于 奏之而使人悦豫和平,则不待知音而后能也。今太常乐悬钟磬、埙 箎、搏拊之器,与夫舞缀、羽籥、干戚之制,类皆仿古。逮振作之,则 听者不知为乐,而观者厌焉。古乐岂真若此哉。孔子曰恶郑声,恐 其乱雅, 乱之云者, 似是而非也。孟子亦曰: 今乐犹古乐。而太常 仍与教坊殊绝何哉?"昔李照、胡瑗、阮逸改铸钟磬、处士徐复笑之 曰:"圣人寓器以声,不先求其声而更其器,其可用乎?"照、瑗、逸制 作久之,卒无所成。蜀人房庶亦深订其非是,因著书论古乐与今乐 本末不远。其大略以谓:上古世质,器与声朴。后世稍变焉。金 石、钟磬也,后世易之为方响;丝竹,琴箫也,后世变之为筝笛。匏, 笙也, 攒之以斗。埙, 土也, 变而为瓯。革, 麻料也, 击而为鼓。木, 柷敔也, 贯之为板。此八音者, 于世其便。而不达者指庙乐鎛钟、 鎛磬、宫轩为正声,而概谓夷部、卤部为淫声。 殊不知大辂起于椎 轮,龙艘生于落叶,其变则然也。古者,食以俎豆,后世易以杯盂; 簠席以为安,后世更以榻桉。使圣人复生不能舍杯盂、榻桉而复俎

① 辑自《宋史·乐志》九十五,据开明书店《二十五史》本。房底,活动年代在宋仁宗时(1023—1032)。

豆,簟席之质也。八音之器,岂异此哉? 孔子曰郑声淫者,岂以其器不若古哉? 亦疾其声之变尔。试使知乐者,由今之器,寄古之声,去惉懘靡曼,而归之中和雅正,则感人心导和气,不曰治世之音乎? 然则世所谓雅乐者,未必如古,而教坊所奏,岂尽为淫声哉?"当数子纷纷锐意改制之后,庶之论指,意独如此,故存其语,所俟知者。

见牧牛人隔江吹笛^①(节录)

梅尧臣②

……,长笛初在骻。面尾骑且吹,音响未成雅。随风散远近,举调任高下。我方江上来,平溜若镜泻,悠悠经醉耳,亦足发潇灑。 苟能和人心,岂必奏《韶》《夏》? 郑声实美好,蠢情如剔剐。况且荒败迹,亦又甚裂瓦。……

① 辑自《宛陵先生集》卷三十三,据商务印书馆《四部丛刊》本。

② 梅尧臣(1002-1060)。

"欧阳修论乐"®

国学试策三道第二道

问: 乐由中出,音以心生,自金石毕陈,《咸》《韶》间作,莫不协和律吕,感畅神灵。虽嗜欲之变万殊,思虑之端百致,敦和饰喜,何莫由斯。是以哀乐和睽,则噍杀啴缓之音应其外;礼信殊衍,则《大雅》《小雅》之歌异其宜。锺期改听于流水,伯喈回车于欲杀。戚忧未弭,子夏不能成声。感慨形言,孟尝所以抆泣。斯则乐由志革,音以情迁。盖心术定其惨舒,铿锵发之影响。是以亡陈遗曲,唐人不以为悲;文皇剧谈,杜生于斯结舌。谓致乐可以导志,将此音不足移人。先王立乐之方,君子审音之旨,请论详悉,倾竚洽闻。

对:人肖天地之貌,故有血气仁智之灵;生禀阴阳之和,故形喜怒哀乐之变。物所以感乎目,情所以动乎心,合之为大中,发之为至和,诱以非物,则邪僻之将入,感以非理,则流荡而忘归。盖七情不能自节,待乐而节之;至性不能自和,待乐而和之。圣人由是照天命以穷根,哀生民之多欲,顺导其性,人为之防。为播金石之音,以畅其律;为制羽毛之采,以饰其容。发焉为德华,听焉达天理,此六乐之所以作,三王之所由用,人物以是感畅,心术于焉惨舒也。故《乐记》之文、噍杀啴缓之音以随哀乐而应乎外;师乙之说,以《小雅》《大雅》之异礼信而各安于宜。夫奸声、正声,应感而至,好礼好信,由性则然,此则礼信之常也。若夫《流水》一奏而子期赏音,杀声外形则伯喈兴叹,子夏戚忧而不能成声,孟尝听曲而为之堕睫,亡陈

① 欧阳修(1007-1172)。辑录所据分别见于文末。

之曲唐人不悲,文皇剧谈,杜生靡对。斯瑣瑣之濫音,曾非圣人之至乐。语其悲适足以蹙匹夫之意,谓其和而不能畅天下之乐。且黄锺六律之音,尚贱于末节,大武三王之事,犹讥于未善。况鼓琴之末技,亡国之遗音,又乌足道哉,必欲明教之导志,音之移人,粗举一端,请陈其说。夫顺天地,调阴阳,感人以和,适物之性,则乐之导志,将由是乎,本治乱,形哀乐,歌政之本,动民之心,则音之移人,其在兹矣。帝尧之《大章》,成汤之《大濩》,乃是先王立乐之方。延陵之聘鲁,夫子之闻《韶》,则见君子审音之旨。谨对。

(辑自《欧阳文忠全集》卷七十五。据中华书局《四部备要》本)

书梅圣俞诗藁后

凡乐,达天地之和而与人之气相接,故其疾徐奋动可以感于口,欢忻恻怆可以察于声。五声单出于金石不能自和也,而工者和之。然抱其器,知其声,节其廉肉而调其律吕,如此者工之善也。今指其器以问于工,曰:"彼篡者堵而编,执而列者,何也?"彼必曰:"鼗鼓、锺磬、丝管、干成也。"又语其声以问之曰:"彼清者、浊者、刚而奋,柔而曼衍者,或在郊,或在庙堂之下而罗者,何也?"彼必曰"八音五声、六代之曲,上者歌而下者舞也。"其声器名物皆可数而对也。然至乎动荡血脉,流通精神,使人可以悲,或歌或泣,不知手足鼓舞之所然,问其何以感之者,则虽有善工犹不知其所以然焉。盖不可得而言也。乐之道深矣,故工之善者,必得于心,应于手,而不可述之言也。听之善,亦必得于心而会以意,不可得而言也。尧舜之时,夔得之以和人神,舞百兽。三代、春秋之际,师襄、师旷,州鸠之徒得之为乐官,理国家,知兴亡。周衰官失,乐器沦亡,散之河海,逾千百岁间未闻有得之者。其天地人之和气相接者,既不得泄于金石,疑其遂独锺于人,故其人者虽不可和于乐,尚能歌之为诗。

古者,登歌清庙,太师掌之。而诸侯之国,亦各有诗以道其风土情性。至于投壶飨射,必使工歌以达其意,而为宾乐。盖诗者,乐之苗裔欤。汉之苏、李,魏之曹、刘,得其正始。宋、齐而下,得其浮淫流佚。唐之时,子昂、李、杜、沈、宋、王维之徒,或得其淳古淡泊之声,或得其舒和高畅之节;而孟郊,贾岛之徒,又得其悲愁鬱湮之气,由是而得下者,时有而不纯焉。……

(辑自明蒋克谦: 《琴书大全》卷第十八。据传抄明刊本)

"论 礼 乐"

由三代而上,治出于一,而礼乐达于天下;由三代而下,治出于二,而礼乐为虚名。……

(辑自《新唐书》卷十一《礼乐一》。据中华书局点校本。)

声无形而乐有器。古之作乐者,知夫器之必有敝,而声不可以言传,惧夫器失而声遂亡也,乃多为之法以著之。故始求声者以律,而造律者以黍。自一黍之广,积而为分、寸,一黍之多,积而为龠、合,一黍之重,积而为铢、两。此造律之本也。故为之长短之法,而著之于度;为之多少之法,而著之于量;为之轻重之法,而著之于权衡。是三物者,亦必有时而敝,则又总其法而著之于数,使其分寸、龠合、铢两,皆起于黄锺,然后律、度、量、衡相用为表里,使得律者,可以制度、量、衡,及度、量、衡,亦可以制律。不幸而皆亡,则推其法数而制之。用其长、短、多、少、轻、重以相参考。四者既同,而声必至,声至而后乐可作矣。夫物用于有形而必弊,声藏于无形而不竭,以有数之法,求无形之声,其法具存。无作则已,苟有作者,虽去圣人于千万岁后,无不得焉。此古之君子知物之终始,而忧世之虑深,其多为之法,而丁宁纤悉、可谓至矣。

(辑自《新唐书》卷二十一《礼乐十一》。据中华书局点校本)

礼之始作也,难而易行;既行也,易而难久。天下未知君之为 君,父之为父,兄之为兄,而圣人为之君、父、兄; 天下未有以异其 君、父、兄,而圣人为之拜、起、坐、立:天下未肯靡然以从我拜、起、 坐、立,而圣人身先之以耻。呜呼,其亦难矣,天下恶夫死也久矣。 圣人招之曰:来,吾生尔。既而其法可以生天下之人。天下之人,视 其向也如此之危,而今也如此之安,则宜何从,故当其时,虽难而易 行。既行也,天下之人视君、父、兄,如头足之不待别(辨)白而后识 视; 拜、起、坐、立, 如寝食之不待告语而后从事。虽然, 百人从之, 一人不从,则其势不得遽至乎死。天下之人,不知其初之无礼而 死,而见其今之无礼而不至平死也,则曰,圣人欺我。故当其时,虽 易而难久。呜呼,圣人之所恃以胜天下之劳逸者,独有死生之说 耳。死生之说不信于天下,则劳逸之说将出而胜之。劳逸之说胜, 则圣人之权去矣。酒有鸩,肉有革,然后人不敢饮食。药可以生 死,然后人不以苦口为讳。去其鸩,彻其堇,则酒肉之权固胜于药。 圣人之始作礼也,其亦逆知其势之将必如此也; 日,告人以诚,而后 人信之。幸今之时,吾之所以告人者,其理诚然,而其事亦然,故人 以为信。吾知其理,而天下之人知其事。事有不必然者,则吾之理 不足以折天下之口。此告语之所不及也。告语之所不及,必有以 阴驱而潜率之。于是观之天地之间,得其至神之机,而窃之以为 乐。雨,吾见其所以湿万物也;日,吾见其所以燥万物也;风,吾见

① 辑自《嘉祐集》卷六。据商务印书馆《四部从刊》本。

② 苏洵(1009-1066)。

其所以动万物也。隐隐谹谹,而谓之雷者,彼何用也。阴凝而不散,物蹙而不遂,雨之所不能湿,日之所不能燥,风之所不能动——雷一震焉,而凝者散,蹙者遂。曰雨者,曰日者,曰风者,以形用;曰雷者,以神用。用莫神于声,故圣人因声以为乐。为之君臣、父子、兄弟者,礼也。礼之所不及,而乐及焉。正声入乎耳,而人皆有事君,事父、事兄之心。则礼者,固吾心之所有也。而圣人之说,又何从而不信乎。

周子通书^①(辑录)周敦颐^②

乐上第十七

古者圣王制礼法,修教化,三纲正,九畴叙,百姓太和,万物咸若,乃作乐以宣八风之气,以平天下之情,故乐声淡而不伤,和而不淫。人其耳,感其心,莫不淡且和焉。淡则欲心平,和则躁心释。优柔平中,德之盛也。天下化中,治之至也。是谓道配天地,古之极也。后世礼法不修,政刑苛紊,纵欲败度,下民困苦,谓古乐不足听也。代变新声,妖淫愁怨,导欲增悲,不能自止。故有贼君弃父,轻生败伦,不可禁者矣。呜呼,乐者,古以平心,今以助欲;古以宣化,今以长怨。不复古礼,不变今乐,而欲至治者,远矣。

乐中第十八

乐者,本乎政也。政善民安,则天下之心和。故圣人作乐,以 宣畅其和。心达于天地,天地之气感而大和焉。天地和,则万物 顺,故神祇格,鸟兽驯。

乐下第十九

乐声淡,则听心平;乐辞善,则歌者慕;故风移而俗易矣。妖声 艳辞之化也,亦然。

① 据中华书局《四部备要》本。

② 周敦颐(1017-1073)。

"张 载 论 乐"[®]

礼 乐(节录)

礼,反其所自生;乐,乐其所自成。礼别异,不忘本,而后能推本为之节文;乐统同,乐吾分而已。礼,天生自有分别,人须推原其自然,故言反其所自生。乐,则得其所乐,即是乐也,更何所待。是乐其所自成。

周乐有《象》、有《大武》、有《酌》。《象》是武王为文王庙所作,下武继文也。武功本于文王,武王继之,故武王归功于文王以作此乐,象文王也。《大武》必是武王既崩,国家所作之乐,奏之于武王之庙。《酌》必是周公七年之后,制礼作乐时于《大武》有增添也。故《酌》言告成《大武》也。其后必是《酌》以祀周公。

治乱以相为周召作,讯疾以雅为太公作。

入门而县兴金奏,此言两君相见,凡乐皆作,必《肆夏》也。至 升堂之后,其乐必不皆作,奏必有品次。大合乐犹今之合曲也,必 无金石,止用匏竹之类也。八音克谐,堂上堂下尽作也,明矣。

古乐不可见,盖为今人求古乐太深,始以古乐为不可知。只此《虞书》:"诗言志,歌永言,声依永,律和声。"求之得乐之意,盖尽于是。诗只是言志,歌只是永其言而已。只要转其声,令日可听。今人歌者,亦以转声而不变字为善歌。长言后却要人于律。律则知音者知之,知此声人得何律。古乐所以养人德性中和之气。后之

① 《礼乐》辑自《张子全书》,据中华书局《四部备要》本。《语录》辑自《张子语录》 据商务印书馆《四部丛刊》本。张载(1020—1077)。

言乐者,止以求哀。故晋平公曰:"音无哀于此乎?"哀则止以感人不善之心。歌亦不可以太高,亦不可以太下,太高则入于噍杀,太下则入于啴缓。盖穷本知变,乐之情也。

《周礼》言乐六变而致物各异,此恐非周公之制作本意,事亦不能如是确然,若谓天神降,地祇出,人鬼可得而礼,则庸有此理。

问角、徵、羽皆有主出于唇齿喉舌,独宫声全出于口以兼五声也。徵恐只是徵平,或避讳为徵仄,如是则清浊平仄不同矣,齿舌之音异矣。

律吕有可求之理,德性深厚者必能知之。

后之言历数者,言律一寸而万数千分之细,此但有其数而无其 象耳。

声音之道与天地同和,与政通。蚕吐丝而商弦绝,正与天地相应。方蚕吐丝,木之气极盛之时,商金之气衰。如言律中太簇,律中林锤,于此盛则彼必衰,方春木当盛,却金气不衰,便是不和,不与天地之气相应。

先王之乐必须律以考其声。今律既不可求,人耳又不可全信, 正惟此为难。求中声须得律,律不得则中声无由见。律者自然之 至,此等物虽出于自然,亦须人为之。但古人为之,得其自然,至如 为规矩,则极尽天下之方圆矣。

郑卫之音自古以为邪淫之乐,何也?盖郑卫之地族大河沙地, 土不厚,其间人自然气轻浮,其地土苦,不费耕耨,物亦能生,故其 人偷脱怠堕、弛慢颓靡。其人情如此,其声音同之,故闻其乐,使人 如此懈慢。其地平下,其间人自然意气柔弱怠堕,其土足以生,古 所谓息土之民不才者,此也。若四夷则皆踞高山谿谷,故其气刚 劲,此四夷常胜中国者,此也。

移人者莫甚于郑卫。未成性者皆能移之,所以夫子戒颜回也。

今之琴亦不远郑卫,古音必不如是。古音只是长言,声依于永,于 声之转处过得声和婉,决无预前定下腔子。

张 子 语 录 (辑录)

《大武》可以为也。尽见武王之事便可为。看了《武》,特地知 虞舜。舜之时又好,德性又备,礼文又备。

观《虞书》,礼大乐备,然则礼乐之盛,直自虞以来。古者虽有崩坏之时,然不直至于泯绝天下,或得之于此国,或得之于彼国,互相见也。

假令官悬,虽锺鼓四面同设,其四隅必别各有鼓。

击石拊石。独击谓之击。若编磬则声有高下,击之不齐,故谓 之拊,今谓之拊响,然也。琴瑟亦谓之拊,以其声不同也。

乐言拊者,大凡杂音谓之拊,独者为击。笙、镛、锺、磬,皆可 言拊。

礼 乐 论[®] 王安石[®]

气之所禀命者,心也。视之能必见,听之能必闻,行之能必至, 思之能必得,是诚之所至也。不听而聪,不视而明,不思而得,不行 而至,是性之所固有,而神之所自生也,尽心尽诚者之所至也。故 诚之所以能不测者,性也。贤者尽诚以立性者也。圣人尽性以至 诚者也。神生于性,性生于诚,诚生于心,心生于气,气生于形。形 者,有牛之本,故养牛在于保形,充形在于育气,养气在于宁心,宁 心在于致诚, 养诚在于尽性, 不尽性不足以养生。能尽性者, 至诚 者也,能至诚者,宁心者也,能宁心者,养气者也,能养气者,保形者 也,能保形者,养生者也,不养生不足以尽性也。生与性之相因循, 志之与气相为表里也。生浑则蔽性,性浑则蔽生,犹志一则动气, 气一则动志也。先王知其然,是故体天下之性而为之礼,和天下之 性而为之乐。礼者,天下之中经。乐者,天下之中和。礼乐者,先 王所以养人之神,正人气而归正性也。是故大礼之极,简而无文; 大乐之极,易而希声。简易者,先王建礼乐之本意也。世之所重, 圣人之所轻; 世之所乐,圣人之所悲。非圣人之情与世人相反,圣 人内求,世人外求。内求者,乐得其性,外求者,乐得其欲。欲易发 而性难知,此情性之所以正反也。衣食所以养人之形气,礼乐所以 养人之性也。礼反其所自始,乐反其所自生,吾于礼乐见圣人所贵 其生者至矣。世俗之言曰:"养生非君子之事",是未知先王建礼乐 之意也。养生以为仁,保气以为义,去情却欲以尽天下之性,修神

① 辑自《临川先生文集》卷六十六。据中华书局 1950 年版。

② 王安石(1021-1086)。

致明以趋圣人之域。圣人之言,莫大颜渊之间。非礼勿视,非礼勿 听,非礼勿言,非礼勿动,则仁之道亦不远也。耳非取人而后聪,目 非取人而后视,口非取诸人而后言也,身非取诸人而后动也。其守 至约,其取至近,有心有形者,皆有之也。然而颜子且犹病之何也? 盖人之道,莫大干此。非礼勿听,非谓掩耳而避之,天下之物不足 以干吾之聪也; 非礼勿视, 非谓掩目而避之, 天下之物不足以乱吾 之明也; 非礼勿言, 非谓止口而无言也, 天下之物不足以易吾之辞 也; 非礼勿动, 非谓止其躬而不动, 天下之物不足以干吾之气也。 天下之物,岂特形骸自为哉。其所由来盖微矣。不听之时,有先聪 焉; 不视之时, 有先明焉; 不言之时, 有先言焉; 不动之时, 有先动 焉。圣人之门,惟颜子可以当斯语矣。是故,非耳以为聪,而不知 所以聪者,不足以盖天下之听;非目以为明,而不知所以明者,不足 以尽天下之视。聪明者耳目之所能为,而所以聪明者非耳目之所 能为也。是故待钟鼓而后乐者,非深于乐者也;待玉帛而后恭者, 非深于礼者也。 蒉桴土鼓, 而乐之道备矣。 燔黍椑豚, 污尊杯饮, 礼既备矣。然大裘无文,大辂无饰,圣人独以其事之所贵者,何也? 所以明礼乐之本也。故曰"礼之近人情,非其至者也。"曾子谓孟敬 子"君子之所贵平道者三:动容貌,斯远暴慢矣;正颜色,斯近信矣; 出辞气,斯远鄙倍矣。笾豆之事,则有司存。"观此言也,曾子而不 知道也则可,使曾子而为知道,则道不违平言貌辞气之间,何待干 外哉? 是故古之人目击而道已存,不言而意已传,不赏而人自劝、 不罚而人自畏, 莫不由此也。是故, 先王之道可以传诸言, 效诸行 者,皆其法度、刑政,而非神明之用也。《易》曰,神而明之,存乎其 人,默而成之,不言而信。存乎德行,去情却欲,而神明生矣。修神 致明,而物自成矣。是故,君子之道鲜矣。齐明其心,清明其德,则 天地之间,所有之物,皆自至矣。君子之守至约,而其至也广;其取 至近,而其应也远。《易》日,拟之而后言,议之而后动。拟议以成

其变化,变化之应,天人之极致也。是以《书》言天人之道,莫大于 《洪范》。《洪范》之言天人之道,莫大干貌、言、视、听、思。 大哉圣 人独见之理、传心之言乎、储精晦息而通神明。君子之所不至者 三,不失色干人,不失口干人,不失足干人。不失色者,容貌精也; 不失口者,语默精也;不失足者,行止精也。君子之道也,语其大则 天地不足容也; 语其小则不见秋豪之末; 语其强则天下莫能敌也; 语其约则不能致传记。圣人之遗言曰,大礼与天地同节,大乐与天 地同和, 盖言性也。大礼性之中, 大乐性之和, 中和之情, 通乎神 明。故圣人储精九重,仪凤凰修五事而关阴阳,是天地位而三光 明,四时行而万物和。《诗》曰:"鹤鸣于九皋,声闻于天。"故孟子 曰:"我善养吾浩然之气, 充塞平天地之间。"杨子曰:"貌、言、视、 听、思、性所有、潜天而天、潜地而地也。"呜呼: 礼乐之意不传久 矣: 天下之言养牛修性者, 归干浮屠、老子而已。 浮屠、老子之说 行,而天下为礼乐者,独以顺流俗而已。夫使天下之人,驱礼乐之 文,以顺流俗为事,欲成治其国家者,此梁晋之君,所以取败之祸 也。然而世非知之也者,何耶。特礼乐之意,大而难知;老子之言, 近而易轻。圣人之道得诸己,从容人事之间,而不离其类焉,浮屠 直空虚穷苦,绝山林之间,然后足以善其身而已。由是观之,圣人 之与释老,其远近难易可知也。是故,赏与古人同而劝不同;罚与 古人同而威不同; 仁与古人同而爱不同; 智与古人同而识不同; 言 与古人同而信不同。同者,道也。不同者,心也。《易》曰:"苟非其 人,道不虚行。"昔宓子贱为单父宰,而单父之人化焉。今王公大人 有尧舜伊尹之势,而无子贱一邑之功者,得非学术素浅,而道未明 欤。夫天下之人,非不勇为圣人之道。为圣人之道者,时务速售诸 人以为进取之阶。今夫进取之道,譬诸钩索物耳,幸而多得其数, 则行为王公大人,若不幸而少得其数,则裂逢掖之衣为商贾矣。由 是观之,王公大人同商贾之得志者也。此之谓学术浅而道不明。由

此观之, 得志而居人之上, 复治圣人之道而不舍焉, 几人矣。内而 好爱之容蛊其欲,外有便嬖之谀骄其志,向之所能者,且已忘矣,今 之所好者,日已至矣。孔子曰:"有颜回者,好学,不迁怒,不贰过。" 又曰: "吾见其进, 未见其止也。"夫颜子之所学者, 非世人之所学, 不迁怒者,求诸己,不武过者,见不善之端而止之也。世之人所谓 退,颜子之所谓进也;人之所谓益,颜子之所谓损也。《易》曰:"损, 先难而后获。"颜子之谓也。耳损于声,目损于色,口损于言,身损 干动,非先难欤。及其至也,耳无不闻,目无不见,言无不信,动无 不服,非后得欤? 是故君子之学,始如愚人焉,如童蒙焉;及其至 也, 天地不足大, 人物不足多, 鬼神不足为隐, 诸子之支离不足惑 也。是故天之高也,日月星辰阴阳之气,可端策而数也;地至大也, 山川丘陵万物之形,人之常产,可指籍而定也;是故星历之数,天 地之法,人物之所,皆前世致精好学圣人者之所建也。后世之人守 其成法,而安能知其始焉。《传》曰:"百工之事,皆圣人作。"此之谓 也。故古之人言道者,莫先于天地; 言天地者,莫先乎身; 言身者, 莫先乎性; 言性者, 莫先乎精。精者, 天之所以高, 地之所以厚, 圣 入所以配之。故御人莫不尽能,而造父独得之,非车马不同,造父 精之也;射人莫不尽能,而羿独得之,非弓矢之不同,羿精之也。今 之人与古之人一也,然而用之则二也。造父用之以为御,羿用之以 为射,盗蹠用之以为贼。

梦 溪 笔 谈^① 沈 括^③

乐 律 一(节录)

86 吾闻《羯鼓录》序羯鼓之声云:"透空碎远,极异众乐。"唐羯鼓曲,今唯有邠州一父老能之,有《大合蝉》、《滴滴泉》之曲。予在鄜延时,尚闻其声。泾、原承受公事杨元孙因奏事回,有旨令召此人赴阙,元孙至邠,而其人已死,羯鼓遗音遂绝。今乐部中所有,但名存而已,透空碎远,了无余迹。唐明帝与李龟年论羯鼓云"杖之弊者四柜",用力如此,其为艺可知也。

87 唐之杖鼓,本谓之"两杖鼓",两头皆用杖。今之杖鼓,一头以手拊之,则唐之"汉震第二鼓"也。明帝、宋开府皆善此鼓。其曲多独奏,如鼓笛曲是也。今时杖鼓,常时只是打拍,能有专门独奏之妙。古曲悉皆散亡,顷年王师南征,得《黄帝炎》("炎"或作"盐")一曲于交趾,乃杖鼓曲也。唐曲有《突厥盐》、《阿鹊盐》。施肩吾诗云:"颠狂楚客歌成雪,妩媚吴娘笑是盐。"盖当时语也。今杖鼓谱中有炎杖声。

88 元稹《连昌宫词》有"逡巡'大遍'《凉州》彻。"所谓"大遍"者,有序、引、歌、额、唯、哨、催、撷、袞、破、行、中腔、踏歌之类,凡数十解。每解有数叠者。裁截用之,则谓之"摘遍"。今人大曲,皆是裁用,悉非"大遍"也。

91 《柘枝》旧曲, 遍数极多, 如《羯鼓录》所谓《浑脱解》之类, 今

① 据胡道静校注《新校正梦溪笔谈》,中华书局 1957 年版。

② 沈括(1030-1094)。

无复此遍。寇莱公好《柘枝》舞,会客必舞《柘枝》,每舞必尽日,时谓之"《柘枝》颠"。今凤翔有一老尼,犹是莱公时《柘枝》妓,云:"当时《柘枝》,尚有数十遍,今日所舞《柘枝》,比当时十不得二三。"老尼尚能歌其曲,好事者往往传之。

- 92 古之善歌者有语,谓"当使声中无字,字中有声。"凡曲,止是一声清浊高下如萦缕耳,字则有喉唇齿舌等音不同。当使字字举本皆轻圆,悉融入声中,令转换处无磊魂,此谓"声中无字",古人谓之"如贯珠",今谓之"善过度"是也。如宫声字而曲合用商声,则能转宫为商歌之,此"字中有声"也,善歌者谓之"内里声"。不善歌者,声无抑扬,谓之"念曲";声无含韫,谓之"叫曲"。
- 94 外国之声,前世自别为四夷乐。自唐天宝十三载,始诏法曲与胡部合奏。自此乐奏全失古法。以先王之乐为雅乐,前世新声为清乐,合胡部者为宴乐。
- 95 古诗皆咏之,然后以声依咏以成曲,谓之协律。其志安和,则以安和之声咏之;其志怨思,则以怨思之声咏之。故治世之音安以乐,则诗与志,声与曲,莫不安且乐;乱世之音怨以怒,则诗与志,声与曲,莫不怨且怒。此所以审音而知政也。诗之外又有和声,则所谓曲也。古乐府皆有声有词,连属书之。如曰贺贺贺、何何何之类,皆和声也。今管弦之中缠声,亦其遗法也。唐人乃以词填入曲中,不复用和声。此格虽云自王涯始,然[正][贞]元、元和之间,为之者已多,亦有在涯之前者。又小曲有"咸阳沽酒宝钗空"之句,云是李白所制,然李白集中有《清平乐》词四首,独欠是诗;而《花间集》所载"咸阳沽酒宝钗空",乃云是张泌所为。莫知孰是也。今声词相从,唯里巷间歌谣及《阳关》、《擣练》之类,稍类旧俗。然唐人填曲,多咏其曲名,所以哀乐与声尚相谐会。今人则不复知有声矣,哀声而歌乐词,乐声而歌怨词,故语虽切而不能感动人情,由声与意不相谐故也。

96 古乐有三调声,谓清调、平调、侧调也。王建诗云"侧商调 里唱《伊州》"是也。今乐部中有三调乐,品皆短小,其声噍杀,唯道 调小石法曲用之。虽谓之三调乐,皆不复辨清、平、侧声,但比他乐 特为烦数耳。

97 唐《独异志》云:"唐承隋乱,乐虞散亡,独无徵音,李嗣真密求得之。闻弩营中砧声,求得丧车一铎,入振之于东南隅,果有应者,掘之得石一段,裁为四具,以补乐虞之阙。"此妄也。声在短长厚薄之间,故《考工记》"磬氏为磬,已上则磨其旁,已下则磨其端"。磨其毫末,则声随而变,岂有帛砧裁琢为磬,而尚有故声哉。兼古乐宫、商无空声,随律名之,迭为宫、徵。嗣真必尝为新磬,好事者遂附益为之说。既云"裁为四具",则是不独补徵声也。

99《霓裳羽衣曲》。刘禹锡诗云:"三乡陌上望仙山,归作《霓裳羽衣曲》。"又王建诗云:"听风听水作《霓裳》。"白乐天诗注云:"开元中,西凉府节度使杨敬述造。"郑[愚]、嵎]、津阳门诗》注云:"叶法善尝引上入月宫,闻仙乐。及上归,但记其半,遂于笛中写之。会西凉府都督杨敬述进《婆罗门曲》,与其声调相符,遂以月中所闻为散序,用敬述所进为其腔,而名《霓裳羽衣曲》。"诸说各不同。今蒲中逍遥楼楣上有唐人横书,类梵字,相传是《霓裳》谱,字训不通,莫知是非。或谓今燕部有《献仙音曲》,乃其遗声,然《霓裳》本谓之道调法曲,今《献仙音》乃小石调耳。未知孰是。

100 《虞书》曰:"戛击鸣球,搏拊琴瑟以咏,祖考来格。"鸣球非可以戛击,和之至,咏之不足,有时而至于戛且击;琴瑟非可以搏拊,和之至,咏之不足,有时而至于搏且拊;所谓手之舞之、足之蹈之,而不自知其然。和之至,则宜祖考之来格也。和之生于心,其可见者如此。后之为乐者,文备而实不足。〔乐〕师之志,主于中节奏,谐声律而已。古之乐师,皆能通天下之志,故其哀乐成于心,然后[宜]〔宣〕于声,则必有形容以表之。故乐有志,声有容,其所以

感人深者,不独出干器而已。

106 《卢氏杂说》:"韩皋谓嵇康琴曲有《广陵散》者,以王陵、毋 丘俭辈皆自广陵散败,言魏散亡自广陵始,故名其曲曰《广陵散》。" 以予考之,"散"自是曲名,如操、弄、掺、淡、序、引之类。故潘岳《笙 赋》:"辍张女之哀弹,流广陵之名散。"又应璩《与刘孔才书》云:"听 广陵之清散。"知"散"为曲名明矣。或者嵇康借此名以谏讽时 事,"散"取曲名,"广陵"乃其所命,相附为义耳。

108 笛有雅笛,有羌笛,其形制所始,旧说皆不同。《周礼》: "笙师掌教箎篴。"或云:"汉武帝时,丘仲始作笛。"又云:"起于羌人。"后汉马融所赋长笛,空洞无底,剡其上孔五孔,一〔孔〕出其背,正似今之尺八。李善为之注云:"七孔,长一尺四寸。"此乃今之横笛耳,太常鼓吹部中谓之"横吹",非融之所赋者。融赋云:"易京君明识音律,故本四孔加以一。君明所加孔后出,是谓商声五音毕。" 沈约《宋书》亦云:"京房备其五音。"《周礼·笙师》注:"杜子春云'篴乃今时所次五孔竹篴'。"以融、约所记论之,则古篴不应有五孔,则子春之说,亦未为然。今《三礼图》画篴,亦横设而有五孔,又不知出何典据。

(卷五)

乐 律 二(节录)

111 ······唐人乐学精深,尚有雅律遗法。今之燕乐,古声多亡,而新声大率皆无法度。乐工自不能言其义,如何得其声和?

补笔谈•乐律(节录)

530 ……天下从海学琴者辐辏,无有臻其奥。海今老矣,指法 于此遂绝。海读书,能为文,士大夫多与之游,然独以能琴知名。 海之艺不在于声,其意韵萧然,得于声外,此众人所不及也。

540 ……后世有变宫,变徵者,盖自羽声隔八相生再起宫,而宫生徵,虽谓之宫、徵,而实非宫、徵声也。变宫在宫、羽之间,变徵在角、徵之间,皆非正声,故其声庞杂破碎,不入本均,流以为郑、卫,但爱其清焦,而不复古人纯正之音。惟琴独为正声者,以其无间声以杂之也。世俗之乐,惟务清新,岂复有法度,乌足道哉。

(卷一)

师 旷

……然则,琴者,乐之一器耳,夫何致物而感祥也。曰:治平之世,民心熙悦,作乐足以格和气;暴乱之世,民心愁蹙,作乐可以速祸灾。可不诚哉。世衰乐废,在位者举不知乐。然去三代未远,工师之间,时有其人,若师旷者,可不谓贤哉。及夫乱久而极,虽工师亦稍奔窜。是以挚、干、缭、缺之俦,相继亡散,而孔子惜之也。

(卷第二)

师 文

……夫心者道也,琴者器也。本乎道则可以周于器,通乎心故可以应于琴。若师文之技,其天下之至精乎。故君子之学于琴者,宜正心以审法,审法以察音。及其妙也,则音法可忘,而道器冥感,其殆庶几矣。

(同上)

锺 子 期

……夫志有所存,则见于音,君子知其音以逆其志,则得焉。

① 据《乐圃琴史校》。中国音乐研究所 1959 年本。

② 朱长文(1041-1100)。

或识于斯须之间,或知于千载之下,合若符节。周衰乐散,世罕知者。以伯牙之艺,而独一子期能知其志。子期死,是以发愤而绝弦也。后之人知其曲者鲜矣,又况察其音者乎?察其音者亦鲜矣,又况探其志者乎?

(同上)

宋 玉

……然则玉固为琴矣。当战国时虽俗听已喜哇淫,而古曲犹有存者,如《阳春》、《白雪》是已。去古寝远,雅声益讹,惜哉。 (同上)

樗 里 牧 恭 聂政附

……《琴操》又有《聂政刺韩王》曲,云聂政尝遇仙人,教以鼓琴,琴成入韩。其事与《史记·聂政传》大异。《史记》云:"刺韩相侠累",此云韩王,宜从《史》也。此曲虽载之乐家,然刺客之事,非管弦所宜也。

(同上)

蔡 邕

……由此观之,人之善恶,存于思虑,则见于音声,惟知音者能知之。故曰:惟乐不可以为伪。人之思虑且知之,则世之治乱,举不能隐矣。汉世乐道废缺,如伯喈者,一人而已。……

(卷第三)

三 戴

……晋、宋之间, 搢绅犹多解音律, 盖承汉、魏, 嵇、蔡之余, 风流未远, 故能度曲变声, 可施后世。自唐以来, 学琴者徒仿其节奏, 写其按抑, 而未见有如三戴者, 况嵇、蔡乎。呜呼, 安得知音之士, 与之共论至乐哉。

(卷第四)

(3)

莹 律

昔者, 伏羲氏既画八卦, 又制雅琴。卦所以推天地之象, 琴 所以考天地之声也。天地之声出于气,气应于月,故有十二气。十 二气分于四时,非土不生,土王于四季之中,合为十三。故琴徽十 有三焉。其中徽者土也。月令,中央土,其音宫,律中黄钟之宫者 是也。故中徽之声, 洪厚包容, 为众徽之君。由中徽左右各六徽, 徵有疏密者,取其声之所发,自然之节也,合于天地之数。故律之 相生有上下,而为管有长短,盖取诸此也。凡天地、五行、十二气、 阳律阴吕、清浊高下,皆在乎十三徽之间。尽十三徽之声,惟三尺 六寸六分之材可备。故度而制之,亦以象期之日也。当宓羲之时, 未有律吕之器,而圣人已逆其数矣;未有历象之书,而圣人已明其 时矣。黄帝氏作,命伶伦取嶰谷之竹,制十二筩以为黄钟、太簇、姑 洗、蕤宾、夷则、无射之律、大吕、夹钟、仲吕、林钟、南吕、应钟之吕, 盖协于琴而备数和声,审度、嘉量、权衡之术加备矣。琴之徽有十 三而律管虚其一者,谓土之数居中,其气无不通,其声无不在,不 可以一器名也。律吕既成而八音备。后世圣人复以六律不可以易 审,于是考律以立均,因均以作乐,故曰:律所以出均立度也。 夫律 本于琴, 乐本于律, 故知琴者为能知律, 能知律者为能知乐也。古之君子, 缺而不谈, 或以十二徽配十二律, 以中徽配闰而不言制作之义。本诸理, 作《莹律》。

(卷第六)

释 弦

舜弦之五、本干羲也。五弦所以正五声也。圣人观五行之象 丽干天, 五辰之气运干时, 五材之形用于世, 于是制为宫、商、角、 徵、羽,以考其声焉。凡天地万物之声,莫出于此五音。故最浊者 谓之宫, 次浊者谓之商, 清浊中者谓之角, 微清者谓之徵, 最清者 谓之羽。宫为土,为君,为信,为思;商为金,为臣,为义,为言;角为 木,为民,为仁,为貌;徵为火,为事,为礼,为视;羽为水,为物,为 智,为德。故达于乐者,可以见五行之得失,君臣事物之治乱,五常 **之兴巷,五事之善恶,灼然可以鉴也。帝舜曰:"予欲闻六律五声八** 音,在治忽,以出纳五言,汝听。"盖察音声以为政也。圣人既以五 声尽其心之和,心和则政和,政和则民和,民和则物和,夫然,故天 下之乐皆得其和矣。天下之乐皆得其和,则听之者莫不迁善远罪, 至于移风易俗而不知也。故乐者,上出于君心之和,下出于民心之 和。上出于君心之和而复以致君于善也,下出于民心之和而复以 纳民干仁也。故五声之和,致八风之平,风平则寒暑雨旸,皆以其 叙,而太平之功成矣;五声不和,致八风之违,则寒暑雨旸,皆失其 叙,而危乱之忧著矣。五声之感人,皆有所合于中也。宫正脾,脾 正则好信,故闻宫声者,温润而宽悦;商正肺,肺正则好义,故闻商 声者刚断而立事; 角正肝, 肝正则好仁, 故闻角声者, 恻隐而慈爱; 徵正心,心正则好礼,故闻徵声者,恭俭而谦挹;羽正肾,肾正则好 智,故闻羽声者,深思而远谋。此先王所以贵于乐也。夫五声之 作,始于宓羲之琴,其后神农黄帝尧舜氏作,于是按之为六律,播之 为八音,而大乐备矣。故琴者,五声之准,六律之元,八音之舆也。 他乐不能梳其用,众器不能丽其德,至哉琴平,昔舜之弹五弦也,非 独舜能弹也。当是时,百辟卿士,孰不知乐也。舜之命夔曰:"命汝 典乐,教胄子。"此之谓也。至周之文武,谓五弦未足以尽清声之变 也,于是加二弦,谓之少宫、少商,而声律加备矣。盖礼乐之制,皆 始于羲农尧舜之事,而备于禹汤文武之时也。夫十二律还相为宫, 其法以黄钟为宫,太簇为商,姑洗为角,林钟为徵,南吕为羽,五声 足矣。又以应钟为变宫,蕤宾为变徵,合为七音,余律皆然,谓之十 二均。然后尽声之变而八音克谐也。故琴之有少宫,犹律之有变 宫、变徵也。或曰:周加二声为变,然则律之二变,亦本于文武二弦 邪? 《左传》曰:"为七音六律,以奉五声",谓是也。至于编钟、编 磬,既设十二正音,各配一律,又设黄钟至夹钟四清声,以附正声之 次,合为十六,则律吕还相各就谐协,而君臣民物无陵慢之声焉。 琴加二弦,亦类此也。古人学琴者多矣,罕尝言文武二弦之意,独 《琴操》以谓合君臣之恩,此未喻也。今推其法,作《释弦》。

(同上)

论 音

音之生,本于人情而已矣。夫遇世之治,则安以乐;逢政之苛,则怨以怒;悼时之危,则哀以思,此君子之常情也。出于情,发于中,形于声,若影响之速也。然君子之情,虽安以乐,而不忘于戒劝;虽怨以怒,而不忘于忠厚;虽哀以思,而不忘于扶持。故其为声,亦屡变而数迁,不可以为常也。善治乐者,犹治诗也,亦以意逆志,则得之矣。夫八音之中,惟丝声于人情易见。而丝之器,莫贤于琴。是故听其声之和,则欣悦喜跃;听其声之悲,则蹙频愁涕,此

常人皆然,不待乎知音者也。若夫知音者,则可以默识群心,而预 知来物,如师旷知楚师之败,锺期辨伯牙之志是也。古之君子,不 彻琴瑟者,非主于为己,而亦可以为人也。盖雅琴之音,以导养神 气,调和情志,摅发幽愤,感动善心,而人之听之者亦皆然也。岂如 他乐以慆心堙耳, 佐欢悦听以为尚哉。古之音指, 盖淳静简略, 经 战国暴奏, 工师逃散, 其失多矣。然其故曲遗名, 传者尚多, 《琴操》 所纪,皆汉时有之也。故刘昆知清角。嵇叔夜所谓:初涉《渌水》, 中奏清徵、雅昶《唐尧》、终咏《微子》。又言其曲引、有《东武》、《泰 山》、《飞龙》、《鹿鸣》、《鹍鸡》、《游弦》。皆叔夜所常为者,今人亦罕 知之矣。夫蔡氏五曲,所谓《游春》、《渌水》、《坐愁》、《秋思》、《幽 居》者也。今人以为奇声异弄,难工之操,而叔夜时特谓之"谣俗之 曲",且曰"承间簉乏,亦有可观",盖言其非古也。汉儒所制,尚且 非古,况于魏晋之曲乎。末世有琴工嵇元荣羊盖之俦,率造新声, 去古益远。柳吴兴常以叹恨,乃蓍《清调论》,并上《乐议》,今逸矣, 借哉, 唐世琴丁, 复各以声名家, 曰马氏、沈氏、祝氏, 又有裴、宋、 翟、柳、胡、冯诸家声。 师既异门, 学亦随判, 至今曲同而声异者多 矣。虽然,古学之行于人者,独琴未废。有志于乐者,舍琴何观? 安得夔、旷之徒,与之论至音哉。原于古,作《论音》。

(同上)

审 调

古者推律以立均,依均以作乐,故十二律旋相为均。均有七调,合八十四调,播于八音,著于歌颂,而作乐之能事毕矣。夫琴之为器也,律吕备焉,八十四调存乎其中矣。三代之时,律正乐行,士君子举知乐,度之而立曲,拊之而成文,则八十四调之音,皆可以知而鼓之,惟其意之所之耳。自汉而下,律乐两隳,旧音略存,而传习

者尤患不及,况周知均调哉 唐人有言: 琴通三均,盖其所知者,止三而已哉。其九均之音,岂有不通? 遭乱堙没,世莫得闻也。夫周之曲,至汉而存者鲜矣。汉之曲,至唐而存者希矣。唐世所传,今人亦有不能者。去古寝远而遗弄寝亡邪。夫近世乐道之士,或好于琴,聊以娱养情性而已。至于学释道者,虽多从事于此,徒能纪其拂历之数,作为繁声淫韵,以悦人听而已。其知乐者,盖有之矣,我未之见也。呜呼! 安得知乐之君子,与之审调以制音哉! 述旋均,作《审调》。

(同上)

声 歌

古之弦歌,有鼓弦以合歌者,有作歌以配弦者,其归一揆也。盖古人歌则必弦之,弦则必歌之。情发于中,声发于指,表里均也。《周礼》太师教六诗,以六德为之本,以六律为之音。夫以六诗协六律,此鼓弦以合歌也。古之所传"十操""九引"之类,皆出于感愤之志。形之于言,言之不足,故永歌之,永歌之不足,于是援琴而鼓,此作歌以配弦也。《舜典》曰:"诗言志,歌永言,声依永,律和声。"此典乐教人之序也。以声依永,则节奏曲折之不失也。以律和声,则清浊高下之必正也。惟达乐者为能弦歌耳。孔子之删诗也,皆弦歌之,取其合于《韶》《夏》,凡三百篇,皆可以为琴曲也。至汉世,遗音尚存者,惟《鹿鸣》、《驺虞》、《鹊巢》、《伐檀》、《白驹》而已,其余则亡。独文中子尝闵时之乱,泫然鼓《荡之什》,世所不传,而能鼓之,可谓知乐也已。近世琴家所谓"操弄"者,皆无歌辞,而繁声以为美;其细调琐曲,虽有辞,多近鄙俚,适足以助欢欣耳。稽诸事,作《声歌》。

(同上)

古者祀天之乐,以園钟为宫,用云和之琴瑟;礼祗之乐,以函钟为宫,用空桑之琴瑟;假庙之乐,以黄钟为宫,用龙门之琴瑟。云和、空桑、龙门,皆山名也,岂其材有山川之异,而声有清浊之殊,于还相之宫,各有宜邪。故太师精别其声,以合于宫。后世岂复知邪。伏生《书传》有"大琴练弦"。练弦者,五色也。《尔雅》大琴谓之"离",说者日二十弦也。此乃琴之异制也。夫琴之为器,高至于玉霄之上,远至于金仙之国,皆以此为乐,故载于释老之书,此不复述也。略其事,作《广制》。

(同上)

尽美

琴有四美:一日良质,二日善斲,三日妙指,四日正心。四美既备,则为天下之善琴,而可以感格幽冥,充被万物,况于人乎。况于己乎。昔司马子微谓:伏羲以谐八音,皆相假合,思一器而备律吕者,遍斲众木,得之于梧桐。盖圣人之于万物也,亦各辨其材而为之器也。既知其材矣,又当求其良者,以待于用;养其小者,以致于大也。故禹作九州之贡,有峄阳孤桐,而《诗》美周室之盛曰:"梧桐生矣,于彼朝阳。"又卫文公之作宫室也,亦云,"树之榛栗,椅桐梓漆,爰伐琴瑟。"是所求其良者,以待于用;养其小者,以致于大也。古之圣贤留神于琴也如此。后之赋琴,言其材者,必取于高山峻谷、迴溪绝硐、盘纡隐深、巉岩岖险之地,其气之锺者至高至清矣。雷霆之所摧击,霰雪之所飘压,羇鸾独鹄之所栖息,鹂黄祃鸣之所翔鸣,其声之感者,至悲至苦矣。泉石之所磅礴,琅玕之所丛集,祥云

瑞霭之所护被,零露惠风之所长育,其物之助者,至深至厚矣。根 盘拿以轮菌,枝纷郁以葳蕤,历千载犹不耀,挺百尺而见枝,其材之 成者,至良至大矣。一日夔、襄、锸、牙之俦, 睨而视之, 嘉其可以为 琴也,于是命般、倕之徒,斤斧之,绳墨之,锼中襄间,平面去病,按 律吕以定徽,合钟石以立度,法象完密,髹采华焕。于是饰以金玉 瓖奇之物,张以弦轸势弭之用,而琴成矣。昔伏羲之"龙吟",黄帝 之"清角",齐桓公之"号钟",楚庄王之"绕梁",相如之"绿绮",蔡邕 之"焦尾",传干天下久矣。唐相李勉以"响泉""韵磬"闻,白乐天以 "玉磬"闻,而世称有雷氏者,有张越者,尤精斲琴。历代宝传,以至 于今,非力足而笃好者,不能致也。近世斲琴者间有之,然孰能杰 然可以绍前人之作者欤。昔圣人之作琴也,天地万物之声,皆在平 其中矣。有天地万物之声,非妙指无以发,故为之参弹复徽,攫援 标拂,尽其和以至其变,激之而愈清,味之而无厌,非天下之敏手, 孰能尽雅琴之所蕴乎? 当其援琴而鼓之也,其视也必专,其听也必 切,其容也必恭,其思也必和。调之不乱,醳之其偷,不使放声邪 气,得好其间,发干心,应干手,而后可与言妙也。是故君子之干琴 也,非徒取其声音而已。达则于以观政焉,穷则于以守命焉。尧之 《神人》,舜之《南风》,武王之《克商》,周公之《越裳》,所以观政也; 许由之《箕山》,伯夷之《采薇》,夫子之《猗兰》,王通之《汾亭》,所以 守命也。又若子贱以治一邑,邹忌以相一国,彼皆至命也。又有所 自得也。夫丝与梧桐皆至清之物也, 而可见人心者, 至诚之所动 也。是故孔子辨文王之操,子期识伯牙之心者,昭见精微,如亲授 于言也。故曰: 惟乐不可以为伪。又曰: 至诚动金石; 不诚, 未有能 动者也。吾于乐,益知诚之不可不明也。夫金石丝桐,无情之物, 尤可以诚动,况穹穹而天,冥冥而神,诚之所格,犹影响也。君子慎 独,不媿屋漏,可不戒哉! 是故黄帝作而鬼神会,后夔成而凤凰至, 子野奏而云鹤翔,瓠巴作而流鱼听,师文弹而寒暑变,可谓诚至也。 是故良质而遇善斲,善斲既成,而得妙指,妙指既调,而资于正心, 然后为天下之善琴也。总其能,作《尽美》。

(同上)

志 言

琴之为乐,行于尧舜三代之时,至战国时,雅音废而淫乐兴,尚铿锵坠靡之声,而厌和乐深静之意。魏文侯当时之贤君,犹云"吾端冕而听古乐则唯恐卧",况其下者乎。于是秦筝、羌笛、箜篌、琵琶之类,迭兴而并进,而琴亡矣。汉兴,犹未暇复古,由河间[汉]〔献〕王留神雅乐。孝宣时,制氏、龙氏、赵氏、师氏之家,始于琴书。谓之雅琴者,以别于俗乐也。又桓谭、孔衍,皆集《琴操》,及马融、蔡邕,以大儒名当时,特好斯艺,时人翕然家尚。阮嗣宗、嵇叔夜绍而倡之,自魏及晋,名儒高士,学者盖多,而史册之间,岂遑遍述。迨乎隋唐,搢绅多以是道为务,而清言雅技,罕尝攻之,间有贤智有所论著,如吕渭、李良辅、陈拙、赵惟谦、李约、齐嵩、王大力、陈康士之徒,皆云有书,其名载于《艺文志》,然余所未睹,亦不闻其果精于琴与否,岂辞多近俚,不足以行远邪。抑不幸而不见邪。惜哉。观其名,作《志言》。

(同上)

叙 史

夫琴者,闲邪复性,乐道忘忧之器也。三代之贤,自天子至于 士,莫不好之。自汉唐之后,礼缺乐坏,搢绅之德,罕或知音,然君 子隐居求志,藏器待时者,亦多学焉。然其人或晚登于卿相者,功 业溥博而丝桐小艺,史氏或不暇书;终遁岩壑者,名迹幽晦而弦歌 徐事,而后人岂能遍录。其漏缺无传者,可胜算哉! 余深惜之,是以于史传记集,苟有闻见,皆著于篇。病于尽得古书,可以广览而博求,此亦遗恨耳。叹其遗,作《叙史》。

(同上)

乐在人和不在音赋^①* 长文

盛德兴乐,至和本人; 不在八音之制,尽由万化之纯。既备情 文,用写欢心之极; 岂专声律。诚非末节之因。窃原乐与天同,音 由人起。盖喜怒哀乐,既怵于外,而噍啴散厉,遂形于此。惟圣人 图化俗而有作,慎感民之所以。积中发外,必资悦豫之深:易俗移 风,非特铿锵之美。于时神武外震,烈文内官,跻八荒于寿域,陶万 汇干仁天。干是制以雅颂,播之管弦。既乘时而更制,唯探本以相 沿。顺气正声,为群情之影响;黄钟大吕,乃至理之蹄筌。羽毛干 戚兮,是谓繁文;管籤钟鼓兮,孰称至乐。惟群元咸得其情性,而雅 奏密调于商角。理出自然,识归先觉。四时当而天地顺,既效缉 熙;百姓乐而金石谐,未论清浊。且夫不伪者惟乐,可畏者惟民。 听暴君之作,则蹙频而多惧; 闻治世之奏,则抃跃以归仁。非声音 之异道,盖忧乐以殊伦。是以鼓"清角"于晋邦,曾遭旱暵; 歌 "后 庭"于唐室,谁复悲辛。是以兴替关时,盛衰在政。桑濮非能致乱 也,乱先起于淫僻;《英》《茎》非能致治也,治必逢于睿圣。未有功 成而乐乃不作,未有民困而音能自正。荀公尝定于新律,终贻晋室 之忧; 郑译虽改于旧音,曷救隋人之病。噫! 莫备乎二帝之大乐! 莫隆于三代之仁声。庶尹允谐兮,听其击拊; 嘉容夷怿兮,感其和 平。小则草木之繁朊,大则穹壤之充盈。非皦绎之能及,实欢忻之

① 录自《乐圃余藁》卷第八。

^{· 210 ·}

所成。舜庙笙镛,凤有来仪之应;周庭簨篾,民怀始附之情。异哉! 乐出于和,而还以审政之和;音生于乐,而复以导民之乐。逮王道之既远,叹古风之寝薄。绛灌构害,而孝文之议遂寝,房杜未备,而贞观之时不作。幸逢圣代之缉熙,继有名臣之咨度,揆太府之尺以为之度,累上党之黍以为之籥;推乐本之先立,感舆情而咸若。上方乘百年之极治,而集六圣之睿谟。臣请告成于《箫》《勺》。

公是先生七经小传^①(辑录)刘 版②

· 尚 书

"笙镛以间,鸟兽跄跄",何谓也。曰: 古者制乐,皆有所法也, 或法于鸟,或法于兽。其声清扬而短闻者,皆法之鸟也。其声宏独 而远闻者,皆法之兽也。则此言笙镛之器各得其法,而尽其声,则 鸟兽跄跄然也。

"击石拊石,百兽率舞",何谓也。曰:圣王功成而作乐,乐行而物遂。则此言四海之内,血气之类,莫不逸豫而自得也。人乐极则舞,兽不能舞,推其乐极则亦宜舞也,故谓之率舞也。"击石拊石"何也。曰:凡乐厚声石,此言所击者与所拊者皆厚以和,皆泊以恬,则能以感人者也。

(卷上)

礼记

《乐记》曰:"知音而不知乐者,众庶是也,惟君子为能知乐。"所谓君子知乐者,知其通伦理也,知其扶性饰情而反之正也,知其创业象功移风俗也。

"清庙之瑟朱弦而疏越,一倡而三叹,有遗音者矣。大飨之礼, 尚玄酒而俎腥鱼,大羹不和,有遗味者矣。"此皆言贵其本而忘其末

① 据商务印书馆《四部从刊》本。

② 刘敞活动年代在庆历、治平间(1041-1067)。

也。遗者忘也,弃也。清庙之瑟,美其德而忘其音,大飨之礼,美其敬而忘其味。凡乐,以音为之节,而反忘音焉,意不主于音也。意不主于音,是故朱弦疏越乃可尚也。凡食飨,以味为之文,而反忘味焉,意不主于味也。意不主于味,故玄酒大羹乃可尚也。主于音则不能遗音,则虽繁手淫声有不足矣。主于味则不能遗味,则虽太牢庶羞有不足矣。故孔子曰"礼乐云"。

(卷中)

后 山 集[®](辑录) 陈 师 道[®]

乐始于人声,而被于物。有情则有变,不得其正,故假无情以 传之,而五音生焉。及其末也,迁无情以就有情,而声乱矣。

圣人之心静,声中五行,故禹以声为律也。伶伦听凤鸣以制律。凤者,鸟之圣者也。众人之心乱,视听不得其正;其作乐也,其音淫,郑卫是也。唯圣作乐,唯贤重音。情动于心,而发于言,形于手足,诚之至也。故复用以感人,歌以效其声,舞以效其动。乐自外来,而感之深者,以其出于中也。

① 据中华书局《四部备要》本卷二十二理究。

② 陈师道(1053-1101)。

《乐 书》 序® 除 畅

臣闻先天下而治者在礼乐,后天下而治者在刑政。三代而上,以礼乐胜刑政,而民德厚;三代而下,以刑政胜礼乐,而民风偷。是无他,其操术然也。恭惟神宗皇帝,超然远览,独观昭旷之道,革去万蠹,鼎新百度。本之为礼乐,末之为刑政。凡所以维纲治具者,靡不交修毕振,而典章文物,一何焕欤!臣先兄祥道,是时直经东序,慨然有志礼乐,上副神考修礼文正雅乐之意。既而就《礼书》一百五十卷。哲宗皇帝只遹先志,诏给笔札,缮写以进,有旨下太常议焉。臣兄且喜且惧。一日语臣曰:"礼乐治道之急务,帝王之极功,阙一不可也,比虽笼络今昔上下数载间,殆及成书亦已勤矣。颇虽寤寐在乐,而情力不逮也。"属臣其勉成之。臣应之曰:"小子不敏,敬闻命矣。"臣因编修论次,未克有成。先帝擢置上庠,陛下升之文馆,积年于兹,著成《乐书》二百卷。曲蒙陛下误恩,特给笔札,俾录上进,庶使臣兄弟以区区所闻,得补圣朝制作讨论万一。其为荣幸,可胜道哉。虽然纤埃不足以培泰华之高,勺水不足以资河海之深,亦不敢不尽心焉尔。

臣窃谓古乐之发,中则和,过则淫。三才之道,参和为冲气,五六之数,一贯为中合。故冲气运而三宫正焉,参两合而五声形焉,三五合而八音生焉,二六合而十二律成焉。其数度虽不同,要之一会归中声而已。过此则胡郑哇淫之音,非有合于古也。是知乐以太虚为本,声音律吕以中声为本,而中声又以人心为本也。故不知

① 据清刊本《乐书》。

② 陈旸,活动年代在北宋建中靖国元年(1101)前后。

情者不可与言作,不知文者不可与言述。况后世泯泯棼棼,复有不 知而述作者乎! 呜乎! 《乐经》之亡久矣! 情文本末湮灭殆尽。心 达者,体知而无师,知之者,欲教而无徒。后世之七,虽有论撰,亦 不过出入先儒臆说而已。是以声音所以不和者,以乐不正也;乐所 以不正者,以经不明也。臣之论载,大致据经考传,尊圣人,折诸 儒,追复治古而是正之。囊括载籍,条分汇从,总为六门,别为三 部。其书冠以经义, 所以正本也; 图论冠以雅部, 所以抑胡郑也。 经义已明,而六律六吕正矣; 律吕已正,而五声八音和矣。然后发 之声音而为歌,形之动静而为舞。人道性术之变,盖尽于此。苟非 寓诸五礼,则乐为虚器,其何以行之哉,是故循平乐之序,君子以 成焉,明乎乐之义,天下以宁焉。然则乐之时用,岂不大矣哉。繇 是观之,五声十二律,乐之正也;二变四清,乐之蠹也。盖二变以变 宫为君,四清以黄钟清为君。事以时作,固可变也,而君不可变;太 簇、大吕、夹钟或可分也,而黄钟不可分。既有宫矣,又有变宫焉, 既有黄钟矣,又有黄钟清焉,是两之也,岂古人所谓尊无二上之旨 哉! 为是说者,古无有也,圣人弗论也,其汉唐诸儒傅会之说欤? 存之,则伤教而害道;削之,则律正而声和。臣是敢辞而辟之,非好 辩也, 志在华国, 义在尊君, 庶几不失仲尼放郑声, 恶乱雅之意云 尔。臣谨序。

琴 论 ①成五 砌 ②

宫、商、角、徵、羽,谓之五音。过此则慢商、慢角、黄钟凡十九, 名曰转弦外调。其声清浊高下不同,而有自然之妙。若一声差互, 则五音不正。古曲历代浸久,后人妄意加减,递相传授,遂至五音杂乱,欲其动天地,感鬼神,不亦远乎! 然非知音者不可语此。

指法,道劲则失于太过,懦弱则失于不及,是皆未探古人真意。惟优游自得,不为来去所窘,乃为合道。取声忌用意太过,太过则失真,操者亦不觉,惟旁观者乃知。然俗耳有人,全不可取,率意自任,号为天然;不识者亦从嗟美。尝窃笑之,是指风颠汉唤为道人。由来此病,卒难医也。京师、两浙、江西,能琴者极多,然指法各有不同。京师过于刚劲,江西失于轻浮,惟两浙质而不野,文而不史。此法人多不知,惟三人对弹,可较优劣。所谓"弹欲断弦,按欲入木",贵其持重,然亦要轻重、去就皆当乎理,乃尽其妙。不然,但竞乎音响,非能琴者也。

操琴之法大都以得意为主,虽寝食不忘,故操弄不过一、二曲,则其奥穷。至于调虽十数,而意愈妙。盖调子,贵淡而有味,如食橄榄。若夫操弄,如飘风骤雨,一发则中,使人神魄飞动。然作家者多以调子自娱,设或操弄,大纲要轻重起伏有节,首尾相贯,不求小过,如人作长韵诗。至若调子,要吟猱亲切,下指简静,如人作五言诗。后之作者,不易此论。子瞻谓"和缓之医,不别老少;曹吴之画,不择人物。"一切理当如此,非为医、画而然。善知琴者,不拘

① 辑自明蒋克谦《琴书大全》卷十《弹琴》。

② 成玉裥,活动年代在北宋政和(1111-1114)间。

操、弄、调、引,自然有胜人处。盖指下任运,自与造化相合,操弄者 亦草知其然也。长锁、短锁,其实一也,然意趣各别。短锁弹不过 三四,长锁不定,以意为主,醉锁似而非。长滑、短滑、急滑、慢拨、刺 涓、醉涓,凡六名,人多不一。若悟是理,则无适而不通,其要在下 指耳。琴中巧拙,在于用工,至于风韵,则出人气字,要知其优劣、 正如郑都官、李太白作诗。学琴如学古书,初虽无味,至于用工深 远,自成一家精妙,造次逢原,不藉力也。所以操而不倦,敦猱声贵 圆静,外虚中实,如绵裹秤锤,此声最要取,纵能者十亦失其一二。 至于未至敦而指先下,谓之折腰敦。中徽而无力,谓之醉敦,此最 不佳。有来去无迹,谓之藏头敦,最妙。有从上直下,谓之硬敦,得 此鲜有,但比藏头敦差麄耳。多以能琴相高,是盖未谙琴中之趣。 凡不攻者取声则不问软硬。要得指下有无穷之意,非软则不可取。 余平生最好弹软琴。操弄贵飘扬,而多失于无度,调子贵淡静,而 多陷于僻涩,惟淡静有度,飘扬合节乃妙,人多罕有两全。人皆慕 指法齐整,动作拘硬,正如小儿学书,欲得风韵潇洒,出干规矩准绳 之外,不亦难平。此类盖未达古人妙处耳。余尝谓琴者,非十年不 可成功,惟其至精至熟,乃有新奇声,亦须参考诸家,择其善者从之 可也。至于胸中自得,殆不可以言传。或者谓琴曲古人所制,不可 去取。余曰不然。且琴曲始自神农氏,流及尧、舜、文、武、周、孔, 后蔡邕、嵇中散、柳文畅等,皆规模古意为新曲,迄今千载矣。古曲 罕得,世俗所传,杳无明调,至律有不协,声韵繁乱,自当删除,岂可 蔽于一曲哉。是犹盲人骑瞎马,而望千里之远,计亦疏矣。攻琴如 参禅,岁月磨炼,瞥然省悟,则无所不通,纵横妙用而尝若有余。至 于未悟,虽用力寻求,终无妙处。琴无好恶,在弹者工拙。不善取 声,纵曲本佳,愈觉生硬,如丑妇珠翠徒自多耳。善取声者,纵曲本 不佳,亦自美听,如西施淡粧,自有不凡气韵。若施粉黛,岂易量 哉, 大匠无弃材,信有之矣。下指要逼岳,则声铿锵。至于微细之 处,当四徽之下,不然,是琴筝也。或云细声麄弹,麄声细弹,此皆好奇之过,元无旨趣。盖天地阴阳之理,声韵起伏之节,若麄声细弹,岂能宣和畅之情。若细声麄弹,是麄细同列耳。下指要圆,如珠走柈(盘),莹无留迹,乃极其妙。今人但得其清圆无碍,已自可观,固难造此。坐次偏斜,调弦无度,指法轻乱,曲未终而力先乏,谓之瞬梦弹,后人多类此。

鼓琴最要严毅,谓虎距按剑者是也。坐止不正,非但取用无准,且自丑。不得佳思不可弹,又不可摘撮好声,为一时戏弄,遂惯了人。人多懒弹大曲,始由此病。嵇中散临刑索琴弹《广陵散》,曲终日"《广陵》自此绝矣"。不知后代得之何人。

手指润则取声圆,手燥者纵有功亦自一般矣。是皆系天,不由 人力。弹难,听者亦难,锤子期没,伯牙绝弦,良有以也。今人非惟 不知音,又且圖坐喧语不辍口,俗物乃尔,败人佳思。琴中巧拙,非 作家者则不知。大凡事至妙处,多不合俗,所谓"调弥高,和弥寡"。 凡俗之人, 辄望风轻重, 人是亦是, 人非亦非, 此乃隔帘听琵琶, 殆 不可与较长量短。夫正音雅淡,非俗耳所知也。慢角调中曲,多是 今人所制,如《江上闻角》、《沙塞晚晴》、《宋玉悲秋》、《蓬莱春晚》, 闻其声则验非古化。然则亦有锺期风韵可喜,料亦非凡 人所 为。 慢商调十数调亦皆清和,不蹈袭群曲,一声声如琼林瑶树,无一枝 杂。未鼓其声,使人如在云外,得非上古之遗风也耶。宫调亦可 弹, 近有黄钟亦佳, 但上下改一弦耳。《履霜》最多好声, 以易入俗 耳,故弹者众,议者寡。至于《秋思》、《悲风》,巍然如泰山,仰不可 越,常人岂得致语哉。宫调十调子,其声大都相通。初虽互为意 思,终亦同归。苟能洞晓《贺若》一曲,则无适而非也。《贺若》外虚 中实, 似淡而实甘, 故子瞻诗云"清风终日自开帘, 明月今宵独挂 檐。琴里若能知《贺若》,诗中应合爱陶潜。"此曲本因贺若,因以为 名,书传不载。《清江引》、《孔子哭颜回》、《风入松》、《仙鹤舞》最是 古曲,今人多将设容压良为贱,理犹不工,但未见好本。近有一种指法,谓之"舞手",虽伶人贱役,亦不肯为也。向见一道士言自能琴,众往听之。坐定,道士取琴品弦,良久曰:"弦虽未调,且弹一曲《清江引》,"至今为笑。

弹琴最多病,或头动,甚者身摇动。盖因始不自禁,久惯则不可易。取声贵来去无迹,则混成.然非初学可到,若解昔人写字法,则近之矣。泛声,左手低平,去来不觉。若左手高,两手互相上下,正如碓杵,不可不戒。指法虽贵简静,要须气韵生动,如寒松吹风,积雪映月是也。若僻于简静,则亦不可,有如隆冬枯木,槎朽而终无屈伸者也。大都不可偏执,所谓得之于心,应之于手。至于造微人玄,则心手俱忘,岂容计较。夫弹人不可苦意思,苦意思则缠缚,唯自在无碍,则有妙趣。设若有苦意思,得者终不及自然冲融(容)尔。庄子云"机心存于胸中,则纯白不备。"故弹琴者至于忘机,乃能通神明也。伯牙鼓琴,六马仰秣,瓠巴鼓瑟,鸟舞鱼跃。今来去古远矣,机巧滋多,欲其"仰秣"、"舞跃",岂可得哉。《蔡琰传》曰:"父夜鼓琴,弦断。琰曰:'一弦也。'邕故断一弦而问之。琰曰:'四弦也。'邕曰:'偶得之耳。'"余试之,无足奇。且夫弦之高下不等,声随弦断,显然可验。……

碧鸡漫志®(辑录)ェッ®

或问歌曲所起,日天地始分,而人生焉,人草不有心,此歌曲所 以起也。《舜典》曰:"诗言志,歌永言,声依永,律和声。"《诗序》曰: "在心为志,发言为诗,情动于中而形于言,言之不足,故嗟叹之;嗟 叹之不足,故永歌之;永歌之不足,不知手之舞之足之蹈之。"《乐 记》曰:"诗言其志,歌咏其声,舞动其容,三者本干心,然后乐器从 之。"故有心则有诗,有诗则有歌,有歌则有声律,有声律则有乐歌。 永言即诗也,非于诗外求歌也。今先定音节,乃制词从之,倒置其 矣。而土大夫又分诗与乐府作两科,古诗或名曰"乐府",谓诗之可 歌也。故乐府中有歌有谣,有吟有引,有行有曲,今人于古乐府特 指为诗之流,而以词就音,始名乐府,非古也。舜命夔教胄子,诗歌 声律,率有次第。又语禹曰:"予欲闻六律、五声、八音,在治忽,以 出纳五言。"其君臣磨歌《九功》、《南风》、《卿云》之歌、必声律随具。 古者采诗,命太师为乐章,祭祀、宴射、乡饮皆用之。故曰:"正得 失,动天地,感鬼神,莫近于诗。"先王以是经夫妇,成孝敬,厚人伦, 美教化,移风俗。诗至于动天地,感鬼神,移风俗,何也。正谓播诸 乐歌,有此效耳。然中世亦有因筦弦金石,造歌以被之,若汉文帝 使慎夫人鼓瑟,自倚瑟而歌。汉魏作三调歌辞,终非古法。

古人初不定声律,因所感发为歌,而声律从之,唐、虞禅代以来 是也。余波至西汉末始绝。西汉时,今之所谓古乐府者渐兴,晋魏 为盛,隋氏取汉以来乐器歌章古调,并入清乐,余波至李唐始绝。

① 据《中国古典戏曲论著集成》一。

② 王灼,字海叔,遂宁人,活动年代在南宋绍兴(1131-1162)年间前后。

唐中叶虽有古乐府,而播在声律则尠矣。士大夫作者,不过以诗一体自名耳。盖隋以来,今之所谓曲子者渐兴,至唐稍盛,今则繁声淫奏,殆不可数。古歌变为古乐府,古乐府变为今曲子,其本一也。后世风俗益不及古,故相悬耳。而世之士大夫亦多不知歌词之变。

.....

元微之序《乐府古题》云:"操、引、谣、讴、歌、曲、词、调,八名起于郊祭军宾吉凶苦乐之际,在音声者,因声以度词,审调以节唱,句度长短之数,声韵平上之差,莫不由之准度。而又别其在琴瑟者,为操、引;采民甿者,为讴、谣;备曲度者,总谓之歌曲词调。斯皆由乐以定词,非选词以配乐也。诗、行、咏、吟、题、怨、叹、章、篇,九名,皆属事而作,虽题号不同,而悉谓之为诗可也。后之审乐者,往往取其词度为歌曲,盖选词以配乐,非由乐以定词也。"微之分诗与乐府作两科,固不知事始,又不知后世俗变,凡十七名皆诗也。诗即可歌,可被之筦弦也。元以八名者近乐府,故谓由乐以定词;九名者本诸诗,故谓选词以配乐。今乐府古题具在,当时或由乐定词,或选词配乐,初无常法。习俗之变,安能齐一?

古人善歌得名,不择男女。战国时,男有秦青、薛谈、王豹、绵驹、瓠梁;女有韩娥。汉高祖《大风歌》,教沛中儿歌之;武帝用事甘泉、圜丘,使童男女七十人歌。汉以来,男有虞公发、李延年、朱顾仙、未子尚、吴安泰、韩发秀;女有丽娟、莫愁、孙琐、陈左、宋容华、王金珠。唐时男有陈不谦、谦子意奴、高玲珑、长孙元忠、侯贵昌、韦青、李龟年、米嘉荣、李袞、何戡、田顺郎、何满、郝三宝、黎(李)可及、柳恭;女有穆氏、方等、念奴、张红红、张好好、金谷里、叶永新娘、御史娘、柳青娘、谢阿蛮、胡二姉、宠姐、盛小丛、樊素、唐有态、李山奴、任智方四女、洞云。今人独重女音,不复问能否,而士大夫所作歌词,亦尚婉媚,古意尽矣。政和间,李方叔在阳翟,有携善讴老翁过之者,方叔戏作《品令》云:"唱歌须是玉人,檀口皓齿冰肤;

意传心事,语娇声颤,字如贯珠;老翁虽是解歌,无奈雪鬓霜须,大家且道:是伊模样,怎如念奴?"方叔固是沈于习俗,而"语娇声颤",那得"字如贯珠"?不思甚矣!

或问雅郑所分。曰:中正则雅,多哇则郑。至论也。何谓中正?凡阴阳之气,有中有正,故音乐有正声,有中声。二十四气,岁一周天,而统以十二律。中正之声,正声得正气,中声得中气,则可用;中正用,则平气应。故曰:"中正以平之"。若乃得正气而用中律,得中气而用正律,律有短长,气有盛衰,太过不及之弊起矣。自扬子云之后,惟魏汉津晓此。东坡曰:"乐之所以不能致气召和如古者,不得中声故也。乐不得中声者,气不当律也。"东坡知有中声,盖见孔子及伶州鸠之言,恨未知正声耳。近梓潼雍嗣侯者,作正笙诀琴数,还相为官,解律吕逆顺相生图。大概谓知音在识律,审律在习数,故师旷之聪,不以六律不能正五音,诸谱以律通不过者,率皆淫哇之声。嗣侯自言得律吕真数,著说甚详,而不及中正。

或曰: 古人因事作歌,输写一时之意,意尽则止,故歌无定句; 因其喜怒哀乐,声则不同,故句无定声。今音节皆有辖束,而一字一拍,不敢辄增损,何与古相戾欤? 予曰:皆是也。今人固不及古,而本之性情,稽之度数,古今所尚,各因其所重。昔尧民亦击壤歌,先儒为搏拊之说,亦曰所以节乐。乐之有拍,非唐虞创始,实自然之度数也。故明皇使黄幡绰写拍板谱,幡绰画一耳于纸以进曰:"拍从耳出。"牛僧孺亦谓拍为乐句。嘉祐间,汴都三岁小儿,在母怀饮乳,闻曲皆撚手指作拍,应之不差。虽然,古今所尚治体风俗,各因其所重,不独歌乐也。古人岂无度数? 今人岂无性情? 用之各有轻重,但今不及古耳。今所行曲拍,使古人复生,恐未能易。

(卷第一)

通志・乐略第一^①(辑录) * # #®

乐 府 总 序

古之达礼三:一日燕,二日享,三日祀:所谓吉、凶、军、宾、嘉, 皆主此三者以成礼。古之达乐三:一曰风,二曰雅,三曰颂;所谓 金、石、丝、竹、匏、土、革、木,皆主此三者以成乐。礼乐相须以为 用,礼非乐不行,乐非礼不举。自后夔以来,乐以诗为本,诗以声为 用,八音、六律,为之羽翼耳。仲尼编诗,为燕享祀之时用以歌,而 非用以说义也。古之诗,今之辞曲也,若不能歌之,但能诵其文而 说其义可乎。不幸腐儒之说起,齐、鲁、韩、毛四家,各为序训,而以 说相高。汉朝又立之学官,以义理相授,遂使声歌之音,湮没无闻。 然当汉之初, 去三代未远, 虽经主学者不识诗, 而太乐氏以声歌肆 业,往往仲尼三百篇,瞽史之徒例能歌也。奈义理之说既胜,则声 歌之学日微。东汉之末,礼乐萧条,虽东观、石渠,议论纷纭,无补 于事。曹孟德平刘表,得汉雅乐郎杜夔。夔老矣,久不肄习,所得 于三百篇者,惟《鹿鸣》、《驺虞》、《伐檀》、《文王》四篇而已,余声不 传。太和末,又失其三,左延年所得,惟《鹿鸣》一篇。每正日大会, 大尉奉璧,群臣行礼,东厢雅乐常作者是也。古者歌《鹿鸣》,必歌 《四牡》《皇皇者华》,三诗同节,故曰丁歌《鹿鸣》之三,而用《南陔》、 《白华》、《华黍》三笙以赞之、然后首尾相承、节奏有属。 今得一诗、 而如此用,可乎。应知古诗之声为可贵也。至晋室,《鹿鸣》一篇,

① 《通志》卷四十九、据商务印书馆《万有文库·十通》本。

② 郑樵(1104-1160)。

又无传矣。自《鹿鸣》一篇绝,后世不复闻诗矣。然诗者,人心之乐 也,不以世之汗隆而存亡;岂三代之时,人有是心,心有是乐,三代 之后,人无是心,心无是乐乎,继三代之作者,乐府也。乐府之作, 宛同风、雅、但其声散佚, 无所纪系, 所以不得嗣续风、雅而为流通 也。按三百篇,在成周之时,亦无所纪系,有季札之贤而不别国风 所在,有仲尼之圣而不知雅、颂之分。仲尼为此患,故自卫返也,问 于太师氏,然后取而正焉:列十五国风,以明风土之音不同:分大小 二雅,以明朝廷之音有间;陈周、鲁、商三颂之音,所以侑祭也;定 《南陔》、《白华》、《华黍》、《崇丘》、《由庚》、《由仪》六笙之音,所以叶 歌也。得诗而得声者三百篇,则系于风、雅、颂;得诗而不得声者则 置之,谓之逸诗,如《河水》、《祈招》之类,无所系也。今乐府之行于 世者,章句虽存,声乐无用,崔豹之徒,以义说名,吴竞之徒,以事解 目,盖声失则义起,其与齐、鲁、韩、毛之言诗无以异也。 乐府之道, 或几乎息矣。臣今取而系之,千载之下,庶无绝纽。一曰《短箫铙 歌》,二十二曲;二曰《鞞舞歌》,五曲;三曰《柫舞歌》,五曲;四曰《鼓 角横吹》,十五曲;五曰《胡角》,十曲;六曰《相和歌》,三十曲;七曰 《吟叹》,四曲:八曰《四弦》,一曲:九曰《平调》,七曲:十曰《瑟调》, 三十八曲;十一曰《楚调》,十曲;十二曰《大曲》,十五曲;十三曰《白 给歌》, 五曲: 十四日《清商》, 八十四曲, 凡二百五十一曲, 系之正 声,即风、雅之声也。一曰《郊祀》十九章,二曰《东都》五诗,三曰梁 十二雅,四日唐十二和,凡四十八曲,系之正声,即颂声也。一曰汉 三侯之诗一章,二日汉房中之乐十七章,三日隋房内二曲,四日梁 十曲,五日陈四曲,六日北齐二曲,七日唐五十五曲,凡九十一曲, 系之别声,而非正乐之用也。正声之余则有琴,琴五十七曲。别声 之余则有舞,舞二十三曲。古者丝竹与歌相和,故有谱无辞,所以六 诗在三百篇中,但存名耳。汉儒不知,谓为六亡诗也。琴之九操十 二引,以音相授,并不著辞。琴之有辞,自梁始。舞与歌相应,歌主 声, 舞主形, 自六代之舞至干汉魏, 并不著辞礼, 舞之有辞, 自晋始。 今之所系,以诗系于声,以声系于乐,举三达乐,行三达礼,庶不 失乎古之道也。"古调"二十四曲、"征戍"十五曲、"游侠"二十一 曲,"行乐"十八曲,"佳丽"四十七曲,"别离"十八曲,"怨思"二十五 曲,"歌舞"二十一曲,"丝竹"十一曲,"觞酌"七曲,"宫苑"十九曲, "都邑"三十四曲,"道路"六曲,"时景"二十五曲,"人生"四曲,"人 物"十曲、"神仙"二十二曲、"梵竺"四曲、"蕃胡"四曲、"山水"二十 四曲,"草木"二十一曲,"车马"六曲,"鱼龙"六曲,"鸟兽"二十一 曲,"杂体"六曲,总四百十九曲。不得其声,则以义类相属,分为二 十五门, 日遗声。遗声者, 逸诗之流也。庶几来者复得其声, 则不 失其所系矣。然三代既没, 汉魏嗣兴, 礼乐之来, 陵夷有渐, 始则 风、雅不分,次则雅、颂无别,次则颂亡,次则礼亡。按《上之回》、《圣 人出》,君子之作也,雅也;《艾如张》、《雉子班》,野人之作也,风也, 合而为"鼓吹曲"。《燕歌行》,其音本幽蓟,则列国之风也:《煌煌京 洛行》,其音本京华,则都人之雅也,合而为"相和歌"。风者,乡人之 用、雅者、朝廷之用、合而用之、是为风、雅不分。然享、大礼也:燕、 私礼也; 享则上兼用下乐, 燕则下得用上乐, 是则风、雅之音虽异, 而直、燕之用则通。及明帝定四品,一曰"大予乐",郊庙上陵用之; 二日"雅颂乐",辟雍享射用之;三曰"黄门鼓吹乐",天子宴群臣用 之;四日"短箫铙歌乐",军中用之。古者雅用于人,颂用于神。武 帝之立乐府采诗,虽不辨风、雅、至干《郊祀》、《房中》之意、未尝用 于人事,以明神人不可以同事也。今辟雍享射,雅、颂无分,应用颂 者,而改用"大予",应用雅者,而改用"黄门",不知"黄门"、"大予", 于古为何乐乎。风、雅通、歌犹可以通也;雅、颂通、歌不可以通也。 曹魏准《鹿鸣》作"于赫篇"以祀武帝,准《驺虞》作"巍巍篇"以祀文 帝,准《文王》作"洋洋篇"以祀明帝,且《清庙》祀文王,《执竞》祀武 王,莫非颂声。今魏家三庙,纯用风、雅,此颂之所以亡也。颂亡 则乐亡矣。是时乐虽亡,礼犹存,宗庙之礼,不用之天,明有尊亲也;鬼神之礼,不用之人,知有幽明也。梁武帝作十二雅,郊庙明堂三朝之礼,展转用之,天地之事,宗庙之事,君臣之事,同其事矣。 乐之失也,自汉武始,其亡也,自魏始;礼之失也,自汉明始,其亡也,自梁始。礼乐沦亡之所由,不可不知也。

正声序论

古之诗曰"歌行",后之诗曰古近二体。歌行主声,二体主文, 诗为声也,不为文也。浩歌长啸,古人之深趣。今人既不尚啸,而 又失其歌诗之旨,所以无乐事也。凡律其辞则谓之诗,声其诗则谓 之歌,作诗未有不歌者也。诗者,乐章也,或形之歌咏,或散之律 吕,各随所主而命。主于人之声者,则有行有曲。散歌谓之行,人 乐谓之曲。主于丝竹之音者,则有引,有操,有吟,有弄,各有调以 主之。摄其音,谓之调,总其调,亦谓之曲。凡歌行虽主人声,其中 调者,皆可以被之丝竹。凡引、操、吟、弄,虽主丝竹,其有辞者,皆 可以形之歌咏。盖主于人者,有声必有辞;主于丝竹者,取音而已, 不必有辞,其有辞者,通可歌也。近世论歌行者,求名以义,强生分 别,正犹汉儒不识风、雅、颂之声,而以义论诗也。且古有"长歌 行"、"短歌行"者,谓其声歌之短长耳;崔豹、吴竞,大儒也,皆谓人 寿命之短长。当其时已有此说,今之人,何独不然。呜乎! 诗在于 声,不在于义,犹今都邑有新声,巷陌竞歌之,岂为其辞义之美哉? 直为其声新耳。礼失则求诸野,正为此也。孔子曰:"吾自卫返鲁, 然后乐正,雅、颂各得其所。"亦谓雅、颂之声有别,然后可以正乐。 又曰: "《关睢》乐而不淫, 哀而不伤。"亦谓《关睢》之声和平, 闻之 者能令人感发,而不失其度; 若诵其文, 习其理, 能有哀乐之事平? 二体之作,失其诗矣。纵者谓之古,拘者谓之律,一言一句,穷极物 情;王则王矣①,将如乐何! 乐府在汉初虽有其官,然采诗入乐,自汉武始。武帝定郊祀,乃立乐府,采诗夜诵,则有赵、代、秦、楚之讴,莫不以声为主。是时去三代未远,犹有雅、颂之遗风,及后人泥于名义,是以失其传,故吴兢讥其不睹本章,便断题取义。赠利涉,则述《公无渡河》;庆载诞,乃引《乌生八九子》;赋《雉子班》者,但美绣颈锦臆,歌《天马》者,惟叙骄驰乱蹋。其间有如刘猛、李余辈,赋《出门行》,不言离别;《将进酒》,乃叙烈女,事用古题,不用古义。知此意者,盖鲜矣! 然使得其声,则义之同异,又不足道也。自永嘉之乱,礼乐日微日替,暨隋平陈,得其一二,则乐府之清商也。文帝听而善之曰:"此华夏正声也!"乃置清商府,博采旧章,以为乐之所本在此。自隋之后,复无正声。至唐,能合于管弦者,《明君》、《杨叛儿》、《骁壶》、《春歌》、《秋歌》、《白雪》、《堂堂》、《春江花月夜》八曲而已,不几于亡乎。臣谨考摭古今,编系节奏,庶正声不坠于地矣!

琴操五十七曲(节录)

右"十二操",韩愈取十操,以为文王、周公、孔子、曾子、伯奇、 犊牧子所作,则圣贤之事也,故取之;《水仙》、《怀陵》二操,皆伯牙 所作,则工技之为也,故削之。呜乎! 寻声徇迹,不识其所由者如 此! 九流之学皆有义,所述者,无非圣贤之事,然而君子不取焉者, 为多诬言饰事,以实其意。所贵乎儒者,为能通今古,审是非,胸中 了然,异端邪说无得而惑也。退之平日所以自待为如何?所以作十 操以贻训后世者为如何?臣有以知其为邪说异端所袭,愚师瞽史所

① "王则王矣",恐误。疑应作"工则工矣"。

^{· 228 ·}

移也。《琴操》所言者,何尝有是事。琴之始也,有声无辞,但善音 之人,欲写其幽怀隐思,而无所凭依,故取古之人悲忧不遇之事,而 以命操。或有其人而无其事、或有其事又非其人、或得古人之影 啊,又从而滋蔓之。君子之所取者,但取其声而已,取其声之义,而 非取其事之义。君子之于世多不遇,小人之于世多得志。故君子 之于琴瑟,取其声而写所寓焉,岂尚于事辞哉。若以事辞为尚,则 自有六经圣人所说之言,而何取于工伎所志之事哉。琴工之为是 说者,亦不敢凿空以厚诬于人,但借古人姓名,而引其所寓耳。何 独琴哉,百家九流,皆有如此。惟儒家开大道,纪实事,为天下后世 所取正也。盖百家九流之书皆载理,无所系著,则取古之圣贤之 名,而以已意纳之干其事之城也。且以卜筮家论之,最与此相近也。 如以文王拘羑里而得"明夷",文王拘羑里或有之,何尝有"明夷" 乎。又何尝有箕子遇害之事乎。孔子问伯牛而得"益", 孔子问伯 牛实有之,何尝有"益"乎。又何尝有过其祖之语乎。《琴操》之所 纪者,皆此类也。又如稗官之流,其理只在唇舌间,而其事亦有记 载。虞舜之父,杞梁之妻,于经传所言者,数十言耳,彼则演成万千 言。东方朔三山之求,诸葛亮九曲之势,于史籍无其事,彼则肆为 出人。《琴操》之所纪者,又此类也。顾彼亦岂欲为此诬罔之事平, 正为彼之意向如此,不得不如此,不说无以畅其胸中也。又如兔园 之学,其来已久,其所言者,无非周孔之事,而不得为正学,不为学 者所取信者,以意卑浅而言陋俗也。今观琴曲之言,正兔园之流 也,但其遗声流雅,不与他乐并肩,故君子所尚焉。或曰: 退之之 意,不为其事而作也,为时事而作也。日如此所言,则白乐天之讽 谕是矣: 若惩古事以为言,则"隋堤柳"可以戒亡国;若指今事以为 言,则"井底引银瓶"可以止淫奔,何必取异端邪说、街谈巷语以寓 其意乎。同是诞言,同是饰说,伯牙何诛焉。臣今论此,非好攻古 人也,正欲凭此开学者见识之门,使是非不杂揉其间,故所得则精,

所见则明。无古无今,无愚无智,无是无非,无彼无己,无异无同; 概之以正道,烁烁乎如太阳正照,妖氛邪气不可干也。

祀飨正声序论

仲尼所以为乐者,在《诗》而已。汉儒不知声歌之所在,而以义理求诗,别撰乐诗以合乐。殊不知乐以诗为本,诗以雅、颂为正,仲尼识雅、颂之旨,然后取三百篇以正乐。乐为声也,不为义也。汉儒谓雅乐之声,世在太乐,乐工能纪其铿锵鼓舞,而不能言其义。以臣所见,正不然。有声斯有义,与其达义不达声,无宁达声不达义。若为乐工者,不识铿锵鼓舞,但能言其义可乎?谭(谈)河安能止渴,画饼岂可充饥。无用之言,圣人所不取。或曰:郊祀,大事也,神事也;燕飨,常事也,人事也。旧乐章莫不先郊祀而后燕飨,今所采乐府反以郊祀为后,何也。曰:积风而雅,积雅而颂,犹积小而大,积卑而高也。所积之序如此。史家编次,失古意矣,安得不为之厘正乎。

班固东都五诗

《明堂》、《辟雍》、《灵台》、《宝鼎》、白雉》。

臣谨按: 古诗风、雅皆无序,惟颂有序者,以风、雅者,所采之诗也,不得其始,兼所用之时,随其事宜,亦无定著,或于一篇之中,但取一二句以见意而已,不必序也。颂者系乎所作,而独用之庙乐,不可用于郊天柴望,不可用于讲武,所以蔡邕《独断》,惟载颂序,以为祀典,而风、雅本无序也。自齐、鲁、韩、毛四家之说起,各为风、雅之序,度其初意,只欲放(仿)颂诗之序而为之,其实不知风、雅无用于序,有序适足以惑颂声也。今观汉武十九章《郊祀歌》,即诗可

见者,则无序,非凭诗可见者,必言所作之始,可谓得古颂诗之意矣。风、雅之诗,皆不得其始,其间有得于《甘棠》之美召伯,《常棣》之思周公,岂无一二,以用之不系于其始,不必序也。乐府之诗,亦皆不得其始,其间有得于采桑之女子,渡河之狂夫,岂无一二,亦以用之不系于其始,不必序焉。观颂诗与郊祀之诗,皆言所作之始。风、雅诗与乐府所采之诗,不言其始之作,则可以知汉人之迹近于三代,故诗章相袭,自然相应如此。后之人则远矣。按《郊祀》十九章,皆因一时之盛事为可歌也,而作是诗,各有其名,然后随其所用,故其诗可采。魏晋则不然,但即事而歌,如夕牲之时则有"夕牲歌",降神之时,则有"降神歌",既无伟绩之可陈,又无题命之可纪,故其诗不可得而采。如随庙立舞,酌献登歌,各遂时代而匪流通,亦不可得而援也。惟梁武帝本周《九夏》之名,以作"十二雅",庶可备编采之后。

梁武帝雅歌十二曲(节录)

有宗庙之乐,有天地之乐,有君臣之乐。尊亲异制,不可以不分;幽明异位,不可以无别。按汉叔孙通始定庙乐,有《降神》、《纳俎》、《登歌》、《荐祼》等曲。武帝始定郊祀之乐,有十九章之歌。明帝始定"黄门鼓吹"之乐,天子所以宴群臣也。呜乎! 风、雅、颂三者不同声,天地、宗庙、君臣三者不同礼。自汉之失,合雅而风,合颂而雅,其乐已失,而其礼犹存。至梁武十二曲成,则郊庙明堂三朝之礼,展转用之,天地、宗庙、君臣之事,同其事矣! 此礼之所以亡也。虽曰本周《九夏》而为"十二雅",然《九夏》自是乐奏,亦如《九渊》、《九孝》,可以播之丝竹,有谱无辞,而非雅、颂之流也。

唐雅乐十二和曲(节录)

祖孝孙本梁"十二雅"以作"十二和",故可采也。周太祖迎魏帝人关平荆州,大获梁氏之乐,乃更为《九夏》之奏。皇帝出人,奏《皇夏》;宾出人,奏《昭夏》;蕃国客出人,奏《纳夏》;有功臣出人,奏《章夏》;皇后进羞,奏《齐夏》;宗室会聚,奏《族夏》;上酒宴乐,奏《陔夏》;诸侯相见,奏《鹙夏》。虽曰本于成周宾揆之乐,抑亦取于梁氏"十二雅",有其议而未能行,后复变更。大抵自两朝以来,祀飨之章,随时改易,任理不任音,任情不任乐,明乐之人不能主乐,主乐之司未必明乐,所行非所作,所作非所行。惟梁武帝自晓音律,又诏百司各陈所闻,帝自纠擿前违,裁成"十二雅",付之大乐,自此始定。虽制作非古,而音声有伦,准十二律以法天之成数,故世世因之而不能易也。

文武舞序论

古有六舞,后世所用者,《韶》、《武》二舞而已。后世之舞,亦随代皆有制作,每室各有形容。然究其所常用及其制作之宜,不离是文、武二舞也。臣疑三代之前,虽有六舞之名,往往其事所用者,亦无非是文、武二舞。故孔子谓"《韶》尽美矣,又尽善也;《武》尽美矣,未尽善也。"不及其它。诚以舞者,声音之形容也,形容之所感发,惟二端而已。自古制治不同,而治具亦不离文武之事也。然《云门》、《大成》、《大韶》、《大夏》、《大濩》、《大武》,凡六舞之名;《南陔》、《白华》、《华黍》、《崇丘》、《由庚》、《由仪》,凡六笙之名,当时皆无辞,故简籍不传,惟师工以谱奏相授耳。古之乐惟歌诗则有辞,

笙舞皆无辞,故《大武》之舞,秦始皇改曰《五行》之舞;《大韶》之舞, 汉高帝改曰《文始》之舞;魏文帝复《文始》曰《大韶》舞,《五行》舞曰 《大武》舞,并有谱无辞,虽东平王苍有《武德》舞之歌,未必用之。 大抵汉魏之世,舞诗无闻,至晋武帝泰始九年,荀勖曾典乐,更文舞 曰《正德》,武舞曰《大豫》;使郭夏、宋识为其舞节,而张华为之乐章,自此以来,舞始有辞。舞而有辞,失古道矣。

答陈体仁

……。来教谓诗本为乐而作,故今学者必以声求之,则知其不 苟作矣。此论善矣,然愚意有不能无疑者。盖以《虞书》考之,则诗 之作本为言志而已。方其诗也,未有歌也。及其歌也,未有乐也。 以声依永,以律和声,则乐乃为诗而作,非诗为乐而作也。三代之 时,礼乐用于朝廷而下达于闾巷,学者讽诵其言,以求其志,咏其 声,执其器,舞蹈其节,以涵养其心,则声乐之所助于诗者为多。然 犹曰"兴于诗,成于乐"其求之固有序矣,是以凡圣贤之言诗,主于 声者少而发其义者多。仲尼所谓"思无邪", 孟子所谓"以意逆志" 者,诚以诗之所以作,本乎其志之所存,然后诗可得而言也。得其 志而不得其声者有矣,未有不得其志而能通其声者也。就使得之, 止其钟鼓之铿锵而已,岂圣人"乐云乐云"之意哉。况今去孔、孟之 时千有余年,古乐散亡,无复可考,而欲以声求诗,则未知古乐之遗 声,今皆以推而得之乎! 三百五篇皆可协之音律而被之弦歌已平? 诚既得之,则所助于诗多矣。然恐未得为诗之本也,况未必可得, 则今之所讲,得无有画饼之讥乎。故愚意窃以为诗出乎志者也,乐 出乎诗者也。然则志者诗之本,而乐者其末也。末虽亡不害本之 存,患学者不能平心和气,从容讽咏以求之情性之中耳。有得乎 此,然后可得而言,顾所得之浅深如何耳。有舜之文德,则声为律

① 据中华书局《四部备要》本。

② 朱熹(1130--1200)。

而身为度、《箫韶》二《南》之声不患其不作。此虽未易言,然其理盖不诬也,不审以为如何。二《南》分王者、诸侯之风。《大序》之说,恐未为过。其曰圣贤浅深之辨,则说者之凿也。程夫子谓二《南》犹易之乾坤,而龟山杨氏以为一体而相成,其说当矣。试考之如何。《召南》夫人,恐是当时诸侯夫人被文王太姒之化者。二《南》之应,似亦不可专以为乐声之应为言。盖必有理存乎其间,岂有无事之理,无理之事哉。惟即其理而求之,理得则事在其中矣。

(卷三十七)

答程允夫

"仁者,天理也,理之所发,莫不有自然之节。中其节,则有自然之和,此礼乐之所自出也。人而不仁,灭天理,夫何有于礼乐!"

此说甚善。但"仁,天理也",此句更当消详,不可只如此说过。 "明则有礼乐,幽则有鬼神。鬼神者,造化之妙用。礼乐者, 人心之妙用。"

此说亦善。

.

(卷四十一)

答 滕 德 粹(珠)

璘近读《论语》:"礼之用,和为贵",观诸家解多以"和"为"乐"。璘思之和固是乐,然便以和为乐,恐未稳当,须于礼中自求所谓和乃可。因问之长上,或设喻以见告曰:所谓礼者,犹天尊地卑而乾坤定,卑高以陈而贵贱位,截然甚严也。及其用,则

天道下济而光明,地道卑而上行,此岂非和乎。璘当时听之甚以 为然矣,已而思之,亦恐只是影说过,毕竟礼中之和不可见,望先 生有以教之。如《曲礼》所陈,礼之条目甚详,不知何者为和乎。

和固不可便指为乐,然乃乐之所由生。所设喻亦甚当,如《曲礼》之目皆礼也。然皆理义所宜,人情所安,行之而上下亲疏各得其所,岂非和乎?

卷(四十九)

答潘恭叔(友恭)

《关睢》疑周公所作。

凡言风者,皆民间歌谣。采诗者得之,而圣人因以为乐,以见风化流行,沦肌浃髓而发於声气者如此。其谓之"风",正以其自然而然,如风之动物而成声耳。如《关睢》之诗,正是当时之人,被文王太似德化之深,心胆肺肠,一时换了,自然不觉形于歌咏如此,故当作乐之时,列为篇首,以见一时之盛,为万世之法,尤是感人妙处。若云周公所作,即国风、雅、颂,无一篇是出于民言,只与后世差官撰乐章相似,都无些子自然发见活底意思,亦何以致移风易俗之效耶?

答潘恭叔

成于乐,如学乐,诵诗,舞《勺》、舞《象》,岂不是学者事?舜命 夔典乐教胄子,岂不是学者事?但渐次见效,直至圣人地位,始可 する

(卷五十)

答刘季章

"未尽善也。"注云: "舜之德性之也,武王之德反之也。故其实有不同者。" 某窃谓反之虽异于性之,然其至焉则一而已。使武王于反之之后犹有未尽查(渣)滓,至于感格发露,著于乐声,则其所反之工夫,必有未尽之处矣。

乐观其深矣,若不见得性之、反之之不同处,又岂所谓闻其乐而知其德乎?舜与武王固不待论,今且论汤武,则其反之至与未至,恐须有别。此等处虽非后学所敢轻议,然今但细读其书,恐亦不待闻其乐而后知之也。

(卷五十三)

答李尧卿

"成于乐",是古人真个学其六律八音,习其钟鼓管弦,方底 于成。今人但借其意义以求和顺之理,如孟子"乐之实乐斯二 者",亦可以底于成否?

古乐既亡,不可复学,但讲学践履间可见其遗意耳,故曰:今之成材也难。

(卷五十七)

答 条 彝 孙(范)

大司乐祀天地四望,皆文之以五声,至于祀天神、地祇、人鬼,独用宫、角、徵、羽而不及商。或曰祭尚柔,又何以统言五声耶?一变致羽物,六变致象物,有感则无不通,但(似)不可以次序先后言。然下管鼗鼓而鸟兽跄,《箫韶》九成而凤凰仪,又若有次序先后。岂所感有浅深,故其应如之耶。

五声盖总言之,其用则不及商也。沈存中《笔谈》亦有说。然此等今无所考,未须深究。感有浅深,古注之说已详,然今亦未睹 其实也。

(卷六十)

答吳元士

……来教谓以旋宫命之,故曰中吕之宫者,正谓此也。然详此调,以中吕为角,则已不得角声之正,以角声为宫,则又不得宫声之正。又就少宫、少商以为祉(徵)羽,而反以正宫、正商为祉羽之应,则其迁就虽巧,而颠倒失正亦甚矣。以此,窃意或非古乐旋宫正法,但不知其自何时而变耳。然当时若且私行此调而不废本曲,则人犹得以识其是非,今乃反以所变为正宫,而本曲遂不可见,则今之所谓琴者,非复古乐之全,明矣。故东坡以为古之郑卫,岂亦有见于此耶。

(卷六十三)

定 律

……。世之言琴者徒务布爪取声之巧,其韵胜者乃能以萧散间远为高耳。……

(卷六十六)

读吕氏诗记桑中高 甲辰春

诗体不同,固有铺陈其事不加一词而意自见者。然必其事之 犹可言者,若清人之诗是也。至于《桑中》《溱洧》之篇,则雅人庄士 有难言之者矣。孔子之称"思无邪"也,以为诗三百篇劝善惩恶,虽 其要归无不出于正,然未有若此言之约而尽者耳。非以作诗之人 所思皆无邪也,今必曰彼以无邪之思,铺陈淫乱之事,而闵惜惩创 之意自见于言外,则曷若曰,彼虽以有邪之思作之,而我以无邪之 思读之,则彼之自状其丑者,乃所以为吾警惧惩创之资耶。而况曲 为训说,而求其无邪于彼,不若反而得之于我之易也。巧为辨数而 归其无邪于彼,不若反而责之于我之切也。若夫"雅"也、"郑"也、 "卫"也,求之诸篇,固各有其目矣。"雅"则《大雅》、》小雅》若干篇 是也,"郑"则《郑风》若干篇是也,"卫"则《邶》、《鄘》、《卫风》若干篇 是也。是则自卫反鲁以来未之有改,而风雅之篇说者又有正变之 别焉。至于《桑中》小序"政散民流而不可止"之文,与《乐记》合。 则是诗之为桑间又不为无所据者。今必曰:三百篇皆"雅",而大小 《雅》不独为"雅",《郑风》不为"郑",《邶》、《鄘》、《卫》之风不为 "卫"、《桑中》不为桑间亡国之音,则其篇帙混乱,邪正错糅,非复孔 子之旧矣。夫二《南》正风,房中之乐也,乡乐也。二《雅》之正,朝 廷之乐也。商、周之颂,宗庙之乐也。是或见于序义,或出于传记,

皆有可考。至于变雅,则固已无施干事。而变风又特里巷之歌谣, 其领在乐官者,以为可以识时变,观土风,而贤于四夷之乐耳。今 必日三百篇者,皆祭祀朝聘之所用,则未知《桑中》《溱洧》之属,当 以荐何等之鬼神,接何等之宾客耶!盖古者天子巡守(狩),命太师 陈诗以观民风,固不问其美恶而悉陈以观也;既已陈之,固不问其 美恶而悉存以训也。然其与先生[王]雅颂之正,簋帙不同,施用亦 异,如前所陈,则固不嫌于庞杂矣。今于雅郑之实察之,既不详于 庞杂之名,畏之又太甚。顾乃引夫浮放之鄙词,而文以风刺之美说, 必欲强而置诸先王雅颂之列,是乃反为庞杂之其而不自知也。夫 以胡部与郑卫合奏犹日不可,而况强以《桑中》《凑洧》为雅乐,又欲 合于《鹿鸣》、《文王》、《清庙之什》而奏之宗庙之中,朝廷之上平。其 以二诗为犹止于中声者,太史公所谓孔子皆弦歌之,以求合于《韶》 《武》之音,其误盖亦如此。然古乐既亡,无所考正,则吾不敢必为 之说,独以其理与其词推之,有以知其必不然耳。又以为近于劝百 讽一而止乎礼义,则又信《大序》之过者。 夫《子虚》《上林》侈矣,然 自"天子芒然而思"以下,犹实有所谓讽也。《汉广》知不可而不求, "大车"有所畏而不敢,则犹有所谓礼义之止也。若《桑中》《溱洧》 则吾不知其何词之讽,而何礼义之止乎? 若曰孔子尝欲放郑声矣, 不当于此又收之以备六籍也。此则曾南丰于《战国策》、刘元城于 "三不足"之论皆尝言之,又岂俟吾言而后白也哉。

(卷七十)

苏黄门老子解

故示人以道而薄于器,以为学者惟器之知,则道隐矣,故绝

仁义, 弃礼乐以明道。

愚谓: 道者,仁义礼乐之总名,而仁义礼乐皆道之体用也。圣人之修仁义,制礼乐,凡以明道故也。今日"绝仁义,弃礼乐以明道",则是舍二五而求十也。岂不悖哉!

(卷七十二)

诗集传序

或有问于余日:"诗何谓而作也?"余应之曰:"人生而静,天之 性也,感于物而动,性之欲也。夫既有欲矣,则不能无思,既有思 矣,则不能无言,既有言矣,则言之所不能尽,而发于咨嗟咏叹之餘 者,必有自然之音响、节奏而不能已焉。此诗之所以作也。"曰:"然 则,其所以教者何也?"曰:"诗者,人心之感物而形于言之餘也。心 之所感有邪正,故言之所形有是非。惟圣人在上,则其所感者无不 正,而其言皆足以为教。其或感之之杂,而所发不能无可格者,则 上之人必思所以自反,而因有以劝惩之,是亦所以为教也。昔周盛 时,上自郊庙、朝廷,而下达于乡党、闾巷,其言粹然无不出于正者。 圣人固已协之声律而用之乡人,用之邦国,以化天下。至于列国之 诗,则天子巡守亦必陈而观之,以行黜陟之典。降自昭、穆而后,寝 以陵夷,至于东迁而遂废不讲矣。孔子生于其时,既不得位,无以 行帝王劝惩黜陟之政。于是特举其籍而讨论之,去其重复,正其纷 乱;而其善之不足以为法,恶之不足以为戒者,则亦刊而去之,以从 简约,示久远,使夫学者即是而有以考其得失,善者师之而恶者改 焉。是以其政虽不足行于一时,而其教实被干万世。 是则诗之所以 为教者,然也。"曰:"然则,《国风》《雅》《颂》之体,其不同若是,何 也?"曰:"吾闻之,凡《诗》之所谓"风"者,多出于里巷歌谣之作,所 谓男女相与咏歌,各言其情者也。惟《周南》《召南》亲被文王之化以

成德,而人皆有以得其性情之正,故其发于言者,乐而不过于淫,哀而不及于伤,是以二篇独为风诗之正经。自《邶》而下,则其国之治乱不同,人之贤否亦异,其所感而发者,有邪正是非之不齐,而所谓先王之风者,于此焉变矣。若夫雅颂之篇,则皆成周之世,朝廷郊庙乐歌之词,其语和而庄,其义宽而密,其作者往往圣人之徒,固所以为万世法程而不可易者也。至于雅之变者,亦皆一时贤人君子,闵时病俗之所为,而圣人取之,其忠厚恻怛之心,陈善闭邪之意,犹非后世能言之士所能及之。此诗之为经,所以人事浃于下,天道备于上,而无一理之不具也"。曰:"然则,其学之也当奈何?"曰:"本之二《南》以求其端,参之列国以尽其变;正之于雅以大其规,和之于颂以要其止,此学《诗》之大旨也。于是乎章句以纲之,训诂以纪之,讽咏以昌之,涵濡以体之,察之情性隐微之间,审之言行枢机之始,则"修身及家,平均天下"之道,其亦不待他求而得之于此矣。……

(卷七十六)

紫阳琴銘

养君中和之正性,禁尔忿欲之邪心。乾坤无言物有则,我独与 子钩其深。

(卷八十五)

陈 亮 集① (辑录) 除 光②

……江东既平,天下既一,偃武修文,彰善瘅恶,崇教化,移风俗,数年之间,天下略治,然后兴典礼,修正乐,斯民复见太平之盛矣。且孔明之治蜀,王者之治也。治者实也,礼乐者文也。焉有为其实而不能为其文者乎,人能捐千金之壁而不能辞逊者,天下未之有,吾固知其必能兴礼乐也。不幸而天不相蜀,孔明早丧,天下犹未能一,而况礼乐乎! 使后世妄儒得名肆所见以议孔明者,天也,非人之所能为也。

(卷之七《酌古论》三《诸葛孔明上》)

……夫法度不正则人极不立,人极不立则仁义礼乐无所措,仁义礼乐无所措则圣人之用息矣。……

(卷之十四《序说引》《三先生论事录序》)

……闲居无用心处,郤欲为一世故旧朋友作近拍词三十阕,以 创见于后来。本之以方言俚语,杂之以街谭巷歌,抟搦义理,劫剥 经传,而卒归之曲子之律,可以奉百世豪英一笑; 顾于今未能有为 我击节者耳。……能为我令善歌者一歌之以侑一觞,自举之而还 以酹我乎。……

(卷之二十一《书》《与郑景元提幹伯英》)

① 据中华书局《陈亮集》,1974年版。

② 陈亮(1143-1194)。

"姜夔论乐"®

理宗享国四十余年,凡礼乐之事,式遵旧意,未尝有所改作。 当时中兴六、七十载之间,十多叹乐典之久坠,类欲蒐讲古制,以补 遗佚,于是姜夔乃进《大乐议》于朝。夔言绍兴大乐多用大晟所造, 有编钟、鎛钟、景钟,有特聲、玉磬、编磬,三钟三磬未必相应。 埙有 大小,箫、簏、篷有长短,笙、竿之簧有厚薄,未必能合度。琴瑟弦有 缓、急、燥、湿,轸有旋复,柱有进退,未必能合调。总各音而言之, 金欲应石,石欲应丝,丝欲应竹,竹欲应匏,匏欲应土,而四金之音, 又欲应黄钟,不知其果应否。乐曲知以七律为一调,而未知度曲之 义,知以一律配一字,而未知永言之旨,黄钟奏而声或林钟,林钟奏 而声或太簇。七音之协四声,各有自然之理,今以平、入配重浊,以 上、去配轻清,奏之多不谐协。八音之中,琴瑟尤难,琴必每调而改 弦,瑟必每调而退柱,上下相生,其理至妙,知之者鲜。又琴瑟声 微,常见蔽于钟磬;鼓、瑟之声,匏、竹之声长,而金、石常不能以相 待,往往考击失宜,消息未尽;至干歌诗,则一句而钟四击,一字而 竿一吹,未协古人"槁木"、"贯珠"之意,况乐工苟焉古籍,击钟磬者 不知声,吹匏竹者不知穴,操琴瑟者不知弦,同奏则动手不均,迭奏 则发声不属。比年人事不和,天时多忒,由大乐未有以格神人,召 和气也。官为君为父,商为臣为子,宫商和则君臣父子和。徵为 火,羽为水,南方火之位,北方水之宅,常使水声衰,火声盛,则可助 南而抑北。宫为夫,徵为妇,商虽父,宫实徵之子,常以妇助夫,子

① 辑自《白石道人诗集》,据商务印书馆《四部丛刊》本。姜夔约生于 1155 年(南 宋高宗绍兴二十五年),卒于 1221 年(宁宗嘉定十四年)。

助母,而后声成文。徵盛则宫唱而有和,商盛则徵有子而生生不穷,休祥不召而自至,灾害不被而自消。圣主方将讲礼郊见,愿诏求知音之士,考正太常之器,取所用乐曲,条理五音,檃括四声,而使协和,然后品择乐工,其上者教以金石丝竹匏土诗歌之事,其次者教以戞击干羽四金之事,其下不可教者汰之,虽古乐未易遽复,而追还祖宗盛典,实在兹举。

其议雅俗乐: 高下不一,宜正权衡度量。自尺律之法亡于汉魏,而十五等尺杂出于隋唐,正律之外,有所倍四之器,银字中管之号,令大乐外有所谓下宫调,下宫调又有中管倍五者。有曰羌笛、孤笛,曰双韵、十四弦,以意裁声,不合正律,繁数悲哀,弃其本根,失之太清。有曰夏笛、鹧鸪,曰葫芦琴、渤海琴,沉滞抑郁,腔调含糊,失之太浊。故闻其声者,性情荡于内,手足乱于外,《礼》所谓"慢易以犯节,流湎以忘本,广则容奸,狭则思欲"者也。家自为权衡,乡自为尺度,乃至于此。谓宜在上明示以好恶,凡作乐制器者,一以太常所用,及文思所颁为准,其他私为高下多寡者悉禁之,则斯民顺帝之则,而风俗可正。

其议古乐,止用十二宫。周六乐,奏六律,歌六吕,惟十二宫也。王大食三侑注云:朔日月半随月用律,亦十二宫也。十二管各备五声,合六十声,五声成一调,故十二调。古人于十二宫又特重黄钟一宫而已。齐景公作"徵招"、"角招"之乐,师涓师旷有"清商"、"清角"、"清徵"之操,汉魏以来燕乐或用之,雅乐未闻有以商、角、徵、羽为调者,惟"迎气"有五引而已,《隋书》云"梁、陈雅乐并用宫声"是也。若郑译之八十四调,出于苏祇婆之琵琶大食、小食、般涉者,胡语伊州、石州、甘州、婆罗门者,胡曲《绿腰》、《诞黄龙》、《新水调》者。华声而用胡乐之节奏,惟《瀛府》、《献仙音》谓之法曲,即唐之法部也。凡有催衮者,皆胡曲耳,法曲无是也。且其名八十四调者,其实则有黄钟、太簇、夹钟、仲吕、林钟、夷则、无射七律之

宫、商、羽而已,于其中又缺太簇之商羽焉。国朝大乐诸曲,多袭唐旧。窃谓以十二宫为雅乐,周制可举,以八十四调为宴乐,胡部不可杂,郊庙有乐,咸当以宫为曲,其间皇帝升降盥洗之类用黄钟者,群臣以太簇易之,此周人王用《王夏》,公用《骜夏》之义也。

其议登歌,当与奏乐相合。周官乐奏取阴阳相合之义。歌者登歌,彻歌是也;奏者金奏,下管是也。奏六律主乎阳,歌六吕主乎阴,声不同而德相合也,自唐以来始失之。故赵慎言云:祭祀有下奏太簇,上歌黄钟,具是阳律,既违礼经,抑乖会合。今太常乐曲,奏夹钟者奏阳歌阴,其合宜歌无射,乃或歌大吕;奏函钟者奏阴歌阳,其合宜歌裁宾,乃或歌应钟;奏黄钟者奏阳歌阴,其合宜歌大吕,乃杂歌夷则、夹钟、仲吕、无射矣。苟欲合天人之和,此所当改。

其议祀享,惟登歌彻豆当歌诗。古之乐,或奏以金,或吹以管,或吹以笙,不必皆歌诗。周有《九夏》,钟师以钟鼓奏之,此所谓奏以金也。大祭祀登歌既毕,下管《象》《武》,管者箫、箎、邃之属,《象》《武》皆诗而吹其声,此所谓吹以管者也。周六笙诗,自《南陔》皆有声而无其诗,笙师掌之,以供祀飨,此所谓吹以笙者也。周升歌《清庙》,彻而歌《雅》诗,一大祀惟两歌诗。汉初此制未改,迎神曰《嘉至》,皇帝入曰《永至》,皆有声无诗。至晋始失古制,既登歌有诗,夕牲有诗,飨神有诗,迎神送神又有诗。隋唐至今,诗歌愈富,乐无虚作,谓宜仿周制,除登歌彻歌外,繁文当删,以合于古。

其议作鼓吹曲,以歌祖宗功德。古者祖宗有功德必有诗歌,《七月》之陈王业是也;歌于军中,周之恺乐恺歌是也。汉有短箫铙歌之曲,凡二十二篇,军中谓之骑吹,其曲曰《战城南》、《圣人出》之类是也。魏国其声,制为《克官渡》等曲十有二篇。晋所制为《征辽东》等曲二十篇。唐柳宗元亦尝作为《铙歌》十有二篇,述高祖、太宗功烈。我朝太祖、太宗平僣伪,一区字;真宗一戎衣而却契丹;仁宗海涵春育,德如尧舜,高宗再造大功,上俪祖宗,愿诏文学之臣,

追述功业之盛,作为歌诗,使知乐者协以音律,领之太常,以播于 天下。

(《集事补遗》所录《宋史・乐志》。)

余颇喜自制曲,初率意为长短句,然后协以律,故前后**阕多** 不同。……

(《长亭怨慢》序)

石湖老人谓予云:"琵琶有四曲,今不传矣,曰'濩索(一曰濩弦)梁州'、'转关绿腰'、'醉吟商湖渭州','历弦薄媚'也。"予每念之。辛亥之夏,予谒杨廷秀丈于金陵邸中,遇琵琶工解作"醉吟商湖渭州",因求得品弦法,译成此谱,实双声耳。

(《醉吟商小品》序)

……凡曲言犯者,谓以宫犯商,商犯宫之类。如道调宫"上"字住,双调亦"上"字住,所住字同,故道调曲中犯双调,或于双调曲中犯道调,其他难此。唐人乐书云:"犯有正、旁、偏、侧,宫犯宫为正,宫犯商为旁,宫犯角为偏,宫犯羽为侧。"此说非也。十二宫所住字各不同,不容相犯。十二宫特可犯商、角、羽耳。予归行都,以此曲示国工田正德,使以哑觱篥吹之,其韵极美。亦曰"瑞鹤仙影"。

(《凄凉犯》序)

……《徵招》、《角招》者,政和间大晟府尝制数十曲,音节驳矣。 予尝考唐田畸《声律要诀》云:"徵与二变之调,咸非流美",故自古 少徵调曲也。徵为去母调,如黄钟之徵,以黄钟为母,不用黄钟乃 谐,故隋唐旧谱不用母声;琴家无媒调、商调之类皆徵也,亦皆具母 弦而不用。其说详于余所作《琴书》。然黄钟以林钟为徵,住声于 林钟,若不用黄钟声,便自成林钟宫矣。故大晟府徵调兼母声,一句似黄钟均,一句似林钟均,所以当时有落韵之语。予尝使人吹而 听之,寄君声于臣民事物之中,清者高而亢,独者下而遗,万宝常所 谓"宫离而不附"者是已。因再三推寻唐谱并琴弦法而得其意: 黄钟徵虽不用母声,亦不可多用变徵蕤宾、变宫应钟声; 若不用黄钟而用蕤宾、应钟,即是林钟宫矣。餘十一均徵调仿此,其法可谓善矣。然无清声,只可施之琴瑟,难人燕乐,故燕乐阙徵调,不必补可也。此一曲乃余昔所制,因旧曲正宫《齐天乐慢》前两拍是徵调. 故足成之,虽兼用母声,较大晟曲为无病矣。此曲依晋史,名曰黄钟下徵调。《角招》曰黄钟清角调。

(《徵招》序)

琴七弦,散声具宫、商、角、微、羽者为正弄,慢角、清商、宫调、慢宫、黄钟调是也。加变宫、变徵为散声者曰侧弄,侧楚、侧蜀、侧商是也。侧商之调久亡。唐人诗云:"侧商调里唱《伊州》。"予以此语寻之,《伊州》大食调黄钟律法之商,乃用慢角转弦,取变宫变徵散声。此调甚流美也。盖慢角乃黄钟之正,侧商乃黄钟之侧,它宫侧者同此。然非三代之声,乃汉燕乐耳。予既得此调,因制品弦法,并《古怨》。

(《侧商调》)

琴 议 篇^① 対 籍③

琴者,禁也。禁邪归正,以和人心。始乎伏羲,成于文武,形象 天地,气包阴阳,神思幽深,声韵清越,雅而能畅,乐而不淫,扶正国 风,翼赞王化。善听者,知吉凶休咎,国家存亡。善鼓者,变动阴 阳,聚散鬼神。是以古人左琴右书,无故则不彻。琴之为义大矣 哉。夫和而鸣者,谓之声;参叙相应,谓之韵;韵而成文,谓之音。 夫人志于所守, 蕴积于中, 而形于言。言之不足谓之文, 文又不尽 谓之音。故音哀乐、雅正、刚柔、怨怒必在平人,由平国风。 理国治 家,化人成俗,政教兴废,道德盛衰,于是听之。则声之音其道深 矣! 夫人多听声而不听音者,近而不知远也。俗谚云:"不惜歌者 苦,但伤知音稀。"诚哉,是言也, 余早味幽隐,酷嗜丝桐,颇曾留意 时属,绝丝而能之。虽奇声雅韵,寂然而废,幽情远兴,缅想常存。 今者,以其端味,以传同好,但迹形容,列之于后, 夫声〔意〕③雅正, 用指分明,运动闲和,取舍无迹,气格高峻,才思丰逸,美而不艳,哀 而不伤,质而能文,辨而不诈,温润调畅,清迥幽奇,参韵曲折,立声 孤秀,此琴之德也。如遇物发声,想像成曲,江山隐映,衔落月于弦 中,松风飕飗,贯清风于指下,此则境之深矣。又若贤人烈士,失意 伤时,结恨沉忧,写于声韵,始激切以畅鬼神,终练德而合难颂,使 千载之后,同声见知,此乃琴道深矣。若夫徇时弃本、艳巧多端,实

① 辑自《太音大全集》。据中华书局《中国古代版画丛刊》本。

② 刘籍, 生平及活动年代不详。其所著《琴议》一卷, 北宋初年的《崇文总目》没有著录, 而南宋嘉定间(1208—1224)的《太古遗音》却有收录, 因此其活动年代当在1208年以前。

③ "意"据《琴书大全》本校补。

伤(败)〔琴〕① 德也。 夫琴之五音者, 宫、商、角、徵、羽也。 宫象君, 其声同。当与众同心,故目同也。商象臣,其声行。君令臣行,故 日行也。角象民,其声从。君令臣行民从,故曰从也。徵象事,其 声当。民从则事当,故曰当也。羽象物,其声繁。民从事当则物有 繁植,故日繁也。是以舜作五弦之琴,鼓《南风》而天下大治,此之 谓也。后至文武各加一弦,故六名"文"、七名"武"也。夫琴之声弄 各有异端,不可雷同,总呼为弄。合节者为声,不合节者为弄。音 叶称音,音繁日乐。禽兽但知声而不知音,常人但知音而不知乐, 君子能知其乐者,明国之兴衰,察人之哀乐。故哀心感者,其声焦 以杀; 乐心感者, 其声舒以缓; 喜心感者, 其声发以散; 怒心感者, 其 声粗以厉: 敬心感者, 其声和以柔。此非情也, 感于物而动也。夫 闻宫音者,使人温舒而广大;闻商音者,使人方正而好义;闻角音 者,使人恻隐而爱人;闻徵音者,使人乐善而好施;闻羽音者,使人 整齐而好礼。是以舜操五弦之琴,其辞曰:"南风之熏兮,可以解吾 民之愠兮。南风之时兮,可以阜吾民之财兮。"圣人音妙深矣。故 凭言以求意,在得意以求言,言穷而意远也。

① "琴"据《琴书大全》本改。

^{· 250 ·}

真西山文集^① (辑录) 真 & 秀^②

赠萧长夫序

始余少时,读六一居士序琴之篇,谓其忧深思远,有舜与文王、 孔子之遗音,而淳古淡泊,与尧舜三代之言语,孔子之文章,《易》之 忧患,《诗》之怨刺无以异,为之喟然抚卷太息曰:"琴之为技,一至 此平心其后官干都城,以琴来谒者其众。静而听之,大抵厌古调之 希微, 夸新声之奇变, 使人喜欲起舞, 悲欲涕零, 求其所谓淳古淡泊 者,殆不可得。盖时俗之变,声音从之,虽琴亦郑卫矣。屈子有言: "览椒兰其若兹兮,又况揭车与江麓。"琴犹如此,则凡世俗之乐,日 沦于胡夷而不可禁者,周其所也。三山萧长夫学琴四十年,饥寒留 落,困悴无憀,独不肯迁就其声以悦俚耳。嘉定丙子秋,过干大江 之东,予与之登锺山,访定林,酌寒泉而祔修竹。长夫忻然,为鼓一 再行。雍雍乎,其熏风之和;愔愔乎,其采兰之幽; 跌荡而不流, 悽 恻而不怨。信六一之言,有不吾欺者。盖其尝游紫阳先生之门,习 闻君子之义,其能穷而不变也,固宜。虽然,游先生之门者众矣,顾 未闻有不变其学,如君之不变其枝者、此予以所以重叹也。于其 行,饮之酒而为之歌曰:"古音之寥寥,听者欲睡兮,新声之洋洋,喜 不知止兮,自战国已然,况今之世兮。嗟嗟萧君,娱众所弃兮,我琴 可破,志不可徙兮, 彼斲方为圜,真子所耻兮。霜风翛翛, 裂子之 袂兮,子毋好游,从此归兮,予将俟子于仙游,从子于武夷兮。"

(卷二十七)

② 真德秀(1178-1235)。

① 据商务印书馆《四部丛刊》本。

送 萧 道 士 序

今年, 惫卧于招鹤之草堂, 有方士自玉笥来见者, 眡其谒, 则氏萧而名守中也。曰:"嘻!子非子云之裔也耶?"向吾欲游玉笥而不可得, 今见从玉笥来者, 得问此山亡恙, 则吾志亦愜矣。因留之山房。数与语, 而又知其能琴与诗也。余于丝桐之奏, 盖所喜闻而有未忍者, 独索其诗读之, 则皆修然清绝, 非吸沆瀣、餐朝霞者, 不能道也。夫山川之秀杰者, 其锺于人必异, 固吾子襟韵之不凡, 益以信玉笥之为奇观也必矣。虽然, 有疑焉。子之名中而字默也, 岂非以多言为诚耶?予闻伯阳氏之为道也, 损之又损, 以至于无为。故学之者, 亦必堕肢体, 黜聪明, 离形去智, 然后同于大通。今子戒于言而归之默, 善矣!顾未能忘琴与诗焉。是知多言之害, 而未知多艺之累也。子默悄然而笑曰:"有是哉!然琴以养吾之心, 而吾本无心, 虽终日弹, 而曰未尝弹, 可也; 诗以畅吾之情, 而吾本无情, 虽终日吟, 而曰未尝吟, 可也。琴未尝弹, 与无琴同; 诗未尝吟, 与无诗同。曾何累之有哉?"予曰:"子之言达矣!"遂书以为东归之赠。宝庆丙戌中元前六日, 西山居士真某序。

(卷二十八)

问礼乐

敬者,礼之本;制度威仪,礼之文。和者,乐之本;钟鼓管磬 [者],乐之文。礼乐二者,阙一不可。《记》曰:"乐由阳来,礼由阴 作。天高地下,万物散殊,而礼制行焉;流而不息,合同而化,而乐 兴焉。"故礼属阴,乐属阳。礼乐之不可阙一,如阴阳之不可偏胜。 礼胜则离,以其太严而不通人情,故离而难合;乐胜则流,以其太和而无所限节,则流荡忘返。所以有礼须用有乐,有乐须用有礼。此礼乐且是就性情上说,然精粗本末,亦初无二理。

礼中有乐,乐中有礼,朱文公谓严而泰,和而节。

(卷三十)

问兴立成

古之诗,出于性情之真。先王盛时,风教兴行,人人得其性情之正,故其间虽喜怒哀乐之发,微或有过差,终皆合于正理。故《大序》曰:"变风发乎情,本乎礼义。发乎情,民之性也,本乎礼义,先王之泽也。"三百篇诗,惟其皆合正理,故闻者莫不兴起,其良心趋于善而去于恶。故曰兴于诗。

礼乐之原,出于天地自然之理。《乐记》曰:"天高地下,万物散殊,而礼制行矣;流而不息,合同而化,而乐兴焉。"礼者,天地之序也;乐者,天地之和也。天高地下,此即自然之尊卑;万物散殊,有大有小,有隆有杀,此即自然之等级。圣人因此制,为之礼,所以法天地之序也。阴阳五行之气,流行于天地之间,未尝少息,相摩相荡,为雷霆,为风雨,以化生万物。圣人因此作,为之乐,所以象天地之和也。五声十二律,亦皆阴阳变错而成,故乐音之和,与天地之和相应,可以养人心,成风俗也。自周衰,礼乐崩坏。然礼书犹有存者,制度文为,尚可考寻,乐书则尽缺不存。后之为礼者,既不能合先王之制,而乐尤甚焉。今世所用,大抵郑卫之音,杂以夷狄之声而已,适足以荡人心,坏风俗,何能有补乎。故程子慨然发叹也。然礼乐之制虽亡,而乐之理则在。故《乐记》又谓:"致礼以治身,致乐以治心。外貌斯须不庄不敬,则嫚易之心入之矣;中心斯须不和不乐,则鄙诈之心入之矣。"庄敬者,礼之本也;和乐者,乐之

本也。学者诚能以庄敬治其身,和乐养其心,则于礼乐之本得之矣。是亦足以立身而成德也。三百篇之诗,虽云难晓,今诸老先生,发明其义,了然可知。如能反复涵咏,直可以感发其性情,则所谓兴于诗者,亦未尝不存也。

(卷三十一)

词 源^①(辑录) _{张 美}③

序

古之乐章、乐府、乐歌、乐曲,皆出于雅正。粤自隋以声诗间为长短句,至唐人则有《尊前》、《花间》集,迄于崇宁立大晟府,命周美成诸人讨论古音,审定古调,沦落之后,少得存者。由此八十四调之声稍传,而美成诸人又复增演慢曲、引、近,或移宫换羽,为三犯四犯之曲,按月律为之,其曲遂繁。且美成负一代词名,所作之词浑厚和雅,善于融化诗句于音谱,犹且间有未谐,可见其难矣。……

(卷上)

讴曲旨要

歌曲令曲四掯匀 破近六均慢八均 官拍艳拍分轻重 七敲八掯靸中清 大顿声长小顿促 小顿才断大顿续 大顿小住当韵住 丁住无牵逢合六 慢近曲子顿不叠 歌飒连珠叠顿声 反掣用时须急过 折拽悠悠带[汉][叹]音 顿前顿后有敲掯(打) 声拖字拽疾[无飞为]胜

① 据《守山阁丛书》本。《讴曲旨要》并参考丘琼荪《白石道人歌曲通考》中《词源 讴曲旨要找释》文。

② 张炎(1248-1320)。

抗声特起直须高 抗与小顿皆一措 腔平字侧莫参商 先须道字后还腔 字少声多难过(云)〔去〕 助以余音始遶梁 忙中取气急不乱。 停声待拍慢不断 好处大取气留连 拘则少人气转换 **哩字引浊啰字**清 住乃哩啰顿唛喻 大头花拍居第五 **叠头艳拍在前存** 举末轻园无惡块 **清油高下萦缕比** 若无含韵强抑扬 即为叫曲念曲矣

(卷上)

音 谱

词以协音为先。音者何? 谱是也。古人按律制谱,以词定声。此正声依永,律和声之遗意。有法曲,有五十四大曲,有慢曲。若日法曲,则以倍四头管品之,其声清越;大曲则以倍六头管品之,其声流美,即歌者所谓曲破。如《望瀛》,如《献仙音》,乃法曲,其源自唐来;如《六幺》,如《降黄龙》,乃大曲,唐时鲜有闻。法曲有散序、歌头,音声近古,大曲有所不及。若大曲亦有歌者,有谐而无曲,片数与法曲相上下,其诀亦在歌者称停紧慢,调停音节,方为绝唱。惟慢曲、引、近则不同,名日小唱,须得声字清圆,以哑筚篥合之,其音甚正,箫则勿及也。慢曲不过百余字,中间抑扬高下,丁抗掣拽,有大顿、小顿、大住、小住、打、掯等字,真所谓"上如抗,下如坠,曲如折,止如槁木,倨中矩,句中钩,垒垒乎端如贯珠"之语,斯为难矣。

(卷下)

法曲、大曲、慢曲之次,引、近辅之,皆定拍眼。盖一曲有一曲 之谱,一均有一均之拍,若停声待拍,方合乐曲之节。所以众部中 用拍板,名曰"齐乐",又曰"乐句",即此论也。《南唐书》云:王感化 善歌讴, 声振林木: 系之乐部, 为歌板色。后之乐棚前, 用歌板色二 人,声与乐声相应,拍与乐拍相合。"按拍"二字,其来亦古。所以 舞法曲、大曲者,必须以指尖应节,俟拍然后转步,欲合均数故也。 法曲之拍,与大曲相类,每片不同,其声字疾徐,拍以应之。如 大曲《降黄龙》花十六,当用十六拍。前衮、中衮,六字一拍。要 停声待拍, 取气轻巧。煞衮则三字一拍, 盖其曲将终也。至曲尾 数句, 使声字悠扬, 有不忍绝聊之意, 以 余 音 绕 梁 为 佳。惟法 曲散序无拍,至歌头始拍。若唱法曲、大曲、慢曲,当以手拍;缠 令,则用拍板;嘌呤、说唱、诸宫调,则用手调儿,亦旧工耳。 慢曲,有大头曲、叠头曲,有打前拍,打后拍。拍有前九后十一,内 有四艳拍; 引、近、则用六均拍, 外有序子, 与法曲散序、中序不同。 法曲之序一片,正合均拍。俗传序子四片,其拍颇碎,故缜令多用 之,绳以慢曲八均之拍不可,又非慢二急三拍,与《三台》相类也。 曲之大小,皆合均声,岂得无拍。歌者或敛袖,或掩扇,殊亦可哂。 唱曲苟不按拍,取气决是不匀,必无节奏。是诀非 习于 音者不 知也。

(卷下)

礼 乐^① 夹 嵩③

礼,王道之始也。乐,王道之终也。非礼无以举行,非乐无以 著成,故礼乐者,王道所以倚而生成者也。礼者因人情而制中。王 者因礼而为政, 政乃因礼乐而明效。人情莫不厚生, 而礼乐之养。 人情莫不弃死,而礼正之丧。人情莫不有男女,而礼宜之匹。人情 莫不有亲疏,而礼适之义。人情莫不用喜怒,而礼理之当。人情莫 不怀货利,而礼以之节。夫礼举则情称物也,物得理则王政行也, 王政行则其人乐而其气和也。乐者所以接人心而达和气也。宫、 商、角、徵、羽、五者乐之音也。金、石、丝、竹、匏、土、革、木、八者乐 之器也。音与器一主于乐也。音虽合变,非得于乐,则音而已矣。 是故王者待乐而纪其成政也、圣人待乐以形其盛德也。然则何代 无乐欤。何代无礼欤。礼愈烦而政愈隳,乐愈举而时愈乱,盖其所 制者礼之仪也,非得其实也;所作者乐之声也,非得其本也。夫乐 之本者在平人和也,礼之实者在平物当也。昔有虞氏也修五礼,故 其治独至于无为, 恩洽动植, 而鸠鹊之巢可俯而观, 乃《韶》作而凤 鳳来格。故孔子曰: "《韶》尽美矣,又尽善也。"盖言舜修礼得礼之 实也, 作乐得乐之本也。叔孙诵制礼, 事礼之仪者也。杜夔修乐, 举乐之文者也。举文则官其治之未臻也,事仪则官(平)其政之未 淳也。夫礼所以振王道也,乐所以完王德也。故王者欲达其道而 不极于礼,欲流其德而不至于乐,虽其至圣,无如之何也。人君者, 礼乐之所出者也,人民者,礼乐之所适者也,所出不以诚,则所适以

① 辑自《潜子》卷二《论原》。据成都文殊院刊本。

② 契嵩,宋人,生卒年不详。谢诚明《潜子叙》说他曾与欧阳修"语终日"。

饰虚,所出不以躬,则所适不相劝,是故礼贵乎上行,乐贵乎下效也。夫宗庙之礼,所以教孝也;朝觐之礼,所以教忠也;燕享之礼,所以教敬也;酢醇之礼,所以教让也;乡饮之礼,所以教序也;婚娉之礼,所以教顺也;斩衰哭泣之礼,所以教哀也。夫教者,教于礼也;礼者,会于政也。政以发乐,乐以发音,音以发义,故圣人治成而作乐也,因音以盛德也。因宫音之沉重广大以示其圣;因商音之刚厉以示其断;因角音之和缓以示其仁;因徵音之劲节以示其智;因羽音之柔润以示其敬;律吕正也,以示其阴阳和也;八风四气顺也,以示其万物遂也。犹恐人之未睹,故舞而象之,欲其见也;恐人之未悉,故诗以言之,欲其知也。感而化之,则移风易俗存乎是矣。是先王作乐之方也。

子 华 子^① (辑录)

子华子曰: 撞钩石之钟,六乐合奏于庭,所以写乐也,而隐忧者临之而逾悲,不主乎乐故也。 鬱摇〔抑〕而行歌,促弦而急弹,所以写忧也,而安恬者得之而逾欢,不主于忧故也。然则忧乐在外也,所以主之者内也,内之所感,赭苍互色,东西贸区,而昧者则不之知也。故曰: 观流水者与水俱流,其目运而心逝者欤?

① 《子华子》,署"晋人程本著",宋陈振孙《书录解题》说:"其文不古,然亦有可观者。当出近世能言之流,为此以玩世耳。"《四库提要》引此定为宋时所伪托。据影印蝴蝶装本。

"赵希旷论弹琴"®

夫琴七弦,各司一声,每晖(徽)各司一月,律吕五音,繁而不离 〔杂〕,如水中之月,同而不和,如风中之松,合而有散。其声贵静, 无增客声,此声之玄微也。

须使听者不倦,弹曲不必务多,但欲精炼。初学时只抚得十数曲,有趣向则触类而长之,无适不可。然而善于抚弄之士,务要广于见闻,以资讲论。必下指浏亮,随机变通,自然超阅(越)时辈矣。近世学者,专务喝声,或只按书谱。喝声则忘古人本意,按谱则泥辙迹而不通,二者胥失之矣。喝声,按谱,要之皆不可废。自古流传以至于今,则谱出于一定之正,而随时口耳之传授,由是而变态不一,去古既远,不为无讹矣。其真者固多,是则谱不可缺,而下指取予,在人之巧拙耳。宣和间所传曲调,唯僧则全为之胜,是以湘中尚谱为可行远、简约,谈笑自有典刑(型),又是近代之榘度者。若夫指下得天成之妙,而又能剪截(裁)繁声,抑扬清韵,则莫如道录黄大中。故曰:按谱、喝声,耳目不可偏废。君子贵乎鼓琴者,上自帝王,下逮庶人,化民格物,适兴寓志,故其声淳而旨深,虽后有作者,无以过之。今之世唯务雕镌绮靡,往往流入郑卫之音,使后辈逐末忘本,古人之志趣远矣。

① 辑自蒋克谦编:《琴书大全》卷十《弹琴》。据明刊本。赵希旷,宋人,生平不详。

《文献通考》序①(节录) 马病临③

《记》曰:"声音之道,与政诵矣,故审乐以知政。"盖言乐之正、 哇,有关于时之理、乱也。然自三代以后,号为历年多,施泽久,而 民安乐之者,汉唐与宋。汉莫盛干文、景之时,然至孝武时,河间献 王始献雅乐,天子下太乐官,常存肄之,岁时以备数,然不常御。常 御及郊庙,皆非雅声。至哀帝时,始罢郑声,用雅乐。而汉之运祚, 且移于王莽矣。唐莫盛于贞观、开元之时, 然所用者多数坊俗乐, 太常阅工人常肆习之,其不可教者乃习难乐。然则其所谓乐者,可 知矣。宋莫盛于天圣、景祐之时,然当时胡瑗、李照、阮逸、范镇之 徒,拳拳以律吕未谐,声音未正为忧,而卒不克更置。至政和时,始 制大晟乐,自谓古雅,而宋之土字且陷人女真矣。盖古者因乐以观 政,而后世则方其发政施仁之时,未暇制乐;及其承平之后,纲纪法 度皆已具举,敌国外患皆已销亡,君相他无所施为,学士大夫他无 所论说, 然后始及制乐, 乐既成, 而政已秕, 国已衰矣。 昔隋开皇 中,制乐用何妥之说,而摈万宝常之议。及乐成,宝常听之泫然曰: "乐声淫厉而哀,不久天下将尽喷!"使当时一用宝常之议,能救隋 之亡乎。然宝常虽不能制乐以保隋之长存,而犹能听乐而知隋之 必广,其宿悟神解,亦有过人者。窃尝以为世之兴衰、理乱固未必 由乐,然若欲议乐,必如师旷、州鸠、万宝常、王令言之徒,其自得之

据商务印书馆《万有文庫・十通》本。

② 马端帖,字贵与,饶州乐平人。在 1037年(元大德十一年)编成《文献通考》, 1322年(元至治二年)时他已六十九岁了。

妙,岂有法之可传者。而后之君子,乃欲强为议论,究律吕于黍之纵横,求正哇于声之清浊,或证之以残缺断烂之简编,埋没销蚀之尺量,而自谓得之。何异刻舟覆蕉、叩槃扪烛之为愚,固不知其说也。……

琴律发微^① 除級子^②

制曲通论

乐有曲,微(非)曲蔑以为乐。《扶来》《立本》之属, 邈不可稽。 四代之盛,吴公子札得观于鲁,顾其曲犹在也。嬴氏变更,古乐沦 废。八音之丝为琴瑟,瑟制已非古,琴幸获传。夫琴,其法度旨趣 尤邃密,圣人所嘉尚也。琴曲后世得与知者,肇于歌《南风》,千古 之远,稍诵其诗,即有虞氏之心,一天地化育之心可见矣,矧当时日 涵泳其德音者乎。风、雅、颂,被之弦歌,即曲也。皆缘辞而寓意于 声,如《文王操》。《太山》《流水》,则类皆于声而求意,所尚初不在 辞也。汉晋以来,固有为乐府辞韵于弦者,然意在声为多,或写其 境,或见其情,或象其事,所取非一,而皆寄之声。后亦有实亡所 得,妄加之名,为街戳讨者,斯亦不足算也已。且声在天地间,雪汉 之籁,生嵒谷之响,雷霆之迅烈,涛浪之春撞,万窍之阴号,三春之 和应,与夫物之飞潜动植,人之喜怒哀乐,凡所以发而为声者,洪纤 高下,变化无尽,琴皆有之。唯明知之士,能取琴之所有,以著其 妙,是岂造次所可为者。姑以琴之为曲,举其气象之大概,善之至 者,莫如中和。体用弗违乎天,则未易言也。其次若冲澹、浑厚、正 大、良易、豪毅、清越、明丽、缜栗、简洁、朴古、愤激、哀怨、峭直、奇 拔,各具一体,能不逾于正迺(乃)善。若夫为艳媚、纤巧、噍烦、趋 逼、琐杂、疏脱、惰慢、失伦者,徒堕其心志,君子所不愿闻也。

① 据明刊本森克谦《琴书大全》卷十一。

② 陈敏子、活动年代在1314-1320 (元仁宗延祐元年至七年)前后。

古初制律,所以定声,文之以五声,所以为曲,岂徇欲任意为之?《乐记》曰:"凡音之起,由人心生。声成文,谓之音"。人心不正,斯为览遗之音矣。是故凡制曲者,不可以违于律。朱文公《琴律》曰:"七徽为正声,七徽之左气厚身长,声和节缓。"又曰:"三宫之位,左阳而右阴,意可见矣。"徐氏曰:"务在守律象音,一调五音,各音自为主,使主常胜客,不至侵犯他调,驳乱音声,斯为善矣。"后之有志于音律者,详究先儒之说,参诸圣贤之心,庶不袭乎桑间濮上之遗,而无负其所学也。

制曲凡例

凡以某律为官,虽于其四声各为调,然皆本宫所统,皆以宫声为主调。故调中必有宫声,若无宫声,则何以辨其为某宫之四声也。且如黄钟为宫,虽林钟为徵调,曲首尾皆用徵,其曲中却须有黄钟宫声隐然为曲调之主,不然何以为黄钟宫之徵调曲也。他律为宫皆仿此。或谓:且如三弦,以仲吕为宫,无射三弦亦仲吕,其律既同,何以为徵。盖无射紧五弦一律为宫,则其五声之高下次第自不同矣;三弦虽同是仲吕,不得以为宫矣。或又谓:既五弦分为五声,何至无宫。是又不然。调中固有无散弦宫声者矣,傥使按泛皆无之,何以成调。

凡以某律为此宫此调,又为别宫别调,其律既同,其声亦同,何以为某调某调之异,如仲吕宫以黄钟为徵,无射宫又以黄钟为商之类?盖黄钟之声虽同,而于各宫,弦法既异,其为调声韵转换处,先后自有不同者矣。推此,他宫律调皆可见矣。

凡制调引曲,其第一声皆合用本律声,然古今所制多杂用本宫 诸律声,亦无不可。但至于调引曲之毕,其末声却皆止是用本律之 声,无用他声者。其所用之声无拘,散、按、泛三者皆可。盖散声为 五声之正, 六七为清声, 按声是平声, 及应声并泛声, 皆与散声同故耳。

凡制调引曲,各随十二律为宫,用其所统五律为五声。十二律所统各自不同。且如黄钟为宫,所统者黄、太、姑、林、南五律为五声;大吕为宫,所统者大、夹、仲、夷、无五律为五声。他律之所统不同皆然。既取五弦散声应五律,为宫、商、角、徵、羽,六七即一二弦清声,其按泛,亦皆取应前五律散声相同者为正律,其有在五律之外者,虽或备旁取应声以成曲,然终不得其正矣。至于变宫、变徵,按泛皆有,亦间得之,然用时终少。众乐惟有五声二变及清声而已。琴则于正律清声之外,又有按泛及十三徽内上下,节目甚多,此为加于众乐者。故其声数之变,有出于五者之外,然其委折归宿,所以为调,不过五声而已。若能惟守五律散、按、泛正声,其余杂声并不犯,则尤为纯粹。

凡制曲,每段结处一声,合用本律。最末后一段,必有入调泛 声结其泛声之上。散按之声结段处,亦合用本律,不可谓泛声毕处 用本律,而于散按毕处遂略之也。

凡制曲,其结末归调处,各随其曲所尚何如,若曲尚雅淡,则当用正中声毕,在十徽左右;若曲尚清和,则当用半声毕,在七徽左右;若曲尚峭急,则当用半半声毕,在六徽左右。大要在此三节。听雅谈之音者,意多深远;听清和之音者,意多快乐;听峭急之音者,意多悲戚。君子操音制曲,其必知所尚矣。

凡历数弦, 若遇当应律处, 即合以末声为律。且如拂一至七, 便以七弦声为律; 衮七至一, 便以一弦声为律, 不问其余诸弦也。

凡对按搯起处当应律,则于搯起后取名指按声为律。

凡制曲,归调处各随其所尚,然文公谓六徽以后用之为少,俗曲繁声,亦或有取,非所宜听。是盖所尚者雅淡,而责在于正中声也。但曲有诸体,兴趣不同,亦惟不失其正斯可矣。

凡制曲,一调有五音,迭为主客。若以甲为主,则乙为客;乙为主,则甲为客矣。以主声倡之于首,则音调有统纪;以主声收之于尾,则音调有归宿。若无主声倡之,则调尾主声孤立无相照应者,而脉络亦不贯矣。或曰:前已谓第一声多杂用本宫诸律声亦无不可矣,今说又不然,何也。盖今所谓倡之于首者,谓其首段结声处应合本律,非谓第一句第一声也。试徵之《玉谱》可见矣。

凡制曲,散按声相间用,清以泛声。徐氏谓得中道,一偏则非 所宜也。

凡制曲,先定以某宫某律为调,其起毕及段落处守律为正;其中间断句与一句之中,各有唤有应,有间歇,有单声、比声,委曲转换,韵度殊异。其要当会之于心,应之于耳,各随所制,视其归宿何如,无致自相乖悖,违于调律,斯得之矣。

凡制曲,毕调处多叠声,如宫宫、徵徵之类;起调处却无定。其每句中间及句末,虽均有高下婉转,而声则同,皆无所拘,但顾其唤兴应处,终归于律为善。

凡制曲,其声韵或向高,或向沉。如散弦自外人内为向高,自 内出外为向沉;呼唤引上为向高,应答注下为向沉。又有向高者以 高应,向沉者以沉应。一高一沉,变态不一,当以意会可也。

凡一曲,中间必有忽焉转易其音调者,盖取其声韵之变,最为奇妙;若但一顺去,无足取者矣。然所谓转易处,亦不出于本宫之五声,亦须随即婉转归于主调方可,若一向转将去,则又与主调差殊矣。

凡制曲,例不可违十二律五声。其数亦定,及经纬之以成文,变化无尽,乐和奏雅,百世有之,是犹奕(弈)之数,纵横仅十有九耳,仙翁智人不能穷其算,奇筹妙著,日新又新。会此,则制曲真例,又有在于凡例之外而罔可违者,岂围说所能该备?当自得之可也。

起调毕曲

或问:十二宫六十调制曲起毕之说何如? 古书中及五声十二律还相为宫为六十调者虽多,独于制曲起毕之说鲜及之。惟西山蔡氏按《经子注疏》定十二律还相为宫作六十调图,其说曰:黄钟宫至夹钟羽,并用黄钟起调,黄钟毕曲;循序以及应钟宫至太簇羽,并用应钟起调,应钟毕曲。由是观之,则起调毕曲皆须用本律。但琴家于起调多无定准。且如仲吕宫贺若诸段毕,皆用中十勾一,是为宫;至于起,用名十一打三,则为角,非本律矣。若此之类不一。甚至五调开指,有例以散挑七起,为羽清声,岂有诸调各异,而皆以羽声起者乎?以此见得皆无定准。至于徐氏二十五调引,其毕曲皆是本律声,乃若起调,则或用本宫宫声,或用本律,或用本律所生之律,如宫调而用徵起之类;或用循弦以次声,如本调是徵,而用和起之类;四者之外,亦有用者。然则五声皆可起调,不特从来琴家为然也。制曲之际险毕曲定须用本律声,其起调则惟当求其声韵之宜何如耳。虽然,以正理论之,起毕为本调诸声纲领,要必遵蔡氏起调毕曲皆用本律者为是也。

唱 论①(辑录) 芝 養③

三教所唱,各有所尚:道家唱情;僧家唱性;儒家唱理。大忌郑卫之淫声,续雅乐之后。丝不如竹,竹不如肉,以其近之也。又云:取来歌里唱,胜向笛中吹。

歌之格调: 抑扬顿挫,顶叠垛换,萦纡牵结,敦拖呜咽,推题宛转,摇欠遏透。

成文章日乐府。有尾数名套数。时行小令唤叶儿。套数当有 乐府气味; 乐府不可似套数。街市小令,唱尖歌倩意。

大凡声音,各应于律吕,分于六宫十一调,共计十七宫调:"仙吕宫"唱清新绵邈,"南吕宫"唱感叹伤悲,"中吕宫"唱高下闪赚,"黄钟宫"唱富贵缠绵,"正宫"唱惆怅雄壮,"道宫"唱飘逸清幽,"大石"唱风流酝藉,"小石"唱旖旎妩媚,"高平"唱条物滉漾,"般涉"唱拾掇坑堑,"歇指"唱急并虚歇,"商角"唱悲伤宛转,"双调"唱健捷徼袅,"商调"唱凄怆怨慕,"角调"唱鸣咽悠扬,"宫调"唱典雅沉重,"越调"唱陶写冷笑。③

① 据元杨朝英选、隋树森校订:《新校九卷本阳春白雪》前集卷第一,中华书局 1957年11月版。

② 芝庵真实姓名现已不知,生平无法查考,当为1341年(元至正元年)以前人。

③ 本段"十七官调所唱",亦见于 1324年(元泰定甲子)的周德清所著《中原音韵》。

凡歌之所忌:子弟不唱作家歌;浪子不唱及时曲;男不唱艳词;女不唱雄曲;南人不曲;北人不歌。

.

. 270 .

明 清 部 分

古之善歌者:秦青、薛谭、韩秦娥、沈古之、石存符。此五人歌声,一遇行云不流,木叶皆坠,得其五音之正,故能感物化气〔故〕也。

古有两家之唱,芝菴增人丧门之歌,为三家。道家所唱者,飞驭天表,游览太虚,俯视八紘,志在冲漠之上,寄傲宇宙之间,慨古感今,有乐道徜徉之情,故曰"道情"。儒家所唱者性理,衡门乐道隐居,以旷其志,泉石之兴。僧家所唱者,自梁方有丧门之歌,初谓之"颂偈","急急修来急急修"之语是也,不过乞食抄化之语,以天堂地狱之说,愚化世俗故也;至宋末,亦唱乐府之曲,笛内皆用之;元初,赞佛亦用之。

(《词林须知》)

知音善歌者三十六人(娼夫不取):

卢纲,咸阳人也。其音属宫而杂商。如神虎之啸风,雄而且壮,为当时之杰。又若腰鼓百面,以破苍蝇、蟋蟀之鸣,万无一敌。

① 据傳惜华校辑《古典戏曲声乐论著丛编·词林须知》及附录。1956 年全国声 乐教学会议参考资料。

② 朱权,明太祖朱元璋之子,主要活动年代在十五世纪初叶。

李良辰,涂阳人也。其音属角。如苍龙之吟秋水。予初入关时,寓遵化,闻于军中。其时三军喧轰,万骑杂逻,歌声一遇,壮士 莫不倾耳,人皆默然,如六军衔枚而夜遁,可谓善歌者也。

蒋康之,金陵人也。其音属宫。如玉磬之击明堂,温润可爱。 癸未春,渡南康,夜泊彭蠡之南,其夜将半,江风吞波,山月衔岫,四 无人语,水声淙淙,康之扣弦而歌"江水澄澄江月明"之词,湖上之 民,莫不拥衾而听;推窗出户是听者,杂合于岸。少焉,满江如有长 叹之声,自此声誉愈远矣。

凡唱最要稳当,不可做作,如咂唇,摇头,弹指,顿足之态;高、低、轻、重、添、减太过之音,皆是市井狂悖之徒,轻薄淫荡之声,闻者能乱人之耳目,切忌不可。优伶以之。唱若游云之飞太空,上下无碍,悠悠扬扬,出其自然,使人听之,可以顿释烦闷,和悦性情。得者以之。故曰:"一声唱到融神处,毛骨萧然六月寒"。

(《善歌之士》)

云庄休居自适小乐府引^①(节录) * * * * * * * *

乐府古有之,亦皆本乎诗也。《诗》三百十一篇,皆古人歌者; 世降时异,变而为词为曲,咸以乐府目之。盖诗与乐府,名虽不同, 而其感发惩创,使人得其性情之正则一耳。……情由外感,乐自中 出,言真理到,和而不流,诚为治世安乐之音也。依腔按歌,使人 名利之心都尽,假诸古之乐府,语虽深浅,其乐天知止之妙,岂相矛 盾哉!……

① 据《饮灯簃刻散曲四种》本辑录。

② 艾俊,活动年代在明成化时(1465-1487)。

书张文忠公《云庄乐府》后①(节录)金 润③

夫气而形,形而声,声成文,律吕备。故乐府之作,其来尚矣。 先哲谓古人之歌诗,即今人之歌曲,是以有风有雅焉。风者,民俗 之谣;雅者,士大夫之乐,然雅正而风葩,故风体久渐遗失矣。知诗 者诵之,铿然而有钟鼓之乐,悠然而有琴瑟之和,是则犹有风人之 遗音者,其惟乐府乎?何也?以其播之筦弦,荐之清庙,谐神人,关 风化,亦由(犹)诗变而为骚,骚而词,词而操,操而乐府,是谓诗之 馀也。君子于此,其可废乎;……

① 据《饮虹簃刻散曲四种》本辑录。

② 金润,字伯玉,上元人。明正统间(1436—1449)举乡贡。活动年代在明成化时(1465—1487)。

"何 瑭 论 乐"^①

诗言志,今俗乐词曲,各陈其情,乃其遗法也;歌永言,今俗乐之唱词曲,乃其遗法也。当歌之时,和以乐器之声,与歌声清浊高下相应,是谓声依永,俗乐唱曲,应以丝竹,乃其遗法也。此则小成矣。若奏众音,清浊高下,难得齐一,须律以齐之。如作黄钟宫调,则众音之声,皆用黄钟为节;太簇商亦然。清浊高下,自齐一而不乱,是谓律和声。俗乐以合、四、工、尺等字为板眼,如作工字,则众音皆以工为节,尺亦然,而从律不乱,乃其遗法也。八音克谐,则乐乃大成矣。

① 录自《西园闻见录》卷五十《礼部》九《乐律前》。何瑭,武陟人,活动年代在明弘治时(1488—1505)。

王文成公全书((缉录)王阳明®

语 录 一(传习录上)

问《律吕新书》。先生曰:"学者当务为急,算得此数熟,亦恐未有用,必须心中先具礼乐之本方可。且如其书说,多用管以候气。然至冬至那一刻时,管灰之飞,或有先后,须臾之间,焉知那管正值冬至之刻。须自心中先晓得冬至之刻始得,此便有不通处。学者须先从礼乐本原上用功。"

(卷一)

教 约

凡歌诗,须要整容定气,清朗其声音,均审其节调,毋躁而急, 毋荡而嚣,毋馁而慑。久则精神宜畅,心气和平矣。每学,量童生 多寡,分为四班,每日轮一班歌诗,其馀皆就席,敛容肃听。每五 日,则总四班递歌于本学。每朔望,集各学会歌于书院。

(卷二)

① 据商务印书馆《四部丛刊》本。

② 王阳明(1472--1528)。

语 录 三(传习录下)

先生曰:"古乐不作久矣。今之戏子,尚与古乐意思相近。"未 达,请问。先生曰: "《韶》之九成便是舜的一本戏子,《武》之九变便 是武王的一本戏子。圣人一生实事、俱播在乐中、所以有德者闻 之,便知他尽善尽美与尽美未尽善处。若后世作乐,只是做些词 调,于民俗风化,绝无关涉,何以化民善俗。今要民俗反朴还淳,取 今之戏子,将妖淫词调俱去了,只取忠臣孝子故事,使愚俗百姓人 人易晓,无意中感激他良知起来,却于风化有益。然后古乐渐次可 复矣。"曰:"洪要求元声不可得,恐于古乐亦难复。"先生曰:"你说 元声在何处求?"对曰:"古人制管候气,恐是求元声之法。"先生曰: "若要去葭灰黍粒中求元声,却如水底捞月,如何可得。元声只在 你心上求。"曰:"心如何求?"先生曰:"古人为治,先养得人心和平, 然后作乐。比如在此歌诗,你的心气和平,听者自然悦怿兴起,只 此便是元声之始。《书》云'诗言志',志便是乐的本。'歌永言',歌 便是作乐的本。'声依水, 律和声', 律只要和声, 和声便是制律的 本,何尝求之干外。"曰:"古人制候气法,是意何取?"先生曰:"古人 具中和之体以作乐。我的中和原与天地之气相应。 候天地 之气, 协凤凰之音,不过去验我的气果和否。此是成律已后事,非必待此 以成律也。今要候灰管、先须定至日、然至日子时、恐又不准、又何 处取得准来?"

(卷三)

"廖道南论乐"◎

……夫古乐不复于今久矣。自元入中国,胡乐盛行。我圣祖 扫除洗濯,会朝清明,悉崇古雅。观诸《大明集礼》所载,昭如日星, 人所共见。奈何浸淫日久,新声代变,俗乐杂乎雅,胡乐杂乎俗,而 览遗噍杀之音,沉溺怪幻之技作矣。孔子曰:乐则《韶》舞,放郑声。 又曰:恶郑声,恐其乱雅乐也。他日夹谷之会,又斥莱夷之舞之炭 惑。汉臣陈禅亦曰:帝王之廷不宜作夷狄之乐。夷狄不可乱华者 如此,固未可委于靺师,而混之寄象鞮译也。今宜历考雅乐之章, 革去胡乐之部,凡淫哇之声有乱乎正音者,斥之不使复用;凡妖冶 之技有出于奇妖者,禁之不使复习。庶乎风行自近而大道为公,俗 正于远而颂声可作者矣。……

① 辑自《西园闻见录》卷五十一《礼部》十《乐律》后。廖道南, 蒲圻人, 活动年代在明正德时(1506—1521)。

诗 乐 说^①(节录) * 6^②

……张子曰: 古乐不可见。盖为今人求古乐太深,始以古乐为不可知。只以《虞书》诗言志,歌永言,声依永,律和声求之,得乐之意,盖尽于是。诗只是言志,歌只是永其言而已,只要转其声,令人可听。今日歌者,亦以转声而不变字为善,歌长言时,却要入于律,律则知音者知之,知此声入得何律。古乐所以养人德性中和之气,后之言乐者,止以求哀。故晋平公曰: 音无哀于此乎! 哀则止以感人不善之心。歌亦不可以太高,亦不可以太下,太高则入于噍杀,太下则入于啴缓。盖穷本知变,乐之情也。斯言真确论哉! ……

① 本段及下段均辑自《西园闻见录》卷五十《礼部》九《乐律前》。

② 黄佐,字才伯,香山人,活动年代在明嘉靖时(1522-1566)。

乐 声 说(节录) ★ 佐

乐自天作,乐由阳来,至和之发也。其治心也,德盛而后知乐; 其治人也,功成而后作乐,至和之极也。盖优柔平中,德之盛也;天 下化中,治之至也,是谓道配天地,古之极也。故天地有自然之律, 人声有自然之和,天籁气机,相为动荡,如五声八音,清浊高下,出 乎口,入乎耳,自有一定,中和条贯,惟圣人为能察之。故曰:既竭 耳力焉,继之以六律正五音,不可胜用也。……乐生于心,斯发于 声。人心惨则声哀,人心舒则声和。然人心复因声之哀和,亦感而 舒惨。则韩娥曼声哀哭,一里愁悲;曼声长歌,众皆喜忭,斯之谓 矣。是故喜、怒、哀、乐四者,随物感动,播于形气,叶律吕,谐五声, 而谓之为乐。声和乐作,而喜、怒、哀、乐,皆中其节,是为致中和。 天地位焉,万物育焉,天且不违,而况人乎。朱子亦曰:"音律气也, 故相关。又曰:天人无间。正此之谓矣。此审音知乐,为治律大 原,圣人复起,无以易也。

"王廷相论乐"

仁、义、礼、乐,维世之纲;风教、君师,作人之本。君师植风教者也,风教达礼乐者也,礼乐敷仁义者也,仁义者君师之心也,八者 具而和平之治成矣。虽谓之尧、舜可也。

(《慎言・御民篇》)

古人之学,先以义理养其心,志于道,据于德,依于仁是也。复以礼乐养其体,声音养耳,彩色养目,舞蹈养血脉,威仪养动作是也。内外交养,德性乃成。由是动合天则,而与道为一矣。今人外无所养,而气之粗鄙者多;内无所养,而心之和顺者寡。无怪乎圣贤之不多见矣。

(《慎言・君子篇》)

乐也者,存乎道者也。抑扬节奏之妙,存乎聪明而为之也;安静和畅之体,存乎实德而象之也。两阶之干羽,前徒之倒戈,揖逊之雍容,驷伐之猛厉,不俟观乎《韶》、《武》而知之矣。故道之所由行,而乐之所由成也。

(《慎言・文王篇》)

① 辑自《王廷相哲学选集》。据中华书局排印本。王廷相(1474—1553)。

嗟呼! 内有所乐,然后可以托于物而乐之。彼人也,方且忧愁而戚促,将视海为穷荒魑魅之所而不堪矣,夫焉得取而乐之。是故钟鼓管籥之音一也,乐者闻之则畅其和,忧者闻之则益其悲。由是而观,则予之乐于海者,谓以海之故哉!

(《家藏集・近海集序》)

《新刊发明琴谱》序^① 黄龙山^②

君子之于琴也,观其深矣。夫琴音之所由生也,其本则吾心之出之也。是故节物以和心,和心以协声,协声以谐音,谐音以著文。文之达也,天地将为昭焉。不但适情性,舒血脉,理吾之身而已也,夫斯之谓深。顾琴虽作于圣人,而谱则昉于后世,相沿既久,传者失真,间号能琴者,未免附会掇拾之劳,非诚有得于谱法而工之者也。夫舍规矩方员,无所于成,矧于琴也,而可苟哉。予日苦习累诵诗读书之暇,旁及丝桐,以定志茹真,潜绅熙气,久之颇有悟焉。乃取旧谱之疏者、纰者、迁者、曲者、淆乱而无章者,细加雠补而录为卷帙,庸寿诸梓,与天下士君子共之;而有志于琴者,无擿埴索途之忧,可以因此而识彼矣。虽然,谱可传而心法之妙不可传,存乎其人耳,善学者能自得之,则艺成于德,其庶乎深矣。嘉靖九年岁次庚寅春三月庚辰吉日序。弋阳黄龙山寓金陵精舍谨书。

① 录自明黄龙山:《新刊发明琴谱》,影北京图书馆藏原刻本。黄龙山,江西弋阳 人,活动年代在1530年(明嘉靖九年)前后。

无似,雅喜丝桐,为童子时,尝退息操缦以求安弦。比闻徐门之传,私淑雪屋王氏,极力精研,仅谙遗响。既壮而官,以逮谢政,一日莫能去左右,计五十余年。所尝闻见,以所得诸谱,互有臧否异同,恒病不足为法。甲寅岁,悉出所藏,与一二同志裁酌去取,合徐门正传者,凡若干曲,于是分五声,益诸唫,删补各操,广释义,自甲寅春,迄丁巳冬,凡四易岁月,稿始辑成,题曰《太音补遗》。或曰:"八音协而神人和,五声具而鬼神上下,其道微矣,谱迹而粗,不足以该道之妙,今之按谱而为琴者,率泥其迹而莫诣其神,攻其声而莫极其趣,而琴之道殆荒矣。"无似曰:"不然。谱、载音之具,微是则无所法,在善学者以迹会神,以声致趣,求之于灋(法)内,得之于法外。极其妙则为游鱼出听,为六马仰秣,为瓠巴,为伯牙矣,神而明之,存乎其人也,安恤其谱之有无哉!先贤有言曰:'大匠与人以规矩,不能使人巧'。兹刻也,固初学之师,大匠之规矩也,惟青于蓝者得之"。嘉靖三十六年,岁在丁巳仲冬望日。阳武七十翁杏庄萧鸾著。

① 据明萧鸾: 《太音补遗》,影北京图书馆藏本。

② 萧鸾,字杏庄,金陵人。生于 1488 年(明弘治元年),1557 年(明嘉靖三十六年)时已经七十岁。他是继承宋代徐天民的琴派,自称"徐门正传"。

南词引正® 粮食桶®

- 一、初学不可混杂多记,如:学《集贤宾》,只唱《集贤宾》,学《桂枝香》,只唱《桂枝香》。如混唱别调,则乱规格。久久成熟,移宫换吕,自然贯串。
- 一、拍乃曲之余,最要得中。如:迎头板随字而下; 辙(彻)板随腔而下; 句下板——即绝板,腔尽而下。有迎头板惯打辙(彻)板, 乃不识字戏子,不能调平仄之故。
- 一、清唱谓之"冷唱",不比戏曲。戏曲借锣鼓之势,有躲闪省力,知者辨之。
- 一、生词要细玩,虚心味之,未到处再精思。不可自做主张,终 为后累。
- 一、腔有数样,纷纭不类。各方风气所限,有:"昆山"、"海盐"、"馀姚"、"杭州"、"弋阳"。自徽州、江西、福建俱作"弋阳腔";永乐间,云、贵二省皆作之;会唱者颇人耳。惟"昆山"为正声,乃唐玄宗时黄旛绰所传。元朝有顾坚者,虽离昆山三十里,居千墩,精于南词,善作古赋。扩廓帖木儿闻其善歌,屡招不屈,与杨铁笛、顾阿瑛、倪元镇为友,自号风月散人。其著有《陶真野集》十卷、《风月散人乐府》八卷行于世,善发南曲之奥,故国初有"昆山腔"之称。
- 一、双叠字,上两字接上腔,下两字稍杂下腔。如《字字锦》中"思思想想、心心念念",又如《素带儿》中"它生得齐齐整整、袅袅停停"类。馀仿此。

① 据钱南扬: 《〈南词引正〉校注》, 裁《戏剧报》1961.7—8。

② 魏良辅,生卒年代不详,活动年代在明嘉靖、隆庆(16世纪中叶)年间。

- 一、单叠字又不比双叠字,如"冷冷清清"等,要抑扬。
- 一、北曲与南曲大相悬绝,无南腔南字者佳,要顿挫。有数等, 五方言语不一,有"中州调"、"冀州调",有"磨调"、"弦索调",乃东 坡所仿,偏于楚腔。唱北曲宗"中州调"者佳。伎人将南曲配弦索, 直为方底圆盖也。关汉卿云:"以'小冀州调'按拍传弦,最妙。"
- 一、士夫唱不比惯家,要恕: 听字到腔不到也罢; 板眼正腔不满也罢。 意而已,不可求全。
- 一、五音以四声为主,但四声不得其宜,五音废矣。平、上、去、 人,务要端正。有上声字扭入平声,去声唱作入声,皆做腔之故,宜 速改之。《中州韵》词意高古,音韵精绝,诸词之纲领。切不可取便 苟简,字字句句,须要唱理透彻。
- 一、唱曲俱要唱出各样曲名理趣,宋元人自有体式。如《玉芙蓉》、《玉交枝》、《玉山颓》、《不是路》,俱要驰骋;如《针线箱》、《黄莺儿》、《江头金桂》,要规矩;如《二郎神》、《集贤宾》、《月云高》、《本序》、《刷子序》、《狮子序》,要悠扬;如《扑灯蛾》、《红绣鞋》、《麻婆子》,虽疾而无腔有板,板要下得匀净,方好。
 - 一、长腔贵圆活,不可太长;短腔要遒劲,不可就短。
- 一、过腔接字,乃关瑣之地,最要得体。有迟速不同,要稳重严肃,如见大宾之状,不可扭捏弄巧。
- 一、将《伯喈》与《秋碧乐府》,从头至尾熟玩,一字不可放过。 《伯喈》,乃高则诚所作;秋碧,姓陈氏。
- 一、听曲尤难,要肃然,不可喧哗。听其唾(吐)字、板眼、过腔 得宜,方妙。不可因其喉音清亮,就可言好。
- 一、南曲要唱《二郎神》、《香遍满》与《本序》、《集贤宾》熟,北曲唱得《呆骨朵》、《村里迓鼓》、《胡十八》精,如打破两重关也。亦有讹处,从权。
 - 一、苏人惯多唇音,如:冰、明、娉、清、亭(之)类。松人病齿音, • 286 •

如:知、之、至、使之类;又多撮口字,如:朱、如、书、厨、徐、胥。此土 音一时不能除去,须平旦气清时渐改之。如改不去,与能歌者讲 之,自然化矣。殊方亦然。

一、曲有三绝:字清为一绝,腔纯为二绝,板正为三绝。 出秦少游《媚蟹集》

五音: 宫、商、角、徵、羽。 俱要正,不宜偏侧。

四实: 平、上、去、人。 俱要着字,不可泛然;不可太实,则浊。

五不可:不可高,不可低,不可重,不可轻,不可自主张。

五难:闭口难,过腔难,出字难,低难,高不难。

两不辨:不知音者,不可与之辨:不好者,不可与之辨。

两不杂:南曲不可杂北腔,北曲不可杂南字。

弹琴杂说® 杨表正®

琴者,禁邪归正,以和人心。是故圣人之制,将以治身,育其情 性,和矣: 抑乎淫荡, 去乎奢侈, 以抱圣人之乐。所以微妙在得夫 其人,而乐其趣也。凡鼓琴,必择净室高堂,或升层楼之上,或于林 石之间,或登山巅,或游水湄,或观字中;值二气高明之时,清风明 月之夜,焚香静室,坐定,心不外驰,气血和平,方与神合,灵与道 合。如不遇知音,宁对清风明月、苍松怪石、巅猿老鹤而鼓耳,是为 自得其乐也。如是鼓琴,须要解意,知其意则知其趣,知其趣则知 其乐:不知音趣,乐虽熟何益。徒多无补。先要人物风韵,标格清 楚,又要指法好,取音好,胸次好,口上要有髯,肚里要有墨,六者兼 备,方与添琴道。如要鼓琴,要先须衣冠整齐,或鹤氅,或深衣,要 知古人之象表,方可称圣人之器;然后与水焚香,方纔就榻,以琴近 案,座以第五徽之间,当对其心,则两方举指法。其心身要正,无得 左右倾欹,前后抑合,其足履地,若射步之宜。右视其手,左顾其 弦,手腕宜低平,不宜高昂,左手要对徽,右手要近岳,指甲不宜长, 只留一米许。甲肉要相半,其声不枯,清润得宜,按令人木,劈、托、 抹(挑勾)、踢、吟、猱、艗、锁、历之法,皆尽其力,不宜飞抚作势,轻 薄之态。欲要手势花巧以好看,莫若推琴而就舞;若要声音艳丽而 好听,莫若弃琴而弹筝。此为琴之大忌也。务要轻、重、疾、徐,卷 舒自若,体态尊重,方能与道妙会,神与道融。故曰:"德不在手而

① 录自《重修正文对音捷要真传琴谱》卷一。据明刊本。

② 杨表正,字本直,别号西峰山人,福建延平永安县贡川人,活动年代在 1585 年 (明万历十三年)前后,是明代古琴声乐派——江派中著名的琴家。

在心,乐不在声而在道,兴不在音,而自然可以感天地之和,可以合神明之德。"又曰:"左手吟、猱、绰、注,右手轻、重、疾、徐,更有一般难说,其人须要读书。"

焚 书^①(辑录) _{季 货}②

读 律 肤 说

谈则无味,直则无情。宛转有态,则容冶而不雅;沉着可思,则神伤而易弱。欲浅不得,欲深不得。拘于律则为律所制,是诗奴也,其失也卑,而五音不克谐;不受律则不成律,是诗魔也,其失也亢,而五音相夺伦。不克谐则无色,相夺伦则无声。盖声色之来,发于情性,由乎自然,是可以牵合矫强而致乎?故自然发于情性,则自然止乎礼义,非情性之外复有礼义可止也。惟矫强乃失之,故以自然之为美耳,又非于情性之外复有所谓自然而然也。故性格清彻者音调自然宣畅,性格舒徐者音调自然疏缓,旷达者自然浩荡,雄迈者自然壮烈,沉郁者自然悲酸,古怪者自然奇绝。有是格,便有是调,皆情性自然之谓也。莫不有情,莫不有性,而可以一律求之哉。然则所谓自然者,非有意为自然而遂以为自然也。若有意为自然,则与矫强何异。故自然之道,未易言也。

(卷三)

征途与共后语

……侯谓声音之道可与禅通,似矣。而引伯牙以为证,谓古不必图谱,今不必硕师,傲然遂自信者,适足以为笑,则余实不然之。

① 据中华书局 1961 年排印本。

② 李贽(1527-1602)。

夫伯牙于成连,可谓得师矣,按图指授,可谓有谱有法,有古有今矣。伯牙何以终不得也。且使成连而果以图谱硕师为必不可已,则宜穷日夜以教之操,何可移之海滨无人之境,寂寞不见之地,直与世之矇者等,则又乌用成连先生为也。此道又何与于海,而必之于海然后可得也。尤足怪矣。盖成连有成连之音,虽成连不能投之于弟子;伯牙有伯牙之音,虽伯牙不能必得之于成连。所谓音在于是,偶触而即得者,不可以学人为也。矇者唯未尝学,故触之即契;伯牙唯学,故至于无所触而后为妙也。设伯牙不至于海,设至海而成连先生犹与之偕,亦终不能得矣。唯至于绝海之滨,空洞之野,渺无人迹,而后向之图谱无存,指授无所,硕师无见,凡昔之一切可得而传者,今皆不可复得矣,故乃自得之也。此其道盖出于丝桐之表,指授之外者,而又乌用成连先生为耶。然则学道者可知矣。明有所不见,一见影而知渠;聪有所不闻,一击竹而成偈:大都皆然,何独矇师之与伯牙耶。……

(卷四)

红 拂

此记关目好,曲好,白好,事好。乐昌破镜重合,红拂智眼无双, 虬髯弃家入海,越公并遣双妓,皆可师可法,可敬可羡。孰谓传奇 不可以兴,不可以观,不可以群,不可以怨乎?饮食宴乐之间,起义 动慨多矣。今之乐犹古之乐,幸无差别视之其可

(同上)

琴赋

《白虎通》曰:"琴者禁也。禁人邪恶,归于正道,故谓之琴。"余

谓琴者心也,琴者吟也,所以吟其心也。人知口之吟,不知手之吟; 知口之有声,而不知手亦有声也。如风撼树,但见树鸣,谓树不鸣 不可也,谓树能鸣亦不可。此可以知手之有声矣。听者指谓琴声, 是犹指树鸣也,不亦泥欤。

《尸子》曰:"舜作五弦之琴,以歌南风,曰:'南风之熏兮,可以解吾民之愠兮。'"因风而思民愠,此舜心也,舜之吟也。微子伤殷之将亡,见鸿雁高飞,援琴作操,不敢鸣之于口,而但鸣之于手,此微子心也,微子之吟也。文王既得后妃,则琴瑟以友之,钟鼓以乐之,向之展转反侧,寤寐思服者,遂不复有,故其琴有《关睢》。而孔子读而赞之曰:"《关睢》乐而不淫。"言虽乐之过矣,而不可以为过也。此非文王之心乎? 非文王其谁能吟之? 汉高祖以雄才大略取天下,喜仁柔之太子既有羽翼,可以安汉,又悲赵王母子属在吕后,无以自全,故其倚瑟而歌鸿鹄,虽泣下沾襟,而其声慷慨,实有慰藉之色,非汉高之心乎? 非汉高又孰能吟之?

由此观之,同一心也,同一吟也,乃谓"丝不如竹,竹不如肉",何也。夫心同吟同,则自然亦同,乃又谓"渐近自然",又何也。岂非叔夜所谓未达礼乐之情者耶!故曰:"言之不足,故歌咏之;歌咏之不足,故不知手之舞之。"康亦曰:"复之不足,则吟咏以肆志;吟咏之不足,则寄言以广意。"傅仲武《舞赋》云:"歌以咏言,舞以尽意。论其诗不如听其声,听其声不如察其形。"以意尽于舞,形察于声也。由此言之,有声之不如舞声也审矣,尽言之不如尽意又审矣。然则谓手为无声,谓手为不能吟亦可。唯不能吟,故善听者独得其心而知其深也,其为自然何可加者,而孰云其不如肉也耶!

吾又以是观之,同一琴也,以之弹于袁孝尼之前,声何夸也? 以之弹于临绝之际,声何惨也?琴自一耳,心固殊也。心殊则手殊,手殊则声殊,何莫非自然者,而谓手不能二声可乎?而谓彼声 自然,此声不出于自然可乎。故蔡邕闻弦而知杀心,锺子听弦而知 流水,师旷听弦而识南风之不竞,盖自然之道,得手应心,其妙固若 此也。

(卷五)

少室山房笔丛^①(辑录) 明应 麻®

传奇之名,不知起自何代。陶宗仪谓唐为传奇,宋为戏诨,元为杂剧,非也。唐所谓传奇,自是小说书名。裴铏所撰,中如《蓝桥》等记,诗词家至今用之,然什九妖妄寓言也。裴晚唐人,高骈幕客,以骈好神仙,故撰此以惑之。其书颇事藻绘,而体气俳弱,盖晚唐文类尔,然中绝无歌曲乐府,若今所谓戏剧者,何得以传奇为唐名?或以中事迹相类,后人取为戏剧张本,因展转为此称不可知。范文正记岳阳楼,宋人讥曰"传奇体",则固以为文也。

今世俗搬演戏文,盖元人杂剧之变,而元人杂剧之类戏文者, 又金人词说之变也。杂剧自唐、宋、金、元迄明皆有之,独戏文《西厢》作祖。《西厢》出金董解元,然实弦唱小戏之类。至元王、关所撰,乃可登场搬演,高氏一变而为南曲。承平日久,作者迭兴,古昔所谓杂剧院本,几于尽废,仅教坊中存什二三耳。诸野史稗官,纪载率不能详,荐绅先生置而勿论,暇尝综核诸家,颇得其概,漫识于后,好事雅流,或亡讥焉,

优伶戏文,自优孟抵掌孙叔,实始滥觞。汉宦者传,脂粉侍中,亦后世装旦之渐也。魏陈思傅粉墨,椎髻胡舞,诵俳优小说,虽假以逞其豪俊爽迈之气,然当时优家者流,妆束因可概见,而后世所为副净等色,有自来矣。唐制如《霓裳》等舞,度数至多,而名号妆束,不可深考。《乐府杂录》:开元中,黄幡绰、张野狐善弄参军,参

① 据中华书局 1959 年排印本。

② 胡应麟主要活动年代为万历年间(1573-1620)。

军即后世副净也(见《辍耕录》); 范传康、上官唐卿、吕敬迁三人弄假妇人,假妇人即后世装旦也。至后唐庄宗,自傅粉墨,称李天下,大率与近世同,特所搬演,多是杂剧短套,非必如近日戏文也。(观安节《乐府杂录》称假妇人,则知唐时无旦名也。)

古教坊有杂剧而无戏文者。每公家开宴,则百乐具陈。两京 六代,不可备知;唐、宋小说,如《乐府杂录》、《教坊记》、《东京梦 华》、《武林旧事》等,编录颇详。唐制自歌人之外,特重舞队,歌舞 之外,又有精乐器者,若琵琶、羯鼓之属。此外俳优杂剧,不过以供 一笑,其用盖与傀儡不甚相远,非雅士所留意也。宋世亦然。南渡 稍见净旦之目,其用无以大异前朝。浸淫胜国,崔、蔡二传奇迭出, 才情既富,节奏弥工,演习梨园,几半天下,上距都邑,下迄阊阖,每 奏一剧,穷夕彻旦,虽有众乐,亡暇杂陈。此亦古今一大变革,人不 深考耳。

凡传奇以戏文为称也,亡往而非戏也。故其事欲谬悠而亡根也,其名欲颠倒而亡实也,反是而求其当焉,非戏也。故曲欲熟而命以生也;妇宜夜而命以旦也;开场始事而命以末也;涂污不洁而命以净也;凡此咸以颠倒其名也。"中郎"之耳顺而壻卓也;"相国"之绝交而娶崔也:"荆钗"之诡而夫也;"香囊"之幻而弟也;凡此咸以谬悠其事也。由胜国而迄国初一辙,近为传奇者,若良史焉,古意微矣。(古无外与丑,盖丑即副净,外即副末也。)

今优伶辈呼子弟,大率八人为朋,生、旦、净、丑、副亦如之(外即副末,丑即副净)。元院本止五人,故有五花之目。一日副净,即古之参军也;一日副末,又曰苍鹘,苍鹘可击群鸟、犹副末可打副净;一日末泥;一曰孤装;见陶氏《辍耕录》,而无所谓生、旦者,盖院本与杂剧不同也。元杂剧旦有数色,所谓装旦,即今正旦也;小旦,即今副旦也;以墨点破其面,谓之花旦,今惟净丑为之,而元时名妓,成以此取称(如荆坚坚、孔千金、顾山山、天然秀、珠帘秀、李娇

儿类)。又妓李娇儿为温柔旦,张奔儿为风流旦,盖胜国杂剧,装旦 多妇人为之也。(元花旦必与今净丑迥别,故妓人多为之。末泥、孤装未知类今何色,当续考之。)

宋世杂剧名号,惟《武林旧事》是徵,每一甲,有八人者,有五人者。八人者有戏头,有引戏,有次净,有副末,有装旦;五人者第有前四色,而无装旦。盖旦之色目,自宋已有之而未盛,至元杂剧多用妓乐,而变态纷纷矣。以今忆之,所谓戏头即生也,引戏即末也,副末即外也,副净装旦,即与今净旦同,盖杂剧即传奇具体,但短局未舒耳。元院本无生旦者,院本仅供调笑,如唐弄参军之类,与歌曲无大相关也。

《乐府杂录》云:《苏中郎》,后周士人苏葩,嗜酒落魄,自号中郎,每有歌场辄入独舞。今为戏者,著绯戴帽面正赤,盖状其醉也。又有《踏摇娘》、《羊头浑脱》、《九头狮子》、《弄白马》、《益钱》,以至寻撞、跳丸、吐火、吞刀、旋檠、筋斗,悉属此部。又《教坊记》云:《踏摇娘》者,北齐有人姓苏,齁鼻,实不仕,而自号为郎中,嗜饮酗酒,每醉辄殴其妻,妻衔悲诉于邻里。时人弄之,丈夫著妇人衣,徐步人场行歌,每一叠,旁人齐声和之云:"踏摇和来","踏摇娘苦和来"。以其且步且歌,故谓之踏摇;以其称冤,故言苦。及其夫至,则作殴斗之状,以为笑乐。今则妇人为之。案此二事绝类,岂本一事耶,然《杂录》又有《踏摇娘》等,不可深晓。观此,唐世所谓优伶杂剧,妆服节套,大略可见。宋之杂剧,盖亦若斯。元院本但有词无曲,故调第属之歌人,此类以供戏弄而已。至元人曲调大兴,凡诸杂剧,皆名曲寓焉,而教坊名妓,亦多习之,清歌妙舞,悉隶是中,唐、宋诸词,殆于尽废,又一变而瞻缛,遂为南之戏文,而唐、宋所谓杂剧,至元而流为院本,今教坊尚遗习,仅足一笑云。

《武林旧事》所记"社""会"甚伙,以杂剧为"绯绿社",唱赚为 · 296 ·

"退云社",要词为"同文社",清乐为"清音社",小说为"雄辩社",影戏为"绘革社",撮弄为"云机社",吟叫为"律华社"。右八种皆骈集一处者。然当时唱赚之外又有吟叫,要词之外又有小说,不知何以别之。撮弄盖元人院本所从出也。今自戏文外,惟小说、影戏,社、会尚有之。

《西厢记》虽出唐人《莺莺传》,实本金董解元。董曲今尚行世,精工巧丽,备极才情,而字字本色,言言古意,当是古今传奇鼻祖,金人一代文献尽此矣。然其曲乃优人弦索弹唱者,非搬演杂剧也。

董解元见《辍耕录》,明谓金章宗时人,去元世较远,决不能与马、郑辈相及,而涵虚子记元词手,乃有董解元等,岂别一人? 或即金人,以其北调之祖,故引之耶?惜其名字州里皆不可得。且陶著书元末,已谓董曲虽传,能习者少,则金、元腔调,亦自迥不侔矣。

(卷四十一、辛部,《庄嶽委谈》下)

唐音癸籤^①(辑录) 胡東亨®

乐 通 三

琵琶始自乌孙公主造,马上弹之,自下逆鼓曰琵,自上顺鼓曰琵。旧皆用木拨,贞观中裴洛儿始废拨用手,所谓挡琵琶者是也。开元中,贺怀智以鹍鸡筋作弦,用铁拨弹之,而段师善本亦云:"用皮弦拨声如雷。"自后则曹保有子善才,善才有子纲,皆习此艺。次有裴兴奴,与纲同时。曹善运拨,兴奴长拢燃,诗人多咏之者。其琵琶曲调,沈存中云:"怀智有谱,以为八十四调内,黄钟、太簇、林钟三宫声,弦中弹不出,须管色定弦。其余八十一调,皆以此三调为准,更不用管色。元稹诗有'琵琶宫调八十一,三调弦中弹不出',谓此也。"……

(卷十四琵琶曲)

唐善筝者,开元中内人薛琼琼,元和至大和李青青、龙佐,大中以来有常述本及史从、李从周,惟曲名不概见。此则大中中广陵倡崔氏女梦其亡姨灌奴所传者,见《冥音录》。岂亦如琵琶梦授故事,借托之以神其艺也欤?何事之恰符而叠见也?

(卷十四筝曲)

① 据古典文学出版社 1957 年排印本。

② 胡震亨,明末人,1597年(万历丁酉)举于乡。

笛有雅笛、羌笛。唐所尚,殆羌笛也。其乐与觱篥、箫、笳列横吹部者同,有《悲风》、《欢乐树》等四十余曲,见前鼓吹曲内。乃如《关山月》、《折杨柳》、《落梅花》,唐人咏吹笛多用之。而横吹部曲名独亡述者,知当时笛曲尚多人乐署行,用者亦非全耳。玄宗雅好斯乐,传记称其御玉笛为贵妃倚曲者不一事,而其时笛工孙处秀始作犯声,人以新异竞相效习。曲有犯调,则曲益繁多,当不可复纪矣。乃谈者独称李谟。谟尝吹笛江上,寥亮逸发,能使微风飒至,舟人贾客有怨叹悲泣之声,感蛟龙出听,或有之。至谓玄宗按乐上阳,谟傍宫墙窃得其谱(原注:见元稹及张祜诗。稹以谟为长安少年),世岂有天家屋垣,仅如窗隔,能属耳得声调宛悉者哉。考之谟本教坊子弟,隶吹笛第一部,明皇尝召之与永新娘遂曲者。乐谱正所有事,何须窃听。好事者姑为说,诧天上乐不易流传尔。惟谟所论:笛一声出入九息,一叠十二节,一节十二敲;笛材一岁伐,过期伐音窒,末期伐音泛,遇主音必裂;为深得笛理可取。盖谟之外孙许云封为韦刺史应物述云。

(卷十四笛曲)

右散乐有二种,或写象人物谑弄,或逞炫艺绝角剧,并俳优所 肆,非部伍之声。然其陈也,必佐以致语篇,唱优人辞,捷者谓之 "斫拨"。则亦皆乐曲之余,不可遗也,故复识其目以备考。

(卷十四散乐)

《周官》鞮鞻氏掌四夷之乐与其声歌,祭祀及燕飨作之门外,美 德广之所及也。自南北分裂,音乐雅俗不分,西北胡戎之音,揉乱 中华正声。降至周、隋,管弦杂曲多用西凉,鼓舞曲多用龟兹,燕享 九部之乐,夷乐至居其七。唐兴,仍而不改。开元末,甚而升胡部 于堂上,使之坐奏,非惟不能厘正,更扬其波。于是昧禁之音,益流 传乐府,浸渍人心,不可复浣涤矣。今采唐太常所隶夷乐,附于诸 乐曲之后,以俟正乐者考焉。

(卷十四四夷乐)

乐 通 四

古之论乐者,一曰古雅乐,二曰俗乐部,三曰胡部乐。古雅乐更素乱而废,汉世惟采荆、楚、燕、代之讴,稍协律吕,以合八音之调,不复古矣。晋、宋六代以降,南朝之乐多用吴音,北国之乐仅袭夷虏。及隋平江左,魏三祖清商等乐存者什四,世谓为华夏正声,盖俗乐也。时沛国公郑译复因龟兹人白苏、祗婆善胡琵琶而翻七调,遂以制乐。唐人因而用之以定律吕。由是观之,汉世徒以俗乐定雅乐,隋氏以来,则复悉以胡乐定雅乐。唐至玄宗,始以法曲与胡部合奏,夷音夷舞进之堂上,而雅乐之工,以坐、立部伎不堪者充之,过为简贱。至此,宜乎正声沦亡,古乐之不可复矣。(吴莱)

近时乐家,多为新声,其音谱传移,类以新奇相胜,故古曲多不存。顷见一教坊老工言,惟大曲不敢增损,往往犹是唐本,而弦索乐家,守之尤严,言《凉洲》者,谓之"护索",取其音节繁雄;言《六幺》者,谓之"转关",取其声词闲婉。元微之诗云:"《凉州》大遍最豪嘈,《录要》散序名茏撚。""护索"、"转关",岂所谓豪嘈、茏撚者耶。唐起乐皆以丝声竹声,以之合乐,乐家所谓"细抹将来"者是也。故王建《宫词》云:"琵琶先抹《绿腰》头,小管丁宁侧调悠。"近世以管色起乐,而犹存"独抹"之语,盖诵袭弗误尔。(蔡宽夫

旧传《阳关三叠》。然今歌者,每句再叠而已。通一首言之,又 是四叠。皆非是。或每语三唱,以应三叠之说,则丛然无复节奏。 尝得古本《阳关》,其声宛转凄断,不类向之所闻,每句皆再唱,而第 一句不叠。乐天诗云:"相逢且莫推辞醉,听唱《阳关》第四声。"注: "第四声'劝君更尽一杯酒'。"以此验之,若第一句叠,则此句为第 五声;今为第四声,则第一句不叠,审矣。(东坡)

(卷十五叠)

唐人以曲遍中繁声为"人破"。陈氏《乐书》以为曲终者,非也。如《水调歌》凡十一叠,第六叠为"人破",当是曲半调人急促,破其悠长者为繁碎,故名"破"耳。起于天宝间,有此名,卒兆安、史乱,家国破。《五行志》以为非祥兆,然竟不可革云。(遯叟)

(卷十五破)

自古奏乐,曲终更无他变。隋炀帝以清乐雅淡,曲终复加解音,至唐遂多解曲,如《火风》用《移都师》解,《柘枝》用《浑脱》解,《甘州》用《吉了》解,《耶婆娑鸡》用《屈柘》急遍解之类。《古今乐录》云: 伧歌以一句为一解,中国以一章为一解。王僧虔云: 古曰章,今曰解。作诗有丰约,制解有多少。是解本章什通名,非仅言其卒章之乱也。自隋、唐曲终解曲盛行,遂将"解"字当卒章字用;而章解之"解",别称"叠",称"遍",不复更称"解"矣。(遯叟。)

(卷十五解)

听 琴 赋^① 杨 松^②

琴声清,琴声清,兩馀风送晓烟轻。朱户篬前调乳燕,绿杨阴 里啭雏莺。

琴声奇,琴声奇,落花风里杜鹃啼。樵楼晓起数声角,玉笛晚 来三弄吹。

琴声幽,琴声幽,十里芦花鸿雁洲。蟋蟀聒开黄菊绽,鹧鸪啼 破白苹秋。

琴声雅,琴声雅,锦帐罗衾眠绣榻。烛残漏尽滴铜壶,香篆烟 消熏宝鸭。

琴声悲,琴声悲,江边洒泪泣湘妃。殿后昭君辞汉主,帐前项羽别虞姬。

琴声切,琴声切,天阔风停初霁雪。孤鹤唳破楚天云,悲猿号 落关山月。

琴声娇,琴声娇,玉人回梦愁无聊。弄竹扣窗风飒飒,催花滴砌雨潇潇。

琴声雄,琴声雄,轰雷掣电吼狂风。拢碎玉笼飞彩凤,震开金锁走蛟龙。

琴声琴声清耳目,治世正音天下曲。难将千古圣贤心,传向三 尺枯桐木。下指弹须易,人来听却难。夜静瑶琴三五弄,清风动处 夜光寒。除非止是知音听,不是知音不与弹。

① 录自《太古遗音》,据明刊本。

② 杨抡,字鹤浦,金陵人,活动年代在 1609 年(明万历三十七年)前后,也是明代 江派中著名的琴家。

《琴川汇谱》序①严涨®

自古乐湮而琴不传,所传者,声而已。今之声,五音固自谐,而 求之于文,无当也;自三百篇而下,凡可歌咏者,孰非文。而求之于 今之声,无当也;故曰:不传。然琴之妙,发于性灵,通于政术,感人 动物,分刚柔而辨兴替,又不尽在文而在声。何者。试使人诵诗, 雄者未必指发,而肃者未必敛容,惟鼓琴,则宫商分而清和别,郁勃 官而德意通,欲为之平,躁为之释。盖声音之道,微妙圆通,本于文 而不尽干文,声固精干文也。然则谓琴之道未尝不传,亦可。吾独 怪近世一二俗丁,取古文辞,用一字当一声,而谓能声;又取古曲, 随一声当一字,属成俚语,而谓能文。噫! 古乐然乎哉? 盖一字 也,曼声而歌之,则五声殆几平遍,故古乐声一字而鼓不知其凡几, 而欲声字相当,有是理平。适为知音者捧腹耳。予邑名琴川,能琴 者不少,胥刻意于声,而不敢牵合附会于文,故其声多博大和平,具 轻重疾徐之节,即工拙不齐,要与俗工之卑琐靡靡者悬殊。予游京 师,遇大韶沈君,称一时琴师之冠,气调与琴川诸士合,而博雅过 之。予因以沈之长、辅琴川之遗、亦以琴川之长、辅沈之遗、而琴川 诸社友,遂与沈为神交,一时琴道大振,尽奥妙,抒郁滞,上下累应, 低昂相错, 更唱迭和, 随兴致妍。奏"洞天"而俨霓旌绛节之观; 调 "溪山"而生寂历幽人之想; 抚《长清》而发风疏木劲之思; 鼓《涂山》

① 录自《松弦馆琴谱》。

② 严徵,字道澈,号天池,常熟人。其父严讷曾为明代宰相,他自己也做过邵武知府。明万历(1573-1619)年间,在其家乡虞山(常熟)集中了陈星沅等琴家,组织了"琴川琴社",号称"虞山宗派",极力官扬其"清、微、澹、雅"的主张。

而觏玉帛冠裳之会; 弄《潇湘》则天光云影,容与徘徊; 游《梦蝶》则神化希微,出无人有,至若《高山》意到,郁净冈崇,《流水》情深,弥漫波逝,以斯言乐,奚让古人? 又奚必强合以不经之文,浪诮为无本之声哉? 予每静而听之,辄怡然忘倦,自以为游世羲皇。甲辰岁,予祗役邵武,更三年归,而社友之谱成矣。予谓诸社友曰: 是足嘉惠将来,若夫循声合文,以进于古之乐,则俟有道者。

大还阁琴谱® 徐上瀛®

谿 山 琴 况

一日"和"

稽古至圣,心诵浩化,德协神人,理一身之性情,以理天下人之 性情,于是制之为琴。其所首重者,和也。和之始,先以正调,品 弦,循微,叶声:辨之在指,审之在听,此所谓以和感,以和应也。和 也者,其众音之籨会,而优柔平中之橐籥乎,论和以散和为上,按和 为次。散和者,不按而调。右指控弦,迭为宾主,刚柔相剂,损益相 加,是谓至和。按和者,左按右抚,以九应律,以十应吕,而音乃和 于徽矣。设按有不齐,徽有不准,得和之似,而非真和,必以泛音辨 之。如泛尚未和,则又用按复调,一按一泛,互相参究,而弦始有真 和。吾复求其所以和者三,日弦与指合,指与音合,音与意合,而和 至矣。夫弦有性,欲顺而忌逆,欲实而忌虚。若绰者注之,上者下 之,则不顺;按未重,动未坚,则不实。故指下过弦,慎勿松起,弦上 迎指,尤欲无迹,往来动宕,恰如胶漆,则弦与指和矣。音有律,或 在徽,或不在徽,固有分数以定位,若混而不明,和于何出。篇中有 度,句中有候,字中有肯,音理其微,若紊而无序,和又何生。究心 于此者,细辨其吟猱以叶之,绰注以适之,轻重缓急以节之,务令宛 转成韵, 曲得其情, 则指与音和矣。音从意转, 意先平音, 音随平

据清刊本。

② 徐上瀛,又名谼,别号青山,太仓人。明万历(1573—1619)年间,曾从严徵、沈太韶、张渭川等人研讨,是明末虞山派的著名琴家。

意,将众妙归焉。故欲用其意,必先练其音;练其音,而后能洽其意。如右之抚也,弦欲重而不虚,轻而不鄙,疾而不促,缓而不弛;左之按弦也,若吟若猱,圆而无碍,吟��欲治好,而中无阻滞。以绰以注,定而可伸,言绰注甫定,而或再引伸。纡回曲折,疏而实密,抑扬起伏,断而复联;此皆以音之精义,而应乎意之深微也。其有得之弦外者,与山相映发,而巍巍影现;与水相涵濡,而洋洋徜恍;暑可变也,虚堂疑雪;寒可回也,草阁流春。其无尽藏,不可思议,则音与意合,莫知其然而然矣。要之神闲气静,蔼然醉心,太和鼓鬯,心手自知,未可一二而为言也。太音希声,古道难复。不以性情中和相遇,而以为是技也,斯愈久而愈失其传矣。

一日"静"

抚琴卜静处亦何难,独难于运指之静。然指动而求声,恶乎得静? 余则曰: 政在声中求静耳。声厉则知指躁,声粗则知指浊,声希则知指静,此审音之道也。盖静繇中出,声自心生,苟心有杂扰,手有物挠,以之抚琴,安能得静? 惟涵养之士,淡泊宁静,心无尘翳,指有馀闲,与论希声之理,悠然可得矣。所谓希者,至静之极,通乎杳渺,出有人无,而游神于羲皇之上者也。约其下指功夫,一在调气,一在练指。调气则神自静,练指则音自静。如燕妙香者,含其烟而吐雾;涤蚧茗者,荡其浊而泻清。取静音者亦然。雪其躁气,释其竞心,指下扫尽炎嚣,弦上恰存贞洁,故虽急而不乱,多而不繁,渊深在中,清光发外,有道之士,当自得之。

一日"清"

语云"弹琴不清,不如弹筝。"言失雅也。故清者,大雅之原本, 而为声音之主宰。地不僻,则不清。琴不实,则不清。弦不洁,则 不清。心不静,则不清。气不肃,则不清。皆清之至要者也,而指 上之清尤为最。指求其劲,按求其实,则清音始出。手不下徽,弹 不柔懦,则清音并发。而又挑必甲尖,弦必悬落,则清音益妙。两 手如鸾凤和鸣,不染纤毫浊气,厝指如敲金戛石,傍弦绝无客声,此则练其清骨,以超乎诸音之上矣。究夫曲调之清,则最忌连连弹去,亟亟求完,但欲热闹娱耳,不知意趣何在,斯则流于浊矣。故欲得其清调者,必以贞静宏远为度,然后按以气候,从容宛转,候宜逗留,则将少息以俟之;候宜紧促,则用疾急以迎之。是以节奏有迟速之辨,吟猱有缓急之别。章句必欲分明,声调愈欲疏越,皆是一度一候,以全其终曲之雅趣。试一听之,则澄然秋潭,皎然寒月, 潜然山涛, 幽然谷应。始知弦上有此一种清况, 真令人心骨俱冷, 体气欲仙矣。

一日"远"

远与迟似,而实与迟异。迟以气用,远以神行。故气有候,而神无候。会远于候之中,则气为之使。达远于候之外,则神为之君。至于神游气化,而意之所之,玄之又玄。时为岑寂也,若游峨嵋之雪;时为流逝也,若在洞庭之波。倏缓倏速,莫不有远之微致。葢音至于远,境入希夷,非知音未易知,而中独有悠悠不已之志。吾故曰"求之弦中如不足,得之弦外则有馀也。"

一日"古"

《乐志》曰:"琴有正声,有间声。其声正直和雅,合于律吕,谓之正声,此雅颂之音,古乐之作也。其声间杂繁促,不协律吕,谓之间声,此郑卫之音,俗乐之作也。雅颂之音理,而民正。郑卫之曲动,而心淫。然则如之何而可就正乎,必也黄钟以生之,中正以平之,确乎郑卫不能人也。"按此论,则琴固有时古之辨矣!大都声争而媚耳者,吾知其时也。音澹而会心者,吾知其古也。而音出于声,声先败,则不可复求于音。故媚耳之声,不特为其疾速也,为其远于大雅也。会心之音,非独为其延缓也,为其沦于俗响也。俗响不人,渊乎大雅,则其声不争,而音自古矣。然粗率疑于古朴,疏慵疑于冲澹,似超于时,而实病于古。病于古与病于时者奚以异,必

融其粗率,振其疏慵,而后下指不落时调。其为音也,宽裕温庞,不事小巧,而古雅自见,一室之中,宛在深山邃谷,老木寒泉,风声簌簌,令人有遗世独立之思,此能进于古者矣。

一日"澹"

弦索之行于世也,其声艳而可悦也。独琴之为器,焚香静对,不入歌舞场中。琴之为音,孤高岑寂,不杂丝竹伴内,清泉白石,皓月疏风,翛翛自得,使听之者,游思缥缈,娱乐之心,不知何去,斯之谓澹。舍艳而相遇于澹者,世之高人韵士也。而澹固未易言也,袪邪而存正,黜俗而还雅,舍媚而还淳,不着意于澹,而澹之妙自臻。夫琴之元音,本自澹也。制之为操,其文情冲乎澹也。吾调之以澹,合乎古人,不必谐于众也。每山居深静,林木扶苏,清风人弦,绝去炎嚣,虚徐其韵,所出皆至音,所得皆真趣,不禁怡然吟赏,喟然云:吾爱此情,不絿不竞。吾爱此味,如雪如冰。吾爱此响,松之风而竹之雨,确之滴而波之涛也。有寤寐于澹之中而已矣。

一曰"恬"

诸声澹,则无味。琴声澹,则益有味。味者何? 恬是已。味从气出,故恬也。夫恬不易生,澹不易到,唯操至妙来则可澹,澹至妙来则生恬,恬至妙来则愈澹而不厌。故于兴到而不自纵,气到而不自豪,情到而不自扰,意到而不自浓。及睨其下指也,具见君子之质,冲然有德之养,绝无雄竞柔媚态。不味而味,则为水中之乳泉;不馥而馥,则为蕊中之兰茝。吾于此参之,恬味得矣。

一曰"逸"

先正云:以无累之神,合有道之器,非有逸致者,则不能也。第 其人必具超逸之品,故自发超逸之音。本从性天流出,而亦陶冶可 到。如道人弹琴,琴不清亦清。朱紫阳曰:"古乐虽不可得而见,但 诚实人弹琴,便雍容平淡,故当先养其琴度,而次养其手指,则形神 并洁,逸气渐来,临缓则将舒缓而多韵,处急则犹运急而不乖,有一 种安闲自如之景象,尽是潇洒不群之天趣。所为得之心,而应之手;听其音,而得其人,此逸之所徵也。

一曰"雅"

古人之于诗则曰风雅,于琴则曰大雅。自古音沦没,即有继空谷之响,未免郢人寡和,则且苦思求售,去故谋新,遂以弦上作琵琶声,此以雅音而翻为俗调也。惟真雅者不然。修其清静贞正,而藉琴以明心见性。遇不遇,听之也,而在我足以自况。斯真大雅之归也。然琴中雅俗之辨,争在纤微。喜工柔媚则俗,落指重浊则俗,性好炎闹则俗,指拘局促则俗,取音粗厉则俗,入弦仓卒则俗,指法不式则俗,气质浮躁则俗,种种俗态,未易枚举。但能体认得静、远、澹、逸四字,有正始风,斯俗情悉去,臻于大雅矣。

一目"丽"

丽者,美也。于清静中发为美音。丽从古澹出,非从妖冶出也。若音韵不雅,指法不隽,徒以繁声促调,触人之耳,而不能感人之心,此媚也,非丽也。譬诸西子,天下之至美,而具有冰雪之姿,岂效颦者可与同日语哉。美与媚,判若秦越,而辨在深微,审音者当自知之。

一日"亮"

音渐入妙,必有次第。左右手指既造就清实,出有金石声,然后可拟一亮字。故清后取亮,亮发清中,犹夫水之至清者,得日而益明也。唯在沉细之际,而更发其光明,即游神于无声之表,其音亦悠悠而自存也,故曰亮。至于弦声断而意不断,此政无声之妙,亮又不足以尽之。

一曰"采"

音得清与亮,既云妙矣,而未发其采,犹不足表其丰神也。故 清以生亮,亮以生采,若越清亮而即欲求采,先后之功舛矣。盖指下 之有神气,如古玩之有宝色。商彝周鼎自有暗然之光,不可掩抑, 岂易致哉? 经几煅炼,始融其粗迹,露其光芒。不究心音义,而求精神发现,不可得也。

一目"洁"

贝经云:"若无妙指,不能发妙音。"而坡仙亦云:"若言声在指头上,何不于君指上听。"未始是指,未始非指。不即不离,要言妙道,固在指也。修指之道,繇于严净,而后进于玄微。指严净则邪滓不容留,杂乱不容间,无声不涤,无弹不磨,而祗以清虚为体,素质为用。习琴学者,其初唯恐其取音之不多,渐渐陶熔,又恐其取音之过多。从有而无,因多而寡,一尘不染,一滓弗留,止于至洁之地,此为严净之究竟也。指既修洁,则取音愈希。音愈希,则意趣愈永。吾故曰:欲修妙音者,本于指。欲修指者,必先本于洁也。

一日"润"

凡弦上之取音,惟贵中和。而中和之妙用,全于温润呈之。若手指任其浮躁,则繁响必杂,上下往来,音节俱不成其美矣。故欲使弦上无煞声,其在指下求润乎,盖润者,纯也,泽也,所以发纯粹光泽之气也。左芟其荆棘,右熔其暴甲,两手应弦,自臻纯粹。而又务求上下往来之法,则润音渐渐而来。故其弦若滋,温兮如玉,泠泠然满弦皆生气氤氲,无毗阳毗阴偏至之失,而后知润之之为妙,所以达其中和也。古人有以名其琴者,曰"云和"、曰:"冷泉",倘亦润之意乎?

一日"圆"

五音活泼之趣,半在吟猱。而吟猱之妙处,全在圆满。宛转动荡,无滞无碍,不少不多,以至恰好,谓之圆。吟猱之巨细缓急,俱有圆音。不足,则音亏缺;大过,则音支离;皆为不美。故琴之妙在取音。取音宛转则情联,圆满则意吐。其趣如水之兴澜,其体如珠之走盘,其声如哦咏之有韵,斯可以名其圆矣。抑又论之,不独吟猱贵圆,而一弹一按一转一折之间,亦自有圆音在焉。如一弹而获

中和之用,一按而凑妙合之机,一转而函无痕之趣,一折而应起伏之微,于是欲轻而得其所以轻,欲重而得其所以重,天然之妙,犹若水滴荷心,不能定拟,神哉圆乎!

一日"坚"

古语云:"按弦如入木",形其坚而实也。大指坚易,名指坚难。 若使中指帮名指,食指帮大指,外虽似坚,实胶而不灵。坚之本,全 凭筋力。必一指卓然立于弦中,重如山岳,动如风发,清响如击金 石,而始至音出焉。至音出,则坚实之功到矣。然左指用坚,右指 亦必欲清劲,乃能得金石之声。否则抚弦柔懦,声出委靡,则坚亦 浑浑无取,故知坚以劲合,而后成其妙也。况不用帮,而参差其指, 行合古式,即得体势之美,不爽文质之宜,是当循循练之,以至用力 不觉,则其坚亦不可窥也。

一日"宏"

调无大度,则不得古,故宏音先之。葢琴为清庙明堂之器,声调宁不欲廓然旷远哉。然旷远之音,落落难听,遂流为江湖习派,因致古调渐违,琴风愈浇矣。若余所受则不然。其始作也,当拓其冲和闲雅之度,而猱绰之用,必极其宏大。葢宏大则音老,音老则人古也。至使指下宽裕纯朴,鼓荡弦中,纵指自如,而音意欣畅疏越,皆自宏大中流出。但宏大而遗细小,则其情未至。细小而失宏大,则其意不舒。理固相因,不可偏废。然必胸次磊落,而后合乎古调,彼局曲拘挛者,未易语此。

一日"细"

音有细眇处,乃在节奏间。始而起调,先应和缓,转而游衍,渐欲入微,妙在丝毫之际,意存幽邃之中。指既缜密,音若茧抽,令人可会而不可即,此指下之细也。至章句转折时,尤不可草草放过,定将一段情绪,缓缓拈出,字字摹神。方知琴音中有无限滋味,玩之不竭,此终曲之细也。昌黎诗:"昵昵儿女语,恩怨相尔汝。划然

变轩昂,勇士赴敌场。"其宏细互用之意欤?往往见初入手者,一理琴弦,便忙忙不定。如一声中,欲其少停一息而不可得;一句中,欲 其委宛一音而亦不能。此以知节奏之妙,未易轻论也。葢运指之 细在虑周,全篇之细在神远。斯得细之大旨者矣。

一日"溜"

溜者,滑也,左指治涩之法也。音在缓急,指欲随应,苟非握其 滑机,则不能成其妙。若按弦虚浮,指必柔懦,势难于滑。或着重 滞,指复阻碍,尤难于滑。然则何法以得之。惟是指节炼至坚实, 极其灵活,动必神速,不但急中赖其滑机,而缓中亦欲藏其滑机也。 故吟猱绰注之间,当若泉之滚滚,而往来上下之际,更如风之发发。 刘随州诗云"溜溜青丝上,静听松风寒。"其斯之谓乎。然指法之欲 溜,全在筋力运使。筋力既到,而用之吟猱则音圆;用之绰注上下 则音应;用之迟速跌宕则音活。自此精进,则能变化莫测,安往而 不得其妙哉!

一日"健"

琴尚冲和大雅。操慢音者,得其似而未真。愚故提一健字,为导滞之砭。乃于从容闲雅中,刚健其指。而右则发清冽之响,左则练活泼之音,斯为善也。请以健指复明之。右指靠弦,则音钝而木,故曰"指必甲尖,弦必悬落。",非藏健于清也耶! 左指不劲,则音胶而格,故曰"响如金石,动如风发",非运健于坚也耶! 要知健处,即指之灵处,而冲和之调,无疏慵之病矣。滞气之在弦,不有不期去而自去者哉。

一日"轻"

不轻不重者,中和之音也。起调当以中和为主,而轻重特损益之,其趣自生也。葢音之取轻,属于幽情,归乎玄理,而体曲之意,悉曲之情,有不期轻而自轻者。第音之轻处最难,工夫未到,则浮而不实,晦而不明,虽轻亦未合。惟轻之中,不爽清实,而一丝一

忽. 指到音绽, 更飘隰鲜朗, 如落花流水, 幽趣无限。乃有一节一句之轻, 有间杂高下之轻, 种种意趣, 皆贵清实中得之耳。 要知轻不浮, 轻中之中和也。 重不煞, 重中之中和也。 故轻重者, 中和之变音。而所以轻重者, 中和之正音也。

一日"重"

诸音之轻者,业属乎情。而诸音之重者,乃繇乎气。情至而轻,气至而重,性固然也。第指有重轻,则声有高下。而幽微之后,理宜发扬。倘指势太猛,则露杀伐之响;气盈胸臆,则出刚暴之声。惟练指养气之士,则抚下当求重抵轻出之法,弦上自有高朗纯粹之音,宜扬和畅,疏越神情,而后知用重之妙,非浮躁乖戾者之所比也。故古人抚琴,则曰:"弹欲断弦,按如人木。"此专言其用力也,但妙在用力不觉耳。夫弹琴至于力,又至于不觉,则指下虽重如击石,而毫无刚暴杀伐之疚,所以为重欤。及其鼓宫叩角,轻重间出,则岱岳江河,吾不知其变化也。

一日"迟"

古人以琴能涵养情性,为其有太和之气也,故名其声曰"希声"。未按弦时,当先肃其气,澄其心,缓其度,远其神,从万籁俱寂中,冷然音生;疏如寥廓,管若太古,优游弦上,节其气候,候至而下,以叶厥律者,此希声之始作也。或章句舒徐,或缓急相间,或断而复续,或幽而致远,因候制宜,调古声澹,渐入渊源,而心志悠然不已者,此希声之引伸也。复探其迟之趣,乃若山静秋鸣,月高林表,松风远沸,石涧流寒,而日不知晡,夕不觉曙者,此希声之寓境也。严天池诗:"几回拈出阳春调,月满西楼下指迟。"其于迟意大有得也。若不知气候两字,指一入弦,惟知忙忙连下,迨欲放慢,则竟索然无味矣。深于气候,则迟速俱得,不迟不速亦得,岂独一迟尽其妙耶!

一曰"速"

指法有重则有轻,如天地之有阴阳也;有迟则有速,如四时之有寒暑也。盖迟为速之纲,速为迟之纪,尝相间错而不离。故句中有迟速之节,段中有迟速之分,则皆藉一速以接其迟之候也。然琴操之大体,固贵乎迟。疏疏澹澹,其音得中正和平者,是为正音,《阳春》《佩兰》之曲是也。忽然变急,其音又系最精最妙者,是为奇音,《雉朝飞》《乌夜啼》之操是也。所谓正音备而奇音不可偏废,此之为速。拟之于似速而实非速,欲迟而不得迟者,殆相径庭也。然吾之论速者二:有小速,有大速。小速微快,要以紧紧,使指不伤速中之雅度,而恰有行云流水之趣。大速贵急,务令急而不乱,依然安闲之气象,而能泻出崩崖飞瀑之声。是故速以意用,更以意神。小速之意趣,大速之意奇。若迟而无速,则以何声为结构。速无大小,则亦不见其灵机。故成连之教伯牙于蓬莱山中,群峰互峙,海水崩折,林木窅冥,百鸟哀号。曰:"先生将移我情矣"。后子期听其音,遂得其情于山水。噫!精于其道者,自有神而明之之妙,不待缕悉,可以按节而求也。

"选曲标准"

- 一选正雅之音
- 一选古淡之音
- 一选和润之音
- 一选清丽之音

•••••

(凡例)

方 诸 馆 曲 律^①(辑录) 王骥 &®

论 腔 调

乐之筐格在曲,而色泽在唱。古四方之音不同,而为声亦异,于是有秦声,有赵曲,有燕歌,有吴歈,有越唱,有楚调,有蜀音,有蔡讴。在南曲则但当以吴音为正。古之语唱者曰: 当使声中无字;谓字则喉、唇、齿、舌等音不同,当使字字轻圆,悉融入声中,令转换处无磊块,古人谓之"如贯珠",今谓之"善过度"是也。又曰: 当使字中有声,谓如宫声字,而曲合用商声,则能转宫为商歌之也。又曰: 有声多字少,谓唱一声,而高下抑扬,宛转其音,若包裹数字其间也。有字多声少,谓抡带顿挫得好,字虽多如一声也。又云: 善歌者谓之内里声,不善歌者,声无抑扬,谓之"念曲"; 声无含韫,谓之"叫曲"。

.....

夫南曲之始,不知作何腔调,沿至于今,可三百年。世之腔调,每三十年一变,由元迄今,不知经几变更矣。大都创始之音,初变腔调,定自浑朴,渐变而之婉媚,而今之婉媚极矣! 旧凡唱南调者,皆曰"海盐",今"海盐"不振,而曰"昆山"。"昆山"之派,以太仓魏良辅为祖。今自苏州而太仓、松江,以及浙之杭、嘉、湖,声各小变,

① 据《全国声乐教学会议参考资料》傅惜华编《古典戏曲声乐论著丛编》所收节本。

② 王骥德,约明万历、天启(1573—1627)年间人,《方诸馆曲律》原刻本刻于 1625 年(天启五年)。

腔调略同,惟字泥土音,开闭不辨,反讥越人呼字明确者为"浙气", 大为词隐所疵,详见其所著《正吴编》中。……然其腔调,故是南曲 正声。数十年来,又有"弋阳"、"义乌"、"青阳"、"徽州"、"乐平"诸 腔之出。今则"石台"、"太平",梨园几遍天下,苏州不能与角什之 二三。其声淫哇妖靡,不分调名,亦无板眼,又有错出其间,流而为 "两头蛮"者,皆郑声之最。而世争羶趋痂好,靡然和之,甘为大雅 罪人。世道江河,不知变之所极矣。

论 板 眼

古无拍,魏晋之代有宋纤者,善击节,始制为拍。古用九板,今 六板或五板。古拍板无谱, 唐明皇命黄番绰始造为之。牛僧孺目 拍板为"乐句",言以句乐也。盖凡曲,句有长短,字有多寡,调有紧 慢,一视板以为节制,故谓之"板眼"。初启声即下者,为"实板",又 日"劈头板"(遇紧调,随字即下;细调,亦俟声出徐徐而下);字半下 者,为"掣板",亦曰"枵板"(盖腰板之误); 声尽而下者,为"截板", 亦曰"底板";场上前一人唱前调末一板,与后一人唱次调初一板齐 下,为"合板"。其板失于曲者,病曰"促板";板后于曲者,病曰"滞 板"; 古皆谓之"森(音祈)拍", 言不中拍也。唐《霓裳羽衣曲》, 初散 声六遍无拍,至中序始有拍。今引曲无板,过曲始有板,盖其遗法。 古今之腔调既变,板亦不同,于是有古板、新板之说。词隐于板眼, 一以反古为事。其言谓: 清唱, 则板之长短任意按之, 试以鼓板夹 定,则锱铢可辨。又言:古腔古板,必不可增损,歌之善否,正不在 增损腔板间。又言:板必依清唱,而后为可守;至于搬演,或稍揭益 之,不可为法。具属名言。其所点板《南词韵选》,及《唱曲当知南 九宫谱》,皆古人程法所在,当慎遵守。闻之先辈,有"传腔递板"之 法,以数人暗中围坐,将旧曲每人歌一字,即以板轮流递按,令数人

曲 品①(辑录) 吕天成③

自昔伶人传习,乐府递兴,爨段初翻,院本继出,金元创名杂剧,国初演作传奇。杂剧北音,传奇南调。杂剧折惟四,唱止一人;传奇折数多,唱必匀派。杂剧但摭一事颠末,其境促;传奇备述一人始终,其味长。无杂剧则孰开传奇之门,无传奇则未畅杂剧之趣也。传奇既盛,杂剧寝衰。北里之管弦,播而不远;南方之鼓吹,簇而弥喧。国初名流,曲识甚高,作手独异,造曲腔之名目,不下数百;定曲板之长短,不淆二三。乍见宁不骇疑,习久自当遵服,所谓规矩设矣,方员因之。数其人,有大家名家之别;按其帙,有极老半旧之分。赏其绝技,则描画世情,或悲或笑;存其古风,则凑拍常语,易晓易闻。有意驾虚,不必与实事合;有意近俗,不必作绮丽观。不寻宫数调而自解其敬,不就拍选声而自鸣其籁,质朴而不以为俚、肤浅而不以为疏。商彝周鼎,古色照人,元酒太羹,真味沁齿,先辈钜公,多能讽咏,吴下俳优,尤喜掇串。予虽不尊古而卑今,然须溯源而得委,仿之《诗品》,略加诠次,作旧书传奇品。……

(卷上)

博观传奇,近时为盛,大江左右,骚雅沸腾,吴浙之间,风流掩映。第当行之手不多遇,本色之义未讲明。当行兼论作法,本色只指填词。当行不在组织饾飣学问,此中自有关节局概,一毫增损不得,若组织,正以蠹当行。本色不在摹勒家常语言,此中别有机神

① 据北京大学出版部所印吴梅校勘本。

② 吕天成别署郁兰生,明末人。

情趣,一毫妆点不来,若摹勒,正以他本色。今人不能融会此旨,传 奇之派遂判为二。一则工藻缋,少拟当行;一则袭朴澹,以充本色, 甲鄙乙为寡文,此嗤彼为丧质。殊不知果属当行,则句调必多本 色:果其本色,则境态必是当行。今人窃其似而相敌也,而吾则两 收之。即不当行,其华可撷;即不本色,其朴可风。进而有宫词之 学,类以相从,声中缓急之节,纷以错出,词多确戾之音,难欺师旷 之听,草招公瑾之顾,按谱取给,故自无难,涿套注明,方为有绪。 又进而韵音平仄之学, 句必一韵而始协, 声必迭置而后谐, 响落梁 尘,歌翻扇底,味者不少,解者渐多。又进而有八声阴阳之学,吹以 天籁, 协平元声, 律吕所以相宜, 神人用以允翕, 抑扬高下, 发调俱 圆, 清浊宫商, 辨音最妙。此韵学之钜典, 曲部之秘传, 柳城顾其 端,方诸阐其教。必究斯义,厥道乃精,考之今人,褒如充耳。《广 陵散》已落人间,《霓裳曲》重翻天上,后有作者,不易吾言矣。嗟 乎! 才豪如雨,持论不得太苛; 曲广如林,抡收何忍过隘。僭分九 等,开列左方。入吾品者,可许流传;轶吾品者,自惭腐秽,作新传 奇品。

(卷上)

传奇定品,颇费筹量,不无褒贬,盖总出一人之手,时有工拙,统观一帙之中,间有长短,故律以一法则吐弃者多,收以岐途则阑人者杂,其难其慎,此道亦然。我舅祖孙司马公谓予曰:凡南剧,第一要事佳;第二要悦目;第三要搬出来好;第四要按宫商.协音律;第五要使人易晓;第六要词采;第七要善敷衍,淡处做得浓,闲处做得热闹;第八要各脚色派得勾妥;第九要脱套;第十要合世情,关风化。持此十要,以衡传奇,靡不当矣。但今作者辈起,无能集乎大成,十得六者便为玑璧,十得四五者亦称翘楚,十得二三者即非祗砆,具只眼者试共评之。括其门数,大约有六:一曰忠孝;一曰节

义;一曰风情;一曰豪侠;一曰功名;一曰仙佛。元剧门类甚多,南戏止此矣。

(卷下)

度曲须知①(辑录) 沈宠绥®

序 言

六律、五声、八音何昉平。 昉天地之自然也。 自然者, 为干莫 为,行所不得行,古圣因而律吕之,声歌之。格帝感神,官风导化, 象德昭功,非此无藉。故季子观鲁,十五国之风历然;尼父闻齐,千 余年之盛如睹;非神妙无方,其能尔平。汉魏以降,道丧乐崩,声音 之道荒矣。然《房中》之曲,郊庙之乐,犹存十一于千百。乐府诸 篇.盖其遗音乎? 自时厥后,变声代作,繁响竞臻。帝王称知音者, 唐玄宗、南唐后主、宋道君、金意宗,其班班也。 干时伶人乐工,无 不极意尽妍,播为新声,然按之鲜不协律者。声之有律,其诸刑法 之金科玉条平。陈隋以前,肇名为曲,王令言听翻调《安公子》曲, 惊其往而不返; 王右丞见度曲图, 知为《霓裳羽衣》第二拍, 固由神 解,亦岂非曲有常均耶。特古调不传,今可考者,"清平"三调。旗 享四绝,大都即诗为曲,才人一章脱手,乐部即登管弦,居然风雅独 绝。嗣乃短长其体,号为诗余,亦称填词,有宋最盛。沿及胜国,遂 以制科取十,格律惟严,情才咸集,用以笙簧一代,鼓吹千载,安得 不于今为烈哉。院本有南北二种,六宫十一调,初无异格,特南无 唱,北无歌,不得不分胡越。吾吴魏良辅,审音而知清独,引声而得 阴阳,爰是引商刻羽,循变合节,判毫杪于翕张,别玄微于高下,海 内翕然宗之。顾鸳鸯绣出,金针未度,学者见为然,不知其所以然。

① 据傳惜华编《古典戏曲声乐论著从编》。

② 沈宠绥明末人。本书序言末署崇祯己卯,为 1639 年。

习舌拟声,沿流忘初,或声乖于字,或调乖于义,刻意求工者,以过 泥失真; 师心作解者,以臆断遗理。予有慨焉。小窗多暇,聊一拈出,一字有一字之安全,一声有一声之美好,顿挫起伏,俱轨自然, 天壤元音,一线未绝,其在斯乎? 其在斯乎! 世有秦青、薛谭,将无 嗤予强作晓事。亦曰消我长夏,公彼同好云尔。崇祯己卯夏杪、松 陵沈宠绥书于不棹游馆。

曲运隆衰

粤徵往代,各有专至之事以传世,文章矜秦汉,诗词美宋唐,曲 剧侈胡元。至我明则八股文字姑无置喙,而名公所制南曲传奇,方 今无虑充栋,将来未可穷量,是真雄绝一代,堪传不朽者也。顾曲 肇自三百篇耳。《风》、《雅》变为五言、七言,诗体化为南词、北剧。 自元人以填词制科,而科设十二,命题惟是韵脚以及平平仄仄谱 式,又隐厥牌名,俾举子以意揣合,而敷平配仄,填满词章。折凡有 四,如试牍然。合式则标甲榜,否则外孙山矣。夫当年磨穿铁砚, 斧削萤窗,不减今时帖括,而南词惟寥寥几曲,所云院本北剧者,果 堪纪量乎哉? 且词章既夥,演唱尤工,凡偷吹、待拍诸节奏,顶誊、 躲换,以及萦纡、牵绕诸调格,推敲罔不备至,而优伶有戾家把戏, 子弟有一家风月,歌风之胜,往代未之有踰也。明兴,乐惟式古,不 祖夷风,程士则《四书》《五经》为式,选举则七义三场是较,而伪代 填词往习,一扫去之。虽词人间踵其辙,然世换声移,作者渐寡,歌 者寥寥,风声所变,北化为南,名人才子,踵《琵琶》《拜月》之武,竞以 传奇鸣: 曲海词山,于今为烈。而词既南,凡腔调与字面俱南,字则 宗《洪武》而兼祖《中州》,腔则有"海盐"、"义乌"、"弋阳"、"青阳"、 "四平"、"乐平"、"太平"之殊派。虽口法不等,而北气总已消亡矣。 嘉隆间有豫章魏良辅者,流寓娄东鹿城之间,生而审音,愤歯曲之 讹陋也,尽洗乖声,别开堂奥,调用"水磨",拍捱"冷板",声则平上 去人之婉协,字则头腹尾音之毕匀,功深熔琢,气无烟火,启日轻 圆,收音纯细。所度之曲,则皆《折梅逢使》、《昨夜春归》诸名笔:采 之传奇,则有"拜星月""花阴夜静"等词。要皆别有唱法,绝非戏场 声口,腔臼"昆腔",曲名"时曲",声场禀为曲圣,后世依为鼻祖,盖 自有良辅,而南词音理已极抽秘逞妍矣。惟是北曲元音,则沉阁既 久,古律弥湮,有牌名而谱或草考,有曲谱而板或无征,抑或有板有 谱,而原来腔格若务头、颠落,种种关捩子,应作如何摆放,绝无理 会其说者。试以南词喻之,如《集贤宾》中,则有"伊行短"与"休笑 耻"两曲,皆是低腔;《步步娇》中,则有"仔细端详"与"愁病无情"两 词,同揭高调,而此等一成格律,独于北词为缺典。祝枝山,博雅君 子也, 犹叹四十年来接宾友, 鲜及古律者。 何元 朗亦忧更数世后, 北曲必且失传。而音随泽斩,可慨也夫。至如"弦索"曲者,俗固呼 为"北调", 然腔嫌嬝娜, 字涉土音, 则名北而曲不真北也。年来业 经厘别, 顾亦以字清腔径之故, 渐近"水磨", 转无北气, 则字北而曲 岂尽北哉。试观同一《恨漫漫》曲也,而弹者仅习弹音,反不如演者 别成演调:同一《端正好》牌名也,而弦索之"碧云天",与优场之"不 念《法华经》",声情逈判,虽净旦之唇吻不等,而格律固已径庭矣! 夫然,则北剧遗音,有未尽消亡者,疑尚留于优者之口。盖南词中 每带北调一折,如《林冲投泊》、《萧相追贤》、《虬髯下海》、《子胥自 刎》之类,其词皆北。当时新声初改,古格犹存,南曲则演南腔,北 曲固仍北调,口口相传,灯灯递续,胜国元声,依然滴派。虽或精华 已铄,顾雄劲悲壮之气,犹令人毛骨萧然,特恨词家欲便优伶演唱, 止《新水令》、《端正好》几曲,彼此约略相同,而未惯牌名,如原谱所 列,则骚人绝笔,伶人亦绝口焉。予犹疑南土未谙北调,失之江以 南,当留之河以北,乃历稽彼俗,所传大名之《木鱼儿》,彰德之《木 斛沙》,陕右之《阳关三叠》,东平之《木兰花慢》,若调若腔,已莫可

得而问矣。惟是散种如《罗江怨》、《山坡羊》等曲,被之纂、筝、浑不似(即今之琥珀词)诸器者,彼俗尚存一二,其悲凄慨慕,调近于商;惆怅雄激,调近正宫。抑且丝扬则肉乃低应,调揭则弹音愈渺,全是子母声巧相鸣和;而江左所习《山坡羊》,声情指法,罕有及焉。虽非正音,仅名"侉调",然其怆怨之致,所堪舞潜蛟而泣嫠妇者,犹是当年逸响云。还忆十七宫调之剧本,如汉卿所谓"我家生活,当行本事",其音理超越,宁仅仅梨园口吻已哉! 惜乎! 舞长袖者,靡于唐,至宋而几绝; 工短剧者,靡于元,入我明而几绝。律残声冷,亘古无征,当亦骚人长恨也夫!

(上卷)

弦索题评

我吴自魏良辅为"昆腔"之祖,而南词之布调收音,既经创辟,所谓"水磨腔"、"冷板曲",数十年来,遐迩逊为独步。至北词之被弦索,向来盛自娄东,其口中骏娜,指下圆熟,固令听者色飞,然未免巧于弹头,而或疏于字面。如《碧云天》曲中"状元"之"状"字,与《望蒲东》曲中"侍妾"之"侍"字,《梵王宫》曲中"金磬"之"磬"字,及"多愁多病"之"病"字,《晚风寒峭》曲中"花枝低亚"之"亚"字,本皆去声,反以上声收之。此等讹音,未遑枚举,而又烦弦促调,往往不及收音,早已过字交腔,所为完好字面,十鲜二三。此则前无开山名手,如良辅之于南词者,故向来绝少到家,而衣钵所延,遂多乖舛。迩年声歌家颇惩纰缪,竞效改弦,谓口随手转,字面多讹,必丝和其肉,音调乃协。于是举向来腔之促者舒之,烦者寡之,弹头之杂者清之,运徽之上下,婉符字面之高低,而厘声析调,务本《中原》各韵,皆以"磨腔"规律为准,一时风气所移,远迩群然鸣和,盖吴中"弦索",自今而后始得与南词并推隆盛矣。虽然,今之北曲,非古

北曲也。古曲声情雄劲悲激,今则尽是靡靡之响。今之弦索,非古弦索也。古人弹格,有一成定谱,今则指法游移,而鲜可捉摸。诚使度曲者能以迩来磨琢精神,分用之讨究古律,则其于弦索曲理,不庶称美备也哉。

弦律存亡

昔王元美评曲,谓北筋在弦,南力在板。而吴兴臧晋叔讥为不 知曲理,且谓北之被弦索,犹南之合箫管,不过随声附和,非有成律 可凭,若谓北筋在弦,将谓南力在管可乎。至板以节曲,则北亦有 力,奚独称南? 此论出而元美要当齿冷矣。粤稽北曲,肇自完颜, 于时董解元《西厢记》,亦但一人倚弦索以唱,故何元朗谓北词有大 和花和之弦, 王伯良谓迩年燕赵歌童舞女, 咸弃杆拨, 尽效南声。 又谓南词无问宫调,只按一拍,故作者多孟浪其词:北必和人弦索, 曲文少不协律,则与弦音相左,故词人凜凜遵其型范。然则当时北 曲,固非弦弗度,而当时曲律实赖弦以存也。请得而详言之:古之 被弦应索者,于今较异。今非有协应之宫商,与抑扬之定谱,惟是 歌高则弹者亦以高和,曲低则指下亦以低承,真如箫管合南词,初 无主张于其际,故晋叔以今泥古,遂訾为曲之别调耳。若乃古之弦 索,则但以曲配弦,绝不以弦和曲。凡种种牌名,皆从未有曲文之 先,预定工尺之谱。夫其以工尺谱词曲,即如琴之以钩剔度诗歌, 又如唱家箫谱,所为《浪淘沙》、《沽美酒》之类,则皆有音无文,立为 谱式者也。而其间宫调不等,则分属牌名亦不等,抑扬高下之弹情 亦不等,如仙吕牌名,则弹得新清绵邈;商调牌名,则弹得凄怆悲 慕,派调厘宫,泾渭楚楚,指下弹头既定,然后文人按式填词,歌者 准徽度曲,口中声响,必仿弦上弹音。每一牌名,制曲不知凡几,而 曲文虽有不一,手中弹法自来无两。即如今之以吴歌配弦索,非不 叠换歌章,而千篇一律,总此四句指法概之。又如箫管之孔,数仅 五六,而百千基曲,目合和无有遗声,岂非曲文虽黟,而曲音无几, 曲文虽改,而曲音不变也哉。惟是弦徽位置,其近鼓者,亦犹上半 截箫孔,音皆渐揭而高; 近轸者,亦犹下半截箫孔,音并转低而下。 而欲以作者之平仄阴阳、叶弹者之抑扬高下、则高徽须配去声字 眼,平亦间用,至上声固枘凿不投者也。低徽宜配上声字眼,平亦 间用,至去声又枘凿不投者也。且平声中仍有泾渭,阳平则徽必微 低乃叶,阴平则徽必微高乃应。倘阴阳舛用,将阳唱阴而阴唱阳; 上去错排,必去肖上而上肖去;以故作者歌者,兢兢共禀三尺,而口 必应手, 词必谐弦。凡(且) 夫字栉句比, 安腔布调, 一准所谓仙吕 之清新绵邈,商调之凄怆悲慕者,以分叶之,而格律部署之严,总此 弹徽把定,平仄所以恒调,阴阳用是无慝,则筋之一字,元美良有深 情,乃区区箫管例之,岂不谬哉。慨自南调繁兴,以清讴废弹拨,不 异匠氏之去准绳,况词人率意挥毫,曲文非尽合矩,唱家又不按谱 相稽,反就平仄例填之曲,刻意推敲,不知关头错认,曲词先已离 轨,则字虽正而律且失矣。故同此字面,昔正之而仍合谱,今则梦 中认醒而惟格是叛:同此弦索, 普弹之确有成式, 今则依声附和而 为曲子之奴; 总是牌名,此套唱法不施彼套; 总是前腔,首曲腔规非 同后曲。以变化为新奇,以合掌为卑拙,符者不及二三。异者十常八 九,即使以今式今,且毫无把捉,欲一一古律绳之,不径庭哉。虽 然,古律湮矣,而还按词谱之仄仄平平,原即是弹格之高高下下,亦 即是歌法之官抑官扬。今优子当场,何以合谱之曲演唱非难,而平 仄稍乖便觉沾唇拗嗓。且板宽曲慢,声格尚有游移,至收板紧套,何 以一牌名止一唱法,初无走样腔情,岂非优伶之口犹留古意哉。至 其间有得力关捩子,则全在一板之牢束,盖曲音高下,本无涉于板, 而曲候紧舒,实腔定于拍,板拍相延(沿),初无今古,谓原来曲候, 虽至今存可也。又况缓促业经准量,则高下声情亦不至浸淫无纪,

而古腔古调庶犹有合,故元美谓南力在板,即晋叔亦未尝不以为 然。惟是晋叔之评北曲,谓力不在弦,则与弦索曲理,尚有一班未 睹。夫北词弦索,何异南词鼓板,板则其正,鼓则其赠,若弦索则兼 正赠合鼓板而备之者也。姑以今时弦索喻,彼歌声每度一板,而指 法之最清者,弹数约之凡四,虽其间或弹密而为滚,又或滚密而为 促,似乎简繁悬异,然总之节节排匀,弹弹有准,稍着乘除,拍不人 眼矣。试观南词之板,紧曲则正一而赠亦一,慢曲则正一而赠乃 三,斯即一板四弹之榜样也。更加以滚促之多弹,隐然常拍之外倍 添赠拍,岂非赠且复赠,较之鼓板尤密尤均乎。故魏良辅有北弦索 南鼓板之喻; 何元朗有慢板 大和弦与 紧板花和弦之评。弦板相提 而较,正元美之深干知曲,乃晋叔反致讥弹,不能不为洗冤矣。尝 思疾徐高下之节,曲理大凡也,而南有拍,北有弦,非不可因板眼慢 紧以逆求古调疾舒之候,北有《太和正音》,南有《九宫曲谱》,又非 不可因谱上平 仄以逆考古 音高下之宜。 奈何哉 今之独乐声场者, 但正目前字眼,不审词谱为何事,徒喜淫声聒听,不知宫调为何物。 踵舛承讹,音理消败,则良辅者流,固时调功魁,亦叛古戎首矣,

(上卷)

叙 山 歌『冯梦龙》

书契以来,代有歌谣,太史所陈,并称风雅,尚矣。自楚骚唐律。争妍竞畅,而民间性情之响,遂不得列于诗坛,于是别之曰"山歌",言田夫野竖矢口寄兴之所为,荐绅学士家不道也。唯诗坛不列,荐绅学士不道,而歌之权愈轻,歌者之心亦愈浅;今所盛行者,皆私情谱耳。虽然,桑间濮上,国风刺之,尼父录焉,以是为情真而不可废也。山歌虽俚甚矣,独非郑卫之遗欤?且今虽季世,而但有假诗文,无假山歌,则以山歌不与诗文争名,故不屑假。苟其不屑假,而吾藉以存真,不亦可乎?抑今人想见上古之陈于太史者如彼,而近代之留于民间者如此,倘亦论世之林云尔。若夫借男女之真情,发名教之伪药,其功于《挂枝儿》等,故录《挂枝词》,而次及《山歌》。

① 录自《山歌》。据顾颉刚校点传经堂本。

② 冯梦龙(1575-1646)。

秦复庵《望吾乡》按语^①(节录) 玛 數 尼

……北之《粉红莲》,南之《挂枝词》,其佳者,语多真至,政自难得,彼以腐套填塞为词者,视此何如。

① 节录自《太霞新奏》。据清刊本。

《步雪初声》序①(节录) 龙子 秋②

……宋兴,用制策义以收五七言律之权,而诗才始旁出于宫调,谓之诗余;《大晟乐府》其最盛也。学者死于诗而乍活于词,一时丝之、肉之,渐熟其抑扬节奏之趣;于是增损而为曲,重叠而为套数,浸淫而为杂剧传奇,固亦性情之所必至矣。世之治也,气自北而之南,故金元尚北,而国朝尚南。然而南不逮北之精者,声彻于下而学废于上也。夫先王之教曰:"诗言志。歌咏言。"先王以之教胄子,而今人以之隶优俳,性情失平,而精神才术尽以供戾气之用,岂不哀哉。……

① 节录自《饮虹簃刻散曲四种》。

② 龙子犹即冯梦龙。

琴声十六法^① 冷仙®

一日"轻"。

不轻不重者,中和之音也。起调当以中和为主,而轻重特损益之,则其趣自生。蓋音之轻处最难。力有未到,则浮而不实晦而不明,虽轻亦不嘉(佳)。惟轻之中,不爽清实,而一丝一忽,指到音绽,幽趣无限。乃有一节一句之轻,有间杂高下之轻,种种意趣,皆贵于清实中得之。

二日"松"。

松即吟猱妙处。宛转动荡,无滞无碍,不促不慢,以至恰好,谓之松。吟猱之巨细缓急,俱有松处,故琴之妙在取音。取音宛转,则情联;松活则意畅。其趣如水之兴澜,其体如珠之走盘,其声如哦咏之有韵,方可名松。

三曰"脆"。

脆者健也,于冲和大雅中,健其两手,而音不至于滞。两手皆有脆音,第藏之不见,出之不易。右指靠弦,则音滞而木,故曰指必甲尖,弦必悬落。在指不劲,则音胶而格,故曰响如金石,动如风发。要知脆处,即指之灵处。指之灵,自出于健。而指之健,又出于腕。腕中之力既到,则为坚脆,然后识滞气之在弦,当为知音厌听耳。

① 录自明项元汴《蕉窗九录》,原题为《冷仙琴声十六法》。据商务印书馆《丛书集成》本。

② 《蕉窗九录》在题下注: 冷仙,名谦,字启敬,明洪武时为协律郎。按洪武为明 开国年号(公元 1368 年—1398 年)。

四日"滑"。

滑者溜也,又涩之反也。音尝欲涩,而指尝欲滑。音本喜慢,而缓缓出之,若流泉之鸣咽,时滴滴不已,故曰涩。指取走弦,而滞则不灵,乃往来之,鼓动如风发,发故曰滑。然指法之运用,固贵其滑,而亦有时乎贵留。所谓留者,即滑中之安顿处也。故有涩不可无滑,有滑不可无留,意各有在耳。

五曰"高"。

高与古似,而实与古异。古以韵发,高以调裁。指下既静既清,而又能得高调,则音意始臻微妙。故其为宁谧也,若深渊之不可测,若乔岳之不可望。其为流逝也,若江河之欲无尽,若三籁之欲无声。

六日"洁"。

欲修妙音者,必先修妙指。修指之道,从有而无,因多而寡。一尘不染,一垢弗缁,止于至洁之地,而人不知其解。指既修洁,则音愈希。音愈希,则意趣愈永。吾故曰:欲修妙音者,必先修妙指,欲修妙指者,又必先自修洁始。

七日"清"。

清者,音之主宰。地僻则清,心静则清,气肃则清,琴实则清, 弦洁则清。必使群清咸集,而后可求之指上。两手如鸾凤和鸣,不 染纤毫浊气。厝指如击金戛石,缓急绝无客声。试一听之,则澄然 秋潭,皎然月洁, 溏然山涛, 幽然谷应, 真令人心骨俱冷, 体气 欲仙。

八日"虚"。

抚琴着实处亦何难,独难于得虚。然指动而求声,乌乎虚, 余则曰:正在声中求耳。声厉则知躁,声粗则知浊,声静则知虚,此审音之道也。盖下指功夫,一在调气,一在陶洗。调气则心自静,陶洗则声自虚。故虽急而不乱,多而不繁。深渊自居,清光发外,山

高水流,于此可以神会。

九日"幽"。

音有幽度,始称琴品,品系乎人,幽由于内。故高雅之士,动操便有幽韵。洵知幽之在指,无论缓急,悉能安闲自如,风度盎溢,纤尘无染,足觇潇洒胸次,指下自然写出一段风情。所谓得之心而应之手,听其音而得其人,此幽之微妙也。

十曰"奇"。

音有奇特处,乃在吟逗间。指下取之,当如千岩竞秀,万壑争流,令人流连不尽,应接不暇。至章句顿挫曲折之际,尤不可轻意草草放过,定有一段情绪。又如"山从人面起,云傍马头生",字字摹神,方知奇妙。

十一日"古"。

琴学祗有二途,非从古,则从时。兹虽古乐久淹,而仿佛其意,则自和澹中来,故下指不落时调,便有羲皇气象。宽大纯朴,落落弦中,不事小巧,宛然深山邃谷,老木寒泉,风声簌簌,顿令人起道心,绝非世所见闻者,是以名曰古音。

十二日"澹"。

时师欲娱人耳,必作媚音,殊伤大雅。第不知琴音本澹,而吾复调之以澹,固众人所不解。惟澹何居?吾爱此情,不奢不竞;吾爱此味,如雪如冰;吾爱此响,松之风而竹之雨,磵之滴而波之涛也。故善知音者,始可与言澹。

十三日"中"。

乐中有声,惟琴固然。自古音淹没,攘臂弦索,而捧耳于琴者 比比矣。即有继空谷之响,未免郢人寡和。不知喜工柔媚则偏,落 指重浊则偏,性好炎闹则偏,发响局促则偏,取音粗厉则偏,入弦仓 卒则偏,气质浮躁则偏。矫其偏,归于全,袪其倚,习于正,斯得中 之传。 十四日"和"。

和为五音之本,无过不及之谓也。当调之在弦,审之在指,辨之在音。弦有性,顺则协,逆则矫,往来鼓动,有如胶漆,则弦与指和。音有律,或在徽,或不在徽,具有分数,以位其音,要使婉婉成吟,丝丝叶韵,以得其曲之情,则指与音和。音有意,意动音随,则众妙归。故重而不虚,轻而不浮,疾而不促,缓而不弛,若吟若猱、圆而不俗,以绰以注,正而不差,纡回曲折,联而无间,抑扬起伏,继而复连,则音与意和。因之神闲气逸,指与弦化,自得浑合无迹,吾是以知其太和。

十五日"疾"。

指法有徐则有疾,然徐为疾之纲,疾为徐之应,尝相错间,或句中借速以落迟,或句完迟老以速接。又有二法。小速微快,要以紧递,指不伤疾中之雅度,而随有行云流水之趣。大速贵急,务使急而不乱,依然安闲之气象,而泻出崩崖飞瀑之声。是故疾以意用,更以意神。

十六日"徐"。

古人以琴涵养性情,故名其声曰希,常于徐徐得之。音生运指,优游弦上,节其气候,候至而下,以叶厥律。或章句舒徐,或缓急相间,或断而复续,者续而复断,因候制宜,自然调古声希,渐入渊微。严道彻诗:"几回拈出阳春调,月满西楼下指迟。"其于徐意,大有得也。

叔 苴 子①(辑录) 庄元臣③

……乐治人之性情,礼治人之筋骨。性情条畅,则筋骨舒和,故乐可兼礼。若筋骨束缚,而性情不治,譬犹衣猿猱以周公之服也。故礼不可兼乐。……

(内篇卷一)

……乐律可以候气,可以召气。气已至而律辨之,主其侯者也。气未至而律迎之,主其召者也。武王伐纣,吹律听声,自孟春至季秋,役气相并。师旷吹律,而知南风不竞多死声,此非用律以候气乎?幽谷无黍,邹子吹律暖之。师旷清角而悲风急雨骤至,此非用律以召气乎?大抵气盛则声从气而主候,声盛则气从律而主召。律调而声不从者,气之病也,道宜治气。气和而音不谐者,律之病也,道宜正律。审乎此,而乐之理思过半矣。……

(内篇卷三)

① 据《百子全书》,民国元年刊本。

② 庄元臣,明人,生平不详。

闲 情 偶 寄^①(辑录) 季 渔^③

戒荒唐

昔人云:"画鬼、魅易,画狗、马难。"以鬼、魅无形,画之不似,难 干稽考: 狗、马为人所习见,一笔稍乖,是人得以指谪。可见事涉荒 唐,即文人藏拙之具也。而近日传奇,独工于为此。噫!活人见鬼, 其兆不祥, 矧有吉事之家, 动出魑魅魍魉为寿乎。移风易俗, 当自 此始。吾谓剧本非他,即三代以后之《韶》、《濩》也。殷俗尚鬼,犹 不闻以怪诞不经之事被诸声乐,奏于庙堂,矧辟谬崇真之盛世乎? 干道本平人情,凡作传奇,只当求干耳目之前,不当索诸闻见之外。 无论词曲,古今文字皆然。凡说人情、物理者,千古相传;凡涉荒唐、 怪异者,当日即朽。《五经》、《四书》、《左》、《国》、《史》、《汉》以及唐 宋诸大家,何一不说人情。何一不关物理。及今家传户颂,有怪其 平易而废之者乎?《齐谐》,志怪之书也,当日仅存其名,后世未见 其实。此非平易可久,怪诞不传之明验欤。人谓:"家常日用之事, 已被前人做尽,穷微极隐,纤芥无遗,非好奇也,求为平而不可得 也。"予曰:"不然。世间奇事无多,常事为多,物理易尽,人情难尽。 有一日之君臣父子,即有一日之忠孝节义。性之所发,愈出愈奇, 尽有前人未作之事,留之以待后人,后人猛发之心,较之胜于先辈

① 据中国戏曲研究院编校《中国古典戏曲论著集成》。

② 李渔,字笠鸿,后字笠翁,一字谪凡,别署笠道人、随庵主人、新亭樵客、湖上笠 翁等,浙江兰谿人。生于 1611 年(明万历三十九年),卒于 1679、1680年(清 康熙十八、十九年)间。

者。即就妇人女子言之,女德莫过于贞,妇您无甚于妒。古来贞女守节之事,自剪发、断臂、刺面、毁身以至刎颈而止矣。近日矢贞之妇,竟有刲肠、剖腹,自涂肝脑于贵人之庭以鸣不屈者。又有不持利器,谈笑而终其身,若老衲高僧之坐化者。岂非五伦以内,自有变化不穷之事乎。古来妒妇制夫之条,自罚跪、戒眠、捧灯、戴水以至扑臀而止矣。近日妒悍之流,竟有锁门绝食,迁怒于人,使族党避祸难前,坐视其死而莫之救者。又有鞭扑不加,图圄不设,宽仁大度,若有刑措之风,而其夫摄于不怒之威,自遣其妾而归化者。岂非闺阃以内,便有日异月新之事乎。此类繁多,不能枚举。(王安节云:"近日人情世故,总以翻案见奇。刑于之化,倒行逆施,其一端也。")此言前人未见之事,后人见之,可备填词制曲之用者也。即前人已见之事,尽有摹写未尽之情,描画不全之态。若能设身处地,伐隐攻微,彼泉下之人,自能效灵于我,授以生花之笔,假以蕴绣之肠,制为杂剧,使人但赏极新极艳之词,而竟忘其为极腐极陈之事者。此为最上一乘,予有志焉,而未之逮也。"

(词曲部卷一)

别解务头

填词者,必讲"务头"。然"务头"二字,千古难明。《啸餘谱》中载"务头"一卷,前后胪列,岂止万言,究竟"务头",二字,未经说明,不知何物。止于卷尾开列诸旧曲,以为体样,言"某曲中第几句是'务头',其间阴阳不可混用,去上、上去等字不可混施"。若迹此求之,则除却此句之外,其平仄、阴阳皆可混用、混施而不论矣。又云:"某句是'务头',可施俊语于其上。"若是,则一曲之中,止该用一俊语,其余字句皆可潦草涂鸦,而不必计其工拙矣。予谓:立言之人,与当权秉轴者无异。政令之出,关乎从违。断断可从,而后

使民从之;稍背于此者,即在当违之列。凿凿能信,始可发令。措词又须言之极明,论之极畅,使人一目了然。今单提某句为"务头",谓阴阳、平仄断宜加严,俊语可施于上,此言未尝不是,其如举一废百,当从者寡,当违者众,是我欲加严,而天下之法律反从此而宽矣。况又嗫嚅其词,吞多吐少,何所取义而称为"务头",绝无一字之诠释,然则"葫芦提"三字,何以服天下? 吾恐狐疑者读之愈重其狐疑,明了者观之顿丧其明了,非立言之善策也。予谓:"务头"二字,即然不得其解,只当以不解解之。曲中有"务头",犹棋中有眼,有此则活,无此则死。进不可战,退不可守者,无眼之棋,死棋也;看不动情,唱不发调者,无"务头"之曲,死曲也。一曲有一曲之"务头",一句有一句之"务头",字不聱牙,音不泛调,一曲中得此一句即使全曲皆灵,一句中得此一二字即使全句皆健者,"务头"也。由此推之,则不特曲有"务头",诗、词、歌、赋以及举子业,无一不有"务头"矣。人亦照谐按格,发舒性灵,求为一代之传书而已矣,岂得为谜语欺人者所惑,而阻塞词源,使不得顺流而下平。

(词曲部卷三)

别古今

选剧授歌童,当自古本始。古本既熟,然后间以新词。切勿先今而后古。何也? 优师教曲,每加工于旧,而草草于新。以旧本人人皆习,稍有谬误,即形出短长;新本偶尔一见,即有破绽,观者、听者未必尽晓,其拙尽有可藏。且古本相传至今,历过几许名师,传有衣钵,未当而必归于当,已精而益求其精,犹时文中"大学之道"、"学而时习之"诸篇,名作如林,非敢草草动笔者也。新剧则如巧搭新题,偶有微长,则动主司之目矣。故开手学戏必宗古本,而古本又必从《琵琶》、《荆钗》、《幽闺》、《寻亲》等曲唱起。盖腔板之正,未

有正于此者。此曲善唱,则以后所唱之曲,腔板皆不谬矣。旧曲既熟,必须间以新词。切勿听拘士腐儒之言,谓新剧不如旧剧,一概弃而不习。盖演古戏如唱清曲,只可悦知音数人之耳,不能娱满座宾朋之目。听古乐而思卧,听新乐而忘倦,古乐不必《箫韶》,《琵琶》、《幽闺》等曲即今之古乐也。但选旧剧易,选新剧难。教歌习舞之家,主人必多冗事,且恐未必知音,势必委诸门客,询之优师。门客岂尽周郎,大半以优师之耳目为耳目;而优师之中,淹通文墨者少,每见才人所作,辄思避之,以凿枘不相入也。故延优师者,必择文理稍通之人,使阅新词,方能定其美恶;又必藉文人墨客,参酌其间,两议金同,方可授之使习。此为主人多冗、不谙音乐者而言。若系风雅主盟,词坛领袖,则独断有余,何必知而故询。噫,欲使梨园风气,丕变维新,必得一二缙绅长者,主持公道,俾词之佳者必传,剧之陋者必黜,则千古才人心死,现在各流,有不以沉香刻木而祀之者乎?

(演习部、卷四)

剂 冷 热

今人之所尚,时优之所习,皆在热闹二字,冷静之词,文雅之曲,皆其深恶而痛绝者也。然戏文太冷,词曲太雅,原足令人生倦。此作者自取厌弃,非人有心置之也。然尽有外貌似冷,而中藏极热,文章极雅,而情事近俗者,何难稍加润色,播入管弦;乃不问短长,一概以冷落弃之,则难服才人之心矣。予谓:传奇无冷、热,只怕不合人情。如其离、合、悲、欢,皆为人情所必至,能使人哭,能使人笑,能使人怒发冲冠,能使人惊魂欲绝,即使鼓板不动,场上寂然,而观者叫绝之声,反能震天动地。是以人口代鼓乐,赞叹为战争,较之满场杀伐,征鼓雷鸣,而人心不动,反欲掩耳避喧者为何

如? 岂非冷中之热,胜于热中之冷;俗中之雅,逊于雅中之俗乎哉? (同上)

变调第二

变调者,变古调为新调也。此事甚难,非其人不行,存此说以 俟作者。才人所撰诗、赋、古文,与佳人所制锦绣花样,无不随时更变。变则新,不变则腐。变则活,不变则板。至于传奇一道,尤是 新人耳目之事,与玩花赏月,同一致也。使今日看此花,明日复看此花,昨夜对此月,今夜复对此月,则不特我厌其旧,而花与月亦自愧其不新矣。故桃陈则李代,月满即哉生。花、月无知,亦能自变其调,矧词曲出生人之口,独不能稍变其音,而百岁登场,乃为三万六千日雷同合掌之事乎? 吾每观旧剧,一则以喜,一则以惧。喜则喜其音节不乖,耳中免生芒刺;惧则惧其情事太熟,眼角如悬赘疣。学书学画者,贵在仿佛大都,而细微曲折之间,正不妨增减出人。若止为依样葫芦,则是以纸印纸,虽云一线不差,少天然生动之趣矣。因创二法,以告世之执郢斤者。

(同上)

缩长为短

观场之事,宜晦不宜明。其说有二: 优孟衣冠,原非实事,妙在隐隐跃(约)跃之间。若于日间搬弄,则太觉分明,演者难施幻巧,十分音容,止作得五分。观听以耳目,声音散而不聚故也。且人无论富、贵、贫、贱,日间尽有当行之事,阅之未免妨工;抵暮登场,则主客心安,无妨时失事之虑。古人秉烛夜游,正为此也。然戏之好者必长,又不宜草草完事,势必阐扬志趣,摹拟神情,非达且不能告

阕。然求其可以认日之人, 十中不得一二, 非迫于来朝之有事,即 限于此际之欲眠,往往半部即行,使佳话截然而止。予尝谓:好戏 若逢贵客,必受腰斩之刑,虽属谑言,然实事也。与其长而不终,无 宁短而有尾,故作传奇付优人,必先示以可长可短之法。取其情节 可省之数折,另作暗号记之,调情闲无事之人,则增入全演,否则拔 而去之,此法是人皆知,在梨园亦乐于为此。但不知减省之中,又 有增益之法,使所省数折虽去若存,而无断文截角之患者,则在秉 笔之人,略加之意而已。法于所删之下折,另增数语,点出中间一 段情节,如云昨日某人来,说某话,我如何答应之类是也。或于所 删之前一折,预为吸起,如云我明日当差某人去干某事之类是也。 如此,则数语可当一折,观者虽未及看,实与看过无异。此一法也。 予又谓,多冗之客,并此最约者亦难终场,是删与不删等耳。尝见 贵介命题, 止索杂单, 不用全本, 皆为可行即行, 不受戏文牵制计 也。予谓:全本太长,零齝太短。酌乎二者之间,当仿《元人百种》 之意,而稍稍扩充之,另编十折一本,或十二折一本之新剧,以备应 付忙人之用。或即将古本旧戏,用长房妙手,缩而成之。但能沙汰 得官,一可当百,则寸金丈铁,贵贱攸分,识者重其简贵,未必不弃 长取短,另开一种风气,亦未可知也。此等传奇,可以一席两本。 如佳客并坐,势不低昂,皆当在命题之列者,则一后一先,皆可为 政。是一举两得之法化。有暇即当属草,请以下里巴人为《白雪》 《阳春》之倡。□

(同上)

变旧成新

演新剧如看时文,妙在闻所未闻,见所未见。演旧剧如看古董,妙在身生后世,眼对前朝。然而古董之可爱者,以其体质愈陈

愈古,色相愈变愈奇。如铜器、玉器之在当年,不过一刮磨光莹之 物耳; 迨其历年既久, 刮磨者浑全无迹, 光莹者斑驳成文, 是以人人 相宝。非宝其本质如常,宝其能新而善变也。使其不异当年,犹然 是一刮磨光莹之物,则与今时旋造者无别,何事什百其价而购之 哉。旧剧之可珍,亦若是也。今之梨园,购得一新本,则因其新而 愈新之,饰怪妆奇,不遗余力。演到旧剧,则千人一辙,万人一辙, 不求稍异: 观者如听蒙童背书, 但赏其熟, 求一换耳换目之字而不 得。则是古董便为古董,却未尝易色牛斑,依然是一刮磨光莹之 物。我何不取旋浩者观之,犹觉耳目一新,何必定为村学究听蒙童 背书之为乐哉。然则生斑易色, 其理甚难, 当用何法以处此? 曰: 有道焉,仍其体质,变其丰姿。如同一美人,而稍更衣饰,更足令人 改观,不俟变形易貌而始知别一神情也。体质维何。曲文与大段 关目是已。丰姿维何。科诨与细微说白是已。曲文与大段关目不 可改者,古人既费一片心血,自合常留天地之间,我与何仇而必欲 使之埋没,且时人是古非今,改之徒来讪笑。仍其大体,即慰作者 之心,且杜时人之口。科诨与细微说白不可不变者,凡人作事,贵于 见景生情。世道迁移,人心非旧,当日有当日之情态,今日有今日 之情态。传奇妙在入情,即使作者至今未死,亦当与世迁移,自啭 其舌,必不为胶柱鼓瑟之谈,以拂听者之耳。况古人脱稿之初,便 觉其新,一经传播,演过数番,即觉听熟之言,难干复听,即在当年, 亦未必不自厌其繁而思陈言之务去也。我能易以新词,透入世情 三昧,虽观旧剧,如阅新篇,岂非作者功臣。使得为鸡皮三少之女, 前鱼不泣之男,地下有灵,方颂德歌功之不暇,而忍以矫制责之哉。 但须点铁成金,勿令画虎类狗;又须择其可增者增,当改者改。万 勿故作知音,强为解事,令观者当场喷饭。而群罪作俑之人,则湖 上笠翁不任咎也。此言润泽枯藁,变易陈腐之事。予尝痛改《南西 厢》,如《游殿》、《问斋》、《逾墙》、《惊梦》等科诨、及《玉簪偷词》、《幽 闺》《旅婚》诸宾白,付伶王搬演,以试旧新, 业经词人谬常, 不以点 窜为非矣。尚有拾遗补缺之法,未语同人,兹请并终其说。旧本传 奇, 每多缺略不全之事、刺谬难解之情。非前人故为破绽, 留话柄 以贻后人,若唐诗所谓"欲得周郎顾,时时误拂弦",乃一时照管不 到,致生漏孔。所谓"至人千虑,必有一失"。此等空隙,全靠后人泥 补,不听其缺陷,而使千古无全文也。女娲氏炼石补天,天尚可补, 况其他平。但恐不得五色石耳。姑举二事以概之。赵五娘于归两 月,即别蔡邕,是一桃夭新妇,算至公姑已死,别墓寻夫之日,不及 数年,是犹然一治容诲淫之少妇也。身背琵琶,独行千里,即能自 保无他,能免当时物议平。张大公重诺轻财,资其困乏,仁人也,义 士也。试问衣食、名节,二者孰重。衣食不继,则周之,名节所关则 听之,义士仁人曾若是乎? 此等缺陷,就词人论之,几与天倾西北, 地陷东南无异矣,可少补天塞地之人平。 若欲干本传之外, 劈空添 出一人,送赵五娘入京,与之随身作伴,妥则妥矣,犹觉伤筋动骨,太 涉更张。不想本传内现有一人,尽可用之而不用,竟似张大公止图 卸肩,不顾赵五娘之去后者。其人为谁。着送钱米助丧之小二是 也。《剪发》白云"你先回去,我少顷就着小二送来。"则是大公非无 仆从之人,何以吝而不使。予为略增数语,补此敏略,附刻于后,以 政同心。此一事也。(尤展成云:"予亲见笠翁家姬演此二折,使高、陆二君复生, 定当绝倒。")《明珠记》之《煎茶》,所用为传消递息之人者,塞鸿是也。 塞鸿一男子,何以得事嫔妃。使宫禁之内可用男子煎茶,又得密 谈私语,则此事可为,何事不可为乎? 此等破绽,妇人小儿皆能 指出、而作者绝不经心、观者亦听其疏漏。然明眼人遇之、未尝 不哑然一笑而作无是公看者也。若欲于本家之外,凿空构一妇人, 与无双小姐从不谋面,而送进驿内煎茶,使之先通姓名,后说情 事,便则便矣,犹觉生枝长节,难免赘瘤。不知眼前现有一妇,理 合使之而不使, 非特王仙客至愚, 亦觉彼妇太忍。彼妇为谁? 无 双自幼跟随之婢, 仙客现在作妾之人, 名为采苹是也。无论仙客觅人将意, 计当出此; 即就采苹论之, 岂有主人一别数年, 无由把臂, 今在咫尺不图一见, 普天之下有若是之忍人乎, 予亦为正此迷谬, 止换宾白, 不易填词, 与《琵琶》改本并刊于后, 以政同心。又一事也。其余改本尚多, 以篇帙浩繁, 不能尽附。总之, 凡予所改者, 皆出万不得已, 眼看不过, 耳听不过, 故为铲削不平, 以归至当, 非勉强出头, 与前人为难者比也。凡属高明, 自能谅其心曲。

插科打诨之语,若欲变旧为新,其难易较此奚止百倍。无论剧剧可增,出出可改,即欲隔日一新,逾月一换,亦诚易事。可惜当世贵人,家蓄名优数辈,不得一诙谐弄笔之人,为种词林萱草,使之刻刻忘忧。若天假笠翁以年,授以黄金一斗,使得自买歌童,自编词曲,口授而身导之,则戏场关目,日日更新,毡上诙谐,时时变相。此种技艺,非特自能,夸之天下,人亦共信之。然谋生不给,遑问其他,只好作贫女缝衣,为他人助娇,看他人出阁而已矣。

(同上)

授 曲 第 三

声音之道,幽渺难知。予作一生柳七,交无数周郎,虽未能如曲子相公,身都通显,然论其生平制作,塞满人间,亦类此君之不可收拾。然究竟于声音之道,未尝尽解。所能解者,不过词学之章句,音理之皮毛。比之观场矮人,略高寸许,人赞美而我先之,我憎丑而人和之,举世不察,遂群然许为知音。噫,音岂易知者哉!人问:既不知音,何以制曲?予曰:"酿酒之家,不必尽知酒味,然秫多水少则醇酿,麯好糵精则香冽,此理则易谙也。此理既谙,则杜康不难为矣。造弓造矢之人,未必尽娴决拾,然曲而劲者利于矢,直而锐者宜于鹄,此道则易明也。既明此道,即世为弓人矢人可矣。

虽然,山民善跋,水民善涉,术疏则巧者亦拙,业久则粗者亦精。填过数十种新词,悉付优人,听其歌演,近朱者赤,近墨者黑,况为朱墨所从出者乎?粗者自然拂耳,精者自能娱神,是其中菽麦亦稍辨矣。语云:'耕当问奴,织当访婢。'予虽不敏,亦曲中之老奴、歌中之黠婢也。请述所知,以备裁择。"

(演习部、卷五)

解明曲意

唱曲宜有曲情。曲情者,曲中之情节也。解明情节,知其意之所在,则唱出口时,俨然此种神情。问者是问,答者是答,悲者黯然魂消而不致反有喜色,欢者怡然自得而不见稍有瘁容,且其声音齿颊之间,各种俱有分别,此所谓曲情是也。吾观今世学曲者,始则诵读,继则歌咏,歌咏既成而事毕矣。至于"讲解"二字,非特废而不行,亦且从无此例。有终日唱此曲,终年唱此曲,甚至一生唱此曲而不知此曲所言何事,所指何人,口唱而心不唱,口中有曲而面上、身上无曲,此所谓无情之曲,与蒙童背书,同一勉强而非自然者也。虽腔板极正,喉、舌、齿、牙极清,终是第二、第三等词曲,非登峰造极之技也。欲唱好曲者,必先求明师讲明曲义。师或不解,不妨转询文人。得其义而后唱,唱时以精神贯串其中,务求酷肖。若是,则同一唱也,同一曲也,其转腔、换字之间,别有一种声口,举目回头之际,另是一副神情。较之时优,自然逈别。变死音为活曲,化歌者为文人,只在"能解"二字。解之时义大矣哉。

(同上)

调熟字音

调平仄,别阴阳,学者之首务也。然世上歌童,解此二事者,百

不得一。不过口传心授,依样葫芦,求其师不其谬,则习而不察,亦 可以混过一生。独有必不可少之一事,较阴阳、平仄为稍难,又不 得因其难而忽视者,则为出口、收音二诀窍。世间有一字,即有一 字之头,所谓"出口"者是也;有一字,即有一字之尾,所谓"收音"者 是也。尾后又有余音收煞此字,方能了局。譬如吹箫、姓萧诸"箫" 字,本音为"箫",其出口之字头,与收音之字尾,并不是"箫"。若出 口作"箫", 收音作"箫", 其中间一段正音, 并不是"箫", 而反为别一 字之音矣。且出口作"箫",其音一泄而尽,曲之缓者,如何接得下 板。故必有一字为之头,以备出口之用;有一字为之尾,以备收音 之用;又有一字为余音,以备煞板之用。字头为何?"西"字是也; 字尾为何?"夭"字是也;尾后余音为何?"乌"字是也。(豫心云: "IN外汉那得知")字字皆然,不能枚纪。《弦索辨讹》等书, 载此颇详, 阅之自得。要知此等字头、字尾及余音,乃天造地设,自然而然,非 后人扭捏而成者也。但观切字之法,即知之矣。(尤展成云:"妙喻!") 《篇海》、《字汇》等书,逐字载有注脚,以两字切成一字。其两字者, 上一字即为字头,——出口者也,下一字即为字尾,——收音者也, 但不及余音之一字耳。无此上下二字,切不出中间一字,其为天造 地设可知。此理不明,如何唱曲,出口一错,即差谬到底。唱此字 而讹为彼字,可使知音者听平。故教曲必先审音。即使不能尽解, 亦须讲明此义, 使知字有头、尾以及余音, 则不敢轻易开口。 每字 必询, 久之自能惯熟。曲有误, 周郎顾, 苟明此道, 即遇最刻之周 郎,亦不能拂情而左顾矣。

字头、字尾及余音,皆为慢曲而设。一字、一板,或一字数板者,皆不可无。其快板曲,止有正音,不及头尾。

缓音长曲之字,若无头尾,非止不合韵,唱者亦大费精神。但 看青衿赞礼之法,即知之矣。"拜"、"兴"二字,皆属长音。"拜"字 出口以至收音,必俟其人揖毕而跪,跪毕而拜,为时甚久。若止唱 一"拜"字到底,则其音一泄而尽,不当歇而不得不歇,失傧相之体矣。得其窍者,以"不爱"二字代之。"不"乃"拜"之头,"爱"乃"拜"之尾,中间恰好是一"拜"字。以一字而延数晷,则气力不足;分为三字,即有余矣。"兴"字亦然,以"希"、"因"二字代之。(展成云:"又是妙喻!")赞礼且然,况于唱曲! 婉譬曲喻,以至于此,总出一片苦心。审乐诸公,定须怜我。

字头、字尾及余音,皆须隐而不现。使听者闻之,但有其音,并 无其字,始称善用头、尾者。一有字迹,则沾泥带水,有不如无矣。

(同上)

字忌模糊

学唱之人,勿论巧拙,只看有口无口。听曲之人,慢讲精粗,先问有字无字。字从口出,有字即有口。如出口不分明,有字若无字,是说话有口,唱曲无口,与哑人何异哉! 哑人亦能唱曲,听呼号之声,即可见矣。常有唱完一曲,听者止闻其声,辨不出一字者,令人闷杀。此非唱曲之料,选材者任其咎,非本优之罪也。舌本生成,似难强造,然于开口学曲之初,先能净其齿颊,使出口之际,字字分明,然后使工腔板,此回天大力,无异点铁成金。然百中遇一,不能多也。

(同上)

曲严分合

同场之曲,定宜同场,独唱之曲,还须独唱,词意分明,不可犯也。常有数人登场,每人一只之曲,而众口同声以出之者,在授曲之人,原有浅、深二意: 浅者虑其冷静,故以发越见长; 深者示不参

差,欲以翕如见好。尝见《琵琶》《赏月》一折,自"长空万里"以至 "几处寒衣织未成",俱作合唱之曲。谛听其声,如出一口,无高低、继续之痕者。虽曰良工心苦,然作者深心,于兹埋没。此折之妙, 全在共对月光,各谈心事。曲既分唱,身段即可分做,是清淡之内, 原有波澜:若混作同场,则无所见其情,亦无可施其态矣。惟"峭寒 生"二曲,可以同唱。首四曲,定该分唱,况有合前数句,振起神情, 原不虑其太冷。他剧类此者甚多,举一可以概百。戏场之曲,虽属 一人而可以同唱者,惟行路出师等剧,不问词理异同,皆可使众声 合一。场面似闹,曲声亦宜闹,静之则相反矣。

(同上)

锣鼓忌杂

戏场锣鼓,筋节所关。当敲不敲,不当敲而敲,与宜重而轻,宜轻反重者,均足令戏文减价。此中亦具至理,非老于优孟者不知。最忌在要紧关头,忽然打断。如说白未了之际,曲调初起之时,横敲乱打,盖却声音,使听白者少听数句,以致前后情事不连;审音者未闻起调,不知以后所唱何曲。打断曲文,罪犹可恕;抹杀宾白,情理难容。予观场每见此等,故为揭出。又有一出戏文将了,止余数句宾白未完,而此未完之数句,又系关键所在,乃戏房锣鼓,早已催促收场,使说与不说同者,殊可痛恨! 故疾徐轻重之间,不可不急讲也。场上之人,将要说白,见锣鼓未歇,宜少停以待之。不则过难专委,曲,白,锣鼓,均分其咎矣。

(同上)

吹合宜低

丝、竹、肉三音,向皆孤行独立,未有合用之者。合之自近年 始。三籁齐鸣,天人合一,亦金声玉振之遗意也,未尝不佳。但须 以肉为主,而丝竹副之,使不出自然者亦渐近自然,始有主行客随 之妙。迩来戏房吹合之声,皆高干场上之曲,反以丝、竹为主,而曲 声和之,是座客非为听歌而来,乃听鼓乐而至矣。从来名优教曲, 总使声与乐齐,箫、笛高一字,曲亦高一字;箫、笛低一字,曲亦低一 字。然相同之中,即有高低、轻重之别,以其教曲之初,即以箫、笛 代口,引之使唱,原系声随箫、笛,非以箫、笛随声,习久成性,一到 场上,不知不觉而以曲随箫、笛矣。正之当用何法? 曰:家常理曲, 不用吹合, 止干场上用之,则有吹合亦唱,无吹合亦唱,不靠吹合为 主。譬之小儿学行,终日倚墙靠壁,舍此不能举步,一旦去其墙壁, 偏使独行,行过一次两次,则虽见墙壁而不靠矣。以予见论之,和 箫和笛之时, 当比曲低一字。曲声高于吹合, 则丝竹之声亦变为 肉,寻其附和之痕而不得矣。正音之法,有过此者乎。然此法不宜 概行,当视唱曲之人之本领。如一班之中,有一二喉音最亮者,以 此法行之。其余中人以下之材,俱照常格。倘不分高下,一例举 行,则良法不终,而怪予立言之误矣。

吹合之声,场上可少; 教曲学唱之时,必不可少,以其能代师口而司熔铸变化之权也。何则? 不用箫笛,止凭口授,则师唱一遍徒亦唱一遍,师住口而徒亦住口,聪慧者数遍即熟,资质稍钝者非数十百遍不能,以师徒之间,无一转相授受之人也。自有此物,只须师教数遍,齿牙稍利,即用箫笛引之。随箫随笛之际,若曰无师,则轻重疾徐之间,原有法脉准绳,引人归于胜地; 若曰有师,则师口并无一字,已将此曲交付其徒。先则人随箫笛,后则箫笛随人,是金

蝉脱壳之法也。庾公之斯学射于尹公之他,尹公之他学射于我,箫笛二物,即曲中之尹公他也。但庾公之斯与子濯孺子,昔未见面,而今同在一堂耳。若是,则吹合之力,讵可少哉。予恐此书一出,好事者过听予言,谬视箫笛为可弃,故复补论及此。

(同上)

教白第四

教习歌舞之家,演习声容之辈,咸谓:唱曲难,说白易。宾白念 熟即是,曲文念熟而后唱,唱必数十遍而始熟,是唱曲与说白之工, 难易判如雪壤、时论皆然。予独怪其非是:唱曲难而易,说白易而 难;知其难者始易,视为易者必难。盖词曲中之高低、抑扬、缓急、 顿挫,皆有一定不移之格,谱载分明,师传严切,习之既惯,自然不 出范围。至宾白中之高低、抑扬、缓急、顿挫,则无腔板可按,谱籍 可查, 止靠曲师口授。而曲师人门之初, 亦系暗中摸索, 彼既无传 于人,何从转授于我。讹以传讹,此说白之理,日晦一日而人不知; 人既不知, 无怪平念熟即以为是, 而且以为易也。吾观梨园之中, 善唱曲者,十中必有二三;工说白者,百中仅可一二。此一二人之 工说白,若非本人自通文理,则其所传之师,乃一读书明理之人也。 故曲师不可不择。教者通文识字,则学者之受益,东君之省力,非 止一端。 苟得其人, 必破优伶之格以待之; 不则鹤闲鸡群, 与侪众 无异,孰肯抑而就之乎。然于此中索全人,颇不易得,不如仍苦立 言者,再费几升心血,创为成格以示人,自制曲选词,以至登场演 习, 无一不作功臣, 庶于为人为彻之义, 无少缺陷。虽然, 成格即 设,亦止可为通文达理者道;不识字者闻之,未有不喷饭胡卢,而怪 迁人之多事者也。

(同上)

高 低 抑 扬

宾白虽系常谈,其中悉具至理。请以寻常讲话喻之。明理人 讲话,一句可当十句;不明理人讲话,十句抵不过一句,以其不中肯 繁也。宾白虽系编就之言,说之不得法,其不中肯綮等也。犹之倩 人传语, 教之使说, 亦与念白相同。善传者以之成事, 不善传者以 之偾事,即此理也。此理其难,亦其易。得其孔窍则易,不得孔窍 则难。此等孔窍,天下人不知,予独知之。天下人即能知之,不能 言之,而予复能言之。请揭出以示歌者:白有高低抑扬。何者当高 而扬。何者当低而抑。曰:若唱曲然。曲文之中,有正字,有衬字。 每遇正字,必声高而气长;若遇衬字,则声低气短而疾忙带过。此 分别主客之法也。说白之中,亦有正字,亦有衬字。其理同,则其 法亦同。一段有一段之主客,一句有一句之主客。主高而扬,客低 而抑,此至当不易之理,即最简极便之法也。凡人说话,其理亦然。 譬如呼人取茶,取酒,其声云:"取茶来"。"取酒来"。此二句既为 "茶"、"酒"而发,则"茶"、"酒"二字为正字,其声必高而长;"取"字、 "来"字为衬字,其音必低而短。再取旧曲中宾白一段论之。《琵 琶》"分别"白云:"云情雨意,虽可抛两月之夫妻;云髩霜鬘,竟不念 八旬之父母。功名之念一起,甘旨之心顿忘,是何道理?"首四句之 中,前二句是客,宜略轻而稍快;后二句是主,宜略重而稍迟。"功 名"、"甘旨"二句亦然。此句中之主客也。"虽可抛"、"竟不念"六 个字,较之"两月夫妻"、"八旬父母"、虽非衬字,却与衬字相同,其 为轻快,又当稍别。至于"夫妻"、"父母"之上二"之"字,又为衬中 之衬,其为轻快,更宜倍之。是白皆然。此字中之主客也。常见不 解事梨园,每于四六句中之"之"字,与上下正文同其轻重疾徐,是 谓菽麦不辨,尚可谓之能说白平。此等皆言宾白,盖场上所说之话

也。至于上场诗、定场白,以及长篇大幅叙事之文,定宜高低相错,缓急得宜,切勿作一片高声,或一派细语——俗言"水平调"是也。上场诗四句之中,三句皆高而缓,一句宜低而快。低而快者,大率宜在第三句。至第四句之高而缓,较首二句更宜倍之。如《浣纱记》定场诗云:"少小豪雄侠气闻,飘零仗剑学从军。何年事了拂衣去?归卧荆南梦泽云。""少小"二句,宜高而缓,不待言矣。"何年"一句,必须轻轻带过;若与前二句相同,则煞尾一句,不求低而自低矣。末句一低,则懈而无势,况其下接着通名道姓之语,如"下官姓范、名蠡、字少伯","下官"二字,例应稍低,若末句低而接者又低,则神气索然不振矣。故第三句之稍低而快,势有不得不然者。此理此法,谁能穷究至此,然不如此,则是寻常应付之戏,非孤标特出之戏也。高低抑扬之法,尽乎此矣。

优师既明此理,则授徒之际,又有一简便可行之法:索性取而 予之,但于点脚本时,将宜高宜长之字,用朱笔圈之;凡类衬字者,不圈;至于衬中之衬,与当急急赶下,断断不宜沾滞者,亦用朱笔抹以细纹,如流水状。使一一皆能识认,则于念剧之初,便有高低抑扬,不俟登场摹拟。如此教曲,有不妙绝天下,而使百千万亿之人 赞美者,吾不信也。(尤展成云:"方便法门。然太便宜此辈。")

(同上)

缓急顿挫

缓急顿挫之法,较之高低抑扬,其理愈精。非数言可了,然了之必须数言。辩者愈繁,则听者愈惑,终身不能解矣。优师点脚本授歌童,不过一句一点。求其点不刺谬,一句还一句,不致断者联而联者断,亦云幸矣,尚能询及其他?即以脚本授文人,倩其画文断句,亦不过每句一点,无他法也。而不知场上说白,尽有当断处

不断,反至不当断处而忽断;当联处不联,忽至不当联处而反联者: 此之谓缓、急、顿、挫。此中微渺,但可意会,不可言传;但能口授, 不能以笔舌喻者。不能言而强之使言,只有一法:大约两句三句而 止言一事者,当一气赶下。中间断句处,勿太迟缓。或一句止言一 事,而下句又言别事,或同一事而另分一意者,则当稍断,不可竟连 下句。是亦简便可行之法也。此言其粗,非论其精;此言其略,未 及其详:精、详之理,则终不可言也。

当断当联之处,亦照前法,分别于脚本之中当断处,用朱笔一画,使至此稍顿,余俱连读,则无缓、急相左之患矣。

妇人之态,不可明言; 宾白中之缓、急、顿、挫,亦不可明言: 是二事一致。轻盈袅娜,妇人身上之态也; 缓、急、顿、挫,优人口中之态也。予欲使优人之口,变为美人之身,故为讲究至此。欲为戏场尤物者,请从事予言,不则仍其故步。

(同上)

声音恶习

花面口中,声音宜杂,如作各处乡语,及一切可憎、可厌之声, 无非为发笑计耳。然亦必须有故而然。如所演之剧,人系吴人,则 作吴音,人系越人,则作越音,此从人起见者也。如演剧之地在吴, 则作吴音,在越则作越音,此从地起见者也。可怪近日之梨园,无 论在南在北,在西在东,亦无论剧中之人生于何地,长于何方,凡系 花面脚色,即作吴音。岂吴人尽属花面乎?此与净、丑着蓝衫同一 覆盆之事也。使范文正、韩襄毅诸公有灵,闻此声,观此剧,未有不 抱恨九原,而思痛革其弊者也。今三吴缙绅之居要路者,欲易此 俗,不过启吻之劳,从未有计及此者,度量优容,真不可及。且梨园 尽属吴人,凡事皆能自顾,独此一着,不惟不自争气,偏欲故形其 丑,岂非天下古今一绝大怪事乎。且三吴之音,止能通于三吴,出境言之,人多不解,求其发笑,而反使听者茫然,亦失计甚矣。吾故为词场易之,花面声音,亦如生、旦、外、末,悉作官音,止以话头惹笑,不必故作方言;即作方言亦随地转——如在杭州,即学杭人之话;在徽州,即学徽人之话——使妇人小儿,皆能识辨,识者多则笑者众矣。

(周上)

尚书引义((() () () () () () () ()

舜 典 三

诗所以言志也,歌所以永言也,声所以依永也,律所以和声也。 以诗言志而志不滞,以歌永言而言不郁,以声依永而永不荡,以律 和声而声不诐。君子之贵于乐者,贵以此也。

且夫人之有志,志之必言,尽天下之贞淫而皆有之。圣人从内而治之,则详于辨志;从外而治之,则审于授律。内治者,慎独之事,礼之则也;外治者,乐发之事,乐之用也。故以律节声,以声叶永,以永畅言,以言宣志。律者哀乐之则也,声者清浊之韵也,永者长短之数也,言则其欲言之志而已。

律调而后声得所和,声和而后永得所依,永得所依而后言得以永,言得永而后志著于言。故曰:"穷本知变,乐之情也。"非志之所之,言之所发,而即得谓之乐,审矣。借其不然,至近者人声,自然者天籁,任其所发而已足见志,胡为乎索多寡于羊头之黍,问修短于蠏谷之竹哉。朱子顾曰:"依作诗之语言,将律和之;不似今人之预排腔调,将言求合之,不足以兴起人。"则屈元声自然之损益,以拘桎于偶发之话言,发即乐而非以乐乐,其发也奚可哉。

先王之教,以正天下之志者,礼也。礼之既设,其小人恒佚于礼之外,则辅礼以刑;其君子或困于礼之中,则达礼以乐。礼建天下之未有,因心取则而不远,故志为尚。刑画天下以不易,缘理为

① 据中华书局 1976 年校点本。

② 王夫之(1619-1692)。

准而不滥,故法为例。乐因天下之本有,情合其节而后安,故律为和。舍律而任声则淫,舍永而任言则野。既已任之,又欲强使合之。无修短则无抑扬抗坠,无抗坠则无唱和。未有以整截一致之声,能与律相协者。故曰"依诗之语言,将律和之"者,必不得之数也。

《记》曰:"乐者,音之所由生也。其本在人心之感于物也。"此言律之即于人心,而声从之以生也。又曰:"知声而不知音,禽兽是也。知音而不知乐,众庶是也。惟君子为能知乐。"此言声永之必合于律,以为修短抗坠之节,而不可以禽兽众庶之知为知也。

今使任心之所志,言之所终,率尔以成一定之节奏,于隅呕哑,而谓乐在是焉,则蛙之鸣,狐之啸,童稚之伊吾,可以代圣人之制作。然而责之以"直温宽栗,刚无虐,简无傲"者,终不可得。是欲即语言以求合于律吕,其说之不足以立也,明甚。

朱子之为此言也,盖徒见三百篇之存者,类多四言平调,未尝有腔调也,则以为《房中》之歌,笙奏之合,直如今之吟诵,不复有长短疾徐之节。乃不知长短疾徐者阖辟之枢机,损益之定数;《记》所谓"一动一静,天地之间者也",古今雅郑,莫之能违。而《乡乐》之歌,以瑟浮之,《下管》之歌,以笙和之,自有参差之余韵。特以言著于诗,永存于乐,乐经残失,言在永亡,后世不及知焉。岂得谓歌、永、声、律之尽于四言数句哉?

汉之《铙歌》,有有字而无义者(收中吾之类),《铙歌》之永也。 今失其传,直以为赘耳。当其始制,则固全凭之以为音节。以此知 《升歌》、《下管》、《合乐》之必有余声在文言之外,以合声律,所谓永 也。删诗存言而去其永,乐官习永而坠其传,固不如《铙歌》之仅 存耳。

晋、魏以上,永在言外。齐、梁以降,永在言中。隋、唐参用古今, 故杨广《江南好》、李白《忆秦娥》、《菩萨鬘(蛮)》之制,业以言实永; 而《阳关三叠》、《甘州入破》之类,则言止二十八字,而长短疾徐,存乎无言之永。言之长短同,而歌之衬叠异,固不可以《甘州》之歌歌《阳关》矣。至宋而后,永无不言也。永无不言而古法亡,岂得谓之古之无永哉。

以理论之,永在言外,其事质而取声博;以言实永,其事文而取声精。文质随风会以移,而求当于声律者,一也。是故以腔调填词,亦通声律之变而未有病矣。依之为言,如其度数而无违也,声之抑扬依永之曼行也。浸使言有美刺,而永无舒促,则以《板》、《荡》、《桑柔》之音节,诵《文王》、《下武》之诗,声无哀乐,又何取于乐哉?

徒以言而已足也,则求兴起人好善恶恶之志气者,莫若家诵刑书,而人读礼策。又何以云"兴于诗,成于乐"邪?今之公宴,亦尝歌《鹿鸣》矣。放辟邪侈之心,虽无感以动;肃雍敬和之志,亦不足以兴。盖言在而永亡,孰为黄钟,孰为大吕,颓然其不相得也。古之洋洋盈耳者,其如是夫?《记》曰:"歌,咏其声也。"歌咏声,岂声咏歌之谓邪?歌咏声,歌乃不可废。声咏歌,声以强人不亲而可废矣。

若夫俗乐之失,则亦律不和而永不节。九宫之律非律也,沈 约、周伯琦之声非声也。律亡而声乱,声乱而永淫,永淫而言失物, 志失纪。欲正乐者,求元声,定律同,俾声从律,俾永叶声,则南北 九宫,里巷之淫哇,边裔之猛厉,见即自消,而乐以正。倘惩羹吹 齑,并其长短、疾徐、阖辟、阴阳而尽去之,奚可哉。

故俗乐之淫,以类相感,犹足以生人靡荡之心;其近雅者,亦足动志士幽人之歌泣。志虽不正,而声律尚有节也。故闻《河满子》而肠断,唱"大江东去"而色飞。下至"九宫之曲",《梁州序》、《画眉序》之必欢,《小桃红》、《下山虎》之必悲,移宫易用而哀乐无纪。

若夫里巷之谣,与不知音律者之妄作,如叩腐木,如击湿土,如

含辛使泪而弄腋得笑; 稚子腐儒,摇头倾耳,稍有识者,已揜耳而不欲闻。彼固率众庶之知,而几同于禽兽,其可以概帝舜,后夔之格天神,绥祖考,赏元侯,教胄子,移风易俗之大用哉,

圣人之制律也,其用通之于历,历有定数,律有定声。历不可以疏术测,律不可以死法求。任其志之所之,限其言之必诎,短音朴节,不合于管弦,不应于舞蹈,强以声律续其本无而使合也,是犹布九九之算以穷七政之纪,而强盈虚、进退、朒朓、迟疾之忽微以相就。何望其上合于天运下应于民时也哉?

不以浊则清者不激,不以抑则扬者不兴,不以舒则促者不顺。 上生者必有所益,下生者必有所损。声之洪细,永之短长,皆损益 之自然者也。古人审于度数,倍严于后人,故黄钟之实,分析之至 于千四百三十四万八千九百七,而率此以上下之。岂章四句,句四 言,概哀乐于促节而遂足乎? 志有范围,待律而正;律有变通,符志 无垠;外合于律,内顺于志,乐之用大矣。

何承天、沈约以天地五方之数为言之长短者, 诬也。宋濂、詹同之以院本九宫填郊庙朝会乐歌者, 陋也。朱子据删后之《诗》永去言存,而谓古诗无腔调者,固也。司马公泥《乐记》"动内"之文, 责范蜀公之不能舍末以取原者, 疏也。重志轻律, 谓声无哀乐, 勿以人为滑天和, 相沿以迷者, 嵇康之陋倡之也。古器之慭遗, 一毁于永嘉, 再毁于靖康, 并京房、阮逸之师传而尽废, 哀哉! 吾谁与归!

(卷一)

顾 命

老氏曰"五色令人目盲,五声令人耳聋,五味令人口爽",是其不求诸己而徒归怨于物也,亦愚矣哉!

色、声、味之在天下,天下之故也(故谓已然之迹)。色、声、味之显于天下,耳、目、口之所察也。故告子之以食色言性,既未达于天下已然之迹;老氏之以虚无言性,抑未体夫辨色,审声,知味之原也。

由目辨色,色以五显;由耳审声,声以五殊;由口知味,味以五别。不然,则色、声、味固与人漠不相亲,何为其与吾相遇于一朝而皆不昧也。故五色、五声、五味者,性之显也。

天下固有五色,而辨之者人人不殊; 天下固有五声,而审之者 古今不忒; 天下固有五味,而知之者久暂不违。不然,则色、声、味 惟人所命,何为乎胥天下而有其同然者。故五色、五声、五味,道之 撰也。

夫其为性之所显,则与仁、义、礼、智互相为体用; 其为道之所撰,则与礼、乐、刑、政互相为功效。劣者不知所择,而兴怨焉,则噎而怨农人之耕,火而怨樵者之薪也。人之所供,移怨于人; 物之所具,移怨于物; 天之所产,移怨于天。故老氏以为盲目,聋耳,爽口之毒,而浮屠亦谓之曰"尘"。

夫欲无色,则无如无目;欲无声,则无如无耳;欲无味,则无如 无口;固将致忿疾夫父母所生之声,而移怨于父母。故老氏以有身 为大患,而俘屠之恶,直以孩提之爱亲,为贪痴之大惑。是其恶之 淫于桀、跖也。

始以愚惰之情,不给于经理,而委罪于进前之利用以分其疾恶,继以忿戾之气,危致其攻击,而侥幸于一旦之轻安以谓之天宁;厚怨于物而恕于己,故曰:"小人求诸人。"洵哉,其为小人之无忌惮者矣! 知然,则《顾命》之言曰"夫人自乱于威仪",斯君子求己之道也。

威仪者,礼之昭也。其发见也,于五官四支;其摄持也惟心;其相为用也,则色、声、味之品节也。色、声、味相授以求称吾情者,文质

也。视、听、食相受而得当于物者,威仪也。文质者,著见之迹,而以定威仪之则。威仪者,心身之所察,而以适文质之中。文质在物,而威仪在己,己与物相得而礼成焉,成之者己也。故曰:"克己复礼为仁,为仁由己,而由人乎哉!"君子求诸己而已,故曰"自乱"也。

己有礼,故可求而复,非吾之但有甘食、悦色之情也。天下皆礼之所显,而求之者由己,非食必使我甘,色必使我悦也。故乱者自乱(乱,不治也),乱之者自乱之(乱,治也),而色、声、味其何与焉! 狂荡、佻达先生于心而征于色,淫声美色因与之合。非己之求,物不我致,而又何怨焉?

色、声、味自成其天产、地产,而以为德于人者也。己有其良贵,而天下非其可贱;己有其至善,而天下非其皆恶。于己求之,于天下得之,色、声、味皆亹亹之用也。求己以己,则授物有权,求天下以己,则受物有主。授受之际而威仪生焉,治乱分焉。故曰:"威仪所以定命。"命定而性乃见其功,性见其功而物皆载德。优优大哉。"威仪三千",一色、声、味之效其质以成我之文者也。至道以有所丽而凝矣。

是故丽于色而目之威仪著焉,丽于声而耳之威仪著焉,丽于味而口之威仪著焉。威仪有则,惟物之则;威仪有章,惟物之章。则应乎性之则,章成乎道之章,人五色而用其明,人五声而用其聪,人五味而观其所养,乃可以周旋进退,与万物交,而尽性以立人道之常。色、声、味之授我也以道,我之受之也以性;吾授色、声、味也以性,色、声、味之受我也各以其道。乐用其万殊,相亲于一本,昭然天地之不昧,其何咎焉

故五色不能令盲也,盲者盲之,而色失其色矣。五声不能令聋 也,聋者聋之,而声失其声矣。五味不能令口爽也,爽者爽之,而味 失其味矣。冶容、淫声、醲甘之味,非物之固然也。目不明,耳不 聪,求口实而不贞者,自乱其威仪,取色、声、味之所未有而揉乱之也。

若其为五色、五声、五味之固然者,天下诚然而有之,吾心诚然而喻之;天下诚然而授之,吾心诚然而受之;吾身诚然而授之,天下诚然而受之。礼所生焉,仁所显焉,非是而人道废。虽废人道,而终不能舍此以孤存于天下,徒以丧其威仪,等人道于马牛而已矣。故君子非不求之天下也,求天下以己,则天下者其天下矣。

君子之求己,求诸心也。求诸心者,以其心求其威仪,威仪皆足以见心矣。君子之自求于威仪,求诸色、声、味也。求诸色、声、味者,审知其品节而慎用之,则色、声、味皆威仪之章矣。目历玄黄,耳历钟鼓,口历肥甘,而道无不行,性无不率。何也,惟其以不盲,不聋,不爽者受天下之色、声、味而正也。

故求诸己,则天下之至乱,皆可宰制以成大治;设宫县,广嫔御,四饭大牢,而非几不贡。求诸天下,则于天下之无不治者,而皆可以乱。将罋牖、绳枢、疏食、独宿之中,而庭草、溪花,亦眩其目,鸟语、蛙吹,亦惑其耳,一薇、半李,亦失口腹之正。如露卧驱蚊,扑之于额而已噆其膂,屏营终夕而曾莫安枕,则惟帷幛不施而徒为焦苦也。故曰:"君子坦荡荡,小人长戚戚。"老、释之于天下,日构怨而未有宁,故喻世法于火宅之内,哀有生在羿彀之中,心劳日拙,岂有瘳与!

輔黻文章,大禹之明也。琴瑟钟鼓,《关睢》之化也。食精脍细,孔子之节也。优优大哉。威仪三千以行于天下,而复礼于己、待其人而后行也。成王凭玉几,扬末命,惟此之云,其居要也夫。

(卷六)

读 通 鉴 论^①(辑录) 王夫之

汉高帝十二

鲁两生责叔孙通兴礼乐于死者未葬,伤者未起之时,非也。将以为休息生养而后兴礼乐焉,则抑管子"衣食足而后礼义兴"之邪说也。子曰:"自古皆有死,民无信不立。"信者,礼之干也,礼者,信之资也。有一日之生,立一日之国,唯此大礼之序,大乐之和,不容息而已。死者何以必彝,伤者何以必恤,此敬爱之心不容昧焉耳。敬焉而序有必顺,爱焉而和有必浃,动之于无形声之微,而发起其庄肃乐易之情,则民知非苟于得生者之可以生,苟于得利者之可以利,相恤相亲,不相背弃,而后生养以遂。故晏子曰:"唯礼可以已乱。"然则立国之始,所以顺民之气而劝之休养者,非礼乐何以哉。譬之树然,生养休息者,枝叶之荣也;有序而和者,根本之润也。今使种树者曰:待枝叶之荣而后培其本根。岂有能荣枝叶之一日哉。故武王克殷,驾甫脱而息贯革之射,修禋祀之典,成《象》、《武》之乐。受命已末,制作未备,而周公成其德,不曰我姑且休息之而以待百年也。

秦之苛严,汉初之简略,相激相反,而天下且成乎鄙倍。举其大纲,以风起于崩坏之余,亦何遽不可。而非直无不可也;非是,则生人之心,生人之理,日颓靡而之(至)于泯亡矣。唯叔孙通之事十主而面谀者,未可语此耳。则苟且以背于礼乐之大原,遂终古而不与

① 据中华书局大字校点排印本。

^{· 362 ·}

于三王之盛。使两生者出,而以先王安上治民、移风易俗之精意,举大纲以与高帝相更始,如其不用而后退,未晚也。乃必期以百年,而听目前之灭裂。将百年以内,人心不靖,风化未起,汲汲于生养死葬之图;则德色父而谇语姑,亦谁与震动容与其天良,而使无背死不葬,捐伤不恤也哉?

卫辄之立,乱已极矣。子曰:"礼乐不兴,则刑罚不中,民无所措手足。"务本教也。汉初乱虽始定,高帝非辄比也。辄可兴而谓高帝不可,两生者,非圣人之徒与。何其与孔子之言相刺谬也。于是而两生之所谓礼乐者可知矣,谓其文也,非其实也。大序至和之实,不可一日绝于天壤;而天地之产,中和之应,以瑞相祐答者,则有待以备乎文章声容之盛,未之逮耳。然草创者不爽其大纲,而后起者可藉,又奚必人之娴于习而物之给于用邪。故两生者,非不知权也,不知本也。

(卷二)

文 帝 三

汉兴至文帝而天下大定。贾谊请改正朔,易服色,定官名,兴礼乐,斯其时矣。鲁两生百年而后兴之说谬矣。虽然,抑岂如谊之请遽兴之而遂足以兴邪?武帝固兴之矣,唐玄宗欲兴之矣,拓拔、字文之膻,蔡京之佞,亦窃欲兴之矣。文帝从谊之请,而一旦有事于制作,不保其无以异于彼也。于是而兴与不兴交错,以凋丧礼乐,而先王中和之极遂斩于中夏。

夫谊而诚欲兴也,当文帝之世,用文帝之贤,导之以中和之德, 正之于非僻之萌,养之以学问之功,广之以仁义之化,使涵泳于义 理之深,则天时之不可逆,而正朔必改;人事之不可简,而服色官名 之必定;至德之不可斁,而礼乐之必兴;忧惕而不安于其心,若倦于

Î

游而思返其故。抑且有大美之容,至和之音,仿佛于耳目之间,而迫欲遇之;则以文从质,以事从心,审律吕于铢累之间,考登降于周旋之际,一出其性之所安,学之所裕,以革故而鼎新,不待历岁年而灿然明备矣。谊之不劝以学而劝以事,则亦诏相工瞽之末节,方且行焉而跛倚,闻焉而倦卧,情文不相生,焉足以兴。故文帝之谦让,诚有谦于此也,固帝反求而不容自诬者也。礼乐不待兴于百年,抑不可遽兴于一日,无他,惟其学而已矣。

(卷二)

宣 帝①二

夫天下之为童谣者,皆奸人之造也,岂果祸福之几,鬼神早泄其秘于童稚之口哉。鸲鹆之谣,师己造之,为季氏解逐君之恶也。故童谣者,必有造之之人;即其果中于事理,如"河间姹女"、"千里草"之属,亦时有志疾恶而葸弱畏祸,师妇姑诅咒之智,喋喋于炷罋之间而已。若灵帝之国必亡,董卓之身必戮,又岂待童谣而知邪。晋文公城濮之师,势不容于姑已者也,"原田每每"之诵,恶知非楚人之反间哉。故曰:"先民有言,询于刍荛。"刍荛可询也,出其所不意而对以公也。民之访言,不可听也,先为之成言,必其荧荧而惑人者也。……

(卷十八)

① 南朝陈宜帝。

隋文帝九

声音之动,治乱之征、《乐记》言之,而万宝常以验隋之必亡。 顾其说非可一言竟也。有声动而导人心之贞淫者,有心动而为乐之正变者,其感应之机,相为循环,而各有其先后。谓声动而心随之,则正乐急矣;谓心动而乐随之,则乐固不能自正而待其人矣。倘于无道之世,按《韶》、《夏》之音而奏之,遂足以救其亡乎?不可得也。虽然,未有无道之世,不崇淫声,侈哀响,而能以《韶》、《夏》之音为乐者。于是而知志气之交相动,而天人之互为功矣。且以宝常之言,直斥何妥之乐为亡国之音,隋文何以不悦,终废宝常,而谓何妥之乐曰"滔滔和雅,与我心会",则盛世之音,必不谐于衰世之耳。其谐不谐者,天也,非人也。乃唯帝任诈以取天下,昵悍妻,狎逆子,任其好恶于非僻,则心流于邪,而耳从心尔。然则治心然后可以审音,心者其本也,音者其末与。乃何妥衰乱慆淫之乐作,遂益以导炀帝邪淫无厌之心,而终亡其国,则乐之不正,流祸无涯,乐又本而非末矣。

古先王之作乐也,必在盛德大业既成之后,以志之贞者斟酌于声容之雅正,而不先之于乐,知本也。然必斟酌于声容之雅正,以成一代之乐,传之子孙,而上无淫慝之君,流之天下,而下无乖戾之俗,则德立功成,而必正乐,亦知本也。呜呼, 自秦废先王之典而乐乱,自契丹、女直(真)、蒙古人中国毁弃法物而乐永亡。唯声音之自然者,流露于人心、耳、手、口之间,时亦先兆其治乱兴亡之理。于是乐唯天动以感人,而人不能以乐治心,召和平之气。凡先王所以治,圣人所以教,俱无可为功于天下,固有心者所留憾于无穷也。天不丧道,又恶知无圣人者兴,无师而得天之聪明,以复移风易俗之大用乎?

古之教士也以乐,今之教士也以文,文有咏叹淫泆以宣道蕴而动物者,乐之类也。苏洵氏始为虔矫桎梏之文,其子淫荡以和之,而中国遂沦于夷,亦志气相召之几也。取士者有权,士之以教以学也有经,舍其大经,矜其小辨,激清繁绕引哀怨以取偷薄,亦恶知其所底止哉?

(卷十九)

五代二六

古乐之亡,自暴秦始。其后大乱相寻,王莽、赤眉、五胡、安、史、黄巢之乱,遗器焚毁,不可复见者多矣。至于柴氏之世,仅有存者,又皆汉以后之各以意仿佛效为者;于是周主荣锐意修复,以属之王朴。朴之说非必合于古也,而指归之要,庶几得之矣。至宋而胡安定、范蜀公、司马温公之聚讼又兴,蔡西山掇拾而著之篇,持之确,析之精。虽然,未见其见诸行事者可以用之也。

孔子曰:"大乐必简。"律吕之制,所以括两间繁有之声而归之于简也。朴之言曰:"十二律旋相为宫,以生七调,为一均;凡十二均八十四调而大备。"朴之所谓八十四调者,其归十二调而已。计其鸿细、长短、高下、清浊之数,从长九寸径三分之律,就中而损之,旋相生以相益,而已极乎繁密。九九之数,尽于八十一,过此则目不能察,手不能循,耳不能审,心不能知,虚立至密至赜之差等,亦将焉用之也。蔡氏黄钟之数,十七万七千一百四十七,推而施之大钟大镈,且有不能以度量权衡分析之者,而小者勿论矣。尽其数于九九八十一而止,升降损益,其精极矣。取其能合之调为十二均足矣。故王朴律准从九寸而下,次第施柱,以备十二律,未为疏也。然自唐以降,能用此者犹鲜。过此以推之于十七万七千一百四十七之密,夫谁能用之哉。大乐必简,繁则必乱,况乎其徒繁而无

实邪?

夫两间之声,而欲极其至赜之变,则抑岂但十七万七千一百四十七而已乎:今以人声验之,举一时四海之人,其唇、舌、齶、喉、齿、鼻,举相似也;引气发声,其用均也;乃其人之众,为十七万七千一百四十七者,不知凡几也。虽甚肖者,隔垣而可别,乍相逼以相聆,似矣,而父母妻子则辨之也无有同者。是知天下之声,无涯无算,以十七万七千一百四十七该之,谓之至密,而固不能尽其万一,则其为法也,抑隘甚矣。

天地之生,声也、色也、臭也、味也、质也、性也、才也,若有定也,实至无定也;若有涯也,实至无涯也。唯夫人之所为,以范围天地之化而用之者,则虽至圣至神,研几精义之极至,而皆如其量。圣者之作,明者之述,就其量之大端,约而略之,使相叶以相成,则大中、至和、厚生、利用、正德之道全矣。其有残缺不修,纷杂相间,以成乎乱者,皆即此至简之法不能尽合耳。故古之作乐者,以人声之无涯也,则以八音节之,而使合于有限之音。抑以八音之无准也,则以十二律节之,而合于有限之律。朴之衍为七调,合为十二均,数可循,度可测,响可别,目得而见之,耳得而审之,心得而知之,物可使从心以制,音可使大概以分,其不细也,乃以不淫人之心志也。过此以往,奚所用哉?

呜呼! 王朴极其思虑,裁以大纲,乐可自是而兴矣。至靖康之变,法器复亡,淫声胡乐,爚天下之耳,且不知古乐之为何等也。有制作之圣,建中和之极者出焉,将奚所取正哉? 如朴之说,固可采也。九寸之黄钟,以累黍得其度数,有一定之则矣。而上下损益,尽之十二变而止。而用黄钟以成众乐也,不限于九寸,因而高之,因而下之,皆可叶乎黄钟之律。则九其九而黄钟之繁变皆在焉,则十一律、七调、十二均之繁变皆在焉。巧足以制其器,明足以察其微,聪足以清其纪,心足以穷其理,约举之而义自宏,古乐亦岂终不

可复哉? 若苛细烦密之说,有名有数,而不能有实,祗以荧人之心志,而使不敢言乐,京房以下之所以为乐之赘疣也。折中以成必简之元声,尚以俟之来哲。

(卷三十)

响山堂指法纪略^① 指法禁忌(节录) 徐 二 勋②

- 一忌大指甲煞声而不知避,法以甲稍转,让肉取音为妙。
- 一忌左大指按弦,将食指作圈,其为丑陋。
- 一忌擅改曲操,以示学问。或有几字而改之者,或有几句而改 之者,或有将他谱一二段而移入者,或有将古曲名而另改新名者, 欲使五音叶,音律和,难矣哉。古人作曲作操,其中自有义理,而今 之抚者,不过习其音声,忘矜臆见,此大忌也。

古琴曲传至今日,大都经人删削者不少。孰为原谱,孰为删本,不可得而考矣。亦有删好者,亦有删坏者,亦有略略删其剩字嫩句及重复者。经删而更觉精采者亦有之。亦有大曲过于冗长重沓,大加删汰而成曲者,如《羽化登仙》删本是《哲阳三醉》,《汉宫秋月》删本是《汉宫秋》,《渔歌》删本是《醉渔唱晚》是也。然此非具特识,能识作者之指不可。亦有无知妄人,谬为妄删者。总之古曲设有不尽善处,不删不可增。盖删得不当,如古玩字画之有破损。其未损处,故(固)仍未尝减色也。至于加增,如一盌清水,投入污浊,并其本来清洁之水亦浊而无还原之日矣。即使加得极佳,终非古人本来所有,且与删之字义亦谬。

① 据清蒋文勋《二香琴谱》卷五,清刊本。

② 徐二勋,名常遇,清初人,广陵琴派的创始人。

《琴学心声谐谱》凡例①(节录) 庄 森 凤②

- 一、古今谱曲,虽属名人所传,于中指法向背,多不留意,当勾者踢,用抹者挑,使人难记易忘,故悉皆改正,不致刚柔紊乱。但派有南北之分,今以琴川、白下、古浙、中州为主,并附采各省秘谱,删订折衷,庶无偏执。若以一已之音起见,则声音之道,谬以千里。
- 一、琴乃天真元韵,音出自然,不喜以文拘之,拘之则音乏滞。 其高下抑扬,如《箕山》、《洞天》、《秋鸿》、《羽化》,《潇湘》、《醉渔》、 《凤翔》、《列子》、《高山》、《流水》之类,妙自入神,焉以词合,而《阳春》、《白雪》、宣歌化理,以及《赤壁》、《滕王》、《秋声》、《鹤舞》、《湘妃》、《捣衣》、《复圣》、《阳关》之类,原取文谐音,岂可舍文而就音乎。然亦有不善谐音者,多致支离断续,概不选人。

一、鸣琴乃除忧来乐之意,其中谱名不吉,及悲愁怨悼之词,抚之转增惆怅,又违时字句,悉皆屏去。

一、予臆制新曲,或偶得名人佳句,或因鸟语风声,感怀入耳,得手应心。其谐音谱词费尽勾思,始成此帙。音律句读,弗类他声,若不发明,难于人彀。倘初习者,必借名手摹出,方可再弹。如 《太平奏》,调宜缓洪高洁;《空山磬》,须当溜亮紧弹;《云中笙鹤》, 绰注苍老;《钧天》逸响,断续新奇;《瑶岛》北韵;《还童》南音;《早

① 据清刊本《琴学心声谐谱》。

② 庄臻凤,字蝶庵,扬州人,活动年代在1664年(清康熙三年)前后。

朝》全在结构,《春思》淡以神全;《修竹留风》,吟猱细润。《禹凿龙门》,节奏从容;《普庵咒》曲,须闹中取静;《临河修禊》,以柔处蓄刚,调既逈常,弹自各异。有协韵借声者,又在临弦轻重疾徐;难弹处正是琴中骨理。必多摩弄,妙用自生。凡我知音,勿以有文而忽诸。

一、琴中小调,其音更难取于大曲。只为文词宕佚(跌),弹之有亵圣乐。若仙歌佛曲,警世良言,如《桃李园》、《陋室铭》之类,岂可同日而语耶。

. . . , . .

《北词广正谱》序^① 吴 伟 业②

今之传奇,即古者歌舞之变也,然其感动人心,较昔之歌舞更 显而畅矣。盖土之不遇者, 郁积其无聊不平之概于胸中, 无所发 抒,因借古人之歌呼笑骂,以陶写我之抑郁牢骚;而我之性情,爰借 古人之性情而盘旋干纸上,婉转于当场。于是乎,热腔骂世,冷板 敲人。今阅者不自觉其喜怒悲欢之随所触而生,而亦于是乎歌呼 笑骂之不自己,则感人之深,与乐之歌舞所以陶淑斯人而归于中正 和平者,其致一也。而元人传奇,又其最善者也。盖当时固尝以此 取士。士皆傅粉墨而践排场。一代之人文,皆从此描眉、画颊、该 谐、调笑而出之,固宜其擅绝千古。而士之困穷不得志,无以奋发 干事业功名者,往往遁干山巅水湄,亦恒借他人之酒杯,浇自己之 块垒。其驰聘千古,才情跌宕,几不减屈子离忧,子长感愤,真可与 汉文、唐诗、宋词、连镳并辔。而其中属辞、比事、引宫、刻羽, 不爽 尺寸,浑然天成,仍自雕划众形,细若毫发,而意象豪迈,不为法律 拘缚者又多以北调擅场。第所传诸剧,人握隋珠,家操卞璧,美等 碎金, 罕窥全豹。李子元玉, 好奇学古土也。其才足以上下千载, 其学足以囊括艺林,而连厄于有司,晚几得之,仍中副车。甲申以 后,绝意仕进。以十郎之才调,效耆卿之填词。所著传奇数十种, 即当场之歌呼笑骂,以寓显微阐幽之旨; 忠孝节烈,有美斯彰,无微 不著。间以其余闲,采元人各种传奇散套及明初诸名人所著中之

① 据清刊本《北词广正谱》。

② 吴伟业,字骏公,一字梅村,太仓人,活动年代自明崇祯(1628—1644)至清康熙(1662—1722)。

北词,依宫按调, 汇为全书。复取华亭徐於室所辑, 参而订之。此 真骚坛鼓吹, 堪与汉文、唐诗、宋词并传不朽矣。予至郡城,尝过其 庐, 出以相示, 喜其能成前人所未有之书也, 为序其始末云。娄东 吴伟业书。

《古 乐 书》序^①(节录) 应 扮 谦③

L

……夫乐何为而作也。民受天地之中, 秉阴阳之气, 有清浊之 声,而性情形焉。声之变有万,而不离于五,喉音宫,齿音商,牙音 角,舌音徵,唇音羽。五者备矣,无中气则不发,中气实矣,无五者 则不声,此民之具于天者也。然此五音者,唯中土之人为得其中; 九州之外,偏气所极,皆狃其一方之音而不能变;至于禽虫,则唯具 一声。圣人惧人之习于偏音,而失其中性,乃取十二月之中气,命 神瞽考中声而量之以制,此十二律所繇(由)起也。其声之下而浊 者,至黄钟而极,高而清者,至应钟而极;彼此旋宫,因时发敛,大声 不至震越,小声不至哀细;使天下之人皆以为节,听而法之,以和其 声,以平其心,然后耳目聪明,血气流行。风俗变化,师讼不兴,职 是故也。世之君子苟得此意播之干乐,用之乡人,用之邦国,出以 庄诚静正,止其淫杀,其于人心,得无小补。今乃惧复古之难,虑元 声之稍误,遂阙而不施;即有制作,亦不过施之郊庙;至乡人邦国, 宗伯不考声,学官不正律,使俗乐恣行于天地之间,以败乱人心,而 蛊惑风俗,呜呼:岂不痛哉:子曰:兴于诗,立于礼,成于乐。今学者 德之不成有以也。……

① 据《宝彝室集刊》本《古乐书》。按《四部全书》本《古乐书》无此序。

② 应㧑谦,字嗣寅,仁和人,活动年代在明末至清康熙年间(十七世纪四十年代 至十八世纪初叶)。

天下失治, 繇人材之坏; 人材不兴, 繇礼乐之亡; 识治体者类能 言之。然其亡也,一亡于亡实之人习仪以亟,一亡于任质之士高论 本原而忽于度数: 使形上之道与形下之器, 判然不合, 而礼乐遂亡。 自昔言学之儒,莫不知尚乐义,至于制度,以为职在伶官耳。一旦 朝市迁改,先王金石广也忽焉,学十家但能仿佛形似于遗书之中, 想见乐之至理,谓先王以是乐也,幽召神祗,明致异类,而惜不得与 于音容之盛也。然,当此声名文物,扫地无馀,而犹有迂杂之儒,泥 今乐犹古之说,以荡废国常,使淫声杀象浃兴而不已;幼子童孙,日 习于败佚之风,乃欲天心厌乱,此何时哉, ……后世乐之度数废阙 久矣。至于礼之仪文,犹见于《仪礼》,而又为王安石所废,不列于 学官。仅使学者说其意义,口谭六律,而不知其物之为方为圆; 笔 论五声,而不知其状之孰大孰小,则其所为意义者,岂非醉梦之言, 而使观者之哑然而失笑者哉,为今世教,士之急务,莫善于兴礼乐; 而礼乐之兴,必以为取士之法,使黉宫之内较德行矣, 犹必日教以 礼乐之仪文度数而进退之,庶天下之习此者众矣。 夫拜跪揖让,非 即敬也,而不可谓不敬于袒裸;咏歌弦诵,作即和也,而不可谓不和 于嘂呼。文犹质也,不亦信乎: ……

竟 山 乐 录[®](节录) 毛奇龄®

先臣尝曰: 乐未尝亡也。乐者人声也。天下几有人声而亡之 之理。自汉后论乐,不解求之声,而纷纶错出,人各为说,而乐谈以 亡。如乐之有五声,亦言其声有五耳; 其名曰宫曰商,亦就其声之 不同而强名之作表识耳。自说者推原元本,妄求繇历,溷元太一,必 溯其声之所自,名之所创,而至于何声为宫,何调为商;仍不之解, 至有分配五行,旁参五事,间合五情、五气、五时、五十、五位、五色, 神奇幼眇,聆其说非不卓然可听,而究之与声律之事绝不相关,此 何为也。故徐仲山曰:吾遍观乐书,而深恨乐亡之有由也。乐书谕 备,则乐逾不明。初求五声,惊为五声所始如是奥谧,而究竟观之, 仍不识五声何在: 继寻六律, 叹为六律所极又如是变化, 而究竟推 之,仍不审六律何等。则然后掩卷而慨,废书而沉吟, 束其篇帙使 高阁,而重有恨于前此之为说者也。则意者:乐之亡,即亡于为说 者乎。故凡为乐书者,多画一元、两仪、三才、五行、十二辰、六十四 卦、三百六十五度之图,斐然成文,而又畅为之说,以引证诸黄钟、 太簇、阴阳、生死、上下、顺逆、增减,以及时气、卦位、历数之学, 凿 **凿配合者,则其书必可废。何者。使观其书,而乐由以明, 五声由** 以著,六律、十二律皆由之而晓然以晰,则传之可也; 乃毕力求之, 穷竟篇帙,而按之声而声茫然,按之律而律茫然,则虽欲不废而何 待已。故未求声而求器,未求器而求数,未求数而先求之度量衡之 铁、两、丝、黍、百、千、万、亿之璅璅,是皆亡乐之具。尝与杨卧论乐。

① 据商务印书馆《丛书集成》本。

② 毛奇龄(1623-1716)。

杨卧曰:曾延一工归除者,踊跃操算,剖判尘眇,以为能事,及算竟而乐殊不然。于是呼工师截竹,把绳弹组,摹揣雕琢以受声,且牵合古尺,考核旧琯,备尽心想耳目之巧,裁设管器,甚以为得计,及裁竟而乐又不然。然后知迁、固以后,京房、郑元(玄)、张华、荀勗、范镇、房庶、王朴、李照、陈旸,以及近代之韩尚书、郑恭王、杨主事辈,凡言铸钟均弦,造器算数,皆欺人之学,不足道也。……

(卷一)

声 律

乐只五声,加四清声为九声,加二变声为七声,合七声、四清声、一变清声为十二声,故五声十二律而声尽矣。若六十律,则人声无此数,曲调无此数,器色无此数。此妄人所为。而视其说者,又推而至百四十律、二百十六律、三百律、三百六十律、一千八律。夫推之万律,亦有何难,而世无此声,当奈之何?

(卷一)

乐器不是乐

宋儒论律吕,只讲乐器。明郑世子、韩邦奇诸说皆然。信此,则假有舜时乐器于此,便是《韶》乐矣。乃隋何妥谓《韶》乐在齐,见于《论语》;秦始皇帝灭齐,《韶》乐传于秦官;暨汉高灭秦,《韶》乐尚在汉。汉高改《韶》乐为《文始乐》,以示不相袭也。则是舜时乐器,汉尚未亡。而秦皇汉武,俱未闻能兴古乐何也。即此亦足以见考数制器之无所用矣。何妥又云:汉《五行舞》,即周《大武》之乐,文景昭宣历改其名。隋时去古未远,其说必有所据。然而两汉之乐,既非《箫韶》,又非《大武》,则是乐舞并存,仍不是乐,何况乐器,又何况

铢黍尺寸,但求制器,全然未成一器者,而便谓古乐在是,抑何不自 揣量,大言不惭乃尔乎!

(卷三)

乐书不是乐

《汉志》曰:"周衰,礼乐俱坏,乐尤微眇,以音律为节。" 性云: "以其道精微,节在音律,不可具于书。"此言乐全在声,非乐书所能传也。又云:"六国魏文侯最好古乐。有乐人窭公,在汉文时尚存,(桓顷《新论》云: 宴公年百八十岁。)献其书,乃《周官》大宗伯之大司乐章也。"夫大司乐章有用乎。至汉武时,河间献王尤好乐,遂与毛生等采《周官》及诸子书言乐事者,搜讨乐义,作《乐记》一篇,然于汉世乐毫厘无补。夫《乐记》言乐,亦甚娓娓,后人读之,亦尚发奋感兴,有志古乐。乃明著其书,而全不是乐,何则。非乐声也。独《志》中所载诸经篇目,其于歌诗二十八家中,有《河南周歌声曲折》七篇,《周歌谣诗声曲折》七十五篇,此必传周时歌诗之声之曲折,而惜徒有其书目,而书不传耳。然则乐书不言声,虽《乐记》犹无用,况其他矣。河南者,西周之名。《史记》周考王封其弟于河南,为河南桓公,故西周名河南。其后分东、西周公以此。

(卷三)

乐不分古今

古乐有贞淫而无雅俗,自唐分雅乐、俗乐、番乐三等。而近世论乐者,动辄以俗乐为讥,殊不知唐时分部之意,原非贵雅而贱俗也;以番乐难习,俗乐稍易,最下不足学,则雅乐耳。故考伎分等,反重番乐,其能习番乐者,即赐之坐,名"坐部伎";其不能番乐,则

降习俗乐,不坐而立,名"立部伎";若俗乐不能,则于是斥习雅乐, 不齿于众,雅乐之贱如此。诚以雅乐虽存,但应故事,口不必协律, 手不必调器,视不必浃目,听不必谐耳,尸歌偶舞,聋唱瞎和,如此 而曰雅乐,雅乐诚亦可鄙。乃儒者论乐,则又昧先古之意,贵雅贱 俗、쬏结不解。试问今论乐之儒、亦曾读《周礼》平。《周礼》旌人掌 教舞散乐、夷乐。散乐,野人之乐,非官乐,即后所名倡乐、俗乐 者。夷乐,即番乐。夫以倡乐、番乐,而先王设官而肄习之,此未尝 有梨园、高头教坊为之先也: 然且复设缺师, 使掌缺乐, 给祭祀燕 飨;或曰"袜乐",即舞乐,非歌乐也。而提楼氏掌夷乐声歌,凡祭祀 大燕,则吹而歌之。则夫倡乐、番乐之声,先王全用之人太庙,登明 堂,与郊庙燕飨大乐后先并奏。岂非以乐重人声,人声苟善,虽俗 乐、番乐,在所必取。而况九洲之大,四海之众,人声呕哑,不绝于 世,一吟一咏,皆宜䌷绎,所谓礼失而求之野者。翻以金元曲子,陋 习锶鄙,偶一失口,便嗤俗乐,则夫以人人自具之声而当身失之,谓 之自暴; 以人人可见之理而蒙昧甘心,谓之自弃,自暴自弃,尚何论 乐。故设为雅俗之辨,欲使知音者勿过尊古,勿过贱今,谓当世之 人为今人,不为俗人,谓今人之声为人声,不为今声,则于斯道有庶 几耳。

(卷三)

或曰:既知古乐,则必知古音。古音毕竟是冲穆夷淡,荒奥不中音节,如今琴师操古曲一种,沧沧落落,不易人耳者否?曰:不然。大抵声音唯和调恺易,圜便平善,昔人所称和平之音,汉魏人所称清调、平调,唐人所称善平弄者,便是古乐;其荒僻简奥,冲夷澹泊,以为矫异,而不善于耳,不习于听,不宛转流连于心坎之间,总是今乐。何也?三代歌曲,不及七声,祇以五声为转环。故《国语》七声,韦

王

昭注不晓其义,以为二变是文武所加,则岂文武以前, 唐虞夏商并 无变宫变徵平? 亦惟设之而不用,故不传也。故史荆轲传有变徵 之声,则北人间一歌之,以为奇变,此即北曲之所始。而汉晋以后, 仍不晓其义。至隋时,突厥皇后入中国,有白苏祗婆弹胡琵琶,始 闻七调七声,而当时尚疑其非是。故陈隋以前,不闻七音,即乐府 钟石律吕,皆无变宫变徵名色。以致牛宏、何妥、苏夔辈,极称淹博, 尚与郑译争执,以为必无七音。而郑译所据,则仍是胡琵琶所传 之调。故唐时乐官分番乐、古乐,以七音为番乐, 五音为古乐。相 沿至金章宗朝,则竟以番乐为北调,古乐为南调,北调则七声并行, 二变交作,而南调则仅周旋于五声之间,逮元而专尚北音,致设科 取土、单用北调。至元末明初、始有南曲行干世。则是古乐用五 声,今乐用七声。凡和平宛转,春容乐易,如今吴人所传之南曲,即 古乐也; 其险奥荒澹,冲僻夷穆,如道十念诵,琴师所操之古曲, 纯 以变声出调字,攒簇成音,即今乐也。试问乐工审声,自五声本调 和平之音,与七音出调乖反之音,二项之外,有三项否。自循蜚以 至今日,自东以至西,自南以至北,并不能于五声七声之外别有声。 音。而古用五声而不知,今用七声而不晓,犹谓古乐必冲拗,今乐 必和平,舍本调正音以为靡靡,而反取乖反出调者以为古,吾不知 此乖反之音,所为导志气,发幽滞,官性情,通政事何在也。嗟平 可叹己。

近世琴家,以乖反为主,东勾西劈,时按时汎,全不晓和平二字安在,只拗声劣调以为能。夫拗声劣调,即二变曲也;二变者,北曲也。然则今之琴家,亦金元北曲之馀耳。故北曲多散序,少拍序,今之琴亦多散声,无拍声,可验。少时,广陵韩山人畺,以琴游山阴。蔡君子庄悦其声,而恶其无拍,思以刊节节之,每以掌按拍,山人大怒,推琴而起曰:"此不足与言也"时座客十馀人,皆名士。子庄从容曰:"此非古音也。古凡乐必有节,几见琴瑟无拍节者?《虞书》

曰:'搏拊琴瑟以咏'。夫搏拊,节乐器也,琴无节,搏拊谓何?"各点首是其言。

•••••

(卷四)

四 存 编^①(辑录) _{颜 元}③

学 辨 二

……夫礼乐,君子所以交天地万物者也,位育著落,端在于此。 古人制舞而民肿消,造琴而阴风至,可深思也。……

(存学编卷一)

性 理 评

……譬之学琴然: 诗书犹琴谱也; 烂熟琴谱, 讲解分明, 可谓学琴乎。故曰以讲读为求道之功, 相隔千里也。更有一妄人指琴谱日, 是即琴也, 辨音律, 协声韵, 理性情, 通神明, 此物此事也。谱果琴乎。故曰以书为道, 相隔万里也。千里万里, 何言之远也, 亦譬之学琴然: 歌得其调, 抚娴其指, 弦求中音, 徽求中节, 声求协律, 是谓之学琴矣, 未为习琴也。手随心, 音随手, 清浊、疾徐有常规, 鼓有常功, 奏有常乐, 是之谓习琴矣, 未为能琴也。弦器可手制也, 音律可耳审也, 诗歌惟其所欲也, 心与手忘, 手与絃忘, 私欲不作于心, 太和常在于室, 感应阴阳, 化物达天, 于是乎命之曰能琴。今手不弹, 心不会, 但以讲读琴谱为学琴, 是渡河而望江也, 故曰千里也。今目不睹, 耳不闻, 但以谱为琴, 是指蓟北而谈云南也, 故曰万里也。……

(存學编卷三)

① 据中华书局 1957 年排印本。

② 颜元,生于 1635年(明崇祯八年),死于 1704年(清康熙四三年)。

学 乐 录^①(节录) * *3

先儒竞求中声,或算律数,或考葭灰,或欲多截管以求之。然 试问中声何似,漫无影响。夫不解中声,而欲测中声,毋论不得中 声也,即遇中声,而何以知之,而尚安测之。今观此图,中声所在, 上有六律,下有六律〔吕〕,按之人声而人声具,按之八音而八音具, 可口试,可耳审,天地元音,可凭可执,抑亦快矣。

《家语》:"子路鼓琴。孔子曰'甚矣,由之不才也。先王之制音也,奏中声以为节,流入于南,不归于北。南者生育之乡,北者杀伐之域,故君子之音,温柔居中,以象生育之气,乃所谓治安之风也。小人之音,则亢丽微末,以象杀伐之气,乃所以为乱亡之风。昔舜弹五弦之琴,造南风之诗,其兴也勃焉。殷纣好为北鄙之声,其废也忽焉。由今也无意于先王之制,而习亡国之声,岂能保其六七尺之驱哉。'子路闻之,惧而不食,以至骨立。"夫《家语》纂于汉、魏儒者,此则似因《论语》"由之瑟,奚为于丘之门"二语,遂附离以北鄙之音,以文其事。然亦可见南北分音之说,来已久矣。但其中多舛义,不可不辨焉。

北声亦有柔缓,而多忼慨奋厉。南声亦有悲奋,而多啴缓柔 亸。或是之分。但《乐记》曰:"粗厉猛起、奋末广贲之音作,而民刚 毅;宽裕肉好、顺成和动之音作,而民慈爱。"是刚柔皆善也,而其流

① 据清刊本。

② 李墿(1659-1733)。

或过刚而杀伐,或过柔而淫靡,则均失之。乌得谓南音必善,北音必恶耶。

且舜"南风"之歌,因其诗有"南风熏时"等语,故曰"南风",未必南音也。《史记·乐书》曰:"纣为朝歌北鄙之音。"朝歌者不时也,北者败也,鄙者陋也。《殷本纪》曰:"纣饮酒淫乐,嬖于妇人,使师延作新淫声,北里之舞,靡靡之乐。"后卫灵公命乐人重写其音,是乃古人所谓流嬖邪散之音也。郑卫声淫,盖本诸此,而岂北方奋厉之音耶?今因子路见责,以纣北鄙之音加之子路,而子路勇人也,遂以杀伐暴厉之音加之纣之所谓靡靡者,毋乃皆误语乎?

夫子路升堂之贤也。即尚勇不中,亦只以行行之气播之乐耳。 乌有爱纣靡淫之声而写之者乎? 诬哉! 况世传黄帝始命伶伦造十 二律,而周人所习六乐,以黄帝《云门》为首。黄帝居山后涿鹿,正北 鄙也。圣经言乐始于舜,舜生诸冯,亦北地。继而正乐者,禹、汤、 文、武、孔子,皆北人也,则中声不在北耶? 乃曰:"流入于南,不归 于北。"何也? 而更有可疑者,《韶》之雅,靡靡之邪淫,原不可同日 论也。但谓舜以南音而兴,纣以北音而亡,则妄矣。远勿论,姑论 近而可见者。明初用北曲,天下治不乱也。明末崇南曲,天下乱不 治也。是乐之得失,惟以雅淫分,不以南北判也。

(卷二)

书《乐书》序后^① 方 苞③

武帝席文、景之盛,不能损满持盈,极情纵欲,穷兵四远,佚而 不思其终,安而不惟其始。故首述虞氏君臣相勅,次及成王之恐惧 善守,以为非大德莫能如斯也。其曰:海内人道益深,其德益至,所 乐者益异,盖谓不乐淫侈而乐损减,与众人之情异耳。君子能乐损 减以自节其所乐,,然后民得沐浴膏泽,歌咏勤苦,此海内之人道所 以益深,而君德以斯为至也。其序《律书》,终于文帝之烟火万里, 可谓和乐,用此义焉耳。先王知助流政教,莫善于乐,而声之邪正, 其感各以类应,故制雅颂之声以导之,治定功成,礼乐乃兴。故汉 兴,高、惠、文、景皆未暇遑,武帝不能以此时兴道致治,修礼正乐, 而信方士,举慝礼,宠嬖倖,为新声,夜祠郊坛,男女杂歌,以流星为 瑞应,则与夫躬明堂,陈雅乐,而万民咸荡涤邪秽,以饰厥性者异 矣。夫六国以秦二世,不过以郑声自为娱,而武帝乃次马歌荐于宗 庙,汲黯所谓先帝百姓,岂知其音,盖痛哉其言之也。然自仲尼不 能与齐优并容于鲁,黯言虽切,安能遏帝之侈心,而辨延年等之妄 哉。呜呼!秦之衰,李斯犹能直谏,而弘乃以黯为当族,则视赵高 而又甚矣。股肱不良,万事堕坏,此可为流涕者与。序乐至此,则 更无可言者矣,而少孙乃疑其辞事之未终而续焉。夫《平准》 著天 变人祸,皆由兴利之臣,故以烹弘羊乃雨终;而此书痛弘以谗佞陷 其君,故以虞氏之君臣相勅始。是二书之义法也,而少孙未之或 知邪!

① 本篇及下篇均辑自《望溪先生文集》卷二《读史》。据商务印书馆《四部丛刊》

本。 ② 方苞(1668—1749)。

神生于无形,成于有形,然后数形而成声。故曰:神使气,气就形。形理如类,有可类,或未形而未类,或同形而同类,类而可班, 类而可识。圣人从天地识之别,故从有以至未有,以得细若气,微若声。然圣人因神而存之,虽妙必效情,核其华,道者明矣,非其(具)圣心以乘聪明,孰能存天地之神,而成形之情哉。神者物受之,而不能知及其去来,故圣人畏而欲存之,唯欲存之神之,亦存其欲存之者,故莫贵焉。

神者,乐之精华,所以动天地、感万物之实理也。生于无形者,太虚之细缊也。成于有形者,播于乐器,然后声生而神寓也。数者,十二律三分损益之数也。播于有形之乐器,然后其自然之数一一形见,而成宫、商、角、徵、羽之声也。神使气者,以天地之神而运于人之气也。气就形者,以人之气而就乎乐器也。凡音之高、下、疾、徐,皆以人气之大、小、缓、急,调剂而成,故曰:就也。既播于乐器,初无宫、商、清、浊之可别,所谓未形而未类也。既播于乐器,则钟、磬、管、弦,凡同形者,音必相似,所谓同形而同类也。然虽同形同类,而一器之中,其音之清、浊、高、下,又各自有别。类而可班者,制器而可别其度也。类而可识者,审音而可识其分也。凡此皆天地阴阳之理,自然而有别者也。圣人知天地之理,而识其所以别者,故能从有以至未有,而得细于气,微于声者,所谓神也。有者,器数之既形也。未有者,器数之未形也。声气辨于既有器数之后,而神存于未有器数之先,故从有以至未有,然后可以探声气之本,而

而得其神也。然圣人虽识天地之神,而苟无以存之,众人不能用也。故制为器数以存之,则其理虽微妙,必因器数而各效其情矣。效者,呈也。情者,实也。华者,器数之形。道者,神理之运也。核其器数而无差忒,则神理之运亦可得而明矣。非天地之神本具于圣人之心,而作律之圣人,又乘其聪明之独擅,以核乎器数之分,岂能存天地之神,而使声气之实理,各效于器数之中哉。圣人辨器数以著声音之实理,所谓成形之情也。神者,天地之所以鼓物,故神之去来,物之衰旺视焉。而物常受之而不能知,如闻声知胜负,而胜者负者不自知也。审乐知兴亡,而兴者亡者不自知也。而其情毕效于声乐,故圣人畏而欲存之。唯欲存之,故设为器数,而神亦于是乎存其欲存之者。圣心聪明之所寓也,故莫贵焉。

律 吕 新 论^①(辑录) 注 永^③

声音自有流变

凡声,气也,人亦气也,同在一气之中,其声自有流变,非人之 所能御。古乐之变为新声,亦犹古礼之易为俗习,其势不得不然。 今人行古礼有不安于心者,则听古乐亦岂能谐于耳乎。耳不谐,则 神不治。神不治,则气不和。不洽不和亦何贵于乐。若曰乐者所 以事神,非徒以悦人。则亦不然。凡神依人而行,人之所不欣畅 者,神听亦未必其和平也。故古乐难复,亦无容强复,但当于今乐 中去其粗厉高急、繁促淫荡诸声,节奏纡徐,曲调和雅,稍近乎周 子之所谓淡者焉,则所以欢畅神人,移易风俗者在此矣。若不察乎 流变之理,而欲高言复古,是犹以人心不安之礼,强人以必行也,岂 所谓知时识势者哉。

(卷下《律吕余论》。下同)

俗乐可求雅乐

俗乐以合、四、一、上、勾、尺、工、凡、五、六十字为谱,十二律与 四清声皆在其中,随其调之高下而进退焉。所谓雅乐,亦当不出乎 此。为雅乐者,必深明乎俗乐之理,而后可求雅乐。即不能肄习于 此者,亦必与俗乐工之稍知义理者参合而图之。未有徒考器数,虚

① 据商务印书馆《丛书集成》本。

② 江永(1681-1762)。

谈声律而能成乐者也。宋世制乐诸贤唯刘几知俗乐,常与伶人善笛者游。其馀诸君子,既未尝肄其事,又鄙伶工为贱技,不足与谋,则亦安能深知乐中之曲折哉。判雅俗为二途,学士大夫不与伶工相习,此亦从来作乐者之通鬼也。

乐器不必泥古

声寓于器,器不古雅则声亦随之。然天下事今不如古者固多, 古不如今者亦不少。古之笙用匏,今之笙用木。匏音劣于木,则亦 何必拘于用匏,而谓八音不可缺一乎。古之木声用柷敔,后世节乐 用拍板,而雅乐犹用柷敔。柷敔之音粗厉,拍板之音清越,则亦何 必不用拍板乎。后世诸部乐器中,择其善者用之可也。

度量权衡不必泥古

古法度量权衡皆受法于黄钟,天下皆欲其齐同。古之度量衡相去不甚远,故齐之犹易。后世度长,量大,权重,与古悬殊,民间用之既久,势难改易。千里之内,三者必不能同,而民俗便之。远方之懋迁者,正因度量衡之不同,而计其锱铢以收赢馀之利,则不同不足为病,正所以为利也。宋政和间作大晟乐,以律尺及斗斛秤新式颁行天下,限以日月,令天下尽毁旧器,不从令者许民首告,其扰民不已甚乎。后之作乐者,律成而制三器,藏之内府以备他日之校勘可也。若民间所用,固当听从民便,毋斤斤于法古,似亦事势之宜焉已。

乐经律吕通解^①(节录) 注 ½®

乐记或问

或问《乐记》一篇之旨。曰:《乐记》大旨不外"慎所感"三字之 意。盖人心体用不外感寂二端。方其寂也,一理涵于太虚,无善恶 邪正之可言。及物之所感, 顺逆互投, 而心之感于物也, 亦因以百 虑殊途而不可胜纪。感应之交有相得不相得,而七情以分,应物之 情有理义形气之分,而邪正是非异矣。然感寂非二端,体用不相 离。由平中而应平外,制于外则所以养其中,则感之不可不慎也。 人性不能无动干感,此由中应外之理也。慎所感以养干正焉,则制 外养中之道也。曰: 慎所感之必于乐,何也。曰: 人心之用也,不外 视听言动矣。目之于色也,耳之于声也,口之咏歌也,身之舞蹈也, 皆天性也。然天理之心,微而难见,而声色之感,动则易流。得其 天理之正,则视色听声,咏歌舞蹈,何莫非天理之存。一动干形气 之私而不知自反焉,则声色之流乃或至诬上行私而不可止。情之 发于声色者,既有邪正之殊,而声色之感人也,又相与屈伸往来干 无穷。淡则欲心平,和则躁心释,以正感人,而人胥化于正也。妖 淫以导欲,愁怨以增悲,以邪感人,而人亦胥化于邪矣。先王知声 色之迭感为无穷也,于是定为淡和中正之声容,以养人之耳目而感 其心,使咏歌舞蹈之,以与之俱化;而妖淫愁怨之音,则放之使不得 接焉: 是先王慎感之道也。曰: 然则篇中又以礼并言何也。曰: 礼

① 据清刊本

② 汪烜(1692--1759)。

乐政刑,其致一也。乐之节即礼,礼之和即乐。礼不和,不可为礼, 乐不节,不可谓乐。篇中所以每合言之也。然则其分何也。曰:以 其和言之,谓之乐,以其节言之,谓之礼。如子尽其为子,父尽其为 父,此礼之节也。子子,则孝其父矣;父父,则慈其子矣,是乐之和 也。曰:父慈子孝,何当于声色歌舞也。曰:人非貌言视听,何所为 物我之交。声色歌舞之外,又何所为慈孝哉。故下气柔声,所以乐 亲之耳也,愉色婉容,所以乐亲之目也。动于己之心志貌言,感乎 亲之耳目心思,乐之所为统同也,何莫在是。曰: 若是,则自尽其别 异,乃有以统同,礼先而乐后矣。而篇中又每言乐从天,礼从地,乐 著始,礼居成,何也。曰: 先乐后礼,天之道也; 先礼后乐,人之道 也。维天之命,于穆不已,而乾道变化,各正性命矣。父子兄弟,一 本而分,是以其情之挚也,要惟各尽其分焉。而后情有以相洽,则 人道之当然也。自同而异谓之性,自异而同谓之教。和则序矣,序 则和矣。曰: 然则礼乐皆性情之德耳,而作乐必本于律吕何也? 曰, 是天地之太和之所自然而著也。气化之于物也, 杂然流形, 而 物物之相值也,要必有相得而合者存。律吕之于声也亦然。人之 为声,和顺而中正,则其应乎律也,亦必春(从)容而顺序。其或愤 疾愁怨,淫泆流荡,则其于律也,亦必陵节而无序;且奸乎本宫而滥 及他律矣。是以声之合律也,此人之声与天地之气自然而相应者, 无待干强也。先王审律以定和,则定为淡和中正之音,以和民声, 以养干正,而使之毋即于淫也。曰:声则然矣,而色之于律也何居? 曰: 亦莫非此理也。五色分布于四时, 律吕还应十二月, 其错综虽 不同,而相得有合之理则一致也。

问:《乐经》二十三篇,今存此十一篇,其余十二篇者,先儒汰之与, 抑即于遗亡与, 曰:汉晋六朝之间,古书之复遗失者甚多,不独《乐经》也。而《乐经》则尤其易至于遗失。今观《乐经》所遗篇名,曰《奏乐》者,是盖古琴瑟笙磬节奏之谱也。曰《乐器》,则琴瑟

钟磬凡器之制度也。曰《乐作》,则教人作乐之法也。曰《说律》,则 十二律相生相用之法,规径长短之准也。曰《招本》、《招颂》、盖 《韶》乐之遗。是其篇盖多有谱无文,如鲁鼓薜鼓之类。即其有文 字处,亦琐碎不可读,故儒者不能传。乐教之亡,不惟秦火之咎矣。 其《意始》、《乐穆》、《乐道》、《乐义》诸篇,则未敢悬揣其义。《季札》 篇盖即《左传》所载观乐之语。《窦公》篇亦无可考,要之有遗忘,非 简汰也。当日成周制作,乐备六代,自有全书。汉初,制氏、刘氏、 及河间所得,已不过千百之什一。今又并其什一而忘之,亦可惜 矣。然遗书不多,则二十三篇之目,殆汉儒分章名题,且有失本意 者、未必所遗之旧也。孔氏谓此取十一篇合为一篇。吴氏又谓此 只删取要略,而非十一篇全文。此固无从的考。但司马迁作《乐 书》,彼在武帝时,采取已不过如此。今玩本篇,则前后一气,中间 有分有合,有提有束,有伏有应,脉络通贯,义理渊微。乃不此之 求,而必为断截区分,前后错寘,自某至某为某篇(注文略)。及按其 所命篇名,则又有未甚亲切者,不亦泥古之过乎。盖刘向所得之二 十三篇,诚未知与此合否。而此记则自成一篇,无劳附会。就本记 玩之,意味已无穷,所恨器数之亡,不必憾此篇之少也。故《正义》 所分及草卢所定,皆不取云。

问: 此篇立言之节次,可得而详言之与? 曰: 首章言乐之本由人心之感于物,而先王作乐则所以慎所感而同民心,所以总起一篇之意。次章言上之所感者有乖和,而民之所应有安乐怨怒哀思之异,故审乐可以知政,而人君不可不慎所感也。第三章言惟君子能审音知乐,故反躬自修,以立礼乐之本,然后制为淡和之乐以感人,即首章同民心出治道之意也。第四章复言性情之德,寂然不动,感而遂通,惟所感之不慎,则其流将至于穷人欲灭天理,故先王制礼乐,人为之节,则好恶平而人道正。此又即首章之旨而详言之也。第五章则承第四章而言先王制作,成功所合与天地一。第六章又承

第四章而言先王制作、效法所本原于天地。第七章又承五章六章 之意而深赞之,见礼乐非有两事,以通结上六意之意。自首章至此 为一段,皆言礼乐之本原,所以明先王制作之由也。第八章言圣王 作乐,本其所自乐者而广之天下。因举六代之乐,以见乐之所著即 德之所存。盖亦即首童慎感之意,而将以本之君身言之,又以起下 六章也。第九章言先王以礼乐为教,所以法天出治而使民象德。 第十章承上章而言先王稽度数,制礼义,以尽制作之详,所以感人 深。十一章承前章而言先王反情和志,比类成行,以立制作之本, 所以移风易俗易。十二章言乐必本于德,不可为伪。十三章言德 之形见于乐,足以化民。十四章又合礼乐之体用,而推言其化成之 功赞助天地,以通结上六章之意。自第八章至此为一段,皆言礼乐 法度之详,本身之德,所以详先王制作之实也。十五章言礼乐有本 末精粗之体,而其成于人也,有德艺行事之殊。盖将以学者之事言 之,又以起下四章之意也。十六章,子夏论古乐,十七章,孔子论 《大武》,皆审于器数声容之中,而自得于器数声容之表。所以为贤 圣之干乐,而非童子、有司、宗祝,瞽矇所能与者。十八章言君子致 礼乐以治身心,则德行之所以成,而由本身加民,又盛治之所从出 也。十九童又合礼乐之体用而言其本原之一致,以通结上四章之 意。自十五章至此为一段,皆言礼乐有本末精粗,而君子淑身,贵 得其形上之理,所以详言学者节礼和乐之功也。第二十章复言乐 本平人情,以申先王作乐之旨。二十一章又引子贡问乐,以申学者 成德之事。是此篇之大凡也。

问首章之说。曰:此章言乐之本由人心之感于物。物之所感有顺逆,而情之应物以成声者亦以殊途,是足以见所感之不可不慎矣。故先王制为礼乐政刑,皆慎其所以感民之道也。曰:声相应,故生变。旧注谓声之辞意相应,自然生清浊高下之变,非与?曰:声至成方时,始有清浊高下,辞意相应,未便见其变也。且应字正

从感字来,则可知是言声与物相应,非声之辞意相应矣。声相应,故生变,便是次节之意。次节乃承此二语而详言之,以起慎感之意,旧说失之。曰:哀乐喜怒爱敬之情,何得何失,曰:六者各有得失,此只以见情因物感,声以情变,以见感之当慎耳,不以六情分得失也。问:乐以和其声,刘氏谓和其声之所言,使无乖戾,是以乐来和民之声否,曰:刘垓孙亦未见得明白。乐是情之不可变者,礼是理之不可易者。是将那礼来感人,使人志有定向;将那乐来感人,使人声无乖戾。如此说,方见是慎所感。

问次童之说。日:此童言声音之道与政通,正以见感之不可不 慎也。曰:政统礼乐政刑言,夫声成文而为音,音被管弦而为乐,是 音乐固下所以应也,而又为上之所以感乎。曰:人以感物而有声, 而声又足以感人, 屈伸往来, 非一端可泥也。是故喜者笑, 而闻笑 者皆欲笑,哀者哭,而闻哭者皆欲哭,上之感下非一端,而乐为易, 下之应感非一事,而音为著。礼乐政刑,皆感之具。上有好者,下 必有甚焉者。下之诬上行私,实上之新声艳冶必有为之倡者也。 声音之道与政通,又欲为上者察于音以修政。如下章所云,非只云 政失而音慢已也。曰: 五声之序,相生之法,与五行不合,何也? 曰: 五声是个倒数(注文略),其皆以宫定,则犹五行之皆以土成也。 曰: 律以定声, 律定则声定矣, 乃与政通, 而有怙懑陵慢者, 其即律 之乱与。抑律虽有定而不足以正音与。曰: 律之于声, 有定而难定 者也。声之应律者其常,然琴弦大小有定纶,琴徽远近有定度,而 紧慢异调,阴晴又变。笙簧重轻,亦有定律,而调时又须点过,是声 有不应律时也。箫管之孔有定,而吹之徐疾轻重失宜,则音又变, 以人气未和也。孔子既祥,五日弹琴而不成声,哀意未平也。周景 王铸无射,伶州鸠知其心疾,师旷吹南风,知楚之不竞,隋文帝新乐 成,老乐工投器于地,此中感召于微,有非律所能定者,浅陋者不识 也。曰: 佔懘与慢, 亦有不同否。曰: 怗懘者, 障碍之意。声律大

概是和,却偶一二声不合,便怗漂。若乱,则此声全不肯应律。如 琴七弦,有一弦全然不调也。然不止是不调,有音甚好听而实不合 律者,此更不易知。慢、则五声皆乱矣。曰,五声皆乱,便不成声 矣。然则郑卫之音全不合律平。曰:不如此说。乐贵淡和,八风从 律其声便自淡和。不和固不是正乐,不淡亦不是正乐。《周礼》禁 其淫、过、凶、慢。 曰慢者,举甚而言,不是不好听,却是忒好听,忒 好听而无分际,亦是不成声。比如元人北曲,并用七律,却黜勼用 上(知变徵,是本官所生,以上为变徵,则非本宫矣),已自越限;南曲则黜乙用 上,又无和缪(缨、变徵,和、变宫也。 余略),岂不徵角皆乱(注文略)。 况其 逖成涤滥、淫液流荡、烦声远节之间,正非逐字定律所能限,则此宫 而奸干彼宫,此律而溢干他律者多矣。至转宫换调之间,商徵之大 干宫, 徵羽之大于宫商者, 又习以为常而不知怪(注文略), 非不悦耳 也,而所谓慢者正即在此,难为不知乐者道也。曰:郑卫之音,以诗 淫故声淫与。抑音之淫慢其不尽由诗与。卫有《桑中》无"桑间", "濮上"又无其诗,则小序之引此,安知非附会与:《东莱诗记》以 《桑中》为刺淫,朱子驳之。《诗记》其果非与。曰:诗之与声,是一 是二。人之情有偏著时,虽歌雅颂,声亦怙懑,此如情有甚悲而强 向人欢笑,只益增悲。则音之陵乱固不尽关乎诗。然此一时之偶 也,诗言志,歌咏言,声依永,律和声,本末一致,未有诗不淫而声淫 者,亦未有诗淫而声不淫者。入大成殿,必不为淫亵态,演《西厢》 剧,自难作庄重声。郑卫之慢,正以其诗淫之故,所谓乐者情之不 可变者也。闲尝以《桑中》诗谱之琴,其声柔糯妩媚,恰如俗唱《玉 何郎》、《银纽丝》之类。乃知审一定和,诗志于声,有不容揜者。今 之全不知音者,既惘然于声诗之辨,而或且分声诗而二之,谓郑声 之淫不在诗,以毁诋朱子,则妄作聪明而无忌惮也。

问第三章之说。曰: 此章言乐通于政,而惟君子能知之。故君 子审乐知政,而以礼饬身,以立出治之本。礼乐之本既得于已,则

以其得于己者而制为礼乐以感民,所以教民平好恶而反人道之正, 正首章慎所感之意也。曰: 知乐则几干礼,解者多云,能知乐,则庶 几于礼,此于文意似顺。惟应氏以几训察,谓为辨析精微之意。然 其意亦祗谓能知乐则能察于礼也。子之说却又倒一解云,能知乐 而通于政者,必其能察于礼而体于身者也。其必变于旧说 何也? 曰: 知乐本难干知礼, 非深干礼者必不能知乐, 谓能知乐乃庶几干 礼,是不察乐之精奥矣。故武林之说得之。然徒日知乐则察于礼, 犹未知礼乐之先后难易者也。玩《记》一"矣"字,可见几礼自据已 能者说。盖乐中所通伦理便是礼,礼为天秩,人须是于天理上逐件 看得分明仔细,然后声人心通,而得乐之所以和与所以慢之故。若 于伦理上先察之未审,则如何可通之于乐,而审乐以知政哉。曰, 如此,则亦曰察于礼可矣,必曰体之身何也。曰:非体之身则无以 实知其理,未可以云几也。曰: 既体伦理于身矣,则君臣民事物皆 得其道,而乐自无怙懑矣,又何庸审乐知政也。曰,惟其能时时省 察,乃是其能体之于身处,若自以为皆得其道,则是不能体之于身 矣。试看舜何如人,舜时之治何如治。然必曰:"子欲闻六律、五 声、八音,在治忽,以出内五言。汝听。"则此章所云,自可识矣。 曰: 知乐儿礼,便是礼乐皆得否。曰: 知乐儿礼,以知言: 皆得,以能 言。能得,便是无不序无不和。此制作以同民之本也。

问第四章之说。曰:此章言人之性情感物而动。物感无穷,而欲动情胜,不为之节,则必至于大乱,是感之不可不慎也。故先王制礼乐,以人为之节,礼乐刑政四达,尽善不悖,先王之慎所感也。贵贱等,上下和,贤否别而政均,则慎感之效。至于无怨不争,则乐达礼行之郅功也。曰:四达不悖,刘氏言四者通行于天下,而民无违悖。子之说则云,以四者达于天下,而皆尽善,无所违悖。不悖二字,不当属之民乎。曰:然。此节祗言王道备,是祗就王者制作上说,未说到民之从之也。曰:言礼乐之效,却从为同为异说起,何

也。曰:原礼乐之尽善不悖处,以将言其效,故先言所足以致效之 理也。不然,则贵贱等上下和之所以然处不见矣。曰,仁义二句, 陈氏以仁义为礼乐之辅,其未是与。曰: 立人之道,曰仁与义,道无 更出于此者,奈何反以仁义为礼乐之辅,此不知仁义礼乐者也。乐 以合情, 便是仁以爱之; 礼以饰貌, 便是义以正之。即政刑亦都是 爱之、正之之事。如此二字,紧连仁义二句,作现成说,收上文乐 文、礼义、好恶、刑爵、上截,事也;民治行,即以收上文贵贱等、上下 和、贤否别、政均,下截,效也。 云庄于本节语脉亦且未审。 曰: 末 节又从中出外作说起,何也。曰:上节为同为异,合情饰貌,尚是就 制作言。此言中出外作,必易必简,则据自然道理言,无复制作之 迹矣。以将言其效之臻其至,故先言其理与天地同也。曰: 刘氏以 情意安舒为静,威仪交错为文。子以和而节为静,严而泰为文。何 也。曰:礼而曰文,自易说,乐而曰静,便难说,是当会其意矣。乐 者,情之动于外者也,驰于外,便不静了。惟其由中出,则静亦静, 动亦静。和而有节,故说是静,静便是坦易处。若动而失其中之本 然,便险陂去矣。礼本是静物事文,非威仪交错之谓,乃顺理成章 之谓。若说到仪文上去,则下文简字直接不上。盖礼而烦琐拘急, 便不文了,惟其顺物之理而作,则从容不迫,故说是文,文便是简能 处也。易简二字,实就礼乐说,不必言如乾之易,如坤之简。刘氏 虽未尝说错,却少发明。大抵此节将礼乐都说到至处。曰: 合父子 之亲一段,刘氏依本文说,谓乐之达乃天子行礼之效,子独取应氏 说何也。曰:解经须以辞意顺适为得,应氏说自是坦易。若如刘 氏,则委曲费辞。且此节皆言礼乐之效之至,不必又专以行礼归本 天子。乐自有乐之实,亦难说乐之达于天下,乃天子行礼之效。

问第五章之说。曰:此章承上章易简,而言成功之所合也。同和,易也;同节,简也。百物不失,和之至也;祀天配地,节之效也。祀天祭地,乃天地位之意。言祀天祭地,以叶韵耳,非谓以此礼单

去祭天地也。明有礼乐,幽有神鬼二句,总收上四句。如此二字,即连明幽二句作现成说,言幽明之符合一理如此,则四海合敬同爱矣。合敬,即上章四海之内,合父子之亲,明长幼之序,以敬天子也。同爱,即上章暴民不作,诸侯宾服,兵革不试,五刑不用,百姓无患,天子不怒也。殊事异文二句,又以礼乐之事理言,以起下文也。敬爱之情同,故明王相沿,而殊事异文,则事与时并,名与功偕。盖维天之命,于穆不已,物之所为,并育并行,而乾道变化,各正性命,道之所以不害不悖也。礼乐亦此理而已。然非圣人不能与也。曰:章末以明圣述作言何也。曰:明述只带言,殊非章意所重。陈氏多作徵实,欲没要紧。

问第六章之说。曰:此章承前童同异,而言效法之所本也。观 天地之和,则有为同之理;观天地之序,则有为异之礼。百物一本 而化, 斯有相亲之仁; 群物万殊之别, 斯有相敬之义。故圣人因天 以作乐, 法地以制礼也。过制二句, 即前章乐胜则流, 礼胜则离之 意。不明于天地之序和,故有过制过作之失。故必明于天地,然后能 兴礼乐。情、官,乐之所以合情;质、制,礼之所以饰貌。若夫以下, 推之以与民同,则所以等贵贱和上下也。盖序和之道,百世无敝, 而穷变通久,与时偕行。若徒沿袭成迹以为礼乐,则末流之失,必 至于乐过而忧,礼粗而偏矣。故非大圣之明于天地,不能敦乐而无 忧,礼备而不偏也。曰:过作,过制,刘氏意属造化言。曰:有制作 字, 便是就人事言矣。刘氏云:"如阴过则息, 阳过则亢。"看他如 字,亦是就人事言,但少发明耳。曰:"论伦无患",刘氏云:"论者, 雅颂之辞,伦者,律吕之音。辞足论而音有伦,故至和而无患害。" 子之说似泛。曰: 只就训诂言,则刘说似胜,却不知拘在声律上言 乐,便失此章之旨。大概情、质、官、制,只就礼乐本然道理言,未涉 诗律上事。上节言天地本然序和,此言人心本然之序和也,故论伦 只是言行。至若礼乐之施于金石以下四句,方是说先王之制作而 用之民,则"此所以与民同",此字正指情、质、官、制言。谓推此以 与民共由,正所谓节民心、和民声、合情饰貌、等贵贱、和上下之事 也。 先王以礼乐感民, 正要人皆论伦无患, 中正无邪。 情、质、官、 制,又即在金石声音祭祀之内。而方氏刘氏却谓情、质、官、制其义 难知,声音祭祀其数可陈,故众人所共知,则大失此意之旨矣。且 情、质人所同有之德、官、制亦人所共有之情、非如他处说礼乐到深 微奥妙,为众人所不能知者。《记》言'所与民同',分明说与民共 由, 非言民所同知也。若情、质、官、制意为民所不能知,则先王 亦乌用是声音祭祀虚文,而谓为礼乐之教哉。曰,于戚之舞四句, 陈氏云"干咸、武舞,不如《韶》舞之尽善尽善,故非备乐;孰烹而祀, 不如古者血腥之祭为得礼意,故云非达礼。"此亦似重本之意。曰: 如陈说,则全是偏枯之论。《记》明言礼乐不相沿袭,又奈何独美血 限而薄熟烹,舜舞于羽干两阶,《韶》舞何尝不用干成。盖此节《记》 意,与《礼器》礼之近人情者非其至,及《郊特牲》不可同于所安乐之 意,都大不相似。《记》意以王者制作,效法天地之序和,其所推以 教民者,在干情、质、官、制,而非徒干戚熟烹之末耳。熟烹非达礼, 血腥又何尝为达礼哉。唯礼乐有其情、质、官、制,而非徒干戚熟烹 之末,故礼乐之文,帝王不相沿袭。苟徒以干戚之舞为乐,则逐外 所流,必至于忧;以熟烹而祀为礼,则粗迹所循,必至于偏,而皆忘 其情、质、官、制矣。敦乐而无忧,仍是论伦无患。礼备而不偏,仍 是中正无邪。此旨云庄全未梦见。曰:子谓上章及此章皆承第四 章之说而申言之,意思固甚好。但上章"礼乐之情同"以下,此章 "干戚之舞"以下,似觉又生枝节。曰:事与时并,正是成功之与天 地合, 敦乐备礼, 推以教民, 正见效法所本之精微。但旧注往往不 得其意耳。

问第七章之说。曰: 此章言天地之序和即本然之礼乐,而圣人 之制作一天地之序和,是效法天地者即还而赞助天地,所以总结上 六章之意也。自节首至"义近于礼",言效法所本,自"乐者敦和"至 "天地官矣",言成功之合。天尊地卑节,申言天高地下,万物散殊,而 礼制行。地气上齐节,申言流而不息,合同而化,而乐兴,皆言效法 所本也。化不时节,合上二节而结之,见礼乐之相须一致也。末节 则复言成功之合与天地一,是先王之所以化成天下也。曰:天高地 下二节,陈注言:造化示人以自然之礼制,自然之乐情。意皆属天地 言。刘氏言: 圣人法之则礼制行,法之而乐兴。是以礼行乐兴属圣 人言。二说意稍不同。子注似用陈意。然以义近于礼以上为效法所 本,乐者敦和以下为成功所合,则仍用刘意,何也。曰:正以义近于礼 以上为效法所本,乐者敦和以下为成功所合,故礼制行乐兴,当且就 自然说,未及圣人之法之也。观下二节《记》意,可见。但近乐近礼 二近字,刘、陈俱未得其解。曰:天尊地卑节,陈注俱言圣人制礼, 取法于尊卑,云云。是实就圣人效法言,章句独且悬空说理,何也? 曰: 此只当如应氏说。观结句云, 礼者天地之别, 只就现成说, 可 见。且此节阑人圣人制礼事,下节却阑不入圣人作乐事。即如本 节首六句,可云圣人定君臣,取法于天地;位贵贱,取法于卑尊。至 性命不同句,则必不可云同性命取法于方以类聚,物以群分。况在 天成象二句,其下直接天地之别,是原未尝以取法言。陈氏强填入 衣冠旗裳等语,不已浅狭而徒添注脚乎! 化不时节,亦尚是据自然 道理言。故曰天地之情,乃遽以制作得失言,亦未是也。曰:末节: "著不息者天也,著不动者地也",应氏意就天地之昭著言。子则 云,天地之不息不动,圣人以礼乐著之,是礼乐亦天地而已。此 意自精妙, 然则一动一静, 天地之间, 亦是将礼乐合到 天地说。 曰:然。

问第八章之说。曰:此只观舞知德一句,是一章主意,提起德字,为下六章发端。而所谓德者,即前第三章所言礼乐皆得之德是也。舜歌"南风",自乐其德也,作乐以赏诸侯,广德教于天下也。

又并列六代之乐而释之,以见其皆德之所著也。自此章以下:下章 曰,行象德;第十章,以绳德厚;十一章,奋至德之光;十二章,德者 性之端;十三章,乐终而德尊;十四章,达神明之德,章章照顾德字, 则此章之旨亦可见矣。曰:夔之制乐岂专为赏诸侯? 王氏之讥无 当与?"曰:"《礼记》一书,虽不尽醕,然要须虚心静气读之,纵稍有 说得不周密处,亦须先静察其意旨所在。若确有所偏,而且于事理 有害者,是乃不得不辨。不可先横己见为贬毁也。石梁于此书多 所辩驳,正论颇多,然未免有心少之,则自不无过当处。况此篇尤 其醕深,未容轻驳也。

问第九章之说。曰:此章言先王法天出治,因时施教,而事为之节。要必本身加民,然后为尽善。所以承上章而起下二章之意也。首节至事不节则无功,以天道之必时必节,引起王者之教事亦必以时以节也。先王之为乐三句,言乐教所以象德。豢豕为酒一节,言礼所以缀淫。故酒食者三句,总礼乐而言其旨。先王有大事,至皆以礼终,申言礼以缀淫之用。乐也者至终,申言以乐象德之事。陈本、吴本,分章分节都未是。遂至失其旨意,血脉不贯矣。章内虽教时事节并提,然教时意因上章六代之乐各殊其时而言,本章却是节事意多。缀淫而使之象德,皆以节事为教也。曰:乐似难说节事。曰:须道和而节。观下二章,乐之节事自见。

问第十章之说。曰:此章承上章而言感人深,先王作乐之事之详也。民心无常,随感而应,故音之所感有异,而民之应之者心术顿殊。乐之感人深者如此。故先王作乐,必本之以性情之正,又合之和气常行,而后发为声容,以用之而感民,则民皆可以感于正而不流于邪,是先王之乐教也。所谓善则行象德者,如此。曰:刘氏、吴氏俱谓此章申言篇首"音之生本于人心之感于物"一条之义。今如子说,则与篇首乐本之意大不相似。此何以辨之乎。曰:不难辨也。篇首言:"乐者,音之所由生也,其本在人心之感于物也。"是原

音乐之所由生,则心以感于物而声发。故历言心之所感者如此,则 声之所发者如此,心为本而声为应也。此章承乐之感人深,而言民 有血气心知之性,无哀乐喜怒之常。是言心术无常,惟感是应,则 惟音之所感,而心术随之以变,故历言所感之音如此,则心术之变 如此, 音为感而心为应也。其上下文意反复之间, 亦详味而可见 矣。况首章言声,而此章言音,音则声之已成文者矣。首章言哀 乐、喜怒、爱敬、此意言思忧、康乐、刚毅、肃敬、慈爱、淫乱,参差不 尽合也。刘氏强为分应而以淫乱为喜心之感,岂人情之喜独在淫 刮, 此尤其不可诵者也。首童感字说得广, 而应专以声言, 故其 末节慎感兼及礼乐政刑,而于乐则曰和其声。此章感字专以音言, 而应则曰心术,故末节专言作乐之事,而曰以绳德厚,以象事行。 旧注不察语脉所在,只略见文意相似,便一例混过,失之远矣。曰: 然则章末二节之说,请详言之可乎。曰: 末二节言作乐之事,今人 恐难晓,然理自平易。所谓本之性情者,指大本之性、中节之情言, 乃乐之本原出于天处。仍指血气心知而已者,非也。本之性情,是 作乐大丰脑。度数,指律吕言。礼义,则乐中所寓,自非一端。如 君臣民事物之伦则寓于声,雅颂之文足论不息则寓于诗,是皆制之 礼义。律吕之度数,便是合生气之和,制之礼义,便是道五常之行。 阴阳刚柔四句,却专以合生气之和言。四气无不和于中,则发之自 中书干外。至皆安其位而不相夺伦,则礼义之制亦无不合矣。旧 说都看不融洽。至以阴阳二句属生气之和,以刚柔二句属五常之 行,尤无意义。曰:如此说,则生气之和合,而五常之行已无庸道而 自道矣,又何必日制之礼义乎?日:不然。此须看使之二字。如律吕 得乎生气之和,人同此生气之合,要须是稽以合之,否则亦有不合 者矣。礼义即五常之行,音律即寓五常之理,要须是制以道之,否 则,亦有不由者矣。理气非两端,气非理不和,理非气不行,合和所 以道行,而道行所以敦和,交相为体用也。稽以合之,制以道之,乃 所以使之生气和于中,而五常道于外矣。生气之和,中也,天命之性也; 五常之行,和也,率性之道也,体立而用行。故曰四畅交于中,而后发作于外者,皆安其位而不相夺也。曰:理为气主,而生气之和乃属之性,五常之行乃属之情邪?曰:生气何以和,和处便是性之理;五常何以行,行处则亦性之用矣。曰:旧说:小大之称,以五声言,终始之序,以六律言。亦非与?曰:未尝不是,但宜推开稍阔。如行缀长短之类亦是,故且大概说。曰:以绳德厚,固根象德以著教来矣。以象事行一层,岂不多出枝节?曰:得之于心谓之德,见之于身谓之行,措之天下谓之事,其实一也。象事行,既象德也。绳德厚,以学言。象事行,以等言。绳德厚以涵养性情,象事行以指示礼义。立学,教也,立等,亦教也。要之慎所以感人者而已。故乐观其深,观字当读如观卦之观①,旧读如字者,非是"。

问十一章之说。曰:此章承前章移风易俗易,而言先王出身加民之本也。夫以世乱乐淫,而感之者遂灭平和之德,声气感应之理,其固然矣。以奸声感逆气而淫乐兴,则风俗必移易于不善,以正声感顺气而和乐兴,则风俗其必移易于善矣。是感之诚不可不慎也。故君子知所感之本,而必先慎之于身焉。反情和志,比类成行,使本于身者皆正声顺气,然后本已之正声顺气以著为和乐,斯风俗无不移易于善,而天下皆宁矣。盖风俗与化移易,而德必本于君身。乐行而民乡方,以君子之德为之本也。首节虽以礼乐并言,然意止主于乐。慢易犯节二句,皆以乐言,观上文总以其声二字领之,可见。旧以慝礼言,非也。"广则容奸",陈注:大则使人容为奸宄。一容字甚不妥贴。感字或作感,固自可解,然不如直用本字解,要自有味。云庄作感伤说,亦自不稳。曰:此章小大终始,与上章解又异,何也。曰:亦只一般。但上章所指该括,此则确就乐音言耳。

① 意即"观"字应读作去声。

曰:上章言心术随感而变,又言以绳德厚,以象事行,何不可言移风易俗? 此章亦言感应以类动,又何不可言感人深与? 曰:惟其感人深,故移风易俗易,事理本非两截。但感人深就乐言,故上章止言作乐之事。立之学等,亦方是以乐感人,未及其效也。移风易俗易,以效言,故此章推到天下皆宁。其言乐行而民乡方,亦是言其效也。乐之感人以音,故上章专就作乐之事言。风俗移易,要本君身,民不从令而从好,乐不可为伪,故此章必本以君子之自修,所谓乐者圣人之所以乐也,故分承而各有所主也。"

问十二章之说。曰:此章申言乐之必本于德也。曰:气盛化神, 刘氏以天地之化言,非与。曰:气盛即动四气之和,化神即感人深 而移风易俗易,通章就乐言,何独此句又撦天地来说。

问十三章之说。曰:此又申言德之形见于乐也。曰:陈氏、吴氏之注何如?曰:陈注似无可是非,却没发明。其云"以之为已则和而平"云云,则全无著落,不知其所谓以之者是以个甚。吴氏承注疏之说,以此为论《大武》之乐,以明伐纣之事,则又未免云庄之驳矣(注文略)。盖此二章皆《正义》所区分为乐象篇者,而草庐宗之,亦可见旧说篇题之不足据云。

问十四章之说。曰:此章合礼乐体用,而推言其化成之功赞助 天地,以终前象德缀淫,法天出治之意也。曰:乐施礼报,如何是以 用言。情不可变,理不可易,如何是以体言。曰:乐生反始,章德报 情,其用,动也;不可变易,统同辨异,其体,静也。曰:乐施礼报,马 氏、应氏之说无可取邪。曰:马氏以阴阳言,应氏以气象言,亦皆有 当。愚说自可包得众说,马说、应说却挂一漏万耳。曰:所谓大辂 一节,旧以为申言礼报之意,不可通与。曰:与上文全不伦类,何得 曲解。不如阙之。曰:情不可变,刘说何如。曰:道理本不错,却嫌 费辞。盖情本是同,理便有异。但情以多变而流,便不同者有之。 故情之不可变,所以统同也。事以动赜而差,便每至混去。故理之 不可易,所以别异也。只据现成道理说,意方醒豁。曰:穷本知变, 如何是合体用言。曰:穷本知变,便是乐其所自生,著诚夫伪,便是 反其所自始。此都是礼乐之大用。而其所以穷本知变、著诚 去 伪 者,则以统同辩异而不可变易。礼乐之定体,足以管乎人情也。偩 天地之情,达神明之德,则又统同别异之本原处矣。曰:穷本知变, 如何是乐其所自生。曰:此知字当训主字,如乾知大始之知。本, 性也; 变,情也。穷本知变, 言尽其大本之中, 而为酬酢万变之主 也。尽其性而顺以达之,是乐其所得以生者也。著诚去伪,犹所谓 闲邪存诚。诚者得干天以生之实理,去伪而著其诚,是则反其所自 始矣。刘氏理同气异之训,实未得其旨也。曰:大人举礼乐,则天 地将为昭,陈氏言将以礼乐而昭宣天地之理,是以法天言。子之说 直以位天地言。曰:《记》文自是现成语气也。天地䜣合以下,则又 就天地本然言,末复结言其与乐之道同归一致也。曰:如所云,则 自昔者舜作五弦之琴以下至此,语脉一贯,旧之分篇命题,俱未当 矣。"曰:"岂独此也,读古人书,只以理之是非为断,才是。论世尚 友,非必尽泥旧说,亦非故意不依旧说也。

问十五章之说。曰: 此章于礼乐中分出有个上下 先后。见学者当有以成其德行,而不徒器数之末,又以起下四章之意也。

问十六章之说。曰:此章引子夏之论乐,即示人以学乐之道也。君子听古乐而语,而道古,以修身及家,平均天下,此即德行之成而上,而至于听音,亦必且有以合之。若听其铿锵而已,则不足以语乐矣。曰:弦匏笙簧,会守拊鼓,非待击拊鼓而后作与?曰:拊鼓以节乐,非以起乐。云庄只因先鼓以警戒而有此说,非也。凡作乐,皆工歌,笙奏,皆逐字金始,石收,拊鼓居中为节(自"工歌"起,逐句有注,均略)。今人多不识也。曰:古注六纪,谓诸父有善,诸舅有义,族人有序,昆弟有亲,师长有尊,朋友有旧。子不用其说,何也?曰:纪纲只是法度字。诗云:"纲纪四方",又曰"之纲之纪",若作三

钢六纪说,如何可通?且有善有尊等字分押殊牵强。夫纪以附纲分目,即以三纲为纲,亦何必更求六纪于三纲之外?曰:淫志溺志,言音而谓之志,何也?曰:诗是乐的骨子,志又是诗的骨子,故音之滥由志之淫也。郑诗多淫,岂朱子私见哉!曰:医书有郑音之病,岂病者亦淫志与?曰:病郑声者,多是邪鬽所感惑,或痰淫所壅,如何不是淫志。然风俗与化移易,岂限郑地以淫志,郑声淫者,周末失政时耳。医书郑声之语,亦后人附会也。曰:好滥燕女,亦有微别否?曰:岂无他人,岂无他士,叔兮伯兮,驾予与行。俱见好滥景象。卫虽淫,又颇忠厚,如《静女》、《氓蚩》、《木瓜》却自见趋数语气。齐之傲僻,于诗尤易见。燕女则安于所私而已,却不至于滥也。

问十七章之说,日:此章引孔子之论《大武》,亦示人以学乐之法 也。问乐而知古人之德业、所谓于是语也; 因乐而考古人之事行, 所谓于是道古也。修文偃武,知孝知臣,知敬知弟,则修身及家、平 均天下之道于是乎备矣。是德行之所以成而上, 而非徒习其声容 也。曰: 孔子曰,"发扬蹈厉,太公之志。"则贾及时之对亦未是?曰: 此对亦不全不是。《泰誓》曰:"时哉不可失",盖发扬蹈厉是象太 公之志,而其已蚤处则亦自有及时之意。贾之对只"非武坐"句是 说错。曰:声淫及商,旧说谓《武》乐中有贪商之声,是武王贪欲天 下,故取之也。子则以商为宫商之商,何特见与。曰:以商作殷商 解,此甚不通。夫声音何所指实而见得为贪商。若说诗中有贪商 语,则又说不得有司失传之过。如闻人弹琴,日琴中有杀声,可也, 琴中有思慕声,可也。今却曰琴中欲杀某某,琴中是思某某,得乎? 经生家白纸谈乐, 凭空说向玄妙, 却未尝按之器数, 审其声音, 终 底成隔壁账。此朱子所叹为失所本也。曰:声淫及商,既闻命矣。 然则商乱当云陂,而云荒何也。曰:又不必如此泥。商声上近宫, 下近角,淫液及商,要多是宫音之滥,则谓是宫乱亦可。要之,声近

嗜杀,则君志之荒也。曰:"六成复缀,以崇天子",天子二字,或连下夹振之读。引君执干戚就舞位为说,似亦有据。曰:夹振之而驷伐,与分夹蚤进,大都是再成时事。若君执干戚就舞位,却当在始而北出时。且将天子二字属下句,则复缀以崇,语便歇后。即训崇为克,亦无义理。曰:使之行商容而复其位,旧解只引式商容闾,何如?曰:此于行字却解不去。式是车上式之,如何说行商容?且使之二字,明是使人访之矣。曰:此一大段如何都是结言迟久之意?曰:只见武王无心务武,不得已而后动的意思。

问十八章之说。曰:此章言君子以礼乐淑身之事。盖 上二章 示人即乐以穷理,此意则欲人实体礼乐于躬行也。就声容器数以 为礼乐,则礼乐有时而去身。曰:"不可斯须去身",则以其形上之道 自修而已。乐之理只是和乐,礼之理只是庄敬。穷致此和乐之理 以养心, 而不使有一念之鄙诈得以自萌于其间。如事亲则愉色婉 容必本平深爱,从兄则授几奉杖必出以因心。此即所谓统同之情。 初时未便自然,只是鼓舞以行,务要自尽其量。久之而天真日引日 出,则易官子谅之心油然而自生,胸中自有一段要如是以自快自足 的意思而发之,自无待勉强矣。凡事之出于勉然者必不能久,至于 安,则可久矣。久则天理日熟,而时措咸宜,有不自知其所以然者。 致此庄敬之理以修身,而不使有一毫之慢易得以偶设于身体,出门 如宾,承事如祭,此即所谓别异之分。外面整齐严肃,则心自一,而 无非僻之干,亦非期干严威,而严威自著矣。内和者,发乎情性之 自然而不乖也,外顺者,循平物理之当然而不违也。此即易简之理 也。膽颜色而弗与争,望容貌而不生易慢,静而民信之矣。德辉动 干内,而民承听,理发诸外,而民承顺,动而民从之也。易则易知, 简则易从,所以有亲有功也。内和外顺,德成而上,行成而先也。 平均天下,则举而措之耳。曰:颜色亦在外边,而以承内和,何也? 曰: 玩文意是如此分承。盖人于容貌犹可外饰, 而色却难伪, 则色 之根心尤切。故颜色自内和上见出。曰:此章言礼乐似悬虚了? 曰:"致字亦须从器数声容上推致来。"

问十九章之说。曰:此章合礼乐而言其本原之一致也。礼主 减,乐主盈,礼乐之体段也。礼以进为文,乐以反为文,礼乐之为用 也。不进则销,不反则放,用礼乐者之失也。礼有报,乐有反,体用 之本然也。得其报,得其反,得乎身心之自然也。礼之报,乐之反, 要归于性情之正而已,故日其义一也。旧说均无当与。曰:各有得 失,如乐之盈,因其自内达外,为人心之所喜,马说是也。刘氏以和 顺积中言,则乐德之成非复以本体言,且下文亦不得云盈而不反 矣。礼减而进,以进为文。进者,喜欢鼓舞以进行之意。若勉强拘 束,则觉礼为虚文矣。刘氏云贵乎行之以和,是也。马氏云勉而作 之,则未得其意,且有语病也。礼有报,乐有反,以礼乐之本然言。 盖礼之为体虽严,然皆出于自然之理;乐之为体虽和,然莫不有当 然之节。所谓有报有反。有者,本有也,非先王以礼济乐,以乐济 礼之说也。礼得其报则乐,乐得其反则安,以学者之有得于礼乐言。 进行平礼者久,则自得其和顺从容之致,反抑乎情者安,则自合乎 优游中平之节。礼乐本无二致,非必以乐来和礼,以礼来节乐也。 旧说多失之矣。曰: 此章似可与上章联作一章。曰: 联作一章自 可,然上章自治身心推出功效,此章自分别处合到本原。故分二 章各看,乃见意思明白。

(卷一)

乐教第七

中者,性命之正,喜怒哀乐之未发,不偏不倚者也。和者,事物之宜,牵性之自然,而发而皆中节者也。祇,敬以直内,戒慎恐惧于不睹不闻,所以致中也。庸,义以方外,必慎其独以循乎常道,所以

致和也。孝,乐其所自生,专其中和祇庸于一本之地也。友,乐其所发,而广其中和祇庸于同气,以及乎天下也。盖中和者,诚也,天道之本然也。祇庸,所以诚之,人道之当然也。孝友,则性情之最真最切而可达之天下焉者也。有是六者之质,而后可以言乐。而从事于乐,乃所以成六者之德也,故曰乐德。《虞书》所谓直而温,宽而栗,刚而无虐,简而无傲,亦即此中和之德而已耳。而性非尽物不足以兴,情非温厚不足以道,气非和平不足以讽,声非正大不足以诵,心非自得不足以言,学非浃洽不足以语,出辞气,斯远鄙暴,乃所谓乐语也。至若六代之舞,则古人盛德之所形容:听其和平之声,志意得广焉;执其干戚羽籥,习其俯仰诎伸,容貌得庄焉;行其缀兆,要其节奏,行列得正焉,进退得齐焉;动容貌,斯远暴慢矣。此所以与性情相深,而易直子谅之心油然自生,以至于手舞足蹈无非中和,斯德之所成,可以位天地而育万物也。

诵诗读书,所以格物致知而精之,以动其志也。节礼和乐,所以诚意正心而一之,以有诸身也。必曰顺先王者,一道德以同民俗,而使异端、邪说、淫、乐、慝、礼不得兴起其间,此先王之教也。后世礼既荡然,而乐教几乎不可复识。士之所习者,止在辞章诵句以弋科甲,则作乐为伶人贱工之事,士子羞执其器。而所谓乐者,又不过淫声乱色以蛊惑人之聪明,使日流于逸欲。嗟乎! 非豪杰之士,其何藉以兴起自立而底于成德也乎! 好古者盖不胜望古遥集之思焉。

古之作乐者,有"八阕"、"扶徕"、"下谋"。此殆蒉桴土鼓,而真意存矣。及夫《云门》、《咸池》、《大渊》、《六茎》、《六英》、《大章》、《磬》、《夏》、《濩》、《武》之兴,而章德象功备焉。孔子犹致意于《韶》《武》,一以尽善尽美,一则昭代典章也。《武》则诗之所存,及宾牟

贾所问,其大略有可想见。而《韶》则阙然。然观于府事之修和,则 《韶》乐所本亦若有可窥者。周以六代之乐教国子, 斯无怪人才之 盛而俗易风移矣。孔子之时,乐已残缺。然当秦之初,《韶》《武》犹 存、殆亦非全壁也。汉有宗庙大乐、郊祀乐府、房中祠乐。时河间 所献雅乐, 仅存备肄: 而朝廷所用, 实皆郑声。沿及东汉, 乐分四 部,虽律吕器数犹有存焉,而中正和淡之实亡矣。东都之乱,律吕 尽亡。魏晋而下,终莫能复焉。唐初考乐,只以金石为据,音犹近 古。太宗十二和、元(玄)宗十五和、亦一朝创制。然太宗乐舞、李 靖以为合于阵法,抑亦发扬蹈厉之已过者。元宗阅肄乐工,其拙者 乃习雅乐,而梨园杂剧、"霓裳羽衣",乃竞进焉。 斯唐德之丑,其章 之者有固然也。王朴不考金石,而专求之累黍。宋兴,乐仍周旧, 而减其声。迄后制凡数变,卒鲜折衷,则声音且无定据也。明初, 作乐定和,当时推为雅奏。然主之者非知乐之人,又不求之声气之 元以定律、则所谓雅奏者,亦终未敢信其有合也。虽在下者不无有 志之士,而聪明自用,议论日纷。秦汉以来,日流日失,大抵如斯 矣。总之,学士高谈乐理,而不娴器数声容,不娴器数声容,则虚而 鲜据,而理亦未必其尽安; 伶人役于声音,而不知义理,不知义理, 则流而忘本,而声乃日逐于淫荡。朱子有言曰:虽古之郑卫,亦不 可见矣,而况于《韶》《武》哉, 虽然,乐在人心,天运循环,或不至往 而不复也。

乐,和而已,而周子加以淡之一言,犹先进野人云也。然而节有度,守有序,无促韵,无繁声,无足以悦耳,则诚淡也。至淡之旨,其旨愈长,惟其淡也,而和亦至焉矣。广则容奸,狭则思欲,此今乐之所以妖淫愁怨也。礼法不修,政刑苛紊,纵欲败度,下民困苦,既无以为乐之本,而又以古乐为不足听也。代变新声,妖淫愁怨,此所以导欲增悲,以至于贼伦不可禁也。盖纵欲败度,则无以道五常

之行,而不淡;下民困苦,则无以合生气之和,而不和。不淡,则妖淫而导欲;不和,则愁怨而增悲。若今之填词杂曲,类或不然,是殆以贼君弃父轻生败伦教也。夫郑卫之音,先王不以乱雅乐,而梨园杂剧,恒舞酣歌,败风乱俗,费财生祸,又不止于乱雅乐已也。此盛王之所不可不禁绝者也。淫声不绝,雅乐未可兴也,谁其念之!

其辞善,则其声淡矣。盖截律候气,以求声气之元,然后以六律正五声而合之歌曲,此求天地之和以合人声之和也。必政善而后人心和平,人心和平而后诗辞皆善,诗辞既善,然后审一定和,而声律之合亦无不淡且和。此尽人事之和以合天气之和也。二者阙一焉,无以兴乐也。虽在明圣之朝,不能必人志之尽中和而歌辞皆善。故在舜犹有庶顽谗说之虑。然惟在上者有以化之,故以政之善致人心之和,又即以人心之和合天地之和,而还即乐之淡且和者,以养人心之和而化其不和,则乐之所以移风易俗也,天人体用一也。

乐盈而反则安,周子所谓淡也。后世之乐,多为盈而不反,律 吕亦然。

朱子曰:礼乐废坏二千余年,若以大数观之,亦未为远,然已都 无稽考处。后来须有个大大底人出来,尽数拆洗一番,但未知远近 在几时。今世变日下,恐必有个硕果不食之理。

又曰:今人都不识乐器,不闻其声,故不通其义。如古人尚识钟鼓,然后以钟鼓为乐。故孔子曰:"乐云,乐云,钟鼓云乎哉!"今人钟鼓已自不识。

理无精粗,道器本不相离。今人不知乐,非不知其理也,不知 其器数声容矣。非器数声容,乐之理当何所寓。此扪烛扣盘,均无 见于日也。乐在伶人,学士羞执其器,欲以言乐,难矣。且即在今 日伶人,亦几人能知钟鼓。如所云击鼓三百六十下,击钟一百单八 下,迎神送神,钟鼓齐鸣,今之钟鼓,如此而已。此所谓不识钟 鼓也。

又曰: 今之士大夫,问以五声十二律,无能晓者。要之,当立一 乐学,使士大夫习之,久后,必有精通者出。

上之所好,下有甚焉。谓知乐必无其人,此偏说也。乃古者以 乐教国子, 七子十三而学乐, 诵诗, 舞《勺》成童舞《象》, 二十而舞 《大夏》。大司乐教以六代之乐,乐师教国子小舞,此乐教之所以化 成天下,未闻以为贱而不学之者也。自夫古乐亡而新声作。新声 作者日盛,而君子恶之,恶之则羞之,羞之则贱之远之,以忘其本, 并器数而不识之。又以日从事于时文以干进取、方夜以继日而不 复暇及之。殊不知乐者,所以养人心以成其德,而先王干乐教如此 其重且周也。乐之效如此其大,乐之理如此其深,而实不外于声容 器数也。此乐之所以且亡,而三代之化所以不复与。朱子为衰世 计而日当立一乐学。盖立一乐学,则人知朝廷之重乐,而有专致其 功于乐者,且不敢轻乐;而习于器数,辨于声容,神而存之,天地之 秘,亦将泄焉,久之,必有精通者出矣。是兴乐教之一道也。顾自 有明以来,郡邑选用乐生,用之于孔子之庙,使习大成乐以祀孔子。 而乐生近乃以钱捐买,不问其人之知音与否,又不教之学宫,不循 名责实,上丁祭尊,作乐者虚无人焉。而乐生无能歌舞一字,执一 器,辨一音者,徒以市井小人滋货窦耳。是以读书之子益复贱之, 而不知其两失也。烜因谓大成乐固当再加斟酌,而歌生舞生则皆 当就选郡邑庠序生员为之。先观其人之德器何如,次考其谙于乐 律与否,乃选之以备乐生,而教之学宫之中,优其廩禄以养之,高其 等第以优之。庶使人果知朝廷之重乐而不敢轻,而执其器数,辨其 声容,以循有得于乐之理,且足以养人身心而成教也。又不但此, 凡天下之习俳优者,宜尽禁止之。取杂剧之书而悉焚之。选其通 知音律者隶养于官,而使有道有德通晓音律者作为雅乐诗章,以使 有司集俳优之人而教之,以用之祭享,用之饮燕,用之宾客远人,亦 所以绝淫声而兴雅乐也。又不但此,今天下省会市镇之所,多瞽目 弹唱之人,所唱皆淫声鄙事,合无禁止,收其人而官养之。其人颇 知音,帅教以雅乐,以备乐工,亦一以养废疾无告之民,一以复古瞽 矇之制也。夫士子习乐,以飨孔子,以求乐之理,以辅朝廷之化,以 德成而上。其若俳优瞽矇,则使之习乐之器数声音,以供朝廷郡邑 群祀及燕飨、大射、燕射、乡饮酒、乡射之用,以奉天地山川社稷百 神先民之祀,而艺成而下,以役于知乐之士。此原非列士子于俳优 瞽矇而贱之。立乐学者,其当亦若是与。若乃严之君身以立其本, 候之中气以合其和,精之度数以制其器,择其诗章,俾无杂以淫辞, 和其声音,使无奸于律吕,则非一朝一夕之至,惟在上者存心焉,无 患三代之不可追也。

(卷五)

《立雪斋琴谱》小引®注 氮②

士无故不彻琴瑟,所以养性怡情。先王之乐,惟淡以和。淡,故欲心平;和,故躁心释。"由之瑟,奚为于丘之门,"盖以其不足于中和之致也。今之弹家,余甚感焉。恣意吟猱,逖成涤滥,烦声促节,导欲增悲,是何必汙丝桐之韵,而劳人以危坐衣冠,焚香扫席欤。余于琴也,习而不工,而依咏和声,颇通其意。黟然而黑,颀然而长。盖旦暮于琴遇之,因录其所常弹及曩时自谱者辑为一帙,以免致散失,而亦用自娱。其间篇什,酌以淡和,或怡然自适,或凄以哀思,或远杳清冥,或和平广大,而要必以祇以庸,约乎中正。如或音调靡漫凶过,稍乖和淡者,皆置不录。既辑成编,遂书其首。雍正庚戌十一月已巳婺源双池汪绂识。

① 录自《立雪斋琴谱》,据清刊本。

② 汪绂活动年代在雍正 (始于公元 1723 年) 乾隆 (始于公元 1736 年, 共 60 余年)年间。

治心斋琴学练要・总义八则[®] ェ 姜®

和

《易》曰,"保合太和"。《诗》曰,"神听和平。"琴之所首重者,和 也。然必弦与指合,指与音合,音与意合,而和乃得也。和也者,天 下之达道也,其要只在慎独。

雅

喜工柔媚则俗,落指重浊则俗,性好热闹则俗,指法拘促则俗, 取音迅厉则俗,入弦仓促则俗,准绳不合则俗,气质浮躁则俗,反此 者斯为大雅。

清

清者: 地僻,琴实,弦紧,心专,气肃,指劲,按木,弹甲。八者能备,则月印秋江,万象澄澈矣。

静

静由中出,声自心生;一则调气,一则练指;调气则神自静,练指则音自静。

夙

吟猱包满、宛转,以至恰好,谓圆。 夫取音宛转则情联,包满则 音吐。轻所当轻,重所当重,则圆之至也。

坚

按弦入木,形其坚也。然坚不仅于指上求之。圣叹评《家道士

① 据清乾隆刊本。

② 王善,字元伯,长安人,活动年代在 1739 年(清乾隆四年)前后。

序》云,不意其一篇文字,只成一句。此是通身气力写得,不止争指力,腕力之与臂力也。

远

求之弦中如不足,得之弦外则有余,所谓远也。远以神行,不以气用,故气有候而神无候。

愭

鼓琴贵得情。情者,古人创操之意,哀乐忧喜之所见端也。如 弹《羽化》则得其潇洒出尘之概,鼓《山居》则得其松壑风月之情,始 见作者之意也。

看山阁集闲笔[®](节录) 黄图 髮[®]

词情

情生于景,景生于情;情景相生,自成声律。

词调

曲调可犯,而词调不可犯。词就本旨,而曲可旁求。然曲可犯而词不能创,词可创而不可犯,则知词律不若曲律之严——细于毫发,密于针线,一字不稳,一音不圆,便歪歌者之口。今人岂若古人之巧,其虽有灵心慧性,妙笔幽思,而能自出机杼,创成新调之词者,已属罕得;更欲自立门户,创成新调之曲者,未之有也。

曲调官高

《阳春》、《白雪》,言其调之高,有不可及者也。然亦不过在审音辩字之间。如字有五音:为唇,为舌,为齿,为鼻,为喉;又为撮口,为满口,为开口,为闭口,为穿牙、缩舌,为半满、半撮是也。穷工极思,纤毫不爽,即平读去,亦即清响超越,又何让其《阳春》、《白雪》之独高妙哉。

① 据清刊本《看山阁全集》。

② 黄图珌,字容之,别号蕉窗居士、守真子,江苏松江人。生于1700年(清康熙三十九年),乾隆中(1755—1775)卒。

赠 字

词无赠字,而曲有赠字。如曲无赠字,则调不变,唱者亦无处 生活;但不宜太多,使人棘口。

犯 调

割此曲而合彼曲,采集一名命之,为犯调。知音者往往为之。然只宜犯本宫;若犯别宫,音调未免稍异;即犯本宫亦不甚安者,均宜斟酌。

曲有合情

落笔务在得情,择词必须合意。如宴饮、陈诉、道路、军马、酸 凄、调笑,自有专曲。用之不得其官,虽才情生色,亦不足取也。

南北官别

南有南调,北有北音,不可混杂。如四声中上作去,去作上,入作去,上又作平,去上作平更作人等类,借音叶调,元为北曲地步,南曲断乎不宜。若南曲仿此,则声不清圆,音无闪赚,其腔裹(裹)字,字矫腔,肉多骨胜之处,又何从得而知也? 所以南、北宜别。北曲妙在雄劲悲激,南曲工于秀婉芳妍,不出词坛老手。

情 不 断

情不断者,尾声之别名也,又曰"余音",曰"余文",似文字之 • 418 •

大结束也。须包括全套,有广大清明之气象,出其渊衷静旨,欲吞而又吐者。诚所谓言有尽而意无穷也。

(卷三文学部)

鼓琴八则^{① 苏璟②等}

弹琴须要得情。情者,古人作歌之意,喜怒哀乐之所见端也。 有是情期有是声,声情俱肖,乃为有曲。然必读书论世,尔雅温文, 始能与古人之情相洽。故弹《高山》则得其逸致,鼓《秋水》则得其 幽思,会而通之,无曲不尔。若夫尘翳萦心,随手入弄,气味与古 远矣。

弹琴作歌,古人之风也。顾传曲而不传文,则歌于何作?不知所传之音,即所歌之声也。按谱清弹,须声声谐调,句句合歌,高下疾徐不啻出诸其口。《书》曰"声依永",此之谓也。若弄奇设巧,怪不成声,是显与歌谬也,何以人奏?

弹琴要按节。节之由来,已详于《琴说》矣。而所以用节之法,不可不辨也。曲有缓急,则节有疾徐,如以踢宕取音者,节在句尾,不可少也。若已起拍入奏,或一点一节,或数点一节,或节同音出,或节在音后,或音稀而节密,或音密而节稀,或无声而有节初无有拍之板者,而若或拍之,如铜壶之滴漏,不后不先,适谐其韵,是为合拍。知按节鼓琴,即数人并鼓,如出一手,节同故也。

弹琴要调气。气者,与声合并而出者也。每见弹琴者,当其慢弹,则气鬱而不舒,快弹则气促而不适,鼻鸣面赤,皆气不调之故也。然则何以调之? 日能换气即能调矣。气换于音转之时,而展宕于句段之末,音调先熟于心,呼吸直通于指,气调则神暇,一切局

① 录自苏璟《春草堂琴谱》。

② 苏環,活动年代在1744年(清乾隆九年)左右。此文为戴源写记苏璟等的议论。

脊之态自无矣。

弹琴要炼骨。炼骨之法,不仅于指上求之,有周身之全力焉。 形必端,气必肃,使筋骨有所凜而不懈。自是舒臂运腕,指节坚凝, 与作书之法无异。久而自然,举重若轻,触指皆成金石声矣。

弹琴要取音。取音之法,青山言之最精,要之二十四况,不外"清和"二字,古、静、淡、远皆从此出。但句调不明则不清,气脉不接则不和。弹时务令点点清楚,而又一气相生,段段和融,而又泾渭自别,则清而不枯,和而有节,众妙皆归矣。

弹琴要明谱理。吟、猱、绰、注,上下往来,指法所在,音韵出焉;故有同为一谱,而音韵绝不相侔者,其著谱有不同者矣。琴曲甚多,岂能曲曲皆经师授?但不明谱理,而漫为弹记,殊没作者苦心,知音者自领之。

弹琴要辨派,而后不悮(误)于所从。所谓派者,非吴派、浙派之谓也。高人逸士,自有性情,则其琴古淡而近于拙,疏脱不拘,不随时好,此山林派也。江湖游客,以音动人,则其琴纤靡而合于俗,以至粥奇谬古,转以自喜,此江湖派也。若夫文人学士,适志弦歌,用律严而取音正,则其琴和平肆好,得风雅之遗,虽一室鼓歌,可以备庙廊之用,此儒派也。辨别既明,不可不从其善者。

琴、器也,具天地之元音,养中和之德性,道之精微寓焉。故鼓琴者心超物外,则音合自然,而微妙有难言者,此际正别有会心耳。今人鼓琴率多失律,此找者显者且不讲,奚论其他哉! 余鲜嗜好,惟琴日夕与俱,非知音也,庄子云:"鼓琴足以自娱",聊以适吾性而已。吾郡曹澹参、苏琴山两先生,号称风雅,文章品概,卓绝一时,而琴学则中散之流也。与余讨论宫商律吕,实惬素心。每当春秋佳日,或促膝连床,或山崖水湄,微吟浅酌,一弹再鼓。余愧未能步其后尘,而两先生谬许为同调,甲子之冬,同人哀集曲谱付梓,苏先生阐明律吕著"琴说"

冠于篇; 余即两先生平日与余所论定鼓琴之法, 录为八则, 以附于后。言简意该, 窃谓鼓琴之法尽是矣; 由法而神明之, 庶几进道之一助也。世有解人, 当必有默契于弦徽之外者矣。 兰厓戴源书。

乐府传声^①(节录) 徐大梅^②

序

乐之成,其大端有七:一曰定律吕,二曰造歌诗,三曰正典礼, 四日辨八音,五日分宫调,六曰正字音,七日审日法。七者不备,不 能成乐。何谓定律吕, 考黄钟大吕之本, 穷宫商 徵羽之变是也。 何谓歌诗。上极《雅颂》,下至谣谚,与凡词曲有韵之文皆是也。何 谓典礼。 郊天祭地、宴飨赠答、房中军中之所官用是也。何谓八 音。金石丝竹匏土革木、古今乐器是也。何谓宫调。旋宫之六十 调,与今所存北曲之六宫十一调,南曲之九宫十三调是也。何谓字 音。一字有一字之正音,不可杂以土音;又北曲有北曲之音,南曲 有南曲之音是也。何谓口法。每唱一字,则必有出声、转声、收声, 及承上接下诸法是也。七者不尽通,不得名专精之士。然七音之 学,非一人所能兼,则亦有可分习者。律吕、歌诗、典礼,此学士大 夫之事也。其八音之器,各精一技,此乐工之事也。惟宫调、字音、 口法、则唱曲者,不可不知。然宫调大端难越,即有失传,而一为更 换,即能循板归腔,至字音亦一改即能正其读,惟口法则字句各别, 长唱有长唱之法, 短唱有短唱之法, 在此调为一法, 在彼调又为一 法,接此字一法,接彼字又一法,千变万殊,此非若律吕、歌诗、典 礼之可以书传,八音之可以谱定,宫调之可以类分,字音之可以反 切别,全在发声吐字之际,理融神悟,口到音随。顾昔人之声已去,

① 据中国戏曲研究院编校《中国古典戏曲论著集成》。

② 徐大椿,活动年代在1744年(清乾隆甲子年)前后。

谁得而闻之。即一堂相对,旋唱而声旋息,欲追其已往之声,而已 不复在耳矣。此口法之所以且变而且亡也。上古之口法,三代不 传;三代之口法,汉魏六朝不传;汉魏六朝之口法,唐宋不传;唐宋 之口法,元明不传。若今日之南北曲,皆元明之旧,而其口法亦屡 变。南曲之变,变为"昆腔",去古浸远,自成一家。其法盛行,故腔 调尚不甚失,但其立法之初,靡慢模糊,听者不能辨其为何语,此曲 之最违古法者。至北曲则自南曲其行之后,不其讲习,即有唱者, 又即以南曲声口唱之,遂使宫调不分,阴阳无别,去上不清,全失元 人本意。又数十年来,学士大夫全不究心,将来不知何所底止,嗟 夫, 乐之道久已丧失, 犹存一线干唱曲之中, 而又目即消亡, 余用 悯焉,爰作传声法若干篇,借北曲以立论,从其近也;而南曲之口 法,亦不外是焉。古人作乐,皆以人声为本,书曰:"诗言志; 歌咏 言; 声依咏; 律和声。"人声不可辨,虽律吕何以和之,故人声存而乐 之本自不没于天下。传声者,所以传人声也,其事若微而可缓,然 古之帝王圣哲,所以象功昭德,陶情养性之本,实不外是,此学问之 大端,而盛世之所必讲者也。乾隆甲子秋八月既望吴江徐大椿书 于洄溪草堂。

源 流

曲之变,上古不可考。自唐虞之"赓歌"、"击壤"以降,凡朝廷草野之间,其歌诗谣谚不可胜穷,兹不尽述。若今日之声存而可考者,南曲北曲二端而已。北曲之始,金之董解元《西厢记》,元之马致远《岳阳楼》之类。南曲之传,如元人高则诚《琵琶记》,施君美《拜月亭》之类。宫调既殊,排场亦异,然当时之唱法,非今日之唱法也。北曲如董之《西厢记》,仅可以入弦索,而不可以协箫管。其曲以顿挫节奏胜,词疾而板促。至王实甫之《西厢记》,及元人诸杂

剧,方可协之箫管,近世之所宗者是也。若北曲之西腔、高腔、梆子、乱弹等腔,此乃其别派,不在北曲之列。南曲之异,则有海盐、义乌、弋阳、四平、乐平、太平等腔。至明之中叶,昆腔盛行,至今守之不失。其偶唱北曲一二调,亦改为昆腔之北曲,非当时之北曲矣。此乃风气自然之变,不可勉强者也。如必字字句句,皆求同于古人,一则莫可考究,二则难于传授,况古人之声,已不可追,自吾作之,安知不有杜撰不合调之处?即使自成一家,亦仍非真古调也。故风气之递变,相仍无害,但不可依样葫芦,尽失声音之本,并失后来改调者之意,则流荡不知所穷矣。故可变者腔板也,不可变者口法与官调也。苟口法宫调得其真,虽今乐犹古乐也。盖天地之元声,未尝一日息于天下,《记》云:礼乐不可斯须去身。人生而有此形,即有此声,亦即有此履中蹈和之具,但无人以发之,则汨没而不能自振。后世之所以治不遵古者,乐先亡也。乐之亡,先王之教失也。我谓欲求乐之本者,先从人声始。

元曲家门

元曲为曲之一变。自元以前,歌已有南北之分,其法不传,而 声调大略亦可想见。至元曲则分宫别调,独成一家,清浊阴阳,以 别其声,长短徐疾,以定其节,宏细幽显,以分其调。其体例如出一 手,其音节如出一口,虽文之高下各殊,而音调无有不合者,歌法至 此而大备,亦至此而尽显。能审其节,随口歌之,无不合格调,可播 管弦者,今人特不知深思耳。若其体则全与诗词各别,取直而不取 曲,取俚而不取文,取显而不取隐,盖此乃述古人之言语,使愚夫愚 妇共见共闻,非文人学士自吟自咏之作也。若必铺叙故事,点染词 华,何不竟作诗文,而立此体耶。譬之朝服游山,艳妆玩月,不但不 雅,反伤俗矣。但直必有至味,但必有实情,显必有深义,随听者之 智愚高下,而各与其所能知,斯为至境。又必观其所演何事,如演朝廷文墨之辈,则词语仍不妨稍近藻绘,乃不失口气;若演街巷村野之事,则铺述竞作方言可也。总之,因人而施,口吻极似,正所谓本色之至也。此元人作曲之家门也。知此,则元曲用笔之法晓然矣。

曲情

唱曲之法,不但声之宜讲,而得曲之情为尤重。盖声者众曲之所尽同,而情者一曲之所独异,不但生旦丑净,口气各殊,凡忠义奸邪,风流鄙俗,悲欢思慕,事各不同,使词虽工妙,而唱者不得其情,则邪正不分,悲喜无别,即声音绝妙,而与曲词相背,不但不能动人,反令听者索然无味矣。然此不仅于口诀中求之也。《乐记》曰:凡音之起,由人心生也。必唱者先设身处地,摹仿其人之性情气像,宛若其人之自述其语,然后其形容逼真,使听者心会神怡,若亲对其人,而忘其为度曲矣。故必先明曲中之意义曲折,则启口之时,自不求似而自合。若世之止能寻腔依调者,虽极工亦不过乐工之末技,而不足语以感人动神之微义也。

起 调

唱法之最紧要不可忽者,在于起调之一字。通首之调,皆此字领之;通首之势,皆此字蓄之;通首之神,皆此字贯之;通首之喉,皆此字开之。如治丝者,引其端而后能竟其绪,此一字,乃端也。未有失其端而绪不紊者。人但知调从此字为始,高则人某调,低则人某调,七调从此而定,此语诚然,不知此乃其大端耳。其转变之法,盖无穷尽焉。有唱高调,而此字反宜低者;有唱低调,而此字反宜

高者;亦有唱高宜高,唱低宜低者;有宜阴起翻阳者;有宜阳起翻阴者;亦有宜先将此字轻轻蓄势,唱过二三字,方起调者。此字一梗,则全曲皆梗,此字一和,则全曲自和。故此一字者,造端在此,关键在此。其详审安顿之法,不可不十分加意也。

断 腔

南曲之唱,以连为主。北曲之唱,以断为主,不特句断字断,即一字之中,亦有断腔,且一腔之中,又有几断者;惟能断,则神情方显,此北曲第一喫紧之处也。而其法则非一端:有另起之断,有连上之断,有一轻一重之断,有一收一放之断,有一阴一阳之断,有一口气而忽然一断,有一连几断,有断而换声吐字,有断而寂然顿住。以上诸法,南曲亦间有之,然不若北曲之多。《礼记》所云:曲如折,止如槁木;正此之谓也。近时南曲盛行,不但字法皆南,即有断法,亦是南曲之断,与北曲迥别。盖南曲之断,乃连中之断,不以断为重,北曲未尝不连,乃断中之连,愈断则愈连,一应神情,皆在断中顿出。故知断法之精微,则北曲之神理,思过半矣。然断与顿挫不同。顿挫者,曲中之起倒节奏;断者,声音之转折机关也。

顿 挫

唱曲之妙,全在顿挫,必一唱而形神毕出,隔垣听之,其人之装束形容,颜色气象,及举止瞻顾,宛然如见,方是曲之尽境。此其诀全在顿挫。顿挫得款,则其中之神理自出,如喜悦之处,一顿挫而和乐出;伤感之处,一顿挫而悲恨出;风月之场,一顿挫而艳情出;威武之人,一顿挫而英气出;此曲情之所最重也。况一人之声,连唱数字,虽气足者,亦不能接续,顿挫之时,正唱者因以歇气取气,

亦于唱曲之声,大有补益。今人不通文理,不知此曲该于何处顿挫。又一调相传,守而不变,少加顿挫,即不能合着板眼,所以一味直呼,全无节奏,不特曲情尽失,且令唱者气竭;此文理所以不可无也。要知曲文断落之处,文理必当如此者,板眼不妨略为伸缩,是又在明于宫调者为之增损也。

轻 重

声之高低,与轻重全然不同。今则悮以轻重为高低,所以唱高字则用力叫呼,唱低字则随口带过,此大谬也。高低之法,详于《高腔轻过》篇。今先明轻重之法:轻者,松放其喉,声在喉之上一面,吐字清圆飘逸之谓。重者,按捺其喉,声在喉之下一面,吐字平实沈著之谓。凡从容喜悦,及俊雅之人,语宜用轻;急迫恼怒,及粗猛之人,语宜用重。又有一句之中,某字当轻,某字当重;亦有一调之中,某句当轻,某句当重,总不一定。但轻重又非响不响之谓也;有轻而不响者,有轻而反响者,有重而响者,有重而反不响者。盖高低者,调也;轻重者,气也;响不响者,声也;似同而实异,细别之自显然,但不明言之,则习而不察耳。

徐 疾

曲之徐疾,亦有一定之节。始唱少缓,后唱少促,此章法之徐疾也;闲事宜缓,急事宜促,此时势之徐疾也;摹情玩景宜缓,辨驳趋走宜促,此情理之徐疾也。然徐必有节,神气一贯。疾亦有度,字句分明。倘徐而散漫无收,疾而糊涂一片,皆大缪也。然太徐之害犹小,太疾之害尤大。今之疾唱者,竟随口乱道,较之常人言语更快,不特字句不明,并唱字之义全失之矣。惟演剧之场,或有重

字叠句,形容一时急迫之象,及收曲几句,其疾宜更甚于寻常言语者,然亦必字字分明,皎皎落落,无一字轻过,内中遇紧要眼目,又必跌宕而出之,听者聆之,字句甚短,而音节反觉甚长,方为合度;舍此则宁徐无疾也。曲品之高下,大半在徐疾之分,唱者须自审之。

高 腔 轻 过

腔之高低,不系声之响不响也。盖所谓高者,音高,非声高也。 音与声大不同。用力呼字,使人远闻,谓之声高; 揭起字声,使之向 上,谓之音高。即如同是一曲,唱上字尺字调,则声虽用力而音点 低,唱正调乙字调,则声虽不用力而音总高,此在喉中之气向上向 下之别耳。凡高音之响,必狭,必细,必锐,必深;低音之响,必阔, 必粗,必钝,必浅。如此字要高唱,不必用力侭呼,惟将此字做狭、 做细,做锐,做深,则音自高矣。今人不会此意,凡遇高腔,往往将 细狭深锐之法,变成阴调,此又似是而非也。盖阳调有阳调之高 低,阴调有阴调之高低,若改阳为阴谓之高,则阴之当高者,又何改 耶? 且调有断不可阴者,若改阳为阴,又失本调之体矣。能知唱高 音之法,则下等之喉,亦可进于中等,中等可进于上等。凡遇当高 揭之字,照上法将气提起透出,吹者按谱顺从,则听者已清哲明亮, 唱者又全不费力。盖字之高下一定,而人之声音各别,能知此,则 人人可唱高音之曲,各如其人之分量,而无脱调之虑,否则唱高调 之曲,必极响之喉方可,而喉之稍次者只宜唱低调之曲,是调以人 分,而一人之声,只可限以一调,略高即属勉强矣。此不知高腔轻 过之法也。

低腔重煞

低腔与轻腔不同。轻腔者,将字音微逗,其声必清细而柔媚,与重字反对。若低腔则与高字反对,声虽不必响亮,而字面更须沈著。凡情深气盛之曲,低腔反最多,能写沈鬱不舒之情,故低腔宜重,宜缓,宜沈,宜顿,与轻腔绝不相同。今之唱低腔者,反以为偷力之地,随口念过,遂使神情涣漫,语气不续,不知曲之神理,全在低腔也。

一字高低不一

……曲之不入调者,字句不准,阴阳不分,平仄失调是也。无不可唱者,迁低就高,迁高就低,平声仄读,仄声平读,凡不合调不成调之曲,皆可被之管弦矣。然必字字读真,而能不失宫调,谐和丝竹,方为合度之曲耳。故曲之工不工,唱者居其半,而作曲者居其半也。曲尽合调,而唱者违之,其咎在唱者;曲不合调,则使唱者依调则非其字,依字则非其调,势必改读字音,迁就其声以合调,则调虽是而字面不真,曲之不工,作曲者不能辞其责也。……故作曲者与唱曲者,不可不相谋也。

句韵必清

牌调之别,全在字句及限韵。某调当几句,某句当几字,及当 韵不当韵,调之分别,全在乎此。唱者遵此不失,自然事理明晓,神 情毕出,宫调井然。今乃只顾腔板,句韵荡然,当连不连,当断不 断,遇何调则依工尺之高低,唱完而止,则古之凿凿分别几句几字 几韵,全然可以不必也。盖言语不断,虽室人不解其情,文章无句,虽通人不晓其义,况于唱曲耶?如《琵琶·辞朝》折《啄木儿》"事亲事君一般道,人生怎全忠和孝?却不道母死王陵归汉朝"。近时唱者,道字拖腔,连下人字,孝字急疾,并接却字,是句韵皆失矣!如此者十之四五。试令今之登场者,依昆腔之唱法,听者能辨其几句几韵?百不能得一也。句韵之法,不几尽丧耶?惟北曲尚有句可寻,有韵可辨,然亦不能收清收足,此亦渐染于昆腔所致。昆腔作法之始,原不至如此之极,而流弊不可不亟拯也。余见顿挫、断腔诸篇。

定板

板之设,所以节字句,排腔调,齐人声也。南曲之板,分毫不可假借,惟北曲之板,竟有不相同者。盖南曲惟引子无板,余皆有板, 北曲则祗有底板,无实板之曲极多。又南曲之字句,无一调无定格,而北曲则不拘字句之调极多。又南曲衬字甚少,少则一字几腔,板在何字何腔,千首一律;若北曲则衬字极多,板必有不能承接之处,中间不能不增出一板,此南之所以有定,北之所以无定也。且元人之曲,不但以虚字为衬,且有以实字为衬者,如本调当用天地人三实字为句,若祗衬一二虚字在三字上,仍是三字句,乃竟用春夏秋冬四实字为句,则将以何字作衬字耶?则不但衬多难簇,且正衬不分,此板之所以尤无定也。然无定之中,又有一定者,盖板殊则腔珠,腔殊则调殊,板一失,则宫调将不可考矣。故惟过文转接之间,板可略为增损,所以便歌也。至紧要之处,板不可少有移易,所以存调也。此北曲之板虽宽而实未尝不严也。

底板唱法

南曲惟引子用底板,余皆有定板。北曲则底板甚多。何也。 盖南曲之板以节字,不以节句;北曲之板以节句,不以节字。节字则板必繁,节句则一句一板足矣。惟著议论描写,及转折顿挫之曲,亦用实板节字,然亦不若南曲之密。凡唱底板之曲,必音节悠长,声调宏放,气缓辞舒,方称合度。又必于转接出落之间,自生顿挫,无节之中,处处皆节,无板之处,胜于有板,如鹤鸣九皐,干云直上,又如天际风筝,宫商自协,方为能品。此可意会,非可言罄也。

《香祖楼》后序^①(节录) 除 守 治^③

……嗟乎舞衫歌扇,大半宣淫; 檀板金樽, 无非行乐。说理者落于腐障,掩耳思逃; 醒世者堕入狐禅,游谈惹厌。惟本忠孝节义之旨趣,发为布帛菽粟之词章,质非伧父之敷陈,雅异俗流之掉弄。云霞结绮, 目眩者方知五色成文; 琴瑟和声,倾听者始识八音吹律。试问俳优陋语,可能感动至情。若无笔墨化工,不足维持名教。……

① 节录自《红雪楼九种曲》。

② 陈守诒,活动年代在清乾隆时(1736-1795)。

律 吕 臆 说^①(辑录) 徐 养 沅^②

雅乐论一

夫雅乐者,非干俗乐之外别有一声节也,就俗乐而去其繁声即 为雅音。太史公曰: "《诗》三百五篇, 孔子皆弦歌之, 以求合《韶》 《武》《雅》《颂》之音。"《韶》、《武》乃舞名,主容不丰声:《雅》、《颂》即 在三百五篇之内。史公之意,盖谓列国之诗,虽作者不一,而乐操 土风,不离乎宛诗谣俗。孔子以弦歌求合《雅》《颂》,而"折杨""黄 华"顿为大声矣。均是诗也,均是歌也,变俗为雅,存平人耳,惟乐 器则自有雅俗之不同。阮籍曰:"筝、琶闲促而声高、琴瑟闲辽而 声痹。"二语尽之矣。然而俗器不可以入雅、雅器可以入俗。赵之 瑟,齐之竿,楚之琴,吹弹之法不异而雅俗顿殊,是何也。请以诗 喻。乐之有声调, 犹诗之有平仄; 乐之有雅俗, 犹诗之有工拙。工 拙不同,其为平仄一也;雅俗不同,其为声调一也。儒者好言雅乐, 耻言俗乐,若判然为两事者,其亦弗思耳矣。子与人歌而善。何谓 善。曰:雅则善,郑则不善。由之瑟,所以见嗤于孔门者,虽不入于 俗,犹未纯平雅也。由此观之,雅俗之分断几希耳,非别有一声调 谓之雅乐也。今言乐者,必欲求异于郑,遂至声不成声,调不成调, 是先不成其为乐矣;何论雅俗。孔子曰恶似而非者,恶郑声恐其乱 雅乐也。孔子之恶郑,恶其似也;今人之恶郑,恶其非也。恶其似 者所见深,恶其非者所见浅。当孔子时,雅郑并盛,既恶其似,

① 据清刊本。

② 徐养沅(1758-1825)。

必斥其非。今雅亡而郑存(孔子所谓郑声,非后世之郑声也,然淫过凶慢,古今一辙。),虽知其非,姑求其似乎?且夫三代雅乐何以亡哉?或日河内之葭莩,羊头山之黍不得,则黄钟之管不能定,此其所以亡欤?曰:非也。孟子曰:"以六律正五音"。《记》曰:"比音而乐之"。正者正其清浊、高下,比者比其铿锵、鼓舞。能正而不能比,不可以为乐。比音必有图谱以纪其成法,如鲁鼓、薛鼓之属,乃能世守而勿失。图谱亡则遗声绝。故三代雅乐之亡,由图谱失传,何关律吕哉?然而雅乐之比音与郑声之比音,大致不殊。将欲因其似以求其真,则吾谓郑声不可废。(譬如今之俗乐,有昆腔,有梆子腔,腔调不同,截然两种,或海盐腔与昆腔,所歌之曲同也,所用之器同也,而共声自有优劣。雅乐与俗乐,乃海盐腔与昆腔之比,非昆腔与梆子腔之比。)

雅乐论二

有非雅而近于雅者凡三: 曰"商"、曰"齐"、曰"南音"。《记》曰: "商"者五帝之遗声也,商人识之,故谓之"商"。"齐"者三代之遗声也,齐人识之,故谓之"齐"。然则二音之由来远矣。音有刚柔。 "商"音刚而能柔,故肆直而慈爱者,宜歌之。"齐"音柔而能刚,故温良而能断者,宜歌之。《大戴·投壶》:"凡雅二十六篇",其"七篇'商'、'齐'可歌",是"商"、"齐"可补雅音之阙也(注略)。然必合乎五帝三代之意,则临事而屡断(刚胜柔),见利而让(柔胜刚),与雅颂同科。若渐染末俗,流荡亡返,则燕女溺志(有柔无刚),敖辟乔志(有刚无柔),与郑卫并列,则斯声也,其在雅俗之间乎!《吕氏春秋》涂山氏之女,始作南音,周公及召公取风焉,以为《周南》、《召南》。按诗"以雅、以南、以篇不僭。"文王世子胥鼓南、郑,君皆以为南夷之乐。襄公二十九年,《左氏传》见舞"象箭""南箭"者,刘光伯谓南如《周南》之意,似与郑义不合。今读《吕氏春秋》,乃知二说之相通焉。鞮鞻 氏掌四夷之乐与其声歌,郑玄言"与其声歌",则云乐者,主于舞。经传"南"凡三见: 曰籥、曰鼓,皆主舞言,故以为南夷之乐也。江汉之间,被文王之化,其乐近雅,故存其舞于鞮鞻氏(注略),而厘正其声歌以为《周南》、《召南》,用之乡人,用之邦国焉(用其声,改其歌)。圣人制之则全乎雅,土人奏之则未离乎俗。然如三闾之《九歌》,兰陵之《成相》,皆南夷之乐也,岂不为风、雅嗣音乎。今"商"、"齐"绝响,而"南音"赖琴以传,刘贶所谓楚汉旧声也。《春秋》成九年,楚钟仪絷于晋,与之琴,操南音。此琴操之始,亦即以"南音"为琴操之始。虽不得比于《周南》、《召南》,自胜桓君山之繁声。古乐之传,赖此一线,而后人复坏之,惜哉! (今之琴有声无节,盖出不知琴为楚汉旧声,尊之者曰太古遗音,鄙之者曰郑卫,遂有此失。夫乐未有无节者,今去其节而曰吾将以存太古之遗,救郑卫之失,非唯不知琴,并不知乐。)

雅乐论三

说者曰:秦人焚书而乐独亡。是不然。三代遗声之在二汉,盖屡有可复之机矣。制氏以雅乐声律,世在乐官,能纪其铿锵鼓舞。此其可复之机一也。河间献王献所集雅乐,董仲舒等以为音中正雅。此其可复之机二也。宣帝欲兴协律之事,赵定、龙德俱以知音善鼓雅琴召见待诏;而益州刺史王襄,依《鹿鸣》之声,歌中和乐,职宣布诗。此其可复之机三也。刘昆能弹雅琴,歌《菟首》以为射节。此其可复之机四也。杜夔远考诸经,近采故事,教习讲肄,绍复先代古乐。此其可复之机五也。有是五事,而卒不能复古何也,则以当日上下皆有魏文侯之好故也。且夫乐何经乎,铿锵鼓舞即其经已。《记》曰"比音而乐之",音不比不可谓乐。铿锵鼓舞,比音之谓也。比音必有谐。《投壶》之鲁鼓、薛鼓,其乐经之仅存者乎。乐之有铿锵鼓舞,犹礼之有威仪揖让。高堂生之礼,徐生之颂,皆礼

之经也。其义则七十子后学者记之。制氏之铿锵鼓舞,乐之经也, 其义则具于二十三篇及二十四卷。 存其义而忘其经, 此乃汉儒之 过,何独罪奏哉。又按《大戴・投壶》:"凡雅二十六篇,其八篇可 歌。歌《鹿鸣》、《貍首》、《鹊巢》、《采蘩》、《采苹》、《伐檀》、《白 驹》、《驺虞》。"此八篇盖至汉而犹存。故杜夔传旧雅乐四曲,曰《鹿 鸣》、《驺虞》、《伐檀》、《文王》(注略),惟《文王》不知所自,馀即八篇之 三。蔡邕《琴操》称琴有五曲:《鹿鸣》、《伐檀》、《驺虞》、《鹊巢》、《白 驹》,亦即八篇之五。先郑注乐师云:《貍首》、《曾孙》(注略),此诗载 于《大戴》,首尾完善,逸诗之全篇俱存者,唯此而已。不特存其词, 当并存其声。刘昆以《菟首》代之,示不敢僭耳。祭遵雅歌,投 壶其歌《曾孙》乎》是又八篇之一矣。又王襄依《鹿鸣》之声以歌其 新制,是一诗之声可移用于他诗。由八篇推之,而三百篇之可歌者 多矣。《汉书・礼乐志》曰:周有"房中乐"、至奏、名曰《寿人》、高帝 乐楚声,故"房中乐"楚声也,然则《寿人》乐乃奏声也。秦为周之旧 都、秦声即周声、秦之《寿人》与周之"房中"、异其名不异其实。汉 之《文始》舞本舜《招》乐,《五行》舞本周舞,河间八佾,匪由臆撰。 魏晋已(以)后,遗声尽矣;是三代雅乐不亡于秦而亡于魏晋也。

俗乐论一

《吕览·音始篇》有东音、南音、西音、北音之别。盖五方风气之殊,莫之为而为,必究其所始,转失之诞矣。后代俗乐甚繁,综其大纲,不越南音、西音、北音三者而已。南音始见于成九年左氏《传》,降及战国,若《采菱》《阳阿》、《阳春》、《白雪》,其曲非一。汉高帝乐楚声,以为"房中乐"。汉之南音昉于此。继此而有"相和"三调。又继此而有江南吴歌、荆楚西声("相和"三调之变为吴歌、西曲,当在过江以后。苻坚、朱武之所得,尚是铜雀旧曲,孝文、宜武之所收,半属江左新声。新声

既盛,旧曲靳湮,"相和"三调之衰,当在宋末,观王僧孝之论。可以见矣。)及琴曲、 皆南音也。西音即奏音。周都镐京,鼓缶而歌,乃其旧俗。季札闻 歌秦曰"此之谓夏声",盖犹有文、武、成、康之遗风焉(注略)。周衰, 乐坏, 工器散亡, 厥后清歌妙舞, 多出西凉, 傥亦自秦而往乎?(注略) 张骞人西域,得《摩诃兜勒》一曲,李延年因之更造新声二十八解, 乘舆以为武乐。此西音之初人也。《旧唐书》云:西凉乐者,后魏平 沮渠氏所得。盖凉人所传中国旧乐,而杂以羌戎之声。此西音之 再入也(注略)。后魏之世,有《簸逻廻》歌,又有《真人代歌》。梁 《鼓角横吹曲》出于此,是北音也。自李郎子亡而南音阙焉,北音亦 无习者,唐时惟西音最盛。刘贶云:周齐以来,管弦杂曲将数百曲, 皆西凉乐也; 鼓舞曲皆龟兹乐也(注略)。 唯琴家犹传楚汉旧声。此 论唐乐,最为分明。然其始,皆有声无词,乐人采诗以合曲,如郭茂 倩所录近代曲辞是也(注略)。元和以后,始有倚声填词之法(注略)。沿 及宋、元、此风盛行、学士大夫类能度曲被歌。至元明之间、南北曲 **决感,世人无歌词者,西音遂亡。然词曲体制相因,音调当不尽变。** 西音而参以《真人代歌》,则为北曲。西音而参以《子夜》吴歌,则为 南曲。盖至是而三音合为一矣。

俗乐论二

或问: 五声十二律雅俗所共邪,抑专施于雅乐邪,曰: 五声雅俗所共也,十二律则专施于雅乐。《楚词·招魂》云: "吴猷蔡讴,奏大吕些。"王逸曰: "使吴人歌谣,蔡人讴吟,进雅乐、奏大吕。"大吕为雅乐,则十二律无与于俗乐可知。乐之有五音,犹律诗之有四声;乐之有十二律,犹诗之有八病。不知四声不能为诗,不知八病则诗不工;不知五音不能成乐,不知十二律则乐不雅。或曰: 俗乐既不用十二律,何以别五音。曰: 音待律而正,不待律而别。且五音六

律之名见于经典, 彼倡为俗乐者, 类非读书稽古之人, 但能分别清油而已。微(非)特不知六律, 亦乌知有所谓五音。近代有管色俗乐也, 合四上尺工, 即五音之别名。或以合字为宫, 或以四字为宫, 纷纷莫决, 而乐人之铿锵鼓舞自若也。盖彼所知者, 七调循环, 流转无滞, 以之度曲, 以之合歌, 以之吹竹弹丝, 泠冷可听。谓合字为宫亦可, 谓四字为宫亦可, 任儒生之聚讼, 而乐人不与闻焉(注略)。非特近世, 汉魏已然。夫列和以笛擅名者四十年, 传休奕比之夔旷, 乃不知笛孔尽应何声, 但云为某曲则举某指, 彼岂不知声之有五哉。笛有五孔, 一举指而自具五声, 不必辨其孰为宫, 孰为商也。或曰: 宫商分于清浊, 既知清浊, 何以不知笛孔所应之声。曰: 伶人知五音之实, 而不闻五音之名; 儒者知五音之名, 而不辨五音之实。然自律吕失传, 赖有俗乐之管色得以分别五音。虽为异说所泪, 而端绪尚可寻绎。予谓古之雅乐, 以六律正五音, 今之雅乐, 当以五音推六律。学者宜致意焉。

乐以律为重,自宜多方求之。必不可得,亦无庸强作解事耳。笛色七调,乃旋声非旋律也。然一孔依一律(本有易笛律),则七孔已得七律。宋太常用两笛成曲(见《文献通考》),已具十二等声,但能第其高下,使无相夺伦。虽不得真律,不犹愈凭私臆决乎?

自郑译以来,俗乐亦知有十二律,但名实混淆,不可为典要。 又不知旋律之法,但就十二律分为二,一曰平调,一曰高调。于平 调、高调又各分七调,则仍是旋声也。盖俗乐所知者,如是而已。

乐 本 说

五声十二律施于乐器,非施于人声。大师掌六律六同,皆文之以五声,皆播之以八音。八音者器也。《经》曰:"歌永言,声依永。" 永言未尝无声,然而不言声也,至于依永然后言声。声依永者,所 谓"戞击鸣球、搏拊琴瑟以咏"也。才言声,即属于器矣。盖人声有天然之节奏,非声律所能拘。今夫耕夫牧竖,矢口讴吟,初不知为何律之声,何调之曲,而抗坠倨句,自成音节,此天籁也。及其协诸声律,而人声乃受范于器。《大司乐》所谓"歌大吕、歌应钟"者,即鸣球、琴瑟之声,而人声从之矣。《记》曰:声成文。传曰:曲合乐。其依永之谓欤?是故乐有本焉,非黄钟为宫之谓也。堂下之乐不贵于堂上,琴瑟之声不贵于人声(丝不如竹竹不如肉)。举旌以宫,偃旌以商,人声也,而不可谓之乐。人声之人乐在于歌诗。诗言其志,歌水其声。推见至隐,本隐之显,直而温,宽而栗,刚而无虐,简而无傲,所以养志也(即此便是黄钟之宫)。乐之本其在是乎?

管 色 考^①(辑录) ^{徐 养 沅}

辨 异

按朱子《声律辨》云:"审音之难,不在于声,而在于律;不在于 宫,而在于黄钟。"此笃论也。自汉以后,律学失传,世人但知五音, 不知六律; 其于旋宫, 但知旋声, 不知旋律。 苏祗婆之五旦即五声 也。每旦七声,五旦三十五声,即旋声之法(《辽志》以七声为七旦,非 也)。试问其应何律之五声。则不知之矣。而郑译乃云其 声 应 黄 钟、太簇、姑洗、林钟、南吕,岂其然乎。 史言隋之雅乐惟奏黄钟一 均(《隋书·音乐志》),亦欺人之论。盖五声之旋,不出一均。因漫指 之曰:此黄钟均也。果识黄钟,必识大吕,何以十一均皆废邪。宋 儒论乐辄曰高几律,下几律,如果高泠沦几律,下后夔几律,则从违 不待再计而决。若止就当时之乐互相比戡,又何足道。此皆律学 失传,儒生徒骋臆说,毫无真见,故其失如此。或问:声出于律,不 知律何以知声。日,声止于五,清浊相应,故易辨也。沈律于每声 之中,自浊至清,又分十二等,尤为微眇,苟非吹管,何以定之。然 而徵羽以浊声为主(别有说),此义不明,则五声正未易言。窃意乐問 以律为重,然惟三代以上可用,今黍尺难凭,葭灰不验,论乐者只 宜理会五声,不必空谈六律。尝谓隋唐以后,俗乐胜于雅乐。俗 乐虽俗,不失为乐;雅乐虽雅,乃不成乐。是何也。则以俗乐求

① 据清刊本。

声,各有师承;雅乐求律,惟凭胸臆故也。求声之具莫善于管色。 夫管色固起于隋唐以后之俗乐也,彼乌知律之为律,以字配之哉。 管之孔凡九,其字凡十。以字配声,则循环七调,如锦绣之有文章; 以字配律,则律多字寡,不免捉襟见肘矣。于是合、六、上、句、尺, 皆一字一声,一、凡、工则各以上下分为清浊,至四为五之清声,而 四字又分上下,五字分而为三,读乱无伦,莫此为甚。欲其高下之 有难,不亦难乎?

琴 论①(节录) 陈幼感③

音韵清浊

夫音韵者,声之波澜也。盖声乃天地自然之气,鼓荡而出,必 绸直而无韵,迨触物则节族生,犹之乎水之行于地,遇狂风则怒而 涌;遇微风则纤而有文,波澜生焉。声音之道亦然。故语云,"喜、 怒、哀、乐必归中和,万物生育莫不由此。"今琴学久废,音律之道不 讲,甚至士大夫绝而不论;不思古者君子无故不撤琴瑟。何哉。盖 亦无非择其善鸣者而假之鸣而已。凡天地化生万物,莫不有声。 龙吟虎啸,声之巨者;蝇、蚓蝎蟋,声之小者;敲金戛玉,声之清 者;怒吼狂呼,声之独者;两间万类,无往非声。总之则清浊二音, 互相配合,使之宜导湮鬱而已。是以伏羲制琴,以禁邪心,使归于 正。若是则音律之道,所关匪细,安可一日忽诸。

指下蓄音

乐器取音,自发声起,至千百声而止,始能成曲。盖相生则和,不相生则缪。其取音全在抑扬顿挫而出,然后恺豫之与哀怨,判然而分,可以见人之性情,知人之静躁,所以古人鼓琴辨音者,必知其所向。然则抑扬顿挫,非蓄音不可,蓄音非指下轻重疾徐,断连得法不可。右弹左应,若出一手;过弦不觉,若出一丝。然后轻则清

① 据手抄稿本邻鹤斋琴谱。

② 陈幼慈,字荻舟,诸暨人,活动年代在1830年(清道光十年)前后。

亮,重则坚实;疾而不乱,徐而不迟;断则意远,连则气舒。庶弹恺豫之曲,则有和缓恬逸之趣;弹哀怨之曲,则无忿懥麄暴之音。是皆非指下蓄音而不可得,习久自知。若操缦全无节族腔调,令人情兴索然,于义何取?

弹琴总法

琴之为器,与众丝乐器(如三弦、琵琶之类)用法无二。众丝乐弦细,按弹易于取音,且错杂紧弹,尤可混人耳目。若众丝乐缓弹,则又与琴用法无二。琴弦长丝足,必须指力苍劲,方能得声坚实,故又稍难于众丝乐之弦细而音短者。然弹法总无二致,全在左按右弹,不谋而合,犹若箫管之音,但闻其音出自孔,不见其指按于孔则善矣。凡制曲始而必缓作,渐引入调,继而稍紧成章,至曲将终,又须放慢使收,无论长曲短曲,同此一法。若全曲缓弹则弛,急弹则促,若不分缓急,平平弹过,则跌荡顿挫,恺豫之与哀怨,绝无分辨。故凡曲全在轻重缓急得法,然后怨慕怀思之意乃出。而缓急轻重,又全在吟、猱、绰、注、撞、逗得法,使音出于自然,则于操缦究律之道有进矣。

琴曲无古调可宗

今之乐,犹古之乐。八音克谐,神人以和,至哉言乎! 夫乐之成曲,全在宫商调和,安有今古之异。且古时无谱,古调何处追求,后人制为《阳春》、《白雪》等曲,莫不想像古意而成。如习熟后,加以润色,未尝不可以为古,若必欲泥古恪遵,岂非以天地元音,刻为成式。故善乐者无论何曲人手,便得正音;不解音律者,转以希声为寥寂,而酷好繁音,安从而得宫商之正。故琴谱以严天池《松弦

馆》、徐青山《大还阁》二种为最,以其取音得正,而无走音偏颇之病,习琴者断不可废。至如《自远堂琴谱》,前数卷集王坦《琴旨》,深得《律吕正义》一书之意,其采集琴曲甚广,为近时之善谱,自应参考。盖秦火以后,典籍为之一空,即圣经贤传,尚有参差,何况《阳春》《白雪》,尚思宗古,动称古调,缪矣!

曲分南北

今时琴曲,皆非古调。缘古时无谱可考,故有《广陵》绝调之慨。琴谱起于近代,故所弹各曲,皆非古调,如《高山》、《洞天春晓》各曲,音节稍缓,可以仿佛近古。然虽非古调,而实有南北之分。南调数句后,必加收束另起,如掐撮五声,掐泼刺五声,皆收束之声也。另起以达未尽之意,使情致缠绵宛转,恒多幽闲适怨之音。北曲慷慨悲歌,声多激烈,故一气呵成,无结束另起之意,恒多愤发感叹之音。是南北二调,各写其怀,使咸归中正和平,方免麄暴之讥。

弹琴忌江湖时派

弹琴切忌时派。夫时派无非以指法纤巧轻捷取音,顺指弹过,不辨宫商定位,以熟为胜。此而弹琴,奚殊筝琵错杂,甚至靡靡盈耳,大失琴道之雅,听者始而不辨,转谓指法纯熟,于是讹以传伪,不识琴瑟元音以沉重坚实为体,以吟猱宛转、含蓄停顿为用,徒使速速弹毕,以为纯熟,则于古乐大音希声之旨何有。不求其理甚矣。余故力拯其溺,而痛绝江湖时派。所谓时派者,如《客窗夜话》、《普庵咒》、《释谈章》之类是也。甚至《大学章句》、《秋声赋》、前后《赤壁赋》皆谱入于琴,尤为俗韵。操缦者,须悟元音之理,则悦耳时派自同风马牛不相及矣。

琴本无派

今之弹琴者,动称宗常熟派、金陵派、松江派、中州派,或有以 闽派、浙派为俗,以常熟等派为雅,以中州派为正,此等俗议不知起 自何年。夫琴乃古圣贤使人宜导湮鬱、涵养性情之器,安得造为某 派,以乱正音。余唯择其出音坚实,制曲中正者,习之不辍,不以浮 夸指法为能,虽不克雅称古乐,亦不至流入时派恶习。唯愿审音者, 细追五音生生不已之理,则自无偏执某派之议,为俗所误尔。

琴学粹言①(辑录) 蒋文勋②

听琴弹琴诗录

形容有形之物,尚难逼肖,况无形平。若风之无形,尚可托诸 有形:"讨江千尺浪,人竹万竿斜"是也,而传鼓琴指下之妙,尤其最 难者也。古来善写音乐音声之妙者,莫如白香山。其于《琵琶行》, 可谓妙极形容矣。千载而下读之,宛如身在浔阳江头听琵琶声也。 然集中琵琶诗,尚有五六首,皆不如此作矣,而亦不失为内行语也。 听琴弹琴诗,共二十馀首,今录其尤者二绝。又得宋白玉蟾五绝三 首,元淇然居士三十韵。海南道人之作,不但为古今绝唱,即其题 中所云"弦指相忘,声徽相化,其若无弦者",非唐英指法之妙,不能 凭空撰出此语,亦非海南道人,不能道得出此数语,弹琴之妙止此 矣,言琴之妙亦止此矣。题目既如此之佳,其诗焉得不好耶。耶律 相国之作,虽逊于二白,亦非深于此者不能道也。杨廉夫之"游丝 着地吹复起",形容左手之软极妙。近时白梦鼎之"指下微微透", 亦得定而可伸之恉。好琴如欧阳永叔,祗能道得"弦舒心已平"五 字,可与僧齐已之"人心尽如此,天下自和平"埒能。严天池《云松 巢集》琴诗至三十馀首之多,不过赋曲操之题面而已,而于指法之 妙,竟不能道只字。其他如常建、李季兰、韦庄、东坡诸公之作,非 不尽态极妍,自有咏物门在,故不录也。

① 据清刊本《二香琴谱》。

② 蒋文勋,号梦庵,吴县人,活动年代在1833年(清道光十三年)前后。

唐白居易

今夜调琴忽有情,欲弹惆怅忆崔卿。何人解爱中徽上,秋 思边头八九声。

弹秋思

前人

信意闲弹秋思时,调清声直韵疏迟。近来渐喜无人听,琴格高低心自知。

卢山杏溪吴唐英琴,弦指相忘,声徽相化,

其若无弦者,作诗以美之。 宋白玉蟾

十指生秋水,数声弹夕阳。不知君此曲,曾断几人肠。心造虚无外,弦鸣指甲间。夜来宫调罢,明月满空山。声出五音表,弹超十指中。鸟啼花落处,曲罢对春风。

冬夜弹琴以诗遗犹子兰

元耶律楚材

湛然有琴癖,不好凡丝竹。儿时已存心,壮年学愈笃。仓忙兵火际,遗谱不及录。回首二十秋,丝桐高阁束。栖岩有后人,万里来相逐。今冬六十日,对弹五十曲。五旬记新声,十朝温已熟。《高山》壮意气,《秋水》清心目,《阳春》越琼玖,《白雪》碎瑶玉,《洛浦》太含悲,《楚妃》叹如哭,《离骚》泣鬼神,《止息》振林木,《秋思》尽雅兴,《三乐》歌清福,自馀不暇数,渴心今已沃。昔我师弭君,平淡声不促,如奏清庙乐,威仪自穆穆。今睹栖岩意,节奏变神速。虽繁而不乱,欲断还能续。吟猱从简易,轻重分起伏。一闻栖岩声,不觉倾心服。彼此成一家,春兰与秋菊。我今会为一,沧海涵百谷。稍疾意不急,似迟声不跼。二子终身学,今日皆归仆。能继箕裘业,待子为季叔。我本嗜疏懒,富贵如桎梏,幸遇万松师,一悟消三毒。早晚挂冠去,闾山结茅屋。蔬笋粗充庖,粝饭炊脱粟。有我春雷子,岂惮食无肉,旦夕饱纯音,便是平生足。

读此诗似湛然倾心于栖岩之神速,若不足于弭大用之平淡者。

然其于《弹秋思》诗则云: "《秋思》而今不人时,平和节奏若嫌迟,香山旧谱重拈出,不问知音知不知。"是未当不爱迟淡者。又《爱栖岩弹琴声法》诗云: "世人不识栖岩意,祗爱时宜热闹琴",则栖岩亦非专好神速者。 蓋琴操虽有迟速之分,而迟操中亦间有紧峭处,速操中则必有停顿舒展之处,即一段一句之中,亦必速中有迟,迟中有速。不然若算子然,成何结构。岂可一概例之乎。即诗中所举《阳春》、《秋思》等曲,固栖岩亦以神速弹之乎。此必无之理也。余既录是诗,犹恐爱弹繁声促节者,持此诗为口实,故复识数语于末。

昌黎听琴诗论

《西清诗话》载欧阳公尝问东坡琴诗孰优,坡答以退之《听颖师 琴》诗。公曰:此祗是琵琶耳。坡公后作《听杭僧惟贤琴》诗,恨欧 公不及见。葢因向日所举韩诗之失当也。三吴僧义海,号知琴,或 以欧公之论问海。海曰、欧公一代英伟、然斯语失矣。群从附和 者,以为义海知言,欧阳失语。然朱乐圃《琴史》,独载欧阳公,而无 颖师昌黎,近日庄蜨庵《琴学心声》,于古作独裁嵇赋、欧诗,而不登 韩作。孰是孰非,略可知矣。韩文云:"世无孔子,余不在弟子之 列"。又云:"轲之死不得其传矣。"葢文公之学,以道统自任,非特 一代之名臣而已。不知琴,不足为公累。谓公深知琴,不足为公 重,而亦不暇讲之也。且知韩莫如欧,卢陵旧本韩文后序云:予为 儿童时,游州南李氏,于弊筐中得唐昌黎先生文集六卷,脱落颠倒 无次序,因乞李氏以归。其后天下学者,亦渐趋于古,而韩文遂行 于世。人之知韩, 葢自公发之, 岂有反不如彼一耳食之义海哉。 葢 颖师本非大雅名家,而于节奏定然悦耳动听。于颇嫂所谓"三分之 内,一分琵琶二分筝"。抑知琴之下者,未尝非琵琶声也。昌黎不 过直赋颖师之琴耳。余谓不独"睨睨儿女语, 恩怨相尔汝", 如"小

弦切切如私语":"划然变轩昂,勇士赴敌场",如"铁骑突出刀枪鸣" 也。义海洪庆善诸人未读下半首耳。"嗟朵有两耳,未省听丝篡", 琴有篡平。此即东坡之"强以新曲求铿锵,数声浮脆如笙篡"也。 "自闻颖师弹,起坐在一傍,推手遽止之",直同于明皇之召花奴,持 羯鼓涤秽矣。昔师涓从卫灵公适晋,援琴鼓濮水所得之新声,未 终,师旷抚而止之曰:此商纣师延所作,靡靡之乐,亡国之声也,不 可听。文公之止颖师,亦此意也。不然,"子闻《韶》,三月不知肉 味","与人歌而善,必使反之",颖师之琴,若果大雅,则必曰:"莫辞 更坐弹一曲"矣,何至未待终曲,推手遽止之乎。且遽者,急骤之谓 也。意必促节繁声,慆堙心耳,实有令人不能耐者。下曰"湿衣泪滂 滂。"夫琴声和畅,如东坡所云,"散我不平气,洗我不和心",何至泪 落如"江州司马青衫湿"平。"颖平尔诚能,无以冰炭置我肠"此二 句贬词乎,褒词乎。昌黎《燕太学听琴诗序》云:"惟时酸斝序行,献 酬有容,歌风雅之古辞,斥夷狄之新声,褒衣危冠,与与如也。有一 儒生,魁然其形,抱琴而来,历阶以升,坐于鳟俎之南,鼓有虞氏之 "南风", 磨之以文王宣父之操, 优游夷愉, 广厚高明, 追三代之遗 音, 想舞雩之咏叹, 及暮而退, 皆充然若有得也"。请读是序, 便知 昌黎之黜颖师,而知余之论,非偏袒于欧阳者。

音乐诗赋节录

采录琴诗,寥寥无几。外而求之,得砧赋、歌赋及筝、琵诸诗, 凡可以况弹琴两手之妙者,录之不嫌。段师谓康昆仑琵琶:本领杂,兼带邪声,使三年不近乐器,则琵琶之纯正者,亦未可鄙弃之也。

右手纪要

右手之要有三: 曰点子, 曰轻重, 曰手势。点子则欲其圆绽, 轻重则欲其恰好, 手势则欲其自然。右之抚也, 始于弹欲断弦, 以至用力不觉。尤其要者, 正正剔出也。不论轻重, 俱要圆绽, 犹之精金, 一分亦是十成足色, 以至一钱, 亦是十成足色, 无一毫搀杂其中。惟轻点子最易飘忽, 故特表而出之曰: 一丝一忽, 指到音绽。弹琴如作文, 右弹如实字, 左手如虚字。文章中之实字, 亦有轻有重, 有正有侧, 有宾有主, 有详有略。又如写字, 右弹如笔划, 左手如映带, 而笔划亦有粗有细, 有长有短, 有浓有淡, 有正有偏, 有起有伏, 是实中有虚也。指下出音, 自一分以至十分, 当体曲之情, 悉曲之意, 有不期轻而自轻, 不期重而自重者。手势要潇洒自如, 若不经意, 闲暇之极, 有"手挥五弦, 目送飞鸿"之概。或上或下, 倏高倏低。大段最下毋过四徽, 泛宜近岳。泼剌轮声, 独宜下弹。勾挑、剔抹、托擘、打摘、轮鼓、泼剌, 皆有手势。虽长锁七声, 亦要分还勾挑剔抹之势, 蓋不独取其隽雅可观, 亦运指之法宜然耳。得其势则佳, 否则便不佳也。

左手纪要

弹琴之妙,全在左手。其法有三: 曰吟猱,曰绰注,曰上下。其要始以按令人木,以至音随手转。手指按弦,独宜用肉,间或用甲。用甲惟大指于五徽以上用之,恐其肉音滞而不清也。再四五徽以上弦硬,吟猱上下用肉则怕痛也。愚谓即独用肉亦可,葢弹琴家指上必有老茧,既有老茧,便不怕痛。琴取自乐,不在供人。即四五徽间,音不清亮,亦不妨也。即用甲要无甲声,仍然温润;用肉要无

肉声,未尝不清实。有谓甲肉相半音,余习之殊不然。葢弦着于肉 不能及甲, 着干甲不能及肉。各谱皆曰, 大指甲按弦要避煞声, 惟 《澄鉴堂》说得最细, 日, 以甲稍转让肉取音为妙。甲肉相半音, 取 其清润相兼,至吟猱走音,要避甲取肉,则多温润之音。然不独大 指甲有煞声,即名指之肉,亦有煞声,此即谚所谓"三日不弹,手生 之荆棘"也,惟熟可以去之。指之在弦,如笔在纸,自起自倒,不滑 不涩,弦随指而不拖指,明此旨,虽纯用甲,亦无煞声矣,况肉音耶? 曲中取音,猱不多用。用吟之法,青山《琴况》和圆两字,言之精详 极矣。长吟但觉其流美可听,不厌其多。短吟略略动摇,便已圆 足,并不亏缺。要长不可截,短不可续,而初下手断不能少,其要往 来上下,先大后小,必至收心结顶而止谓之足。由足求圆,由圆求 少。既能少,何愁不能长哉。初下手时,无有不毛不粘。及磨至光 时,不但不毛,亦不粘矣。指下之有绰注,犹写字之有牵丝侧锋也, 惟侧有情,如美人之妙,全在凝眸斜睇,欲言又止,若瞠目直视, 侃侃而谈,情又何生,绰之用于起头者,来势宜远,出音宜近,用 千承上起下者,来势亦不宜过远矣。注法略同,要知无处无绰注, 便能全不用绰注。不拘拘于谱上所书之绰注,能随其指下所宜而 用之、则得之矣。又有似绰非绰、似注非注。绰注之要,宜虚不 宜实, 而求虚之法, 偏从实上下手。左手之上下, 如字书之波画, 起要有头,住要有顿,中间不可放松。青山所云,指下过弦,慎勿松 起,弦上递指,又欲无迹。言上下之要,此十六字尽之矣。绰注有 引申,而上下亦有引申焉。有二上者,第一上要灵活,含蓄其音,使 第二上不干枯,有二下三下急连者,全在第一下住得坚实老结,则 第二第三下便能速而不忙矣。有可上可不上者,有上而复一上者, 有上而再略透者,有微透而音在本位者,有指未上足而音已属上位 者,如眼光之注物,所谓意到笔不到者是也。惟下不可不下,不 可再下,而下之引申,其指略拖上若复上者,不可到上位,不可实,

亦如意到笔不到者。较之于上,要懒软而慢,如临去秋波若将廻顾者,而左手离弦之手势,亦要与上下融洽。其说似乎全属虚神,而不知全在实处用功。奇从正出,虚就实来,此之谓也。我师鼓琴,吟猱绰注上下,每多于谱上所书,文尝请之。我师日,若全书之谱中,启后人有实无虚之病。况又无一定耶? 葢此种吟猱绰注上下,学者不用不为病。用而不佳,适足为病。及至火到功成之际,有不期然而自然者。质言之熟极生巧也。

论 派

琴之论派,由来久矣。晋侯见锺仪,与之琴,操南音,此略见于 春秋时者。赵邪(耶)利曰:"吴声清婉,如长江广流,绵延徐逝,有 国土之风。蜀声躁急,如急浪奔涛,亦一时之俊杰。"逮后有所谓 "中州"、"白下"、"江浙"、"八闽"之分,至今或灭或微。世所传习,多 宗吴派,虽今蜀人,亦宗吴派矣。吴派后分为二,曰虞山,曰广陵。 虞山派者,明神庙时,常熟严天池先生当琴学寝微之际,黜俗归雅, 为中流砥柱,家住虞山,一时知音翕然尊之,为虞山宗派,人比之古 文中之韩昌黎,岐黄中之张仲景。虞山在县治,素不著,因先生之 琴而特显,人亦比之襄之岘山,鲁之徂徕云。葢当时卓识君子,不随 时好,克守正音,故天池能得其传。天池之琴,受之陈星源,而后之 托名标榜者,不曰陈氏,而曰严氏,岂非宰辅之子,太守之尊,足以 耸动天下邪? 星源之尊人爱桐先生,为当时之冠。爱桐传之张渭 川,渭川传之徐青山,青山传之夏于涧。其时名流有施碗槃、沈太 韶、戈庄乐、赵云所、谷云樵、陆九来诸人。广陵派者,国初扬州徐 二勋先生,善琴名世。其嗣晋臣,传其家学,刻之《响山堂》。后年 允恭又刻之《澄鉴堂》。其气味与熟派相同。此近来之可考见者。

琴曲有有文无文之别,又有古今雅乐俗乐之分。朝廷雅乐,用 之祭祀者,有歌有奏,八音克谐,所以宣扬功德,故皆有文。亦间有 无文者,如笙诗六篇是也。世俗独弹之虚谱,如伯牙之《水仙》,沈 遵之《醉翁》,所以导养神气,调和情志,故皆无文。 亦间有有文者, 如白石之《古怨》,子昂之《思贤》是也。郑夹漈《通志》则云,琴之九 引十二操,以音相授,并不著辞。琴之有辞,葢自梁始。朱伯原《琴 史》则云,近世琴家所谓操弄者,皆无歌辞。其细调琐曲虽有词, 多近鄙俚,此皆谓独弹之谱也。就今所有之谱考之,如《松弦馆》、 《大还阁》、《澄鉴堂》等谱,尽皆无文,其音淳静,虽不能确指为何代 何人所作,要亦如诗古文之一代自有几人,一人自有几曲。流传至 今,家弦户诵,脍炙人口者,皆名作也。如杨西峰《正文对音捷要 谱》等则曲曲有文,其音繁促,其至循字配音,谱入《滕王阁序》《出 师表》等文。夫《诗》可被之弦歌,《易》、《书》、《礼》、《春秋》之不可 被之弦歌,不待言而可知。诗词歌曲可谱人琴,古文之不可谱作琴 曲者亦明矣。故严天池之序《汇谱》,蔡仁菴之序《大还阁》,谆谆辩 有文之非。愚谓若有文之曲,一字数音,悠扬宛转,情致缠绵,低徊 久之,若不能已者,岂不更愈于无文者哉。若据西峰等谱,以为有 文,则犹之得西汉演义,以为班马之史,徒为识者所笑也。同时有 申国桢者,出矫其失,著《太音本旨》,取旧谱之无文者补之,有文而 凡近者易之,字少音多,疏密相间,浸浸平有长言咏叹之遗音矣。然 《思贤操》之"天""嗟"等字,《佩兰十三段》之"兰"字,一字谱至二十 馀音,急作之,其音更繁,缓作之,歌者无此长气,若无须合歌,则何 必赘此文辞,此皆不善求文之失也。至如宣圣悟文王之操,雍门动 孟尝之泣,中郎之骇捕蝉,龟年之辨秦楚,瓠巴鼓瑟,游鱼出听,伯 牙弹琴,六马仰秣,巍巍乎高山,洋洋乎流水,岂亦从文辞得之哉!

"龚自珍论乐"®

……夫六经者,周史之宗子也。《易》也者,卜筮之史也。《书》也者,记言之史也。《春秋》也者,记动之史也。《风》也者,史所采于民,而编之竹帛,付之史司乐者也。《雅》、《颂》也者,史所采于士大夫也。……乐虽司乐掌之,乐不可以口耳存,儒者得之史,非得之司乐。……

(第一辑《古史钩沈论二》)

问: 六艺之有乐,谓声容,不谓竹帛,明矣。《乐记》一篇之存,《周官·大司乐》篇之存,窦公所献,戴氏所录,其存于天地也,不得谓《韶》、《濩》之存于天地也,明矣。班氏乃采《小戴记》之一篇以当六艺之一,何居。

答:子之言是也,而不可以责向与固也。向若曰:此乐之见于大略者尔,名为《七略》,则不得不然;名为《艺文志》,则不得不然。

(第一辑《六经正名答问三》)

金伶德辉,以字行,逸其名矣,吴人。乾隆中,吴中叶先生以善为声,老海内。海内多新声,叶刌而律之,纳于吭。大凡江左歌者有二:一曰清曲,一曰剧曲。清曲为雅宴,剧曲为狎游,至严不相犯。叶之艺,能知雅乐、俗乐之关键,分别铢忽,而通于本,自称宋后一人而已。叶之死,吾友洞庭钮非石传其秘,为第一弟子。德辉

① 辑自《龚自珍全集》,上海人民出版社 1975 年版。龚自珍(1782—1841)。

故剧弟子也,隶某部,部最无名。顾解书,以书质钮,而不以歌。一 夕歌,知刊而建之,纳于吭,则大不服。知曰,毋曰吾不知剧,若吾 所知,殆非汝所知也。即欲论剧,则歌某声,当中腰支某尺寸,手容 当中某寸,是容当中某步。金始骇,就求其术。钮曰:若不为剧,寒 饿必我从,三年,艺成矣。日诺。江左言歌,自叶先生之死,必曰钮 生;而德辉以伶工厕其间,不三年,名几与钮抗。……德辉既以称旨 重江左,遂傲倪不业。钮生屏人戒之曰:汝名成矣,艺未也,当授汝 哀秘之声。明日来,授以某曲。每度一字,德辉以为神。曲终,满 座烛尽灭, 德辉窃谱其声而不能肖。其年秋, 大商延客。……而德 辉试技之日,主人以德辉所自荐也,非石为上座。既就夕,主客华, 惟恐金之不先奏声。既引吭,则触感其往夕所得于钮者,试之忽 肖,脱吭而哀,坐客茫然不省。始犹俗者省,雅者喜,稍稍引去。俄 而德辉如醉,如寱,如倦,如倚,如眩瞀,声细而谲,如天空之晴丝, 缠绵惨闇,一字作数十折,愈孤引不自已,忽放吭作云际老鹳叫声, 曲遂破,而座客散已尽矣。明日,钮视之而病。钮悔曰:技之上者, 不可习也。吾误子,子幸韬之,而习其中。德辉意亦悔,徐扶起,烧 其谱,故其谱竟不传;而德辉获以富,且美誉终。……

(第二辑《书金伶》)

《郊祀歌》一卷,依宋景祐刊《礼乐志》写定。《安世歌》一卷,依宋景祐刊《礼乐志》写定。魏缪袭曰:"汉《安世房中歌》,所言皆孝享宗庙之事,与周世《房中乐》异,是《颂》之流,非《周南》之流。"龚自珍曰:缪说是也。其曰《房中》者,徒以唐山夫人造故欤?《乐府诗》十八曲一卷。龚自珍曰:周诗有四:《南》也,《风》也,《雅》也,《颂》也。汉诗有三:《郊祀歌》也,《房中歌》也,《乐府诗》十八曲也。《郊祀》、《房中》,班固录之,十八曲固不录。垂四百岁,梁臣沈约为《宋书》而录之,目曰《短箫铙歌》,恃沈约而存也。宋郭茂倩、吴兢二家又

依沈约录之,字句互出入,目之曰《鼓吹曲》词,恃沈而存,又恃郭、 吴而章也。自《朱鹭》汔(迄)《石留》,凡十八。《务成》、《玄云》、《黄 爵》三篇,其目存,其辞亡。郭、吴又与沈同也。问何由知炎汉诗? 曰: 约所录晋、宋乐章,其声挫,其词馁,其义又窭,不能为此言也。 班固见之乎? 曰: 见之。于《礼乐志》不存其诗,于《艺文志》存其 目,目日诗二十八家,三百十有四篇。约所录,即三百十四中之十 八也。问某篇当隶《汉志》某家。曰:其声或亢焉,或噍焉,或曼焉, 或谲焉。其噍者、燕、代讴也;其亢者、燕门、陇西、云中歌诗也;其曼 者,黄门倡歌诗耶。其谲者,送迎灵颂诗耶。然而我能言之,我不 能征之。问蔡邕、沈约皆以为是《铙歌》,吾子独不名之《铙歌》何 也。曰:《铙歌》,军中乐也。此十八篇,有军中乐,有非军中乐,邕 与约比而同之。何由知之。曰: 采诗者,武、宣之盛事也; 乐府者, 汉官中之雅材者也。采诗还报天子矣,乐府职审其声音而别所用, 或于祀甘泉、泰畤、汾阴、后土焉用,或于祀宗庙、陵园焉用,或于祀 神仙焉用,或于设九宾、单于焉用,或游畋夸禽兽焉用,或于遣军、 鼓军、劳军焉用。礼乐必相应。礼乐不相应,则乐府协律失其职。武、 宜之世,必不然矣。予读十八篇,或以为从军之言焉,或为侍从之 言焉,或为里恭之言焉,或为女子之言焉,是故其言或嘂或謙,或敷 腴夷犹焉,或颂祷娴靡焉,或媟嫔焉,或飘渺而无稽焉,或怨思愁苦 焉,各不同,故曰有军中乐。问其诂如何。曰:有可诂有不可诂。 沈约曰:"声词杂:声细字,词大字。"细大又杂,自约之时已然,约阙 之;郭茂倩,吴兢亦谨而阙之,不可以诂。问有諟正文字之役存乎。 曰:国朝武进庄先生善思误书,今依庄改者十有七字,阙疑尚多,庄 亦不能明也。是为吾羽琌之山写定汉乐府诗十八曲也。

(第三辑《最录汉诗三种》)

误 录^①(辑录) 顾 王德晖 徐 沅 澂②

度 曲八 法

宙

曲有曲情,即曲中之情节也。解明情节,知其中为何如人,其 词为何等语,设身处地,体会神情而发于声,自然悲者黯然魂销,欢 者怡然自得,口吻齿颊之间,自有分别矣。观今之度曲者,大抵背 诵居多,有一生唱此曲,而不知所言何事,所指何人者,是口中有 曲,心内无曲,此谓无情之曲,与童蒙背书无异。纵令字正音和,终 未能登峰造极,此颗之不可不审也。

叫板

曲牌不同,故起板各异。如《集贤宾》、《二郎神》、《倾杯序》、 《绣带儿》、《小桃红》等曲,起板在一二句之后。如《桂枝香》、《解三 醒》、《锁南枝》、《驻马听》等曲,一二字即起板。其未起板之前,无 论几字,万不可拖长,务须连唱快唱,使之一气呵成; 缓则节奏散 漫,上板处不能扼要矣。须干上板之前一字,蓄势叫板,庶缓急可 以自操,不受管弦束缚,否则为和我者所制,缓急焉能自主。

出字

每字到口,须用力从其字母发音,然后收到本韵,字面自无不 准。如天字则从梯字出,收到焉字;巡字则从徐字出,收到云字;

据傅惜华校辑《古典戏曲声乐论著丛编》。 王德晖、徐沅徽是清代中叶以后的人。二人合著的《顾误录》原刻于 1851 年 (咸丰元年)。

小字则从西字出,收到咬字; 东字则从都字出,收到翁字之类。可以逐字旁通,寻绎而得,久之纯熟,自能启口即合,不待思索,但观反切之法,即知之矣。若出口即是此字,一泄而尽,如何接得以下工尺? 此乃天籁自然,非能扭捏而成者也。

一份

出字之后,再有工尺则做腔。阔口曲腔须简净,字要留顿,转弯处要有稜角,收放处要有安排,自然入听,最忌粗率村野。小口曲腔要细腻,字要清真。南曲腔多调缓,须于静处见长。北曲字多调促,须于巧处讨好。最忌方板,更忌乜斜。大都字为主,腔为宾;字宜重,腔宜轻;字宜刚,腔宜柔;反之则喧客夺主矣。至于同一工尺,有宜大宜小,宜连宜断,宜申宜缩之处,则在歌者之自为变通,随时理会。

收韵

何字归何韵,乃一定之理,往往一不经意,信口开合,则归入别韵,不成此字,实为笑谈。此条最易忽略,犯者十居八九,差之毫厘,失之千里,歌者盲心,听者棘耳。常有名优老伶,以此贻羞而不自觉者,皆苦于无人道破也。

换 板

曲之三眼一眼,本系一体,原可无须头末眼,如《纳书楹》仅载中眼,已足为法。盖缘头末眼本无定处,可以听人自用,今谱为初学立法,故增之为容易地步。至换板之说,乃配宫调者,此牌板数不足,须加板方合格局;或板数已足,须撤板以符定数。度曲到此,须将气势撤足,顺其自然节奏,褪成一板,方无拗折之患。凡尾声叠板之下,接唱处皆然。

散板

曲之有板者易,无板者难。有板者,听命于板眼,尺寸自然合 度。无板者,须自己斟酌缓急,体会收放,过缓则散漫无律,过急则 短促无情,须用梅花体格,错综有致; 有停顿,有连贯,有抑有扬,有申有缩,方能合拍。

撤声

曲之擞处,最易讨好。须起得有势,做得圆转,收得飘逸,自然 人听。最忌不合尺寸,并含混不清,似有似无,令人莫辨。即善于 用擞者,亦不可太多,多则数见不鲜矣。

学曲六戒

不就所长

人声不同,须取其与何曲相近,就而学之,既易得口气,又省气力。往往有绝细喉咙,而喜阔口曲冠冕,嫌生旦曲扭捏者。又有极洪声音,而喜生旦曲细腻,嫌阔口粗率者。舍其所长,用其所短,焉能尽善?此首戒也。

手口不应

初学入门,必宜手拍板眼,口随音节,方易纯熟。且板路一顺, 日后不致有舛。若自负口有尺寸,竟不拍板,或信手乱拍花点,最 为误事,经久必有板眼模糊之病。又有手虽拍板点眼,而与口中不 合,不能手口如一者。须先令其将手习准,不致为口之累,然后再 为授曲。

贪多不纯

此人之通病, 颖悟者为尤甚。曲词并未成诵, 板眼亦未记清, 即要看谱上笛。略能记忆, 即想再排二支, 此套未完, 又想新曲。如此学法, 焉能尽善, 且转眼即忘, 必至一生之曲, 并无一套完全者。切官戒之。

按谱自读

此颖悟者之病。略解工尺之高下,即谓无须口授,自己持曲按·460·

读,于细腻小腔,纤巧唱头,不知理会,纵能合拍,不过背诵而已。甚至有左腔别字,缺工少尺之处,罔不自觉。而于曲情字眼,节奏口气,全然未讲,不知有何意味?

不求尽善

今人声歌,虽属陶情之事,然既性耽于此,为何不求甚解?苟能曲尽其妙,亦人生快事也。何以半生所好,犹不解四声,莫辨阴阳;甚至油口烂腔,俗伶别字,俱不更正,同流合污,有何乐趣? 识者告之,反觉多事,吾不解其何心也。

自命不凡

亦人之通病。特自己声音稍胜于人,加以门外汉赞扬,个中人 事故,遂真觉此中之能事毕矣。其实并未入门。此等人,于人之长 处,必漠不关心,己之短处,更茫不自解。又复逢人技痒,不肯藏 拙,从此学尽词山曲海,永无进境,实为可惜。

与古斋琴谱、补义①(辑录) 祝風 嘴②

按谱鼓曲奥义

琴曲音节疏、淡、平、静、不类凡乐丝声易干说耳,非熟聆日久。 心领神会者,何能知其旨趣,岂初学所易得其音节乎? 琴曲之音 节,惟谱载而传,从指下取得。古来指法字母,作简笔省文,各谱大 要相同,而少有异义: 故必先明其谱中字母取音各法,然后按奏其 曲操,庶得如其音节也。若奏此谱之曲,而用彼谱字母取音,则于 其异义、用法不同者,势必音节相悖而不合,务须各从其用也。字 母既熟于胸,音节即出于指,然而初学未易遽得,先从师传,指授数 曲,留神习听,久则渐能领会,再按照谱曲,逐字鼓之,连成句读,凑 集片段, 渐可以完其曲矣。但当按谱鼓时, 心、手、耳、目, 四者并 用:心先主静; 目视分明; 手按准位; 耳听宜聪。一齐相需,不可 缺一。每句取音,字字要各分清。如绰则为绰;注则为注;吟则 为吟; 猱则为猱。逗、撞、上、下,一切皆然,不可彼此牵混,忽略过 去。惟其音节,颇难协治,时日用工,弹至纯熟,一旦豁然而致,所 谓丹成于九转也。切勿因一时未得其音节,或畏难而半途中止,或 欲速而妄为增减,至成靡曼之声,且自诩得其意,殊失希音之旨。夫 琴曲,有同音三两声而一气连者;有分一两声,而或续上,或贯下 者;有二三等声,而至再作二作者,要不外于联断、疾徐、踢宕,收 纵。一曲始终,必得其纲,起、承、转、合,四者以成之。予操缦卅

① 据清刊本《与古斋琴谱》暨《补义》。

② 祝凤喈,活动年代在 1855 年(清咸丰五年)以前。

年,深究其音节,妙在于呼吸气息间,不容毫发之相间。有于一气中得之,有于半息中得之,有留一二气息中得之,各随其曲之悠扬,自得天籁之中节。于是有头板(出音之际即得一拍),腰板(出音之后 甫得一拍),底板(出音将息时得一拍),餘板(音息之后再留一二拍)之分,必须依永(即音韵也),和声(如其音韵而歌和也),而后能合其节(节、板拍也)也。凡同此一曲,各谱取音合节,彼此有不同者,宜集而证之;其繁简醇疵,在能审辨。浓艳悦耳,世人多喜,淡泊宁心,知者自得。予于按奏《潇湘》、《搔首》、《水仙》等曲,初觉索然,渐若平庸,久乃心得,趣味无穷。凡类此者,可概知也。予每按奏曲,先审其用何调(注略),便知某弦之各晖位,属何工尺,逐字写明,按照鼓之,依永(注略)歌之,因是而得其抑扬长短之音韵,并得呼吸气息之自然,而无不中节,时习熟歌,趣味生焉。迨乎精通奥妙,从欲适宜,匪独心手相应,境至弦指相忘,声阵相化,缥缥渺渺,不啻登仙然也。

(《与古斋琴谱》卷三)

制琴曲要略

乐曲以音传神,犹之诗文以字明其意义也。然字义之繁,累之 万千,乐音则止此五二(五正二变之音)而已,该乎人事万物,而无所不 备。其为音也,出于天籁,生于人心。凡人之情,和平、爱慕、悲怨、 忧愤,悉触于心,发于声,而即此五二之音也。因音以成乐,因乐以 感情,凡如政事之兴废,人身之祸福,雷风之震飒,云雨之施行,山 水之巍峨洋溢,草木之幽芳荣谢,以及鸟兽昆虫之飞鸣翔舞,一切 情状,皆可宣之于乐,以传其神而会其意者焉。是以听风听水,可 作霓裳;鸡唱莺啼,都成曲调。琴具十二音律之全,三准备清浊之 应、抑扬高下,尤足传其事物之微妙。故奏其曲,更能感人心而动 物情也。制琴曲之法,主先明题神,因题而合用某调,用音以节成 句读。句末应收入某音为韵而叠之。句不尽用韵,可叶以生音。节 便是板拍。句读停顿,其节之少息,息复起句以接之,起句节之首, 与前句息之末,两音必谐协,而无相夺伦。如不谐其音,而若突起者, 愤激之所发,其音盖如此。句中所用音,不论连间顺逆,交错相宣, 胍绮贯注,原无拘执,各出心裁以赞助之,千变万化,莫非此音。虽 同颗共调,同收某音者,亦各成音节,未尝雷同。其所以然者,因神 由节定,节异则神殊,节之以关键,变通其运用,故谓之节奏。此为 制曲所最要在是,是必先于前人各曲操,留心体会其题神、用调、用 音、节句、收音、叶叠、接息、谐突各法,为大纲领;又必兼明其绰注、 吟猱、逗撞、泛按、清浊、轻重、疾徐等用,以资相济。 初随吾意所用 之音节,写出其工尺声字以识之,或吹或弹或咏歌以试之。盖吹之 以管(箫笙篇),略具平大意,弹之以弦,备成夫体段,又如其音节而 咏歌之,始得其神情。如是再三听审,或不协,或失神,则屡易屡 改,务使抑扬抗坠,至于圆润尽善而后已。全曲节奏,始从缓起,渐 渐入紧萦聚; 复踢宕开,再作收结。所谓始翕从纯皦绎以成之意。 又云大曲必须三入慢,紧聚收从,即在其中。琴曲音宜古淡,节宜 疏简、句用叠韵者、非若昆曲缠声之繁促也。制曲又若临池行文, 能干前人用笔用意诸法,领会日久,自然得之心而应之手焉。苟不 竭吾心思耳力,继以六律正五音,则所制之曲,抑何古人之得若哉!

(同上)

乐奏明调收音起接传神说

乐祗以五正二变七声,旋成诸调,该备乎人事万物一切之情 状,皆得以发其神情。乐之为义大矣哉。所以然者,在于用调,收 音,起接,三者为纲领,而乘乎清浊轻重疾徐之相成也。音之生叶 为宫、商、角、徵、羽、变宫、变徵,顺逆连间,文成句读,而于每句末 字,以一音而归注之,犹之诗赋之押于某韵,即所以传其神情各别 也。燕乐以此为某调,琴曲以此为收音,所注者在是。间又以所生 之音相叶,或由此而转用他音,仍复归其原,不离背其本,收音虽别 其神情,又必配合其均调。盖收入为宫、商、角、徵、羽五音之一者, 是于一调中,传其神情各别也。各调之宫、商、角、徵、羽五音各一 者,是于各调中,传其神情,又各别也。收音必兼配用调,因各有所 宜,则神情毕具。至于起接,相应为终始,并行而不悖,有收必有 起,起即其承接起接之声,或即以所收之音而接起,或以收音所生 之音而起接,或以句末字声序下之音而连贯(注略)。后起接前收, 两必相谐叶,毋乖戾夺伦,如若突起者,愤激之所发,意不平而然。 琴弦自一至七之序,巨细等差,发为高下清浊之声。五音所旋于诸 弦,成各均调,因各有神情,不仅于一调中之五音各别也。试以琴 曲所收某音,用各调鼓之,或以所收五音各一,用各调皆鼓之,其起 接之谐叶突起,均不异。弦序之散实应声,各有分,可聆其各调所 收各音之神情,而得识其各有所官也。夫神情之足与不足者,如作 文之练字练句,其字之义同,而其字音之平仄重轻,较有强强,而有 胜宜,收音如之。用调,犹之练句也。调音之旋于七弦,其弦之巨 细清浊高低,所叶五音之序: 宫或出于弦之细而清高,羽或出于弦 之巨而浊低(注略),音固不谬,声则有分,其六七两弦,因而济一二 两弦之有过不及者,盖所以成其各调之神情各别有如此。是则其 六七两弦,未必不始自羲皇创制所原有, 毋泥为舜弹五弦之琴, 而 信说者谓为文武续加此二弦也。兹以五音各调之声,所发神情,举 其大概之意列左:

> 宫音,和平雄厚,庄重宽宏。 商音,慷壮哀欝,惨怃健捷。 角音,圆长通澈,廉直温恭。 徵音,婉愉流利,雅丽柔顺。

羽音,高洁澄净,淡荡清邈。

一弦为宫,主均,调五音,高低清浊,与弦之巨细发声相得; 宫 商居于一二两弦,收音概用则偏,故以六七两弦之高清济之。调声 恬静幽逸,宜于《岳阳》、《神化》、《猗兰》、《白雪》、《墨子》等曲。

二弦为宫,主均,调五音,宫居二弦,商居三弦,徵居五弦,皆加紧而得。而羽居一弦,更为低应。故以六弦之高清济之。调声高凄清邈,宜于《秋鸿》、《捣衣》、《春山》、《杜鹃》等曲。

三弦为宫,主均,调五音,宫居三弦,徵羽居一二弦,似不相得。 其宫商宜低浊,有一二弦之九、十徽位济之;其徵羽宜高清,有六七弦之散声济之,皆相得矣。宫居于三弦,与各调之音较之,调声中 正和平,宜于诸曲者多。

四弦为宫,主均,调五音,宫居四弦,角居一弦,而羽居三弦。角 羽皆加慢而得,羽更为低应。调声缥渺徜徉,宜于《樵歌》、《挟仙游》、《洞庭》等曲。

五弦为宫,主均,调五音,宫居五弦,加紧而高,羽居四弦,更低。 其宫商宜低浊而高清,徵羽宜高清而低浊。调声愤激昂爽,宜于 《屈子》、《搔首》、《离骚》、《胡笳》等曲。

五调,惟一二三弦各为宫,五音高低清浊与弦之巨细相得。至四五弦为宫,其徵羽居三四弦,所宜高清,声发细弦,宜低浊,声发巨弦者,应在一、二、六、七之弦,九、十徽位,此一与六弦,二与七弦,互为相须。琴必有七弦矣,五弦之云,古制抑有两式。或问琴加八九弦可乎,余曰:五弦以后,加之以应清浊,其一与六,二与七,则三与八,四与九,五与十皆然。瑟之二十五弦,五十弦者,倍其五音。瑟不左按,重为济应,琴有按取,加至六七弦,已适用,至八九则繁,用中之道而然也。

(《与古斋琴谱补义》)

琴曲音节美善论

圣人闻《韶》,称尽美善,至于三月不知肉味,其感之也深矣。当必由其制乐者之取音用节,与作乐者之始象从纯,皦绎以成,而尽其美善者也。谓《武》尽美而未尽善,又可以见夫乐之由于德性而彰。《韶》《武》之别,揖让征诛之不同有如此。琴为八音之一,丝声之首重,体制之至善,发声故至和。古乐之器,惟此仅存。古乐奏之音节,久已失传,不可得闻。今所遗琴曲,虽非古作,其取音节,迥异凡响,知音者亦可移情矣。夫乐以音传其神,祇此五音,赞助以成,无穷尽,无方体,可发各情,乐之为义大矣哉。考所以然,即在音节,美由取叶,如弦位之散、泛、实三声相和应,指按之罨、指、动(吟雅逗擅各法皆是)、引(上下进退复符各法)各法相赞助,皆所以成其音节,而配叶之美善者也。不然,虽同其音,或异其节,神情各别。雅郑之乐,亦同此七音,惟其正变取舍,平抗和谬,哀乐伤淫,悉从配叶其音与节以成奏,而分别为雅郑也。凡制琴曲,能于五音奏节取配,得其和平中正,而以散泛实三声,与罨、指、动、引,用得其宜,庶不失为雅乐之旨,而美善之由德性者,又存其人,有自然而然者也。

(同上)

琴曲收音起句考

琴曲,以句末一字为收音,即以所生之音为起句相接。如收宫 起徵,收徵起商,收商起羽,收羽起角,收角则宜以变宫起,而五音 终于角,不用及变,角近于清角,乃生正宫者。故收角音,借正宫 起,此制琴曲之正法如是也。又有收宫用羽起,为宫逐羽;收羽用 商起,为引商刻羽,此制琴曲法之变体,偶有用之者。燕乐禁收徵 音,亦不以起调,每均但收宫、商、角、羽四音,七均共收二十八音, 为二十八调。瑟曲不然, 每收宫音, 悉以徵起。 《听真轩琴谱》 宗燕 乐之说,故于旧谱琴曲,凡收宫音起徵者,皆更改之。其实古来琴 曲起结, 五音皆用, 避徵之法, 惟燕乐重之, 亦未尝明其所以然之 故。即用徵音,又未尝有不叶,何必泥而避之耶,旧说琴曲只收宫、 商、羽三音,无收角与徵音者(注略)。 按收角音曲,因所生之变宫, 既不可用于起接处,则碍难配叶,或借用正宫,或逆取生角之羽,终 不若收宫商羽音三者之自然,是以鲜收角音曲也。至收徵音,亦如 收宫商羽者之得所生之音为起接,如琴曲之《渔歌》、《关睢》等操, 乃一弦为宫之调。所收四弦,即是徵音。因仍于三弦为宫调鼓之, 后人误认收四弦为商音,此不明其不转弦,而调已改换者。然凡以 三弦为宫调,不转弦而弹换各调之曲不少。各家刻谱,无有能明之 者。既经换调、则弦音亦更旋矣。因昧其换调、并误其收音。《渔 歌》、《关睢》两曲,旧谱皆载为徵音,前人或即示此收徵音,以明为 一弦为宫之调也。不转弦而换调,古法固然,后人不明平此,致多 舛误,必须考正。然宜多集古谱,详参体会,证归原调,庶得其曲音 之旨。望度曲者,其勿忽诸!

(同上)

琴曲音调节奏考

琴曲以三弦为宫之调,弹之者多,即时俗所称正调。主此而言 紧慢,转其第几之弦,换为某调。凡调每弦散声,所主为一音,共为 五音之散声之弦,每弦各有所列七音之实声之位。某调以第几弦 散声主为宫音,则顺弦序。每一散声,各主一音,为商、角、徵、羽等 音之弦,散声所主为某音之弦者,其某徽位,必定应某音,即从位 音,互参亦可知其为某音之弦。凡经转换调之弦,其徽位之音,不 论其弦之紧慢,与旋之各不同,惟论其弦之散声,所主为某音之弦同,则其实声所列七音之位,按无不同也。曲则循某调之弦音位弹之。若于此调不另调和紧慢转弦,而曲欲弹换别调之音,亦可变通而得。乃于应紧慢转其弦,换为某调之音者,可不必紧慢。即于此弦及各弦之位,按取其调,某音但得于实声取换,惟不得换其调某音之散声也。其未转此弦之散声原音,与相应之位,仍具各弦本弦间,均宜避不用。凡不转弦换调皆如此。

五音以相协为序,二变音者,乃所以成其序,而又足以混其正 音者也。五音之序,宫商角与徵,中间一变徵,徵羽与宫,中间一变 宫。必如是,斯成其五音,否则不相叶。按宫与商,商与角三音,气 数递降而等匀。徵与羽二音亦然。以角与徵,羽与宫比之,气数虽 递降,不与之等匀。以角与变徵,以羽与变宫比之,气数递降亦等 匀。是则宫商角三音,连为一例, 徵羽二音, 连为一例。分之为三 二、合之以成五。 凡音得三而连者,皆可为宫商角三音。 得二而连 者,皆可为徵羽二音。此但分其得三得二之各连者固然;若合其成 五之统序,则必三与二中,二与三中,有一间音者矣。然角与变徵, 羽与变宫,虽为间音,其气数递降,亦如宫与商,商与角,及徵与羽 之等匀。惟变徵与徵,变官与宫,则不然,其自有气数递降等匀者。 故以商角变徵三音,或徵羽变宫三音,各连之,皆足以混为宫商角 三音,而更易其原为正音者也。三音之得连虽混,必须二音之得连 以备之。三二各得连虽备,又必得三与二中,二与三中之气数递降 等匀者以间之,庶得以成其五正音之序而相叶者也。凡音之三得 连,审其调,二得连,正其调,五得成序,备其调,如有混其正音者, 则易其调,或为变音,而非正音。调之紊乱,曲音不纯,均得于此明 辨之。

琴曲原具有自然之节,初试照谱弹,未易得成奏,习熟乃合节, 渐至于神妙,此则存乎人。节即是板拍,《国语》所谓"木以节之" 也。琴曲谱不定板拍者,恐因定固执而失人神化,非为初学者之但得其节奏而已也。然至入神化,亦莫不由于节奏而致矣。夫琴曲之音,因分长短缓急之度而成奏,拍即节其度之所以分也。有于音初出之际即拍,日头板。于音已出未歇,适其中际而拍之,曰腰板。于音刚歇之际即拍,日底板。是则于一音而分初中末三者之拍法也。又有于音已歇后再拍,日闲板,须待其板声已过,再接出其下之音,此无音而有拍也。曲中句末多有一二闲板者,免紧接下音,而急促其奏,俾得展头板,以舒其呼吸。更有于音宜舒转而放慢拍之,日慢板;于音宜结束,而催紧拍之,日紧板。皆由曲奏至此际,必尔而以成,亦自然而然者矣。其紧慢之板,均必得勾拍,总谓之节奏。

琴曲有一二音,或三五音,于同弦或各弦,而作数次者,音虽似繁复,为前后气蓄,必如是乃成。须于此中分缓急,以合其节奏。初试细审听,应如何得合,法在分别轻重疾徐之先后,与分几声之续上,几声之接下,得灵活留蓄于其连断顿挫之间,总以上下来去,句读得呼吸气息之自然为妙。

(同上。注均略)

依谱鼓曲合节真诠

依谱鼓曲,要在取音合节,谓之节奏。节即板拍,节法逐拍须匀接,如铜壶之漏,雨簷之滴,点点先后无参差,乃为有节也。曲无节不成奏,而神情均失。合节之法,视谱载每句逐字所取之音,以得疾徐,合于节拍之匀接,如出自然者。何以能之。初于师传熟习已得合节曲操,审其所以致然之旨,则明其弹按句中,或在于一音中,宜停顿而起承之,或在于一句内,而二三处宜如此,非是则不能合节,其句似断而未断,似连而非连,乃于一息呼吸间成之。夫曲

即人之歌声,所谓声依永,律和声者,其曲句中之停顿起承,即是依 永也,其弹按所取各音之赞助文成,即是和声。若吹管之应叶其声 也。明平此,则凡谱曲,皆可依谱鼓令合节,致得神妙。更有捷诀, 以谱曲逐字之音,按调译出工尺。于吟猱,则若哦咏而长韵;于逗, 则如喝腔而急截; 于撞,则重复其音;于唤,则如切字之标射,先一 字明重,后一字暗轻,以两字声合切一音是也; 于滚拂索铃,连贯 五七字音者,则以首末二字,包括其中;于进退复浒上下,则各如 其按至之位所叶之工尺,而依永之。其全曲句段,所宜入慢跌宕纵 收以成之旨,总在依永和声四字,念熟工尺数十百遍,自然合节成 奏得其神情,不期而致。《吕览》云: 熟而精之鬼将告之。非鬼告 之,神会而悟通之也。习奏琴曲,用力于此,未有不得其三昧而超 上乘者矣。又按取音,有兼数法者,尤官逐一分清,如吟猱前后,兼 用撞唤,先取一法,俟其音归位中,而后再施其一法也。否则淆混 不清,于节奏亦不合, 谨之。又琴曲音节, 大多从容, 乃得神情之 蕴。《松弦馆谱》二十八曲,均取慢奏,以《雉朝飞》、《乌夜啼》 曲节 紧者,皆不入选。然曲之音节,虽不可促迫,而慢中自有紧,紧中自 有慢,各有其疾徐,而出自然合节者。愚谓慢得情联而不弛,紧得 意蓄而不泄,斯为善矣。

(同上)

修养鼓琴

鼓琴曲而至神化者,要在于养心。盖心为一身之主,语言举动,悉由所发而应之。心正,则言行亦正;邪,则亦邪,此人学之大端也。余力游艺,何若不然;如颜鲁公之书法人神,由其忠诚正直之气所致,溢于楮间。从古名人,所作诗文,修养有素,情见乎词。琴为庙廊之乐,声之感人者深,观乐可以知其政治之盛衰,闻声而

知其高山流水之情志。是皆由于心而发于声者然也。凡鼓琴者,必养此心。先除其浮暴粗厉之气,得其和平淡静之性,渐化其恶陋,开其愚蒙,发其智睿,始能领会其声之所发为喜乐悲愤等情,而得其趣味耳。舍养此心,虚务鼓琴,虽穷年皓首,终身由之,不可得矣。余弱冠时,每夜陪伯兄秋斋先生鼓琴,初殊索然;及月,渐而喜听,心为之静,遂请授曲,勤于习练,日弹千遍,几忘寝食;又十年,虽极明熟诸法,但能鼓得其迥异于他乐之声音节奏,终未得其神化之至妙,伯兄谓余曰:"此岂徒求于指下声音之末可得哉?须由养心修身所致,而声自然默合以应之,汝宜揣本,毋逐末也。"余唯唯有悟。窃思古之圣贤,学贵修德,务其大者,游艺自乐,抒其情尔。迨年逾无闻,境遇日蹙,自省益励,恐负伯兄之教,与琴疏昔,未敢弃忘,偶寄所感觉,五年一变,今凡三变矣。初变知其妙趣;次变得其趣妙;三变忘其为琴之声。每一鼓至兴致神会,左右两指,不自期其轻重疾徐之所以然而然。妙非意逆,元(玄)生意外,浑然相忘其为琴声也耶!

(同上)

授受琴约

乐和人情,匪唯发之以钟鼓之云。八音惟琴为最,古圣所作, 君子常御,无故不撤,藉以养吾德性,恬然自怡,非为取悦于人,处 穷独而不闷者,其惟琴矣。凡妙于琴之士,其必和平诚朴,淳厚端 方。声由心生,为德之符,积中发外,品学并见,琴学无难易,要在 于精积,一旦而豁悟。昔孔子学琴于师襄,十日不进。伯牙学琴于成 连,三年未成。无论上知,亦必力久乃致。如见文王,情移海上,声 人心通,自然有得者也。传授初学,必其气同性近,慕切心坚,习勤 不厌,教宜善诱循进,可期青出于蓝。若务琴名,乘兴而来,半涂而 废,虽乐与之同善,无如其不自爱有成,诚贻有教无益之羞。琴曲流弊为派传,奏节分别为雅郑,师友继承,不可不择所亲。精音律,明均调,尚恬淡希声,并善用指,清各法,绝靡曼烦响者,乃得正传。教学相友,以道合言,非以艺玩言也。今时俗授受,计议金资,是以货取,穷至斯滥,义失轻薄,何足语琴? 尊师敬友,语我同调,各宜重道自爱。弦歌之教,化佻薄为淳厚之风,斯乐和人情之本。知乎此,始可与之言琴矣。

(同上)

嬪 庐 曲 谈^①(辑录) 王季烈^③

序

六艺之事,惟乐易亡。盖声音高下,节奏迟速,必口授耳聆,乃 能详悉,非若其他学术,可求之载籍文字间也。中国音乐,肇始羲 轩,至唐虞而已大备,春秋之世,《韶简》、《南籥》、《武》、《象》诸乐, 犹不失其传。此因三代以前,大夫无故不撤悬、十无故不撤琴瑟, 诵诗舞《勺》,人人童而习之,不仅赖伶官以司乐,故四代之制,历千 数百年而尚存也。嬴秦以后,雅乐既亡,汉之制氏,魏之杜夔,晋之 荀勗,隋之郑译,唐之祖孝孙,虽抱残守缺,冀复古音,然而黄钟之 度, 迄无定论, 旋宫之义, 知者卒鲜, 故三代之乐, 终不可复, 而角艇 之戏,《巴渝》之舞,《婆罗门》之曲,及"高丽"、"天竺"、"安国"、"龟 兹"诸伎、皆采四夷乐舞、以供燕飨之用、于是琵琶、羯鼓、箜篌、觱 篥诸器,遂夺琴、瑟、笙、管之席矣。唐时分燕乐为二部,堂下立奏 者曰立部伎,堂上坐奏者曰坐部伎,太常阅坐部不可教者隶立部, 又不可教者乃使习雅乐,则其时之尚新声而轻雅乐,与夫雅乐之不 足道,从可知已。宋时雅乐累经改作,虽未必有当于古,而经姜尧 章、朱子、蔡元定诸家考正、较之汉、唐为胜、而其燕乐、汰坐部、省 教坊,亦与雅乐较近,非汉、唐燕乐盛行夷狄之音可比。今之昆曲, 始于有明中叶,而"海盐"、"弋阳"諸腔,实为"水磨腔"所自出。"海 盐"腔创自宋张功甫,功甫为词家云窗之祖,玉田之曾祖,是则宋人

① 据商务印书馆石印本。

② 王季烈,清末人。

倚声之音节,必有存于"海盐"腔中者,亦必有存于昆曲中者也。国 朝诸儒,治经史词章之学,皆有超越宋明,独干音乐,则非特不及 宋,且不逮明,如毛西河、凌次仲诸家之著述,意在沟通古今乐律, 而武断曲解,使乐理愈晦,近儒陈兰甫先生之《声律通考》,考核固 极精审,然详其体而未及其用,有功于考古,而无补于习乐,故三百 年来,欲求审音知乐之人,殆无有焉。……夫古乐之亡已二千年, 今乐又为文人学士所不屑谈,梨园子弟以外,无习乐之人,遂使移 风易俗之权, 乃操之优伶贱工之手, 此世道人心所以江河日下也。 孔子删诗,不废郑卫,昆曲虽多言情之作,而表扬忠孝节义之篇实 居其大半,至其音节和平,非秦楚之声可比,实干今乐中最为近古, 及今日而修订章明之,使勿坠失,谁曰不宜。顾论者谓雅乐宜一字 一声,昆曲曼声徐度,一字而腔数转,雅郑之判显而易见,安得谓之 近古。 余按朱子读《小雅》、《国风》、二《南》旧谱云: 窃疑古乐有唱 有叹,唱者发歌句也,和者继其声也,诗词之外,应更有叠字散声,以 叹发其趣,故旧曲既失其传,则其词虽存,而世莫能补,如此谱直以 一声协一字,则古诗篇篇可歌,似非古法。旨哉斯言,可以见雅乐 一字一声之说,未可信从,又何必以一字数腔,为昆曲病欤。附书 管见,以俟知音。岁在强圉单阙,阳月既望,螾庐主人自序。

论度曲•绪论

声音之道,感人最深,则乐尚焉。然丝不如竹,竹不如肉,则歌曲尤尚焉。"赓歌"、"击壤",唐虞之歌曲也。《诗》三百篇,三代之歌曲也。降及唐人之诗,宋人之词,其为一代之歌曲,尤昭然世所共知。然此等古歌,其文字虽历久未亡,而音节则早已失传。盖文字著于简编,千载如一日,音节非口授耳聆不能悉,历数十年而已变迁。今之好事者,每取唐诗宋词,谱以宫商,被之管弦,以为古乐

复聆于今日,究之其文字虽唐宋之旧,而音节决非唐宋之旧。居今日而研究中国歌曲,其最为古雅者,要非昆曲莫属矣。

昆曲在今日,其优于他种歌曲者,一曰文字之典雅,二曰音调之纡徐,三曰字音之正确,四曰口诀之细密。顾此四端,一人之精力未必悉能精究,则不妨分途程功,长于文藻者任制曲之事,精于音律者任谱曲之事,耳聪口敏嗓亮者,任度曲之事。合此三种人才,精心研究,始尽昆曲之能事也。……

(卷一、第一章)

```
封面
书名
版权
前言
目录
先秦部分
  春秋左传(辑录)
     "乐以箴谏"(师旷)
     "乐以知军"(师旷)
     " 乐以知政 " (季札)
     "乐节百事"(医和)
     "和与同异"(晏婴)
     "乐过生疾"(州鸠)
     "乐则天地"(子产)
  国语(辑录)
     "和实生物"(史伯)
     "谏铸大钟"(单穆公)
     "论乐说律"(州鸠)
     "答灵王问"(伍举)
     "平公悦新声"(师旷)
  论语(辑录)(孔丘)
     (附:"荷蒉者论乐")
  墨子(墨翟)
     非乐
     各篇辑录
  孟子(辑录)(孟轲)
  庄子(辑录)(庄周)
  荀子(荀况)
     乐论
     各篇辑录
  韩非子(辑录)(韩非)
     十过(节录)
     " 癸与射稽之讴 "
```

```
吕氏春秋(吕不韦等)
     大乐(节录)
     侈乐
     话音
     古乐
     音律(节录)
     音初
     各篇辑录
  老子道德径(辑录)
  管子(辑录)
  晏子春秋(辑录)
两汉部分
  新语(辑录)(陆贾)
  新书(辑录)(贾谊)
  韩诗外传(辑录)(韩婴)
  春秋繁露(辑录)(董仲舒)
     (附:董仲舒对策)
  淮南鸿烈(辑录)(刘安等)
  史记 · 乐书(司马迁)
  新序(辑录)(刘向)
  说苑(辑录)(刘向)
     (附:琴说)
  法言(辑录)(扬雄)
     (附:解难)
  新论(桓谭)
     琴道篇
     馀文辑录
  白虎通德论 · 礼乐(班固)
  论衡(辑录)(王充)
   《毛诗》序
魏晋南北朝部分
  乐论(阮籍)
  琴赋(嵇康)
```

```
声无哀乐论(嵇康)
  抱朴子(辑录)(葛洪)
  列子(辑录)(张湛)
  " 王僧虔论乐 "
  文心雕龙(辑录)(刘勰)
    乐府第七
    通变第二十九
    声律第三十三
    时序第四十五
  "陈仲儒论乐"
  "长孙稚、祖莹论乐"
  "祖珽论乐"
  刘子·辩乐(刘昼)
隋唐部分
  "郑译论乐"
  "何妥论乐"
  文中子中说(辑录)(王通)
  "论礼乐"(节录)(李世民)
  乐书要录(辑录)
  《教坊记》序(崔令钦)
  琴诀(辑录)(薛易简)
  通典·乐序(杜佑)
  白氏长庆集(辑录)(白居易)
    废琴诗
    邓鲂张彻落第诗
    法曲歌
    立部伎
    华原磬
    五弦弹
    清夜琴兴
    夜琴
    六十: 救学者之失 礼乐诗书(策林四)
    六十二: 议礼乐(同上)
```

```
六十三:沿革礼乐(同上)
    六十四:复乐古器古曲(同上)
    六十九:采诗以补察时政(同上)
    问杨琼
    好听琴
    船夜援琴
    听琵琶妓弹《略略》
    弹《秋思》
    和令狐仆射小钦听阮咸
    水调
  素履子·履乐(张弧)
宋元部分
  范文正公集(辑录)(范仲淹)
    今乐犹古乐赋
    与唐处士书
  "张知白、房庶论乐"
  见牧牛人隔江吹笛(节录)(梅尧臣)
  "欧阳修论乐"
    国学试策三道第二道
    书梅圣俞诗藁后
     "论礼乐"
  乐论(苏洵)
  周子通书(辑录)(周敦颐)
    乐上第十七
    乐中第十八
    乐下第十九
  " 张载论乐 "
    礼乐(节录)
    张子语录(节录)
  礼乐论(王安石)
  梦溪笔谈(沈括)
    乐律一(节录)
    乐律二(节录)
```

```
补笔谈·乐律(节录)
琴史(辑录)(朱长文)
  师旷
  师文
  锺子期
  宋玉
  樗里牧恭聂政附
  蔡邕
  三戴
  莹律
  释弦
  论音
  审调
  声歌
  广制
  尽美
  志言
  叙史
乐在人和不在音赋(朱长文)
公是先生七经小传(辑录)(刘敞)
  尚书
  礼记
后山集(辑录)(陈师道)
《乐书》序(陈旸)
琴论(成玉磵)
碧鸡漫志(辑录)(王灼)
通志·乐略第一(辑录)(郑樵)
  乐府总序
  正声序论
  琴操五十七曲(节录)
  祀飨正声序论
  班固东都五诗
  梁武帝雅歌十二曲(节录)
```

```
唐雅乐十二和曲(节录)
  文武舞序论
朱子大全集(辑录)(朱熹)
  答陈体仁
  答程允夫
  答滕德粹
  答潘恭叔
  答潘恭叔
  答刘季章
  答李尧卿
  答余彝孙
  答吴元士
  定律
  读吕氏诗记桑中高 甲辰春
  苏黄门老子解
  诗集传序
  紫阳琴铭
陈亮集(辑录)(陈亮)
"姜蘷论乐"
琴议篇(刘籍)
真西山文集(辑录)(真德秀)
  赠萧长夫序
  送萧道士序
  间礼.乐
  问兴立成
词源(辑录)(张炎)
  序
  讴曲?要
  音谱
  拍眼
礼乐(契嵩)
子华子(辑录)
" 赵希旷论弹琴 "
```

```
《文献通考》序(节录)(马端临)
  琴律发微(陈敏子)
    制曲通论
    制曲凡例
    起调毕曲
  唱论(辑录)(芝庵)
明清部分
  太和正音谱(辑录)(朱权)
  云庄休居自适小乐府引(节录)(艾浚)
  书张文忠云《云庄乐府》后(节录)(金润)
  "何瑭论乐"
  王文成公全书(辑录)(王阳明)
    语录一(传习录上)
    教约
    语录三(传习录下)
  "廖道南论乐"
  诗乐说(节录)(黄佐)
  乐声说(节录)(黄佐)
  "王廷相论乐"
  《新刊发明琴谱》序(黄龙山)
  《杏庄太音补遗》序(萧鸾)
  南词引正(魏良辅)
  弹琴杂说(杨表正)
  焚书(辑录)(李贽)
    读律肤说
    征途与共后语
    红拂
    琴赋
  少室山房笔丛(辑录)(胡应麟)
  唐音癸籤(辑录)(胡震亨)
    乐通三
    乐通四
  听琴赋(杨抡)
```

```
《琴川汇谱》序(严澄)
大还阁琴谱(辑录)(徐上瀛)
  溪山琴况
  "选曲标准"
方诸馆曲律(辑录)(王骥德)
  论腔调
  论板眼
曲品(辑录)(吕天成)
度曲须知(辑录)(沈宠绥)
  序言
  曲运隆衰
  弦索题评
  弦律存亡
叙山歌(冯梦龙)
秦复庵《望吾乡》按语(节录)(冯梦龙)
《步雪初声》序(节录)(龙子犹)
琴声十六法(冷仙)
叔苴子(辑录)(庄元臣)
闲情偶寄(李渔)
  戒荒唐
  别解务头
  别古今
  剂冷热
  变调第二
  缩长为短
  变旧成新
  授曲第三
  解明曲意
  调熟字音
  字忌模糊
  曲严分合
  锣鼓忌杂
```

吹合宜低

```
教白第四
  高低抑扬
  缓急顿挫
  声音恶习
尚书引义(辑录)(王夫之)
  舜典三
  顾命
读通鉴论(辑录)(王夫之)
  汉高帝十二
  文帝三
  宣帝二
  隋文帝九
  五代二六
响山堂指法纪略·指法禁忌(节录)(徐二勋)
《琴学心声谐谱》凡例(节录)(庄臻凤)
《北词广正谱》序(吴伟业)
《古乐书》序(节录)(应?谱)
竟山乐录(节录)(毛奇龄)
  声律
  乐器不是乐
  乐书不是乐
  乐不分古今
四存编(辑录)(颜元)
  学辨二
  性理评
学乐录(节录)(李塨)
书《乐书》序后(方苞)
诂律书一则(方苞)
律吕新论(辑录)(江永)
  声音自有流变
  俗乐可求雅乐
  乐器不必泥古
  度量权衡不必泥古
```

```
乐经律吕通解(节录)(汪烜)
  乐记或问
  乐教第七
《立雪斋琴谱》小引(汪绂)
治心斋琴学练要,总义八则(王善)
看山阁集闲笔(节录)(黄图珌)
鼓琴八则(苏璟等)
乐府传声(节录)(徐大椿)
  序
  源流
  元曲家门
  曲情
  起调
  断腔
  顿挫
  轻重
  徐疾
  高腔轻过
  低腔重煞
  一字高低不一
  句韵必清
  定板
  底板唱法
《香祖楼》后序(节录)(陈守诒)
律吕臆说(辑录)(徐养沅)
  雅乐论一
  雅乐论二
  雅乐论三
  俗乐论一
  俗乐论二
  乐本说
管色考(辑录)(徐养沅)
  辨异
```

```
琴论(节录)(陈幼慈)
琴学粹言(辑录)(蒋文勋)
  听琴弹琴诗录
  昌黎听琴诗论
  音乐诗赋节录
  右手纪要
  左手纪要
  论派
  论文
" 龚自珍论乐 "
顾误录(辑录)(王德晖、徐沅澄)
  度曲八法
  学曲六戒
与古斋琴谱、补义(辑录)(祝凤喈)
  按谱鼓曲奥义
  制琴曲要略
  乐奏明调收音起接传神说
  琴曲音节美善论
  琴曲收音起句考
  琴曲音调节奏考
  依谱鼓曲合节真诠
  修养鼓琴
  授受琴约
螾庐曲谈(辑录)(王季烈)
  论度曲·绪论
```